塚奥山遺跡

（第１分冊　遺構編）

2007
財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター

第３Ｂ調査面全景（北西から）

SB6出土縄文土器

序

揖斐川上流域に位置する旧徳山村域には、縄文時代を中心とする遺跡が数多く知られています。この地に徳山ダムが建設されることになり、水没地域に含まれる遺跡の発掘調査が、昭和61年度から岐阜県教育委員会によって開始され、平成３年度からは当センターが引き継いで行ってきました。

今回、報告する塚奥山遺跡は、ダムの建設により水没する遺跡の中では最も揖斐川上流にあり、左岸段丘上に位置しています。平成８年度から平成14年度の発掘調査によって、縄文時代中期後葉から後期前葉の環状集落跡や、後期前葉の配石遺構などの遺構が検出され、縄文時代早期から晩期までの遺物が見つかりました。これらは旧徳山村域における縄文時代の様相を理解する上で貴重な成果であり、本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成に当たりまして、多大な御支援・御協力をいただいた関係諸機関並びに関係者各位、旧藤橋村教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

平成19年３月１日

財団法人岐阜県教育文化財団
文化財保護センター
所長　田　口　久　之

例　言

1　本書は、揖斐郡揖斐川町塚字塚奥山に所在する塚奥山遺跡（岐阜県遺跡番号21401－00919）の発掘調査報告書である。

2　本調査は、徳山ダム建設事業に伴うもので、独立行政法人水資源機構（旧水資源開発公団）徳山ダム建設所から岐阜県が委託を受けた。発掘調査及び整理作業は、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターが実施した。

3　発掘調査は、大参義一愛知学院大学教授（平成８年度）、泉拓良奈良大学教授（平成９～14年度、現京都大学教授）の指導のもとに、平成８～10・13・14年度に実施した。

4　発掘調査及び整理作業の担当などは、本書第１章第２節に一括掲載した。

5　本書の執筆は第２章第１節・第３章第２節は藤岡比呂志、第６章第２節～第11節を除くそれ以外は三輪晃三が行った。また編集は三輪が行った。

6　平成13・14年度発掘調査における作業員雇用、現場管理、掘削、地形測量、空中写真測量、一次整理などの業務は、株式会社イビソクに委託して行った。

7　遺物の写真撮影は、アートフォト右文（平成14･16･17年度、主に土器）･ＳＴＵＤＩＯＳＫＹ（平成15年度、主に石器）に委託して行った。遺構写真は各調査担当者が撮影した。

8　地形測量・基準点測量・水準測量は株式会社イビソク、空中写真測量は株式会社イビソク（平成９・13・14年度）・アジア航測株式会社（平成10年度）、遺構図編集は株式会社岐阜テクノス（平成14年度）・株式会社帝国建設コンサルタント（平成15年度）に委託して行った。

9　ＳＢ16床下遺構分析・種実及び樹種同定・放射線性炭素年代測定・赤色顔料分析・ウルシ分析・胎土分析は株式会社パレオ・ラボ、ヒスイ分析は糸魚川市フォッサマグナミュージアムに委託して行った。ヒスイ分析を除き、結果は第６章に掲載した。

10　自然科学的分析の一部について、名古屋大学博物館新美倫子、京都大学原子炉実験所藁科哲男、国立歴史民俗博物館小林謙一・今村峯雄・坂本稔、近畿大学南武志各氏（掲載順）に玉稿をいただいた。結果は第６章に掲載した。

11　発掘調査及び報告書の作成にあたって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である（敬称略、五十音順）。

赤澤徳明　麻生優　伊藤正人　岩瀬彰利　奥義次　岡田憲一　木下哲男　小林達雄　小島俊彰
扇間重男　戸田哲也　冨井眞　長屋幸二　八賀晋　藤澤良祐　矢野健一　山本孝一　渡邉博人
揖斐川町歴史民俗資料館　旧久瀬村教育委員会　旧藤橋村教育委員会
奈良大学文学部文化財学科

12　本文中の方位は、日本測地系第Ⅶ系の座標北を示している。

13　土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄1997・1998・2001『新版　標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。

14　調査記録及び出土品は、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターで保管している。

第　1　分　冊　　目　次

序
例言
目次
第１章　調査の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第１節　調査に至る経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
　第２節　調査の経緯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
第２章　遺跡の環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
　第１節　地理的環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
　第２節　周辺の遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第３章　基本層序・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第４章　遺構・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　第１節　遺構の概要と分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・16
　第２節　第１調査面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
　第３節　第２調査面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
　第４節　第３Ａ調査面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
　第５節　第３Ｂ調査面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・74
　第６節　第４調査面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・196
　第７節　第５調査面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・236
　第８節　第６調査面・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・247
調査区全体図分割図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・257

　巻頭図版１　第３Ｂ調査面全景
　巻頭図版２　ＳＢ６出土縄文土器

第２分冊　遺物・分析・考察編　目次

　第５章　遺物
　第６章　自然科学分析
　第７章　考察

第３分冊　表・写真図版編　目次

　表（遺構観察表・遺物観察表）
　写真図版

挿　図　目　次

図１　遺跡位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１
図２　調査区設定図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・２
図３　試掘坑及び調査溝配置図・・・・・・・・・・・・・・４
図４　各調査面の位置図・・・・・・・・・・・・・・・・・４
図５　遺跡周辺の地形図・・・・・・・・・・・・・・・・・10
図６　周辺の遺跡地図・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
図７　土層堆積状況図・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
図８　b24グリッドの土層断面図・・・・・・・・・・・・・15
図９　配石遺構の分類模式図・・・・・・・・・・・・・・・17
図10　土坑の分類模式図・・・・・・・・・・・・・・・・・18
図11　遺構の計測方法模式図・・・・・・・・・・・・・・・19
図12　遺構埋土の分類模式図・・・・・・・・・・・・・・・20
図13　第１調査面全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・21
図14　第１調査面検出遺構（１）・・・・・・・・・・・・・23
図15　第１調査面検出遺構（２）・・・・・・・・・・・・・25
図16　第１調査面検出遺構（３）・・・・・・・・・・・・・27
図17　第２調査面全体図・・・・・・・・・・・・・・・・・29
図18　ＳＢ１遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・30
図19　ＳＢ１遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・31
図20　ＳＢ２遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・33
図21　ＳＢ２遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・34
図22　ＳＢ３遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・35
図23　ＳＢ３遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・36
図24　ＳＢ３遺構図（３）・・・・・・・・・・・・・・・・37
図25　ＳＢ４遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・38
図26　ＳＢ４遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・39
図27　ＳＢ４遺構図（３）・・・・・・・・・・・・・・・・40
図28　第２調査面検出遺構図（１）・・・・・・・・・・・・42
図29　第２調査面検出遺構図（２）・・・・・・・・・・・・44
図30　第２調査面検出遺構図（３）・・・・・・・・・・・・45
図31　第３Ａ調査面全体図・・・・・・・・・・・・・・・・47
図32　第３Ａ調査面検出遺構図（１）・・・・・・・・・・・49
図33　第３Ａ調査面検出遺構図（２）・・・・・・・・・・・51
図34　配石遺構群検出状況図・・・・・・・・・・・・・・・52
図35　配石遺構群と下部土坑位置図・・・・・・・・・・・・53
図36　第３Ａ調査面検出遺構図（３）・・・・・・・・・・・55
図37　第３Ａ調査面検出遺構図（４）・・・・・・・・・・・57
図38　第３Ａ調査面検出遺構図（５）・・・・・・・・・・・59
図39　第３Ａ調査面検出遺構図（６）・・・・・・・・・・・61
図40　第３Ａ調査面検出遺構図（７）・・・・・・・・・・・62
図41　第３Ａ調査面検出遺構図（８）・・・・・・・・・・・63
図42　第３Ａ調査面検出遺構図（９）・・・・・・・・・・・65
図43　第３Ａ調査面検出遺構図（10）・・・・・・・・・・・67
図44　第３Ａ調査面検出遺構図（11）・・・・・・・・・・・69
図45　第３Ａ調査面検出遺構図（12）・・・・・・・・・・・71
図46　第３Ａ調査面検出遺構図（13）・・・・・・・・・・・73
図47　第３Ｂ調査面全体図・・・・・・・・・・・・・・・・74
図48　ＳＢ５遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・76
図49　ＳＢ５遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・77
図50　ＳＢ６遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・78
図51　ＳＢ６遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・79
図52　ＳＢ６遺構図（３）・・・・・・・・・・・・・・・・80
図53　ＳＢ６の主な土器の出土状況模式図・・・・・・・・81
図54　ＳＢ７遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・83
図55　ＳＢ７遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・84
図56　ＳＢ８遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・85
図57　ＳＢ８遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・86
図58　ＳＢ８遺構図（３）・・・・・・・・・・・・・・・・87
図59　ＳＢ９遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・89
図60　ＳＢ９遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・90
図61　ＳＢ10遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・92
図62　ＳＢ11遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・93
図63　ＳＢ11遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・94
図64　ＳＢ11遺構図（３）・・・・・・・・・・・・・・・・95
図65　ＳＢ12遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・96
図66　ＳＢ12遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・97
図67　ＳＢ12遺構図（３）・・・・・・・・・・・・・・・・98
図68　ＳＢ13遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・100
図69　ＳＢ13遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・101
図70　ＳＢ13遺構図（３）・・・・・・・・・・・・・・・・102
図71　ＳＢ14遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・103
図72　ＳＢ14遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・104
図73　ＳＢ15遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・105
図74　ＳＢ15遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・106
図75　ＳＢ16遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・・・・108
図76　ＳＢ16遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・・・・109
図77　ＳＢ16遺構図（３）・・・・・・・・・・・・・・・・110
図78　ＳＢ16床下遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・・111

図79　ＳＢ16下部遺構図・・・・・・・・・・・・・・ 113
図80　ＳＢ17遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・ 114
図81　ＳＢ18遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・ 116
図82　ＳＢ18遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・ 117
図83　ＳＢ19遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・ 118
図84　ＳＢ19遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・ 119
図85　ＳＢ20遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・ 120
図86　ＳＢ20遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・ 121
図87　ＳＢ21遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・ 123
図88　ＳＢ21遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・ 124
図89　ＳＢ22遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・ 125
図90　ＳＢ23遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・ 127
図91　ＳＢ24遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・ 128
図92　ＳＢ24遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・ 129
図93　ＳＢ25遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・ 131
図94　ＳＢ25遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・ 132
図95　ＳＢ25遺構図（３）・・・・・・・・・・・・・ 133
図96　ＳＢ26遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・ 134
図97　ＳＢ26遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・ 135
図98　ＳＨ1遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・・ 135
図99　ＳＨ1遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・・ 137
図100 第３Ｂ調査面検出遺構図（１）・・・・・・・・ 139
図101 第３Ｂ調査面検出遺構図（２）・・・・・・・・ 141
図102 第３Ｂ調査面検出遺構図（３）・・・・・・・・ 143
図103 第３Ｂ調査面検出遺構図（４）・・・・・・・・ 145
図104 第３Ｂ調査面検出遺構図（５）・・・・・・・・ 147
図105 第３Ｂ調査面検出遺構図（６）・・・・・・・・ 149
図106 第３Ｂ調査面検出遺構図（７）・・・・・・・・ 151
図107 第３Ｂ調査面検出遺構図（８）・・・・・・・・ 153
図108 第３Ｂ調査面検出遺構図（９）・・・・・・・・ 155
図109 第３Ｂ調査面検出遺構図（10）・・・・・・・・ 157
図110 第３Ｂ調査面検出遺構図（11）・・・・・・・・ 159
図111 第３Ｂ調査面検出遺構図（12）・・・・・・・・ 161
図112 第３Ｂ調査面検出遺構図（13）・・・・・・・・ 163
図113 第３Ｂ調査面検出遺構図（14）・・・・・・・・ 165
図114 第３Ｂ調査面検出遺構図（15）・・・・・・・・ 166
図115 第３Ｂ調査面検出遺構図（16）・・・・・・・・ 169
図116 第３Ｂ調査面検出遺構図（17）・・・・・・・・ 170
図117 第３Ｂ調査面検出遺構図（18）・・・・・・・・ 173
図118 第３Ｂ調査面検出遺構図（19）・・・・・・・・ 174
図119 第３Ｂ調査面検出遺構図（20）・・・・・・・・ 175
図120 第３Ｂ調査面検出遺構図（21）・・・・・・・・ 177
図121 第３Ｂ調査面検出遺構図（22）・・・・・・・・ 179
図122 第３Ｂ調査面検出遺構図（23）・・・・・・・・ 181
図123 第３Ｂ調査面検出遺構図（24）・・・・・・・・ 182
図124 第３Ｂ調査面検出遺構図（25）・・・・・・・・ 183
図125 第３Ｂ調査面検出遺構図（26）・・・・・・・・ 185
図126 第３Ｂ調査面検出遺構図（27）・・・・・・・・ 187
図127 第３Ｂ調査面検出遺構図（28）・・・・・・・・ 190
図128 第３Ｂ調査面検出遺構図（29）・・・・・・・・ 191
図129 第３Ｂ調査面検出遺構図（30）・・・・・・・・ 193
図130 段丘斜面位置・断面図・・・・・・・・・・・・ 195
図131 第４・第５調査面全体図・・・・・・・・・・・ 197
図132 ＳＢ27遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・ 198
図133 ＳＢ28・29遺構図（１）・・・・・・・・・・・ 199
図134 ＳＢ22・29遺構図（２）・・・・・・・・・・・ 200
図135 ＳＢ29遺構図（３）・・・・・・・・・・・・・ 201
図136 ＳＢ30遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・ 203
図137 ＳＢ30遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・ 204
図138 ＳＢ31遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・ 205
図139 ＳＢ31遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・ 206
図140 ＳＢ32遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・ 207
図141 ＳＢ32遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・ 208
図142 ＳＢ33遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・ 210
図143 ＳＢ33遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・ 211
図144 ＳＢ34遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・ 212
図145 ＳＢ34遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・ 213
図146 ＳＢ34遺構図（３）・・・・・・・・・・・・・ 214
図147 ＳＢ35遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・ 215
図148 ＳＢ36遺構図・・・・・・・・・・・・・・・・ 217
図149 ＳＢ37遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・ 218
図150 ＳＢ37遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・ 219
図151 ＳＢ38遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・ 220
図152 ＳＢ38遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・ 221
図153 ＳＨ２遺構図（１）・・・・・・・・・・・・・ 223
図154 ＳＨ２遺構図（２）・・・・・・・・・・・・・ 224
図155 第４調査面検出遺構図（１）・・・・・・・・・ 225
図156 第４調査面検出遺構図（２）・・・・・・・・・ 227
図157 第４調査面検出遺構図（３）・・・・・・・・・ 229
図158 第４調査面検出遺構図（４）・・・・・・・・・ 230
図159 第４調査面検出遺構図（５）・・・・・・・・・ 232
図160 第４調査面検出遺構図（６）・・・・・・・・・ 234

図161 第４調査面検出遺構図（７）・・・・・・・・・ 235
図162 ＳＢ39遺構図（１）・・・・・・・・・・・・ 237
図163 ＳＢ39遺構図（２）・・・・・・・・・・・・ 238
図164 ＳＢ40遺構図（１）・・・・・・・・・・・・ 239
図165 ＳＢ40遺構図（２）・・・・・・・・・・・・ 240
図166 ＳＨ３遺構図・・・・・・・・・・・・・・・ 242
図167 ＳＨ４遺構図・・・・・・・・・・・・・・・ 243
図168 第５調査面検出遺構図（１）・・・・・・・・・ 245
図169 第５調査面検出遺構図（２）・・・・・・・・・ 246
図170 第６調査面全体図・・・・・・・・・・・・・ 247
図171 ＳＢ41遺構図（１）・・・・・・・・・・・・ 249
図172 ＳＢ41遺構図（２）・・・・・・・・・・・・ 250
図173 ＳＢ42遺構図（１）・・・・・・・・・・・・ 251
図174 ＳＢ42遺構図（２）・・・・・・・・・・・・ 252
図175 ＳＩ41遺構図・・・・・・・・・・・・・・・ 253
図176 第６調査面検出遺構図（１）・・・・・・・・・ 255
図177 第６調査面検出遺構図（２）・・・・・・・・・ 256
図178 第３Ｂ調査面調査区全体図割付図・・・・・・ 258
図179 第３Ｂ調査面調査区分割図（１）・・・・・・ 259
図180 第３Ｂ調査面調査区分割図（２）・・・・・・ 260
図181 第３Ｂ調査面調査区分割図（３）・・・・・・ 261
図182 第３Ｂ調査面調査区分割図（４）・・・・・・ 262
図183 第３Ｂ調査面調査区分割図（５）・・・・・・ 263
図184 第３Ｂ調査面調査区分割図（６）・・・・・・ 264
図185 第３Ｂ調査面調査区分割図（７）・・・・・・ 265
図186 第３Ｂ調査面調査区分割図（18）・・・・・・ 265
図187 第３Ｂ調査面調査区分割図（８）・・・・・・ 266
図188 第３Ｂ調査面調査区分割図（９）・・・・・・ 267
図189 第３Ｂ調査面調査区分割図（10）・・・・・・ 268
図190 第３Ｂ調査面調査区分割図（11）・・・・・・ 269
図191 第３Ｂ調査面調査区分割図（12）・・・・・・ 270
図192 第３Ｂ調査面調査区分割図（13）・・・・・・ 271
図193 第３Ｂ調査面調査区分割図（14）・・・・・・ 272
図194 第３Ｂ調査面調査区分割図（15）・・・・・・ 273
図195 第３Ｂ調査面調査区分割図（16）・・・・・・ 274
図196 第３Ｂ調査面調査区分割図（17）・・・・・・ 275
図197 第３Ｂ調査面調査区分割図（19）・・・・・・ 276
図198 第３Ｂ調査面調査区分割図（20）・・・・・・ 277
図199 第３Ｂ調査面調査区分割図（21）・・・・・・ 278
図200 第４・第５調査面調査区全体図割付図・・・・ 279
図201 第４・第５調査面調査区分割図（１）・・・・ 280
図202 第４・第５調査面調査区分割図（３）・・・・ 280
図203 第４・第５調査面調査区分割図（２）・・・・ 281
図204 第４・第５調査面調査区分割図（４）・・・・ 282
図205 第４・第５調査面調査区分割図（５）・・・・ 283
図206 第４・第５調査面調査区分割図（６）・・・・ 284
図207 第４・第５調査面調査区分割図（９）・・・・ 284
図208 第４・第５調査面調査区分割図（７）・・・・ 285
図209 第４・第５調査面調査区分割図（８）・・・・ 286
図210 第４・第５調査面調査区分割図（10）・・・・ 287
図211 第４・第５調査面調査区分割図（11）・・・・ 288
図212 第４・第５調査面調査区分割図（12）・・・・ 289
図213 第４・第５調査面調査区分割図（13）・・・・ 290
図214 第６調査面調査区全体図割付図・・・・・・・ 291
図215 第６調査面調査区分割図（１）・・・・・・・ 292
図216 第６調査面調査区分割図（２）・・・・・・・ 293
図217 第６調査面調査区分割図（３）・・・・・・・ 294
図218 第６調査面調査区分割図（４）・・・・・・・ 295
図219 第６調査面調査区分割図（５）・・・・・・・ 295
図220 第６調査面調査区分割図（８）・・・・・・・ 296
図221 第６調査面調査区分割図（６）・・・・・・・ 297
図222 第６調査面調査区分割図（７）・・・・・・・ 298
図223 第６調査面調査区分割図（９）・・・・・・・ 299
図224 第６調査面調査区分割図（10）・・・・・・・ 300
図225 第６調査面調査区分割図（11）・・・・・・・ 301
図226 第６調査面調査区分割図（12）・・・・・・・ 302
図227 第６調査面調査区分割図（13）・・・・・・・ 303
図228 第６調査面調査区分割図（14）・・・・・・・ 304

表目次

表１　年度別調査進捗状況．・・・・・・・・・・・・ 6
表２　周辺の遺跡一覧表・・・・・・・・・・・・・・11
表３　検出遺構一覧表・・・・・・・・・・・・・・・18

写真

写真１　平成９年度体験発掘・・・・・・・・・・・・ 6
写真２　平成10年度体験発掘・・・・・・・・・・・・ 6
写真３　竪穴住居跡調査状況・・・・・・・・・・・・ 6
写真４　遺構掘削状況・・・・・・・・・・・・・・・ 6
写真５　b24グリッドの土層断面写真 ・・・・・・・・15

第１章　調査の経緯

第１節　調査に至る経緯

当遺跡は、昭和19年からの本格的な開田により多数の縄文土器や石器が出土し、「宮ヶ原遺跡」として知られた。昭和24年には、岐阜県教育委員会により小規模な調査が行われて、良好な遺物包含層が確認され、開墾時に炉跡を２か所発見したこと、北西の高い地点から大型の石棒（第２分冊図179･第３分冊図版179）１点が採集されたことなどが報告されている（岐阜県教育委員会1950）。また、小沢一弘氏や徳山村の歴史を語る会などが採集資料の一部を紹介しており（小沢1975、徳山村の歴史を語る会1984など）、出土遺物は旧石器時代、縄文時代中期前半から晩期前葉までの時期幅があり、遺跡の主体となる時期は縄文時代中期後半であると指摘されている。

当遺跡は徳山ダム建設に伴う水没地域に含まれることから、平成６年度に当センターが範囲確認のため試掘確認調査（調査坑11か所・調査面積44㎡）を行った。この結果を受けて、水資源開発公団徳山ダム建設所と岐阜県教育委員会との協議により、本発掘調査の対象は12,100㎡とされ、平成８～９年度に第１・２調査面の調査を実施した。平成10年度には第３調査面の調査中に、台風７号により櫨原地区北部で国道417号線が崩落して通行止めとなり、調査を中断した。平成10年度の調査で、新たに調査区内下層の遺物包含層と遺構面（調査面積8,100㎡）を確認した。これを受けて平成11年度岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討委員会で、この部分の本発掘調査が必要と判断され、平成11年３月に「埋蔵文化財発掘調査に関する協定書」の一部が変更された。これに基づき、平成13年度で第３・４・５調査面、平成14年度で第６調査面の調査を実施した。こうして平成８年度に開始した当遺跡の調査は都合５年度に及び、調査面６面、調査総面積20,200㎡となった。

図１　遺跡位置図（国土地理院　平成15年２月１日発行「中部近畿」１：500,000地方図）

第２節　調査の経緯

発掘調査の経緯

調査を開始するに当たり、現況の地形測量図（Ｓ＝１／200）を作成した。４級基準点測量及び水準測量を実施し、遺跡が広がる段丘全体を網羅できるように、日本測地系に基づき４ｍ四方で割り付け、随時グリッド杭を設置した。グリッド名の呼称は、座標北から南に向けて順に１～38のアラビア数字、西から東に向けて順にＡ ～Ｚ、ａ～ｎのアルファベットを付けて併用し、北西角の杭番号を用いた（図２）。基準となる北西端Ａ１グリッドの北西杭はＸ＝－28184・Ｙ＝－67728に位置する。

調査前の土地利用は水田・畑地・林で、東西方向に石垣が築かれ棚田が形成されていた。表面採集資料は多いものの、試掘確認調査では弥生時代以降の明確な土地利用の痕跡は検出されず、遺跡の遺存状況は比較的良好であると予想された。

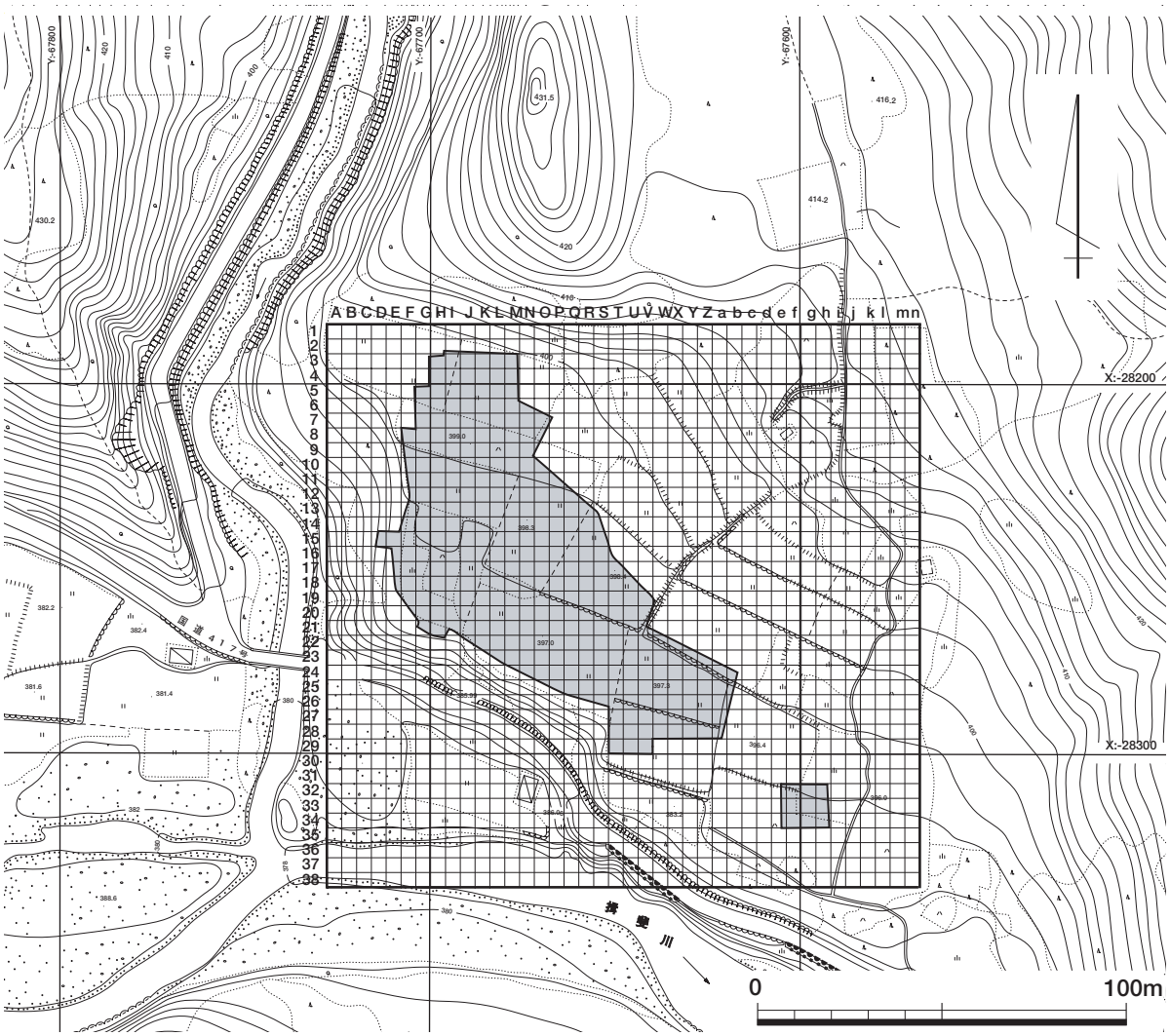


図２　調査区設定図

試掘確認調査と本発掘調査の調査期間及び調査面積、各年度の調査の経緯は以下のとおりである。

平成６年度　試掘確認調査、44㎡

平成８年度　５月７日～11月29日、3,600㎡

平成９年度　５月１日～11月28日、7,000㎡

平成10年度　４月20日～９月18日、（1,456㎡の調査途中で中断）

平成13年度　５月７日～12月５日、6,856㎡（調査面積は平成10年度の面積も含む）

平成14年度　５月７日～11月25日、2,700㎡

平成８年度当初、調査区内に立入が禁止された区域があったため、バックホウによる表土の除去ができなかった。このため土層確認と遺物包含層の位置及び所属時期を把握するために、４ｍ四方の調査坑14箇所（図３・ＴＰ21～34）を人力で掘削した後に土層断面を記録し、試掘坑の壁面や石垣裏側の断面を比較して土層確認を行った。この結果により、Ⅰ～Ⅹ層までの基本層序（第３章参照）を設定した。現地表から浅い地点で遺物が出土することが判明したため、以降、調査区内の北西端からⅠ層からⅢ層までを人力で掘削して、最終的にⅣ層上面まで達した。10月中旬に立入禁止区域の立入許可が下りたため、バックホウでⅠ層からⅡｃ層まで除去した。調査と並行して７月８日に地形測量を実施し、10月30日には八賀晋三重大学教授に現地で指導を受けた。

平成９年度は、６月２日に水準測量を実施し、調査区全体の立入が許可されたため残るすべてのⅠ層をバックホウで除去した。層序と調査面を面的に把握するため調査溝（Ａ～Ｃトレンチ）をバックホウで掘削して土層断面を検討し、Ⅴａ層はＢトレンチ以西・13列以南で広がると判断した。また平成８年度調査の13列以北の出土遺物の中に、縄文時代早期の土器を散見していたため、上記の範囲でⅣ層を人力掘削して、Ⅴａ層上面で遺構検出・掘削し、記録を行った（第１調査面）。８月８日には調査区の景観の撮影と遺構の図化作業のため、空中写真撮影を実施した。第１調査面の調査終了後、第１調査面のⅤａ層を人力で掘削してⅤｂ層上面を中心に精査を行い（第２調査面）、10月21日に空中写真撮影を実施した。図化に際しては、配石遺構と自然礫との分布の相違を明確にするために礫の記録に努めた。Ⅴｂ層は第２調査面の外側にも広がるため、同調査面の外側のⅤｂ層上面で精査を行い（第３調査面）、一部の遺構を検出して掘削し記録を進めた。10月15日に麻生優愛知学院大学教授に現地で、３月10日に泉拓良奈良大学教授に揖斐川整理所で指導を受けた。

平成10年度は、引き続き第３調査面の調査を実施した。遺構の埋土とⅤｂ層の土性が類似するためⅤｂ層上面での検出は困難と判断し、Ⅴｂ層を人力掘削しⅤｂ層基底面で遺構検出を行った。ただし調査区北西部の３・４列ではⅥ・Ⅶ層が分布せず、Ⅴｂ層とⅧｂ層が接しており土層を誤認したため、調査面の一部は下層に達した。この作業中にⅤａ層中より現れた配石遺構を特に留意しながら検出し、その一部については詳細な記録を、調査区全体については配石遺構の位置及び遺構以外の礫の分布の相違を明確にするために、８月18日及び11月10日に空中写真撮影を実施した。しかし９月24日に国道417号線が通行止めとなり現場への交通路が遮断されたため調査を中断し、福井県側から調査員が現場に入り、一部の遺構の調査と遺構の保護作業を行った。通行止めにより、当遺構面の多くの遺構の調査が途中のまま、平成13年度調査まで待つこととなった。５月28日～10月13日にかけて随時泉拓良教授に、10月13日に小林達雄國学院大学教授に現地で指導を受けた。

平成13年度は、７月１日に土砂崩れにより開田地区の国道417号線が通行止めとなったが、迂回路

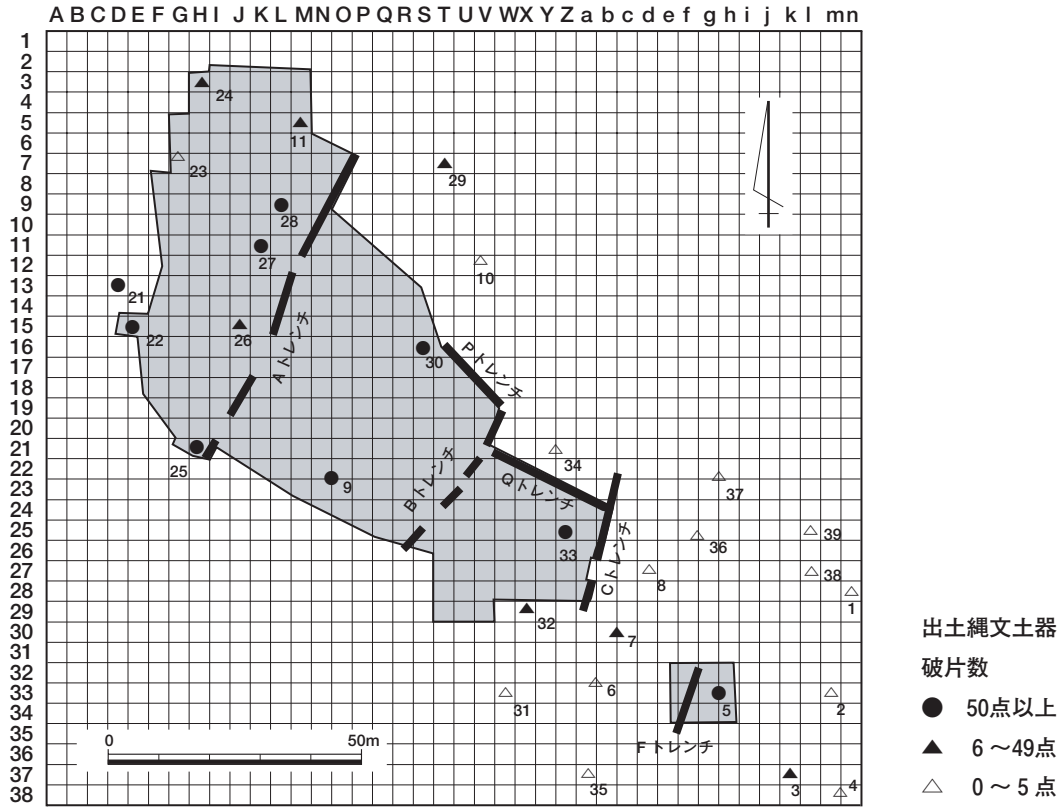


図 3　試掘坑及び調査溝配置図

図4　各調査面の位置図

を経由して現場に入り、調査を実施することができた。まず５月７日に水準測量を実施、調査区内の廃土処理用通路のⅠ層からⅢ層までをバックホウで除去後、Ⅳ層を人力で掘削してⅤａ層上面（第１調査面）・Ⅴｂ層上面（第２調査面）で精査し、遺構掘削・記録を行った。調査途中の第３調査面については、平成10年度以前の調査で配石遺構と認定し、平成11年度以降の遺構の再検討により必要と判断した礫については図化後除去したが、一部の配石遺構や土坑中の礫は原位置から移動していたり、竪穴住居跡などの遺構の掘形が失われているなど遺構の解釈の点で多くの課題が残った。調査が進むと遺構の密度が高く重複が著しいことから、平成10年度以前の遺構名との対比が困難な場合が多いため、敢えて新規に命名し慎重に対応した。Ｒ列以東で遺構密度が低くなったことにより、Ｒ～Ｖ列の一部は第５調査面の調査に委ねることとした。遺構を掘削して必要な記録作業を終え、９月20日に空中写真撮影を実施した。図化に際しては、原則として遺構は完掘状態とし、自然礫は図化しなかった。

第４調査面以下の調査区については、第３Ｂ調査面における土層の堆積状況（図７）から、Ⅵｂ層基底面（第４調査面）及びⅥｃ層基底面（第５調査面）で精査し、遺構検出を行うこととした。ただし調査区東端のＣ・Ｑトレンチや第３調査面の完掘遺構の壁面では、Ⅵｂ層及びⅥｃ層で遺構がなく遺物も少量であったため、21列で調査面を南北に分割し、以北を第４調査面１区、以南を第５調査面とした。これとは別に、試掘坑（ＴＰ５）のⅥｃ層上面で焼土を確認していたため、遺構の性格の解明と周辺の遺構検出を目的に、第４調査面２区を設定した。第４調査面１区では、遺物の包含状況からⅥａ層とⅥｂ層の一部をバックホウで除去し、Ⅵｂ層の一部を人力で掘削してⅥｂ層基底面で精査を行った。第４調査面２区でも、Ⅵｂ層からⅥｂ層の一部までをバックホウで除去した以外は、同様の方法で実施した。第５調査面では、遺物の包含状況からⅥａ層・Ⅵｂ層及びⅥｃ層の大半をバックホウで除去し、Ⅵｃ層の一部を人力で掘削してⅥｃ層基底面で精査を行った。なお調査区西端・南端の斜面の一部を拡張して掘削を行い、遺物の回収と検出遺構の掘削・記録を行った。遺構を掘削して必要な記録作業を終え、11月28日に空中写真撮影を実施した。11月21日に泉拓良教授に現地で指導を受けた。

平成14年度は、第４調査面１区及び第５調査面のⅥｃ層をバックホウで除去後、Ⅶａ層・Ⅶｂ層・Ⅷａ・Ⅷｂ層を人力で掘削し、Ⅷｂ層下面で精査を行った（第６調査面）。ただしⅧｂ層の分布状況を勘案し、第５調査面の掘立柱建物跡の広がりを確認するため、部分的に拡張した形となった。遺構を掘削して必要な記録作業を終えた10月25日に空中写真撮影を実施した。11月11日に泉拓良教授に現地で、２月25日に三田洞整理所で指導を受けた。

教育普及活動として、大垣市立北小学校下文化財愛護少年団の体験発掘（平成９年７月22日・10年８月25日）、揖斐郡老人クラブ連合会（平成10年８月４日）・揖斐郡民生委員（平成10年９月２日）・本巣郡学校教育会理科部（平成13年８月22日）などの視察を受け入れた。平成15・16年度の発掘速報展や当センターのホームページで、遺跡と遺物の紹介を行った。

写真１　平成９年度体験発掘

写真２　平成10年度体験発掘

写真３　竪穴住居跡調査状況

写真４　遺構掘削状況

整理作業の経緯

出土遺物の一次整理（洗浄・注記）は、発掘調査と並行して平成８～10年度は揖斐川整理所で、平成13・14年度は業者に委託して実施した。二次整理は、平成11～13年度は他の遺跡の調査と並行して実施した。ただし調査途中の遺構が多いため必然的に限定された作業となり、第５調査面の調査が終了した平成14～17年度に本格的な二次整理を実施した。

表１　年度別調査進捗状況

調査種別＼年度		6	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
試掘確認調査		■										
発掘調査	表土・包含層掘削		■									
	第１調査面			■								
	第２調査面			■								
	第３Ａ調査面				■							
	第３Ｂ調査面							■				
	第４調査面							■				
	第５調査面							■				
	第６調査面								■			
整理作業	一次整理		■	■	■			■	■			
	二次整理					■	■	■	■	■	■	■

発掘調査及び整理作業の体制は以下のとおりである。

理事長　篠田幸男（平成８・９年度）、村木光男（平成10・11年度）、服部卓郎（平成12～14年度）、日比治男（平成15～17年度）

副理事長　高橋宏之（平成15～17年度）、平光明彦（平成15～17年度）

専務理事兼事務局長　河合周治（平成８・９年度）、原隆男（平成10～12年度）、成戸宏二（平成13・14年度）

常務理事兼センター所長　福田安昭（平成15・16年度）、田口久之（平成17年度）

常務理事兼経営（総務）部長　石黒美智雄（平成８～10年度）、二山晃（平成11・12年度）、福田安昭（平成13・14年度）

経営部次長兼経営課長　平林哲男（平成10年度）、坂東隆（平成11・12年度）、福田照行（平成13・14年度）

経営（総務）課長　平林哲男（平成８・９年度）、川瀬崇敏（平成15～17年度）

調査部長　臼井進（平成８年度）、山元敏治（平成９～11年度）、高橋幸仁（平成12年度）、武藤貞昭（平成13～15年度）、川部誠（平成16・17年度）

調査部次長　小木曽文和（平成８年度）、高橋幸仁（平成９～11年度）、武藤貞昭（平成12年度）、片桐隆彦（平成13・14年度）

担当調査課長　高橋幸仁（平成８年度）、中島康夫（平成９年度）、柘植卓伸（平成10～12年度）、坂東肇（平成13・14年度）、高木徳彦（平成13～15年度）、藤岡比呂志（平成16年度）、近藤聡（平成17年度）

担当調査員　竹中一秋（平成８～11年度）、三島誠（平成８・12年度）、小谷和彦・稲川威・阿部昌史（平成９年度）、近藤大典（平成10年度）、春日井恒（平成11･13年度）、林芳樹・浅野哲男（平成13年度）、近藤聡（平成13・14年度）、三輪晃三（平成13～17年度）

補助調査員（調査補助員）　小坂宗和、知本俊美

発掘作業員

池田満子、石原公子、石原敏枝、泉武光、泉利子、今井敏隆、今村昭夫、今村昭吾、岩井弘子、岩井正夫、岩田郁夫、梅本みつゑ、江口はる子、江口もと、小倉富恵、小倉ふみ子、小沢やゑ子、勝野千佳子、加藤あさゑ、加藤きよ子、加藤淳、金指とめの、川口ふじゑ、木本梅雄、倉地幸子、小玉春子、小寺清子、小寺ひさゑ、小寺正輝、小西直政、小西きよ子、小西政治郎、小西かの、小林さずゑ、佐島岩吉、佐島みさを、清水おぎの、清水久雄、杉里健三、杉島利秋、杉島寛之、杉山利子、清生スミ子、扇間重男、高橋あきゑ、高橋いちの、高橋勝美、高橋鈴子、高橋戸佐男、高橋つや、高橋花子、高橋春枝、高橋政雄、高橋ミツ子、高橋みね、高橋実、高橋文子、竹中直太、竹中三博、竹中ももゑ、竹中よしの、田中寿躬枝、丹度芳子、土屋重義、中井しづゑ、中石たけ、中川つる、中川操、中村たみゑ、中山清子、成瀬又勇、二村久美子、野田タツ子、野原明、橋本義治、早野よさを、樋口聡、前田晶、増田昭治、増元清子、増元幸雄、増元文子、増元なつゑ、増元みち、増元やゑ、松岡正夫、松田智恵子、真鍋由美、村山みつ子、森たかゑ、森本勉、山北満、山本きみの、若原慶子、渡辺あきゑ

整理作業員

粟野由美子、市橋美栄、岩田のり子、江口陽子、大塚道子、大野里美、小澤真紀子、加藤里佳、後藤悦子、小西清美、小西尚美、小西真由美、小林孝美、小松博子、関晶子、宗宮登美子、宗宮朋子、高橋郷美、竹部泉、竹中栄子、長柄励子、丹羽香、野々村みさと、橋本法子、林美枝、林睦、原幸子、樋口弘子、日比野登美子、広瀬みどり、堀恵理奈、堀孝浩、牧村美和子、村瀬俊哉、森さなえ、山口久子、山田弘子、藪下賀代子、湯城里美

第３節　調査の方法

発掘調査における記録の方法

遺構の図化については、必要に応じて遺構平面図や土層断面図（図化縮尺Ｓ＝1/5～1/20）などを個別に作成し、基準となる任意の２点の座標をトータルステーションで計測した。一方調査面全体の図化は委託により実施し、ラジオコントロールヘリコプターによる空中写真撮影（撮影縮尺Ｓ＝１／400）後、解析図化機を使用してデジタル形式で測定し、図化した（図化縮尺Ｓ＝１／50）。遺構の記録写真については、モノクロ・リバーサル（本体ニコンＦ３・35㎜又は50㎜レンズ、必要に応じて本体マミヤＲＺ67・50㎜又は110㎜レンズを使用）・カラー（コンパクトカメラ又はデジタルカメラを使用）フィルムで各々撮影した。

遺物の取り上げ方法については遺構外出土遺物（検出作業で出土し遺構に帰属しない遺物を含む）は層位・グリッド単位、遺構出土遺物は遺構単位とした。また現場で、土器類・石器・動物遺体・炭化物を区別し、加工・調整痕の可能性がある礫は極力取り上げた。

整理作業の方法

一次整理では、土器類は洗浄後に強化のため合成樹脂に含浸（バインダー№17、７～10％溶液に24時間）した。注記の方法は全点手書きで行ったが、微細な土器は注記をせずに一括してチャック付ポリ袋に収納した。注記の記入事項は、平成８～10年度調査は遺跡略号（ＴＯ）・調査年度（96～98）・グリッド名・層位名（遺構出土の場合は遺構名）・取り上げ単位中の枝番号とした。平成13・14年度は、注記作業の効率化のため、記入事項は調査年度（01・02）・遺跡略号（ＴＯ）・班名（Ａ～Ｈ）・取り上げ番号・枝番号とした。石器については遺物に直接注記をせず、チャック付きポリ袋に記入した。

二次整理は、次のような方針に基づき実施した。土器類は①遺構出土土器、②遺構外出土土器、③特徴的な遺物（土製品・土器片円板・顔料等付着土器・補修孔を持つ土器・焼成粘土塊・縄文時代以外の遺物）に分類した。①については遺構毎に接合した上で実測した。②については縄文土器のうち、端部が遺存し口縁部（ただし３㎝以上遺存するもの）・注口部・底部・脚台部・圧痕を有する底面を抽出した。胴部片については、本格的なグリッド間及び遺構間接合は行わなかった。②・③についてはグリッド別の出土傾向を把握するための資料とした。石器類については器種分類案を作成した上で、質量や法量の計測を行った。ただし、製品と剥片との接合は行わなかった。動物遺体については、新美倫子氏に全点の分析を依頼した（結果は第６章第４節に掲載）。

第２章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

遺跡周辺の地形・地質の概要

当遺跡は、揖斐川本流と東から流れる支流（ヒン谷）が合流する南東部に位置し、本流の左岸の段丘面上に立地する。この段丘面は、本流に沿って北西から南東に長く、北西から南東方向に約200m、北東から南西方向に約50mの広がりをもつ。現河床との比高差は約10mである。この段丘面より上流には同様な広がりをもつ段丘面は見られない。遺跡の北東側は山地であり、北側に南北約100m、東西約50m、高さ約30mの小山状の凸部があり、その東側はやや緩傾斜となっている。遺跡の北側に位置する小山状の凸部は緩傾斜部を東に伴い、かつ山地の斜面上に独立して存在しており、周辺の地形と比べ不自然な地形である（図５）。また小山状の凸部は確認できる限り、かなり破砕を受けた泥岩から成っている。このことより、この凸部は東からの地すべりによって形成された地形であると考えられる。地すべりがいつ起こったかは不明であるが、遺跡における土石流堆積物の堆積、遺跡の地山に含まれる礫種から、遺跡形成以前に起こったと考えられる。段丘崖に見られる露頭から、当遺跡の基盤は砂岩によって成っている。遺跡近辺では、基盤となる砂岩などの上に段丘堆積物があり、その上に土石流堆積物があり、そこに遺跡が形成されている。また、遺跡の土層中には２枚以上の角礫層が挟まっており、いずれも山側からの土石流堆積物と思われる（第３章参照）。

遺跡周辺に分布する石材について

徳山地域には、ほぼ全域において美濃帯堆積岩類が分布している。そのため、砂岩、チャート、泥岩などは、周辺の河原に多く存在する。ホルンフェルスは、泥岩などが熱変成作用によって生じる岩石であり、徳山地域にも分布する。また福井県境の尾根沿いに安山岩類が、その東の能郷白山には花崗閃緑岩や閃緑岩などが分布し、それらの岩石は揖斐川の支流によって下流に運ばれる。

以上により、遺跡周辺や揖斐川沿いの河原で得られる石材として、砂岩、泥岩（珪質泥岩、粘板岩も含む）、礫岩、チャート、ホルンフェルス、安山岩（角閃石安山岩、凝灰岩も含む）、花崗閃緑岩、閃緑岩、ドレライト、はんれい岩が挙げられる。具体的な供給源は不明ではあるが、徳山地域内で流紋岩質溶結凝灰岩（流紋岩質凝灰岩も含む）も確認できる。また徳山地域の南に位置する貝月山周辺では、花崗岩（石英、花崗斑岩も含む）が広く分布する。これらの石材は、現地若しくは移動して採取することにより手に入れることができるものである。ただし、これらの石材についての所見は、成因による岩石名称を使用して肉眼観察により分類していること、実際の産地が離れていても成因が同じ岩石であれば同一の岩石名称になっていることより、概略を述べているにすぎない。そのため、上記の石材の一部には近くで手に入れていない石材が含まれている可能性もある。

一方近くで手に入れることができない石材として、黒曜石、下呂石、サヌカイト、ひすい、滑石、結晶片岩（緑色片岩を含む）、蛇紋岩が挙げられる。これらの石材は徳山地域周辺には見られないため、河川によっても運ばれる可能性はないと思われる。

図５　遺跡周辺の地形図

第２節　周辺の遺跡

当遺跡から揖斐川沿いに約1.8㎞上流に上ると石橋遺跡がある。石橋遺跡では、縄文時代中期とされる土器１点（岐阜県教育委員会1985）、石鏃４点・石錘１点・石匙１点・スクレイパー３点（徳山村の歴史を語る会1984）が採集されている。当遺跡から北東に位置する、県境の冠山山頂近くにある冠平遺跡（図６の範囲外）でも石鏃１点が採集されているが、いずれも徳山ダム建設により水没しない遺跡であるため、発掘調査は行わず、詳細は不明である。

一方、当遺跡から揖斐川沿いに約1.9㎞下ると塚遺跡がある。発掘調査により、中期後葉から後期前葉にかけての竪穴住居跡・集石遺構・土器埋設遺構・土坑・ピットが検出された（財団法人岐阜県文化財保護センター1998）。塚遺跡から下流の遺跡の概要は、既刊の発掘調査報告書に述べられているので、説明を割愛する（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2003ａｂ・2006）。

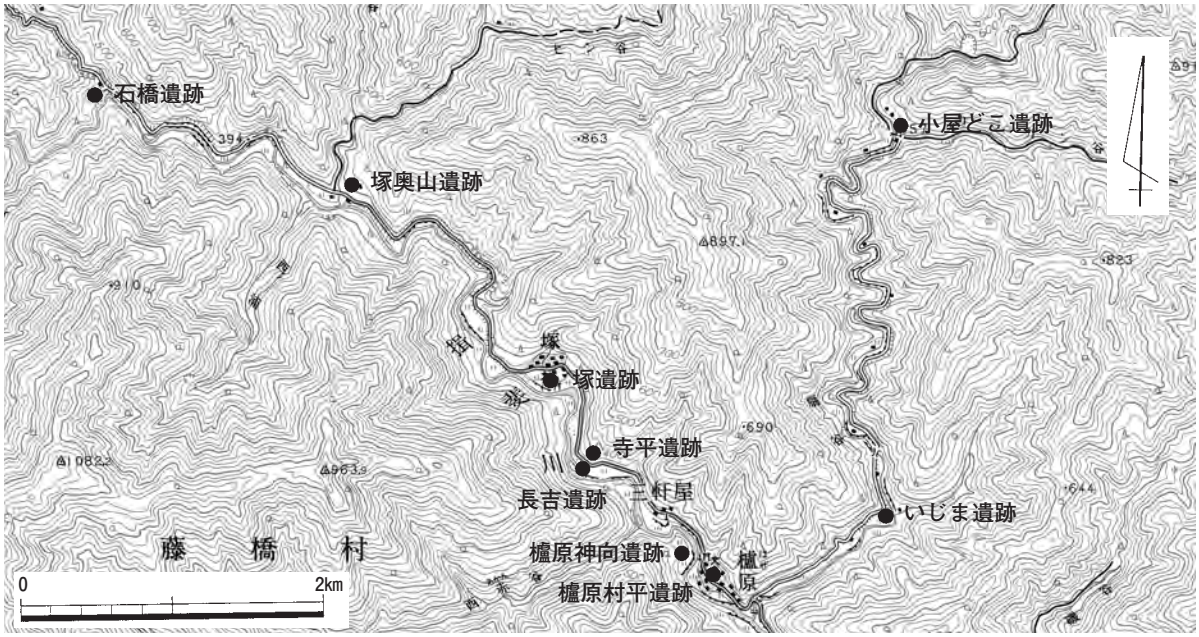


図６　周辺の遺跡地図（国土地理院　平成７年４月１日発行「冠山」１：50,000地形図）

表２　周辺の遺跡一覧表

	縄文時代						弥生時代	古墳時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	室町時代
	草創期	早期	前期	中期	後期	晩期						
石橋												
塚奥山												
塚												
寺平												
長吉												
櫨原神向												
櫨原村平												
小屋どこ												
いじま												

太字は発掘調査した遺跡　　遺物あり　　まとまった遺物あり　　遺構あり

※本表は『寺平遺跡』（財団法人岐阜県文化財保護センター2003ｂ）ｐ６－表6の一部を改変した。
　小屋どこ遺跡は徳山村の歴史を語る会1984を参考にした。

第３章　基本層序

第１節　基本層序の概要

基本層序の設定に際しては、周辺遺跡の調査を参照の上、土色の大きな違いで区分（ローマ数字で表す）し、さらに土色や分布範囲の違いなどで細分（英小文字で表す）して呼称した。各層位の特徴は、概ね次のとおりである。

Ⅰ層【現代の表土】

黒褐色土（10ＹＲ２／２）、粘性・締まりなし、少量の礫を含む。

Ⅱａ層【現代の水田敷土】

褐色土（7.5ＹＲ４／４）、風化した礫を含む。旧水田の範囲に広がる。

Ⅱｂ層【現代の盛土】

土色は多様、多量の礫を含む。

Ⅲ層【現代の旧表土】

黒褐色土（7.5ＹＲ３／２）、粘性なし、締まりややあり、少量の礫・炭化物を含む。

Ⅳ層【遺物包含層】

黒褐色土（10ＹＲ２／２）、粘性・締まりややあり、少量の礫を含む。ほぼ全域に広がる。

Ⅴａ層【遺物包含層】

黒褐色土（10ＹＲ２／３）、粘性・締まりややあり、少量の礫を含む。ほぼ全域に広がる。

Ⅴｂ層【遺物包含層】

黒褐色土（10ＹＲ２／２）、粘性・締まりややあり、少量の亜角礫・炭化物を含む。ほぼ全域に広がる。

Ⅵａ層【無遺物層】

にぶい黄褐色土（10ＹＲ４／３、西へ行くと暗色化する）粘性ややあり、締まりあり、地点により異なるが多量の亜角礫を含む。北東部に厚く堆積するが、Ｎ列以西及び26列以南には分布しない。

Ⅵｂ層【遺物包含層】

暗褐色土（10ＹＲ３／３、西へ行くと暗色化する）、粘性・締まりややあり、少量の亜角礫・炭化物を含む。Ⅵａ層より広い範囲に広がる。

Ⅵｃ層【無遺物層】

褐色土（10ＹＲ４／４、西へ行くと暗色化する）、粘性・締まりあり、少量の亜角礫・炭化物を含む。北東部に厚く堆積するが、Ｋ列以西には一部を除き分布しない。

Ⅶａ層【遺物包含層】

暗褐色土（10ＹＲ３／３）、東ほど砂質、粘性ややあり、締まりあり、褐色土ブロック・少量の亜角礫・炭化物を含む。Ⅵｃ層とほぼ同じ範囲に広がる。

Ⅶｂ層【遺物包含層】

暗褐色土（10ＹＲ３／４）、粘性・締まりあり、少量の褐色土ブロック・小礫・炭化物を含む。Ｖ列以東及び26列以北の限られた範囲に広がる。

Ⅷａ層【遺物包含層】

黒褐色土（10ＹＲ1.7／１）、粘性・締まりあり、少量の亜角礫を含む。北西部に厚く堆積する。

Ⅷｂ層【遺物包含層】

黒褐色土（10ＹＲ２／２）、粘性・締まりあり、多量の亜角礫を含む。Ⅶｂ層よりも広い範囲に広がる。

Ⅸａ層【無遺物層】

褐色土（10ＹＲ４／４）、礫や粗砂で占められ粘性なし・締まりややあり、少量の亜円礫と多量の亜角礫を含む。Ⅸｂ層を除く全域に広がる。

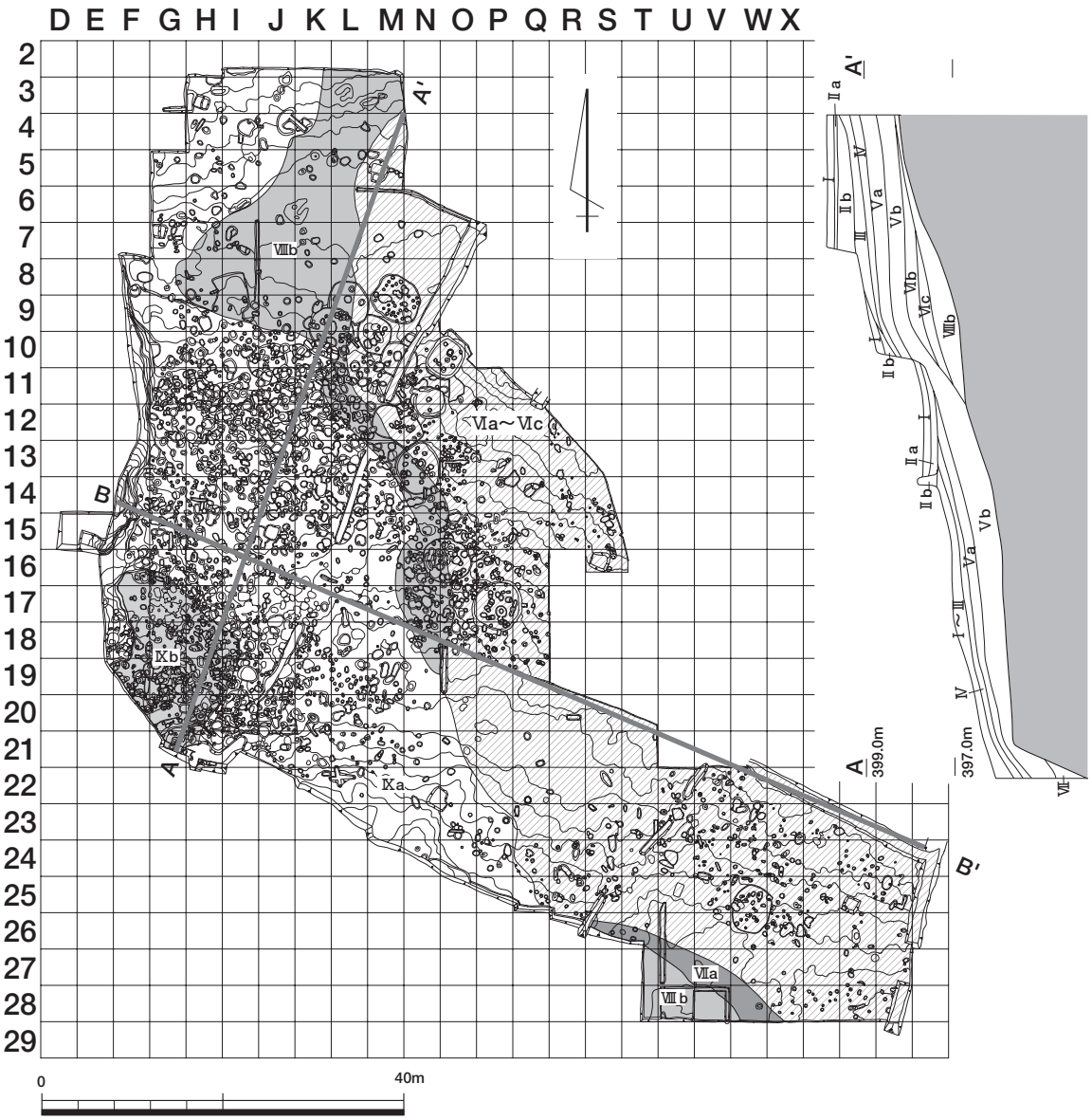
Ⅸｂ層【無遺物層】

にぶい黄褐色シルト（10ＹＲ５／３）、粘性・締まりあり、少量の灰黄褐色土ブロック・亜角礫を含む。Ｉ列以西及び16列以南の狭い範囲に広がる。

第３Ｂ調査面では、Ｖｂ層を除去したところⅥａ層以下の土層がⅨ層上面と同一面上で共存していた（図７）。南北方向の断面を見ると、土層は比較的緩やかな斜面堆積を示しているが、南側の末端（Ｇ21グリッド）は急傾斜となっており遺跡が立地する段丘の斜面である。またⅥ層の堆積が厚い調査区の北東から南東側にかけては、土層はより急な斜面堆積となる。一方東西方向の断面図を見ると、調査区の西側（Ｉ15グリッド）が高く、末端（Ｆ14グリッド）は急傾斜となっており段丘の斜面である。また東側の斜面には、Ⅷｂ～Ⅵａ層の供給によって平坦近くになるまで埋没した様子がわかる。

本調査では、すべての遺構検出面で遺構を記録することは困難であるため、上記の層位の境界で複数の遺構検出面の調査（以下「調査面」と呼称）を同時に行った。このため各調査面は調査の時間的経緯を投影したにすぎないため、検出した遺構が所属する時期幅は広いことを確認しておきたい。遺構の所属時期を決定するためには、遺構埋土から出土する遺物と共に、個別遺構をどのようにして検出したかを相互に検討する必要がある。しかし調査面上で検出される層位は、各調査面や地点によって様々である。例えば安定した厚い堆積のため同一の層位の境界で遺構が検出される調査面（第１・２・６調査面）もあれば、一部の層位が欠落したり、複数の層位が分布する調査面（第３～５調査面）もある。そこで「遺構検出面の便宜的な呼称」（趙1983）に基づいて、各調査面で検出した遺構を概ね次のように整理した。ただし個別遺構のうち、検出状況が明確な場合はそれに従った。

第１調査面	Ｖａ層上面検出
第２調査面	Ｖｂ層上面検出
第３Ａ・３Ｂ調査面	Ｖｂ層基底面検出
	（Ⅵａ～ｃ・Ⅶｂ・Ⅷｂ・Ⅸａ・Ⅸｂ層が、同一面上で共存する）
第４調査面	Ⅵｂ層基底面検出（Ⅵｃ・Ⅶａ・Ⅷｂ層が、同一面上で共存する）
第５調査面	Ⅵｃ層基底面検出（Ⅶａ・Ⅶｂ・Ⅷｂ・Ⅸａ層が、同一面上で共存する）
第６調査面	Ⅸａ層上面検出遺構



平面図 S=1/800
断面図 縦S=1/40　横S=1/800

図7　土層堆積状況図

第２節　土石流堆積物の観察と地形の変遷

Ⅵ層以下には土石流堆積物と考えられる土層（写真５）が認められるため､わんがけ法によって洗い、双眼実体顕微鏡で観察した結果、気づいた点を述べる。

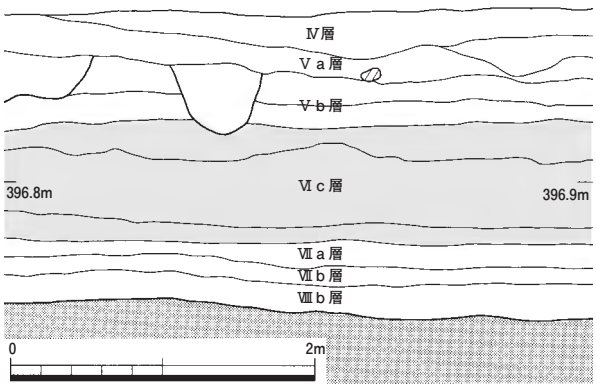


図８　ｂ24グリッドの土層断面図

図５　ｂ24グリッドの土層断面写真（南から）

Ⅵａ層は角礫が多く入り、土石流堆積物と思われる。前述のように北東側のみ堆積しており、山側からの供給として矛盾しない。少量の炭化物と、少量のＫ－Ａｈ火山灰と思われる火山ガラスを含む。Ⅵｂ層は、少量の植物の炭化物と思われるものと、少量のＫ－Ａｈ火山灰と思われる火山ガラスを含む。Ⅵｃ層はⅥａ層と同様に土石流堆積物と思われる土層で、多量の炭化物と、多量のＫ－Ａｈ火山灰と思われる火山ガラスを含む。Ⅶａ層は他の土層と比べ砂が多く、少量のＫ－Ａｈ火山灰と思われる火山ガラスを含む。Ⅶｂ層はⅦａ層のように砂を多く含まない。少量のＫ－Ａｈ火山灰と思われる火山ガラスを含む。Ⅷａ層は炭化物は目立たず、多量のＫ－Ａｈ火山灰と思われる火山ガラスを含む。Ⅷｂ層は径５～10㎝の角礫・亜角礫を含み基質が少ない。Ｋ－Ａｈ火山灰と思われる火山ガラスは確認できなかった。Ⅸ層は地山であり多量の亜角礫・角礫が入る。基質はシルトで、砂を含む場合もある。このことから土石流堆積物と思われる。火山ガラスは確認できなかった。５㎜～３㎝の礫種を調べたところ、砂岩…約70％、チャート…約15％、泥岩…約12％、安山岩、石英…数％であった。支流（ヒン谷）の現在の河床礫は、砂岩≫チャート≧安山岩であり、泥岩礫を除けばヒン谷の礫組成と似ている。地すべり移動体と思われる小山は泥岩からなり、それが支流の河床礫と比較するとⅨ層に割合多く入っていることからして、地すべりが起こった時期は地山が形成される時期の可能性がある。また、Ⅸ層の下部であるⅨｂ層の基質には砂が多く混ざっており、下に存在する砂礫層をまきこんでいると思われる。

遺跡周辺の変遷をたどると、次のように想定される。遺跡の北東300ｍほどの位置で、地すべりが起こり、その移動体が遺跡の北100ｍほどのところに移動した。その後、揖斐川本流若しくは支流の段丘堆積物を覆うように、土石流堆積物が東の山地部よりもたらされる。数ｍの厚さをもっており、かなりの規模の土石流であったと考えられる。土石流の上部は雨水で洗われ、北西から東南方向にかけて浅い凹地も存在するようになる（第６調査面)。そのような頃に、人が活動の場所として利用し始める。その後数回（Ⅵａ・Ⅵｃ層など）土石流が起こったが、遺跡全面を埋めるほどの規模ではなかった。

第４章　遺構

第１節　遺構の概要と分類

検出した遺構は、竪穴住居跡（ＳＢ、以下括弧内アルファベットは遺構略号）42軒、掘立柱建物跡（ＳＨ）４棟、炉跡・焼土遺構（ＳＦ）87基、焼礫集積遺構（ＳＩ）６基、配石遺構（ＳＩ）36基、立石遺構（ＳＲ）２基、土坑（ＳＫ）3,625基、竪穴住居跡内土坑（Ｐ）596基、埋甕・埋設土器（ＳＺ）16基、溝（ＳＤ）１条、遺物集積（ＳＵ）５か所である。各調査面毎の詳細と本書における掲載遺構数は表３のとおりである。例えば第２調査面の炉跡・焼土遺構数４／11は、検出数11基のうち本書の掲載数は４基ということを示す。

表３　検出遺構一覧表

遺構の種類		１面	２面	３Ａ面	３Ｂ面	４面	５面	６面	合計
竪穴住居跡	ＳＢ		4/4		22/22	12/12	2/2	2/2	42/42
掘立柱建物跡	ＳＨ				1/1	1/1	2/2		4/4
炉跡・焼土遺構	ＳＦ	0/18	4/11	1/1	38/48	5/8		0/1	48/87
焼礫集積遺構	ＳＩ			1/1		1/1	2/2	2/2	6/6
配石遺構	ＳＩ	5/5	1/1	27/27	3/3				36/36
立石遺構	ＳＲ				2/2				2/2
土坑	ＳＫ	13/32	9/63	33/36	211/2,334	25/410	10/131	5/619	306/3,625
竪穴住居跡内土坑	Ｐ		107/120		239/240	163/165	30/30	41/41	580/596
埋甕・埋設土器	ＳＺ	1/1	4/4	1/1	8/8	1/1	1/1		16/16
溝	ＳＤ				1/1				1/1
遺物集積	ＳＵ			2/2	1/1	1/1		1/1	5/5
合計		19/56	129/203	65/68	526/2,660	209/599	47/168	51/666	1,045/4,420

遺構名は、遺構を検出した時点で遺構の種類別に通し番号を与えた。しかし検出した遺構の性格を再検討した上で遺構名を付け直したため、本書に掲載する遺構名は現場で使用した遺構名と異なっている。遺構の埋土からは弥生時代以降の遺物は出土しておらず、第１調査面の一部を除く全ての遺構が縄文時代の所産である。

遺構の分類

ここでは、遺構の認定基準と、分類する上での留意点を挙げる。

１　竪穴住居跡（ＳＢ）

直径約４ｍ以上の竪穴と、竪穴内部における柱穴状の遺構（竪穴住居跡内土坑）の検出をもって「竪穴住居跡」と認定した。ただし調査所見により確実に住居跡であると認定できた事例はないため、その見地からは建物跡と表現しても良い。しかし、多数の土坑が重複したりＶｂ層上面での遺構の検出が困難であったりしたために、竪穴が検出されずに炉跡のみ検出した場合には、炉跡周辺で柱穴状の遺構を確認し、その配置を検討した上で認定した事例がある（ＳＢ10・12・17・18・20・25）。いずれも壁面の痕跡や硬化面が検出されていないため、平地式住居跡と認定するには至らなかった。また、今回検出した竪穴住居跡の中には、竪穴外部に柱穴状の遺構は認められなかったため、内部に柱穴を持たない住居構造の住居はないと判断し、最終的に土坑と判断した遺構がある（ＳＫ1257・3627）。

２　掘立柱建物跡（ＳＨ）

柱穴状の形状と判断できる土坑が、四角形・五角形・六角形等に規則的に並ぶ遺構を、「掘立柱建

物跡」と認定した。一般に、遺構密度の低い地区では掘立柱建物跡を認定しやすいが、密度の高い地区では困難である。今回の調査では、前者の条件下で認定したため、実際の掘立柱建物跡数は認定数を上回る可能性が高い。

３　炉跡・焼土遺構（ＳＦ）

地面で固定的に火を焚いた際に生じた被熱の痕跡（底面や壁面、または均質で面的に焼土が分布する）がある遺構を「炉跡」とし、炉の周囲を礫で囲む「石囲炉」と、囲まない「地床炉」に分けた。ただし、地床炉のうち炉石の抜き取り痕跡が認められた場合は石囲炉とし、底面や壁面に被熱の痕跡がなく、かつ焼土粒・ブロックが二次堆積であると認められた場合は「焼土遺構」とした。

４　焼礫集積遺構（ＳＩ）

「とくに人為的な被熱に成る焼礫・破砕礫が故意に集積された一群の遺構」（谷口1986）とし、「充填型集石遺構」と「被覆型集石遺構」に二分する。前者は「用礫が坑底部分までくまなく充填」した遺構、後者は「土坑の開口部を被覆するように用礫を坑内上半部に充填した」遺構である。充填された礫に被熱痕跡が認められない遺構は、「土坑」に分類した。

５　配石遺構（ＳＩ）

複数の礫が面的に集中する遺構を「配石遺構」とし、下部土坑の有無は問わない。よって、礫が土坑埋土中で検出される場合は、「土坑」として扱う。遺物包含層中に含まれる礫のほとんどが亜角礫であるのに対し、配石遺構及び土坑に伴う礫は亜円礫や円礫などが主体であったり混入したりしているため、本書では極力礫の円磨の程度を示した。個別の礫の据え方は林1991に従い、礫の「縦断面の長軸を上下の方向において据え（中略）一方の小口を地中に埋め込む」立て方を「長手立て」、「横断面の長軸を上下の方向において据え（中略）両方の小口は両隣の石材に接している」立て方を「小口立て」、「横断面の短軸が上下にむかっている」立て方を「平置き」と規定し、図９のように分類した。「配石１類」「配石２類」「配石３類」は、日本道路公団名古屋建設局1993における「１群」「２群」「３群」に該当し、土坑の記述における立石も長手立てと小口立てを区別する。

配石１類：縁石を伴うもの。

配石２類：置石のみを伴うもの。

配石３類：礫が点在するもの。

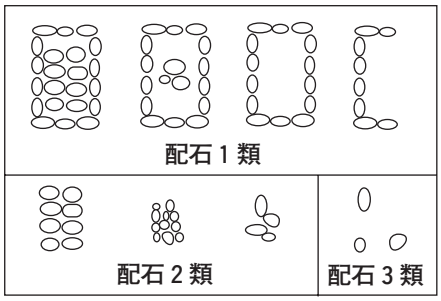


図９　配石遺構の分類模式図

６　立石遺構（ＳＲ）

土坑内に礫１個を長手立てとする遺構。ただし礫を立てるために土坑を掘削すると想定できるため、礫の下端が土坑の掘形に接する場合に限定した。以上の条件を満たす遺構はＳＫ1777・1817である。

７　土坑（ＳＫ）

地面に掘った穴（竪穴住居跡を除く。）を総称する。その用途については柱穴・墓坑・貯蔵穴が想定されている。本書では、埋土中に土器や礫（石器を含む。）を含む遺構を、次のように分類した。

Ａ類：穴だけのもの。

Ｂ類：土坑内に礫を配置するもの（ただし設置の位置を区別しない）。

Ｂ１類：土坑内に礫を敷いているもの（該当例なし）。

Ｂ２類：土坑内の壁際に礫をおいているもの。

C類：埋土中に土器が伴うもの。

C１類：完形土器（ただし土器よりも土坑の掘形の規模が大きいもの。なお土器は欠損部があってもその形態を留めるものを含む）。

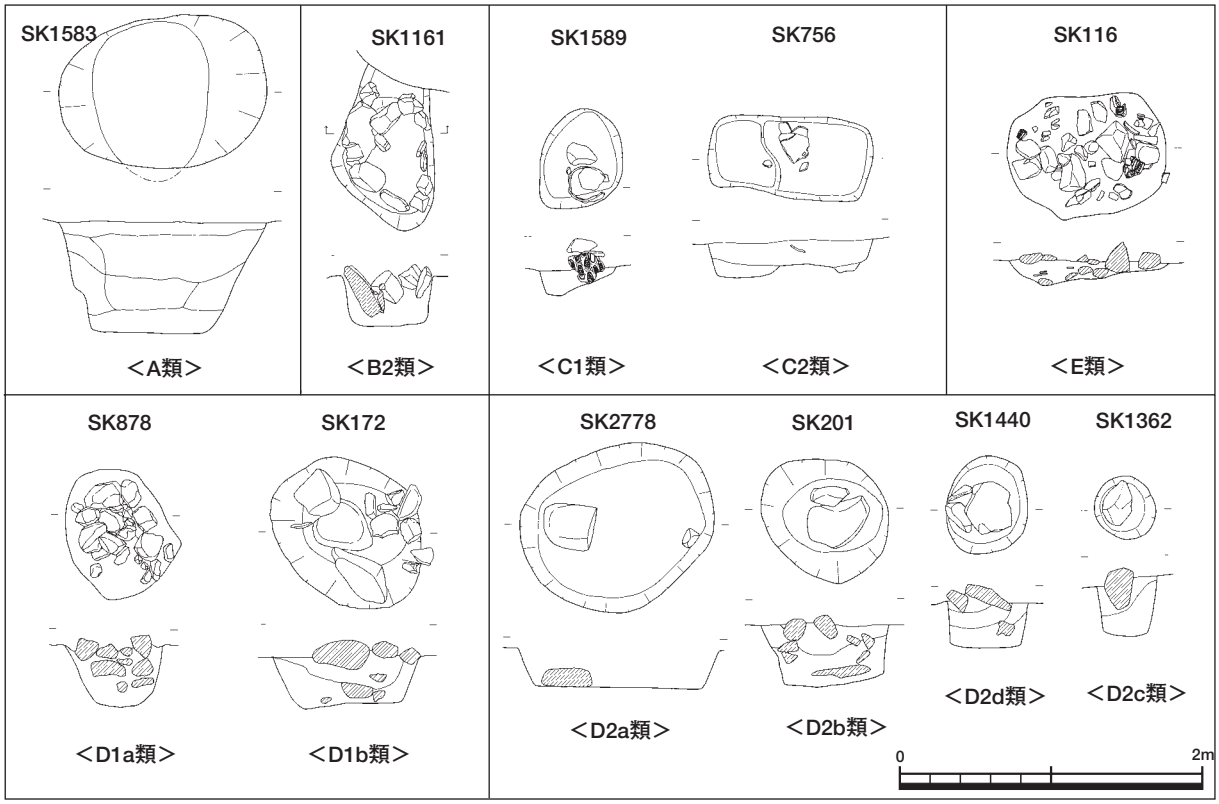
C２類：破片（ただし形状が復原できるほどの破片が面的に広がっているもの）。

D類：埋土中に礫が伴うもの。

D１類：多数の礫が伴うもの（a：充填するもの、b：浮上するもの）。

D２類：若干数の礫が伴うもの（a：枕石、b：抱石、c：立石状、d：蓋石）。

E類：土器と礫が伴うもの。



8　竪穴住居跡内土坑（P）

竪穴住居跡の内部で検出された遺構とする。ただし、竪穴の埋土を切る土坑や明らかに竪穴住居跡に先行する遺構を除く。

9　埋甕・埋設土器（ＳＺ）

完形土器（欠損部があってもその形態を留めるものを含む）を埋設した遺構のうち、土器の形状に比べ、それを埋設した掘形の規模がやや大きいもの。便宜上、竪穴住居跡の床面で検出した遺構を「埋甕」、屋外の遺構は「埋設土器」と呼ぶ。

10　溝（ＳＤ）

溝状の遺構。１条（ＳＤ１）のみ南斜面上部で検出した。ただし、流水の痕跡は認められなかった。

11　遺物集積（ＳＵ）

遺構外で遺物がまとまって出土、あるいは完形に近い土器が単独で出土した場合に、遺構の可能性を想定し、「遺物集積」と認定した。

掲載遺構図の選定基準と凡例

本書における掲載遺構の種類は、竪穴住居跡及び関連土坑・掘立柱建物跡及び関連土坑・炉跡・焼礫集積遺構・配石遺構・立石遺構・土坑（ただし埋土中に遺物や礫を伴う遺構と自然科学分析の対象とした遺構）・埋甕・埋設土器・溝・遺物集積（遺構の可能性があるものに限定）である。焼土遺構は遺構観察表で必要な属性を記載した。

掲載遺構図のうち、調査区全体図分割図（図178～228）は遺構の掘形の稜線を図示したため、重複関係を示していない。また倒木痕は長めの点線で、調査済みの遺構は掘形の上端線のみを実線で、掘削により消滅した遺構は掘形の上端線のみを短めの点線で、掘形のない焼土遺構の範囲及び掘形の形状が袋状となり地上からは目視できない下端線を一点鎖線で各々表現した。このほか調査のため掘削した試掘坑やトレンチ、石垣構築による段差は法記号を用い、現代の攪乱坑は「Ｔ」字を連続させて表現した。なお長手立て及び小口立てとする礫の位置に▲印、焼土・炭化物・竪穴住居跡の貼床の範囲をスクリーントーンで示したが、石囲炉や焼礫集積遺構などの礫や地山の被熱範囲は図示していない。

原則として、掲載遺構図の縮尺は、竪穴住居跡・掘立柱建物跡及びその関連土坑は１／40（ただし平面図を掲載する場合に限っては１／20）、炉跡・焼土遺構・焼礫集積遺構・配石遺構・立石遺構・土坑・埋甕・埋設土器・遺物集積は１／20とした。

遺構属性の記載内容

本書では次のように定め、個別の遺構の属性を記載した。

１　遺構の平面形は、掘形の上端における形状とした。「円形」（概ね縦：横の比が１：１）・「楕円形」（概ね縦：横の比が１：1.2以上）・「方形」（概ね縦：横の比が１：１）・「長方形」（概ね縦：横の比が１：1.2以上）に分類し、整っていない形状には先頭に各々「不整」を付けた。また上記に当てはまらない形状は「不定形」とし、形状が不明の場合は「不明」とした。

２　遺構の壁面や底面の形状分類は、作業員の掘削精度や遺構図作成の図化精度等に大きく左右されるため、掲載していない。

３　遺構の規模は、掘形の下端値をｍ単位で計測した。ただし、全形が不明の場合には括弧を付けて示した。当遺跡では遺構の重複が著しく、本来想定される遺構検出面からかなり下がった時点で、ようやく遺構を検出できたと考えられるため、掘形の上端値については掲載しなかった。なお掘形の底面で段をもつ場合、下記に述べる埋土Ａと埋土Ｆ又は埋土Ｇの遺構計測方法を図11のとおりとした。深さについては、検出面から最も深い地点までの距離を計測した。

図11　遺構の計測方法模式図

４　遺構の方位は、掘形の上端の長軸方向を座標北から東西に傾く角度を計測した。ただし土坑の軸線上の一方で礫や遺物が集中的に出土する場合は、出土地点に何らかの意味が考えられることから、

その出土地点からの傾きとした。また遺構の平面形が円形又は方形の場合や、遺構の重複により軸線方向を決定できない場合には、計測不能と判断した。

5　埋土の堆積状況については、以下に示すA～G（図12）・不明の8種類に分類した。このうちEについてはA～D・Gと組み合わせて用いたが、埋土が複数層に細分された場合には、埋土全体の傾向として最も当てはまる種類を選択した。

A：単層　B：ほぼ水平な堆積　C：中央がU字状に窪むような堆積　D：一方に偏った堆積

E：ブロック状に土層が入り込む堆積　F：急な立ち上がりが認められる堆積

G：柱痕状の垂直な堆積　不明：堆積状況が不明

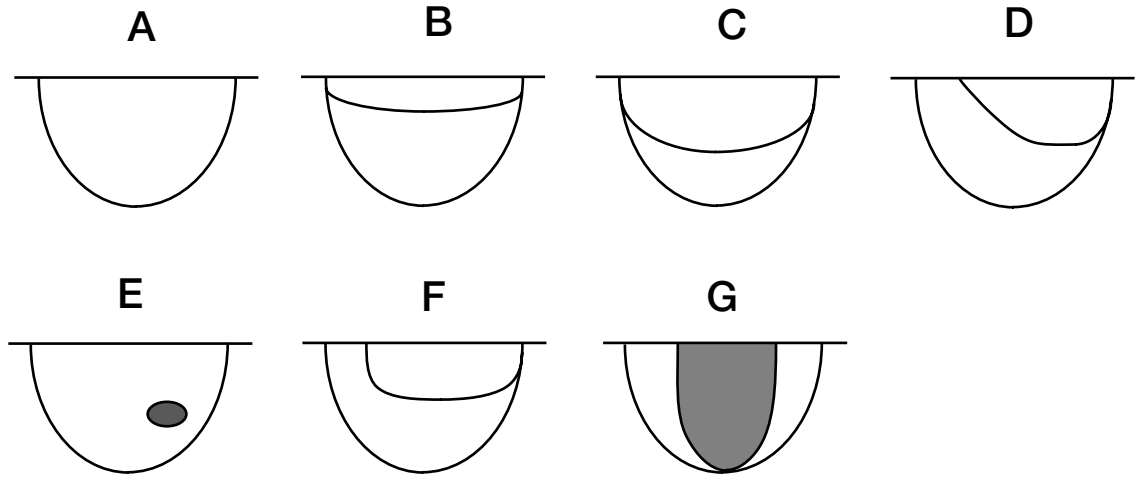


図12　遺構埋土の分類模式図

6　出土遺物については、第2分冊第5章の分類に基づいて記載した。ただし、「遺構編」における縄文土器の内容は分類名とせず、所属時期の区別を示した。

7　所属時期については、竪穴住居跡の時期決定の優先順位は、①埋甕又は炉跡など住居と関連の深い遺構からの出土土器、②柱穴と考えられる遺構からの出土土器、③埋土出土土器の主体とした。ただし③については竪穴が深い住居跡の場合には適切な判断方法ではなく、出土位置が最も重要であることは言うまでもない。一方、土坑など少量の遺物が出土した遺構については、原則として出土遺物のうちで最も新しい時期を遺構の所属時期と判定した。

第２節　第１調査面

第１調査面ではⅤａ層がほぼ全面に広がるが、調査区を東西に横断する現代の石垣の構築により削平され、M 18 グリッドの一部でⅨａ層が露出する。標高ではＰ 13 グリッドが最も高く（約 398.2 m）、ａ 27 グリッドが最も低い（約 396.4 m）。調査区の中央ではほぼ平坦であるが、西端では段丘斜面に伴い西に向かって緩やかに傾斜する。

図 13　第 1 調査面全体図

1　焼土遺構

18 基検出した。このうちの 6 基は、G 19 グリッド周辺（直径約 8 m以内）に集中する。いずれもⅤａ層上面で検出し、焼土は不均質でブロック状に点在し、周囲との区別が不明瞭で、掘形は検出されなかった。礫及び礫の抜き取り痕跡はなく、周辺に柱穴は確認されなかった。

2　配石遺構

ＳＩ１（図 14）

位置　Ｊ 13 グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は長方形を呈し、長辺 0.75 m・短辺 0.47 mを測る。

概要　Ⅴａ層上面で検出した。重複遺構はない。長径 6 ～ 24 ㎝の礫を平置きにする（配石 2 類）。礫

の大半が亜円礫で少量の亜角礫を伴い、被熱した礫を多量に含む。本遺構の東隣でも礫が集中していたが、大半がＶａ層に含まれるため遺構として認定しなかった。なお、本遺構は礫除去後の第３Ｂ調査面で検出した土坑（ＳＫ 1050）の平面位置と一致しないため、両者は関連がなく、下部に土坑を持たないと判断できる。

出土遺物　なし。

ＳＩ２（図 14、図版２）

位置　Ｎ 23 グリッドに位置し、ＳＩ３に隣接する。

形状と規模　平面形は長方形とみられ、長辺 0.80 ｍ・短辺 0.62 ｍを測る。

概要　Ｖａ層上面で検出した。重複遺構はない。礫の集中が東西に分散するため、東をＳＩ３、西をＳＩ２としたが､同一の遺構の可能性もある｡西端の長径15㎝の亜円礫１個(▲)のみを小口立てとし、長径８～ 21 ㎝の礫を平置きにする（配石２類)。なお北端の大型の亜円礫１個は、本遺構及びＳＩ３の礫よりも接地面がやや高い。礫の大半の種類が亜円礫で少量の円礫・亜角礫を伴い、被熱した礫を多量に含む。

出土遺物　埋土から、後期前葉の土器（１）が出土した。ただしＳＩ３と同一遺構と認定する場合には、混入と解釈することになる。

ＳＩ３（図 14、図版２）

位置　Ｎ 23 グリッドに位置し、ＳＩ２に隣接する。

形状と規模　平面形は長方形を呈し、長辺 0.95 ｍ・短辺 0.71 ｍを測る。

概要　Ｖａ層上面で検出した。重複遺構はなし。長径５～ 24 ㎝の礫を平置きにする（配石２類)。礫の大半の種類が亜円礫で少量の円礫・亜角礫を伴い、被熱した礫を多量に含む。

出土遺物　周辺から、後期末の土器（２）が出土した。

ＳＩ４・ＳＫ７（図 14、図版２）

位置　Ｉ 18 グリッドに位置する。

上面配石　Ｖａ層上面で検出した。平面形は不明で、長さ 1.35 ｍを測る。礫の集中は比較的疎で、南北に分散する。長径 16 ～ 47 ㎝の礫を概ね平置きにするが、東南端・中央北寄りの２箇所に各１個の礫を小口立てとする（配石３類)。平置きの礫の上面は概ね北に向かって下がるが、中央の大型礫のみ東に向かって下がる。礫の種類は亜円礫が主体で少量の亜角礫・角礫・円礫が含まれる。これらの中には少量の被熱した礫を含む。

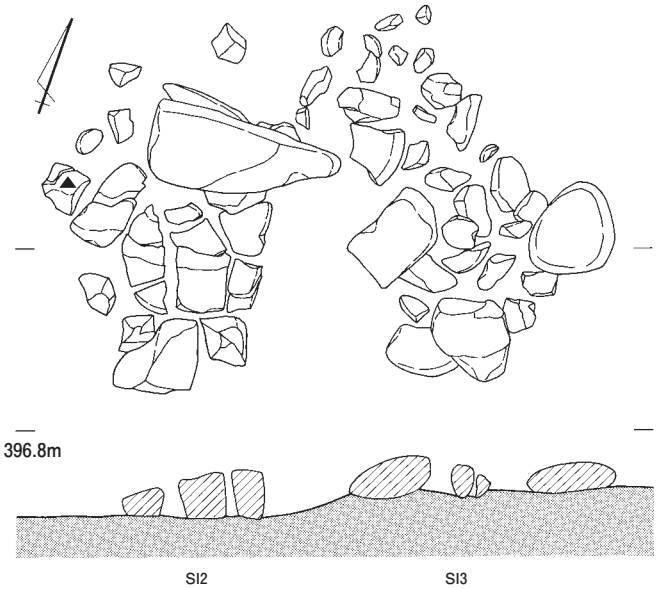
土坑　上面配石を除去後に掘形を検出した。掘形の位置は、上面配石の範囲からやや南にずれる。平面形は不整楕円形で、長径 0.99 ｍ・短径 0.42 ｍ・深さ 0.40 ｍを測る。重複遺構はない。

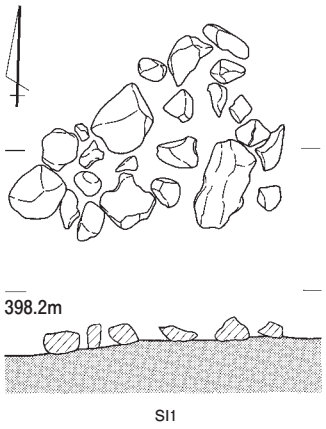
出土遺物　上面配石中から骨片、土坑埋土から後期前葉の土器（４）と石鏃１点、埋土１層から骨片が出土した。

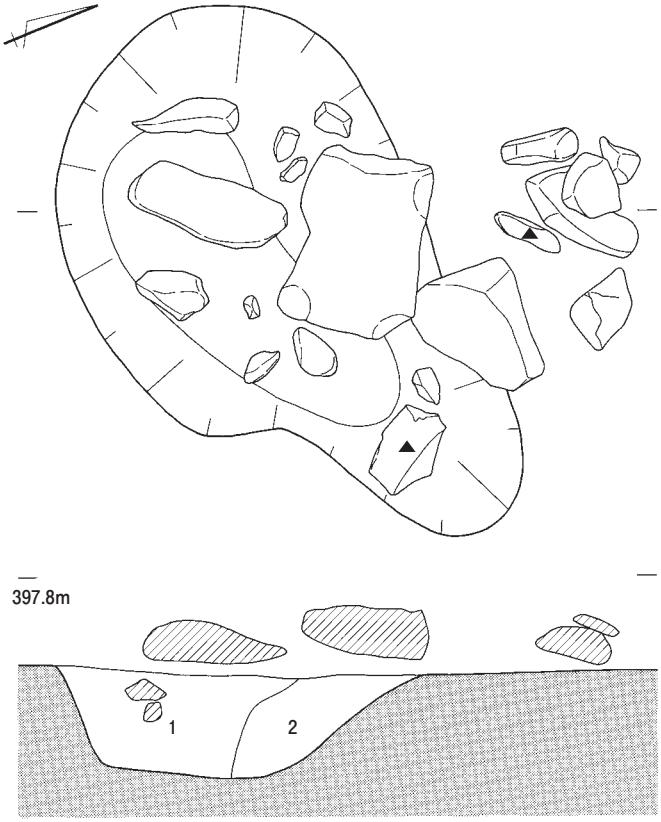
ＳＩ５・ＳＫ 1870（図 14、図版２）

位置　Ｎ 22 グリッドに位置する。

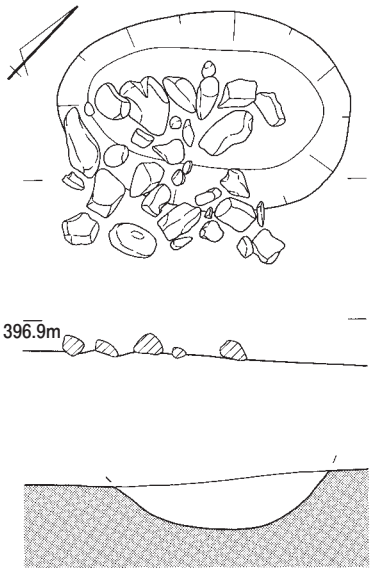
上面配石　Ｖａ層上面で検出した。平面形は長方形を呈し、長辺 0.50 ｍ・短辺 0.47 ｍを測る。長径３～ 19 ㎝の礫を平置きにし､北西端では隣り合う礫の長軸が平行しており小口置きと考えられる（配石１類)。礫の大半の種類が亜円礫で少量の角礫・亜角礫を伴い、被熱した礫を少量含む。



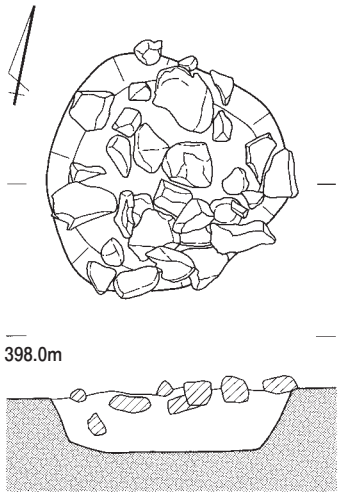




SI4・SK7
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり、礫・炭化物・骨片・黄褐色土(10YR4/3)を含む
2. 暗褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫と炭化物を含む



SI5・SK1870
黒褐色土（7.5YR3/2)、粘性なし、しまりあり



SK11
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりなし、少量の黄褐色土(10YR4/3)粒・多量の礫を含む

図14　第１調査面検出遺構（１）

土坑　礫除去後のＶｂ層基底面で検出した土坑（ＳＫ1870）の平面位置と一致するため、関連が深いと判断した。平面形は長方形を呈し、長辺0.64ｍ・短辺0.32ｍ・深さ0.16ｍを測る。重複遺構はない。

出土遺物　上面配石の南端で磨石・凹石・敲石類（以下「磨・敲石類」と略称）１点が出土した。

３　土坑

Ｕ25グリッド周辺のＳＫ18～20・28～30は、規模・形態・埋土の特徴が他の土坑と大きく異なることから、縄文時代以外の所産の可能性が高い。図示した遺構については、次のとおりである。

ＳＫ３（図15、図版２）

位置　Ｇ18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形を呈し、上端長径1.40ｍ・上端短径1.15ｍ・深さ0.22ｍを測る。

概要　Ｖａ層上面で検出した。重複遺構はない。土坑埋土と周辺のＶａ層の土性が類似しており、掘形の検出に時間を要した。埋土上部の土坑中央南寄りでは、口縁部を欠損する注口土器（18）が正位で出土し、同一レベルで土坑の南壁沿いに多数の礫が検出された（土坑Ｅ類）。礫の大半の種類が亜円礫で多数の亜角礫・円礫と少量の角礫を伴い、少量の被熱した礫を含む。

出土遺物　埋土から、後期前葉・中葉の土器（17）・（18）、石核１点・石鏃１点・楔形石器１点・掻器１点・ＲＦ３点・切目石錘２点、骨片が出土した。なお土器（18）の出土状況から、土器（17）は混入の可能性がある。

ＳＫ４（図16、図版２）

位置　Ｌ13・Ｍ13グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不明で、短径0.83ｍ・深さ0.15ｍを測る。

概要　Ｖａ層上面で検出した。重複遺構はなし。埋土上部で長径５～21㎝の多量の礫が検出された（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は亜円礫が主体で少量の亜角礫・角礫・円礫を伴い、多量の被熱した礫を含む。土坑の底面・壁面に被熱痕跡がなく炭化物が出土しないことから、焼礫集積遺構の可能性は低いと判断した。

出土遺物　埋土から、後期中葉の土器（５）とＲＦ２点が出土した。

ＳＫ６（図16）

位置　Ｑ18・19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形を呈し、長径0.59ｍ・短径0.38ｍ・深さ0.18ｍを測る。

概要　Ｖａ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土上部の土坑東側では礫１個（長径27㎝・短径23㎝・厚さ11㎝）を長手立てとし、西側では長径16㎝の礫を平置きとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

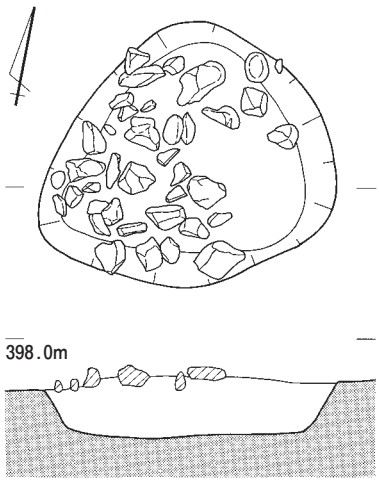
出土遺物　土坑の埋土から、後期末の土器（11）・（12）、ＲＦ１点・切目石錘１点が出土した。

ＳＫ10（図16）

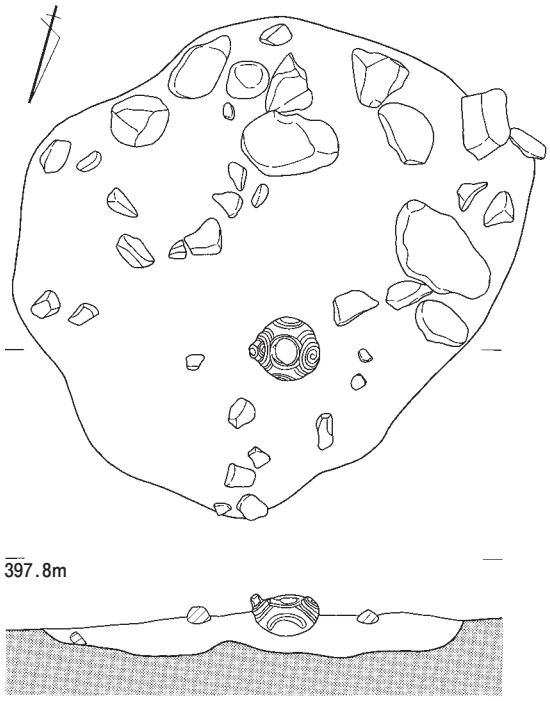
位置　Ｇ17・18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形を呈し、長径0.60ｍ・短径0.28ｍ・深さ0.20ｍを測る。

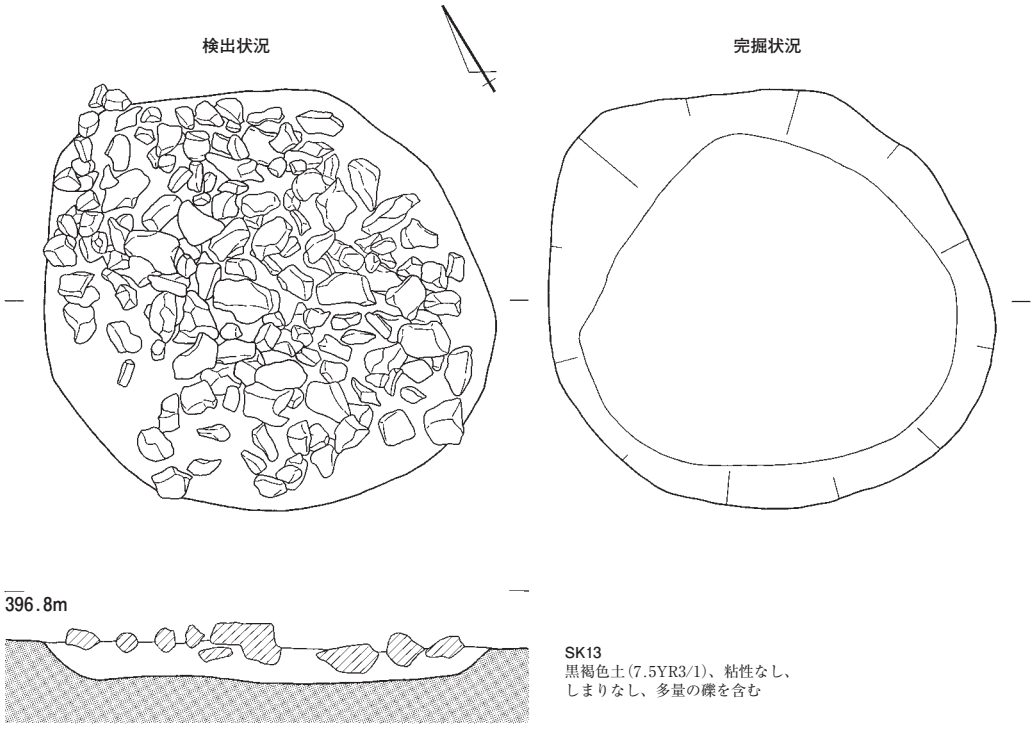
概要　Ｖａ層上面で検出した。重複遺構はない。土坑底面の西壁に沿って長径39㎝の円礫１個を置く（土坑Ｂ２類）。また土坑上面でこれと直行する長径33㎝の礫が平置きで検出され、上面配石の可能性がある。埋土下部で焼土ブロックが観察されたが、底面では被熱の痕跡は認められなかった。



SK12
黒褐色土（10YR2/3）、粘性なし、
しまりなし、礫を含む



SK３
暗褐色土（10YR3/4）、粘性なし、
しまりややあり、礫・炭化物・骨
片を含む



SK13
黒褐色土(7.5YR3/1)、粘性なし、
しまりなし、多量の礫を含む

0　1m

図15　第１調査面検出遺構（２）

出土遺物　埋土から、後期前葉の土器（7）が出土した。

ＳＫ 11（図 14、図版 3）

位置　N 15・M 15 グリッドに位置し、ＳＫ 12 に隣接する。

形状と規模　平面形は不整円形を呈し、長径 0.52 m・短径 0.50 m・深さ 0.34 mを測る。

概要　Ｖａ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土上部で長径 5 ～ 20 ㎝の多量の礫が検出された（土坑Ｄ 1 ｂ類）。礫の円磨度は亜円礫と亜角礫がほぼ同じ割合で少量の角礫と円礫を伴い、少量の被熱した礫を含む。

出土遺物　埋土から、後期中葉又は後葉の土器（3）が出土した。

ＳＫ 12（図 15）

位置　N 15・M 15 グリッドに位置し、ＳＫ 11 に隣接する。

形状と規模　平面形は不定形を呈し、長径 0.65 m・短径 0.57 m・深さ 0.33 mを測る。

概要　Ｖａ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土上部で長径 5 ～ 15 ㎝の多量の礫が検出された（土坑Ｄ 1 ｂ類）。礫の円磨度は亜円礫と亜角礫がほぼ同じ割合で少量の角礫と円礫を伴い、多量の被熱した礫を含む。

出土遺物　埋土から、切目石錘 1 点が出土した。

ＳＫ 13（図 15、図版 3）

位置　R 24・S 24 グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形を呈し、長径 1.00 m・短径 0.86・深さ 0.10 mを測る。

概要　Ｖａ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土上部で長径 5 ～ 20 ㎝の多量の礫が検出された（土坑Ｄ 1 ｂ類）。礫の円磨度は亜円礫・亜角礫がほぼ同じ割合で少量の角礫・円礫を伴い、大半の礫に被熱の痕跡が認められた。ただし土坑の底面・壁面では被熱の痕跡は認められなかった。

出土遺物　なし。

ＳＫ 14（図 16、図版 3）

位置　K 17 グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形を呈し、長径 0.23 m・短径 0.17 m・深さ 0.18 mを測る。

概要　Ｖａ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土上部で長径 16 ～ 31 ㎝の礫 4 個を用いて囲む。東西の 2 個を小口立てとし、南端の 2 個を長手立てとする（土坑Ｂ 2 類）。北西端の礫を欠くが、抜き取りの有無は不明である。礫の大半は円礫で、北東端のみ亜角礫であり、被熱した礫を含む。

出土遺物　埋土から、後期前葉の土器（6）が出土した。

ＳＫ 15（図 16、図版 3）

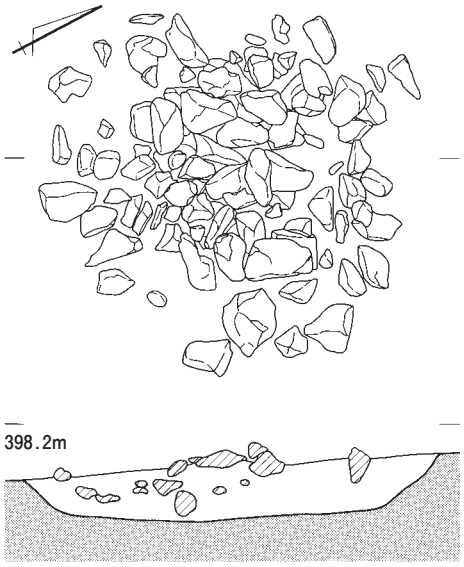
位置　O 23 グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形を呈し、長径 0.61 m・短径 0.51 m・深さ 0.14 mを測る。

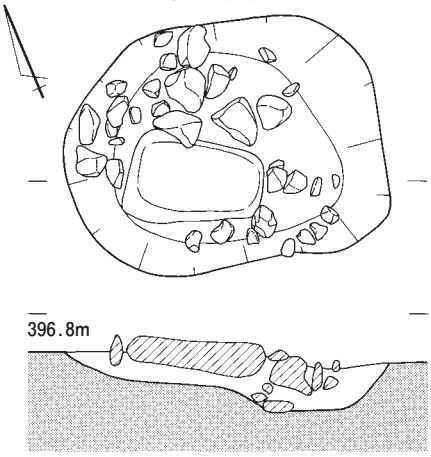
概要　Ｖａ層上面で検出した。重複遺構はない。土坑中央の埋土上部で長径 36 ㎝の礫 1 個が浮上し、その周囲に径 5 ～ 13 ㎝の多量の礫を配置する（土坑Ｄ 2 ｂ類）。礫の円磨度は中央のみ扁平円礫で、周囲は亜円礫と亜角礫がほぼ同じ割合で少量の角礫と円礫を伴い、少量の被熱した礫を含む。

出土遺物　なし。

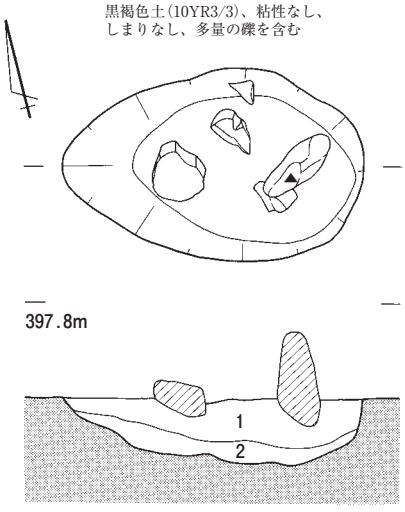
ＳＫ 16（図 16、図版 3）



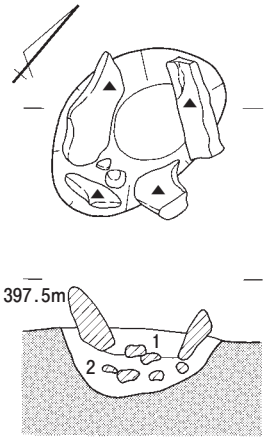
SK 4
黒褐色土(7.5YR3/2)、しまりなし、多量の礫を含む



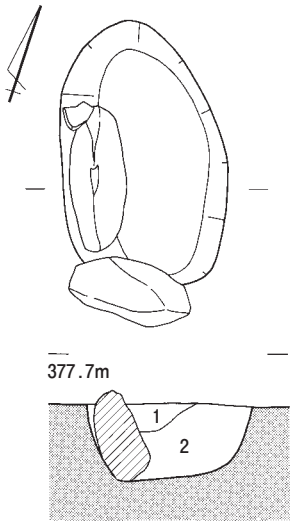
SK15
黒褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む



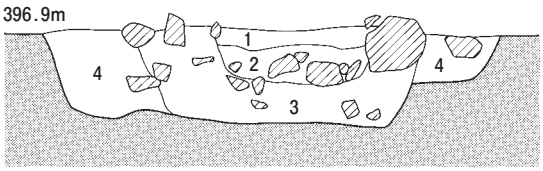
SK6
1. 黒褐色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり



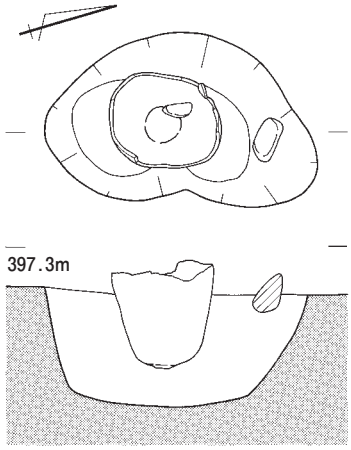
SK14
1. 暗褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、礫･炭化物を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



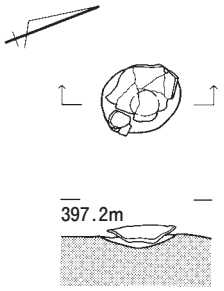
SK10
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし
2. 暗赤褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、黄褐色土(10YR4/3)を含む



SK32
1. 暗赤褐色土(5YR3/4)、粘性なし、しまりややあり、炭化物を含む
2. 暗赤褐色土(5YR3/4)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
3. 暗赤褐色土(5YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫･褐色土を含む
4. 暗赤褐色土(5YR3/2)、粘性なし、しまりなし、少量の礫を含む



SK16
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む



SZ1
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりなし、骨片を含む

図16　第1調査面検出遺構（3）

位置　J19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形を呈し、長径0.47m・短径0.25m・深さ0.30mを測る。

概要　Va～Vb層で検出した。重複遺構はない。埋土上部で、口縁部を欠損し底部が完存する後期後葉の土器（15）が正位で出土した（土坑C1類）。この土器は土坑の底面から浮上し、土器の直径よりも掘形の規模が明確に大きいことから、土坑に埋納されたものと考えられる。

出土遺物　土器（15）のみが出土した。

SK32（図16、図版3）

位置　J21・K21グリッドに位置する。

形状と規模　礫の並ぶ向きに合わせ短軸方向に断ち割ったところ、複数の土坑の立ち上がりが認められ、平面精査でそのプランを検出することはできなかった。短辺0.83m・深さ0.25mを測る。プランの全体を検出することはできなかったため、土坑の長辺と平面形は不明である。

概要　Va層上面で検出した。重複遺構はない。埋土上部で長径5～25cmの礫を小口立て又は平置きとする。礫はほぼ全体にわたって二重に配置され、内側の礫は小口立てで占められ、外側の礫は平置きが多い（土坑B2類）。礫の円磨度は亜円礫と亜角礫が主体で少量の円礫・角礫を伴い、多量の被熱した礫を含む。

出土遺物　埋土から、早期中葉・後期中葉・後期末の土器（8）～（10）・（1434）、石錐1点・RF2点・磨・敲石類2点が出土した。

4　埋設土器

SZ1（図16、図版3）

位置　K18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形を呈し、長径0.22m・短径0.16m・深さ0.07mを測る。

概要　Va層上面で検出した。SK1・SK2を切る。胴部上半を欠損し底部が完存する、後期中葉の土器（16）が正位で出土した。平面精査では掘形を検出することができなかったが、その規模は土器の残存径とほぼ同じとみられる。

出土遺物　埋土から、石鏃1点と骨片が出土した。

第３節　第２調査面

第２調査面ではＶｂ層がほぼ全面に広がるが、M18グリッドの一部とＪ18グリッド周辺では、Ｖｂ層が欠落してⅨａ層がすでに露出している。標高ではＰ13グリッドが最も高く（約398.2m）、ａ27グリッドが最も低い（約396.3m）。当調査面の形状は、第１調査面と概ね同様である。

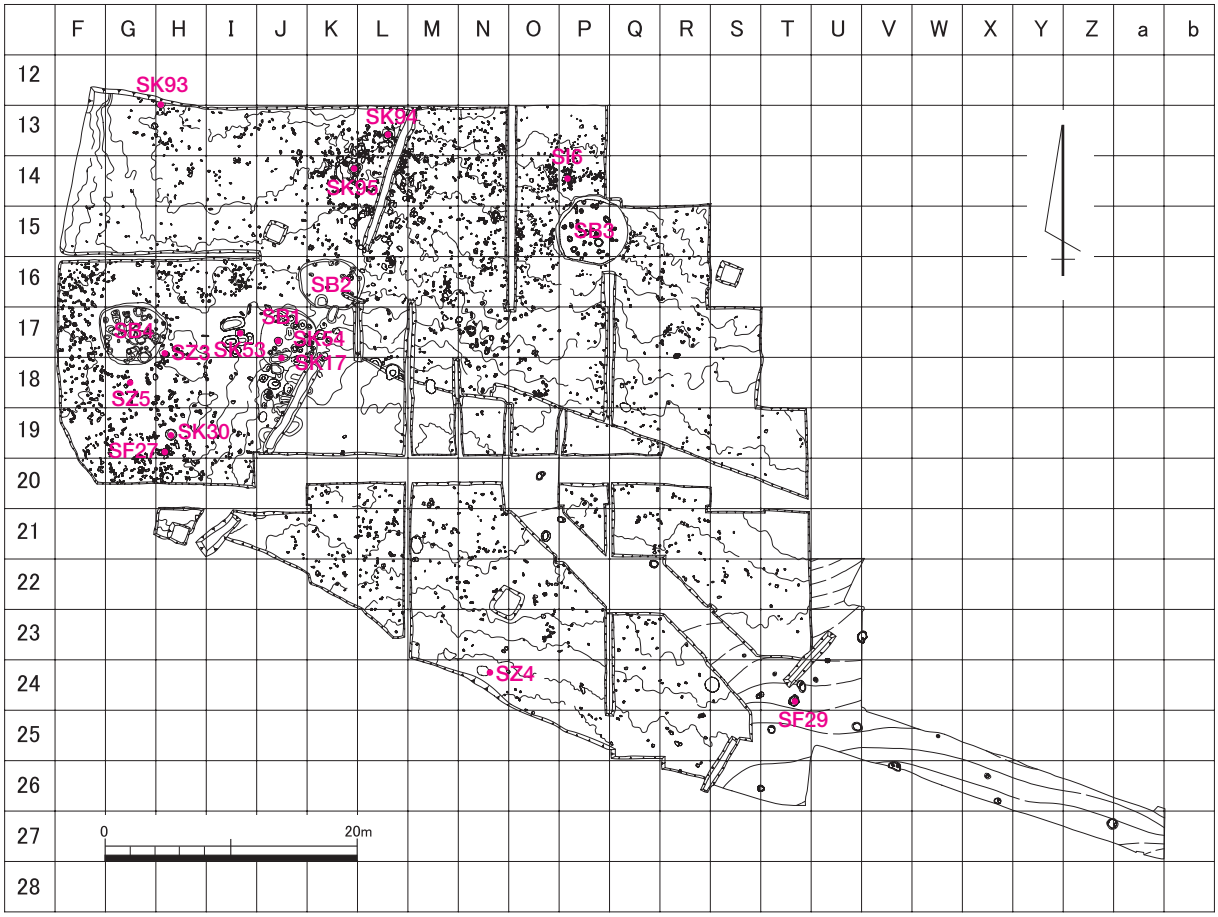


図17　第２調査面全体図

１　竪穴住居跡

ＳＢ１（現場名ＳＸ２、図18・19、図版４）

位置　Ｊ17・Ｊ18・Ｋ17・Ｋ18グリッドに位置する。

検出状況　Ｖａ層上面で検出した。ＳＫ55・59に切られる。竪穴の南側の埋土は周辺の土色と酷似していたため、竪穴の範囲は不明瞭であった。埋土は２層に分けられ、亜円礫が多く含まれた。土層は水平に堆積する。

形状と規模　平面形は円形を指向していると考えられる。長径4.96m・短径4.49m・深さ0.30m・床面積推定17.40㎡を測る。

壁・床面の状況　北壁は明瞭に立ち上がる。貼床や硬化面は確認できず、Ⅸａ層上面で遺構を検出したため検出面は凹凸が著しく、竪穴の掘形に達した可能性がある。全体の形状としては、竪穴の中央がやや窪む。

施設　竪穴の内部で、22基の遺構を検出した。柱穴は５基（Ｐ２・７・９・20・21）が想定できる。

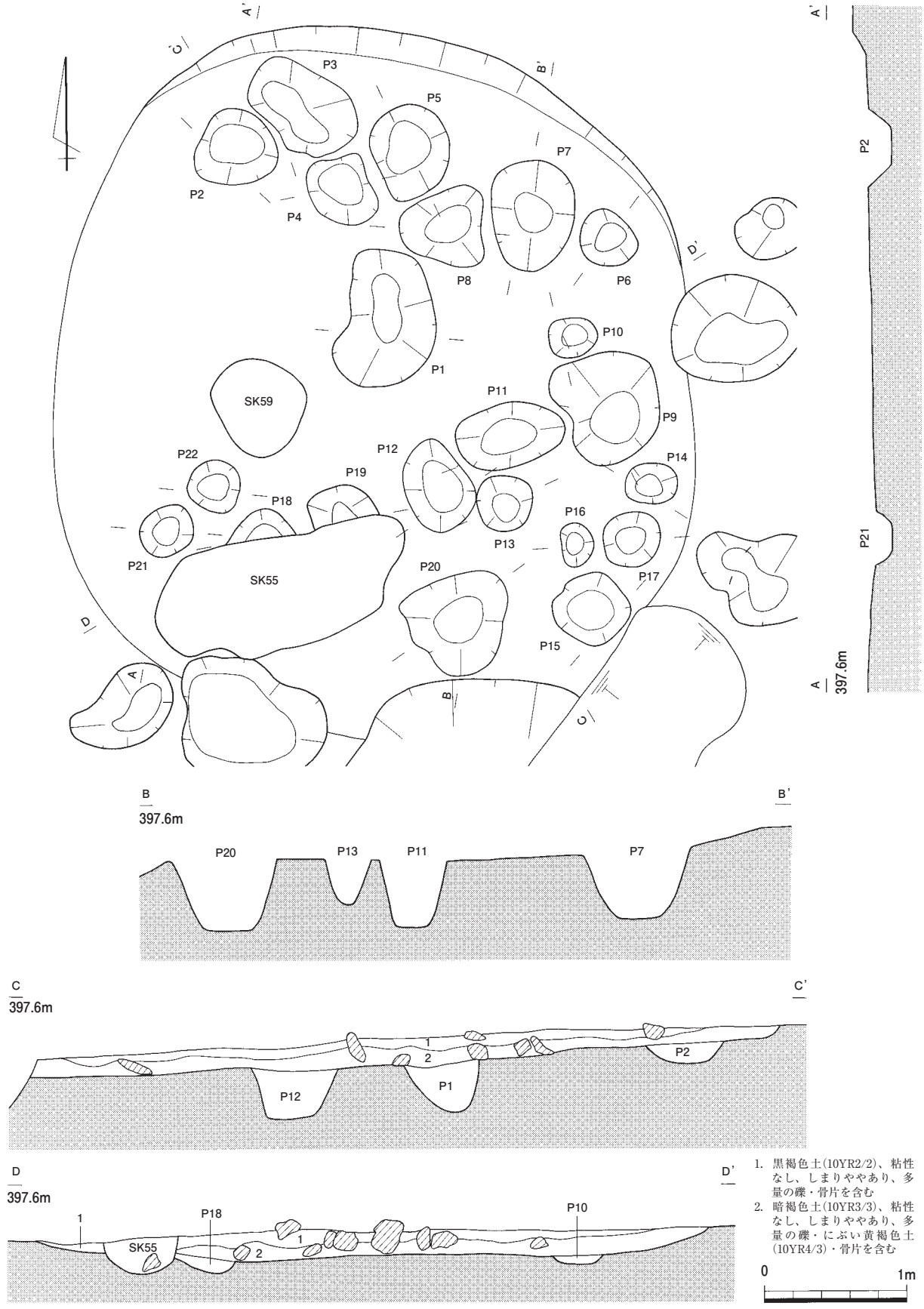
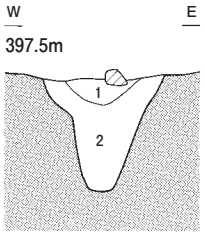
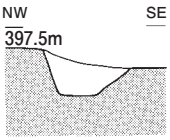

A'
C'
B'
D'
P3
P5
P7
P2
P4
P8
P6
P10
P1
SK59
P11
P9
P22
P12
P14
P19
P18
P16
P13
P21
SK55
P20
P17
P15
D
A
B
C
A'
P2
P21
A
397.6m
B
397.6m
B'
P20
P13
P11
P7
C
397.6m
C'
1
2
P2
P12
P1
D
397.6m
D'
1
P18
P10
SK55
1
2
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫・骨片を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫・にぶい黄褐色土(10YR4/3)・骨片を含む
0
1m

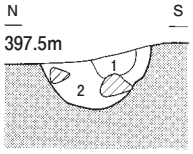
図18　SB 1 遺構図（1）



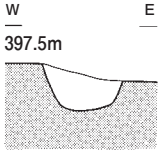
P1
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりなし、礫･炭化物を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



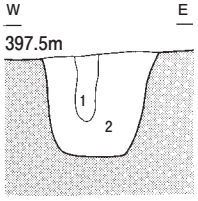
P2
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



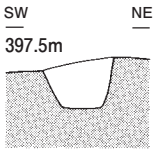
P3
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



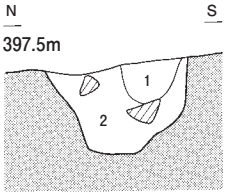
P4
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



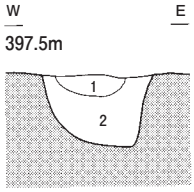
P5
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫･少量の褐色土(Ⅸb層･10YR4/5)を含む



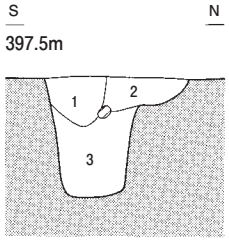
P6
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり礫を含む



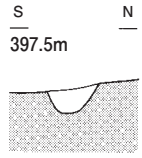
P7
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性あり、しまりややあり
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



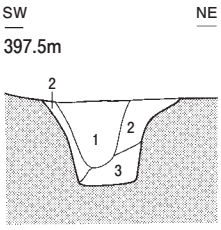
P8
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性ややあり、しまりややあり
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、少量の礫・褐色土(10YR4/4)を含む



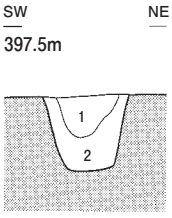
P9
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫･炭化物･骨片を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり、礫を含む
3. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む



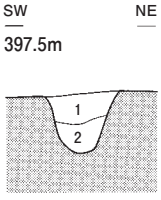
P10
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



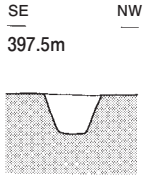
P11
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりやや り、褐色土(10YR4/4)･骨片を含む



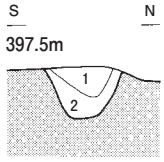
P12
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、少量の褐色土(10YR4/4)を含む



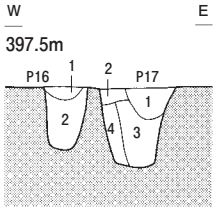
P13
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫･褐色土(10YR4/4)を含む



P14
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし

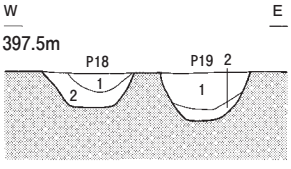


P15
1. 黒褐色土(10YR2/3)、しまりなし、少量の礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、しまりややあり、多量の礫を含む



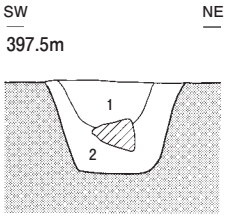
P16
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、褐色土を含む

P17
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性ややあり、しまりなし、礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、多量の黄褐色砂礫を含む
3. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、少量の黄褐色土を含む
4. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、多量の黄褐色土を含む

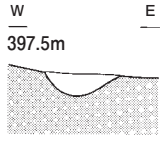


P18
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、褐色砂礫(10YR4/4)を含む

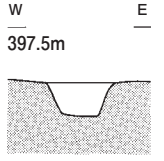
P19
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり、褐色砂礫(10YR4/4)を含む



P20
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫･骨片を含む



P21
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし



P22
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし

図19　SB１遺構図（２）

これらはＰ２・21の中点とＰ９を結ぶ線を軸にして、Ｐ20・21とＰ２・７が左右対称に位置する。他にも柱穴とみられる遺構は多く認められるが、判然としない。炉跡は検出されなかった。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物・骨片が散在的に出土した。土器は中期後葉から後期末（39～41）まで認められるが、後期後葉の土器の破片が大きい。、石器は、石鏃５点・石錐１点・ノッチドスクレイパー１点・楔形石器１点・ＲＦ１点・打製石斧１点・磨・敲石類１点・切目石錘４点が出土した。

所属時期　Ｐ９から後期中葉の土器（65）と後期後葉の土器（62）が出土している。このことから、本遺構の所属時期は後期後葉井口２式期であると判断できるが、埋土出土土器に後期中葉に遡る土器も多く、立て替えの可能性を示唆する。

ＳＢ２（現場名ＳＸ３、図20・21、図版５）

位置　Ｊ16～Ｌ16、Ｋ17グリッドに位置する。

検出状況　Ｖａ層上面で検出した。本遺構の南側ではＳＫ66・71と重複するが、現地調査で重複関係を明らかにすることはできなかった。埋土は単層で、多数の亜円礫が含まれた。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径4.51m・短径3.63m・深さ0.50m・床面積14.35㎡以上を測る。

壁・床面の状況　南壁はわずかに立ち上がるが他は明瞭である。貼床や硬化面は確認できず、Ⅸａ層上面で遺構を検出したため、検出面は凹凸が著しく竪穴の掘形に達した可能性がある。全体の形状としてはほぼ平坦である。

施設　竪穴の内部で、14基の遺構を検出した。柱穴は４基（Ｐ24・26・29・36）が想定できる。これらはＰ24・26の中点とＰ29・36の中点を結ぶ線を軸として、Ｐ24・36とＰ26・29がほぼ左右対称に位置する。この軸線と直交する延長線上にＰ27・33が壁に接して対に位置していることから、出入口施設の痕跡の可能性がある。炉跡は検出されなかった。

出土遺物　竪穴埋土から、縄文土器・石器・骨片が散在的に出土した。土器は、中期中葉から後期後葉（72）まで認められる。石器は、石鏃10点・削器１点・ＲＦ６点・ＵＦ１点・磨・敲石類２点・打欠石錘１点・切目石錘４点・磨製石斧１点が出土した。

所属時期　埋土出土土器の主体から、後期中葉井口１式期と判断する。

ＳＢ３（現場名ＳＸ４、図22～24、図版５）

位置　Ｐ15グリッドに位置する。ＳＢ16（第３Ｂ調査面）の北東に位置する。

検出状況　Ｖｂ層上面で検出した。周辺遺構との重複はない。竪穴の東側の埋土は周辺の土色と酷似していたため、竪穴の範囲は不明瞭である。埋土は３層に分けられ、亜円礫が多く含まれた。土層は水平に堆積する。

形状と規模　平面形は円形を指向していると考えられる。長径5.42m以上・短径4.95m・深さ0.25m・床面積推定22.25㎡を測る。

壁・床面の状況　東壁を除き、他は比較的緩やかに立ち上がる。貼床や硬化面は確認されなかった。全体の形状としては、竪穴の南側がやや窪む。

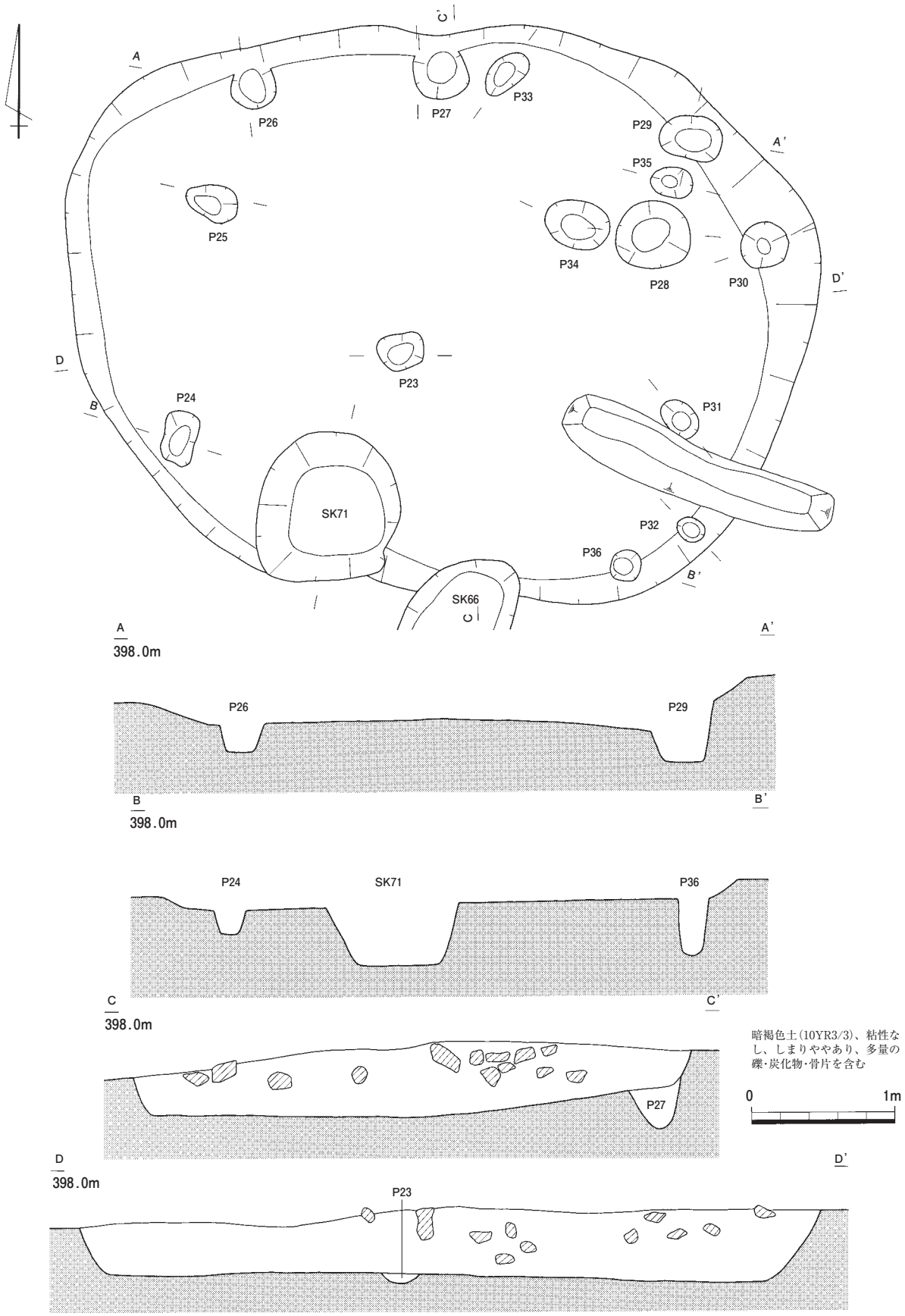

A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
P23
P24
P25
P26
P27
P28
P29
P30
P31
P32
P33
P34
P35
P36
SK71
SK66
398.0m
398.0m
398.0m
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫・炭化物・骨片を含む
0
1m

図20　SB 2 遺構図（1）

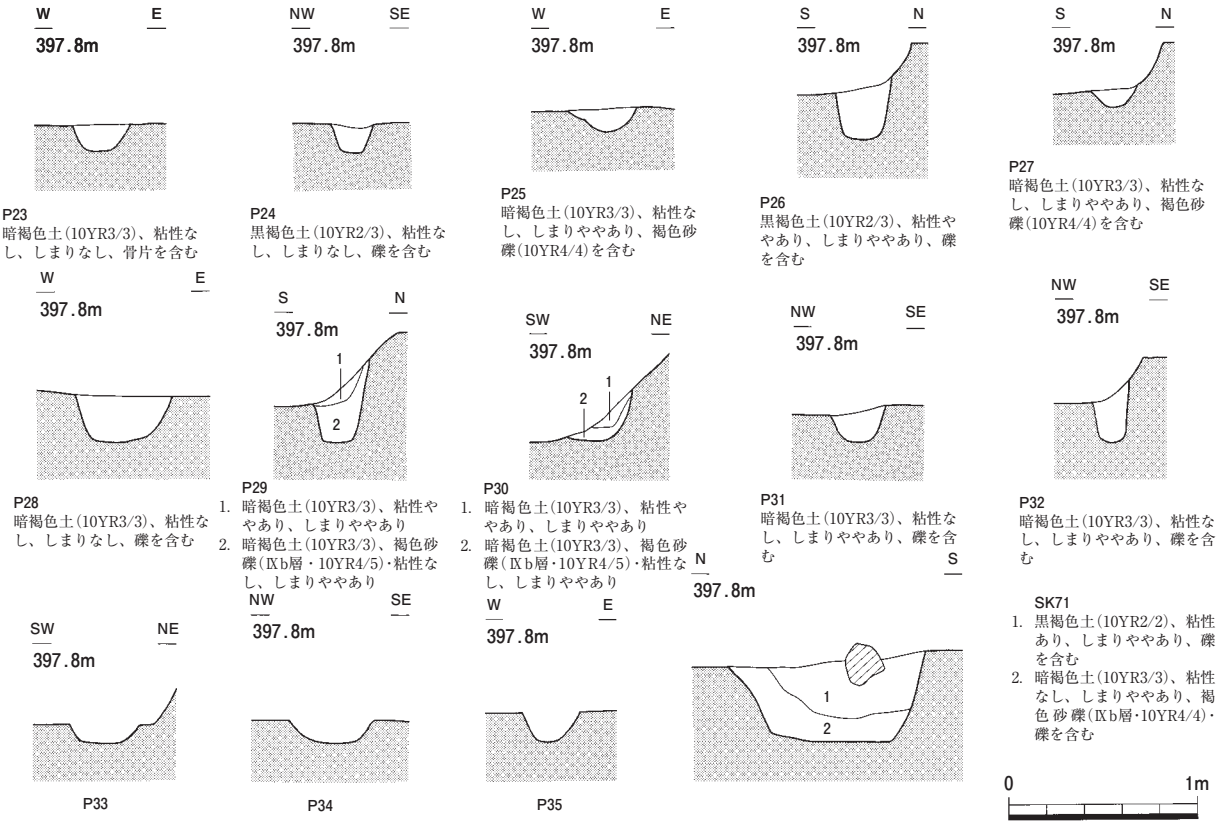


図21　SB2遺構図（2）

施設　竪穴の内部で、38基の遺構を検出した。柱穴は6基（P38・40・44・47・56・69）が想定できる（柱配置1）。P40・47を結ぶ線を軸としてP38・69とP56・44がほぼ左右対称に位置する。これとは別に6基（P39・42・43・45・51・70）が想定できる（柱配置2）。P43・51を結ぶ線を軸としてP39・42とP45・70がほぼ左右対称に位置する。現地調査ではP39（柱配置2）がP38（柱配置1）を切るということを確認したため、柱配置1が柱配置2に先行することは明白である。また6基（P41・46・50・53・58・63）も想定できる（柱配置3）。竪穴中央のP63を中心にして5基（P41・46・50・53・58）を放射状に配置する。炉跡は地床炉2基（SF19・SF20）が検出された。SF19は掘形の有無が不明であるが、SF20は掘形を持ち底面では被熱痕跡が認められなかった。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物・骨片が散在的に出土した。土器は、中期中葉（80）から後期初頭（111）まで認められるが、主体は中期後葉である。石器は、石核1点・石鏃10点・石錐7点・石匙1点・掻器3点・ノッチドスクレイパー1点・RF21点・UF12点・打製石斧1点・磨・敲石類1点・打欠石錘6点・切目石錘20点・磨製石斧2点・石皿1点・石棒1点が出土した。

所属時期　隣接する第3B調査面のSB15よりも検出面が高いが、出土遺物の全てが竪穴住居周辺のVb層からの混入と推測するには、あまりに時期差が認められない。このことから中期後葉（第3段階）と判断する。

SB4（現場名SX6、図25～27、図版6）

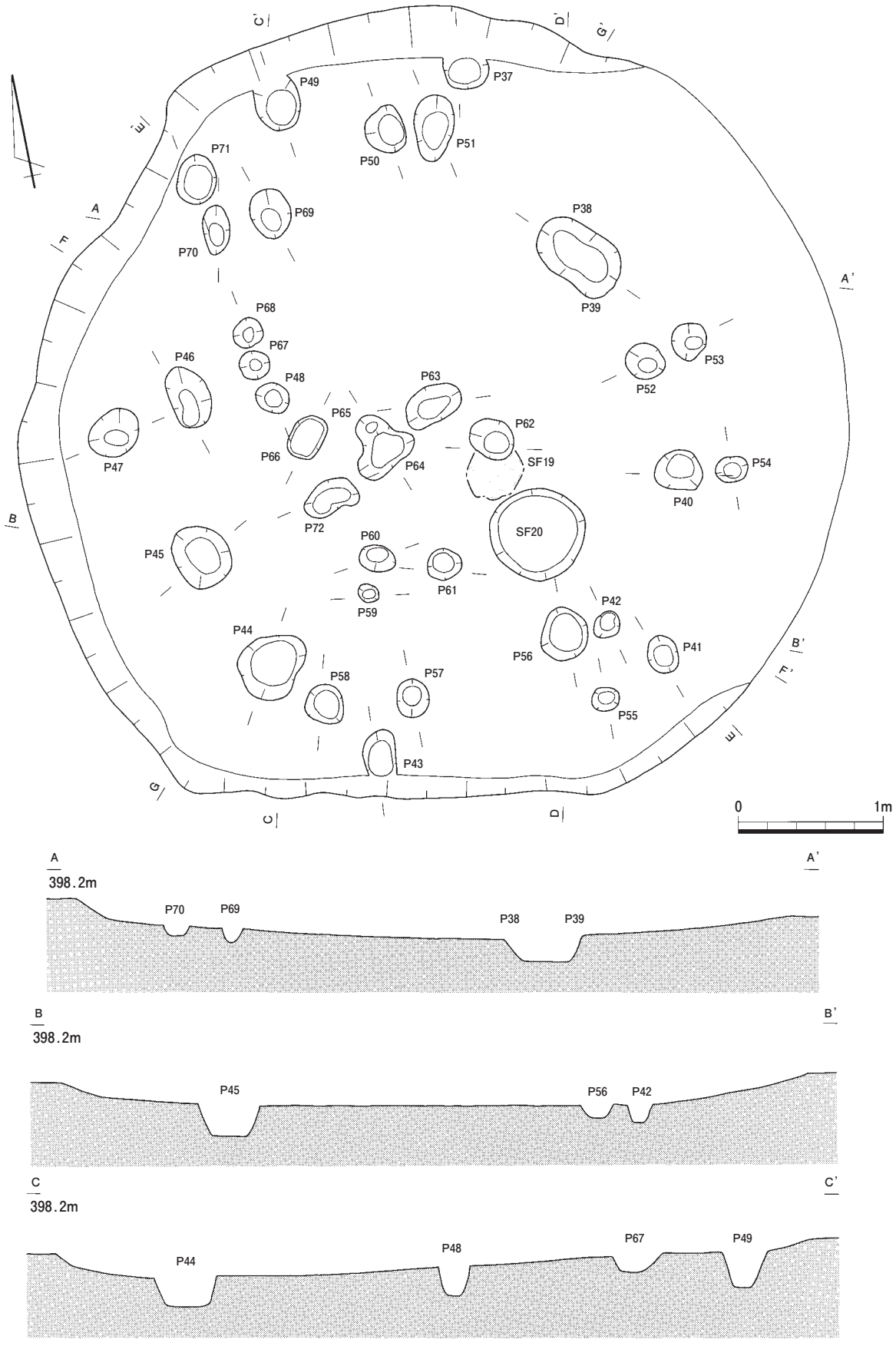

P49
P37
P50
P51
P71
P69
P70
P38
P39
P68
P67
P46
P48
P63
P53
P52
P65
P62
P47
P66
P64
SF19
P54
P40
P72
SF20
P45
P60
P61
P59
P42
P44
P56
P41
P58
P57
P55
P43
0
1m
A
A'
398.2m
P70
P69
P38
P39
B
B'
398.2m
P45
P56
P42
C
C'
398.2m
P44
P48
P67
P49

図22　SB3遺構図（1）

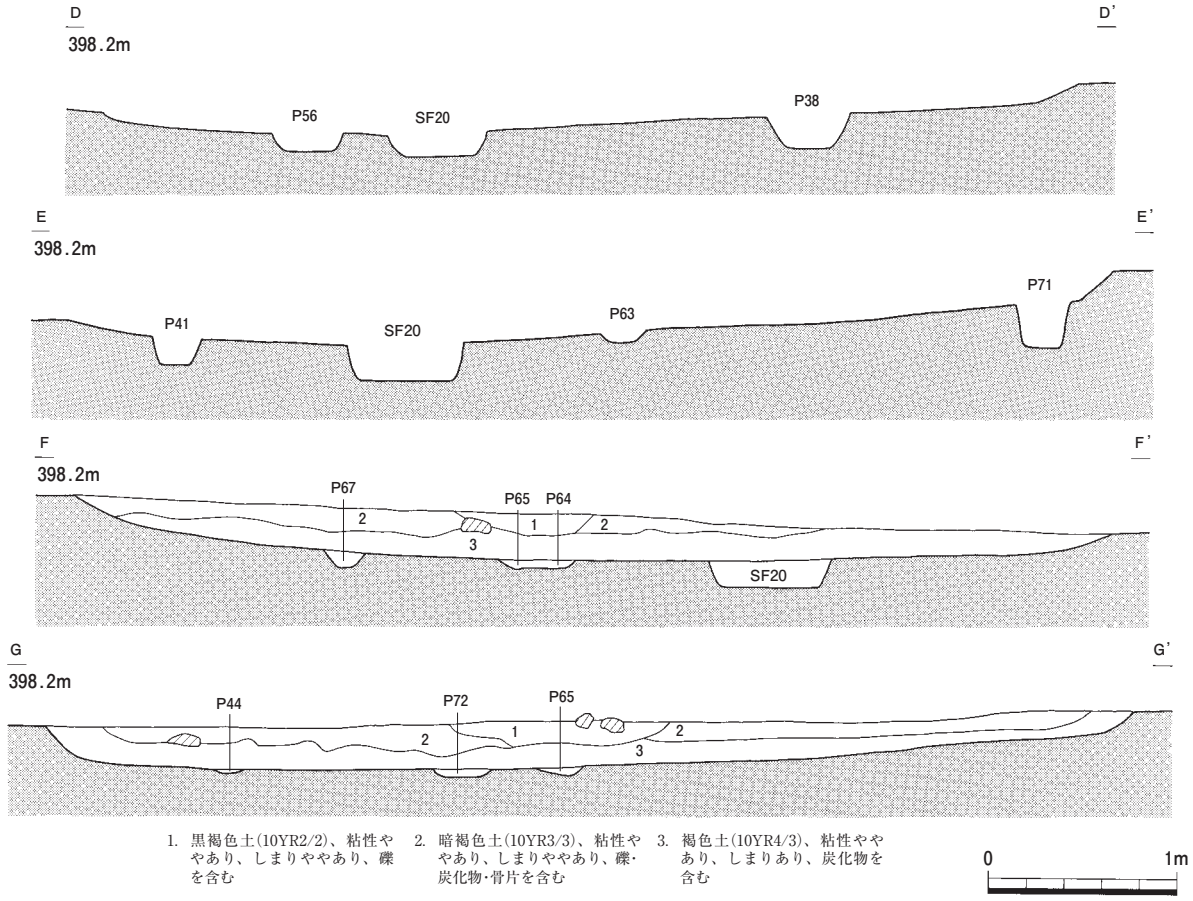


図23　ＳＢ３遺構図（２）

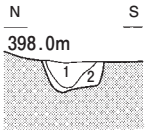
位置　G17グリッドに位置する。

検出状況　Ｖａ層中からＶｂ層基底面で検出した。埋土は暗褐色土で２層に分けられ、亜円礫が多く含まれた。土層は水平に堆積する。本遺構の調査が平成10年度に一時中断して平成13年度に再開するまでに掘形が流失したため、平成９年度にＶａ層中で検出した竪穴の平面図と、平成13年度にＶｂ層基底面で検出した竪穴内部の遺構の平面図を合成した。よって竪穴と周辺遺構との重複関係は不明である。竪穴埋土出土土器の主体は後期前葉で占められるが、中期後葉のＳＺ２（図27、図版６）を埋土上部で検出していることとから、本竪穴は浅いためにほぼ同一面で複数時期の遺構を検出したことが推測される。

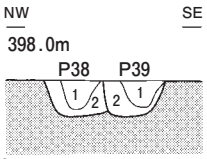
形状と規模　平面形は円形を指向していると考えられる。長径5.42m以上・短径4.95m以上・床面積推定17.55㎡を測る。

壁・床面の状況　壁の状況については不明である。貼床や硬化面は確認できず、Ⅸａ又はⅨｂ層上面で遺構を検出したため、検出面は凹凸が著しく竪穴の掘形に達した可能性が高い。全体の形状としてはほぼ平坦である。

施設　竪穴の内部で51基の遺構を検出した。柱穴は４基（Ｐ83・95・102・108）が想定できる（柱配置１）。柱配置は不規則である。Ｐ83・95・108の土層堆積状況は遺構の重複の可能性を示唆しており、ほぼ同様な柱配置で４基（Ｐ103・83・95・108）を想定することができる（柱配置２）。現地調

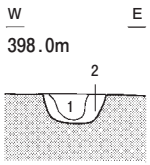


P37
1. 暗褐色土、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 暗褐色土、粘性あり、しまりややあり

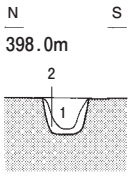


P38
1. 暗褐色土、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 暗褐色土、粘性あり、しまりややあり

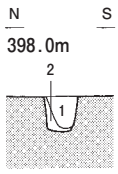
P39
1. 暗褐色土、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 暗褐色土、粘性あり、しまりややあり



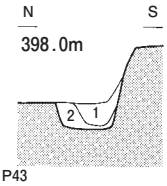
P40
1. 暗褐色土、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 暗褐色土、粘性あり、しまりややあり



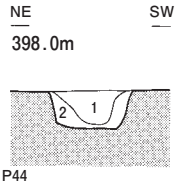
P41
1. 暗褐色土、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 暗褐色土、粘性あり、しまりややあり



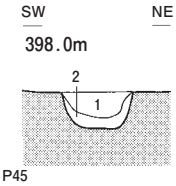
P42
1. 暗褐色土、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 暗褐色土、粘性あり、しまりややあり



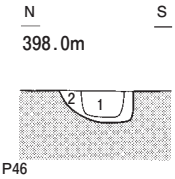
P43
1. 暗褐色土、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 暗褐色土、粘性あり、しまりややあり



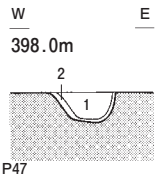
P44
1. 暗褐色土、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 暗褐色土、粘性あり、しまりややあり



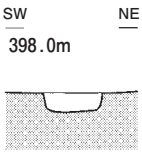
P45
1. 暗褐色土、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 暗褐色土、粘性あり、しまりややあり



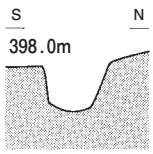
P46
1. 暗褐色土、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 暗褐色土、粘性あり、しまりややあり



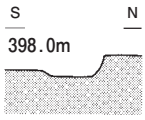
P47
1. 黒褐色土、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 暗褐色土、粘性あり、しまりややあり



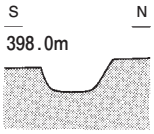
P48
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を少量含む



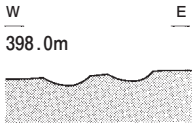
P49



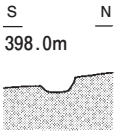
P50



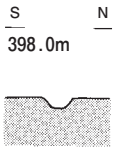
P51



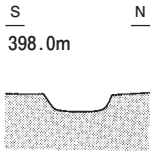
P52　P53



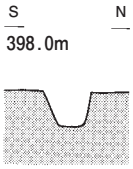
P54



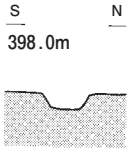
P55



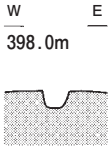
P56



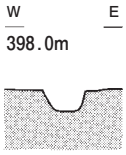
P57



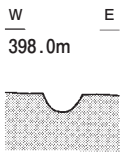
P58



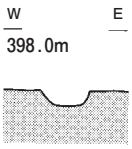
P59



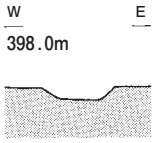
P60



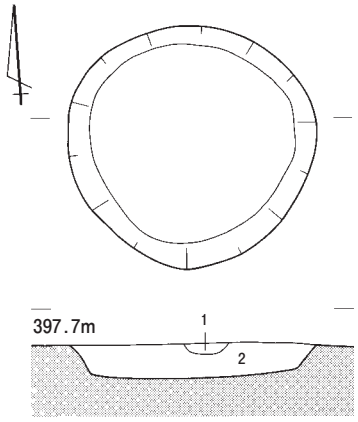
P61

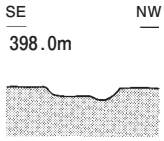


P62

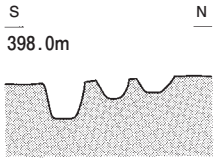


P63

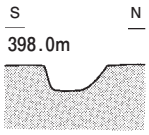




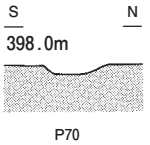
P64　P65



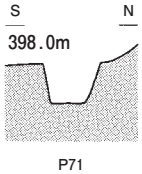
P66　P67　P68



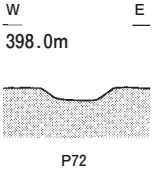
P69



P70



P71



P72

SF20
1. 赤褐色土(5YR4/8、焼土ブロック)、粘性なし、しまりややあり
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

図24　SB 3 遺構図（3）

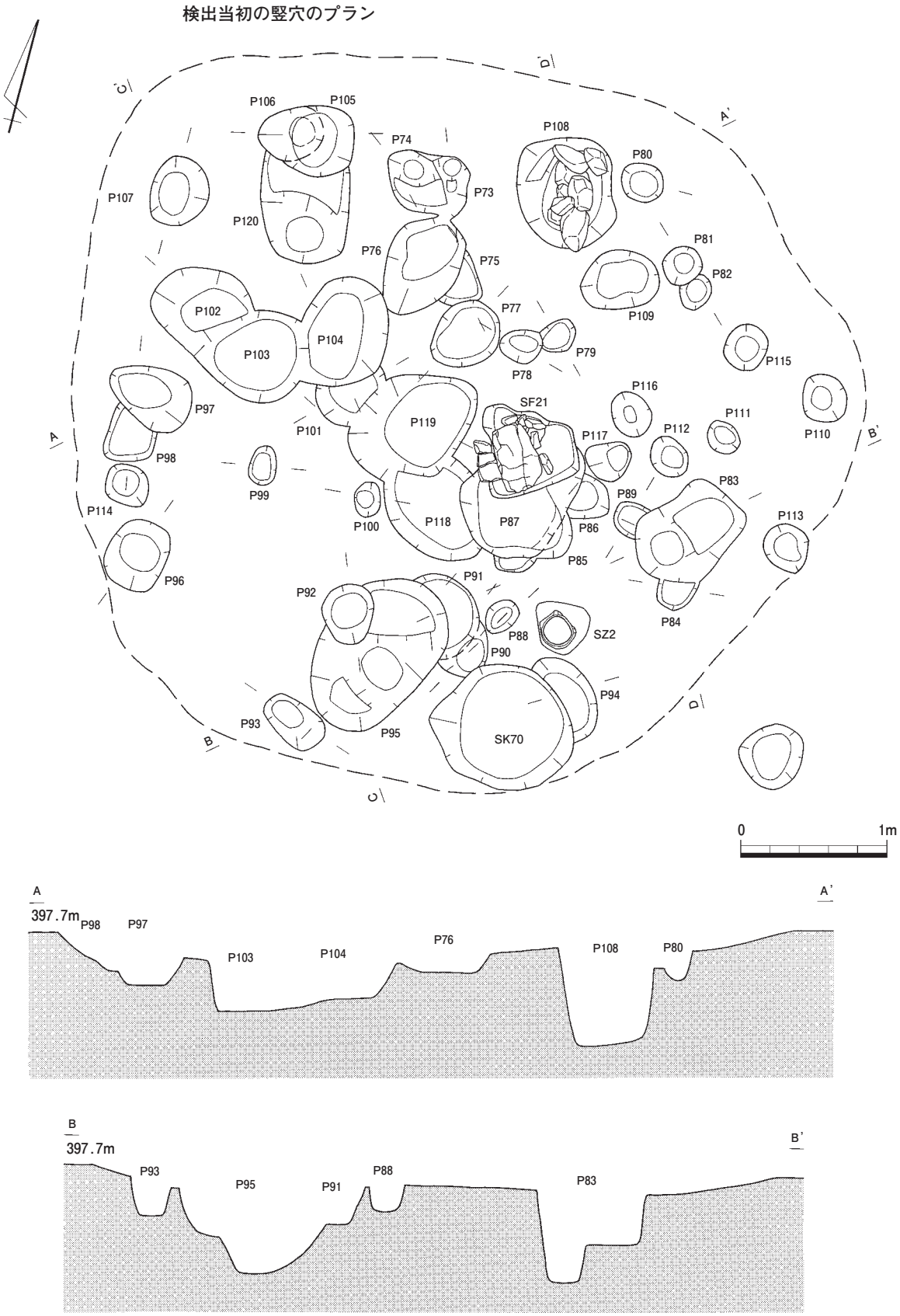
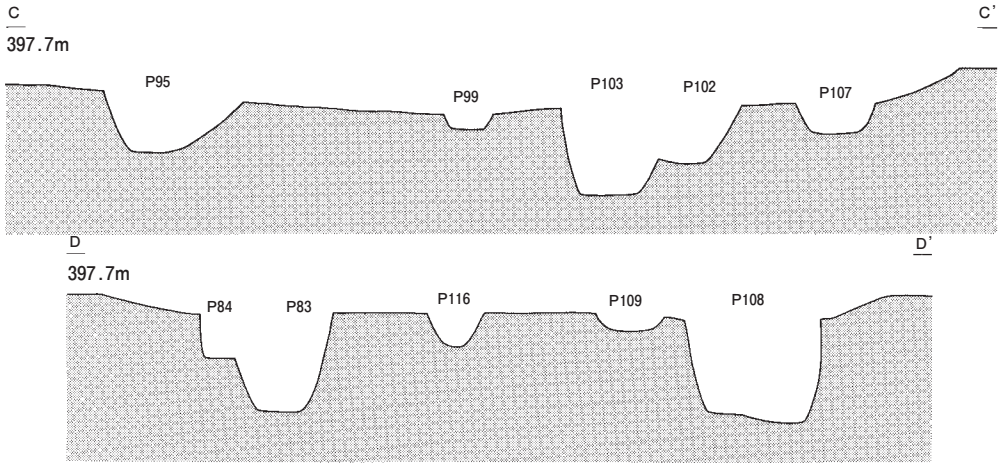
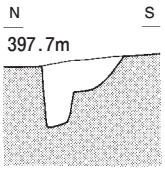
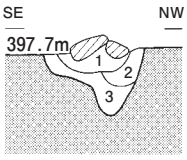

検出当初の竪穴のプラン
P106
P105
P74
P108
P80
P107
P73
P120
P81
P76
P75
P82
P102
P77
P109
P104
P103
P79
P115
P78
P116
P97
SF21
P111
P119
P101
P117
P112
P110
P98
P83
P99
P89
P114
P100
P118
P87
P86
P113
P85
P96
P91
P92
P84
P88
SZ2
P90
P94
P93
P95
SK70
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
0
1m
397.7m
P98
P97
P103
P104
P76
P108
P80
397.7m
P93
P95
P91
P88
P83

図25　SB 4 遺構図（1）

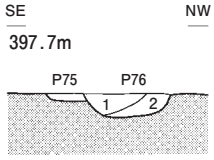




P73
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む

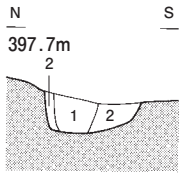


P74
1. 黒色土 (10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)ブロックを含む
3. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、多量の褐色土 (Ⅸb層・10YR4/5)ブロック・炭化物を含む

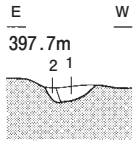


P75
黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりあり、多量の褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む

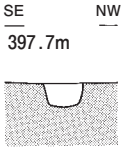
P76
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の礫・褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)粒を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)



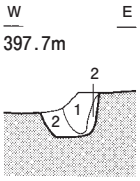
P77
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
2. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む



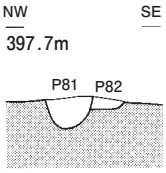
P78
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりあり、褐色土(Ⅸb層・10YR4/5) 粒・少量の炭化物を含む
2. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりあり



P79
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む

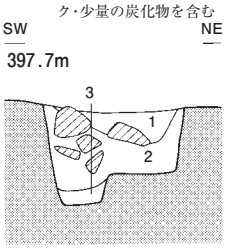


P80
1. 黒色土(2.5YR1/2)、粘性なし、しまりややあり
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりあり、褐色土(Ⅸb層・10YR4/5) ブロックを含む

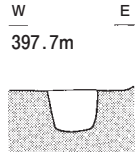


P81
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む

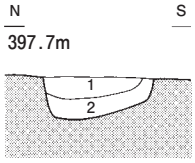
P82
黒褐色土(10YR3/1)、粘性なし、しまりあり、多量の褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)ブロックを含む



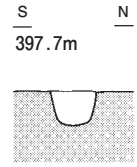
P83
1. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫・褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
3. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり



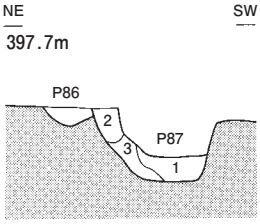
P89
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり



P85
1. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)ブロック・炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり、褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)ブロックを含む

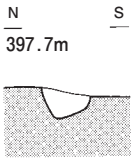


P89
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む

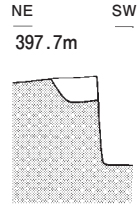


P86
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)ブロック・少量の炭化物・骨片を含む

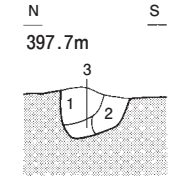
P87
1. 黒褐色土(10YR3/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫・褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)粒を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、多量の褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)ブロックを含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり



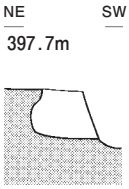
P88
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む



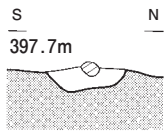
P94
黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む



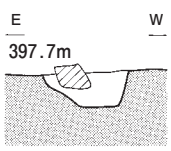
P90
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり
2. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりあり、褐色土 (Ⅸb層・10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、多量の褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)粒を含む



P91
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりあり、褐色土 (Ⅸb層・10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む

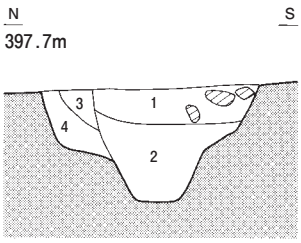


P92
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫・褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)粒を含む

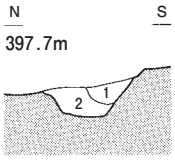


P93
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む

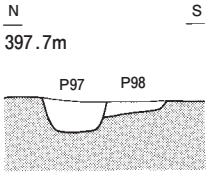
図26　SB 4 遺構図（2）



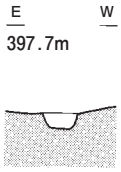
P95
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりあり、礫・褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)ブロックを含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫を少量含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)ブロックを含む
4. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり



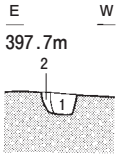
P96
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
2. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり



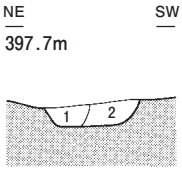
P97
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
P98
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり



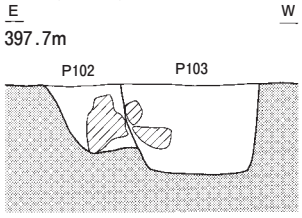
P99
黒色土(10YR2/1)、粘性なし



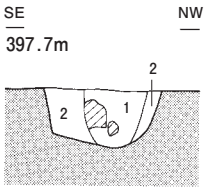
P100
1. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりあり、褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)ブロックを含む



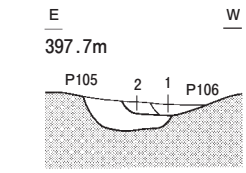
P101
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり
2. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりあり、多量の褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)ブロックを含む



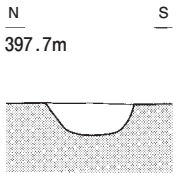
P102
暗褐色土(10YR3/3)、褐色土(10YR4/4)を含む、粘性ややあり、しまりややあり
P103
暗褐色土(10YR3/3)、粘性ややあり、しまりややあり、多量の礫を含む



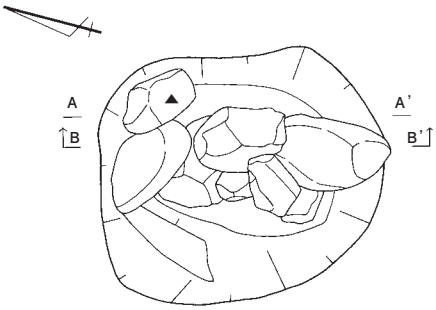
P104
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性ややあり、しまりややあり、多量の礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性ややあり、しまりややあり

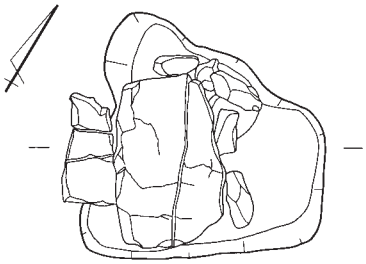


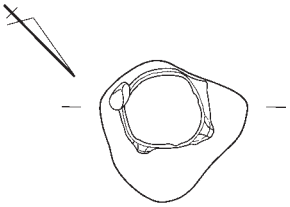
P105
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり
P106
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり
2. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりあり、褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)粒・少量の炭化物を含む

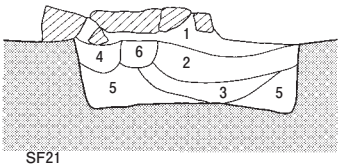


P107
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫を少量含む

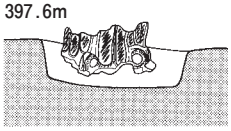




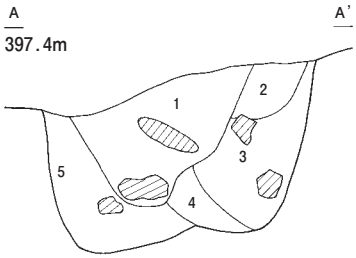


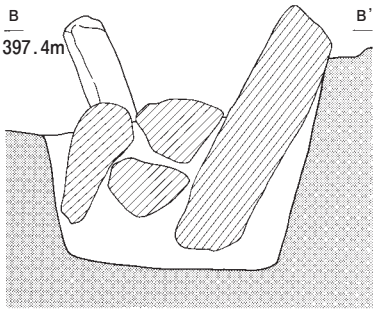


SF21
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、多量の焼土粒・少量の炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)粒・少量の炭化物を含む
4. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり
5. 暗赤褐色土(5YR3/4、焼土)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
6. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、多量の褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)粒・少量の炭化物を含む



SZ2
暗褐色土(10YR3/3)、粘性ややあり、しまりややあり





P108
1. 黒褐色土(2.5Y3/2)、粘性なし、しまりややあり、礫・骨片・褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む
2. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、少量の礫を含む
3. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性ややあり、しまりあり、礫・褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む
4. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、多量の褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)ブロックを含む
5. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫・褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む

図27　SB 4 遺構図（3）

査ではＰ103（柱配置２）がＰ102（柱配置１）を切るということを確認したため、柱配置１が柱配置２に先行することは明白である。炉跡ＳＦ21は竪穴の中央東寄りに位置する。掘形の底面には被熱痕跡がないが、埋土中に焼土やⅨｂ層ブロックが確認されたことから、廃絶時に埋め戻され上部に礫を配置したと推測できる。なおＰ87は埋土に共通の特徴があることから、ＳＦ21に先行する炉跡の可能性がある。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物・骨片が散在的に出土した。土器は中期後葉（116）から後期前葉（120）まで認められるが、主体は後期前葉である。石器は、石核２点・石鏃６点（うち１点は2118）・石錐１点・石匙１点・掻器２点・削器２点・ＲＦ10点・ＵＦ１点・磨・敲石類３点・打欠石錘１点・切目石錘９点が出土した。

所属時期　ＳＦ21から堀之内２式系の深鉢（137）が出土しており、埋土出土土器の主体時期、立て替えの状況から、北白川上層式２期併行と判断する。

２　炉跡・焼土遺構

３基の炉跡（ＳＦ19・27・ＳＦ29）と８基の焼土遺構を検出した。焼土遺構は、いずれの焼土も不均質で粒状に点在し、周囲との区別が不明瞭で遺構の性格は不明である。

ＳＦ27（図28、図版４）

位置　Ｇ19・20グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不明で、礫の分布範囲は長径0.20ｍ・短径計測不能・深さ0.14ｍを測る。

概要　Ｖａ層上面で検出した。重複遺構はない。北西・南東の一対の礫を小口立てとし、他は概ね平置きとするが、北西隅には礫が認められなかった。このうち一部の礫に被熱の痕跡が認められ、また礫を取り除いた下から焼土を検出していることから、石囲炉の廃絶時に炉石を移動した可能性がある。断面観察では土坑状の立ち上がりと共に厚さ11㎝の焼土が検出されたが、平面精査では検出されなかった。内部の焼土は不均質で、粒状に点在する。

出土遺物　検出時に中期後葉の土器（142）が出土した。

ＳＦ29（図28）

位置　Ｔ24グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形で、長径0.69ｍ・短径0.60ｍ・深さ0.36ｍを測る。

概要　Ｖｂ層上面で検出した。重複遺構はない。焼土ブロックを多数含む１層を取り除くと、硬化してはいないものの強く被熱した均質な２層が面的に検出されたため、炉跡と認定した。この焼土面の下部土層（４層）は焼土ブロックを少量含むが、掘形の底面で被熱痕跡は認められなかった。

出土遺物　検出時に、前期後葉の土器と骨片が出土した。

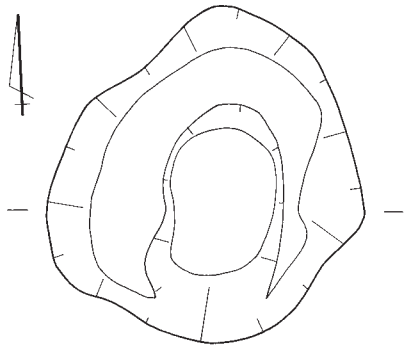
３　配石遺構

ＳＩ６　（図28、図版４）

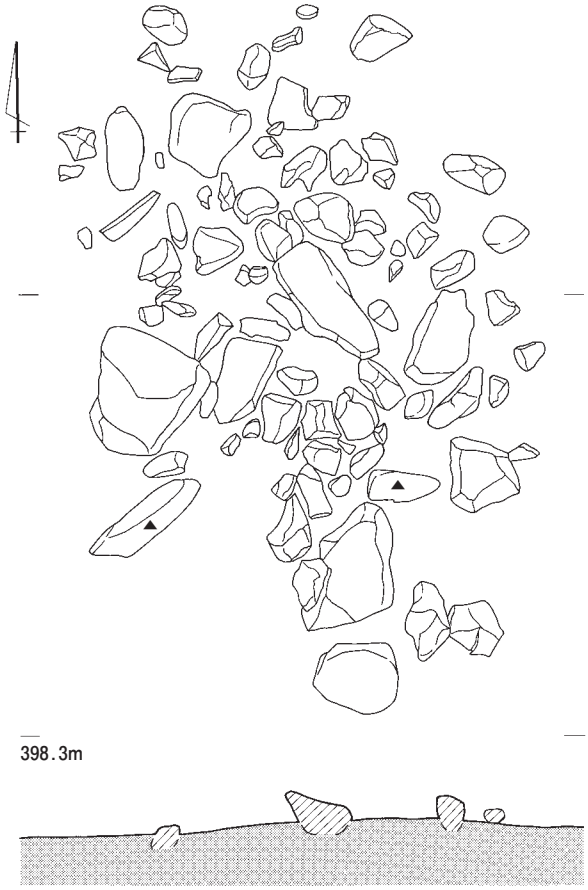
位置　Ｐ14グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形とみられ、長径1.90ｍ・短径1.28ｍを測る。

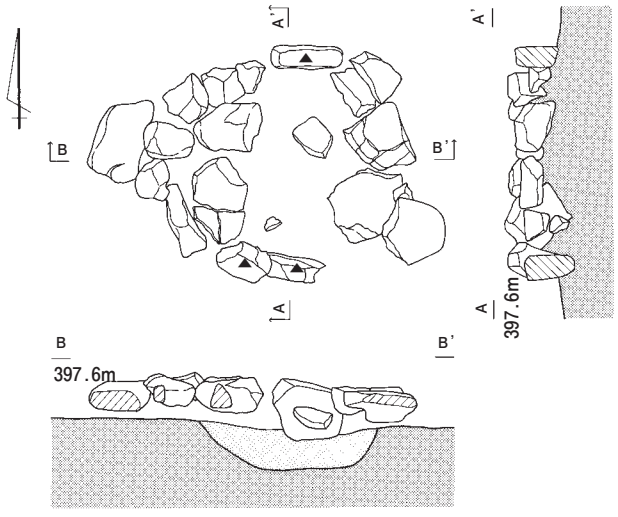
概要　Ｖａ層上面で検出した。重複遺構はない。図化後、下部より礫が出現して密度が高くなり南にも広がったが、追加実測ができなかったため詳細に検討することはできない。全般に置石は長径４～48㎝の礫を用いて平置きとするが、中央の東西２箇所の礫を小口立てとする（配石２類）。概ね礫の



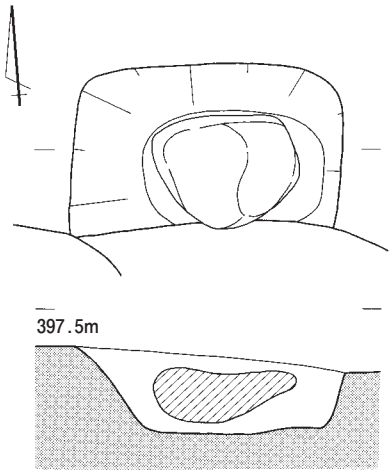
SF29
1. 暗褐色土(7.5YR3/4)、粘性なし、しまりあり
2. 赤褐色土(5YR4/6、焼土)、粘性ややあり、しまりあり
3. 極暗褐色土(7.5YR2/3)、粘性なし、しまりなし
4. 暗褐色土(7.5YR3/4)、粘性ややあり、しまりあり



SI6



SF27
極暗褐色土(7.5YR2/3、焼土)、粘性なし、しまりなし、少量の炭化物を含む



SK53
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む

図28　第2調査面検出遺構図（1）

の種類の大半が亜円礫とみられる。なお本遺構から１ｍ東の地点でも礫の集中がみられたが、遺構として認定しなかった。

出土遺物　なし。

４　土坑

Ｊ18グリッドでは掘削がⅨａ層に達したため遺構検出が比較的容易となり、見かけ上遺構が集中しているが、この区域を除外すると全体に散在して分布する。

ＳＫ44（図29、図版６）

位置　Ｉ17グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形を呈し、長径0.85m・短径0.42m・深さ0.63mを測る。

概要　Ｖａ層上面で検出した。ＳＫ50・52・53を切る。土坑南端の埋土上部で、長径16～47㎝の礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は角礫が主体で、少量の亜円礫が伴う。

出土遺物　埋土から、後期中葉の土器（143）・切目石錘１点が出土した。

ＳＫ53（図28）

位置　Ｉ17グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不明で、長径0.48m・短径0.30m以上・深さ0.25mを測る。

概要　Ｖａ層上面で検出した。ＳＫ44・50に切られる。埋土下部で台石１点が出土した（土坑Ｄ２ｂ類）。

出土遺物　埋土から、中期（ただし詳細不明）の土器・台石１点（2328）が出土した。

ＳＫ55（図29、図版７）

位置　Ｊ17・18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形を呈し、長径1.35m・短径0.52m・深さ0.40mを測る。

概要　Ｖａ層上面で検出した。土坑中央に円礫（長径72㎝・短径22㎝・厚さ14㎝）１個を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。この礫はＳＢ１の埋土掘削中に検出したため、本遺構はＳＢ１廃絶後の所産である。土層断面の状況から、２基の土坑が重複する可能性がある。

出土遺物　埋土から、後期後葉の土器（149～155）・削器１点、各層から骨片が出土した。

ＳＫ59（図29、図版７）

位置　Ｊ17グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形を呈し、長径0.35m・短径0.34m・深さ0.40mを測る。

概要　Ｖａ層上面で検出した。埋土の全体にわたって長径４～34㎝の多量の礫を検出した（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は亜円礫と亜角礫がほぼ同じ割合で少量の角礫を伴い、多量の被熱した礫を含む。なおこの礫はＳＢ１の埋土掘削中に検出したため、本遺構はＳＢ１廃絶後の所産である。

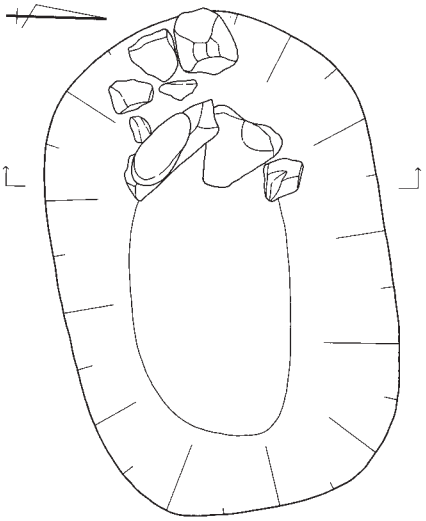
出土遺物　埋土から土器が出土したが、所属時期は不明である。

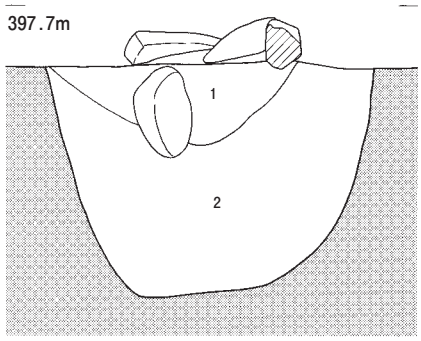
ＳＫ68（図29）

位置　H19グリッドに位置する。

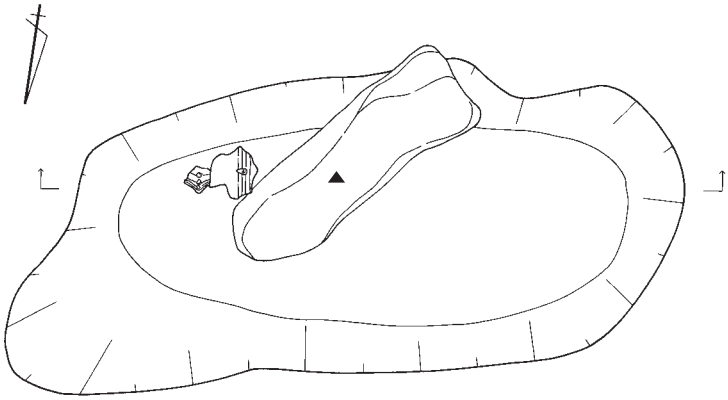
形状と規模　平面形は円形を呈し、長径0.77m・短径0.67m・深さ0.52mを測る。

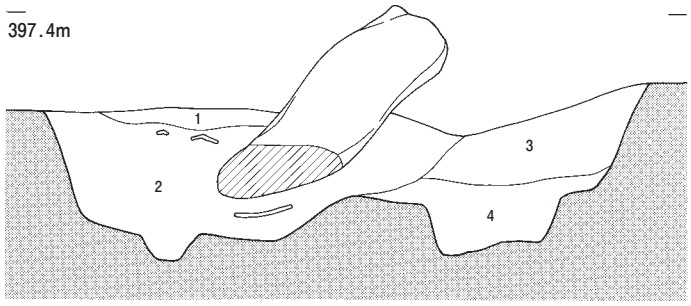
概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。埋土上部に長径７～18㎝の礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）が、このうち北側の礫２個は長手立ての可能性がある。礫の円磨度は亜円礫で占められる。



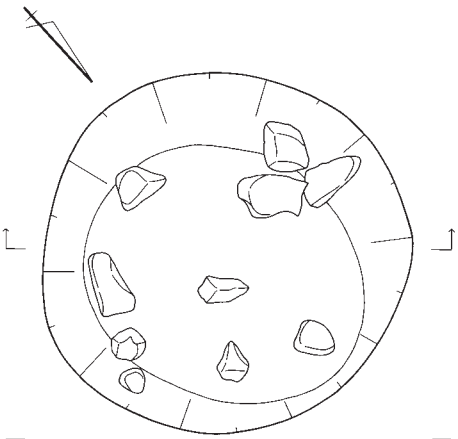


SK44
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、礫･炭化物を含む
2. 暗褐色土(7.5YR3/2)、粘性なし、しまりあり、多量の礫を含む

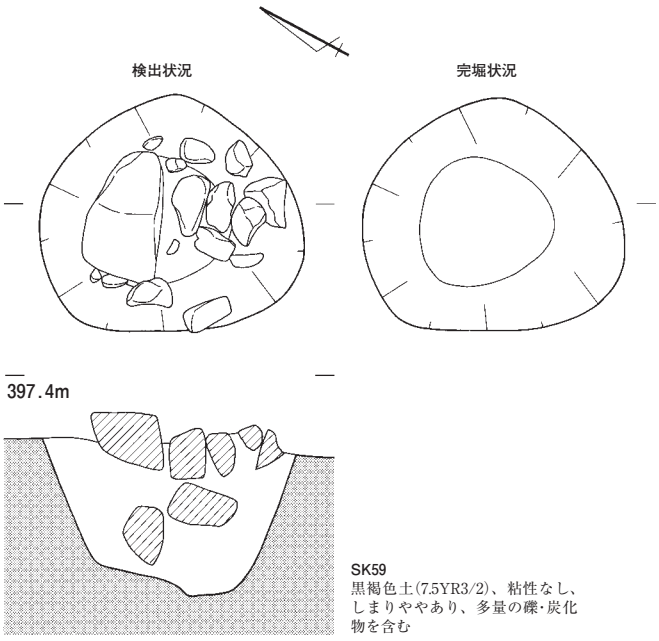




SK55
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性あり、しまりややあり、炭化物･骨片を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫･骨片を含む
3. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫･骨片を含む
4. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、褐色砂礫(10YR4/4)･骨片を含む



SK68
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性あり、しまりややあり、礫･炭化物･骨片を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性あり、しまりややあり
3. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性あり、しまりややあり、褐色土を含む



SK59
黒褐色土(7.5YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫･炭化物を含む

図29　第2調査面検出遺構図（2）

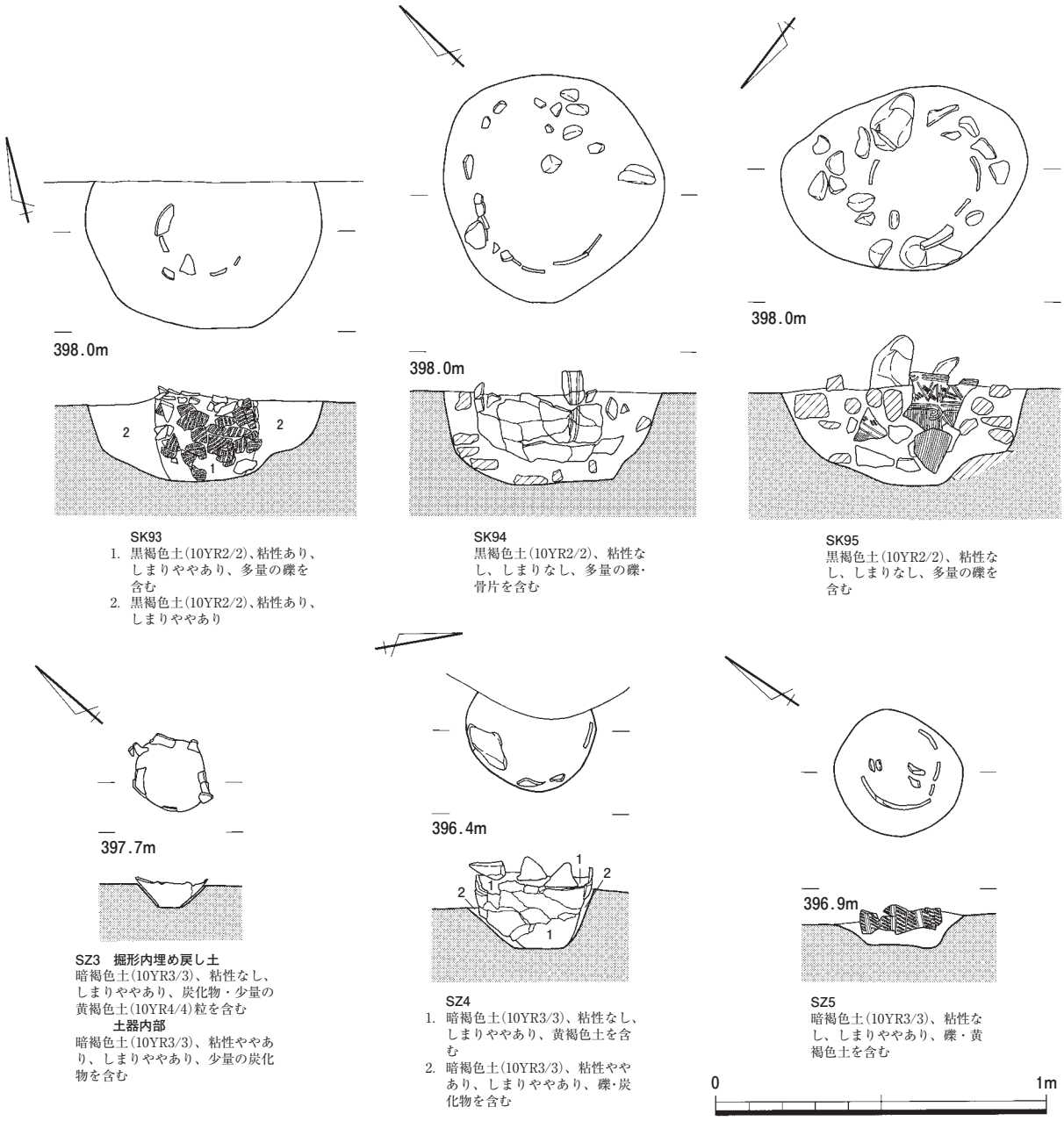


図 30　第 2 調査面検出遺構図（３）

出土遺物　埋土から、後期中葉の土器（157）・石鏃２点・石鏃未製品１点・ノッチドスクレイパー１点・ＲＦ１点・ＵＦ１点・打欠石錘１点・切目石錘３点、土層１層から骨片が出土した。

ＳＫ93（図 30、図版７）

位置　Ｈ 13 グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は円形と考えられ、上端長径0.70m・上端短径0.44m以上・深さ0.24mを測る。

概要　Ｖｂ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土上部の土坑中央で、口縁部の一部と底部を欠損する後期前葉の土器（165）が正位で出土した（土坑Ｃ１類）。

出土遺物　土器（165）のみが出土した。

ＳＫ94（図30、図版７）

位置　Ｌ13グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形を呈し、上端長径0.69m・上端短径0.65m・深さ0.28mを測る。

概要　Ｖｂ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土上部の土坑中央で、口縁部と胴部下半を欠損する中期後葉の土器（158～161）が正位で出土した（土坑Ｃ１類）。ただし接合作業の結果、この土器の器面は一周しなかった。

出土遺物　埋土から、ＲＦ１点と骨片が出土した。

ＳＫ95（図30、図版７）

位置　K14グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形を呈し、上端長径0.72m・上端短径0.55m・深さ0.29mを測る。

概要　Ｖｂ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土上部の土坑中央で、底部を欠損する後期前葉の土器（166）が正位で出土した。土器の外側では、埋土中に長径５～19㎝の亜円礫が多数含まれる（土坑Ｅ類）が、これらのうち１個は長手立ての可能性がある。

出土遺物　土器（166）のみが出土した。

５　埋設土器

ＳＺ３（図30、図版７）

位置　H17グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不明で、上端長径0.32m・上端短径0.21m・深さ0.07mを測る。

概要　Ｖａ層上面で検出した。重複遺構はない。胴部上半を欠損し、底部中央が穿孔された後期中葉以前の土器（162）が正位で出土した。平面精査では掘形を検出することができなかったが、土器内部の埋土の特徴が周辺と異なっている点から、規模は土器の残存径とほぼ同じとみられる。

出土遺物　土器（162）のみが出土した。

ＳＺ４（図30、図版７）

位置　N24グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不明で、上端長径0.40m・上端短径0.23m以上・深さ0.18mを測る。

概要　Ｖａ層上面で検出した。ＳＦ25に切られる。胴部上半を欠損する、後期後葉の土器（167）が正位で出土した。平面精査では掘形を検出することができなかったが、土器内部の埋土の特徴が周辺と異なっている点から、規模は土器の残存径とほぼ同じとみられる。土器と同一の検出面で礫１個が平置きにされており、上面配石の可能性がある。

出土遺物　土器（167）のみが出土した。

ＳＺ５（図30、図版７）

位置　G18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不明で、上端長径0.40m・上端短径0.35m・深さ0.10mを測る。

概要　Ｖａ層上面で検出した。重複遺構はない。口縁部と胴部下半を欠損する、中期後葉の土器（163・164）が出土した。埋位は不明で、正位か逆位か判断できない。

出土遺物　土器（163・164）が出土した。

第４節　第３Ａ調査面

第３調査面は２回に分けて調査した。１回目はＶｂ層を掘削していく途中で検出した遺構の調査であり、２回目はＶｂ層基底面で検出した遺構の調査である。そこで便宜上１回目を「第３Ａ調査面」、２回目を「第３Ｂ調査面」と呼称する。

標高ではＨ３グリッドが最も高く（約398.9m）、Ｎ24グリッドが最も低い（約396.0m）。当調査面は南に向かって傾斜するが、第１・２調査面よりもさらに緩やかな形状である。

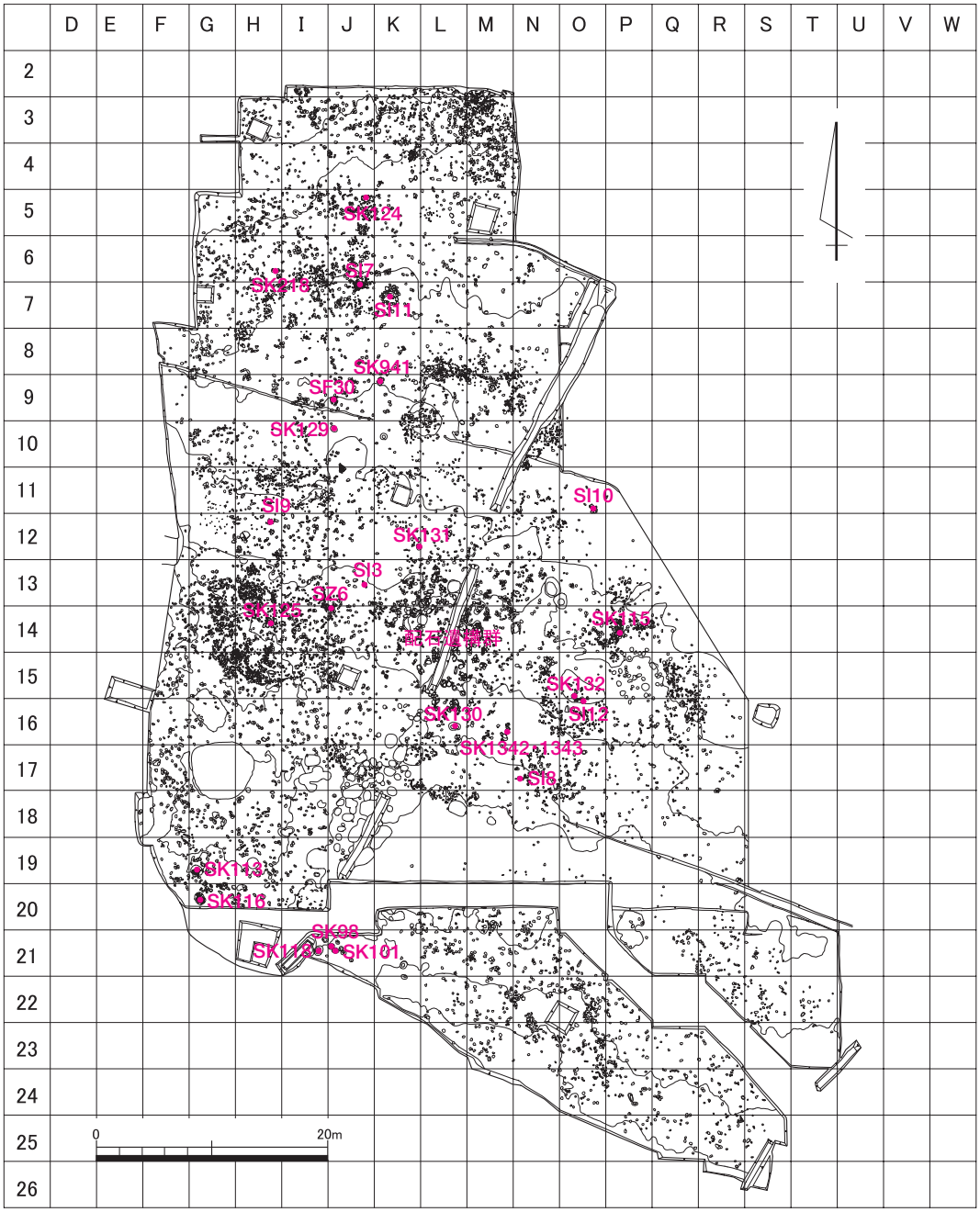


図 31　第３Ａ調査面全体図

１　炉跡

ＳＦ30（図32、図版８）

位置　Ｉ９・Ｊ９グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は長方形を呈し、長辺0.53m・短辺0.60mを測る。

概要　Ｖｂ層中で検出した。重複遺構はない。東西辺の炉石は細長い礫を立て、他はやや小ぶりの礫を用いて囲むが、北東・南西隅を欠く。炉の内部で焼土は検出されず、炉石の内側で被熱の痕跡が認められた。平面精査では、炉跡の掘形は検出されなかった。

出土遺物　なし。

２　焼礫集積遺構

ＳＩ７（図32、図版８）

位置　Ｊ７グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形を呈し、長径0.53m・短径0.43m・深さ0.22mを測る。

概要　Ｖｂ層中で検出した。重複遺構はない。埋土上部で長径３～26㎝の多量の礫が検出された。礫の円磨度は角礫が主体で少量の亜円礫を伴い、礫の大半に被熱の痕跡が認められた。しかし、土坑内壁面に被熱の痕跡や焼土は認められなかった。また埋土下部では混入と考えられる少量の礫を含む黒色土が堆積していた。このことから、当遺構はいわゆる「被覆型集石遺構」であるといえる。

出土遺物　埋土から、炭化物が少量出土した。

３　配石遺構

ＳＩ８（図32、図版８）

位置　N17グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不明である。東西長1.00mを測る。

概要　Ｖａ層中で検出した。重複遺構はない。東端では長径40㎝程度の完形の石皿２個を小口立てとし、西端では長径23㎝の石皿片１個を平置きとし、列状に配置する。これらとは別にやや北寄りに長径20㎝以上・幅８㎝の礫２個を長手立てとする（配石３類）。中央の石皿の下部では、焼土ブロックが認められた。なお本遺構の下部で、土坑は検出されなかった。

出土遺物　石皿３点が出土した。

ＳＩ９（図32、図版８）

位置　H12グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は三角形を呈し、一辺0.56mを測る。

概要　Ｖｂ層中で検出した。重複遺構はない。長径11～22㎝の礫で囲み（配石１類）、その内部で土器片が少量出土した。礫の円磨度は大半が角礫で少量の亜円礫を伴う。なお本遺構の下部で、土坑は検出されなかった。

出土遺物　礫の精査中に、後期前葉の土器（169・170）が出土した。

ＳＩ10・ＳＫ341（図32、図版９）

位置　O11グリッドに位置する。

上面配石　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。平面形は不明である。東西長0.84mを測る。長径22㎝～45㎝の礫６個を平置きとする（配石２類）。礫の円磨度は概ね扁平円礫・扁平角礫・亜

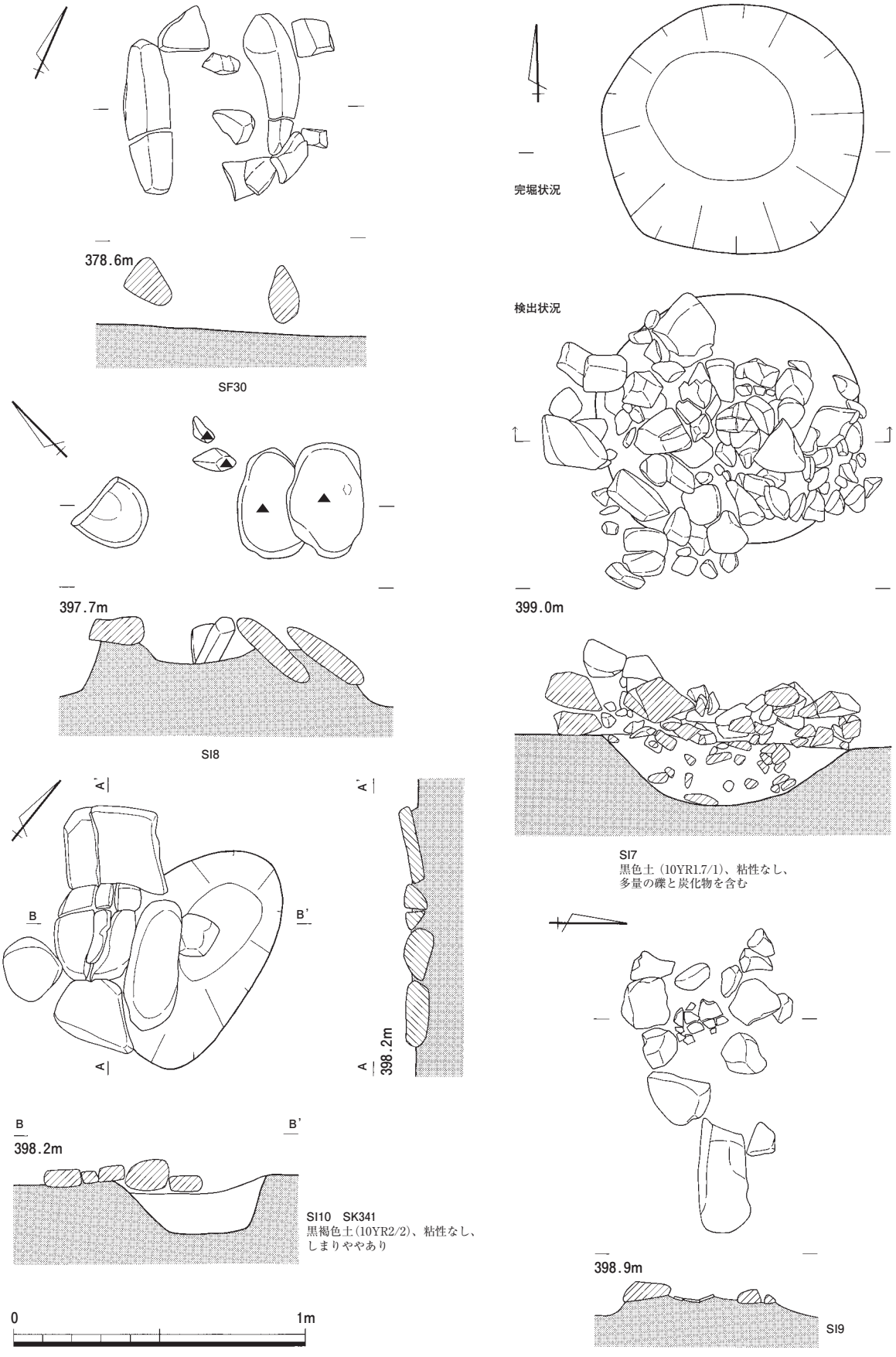


図32　第３Ａ調査面検出遺構図（１）

円礫である。

土坑　礫を除去後、平面精査により土坑（ＳＫ341）を検出した。土坑の長軸方位と上面配石の方位はややずれる。

出土遺物　なし。

ＳＩ11・ＳＫ216（図33、図版８）

位置　Ｋ７グリッドに位置する。

上面配石　Ｖｂ層中で検出した。重複遺構はない。平面形は三角形で、一辺約1.90ｍを測る。三辺の頂点に角礫を置き、縁石は二重とし長径８～47㎝の礫を長手置きにする。置石はほとんどみられなかったが、北隅に長径42㎝の礫を平置きにする（配石１類）。礫の円磨度は概ね扁平円礫・角礫・亜円礫であり、完形の石皿１点を含む。

土坑　礫除去後のＶｂ層基底面で検出した。平面形は不定形である。重複遺構はない。長径0.45ｍ・短径0.30ｍ・深さ0.34ｍを測る。

出土遺物　上面配石の精査中に、石鏃１点・切目石錘１点・石皿１点が出土した。

ＳＩ12・ＳＫ2427（図33、図版９）

位置　Ｏ16グリッドに位置する。

上面配石　Ｖａ層中で検出した。重複遺構はない。調査溝により南西端を欠く。平面形は五角形である。南北長約0.57ｍ・東西長0.60ｍを測る。中心に長径32㎝の丸い礫を芯石とし、長径19～35㎝の礫で小口立てとし囲む。縁石との間にはやや小ぶりの長径20㎝以下の礫を充填する（配石１類）。礫の円磨度は多様（角礫・扁平角礫・円礫）である。

土坑　平面形は楕円形である。長径0.52ｍ・短径0.40ｍ・深さ0.24ｍを測る。礫除去後のＶｂ層基底面ＳＢ16の床面で検出した。土坑の位置は上面配石の範囲と一致しており、関連が深いと判断した。遺構の重複関係は不明である。

出土遺物　土坑埋土から、中期後葉の土器（746）と骨片が出土した。

ＳＩ13・ＳＫ1051（図36、図版８）

位置　Ｊ13グリッドに位置する。

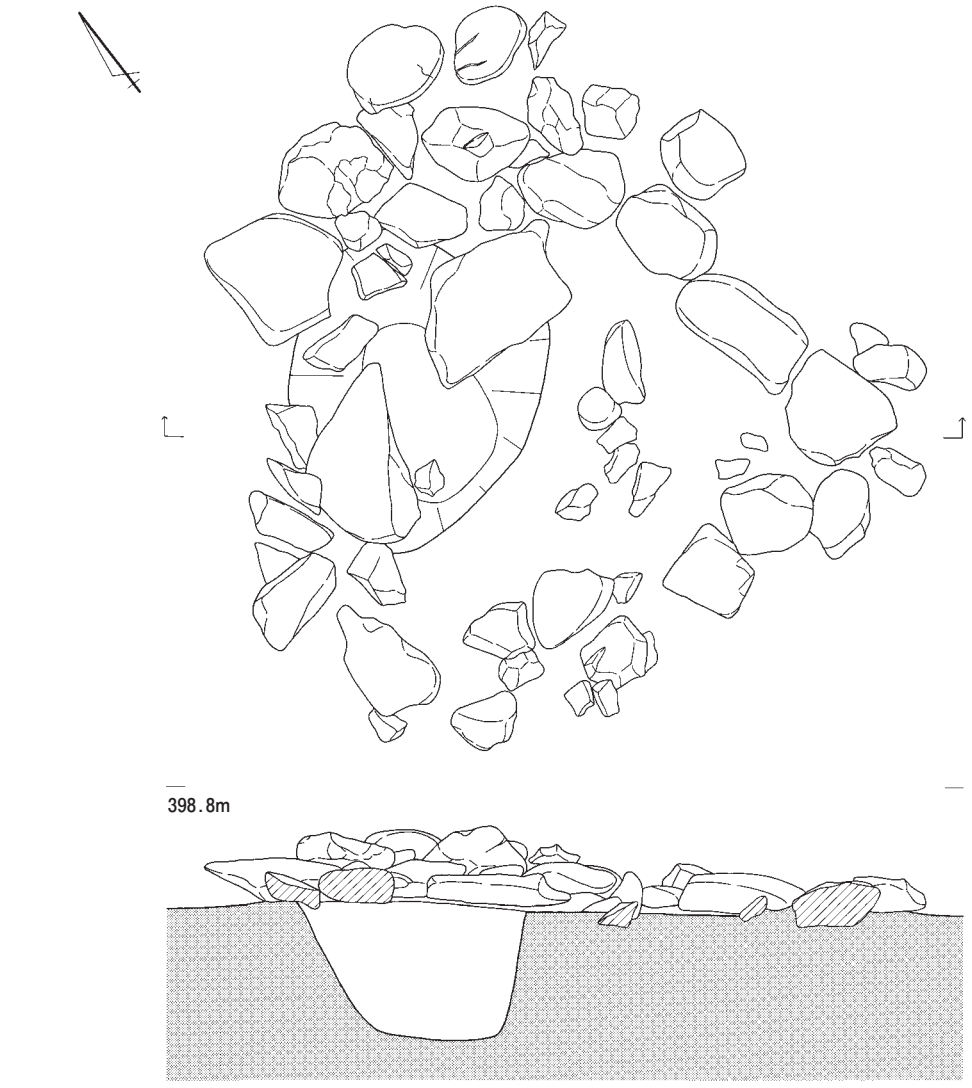
上面配石　Ｖｂ層中で検出した。重複遺構はない。平面形は不明である。南北長約70ｍを測る。礫３個が列状に並び、長径43㎝と23㎝の礫２個を長手立てとし、南端には長径20㎝の礫を長手置きとする（配石１類）。礫の円磨度は扁平角礫と角礫である。

土坑　礫除去後のＶｂ層基底面で検出した。ＳＫ1046・1048・1050に切られＳＫ1076を切る。長径0.3ｍ以上・短径0.26ｍ・深さ0.60ｍを測る。土坑の長軸方向と、本遺構の礫の配置方向がほぼ一致することから、両遺構の関連は深いと判断した。

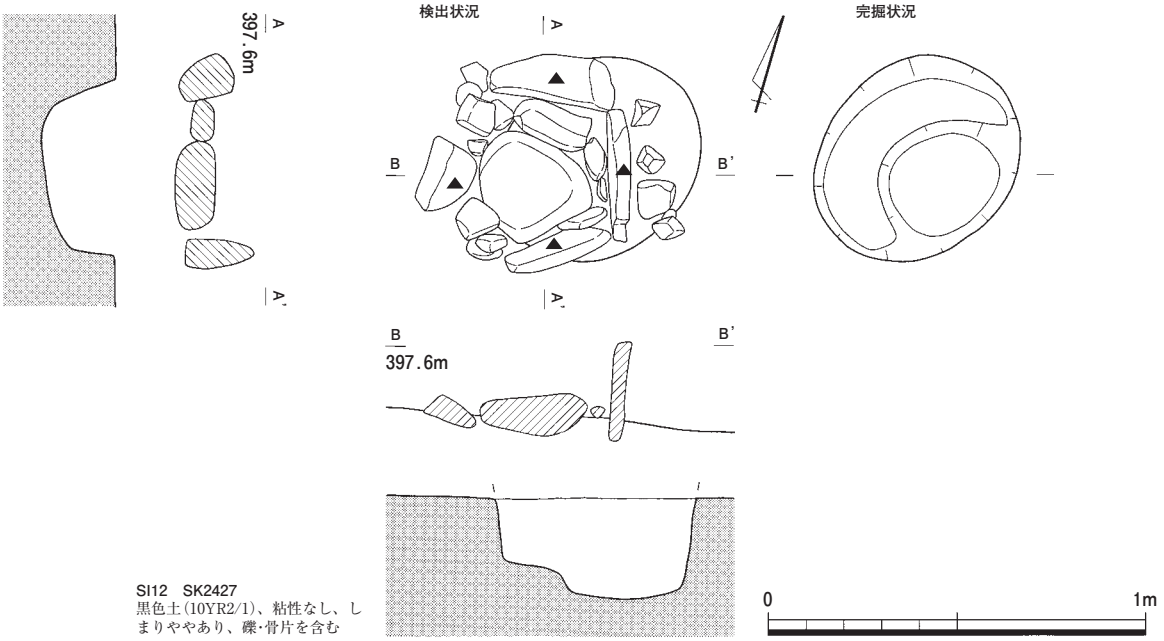
出土遺物　なし。

配石遺構群（図34・35、図版９・10）

Ｖｂ層中には主に20㎝以下の角礫が含まれるが、40㎝を超える亜円礫や扁平な角礫・円礫が集中する箇所がＫ13～Ｋ15・Ｌ13～Ｌ16・Ｍ14・Ｍ15グリッドの範囲約75.0㎡に認められた。またこれらは、Ｖｂ層に含まれる礫の大きさと円磨の度合いを比較すると大きく異なる（図34）ため、「配石遺構群」（ＳＩ14～34）と認定する。大半が砂岩で、他に安山岩・チャートがある。いずれも遺跡周辺で採可



SI11　SK216
黒褐色土(10YR2/2)、粘性あり



SI12　SK2427
黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、礫･骨片を含む

0　1m

図33　第３Ａ調査面検出遺構図（２）

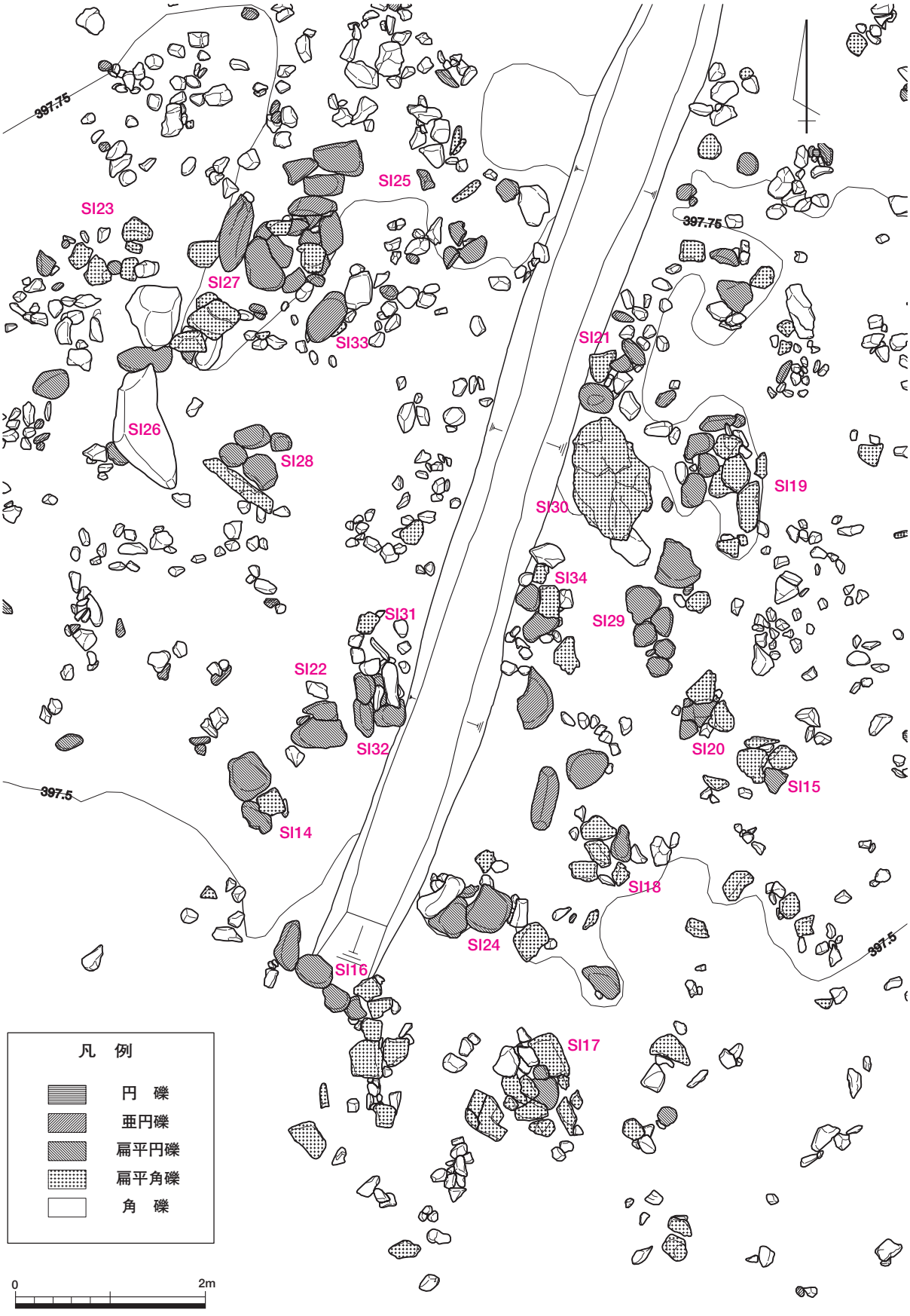


図34　配石遺構群検出状況図

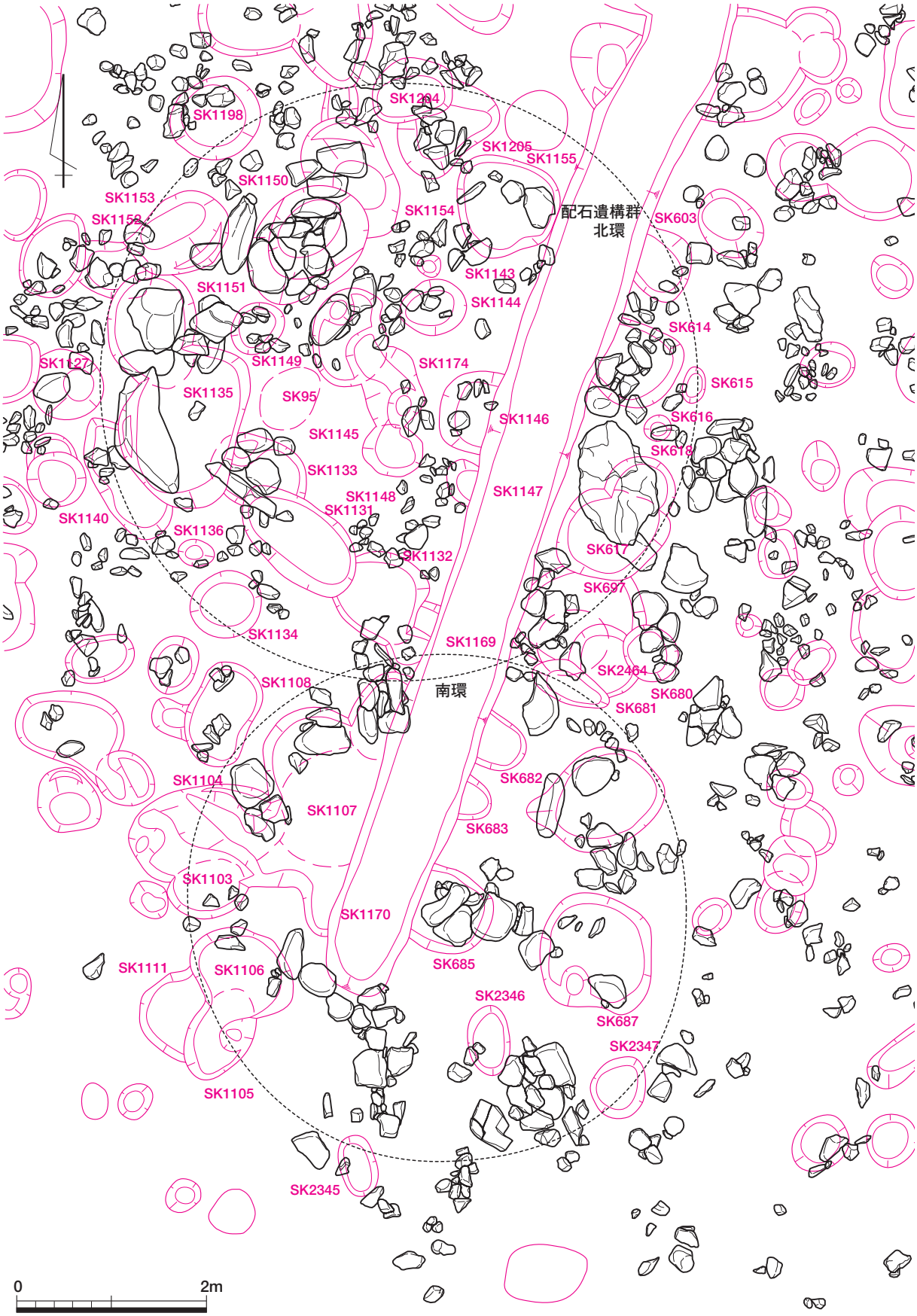


図35　配石遺構群と下部土坑位置図

能な礫であり、特定の石材が集中する傾向は認められなかった。なおＶｂ層中に含まれる角礫は、概ね礫の供給源に近い山手の北側に多く、南側にゆくに従って少なくなるが、石を据える際の整地や盛土の痕跡を、現地調査で確認することはできなかった。

配石の下部（第３Ｂ調査面）では土坑が検出され、周辺の土坑よりも出土土器の時期が新しいことから、土坑と配石とは密接な関連をもつと考えられた。一方、下部に土坑を持たない配石遺構も、同一調査面で検出していることから関連が深いと予測されるため、ここで併せて説明する。

ＳＩ14（図36、図版11）

位置　K15～Ｌ15グリッドに位置し、ＳＩ22に隣接する。

形状と規模　平面形は不明である。南北長0.86ｍを測る。

概要　Ｖａ層中で検出した。重複遺構はない。長径28～46㎝の３個の礫を平置きとする。礫の上面は東にやや下がる（配石２類）。礫の円磨度は、扁平円礫２個・扁平角礫１個である。南東の角礫には被熱の痕跡が認められた。なお本遺構の下部で土坑は検出されなかった。

出土遺物　なし。

ＳＩ15（図36、図版11）

位置　M15グリッドに位置し、ＳＩ20に隣接する。

形状と規模　平面形は方形である。長辺0.57ｍ・短辺0.49ｍを測る。

概要　Ｖａ層中で検出した。重複遺構はない。長径24～40㎝の礫を平置きとする。北端の礫のみ、上面が南に下がる（配石２類）。礫の円磨度は、扁平角礫３個・扁平円礫１個である。東端の礫に被熱の痕跡が認められた。なお、礫除去後の第３Ｂ調査面で検出した土坑（ＳＫ653）の位置は本遺構の範囲と一致しているが、両遺構検出面の標高差は約0.4ｍを測り、また土坑埋土からの出土遺物がないため、関連の有無は判断できない。

出土遺物　なし。

ＳＩ16（図36、図版11）

位置　K15・Ｌ15グリッドに位置し、ＳＩ17に隣接する。

形状と規模　平面形は不明である。東西長1.92ｍを測る。

概要　Ｖａ層中で検出した。重複遺構はない。長径32～54㎝の礫を列状に平置きとするが、東端寄りで、長径28㎝の角礫１個を小口立てとする。礫の上面は、概ね本遺構の中央に向かって下がる（配石２類）。礫の円磨度は、大半が扁平角礫と扁平円礫で亜円礫１個を伴う。東半の礫の大半に、被熱の痕跡が認められた。なお本遺構の下部で土坑は検出されなかった。

出土遺物　なし。

ＳＩ17（図37、図版11）

位置　Ｌ15・Ｌ16グリッドに位置し、ＳＩ16に隣接する。

形状と規模　平面形は不明である。東西長1.92ｍを測る。

概要　Ｖａ層中で検出した。重複遺構はない。長径32～54㎝の礫５個を平置きとし、その上にややこぶりな長径16～33㎝の礫６個を置く。平置きの礫の上面は、概ね本遺構の中央に向かって下がる（配石２類）。礫の円磨度は、大半が扁平角礫で、少量の角礫と扁平円礫を伴う。一部の礫に被熱の痕跡が認められた。なお本遺構の下部で土坑は検出されなかった。

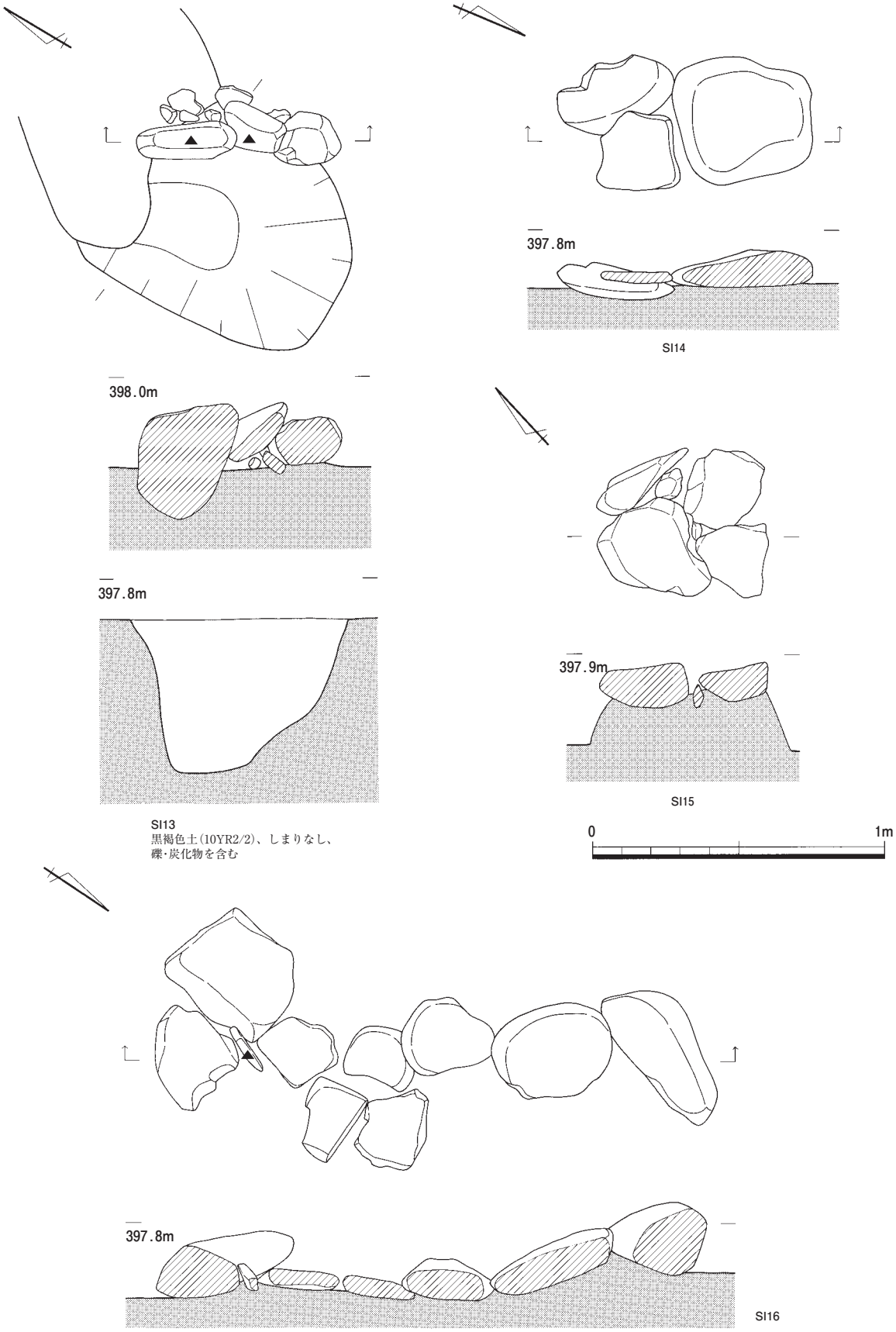


図36　第３Ａ調査面検出遺構図（３）

出土遺物　平置きの置石に完形の石皿1点（2322）が含まれ、また置石の直下から、ＵＦ1点・磨製石斧1点（2312）・切目石錘1点（2304）が出土した。

ＳＩ18（図37、図版11）

位置　L15グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不明である。小口立ての礫2個を縁石とみると、その幅は0.53mを測り、直交する方向で0.93mを測る（配石1類）。

概要　Ｖa層中で検出した。重複遺構はない。やや小ぶりの長径20cm程度の角礫2個を小口立てとし、その間に長径19～39cmの礫を平置きとする。平置きの礫の上面は、概ね本遺構の中央に向かって下がる。礫の円磨度は大半が角礫と扁平角礫で、扁平円礫1個を伴う。一部の礫に被熱の痕跡が認められた。なお本遺構の下部で土坑は検出されなかった。

出土遺物　なし。

ＳＩ19（図37、図版18）

位置　M14グリッドに位置し、ＳＩ30に隣接する。

形状と規模　平面形は不明である。南北長1.53m・東西長0.95mを測る。

概要　Ｖa層中で検出した。重複遺構はない。中央に長径35cmの礫1個（以下「底石」とする）を平置きにし、北端と西端に長径30～35cmの3個の礫を長手立て又は小口立てとし、縁石とする。北端の礫は南に、西端の礫は東に傾く。底石と立石の上には、長径14～55cmの礫（以下「天井石」とする）を少なくとも7個平置きとする。なお底石と天井石の間には、厚さ3～17cmの黒褐色土が堆積していた（配石1類）。礫の円磨度は大半が角礫と扁平角礫で、少量の亜円礫と扁平円礫を伴う。一部の礫に被熱の痕跡が認められた。なお、本遺構の掘形及び下部土坑は検出されなかった。

出土遺物　なし。

ＳＩ20（図37、図版18）

位置　M15グリッドに位置し、ＳＩ15に隣接する。

形状と規模　平面形は不明である。南北長0.79m・東西長0.57mを測る。

概要　Ｖa層中で検出した。重複遺構はない。長径8～54cmの礫を平置きにする。北端の礫のみ、上面が西に下がる（配石2類）。礫の円磨度は多様（多い順に角礫・扁平角礫・扁平円礫・亜円礫）である。一部の礫に被熱の痕跡が認められた。なお本遺構の下部で土坑は検出されなかった。

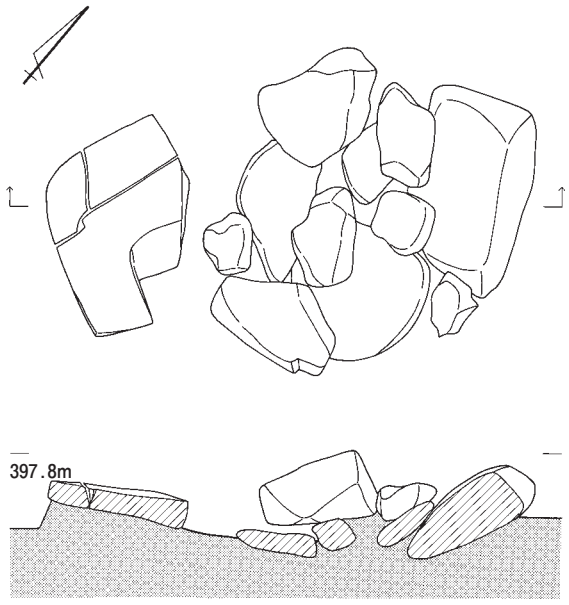
出土遺物　なし。

ＳＩ21（図38、図版18）

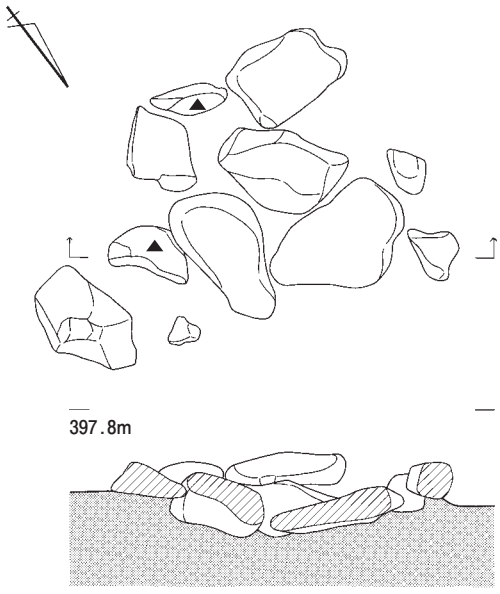
位置　L14グリッドに位置し、ＳＩ30に隣接する。

形状と規模　平面形は五角形とみられる。南北長約0.88mを測る。

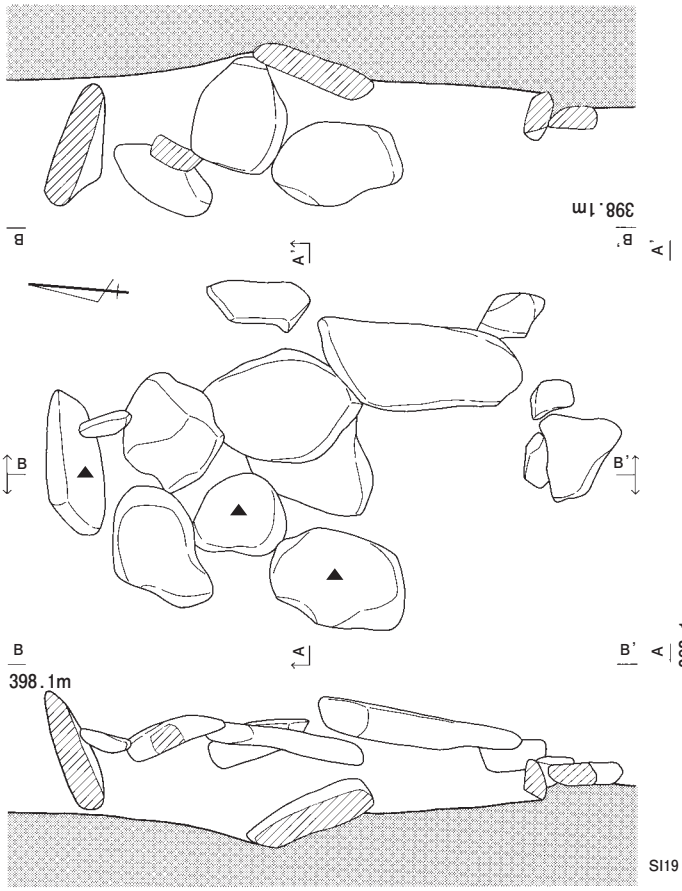
概要　Ｖa層中で検出した。重複遺構はない。西側を調査溝（Ａトレンチ）により欠く。縁石は長径31～47cmの礫を用いて平置き又は小口立て（南東端のみ）とし、北東端を欠く。中心には長径23cm以上・短径19cm・厚さ13cmの礫を長手立てとし、縁石との間にやや小ぶりの礫を詰める（配石1類）。礫の円磨度は、角礫・扁平角礫・扁平円礫である。一部の礫に被熱の痕跡が認められた。礫除去後の第3Ｂ調査面で土坑（ＳＫ614）を検出した。ただし、土坑の位置は上面配石の範囲から北西部に寄り、また、同土坑埋土出土の中期後葉の土器（535）が配石遺構の時期と比べて古いことから、関連性は



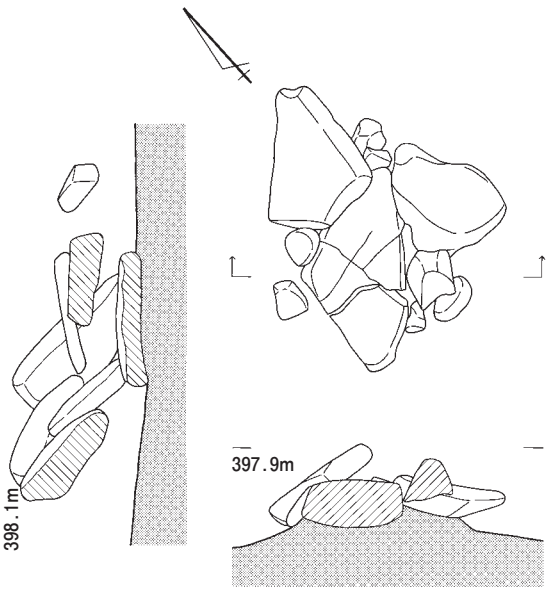
SI17



SI18



SI19



SI20

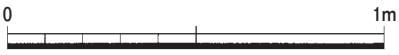


図37　第３Ａ調査面検出遺構図（４）

低いと判断する。

出土遺物　なし。

ＳＩ22・ＳＫ1108（図38、図版11）

位置　Ｌ15グリッドに位置し、ＳＩ14・31・32に隣接する。

上面配石　Ｖａ層中で検出した。重複遺構はない。平面形は不明である。南北長約0.51ｍを測る。長径36㎝・60㎝の礫２個を小口置きとする。礫の上面は、概ね本遺構の中央に向かって下がる（配石２類）。礫の円磨度は扁平円礫である。

土坑　礫を除去後のＶｂ層基底面で検出した。長径1.00ｍ以上・短径0.60ｍ以上・深さ0.22ｍを測る。土坑の位置は上面配石の範囲と一致しており、関連が深いと判断した。ＳＫ1108はＳＫ1104・1107・1110に切られている。よって、一部の礫は移動している可能性がある。

出土遺物　なし。

ＳＩ23・ＳＫ1152（図38、図版12）

位置　Ｋ13グリッドに位置し、ＳＩ27に隣接する。

上面配石　Ｖａ層中で検出した。重複遺構はない。平面形は不明である。東西長約0.80ｍを測る。西端に礫１個（長径35㎝・短径17㎝・厚さ16㎝）を長手立てとし、その東側に長径17㎝～30㎝の３個の礫を小口置きとする。礫の上面は、概ね本遺構の中央に向かって下がる（配石２類）。礫の円磨度は大半が扁平角礫で、少量の角礫・扁平円礫を伴う。

土坑　礫除去後のＶｂ層基底面で検出した。長径0.63ｍ・短径0.42ｍ・深さ0.21ｍを測る。土坑の位置は上面配石の範囲と一致しており、関連が深いと判断した。ＳＫ1125に切られＳＫ1151・1153を切る。よって、一部の礫は移動している可能性がある。

出土遺物　なし。

ＳＩ24・ＳＫ685（図38、図版12）

位置　Ｌ15グリッドに位置し、ＳＩ18に隣接する。

上面配石　Ｖａ層中で検出した。重複遺構はない。平面形は不明である。東西長1.45ｍを測る。西側を調査溝（Ａトレンチ）により欠く。長径25～56㎝の礫を小口置きとするが、東西での礫のレベル差が認められ、その間には厚さ数㎝程度の黒褐色土が堆積していた。検出高の低い西半の礫の上面は概ね北東に向かって下がり、検出高の高い東半の礫は概ね南西に向かって下がる（配石２類）。礫の円磨度は角礫と扁平角礫である。

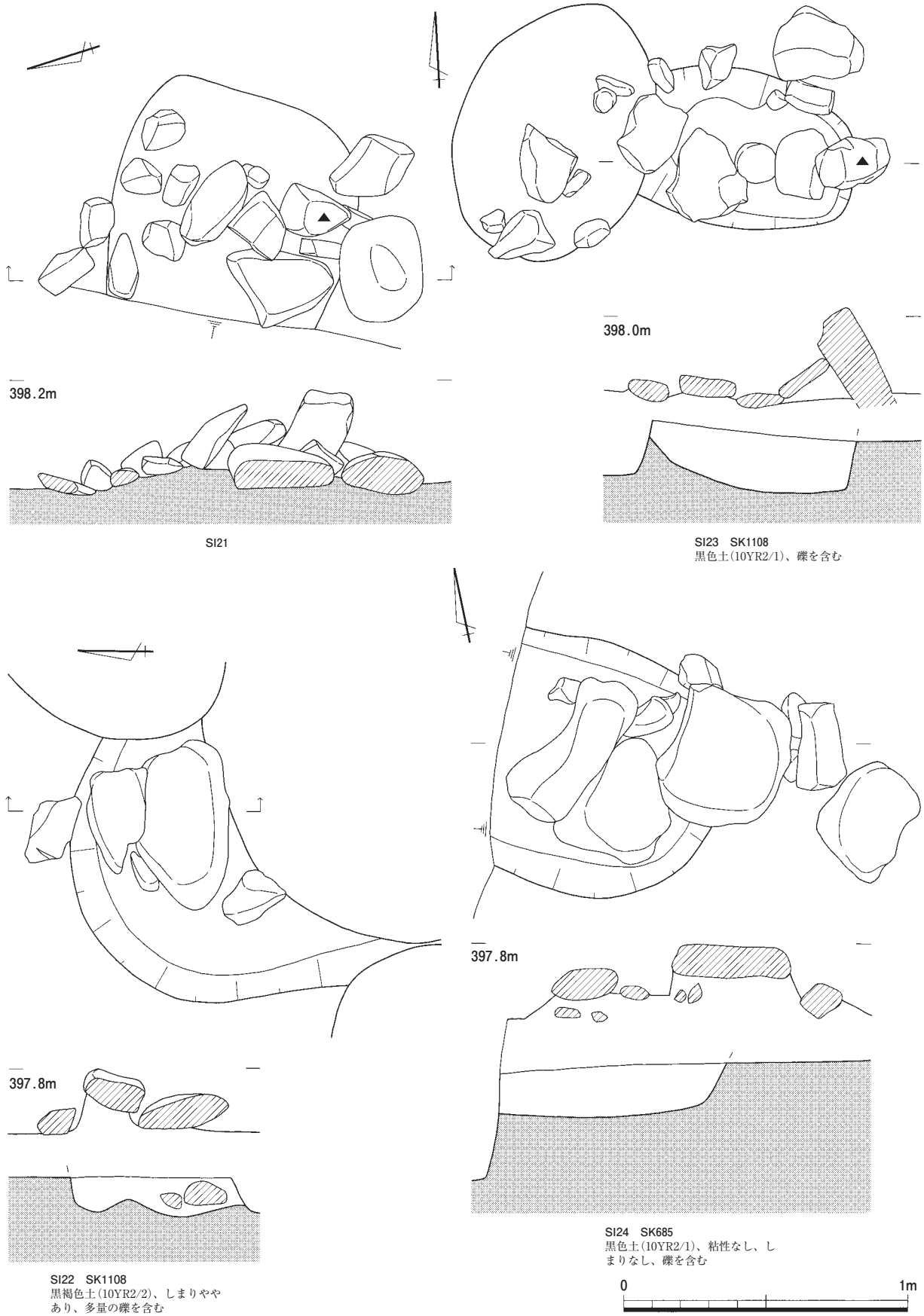
土坑　礫を除去後のＶｂ層基底面で検出した。長径0.72ｍ以上・短径0.70ｍ・深さ0.17ｍを測る。重複遺構はない。土坑の位置は上面配石の範囲と一致しており、関連が深いと判断した。

出土遺物　上面配石周辺で磨・敲石類１点（2198）・切目石錘片１点が出土した。

ＳＩ25・ＳＫ1150（図39、図版12）

位置　Ｋ13～Ｌ14グリッドに位置し、ＳＩ27・33に隣接する。

上面配石　Ｖａ層中で検出した。重複遺構はない。平面形は楕円形である。南北長約1.91ｍ・東西長1.22ｍを測る。中央に長径35㎝前後の礫３個（以下底石とする）を平置きとし、底石上の外周に礫を平置きとし囲む。縁石のうち、南北端では長径30～62㎝の４個の礫を１段に、東西端ではやや小ぶりの長径27～34㎝の礫を２段に積む。礫の上面は、概ね本遺構の中央に向かって下がる。南東



SI21

SI23　SK1108
黒色土(10YR2/1)、礫を含む

SI22　SK1108
黒褐色土(10YR2/2)、しまりやや
あり、多量の礫を含む

SI24　SK685
黒色土(10YR2/1)、粘性なし、し
まりなし、礫を含む

図38　第3A調査面検出遺構図（5）

端には長径46㎝・幅15㎝の礫1個を長手立てとし、南西端には長径84㎝の礫1個を小口立てとする（配石1類）。礫の円磨度は大半が扁平円礫で、少量の角礫・亜円礫・扁平角礫を伴う。長手立ての礫を確認した際に、南北方向に土層を断ち割ったが、明確な掘形は認められなかった。

土坑　礫除去後のⅤb層基底面で検出した。長径0.76m・短径0.54m・深さ0.44mを測る。土坑の位置は、上面配石の範囲と一致しており、関連が深いと判断した。ＳＫ1154を切る。

出土遺物　土坑埋土から、後期中葉の土器（172・173）が出土した。

ＳＩ26・ＳＫ1135（図40、図版13）

位置　K14グリッドに位置し、ＳＩ7に隣接する。

上面配石　Ⅴb層中で検出した。ＳＩ27を切る。長径135㎝の礫1個を平置きとする。礫の上面では、被熱が原因とみられる剥離が顕著である。礫の円磨度は角礫である。

土坑　礫を除去後のⅤb層基底面で検出した。長径1.60m・短径1.03m・深さ0.34mを測る。土坑の位置は上面配石の範囲と一致しており、関連が深いと判断した。ＳＫ1133・1151に切られＳＫ1140を切る。礫は土坑の西壁沿いに配置された縁石とみられるため、一部の礫は移動している可能性がある（配石1類）。

出土遺物　なし。

ＳＩ27・ＳＫ1151（図40、図版12）

位置　K14グリッドに位置し、ＳＩ26に隣接する。

上面配石　Ⅴa層中で検出した。西南端の礫は底石と同じレベルにあり、西北端の礫とＳＩ26の礫がのる。このことは、ＳＩ26と ＳＩ27の関連が深いことを示している。平面形は長方形と考えられる。長辺1.12m・短辺0.95mを測る。北西端には長径70㎝のやや大型の礫1個を置き、その東側には長径50㎝前後の礫3個を（以下「底石」とする）を平置きとし、その上に長径15㎝～41㎝の礫4個を積む（配石2類）。底石と上部の礫との間には、厚さ数㎝程度の黒褐色土が堆積していた。礫の円磨度は、角礫・扁平角礫・扁平円礫が同じ割合を占める。

土坑　礫を除去後のⅤb層基底面で検出した。長径1.04m・短径0.82m・深さ0.27mを測る。土坑の位置は上面配石の範囲とほぼ一致しており、関連が深いと判断した。ＳＫ1152に切られＳＫ1135・1153を切る。

出土遺物　なし。

ＳＩ28・ＳＫ1133（図41、図版12）

位置　K14・L14グリッドに位置し、ＳＩ26に隣接する。

上面配石　Ⅴa層中で検出した。重複遺構はない。平面形は不明である。南北長約0.78mを測る。南端に長径90㎝の礫1個を小口立てとし、その東側に長径21㎝～45㎝の4個の礫を平置きとする。平置きの礫の上面は、概ね本遺構の中央に向かって下がる（配石1類）。礫の円磨度は、扁平角礫（小口立て）と扁平円礫（平置き）である。

土坑　礫除去後のⅤb層基底面で検出した。長径0.80m・短径0.56m・深さ0.22mを測る。土坑の位置は上面配石の範囲と一致しており、関連が深いと判断した。現地調査では、ＳＫ1133はＳＫ1131に切られかつＳＫ1135を切ると判断し、ＳＩ28の東端がＳＫ1131の掘形上に位置することから、ＳＫ1131・1133は関連が深い可能性がある。

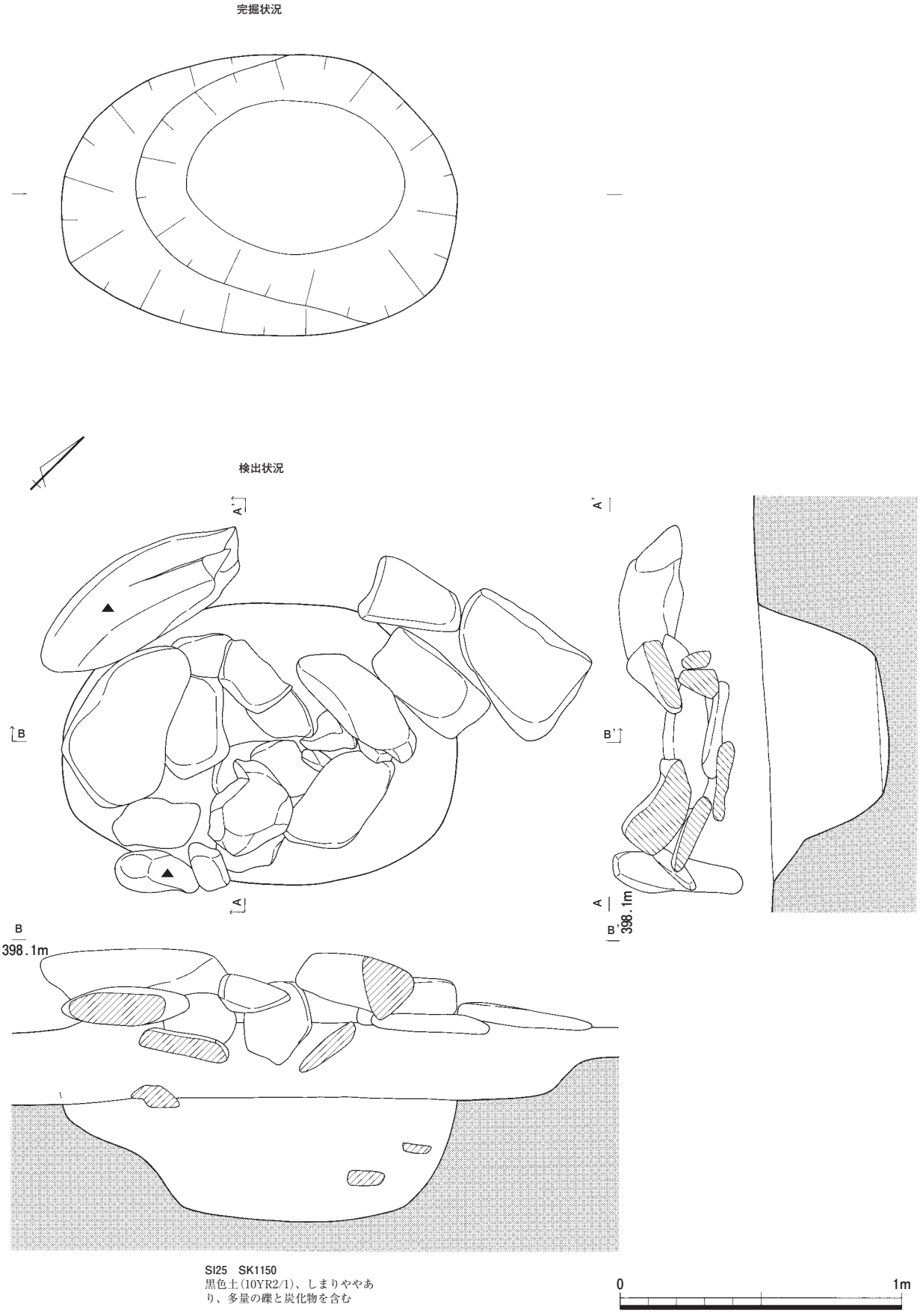


図39　第３Ａ調査面検出遺構図（６）

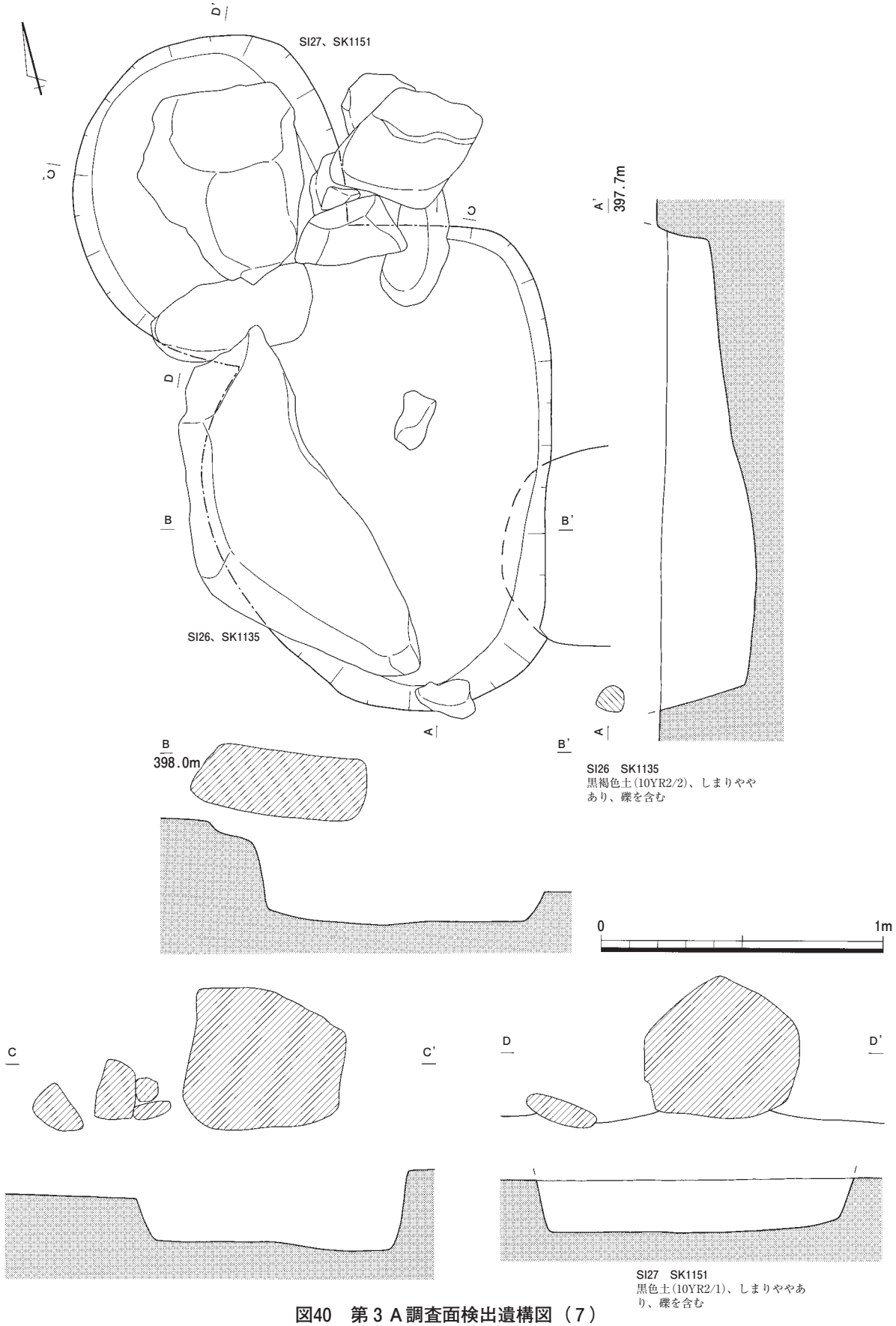


図40　第3A調査面検出遺構図（7）

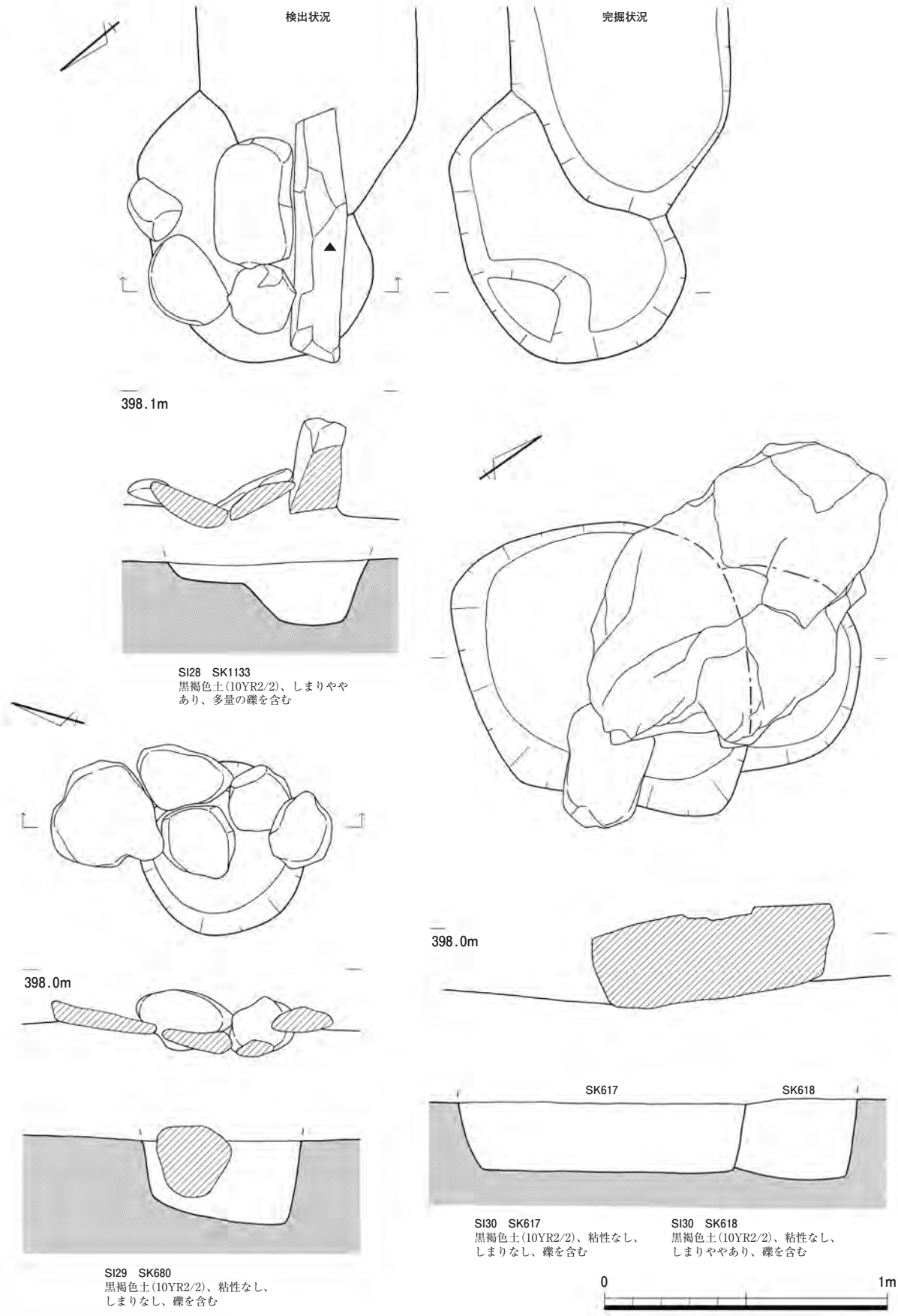


図41　第３Ａ調査面検出遺構図（８）

出土遺物　なし。

ＳＩ29・ＳＫ680（図41、図版13）

位置　Ｌ14・M15グリッドに位置し、ＳＩ20に隣接する。

上面配石　Ｖａ層中で検出した。重複遺構はない。平面形は不明で、南北長0.99ｍを測る。長径23～38㎝の礫５個を平置きとする。礫の上面は、概ね本遺構の中央に向かって下がる（配石２類）。礫の円磨度は扁平角礫である。一部の礫に被熱の痕跡が認められた。

土坑　礫除去後のＶｂ層基底面で検出した。長径0.47ｍ・短径0.43ｍ・深さ0.29ｍを測る。ＳＫ697を切る。土坑の位置は上面配石の範囲とほぼ一致しており、関連が深いと判断した。土坑の埋土中から、長径26㎝の礫１個が底面から浮いた状態で出土した。

出土遺物　上面配石の直下から、石鏃片１点・打欠石錘１点（2226）が出土した。

ＳＩ30・ＳＫ617（図41、図版13）

位置　Ｌ14グリッドに位置し、ＳＩ21に隣接する。

上面配石　Ｖａ層中で検出した。重複遺構はない。平面形は不明である。長径46㎝と134㎝の礫２個を平置きとする。礫の上面は、概ね本遺構の中央に向かって下がる（配石２類）。礫の円磨度は、角礫と扁平角礫である。いずれの礫にも被熱の痕跡が認められ、大型の礫の上面は剥離が顕著である。

土坑　礫除去後のＶｂ層基底面で検出した。長径0.87ｍ・短径0.85ｍ・深さ0.28ｍを測る。ＳＫ618・697を切る。土坑の位置は上面配石の範囲とほぼ一致しており、関連が深いと判断した。

出土遺物　なし

ＳＩ31・ＳＩ32・ＳＫ1110（図42、図版12）

位置　Ｌ15グリッドに位置し、ＳＩ22に隣接する。調査当初１基の配石遺構と認定していたが、礫の配置状況・石材の違いから、２基の重複（北側をＳＩ31・南側をＳＩ32とする。）と判断した。

上面配石　Ｖａ層中で検出した。ＳＩ31の南端の礫が、ＳＩ32の上に位置する。ＳＩ31の平面形は円形であり、直径0.64ｍを測る。一方のＳＩ32の平面形は長方形であり、長辺0.70ｍ・短辺0.55ｍを測る。ＳＩ31は中心に長径30㎝の礫１個を北西に向けて置き、やや小ぶりの長径12～23㎝の礫を平置きで縁石とする（配石１類）。礫の円磨度は大半が角礫で、扁平角礫１個を伴う。礫の下部では、土坑は検出されなかった。一方のＳＩ32は中央に長径35㎝の礫１個（以下「底石」とする）を平置きにとし、その上に長径28㎝の礫１個を長軸方向に向けて置く。底石の外周上には、礫を長手立てとし縁石とする。礫の上面は、概ね本遺構の中央に向かって下がる（配石１類）。礫の円磨度は扁平円礫が主体で角礫を伴い、石材は砂岩で占められる。

土坑　礫を除去後のＶｂ層基底面で検出した。長径0.83ｍ・短径0.40ｍ以上・深さ0.09ｍを測る。土坑の位置は上面配石（ＳＩ32）の範囲と一致しており、関連が深いと判断した。ＳＫ1107・1108・1169を切る。

出土遺物　なし。

ＳＩ33・ＳＫ1145（図42）

位置　Ｌ14グリッドに位置し、ＳＩ25に隣接する。

形状と規模　礫２個のみ遺存しているため、判断できない。平面形は不明である。

概要　Ｖｂ層中で検出した。重複遺構はない。径44㎝・60㎝の礫２個を平置きとする（配石２類）。

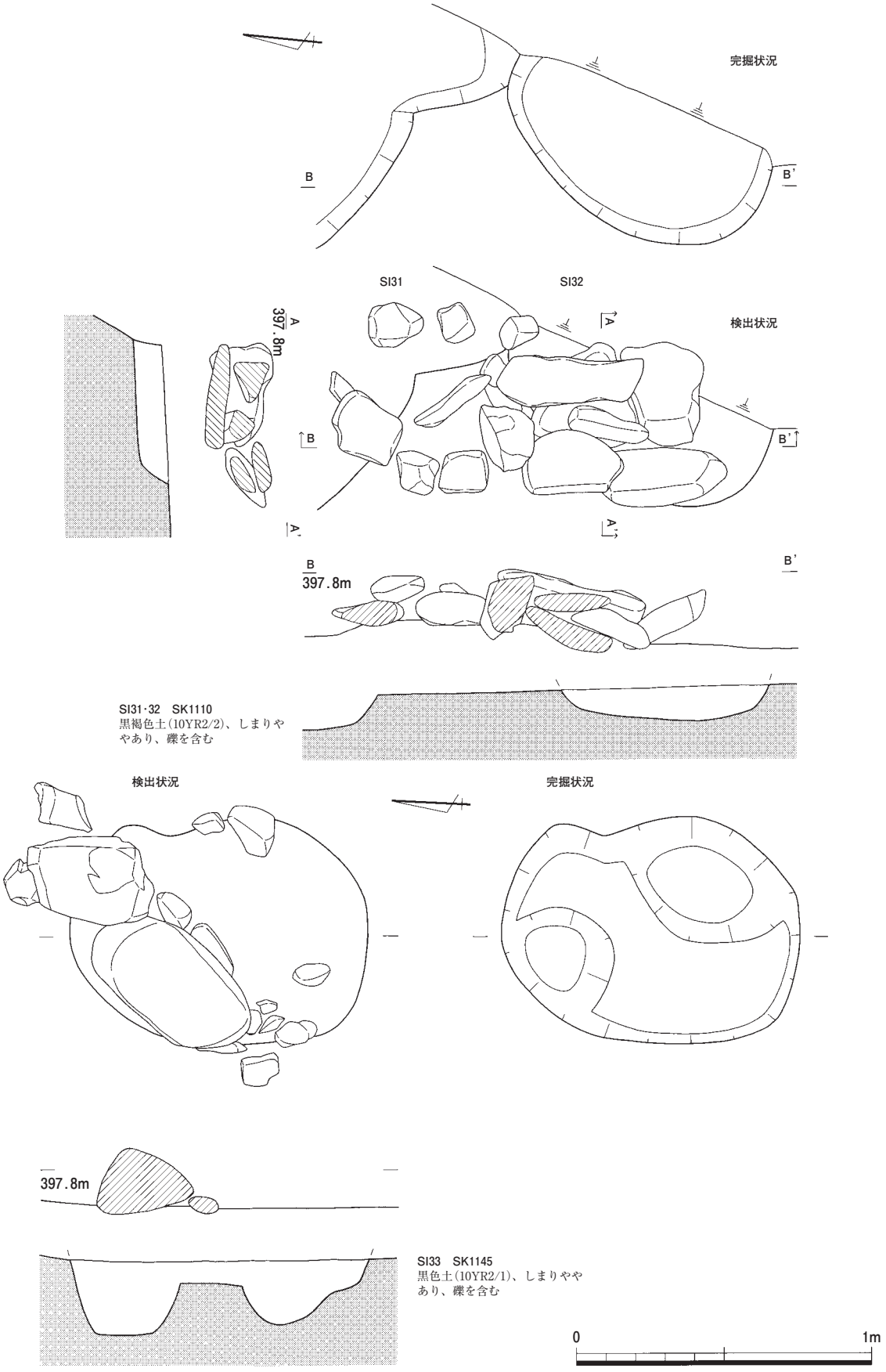


図42　第3A調査面検出遺構図（9）

礫の円磨度は角礫と亜円礫である。南側の礫には被熱の痕跡が認められた。

土坑　礫除去後のＶｂ層基底面で検出した。長径0.92m・短径0.64m・深さ0.28mを測る。土坑の位置は上面配石の範囲とほぼ一致しており、関連が深いと判断した。礫の偏りや土坑の平面形・底面の様子から、２基の土坑の重複の可能性もある。

出土遺物　なし

ＳＩ34・ＳＫ2464（図43、図版12）

位置　Ｌ14グリッドに位置し、ＳＩ30に隣接する。

上面配石　Ｖａ層中で検出した。重複遺構はない。平面形は不明で、南北長2.00mを測る。長径18～66㎝の礫を平置きとする。北半では礫の上面は概ね西に向かって下がるのに対し、離れた位置にある２個の礫はほぼ水平である（配石２類）。礫の円磨度は大半が角礫と扁平角礫で、少量の亜円礫・円礫・扁平円礫を伴う。一部の礫に被熱の痕跡が認められた。

土坑　礫除去後のＶｂ層基底面で、重複する５基の土坑を検出した。このうち、プランが完結する円形の土坑（ＳＫ2464）が、ＳＩ34に伴うと考えられる。長径0.41m・短径0.40m・深さ0.27mを測る。土坑中央で、底部を欠損する後期前葉の土器（207）が斜位で出土した（土坑Ｃ１類）。

出土遺物　上面配石の精査中に、後期後葉の土器（171）が出土した。

４　土坑

ＳＫ98（図43、図版13）

位置　Ｉ21・Ｊ21グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形で、長径0.49m・短径0.32m・深さ0.34mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑の東壁に沿って、礫１個を置く（土坑Ｂ２類）。土坑の底面は、西に向かって深くなる。

出土遺物　なし。

ＳＫ101（図43、図版13）

位置　Ｊ21グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形で、長径0.20・短径0.19・深さ0.36mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。埋土上部の土坑中央で、礫１個（長径29㎝・短径11㎝・厚さ10㎝）を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ113（図44、図版13）

位置　Ｆ19・Ｇ19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形で、長径計測不能・短径0.55m・深さ0.20mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。埋土上部で、長径５～24㎝の礫を用いて方形囲い（長辺0.76m・短辺0.54m）とする。礫は小口立て又は平置きとし、北東辺と南東辺のみ二重に配置する（土坑Ｂ２類）。礫の円磨度は大半が亜円礫で少量の角礫を伴い、被熱した礫を含む。

出土遺物　なし。

ＳＫ115（図45、図版13）

位置　Ｐ14グリッドに位置する。

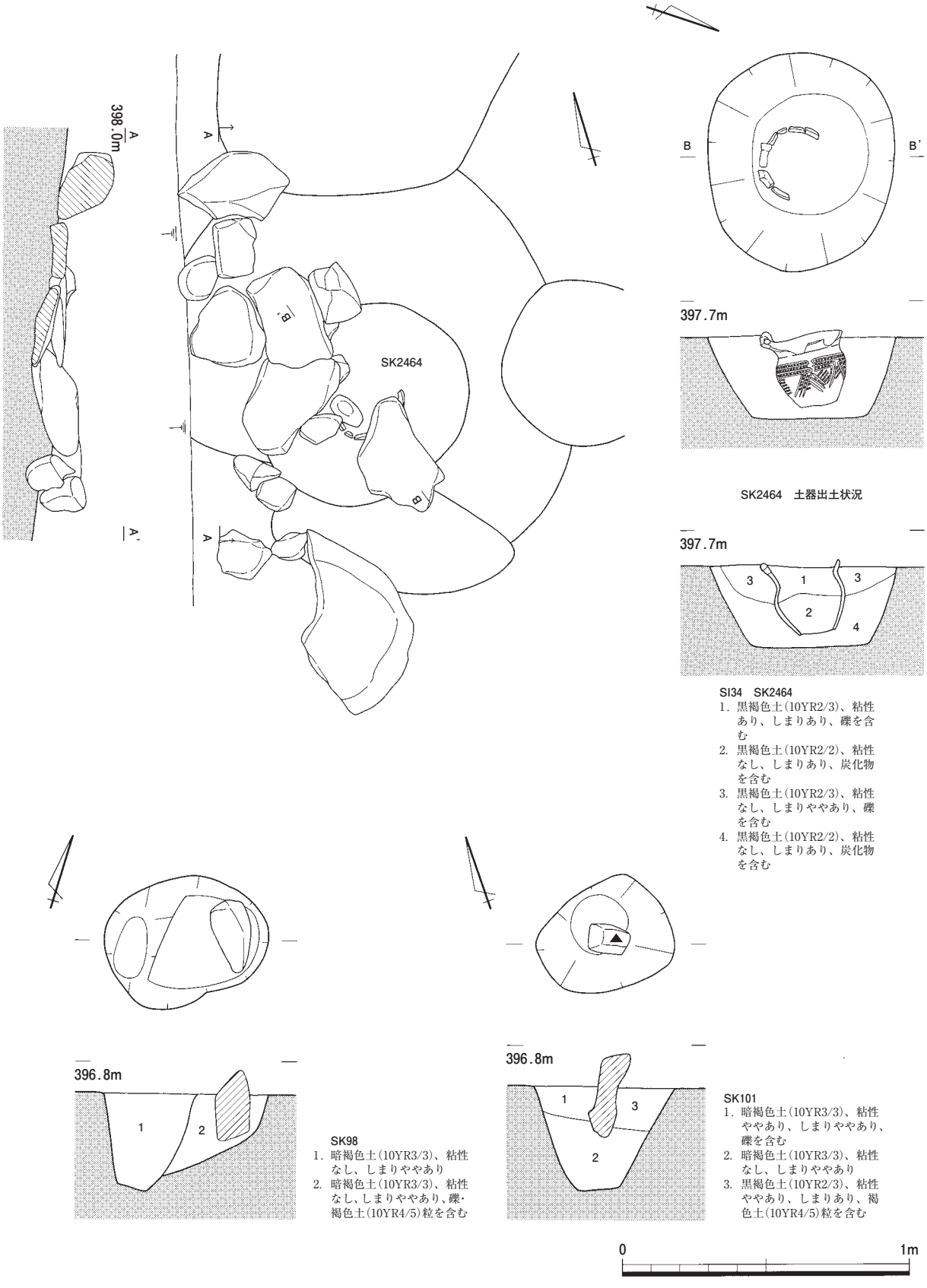


図43　第3A調査面検出遺構図（10）

形状と規模　平面形は不整円形で、長径0.60m・短径0.53m・深さ0.18mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。埋土上部で、北西辺を除く３辺では長径17～37㎝の礫を小口立てとし、北西辺ではやや小ぶりの長径15㎝程度の礫を２段に積み、方形囲いとする（土坑Ｂ２類）。礫の円磨度は大半が亜円礫で少量の亜角礫を伴い、被熱した礫を含む。なお埋土中に焼土ブロックが点在していたが、底面・壁面では被熱の痕跡は認められなかった。

出土遺物　なし。

ＳＫ116（図45、図版14）

位置　Ｇ20グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形で、上端長径1.04m・上端短径0.78m・深さ0.16mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。埋土全体にわたって、長径５～28㎝の多量の礫が検出された。礫の円磨度は大半が亜角礫で、少量の亜円礫を伴う。また、土器片も埋土全体にわたって出土した。接合作業の結果、土器（175）は口縁部から胴部下半まで遺存し、器面を一周した（土坑Ｅ類）。

出土遺物　埋土から、中期後葉の土器（175～181）・石鏃１点・掻器１点・石皿１点が出土した。

ＳＫ118（図46、図版14）

位置　Ｉ21グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形で、長径0.55m・短径0.46m・深さ0.17mを測る。

概要　Ｖｂ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土上部で、長径19～40㎝の礫を２列に長手置きとする（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は亜円礫又は亜角礫で、被熱した礫を含む。

出土遺物　埋土から、後期初頭の土器（190）が出土した。

ＳＫ124（図44、図版13）

位置　Ｊ５グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.51m・短径0.28m・深さ0.09mを測る。

概要　Ｖｂ層上面で検出した。重複遺構はない。長径33～40㎝の礫４個を花弁状に平置きとし、中心にやや小ぶりの礫１個を置く。礫の上面は、概ね本遺構の中央に向かって下がる（土坑Ｂ２類）。礫の円磨度は、扁平円礫と扁平角礫である。

出土遺物　なし。

ＳＫ125（図45、図版14）

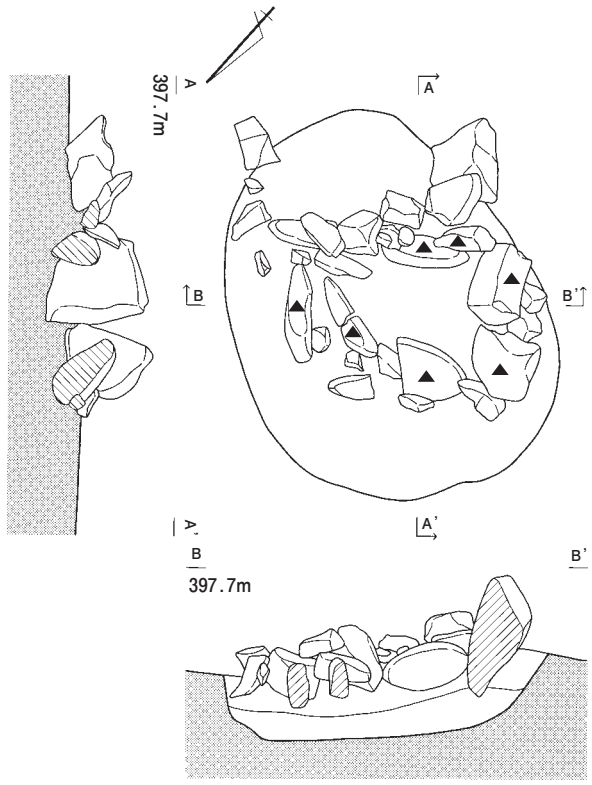
位置　Ｈ14グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形で、長径1.07m・短径0.82m・深さ0.50mを測る。

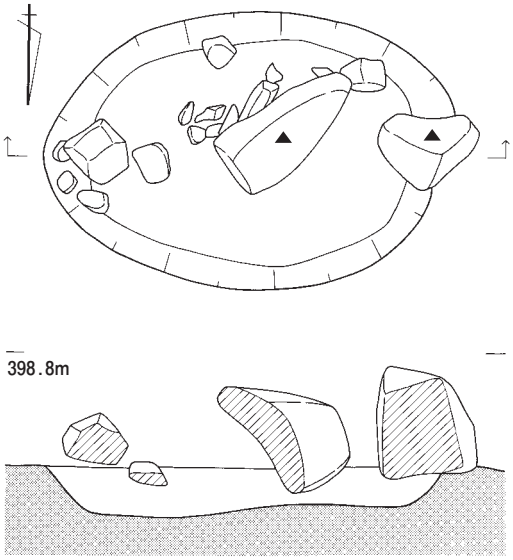
概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ925に切られる。埋土全体にわたって、長径８～43㎝の多量の礫が検出された（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は亜円礫が主体で、少量の亜角礫を伴う。北西端にある長径0.5m程度の不整楕円形の土坑と重複し、土坑中央の埋土上部で亜円礫１個（長径40㎝・幅29㎝・厚さ10㎝）を長手立てとするが、本遺構との切り合い関係を現地調査で明らかにすることはできなかった。

出土遺物　なし。

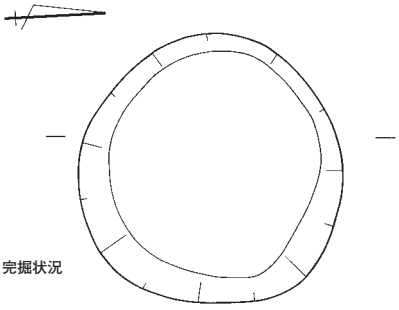
ＳＫ128（図46、図版14）

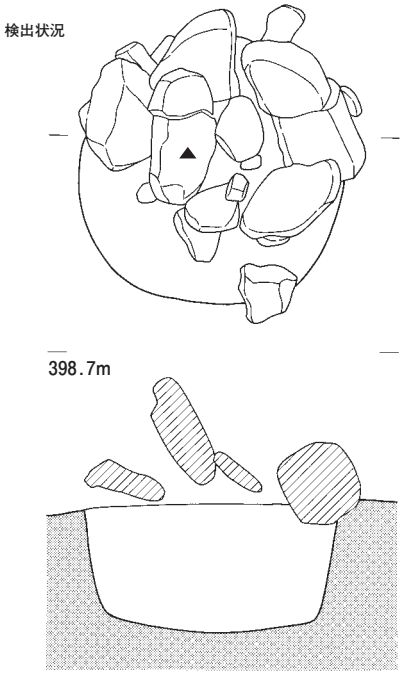


SK113
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりなし、多量の礫を含む
2. 黒褐色土(7.5YR2/2)、粘性ややあり、しまりなし

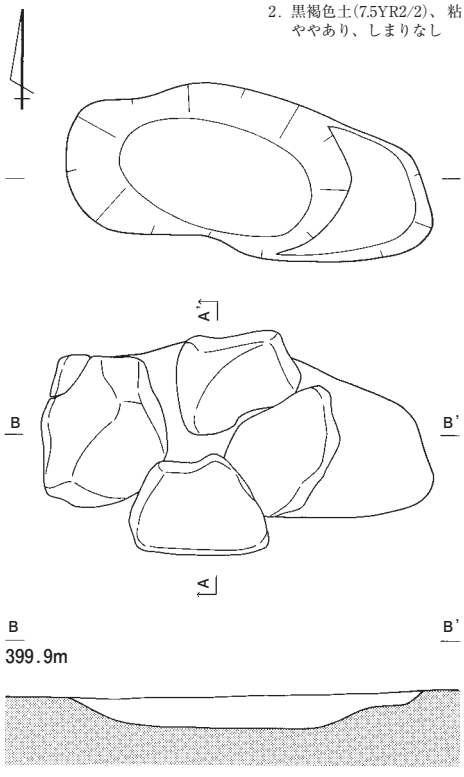


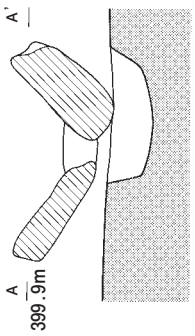
SK218
黒褐色土(10YR3/2)、礫を含む





SK941
黒褐色土(10YR2/2)、しまりやや あり、礫・炭化物を含む





SK124
黒褐色土(5YR2/1)、礫を含む

図44　第3A調査面検出遺構図（11）

位置　K 7 グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形で、上端長径0.49m・上端短径0.47m・深さ0.17mを測る。

概要　Ｖｂ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土上部の土坑中央で、口縁部を欠損する後期前葉の土器（194）が正位で出土した（土坑Ｃ１類）。

出土遺物　土器（194）のみが出土した。

ＳＫ129（図46、図版14）

位置　J 10グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形で、上端長径0.70m・上端短径0.54m・深さ0.19mを測る。

概要　Ｖｂ層上面で検出した。ＳＫ780を切る。埋土上部の土坑中央で、後期前葉の土器片が集中的に出土した。接合作業の結果、土器（193）は胴部上半を欠損するものの器面を一周した（土坑Ｃ２類）。

出土遺物　埋土から、ＲＦ１点・ＵＦ１点・切目石錘１点が出土した。

ＳＫ130（図46、図版14）

位置　L 16グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形で、長径0.7m・短径0.45m・深さ0.29mを測る。

概要　Ｖａ層上面で検出した。重複遺構はない。底面は西側で段状に下がる。埋土上部の中央やや西側で、後期中葉の土器片と少量の礫が集中的に出土した。接合作業の結果、土器（195）は口縁部から底部まで遺存し器面を半周した（土坑Ｅ類）。

出土遺物　土器（195）のみが出土した。

ＳＫ131（図46、図版14）

位置　K 12グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形で、上端長径0.54m・上端短径0.45m・深さ0.38mを測る。

概要　Ｖｂ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土上部の土坑中央で、口縁部の一部と底部を欠損する後期初頭の土器（196）が、ほぼ正位で出土した（土坑Ｃ１類）。

出土遺物　埋土から、ＲＦ２点が出土した。

ＳＫ132（図46、図版15）

位置　O 15グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形で、上端長径0.48m・上端短径0.47m・深さ0.14mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面のＳＢ16埋土上面で検出した。重複遺構はない。埋土上部の土坑中央で、口縁部を欠損する後期前葉の土器（197・199）が、斜位で出土した（土坑Ｃ２類）。

出土遺物　埋土から、石鏃２点と骨片が出土した。

ＳＫ218（図44）

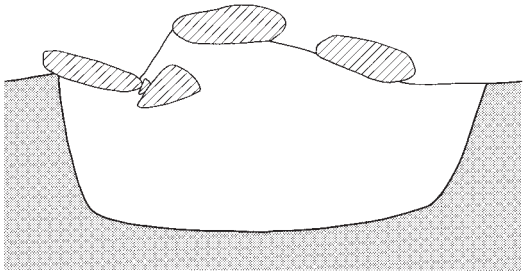
位置　Ｈ６グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.85m・短径0.60m・深さ0.14mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑西端にの亜角礫１個（長径30㎝・短径27㎝・厚さ18㎝）を長手立てとし、土坑の中央に長径40㎝の亜円礫を小口立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

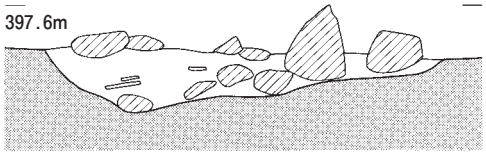
出土遺物　なし。

397.9m

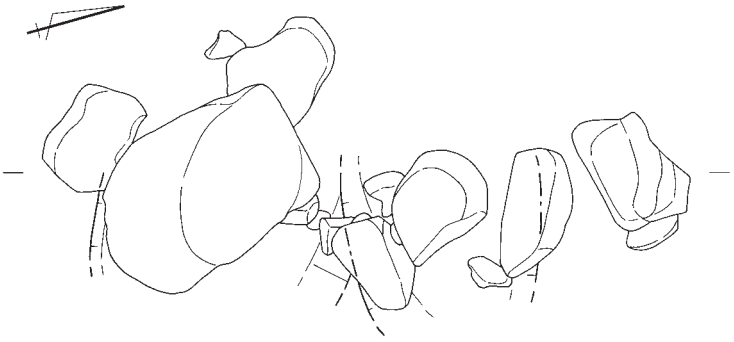


SK125
黒褐色土(10YR2/2)、しまりなし、多量の礫を含む

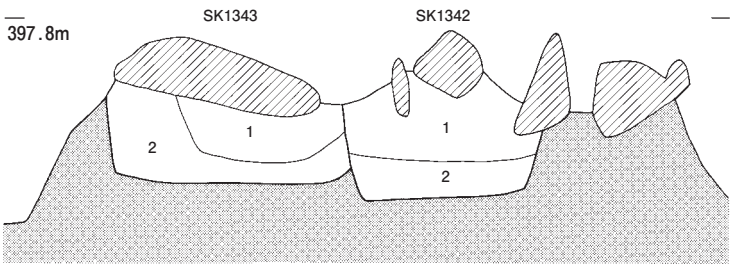
397.6m



SK116
黒褐色土(10YR2/2)、シルト質、多量の礫を含む

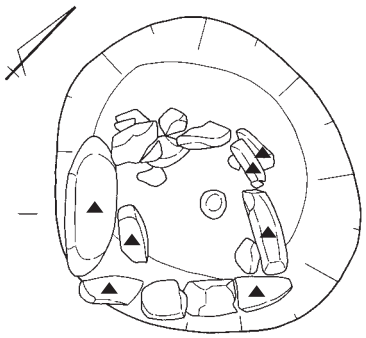


397.8m

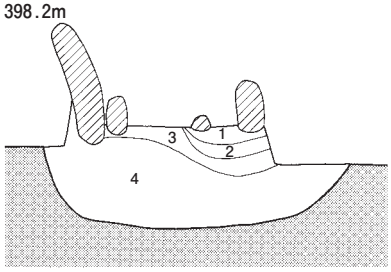


SK1343
1. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりあり、礫・少量の炭化物を含む
2. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりあり、礫・少量の炭化物を含む

SK1342
1. 黒色土(2.5Y2/1)、粘性ややあり、しまりあり、礫を含む
2. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性ややあり、しまりあり、多量の礫を含む



398.2m



SK115
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりややあり、礫･少量の炭化物を含む
2. 赤色土(10R4/6、焼土ブロック)
3. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりややあり、礫･焼土･炭化物を含む
4. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫･少量の焼土ブロックを含む

図45　第3A調査面検出遺構図（12）

ＳＫ941（図44、図版15）

位置　Ｋ９グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は円形である。長径0.6m・短径0.6m・深さ0.4mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出したが、埋土中の礫は、本調査面のＶｂ層中で検出した。重複遺構はない。中央の円礫１個（長径45㎝・短径20㎝・厚さ20㎝）を長手立てとし、南西端に30～35㎝程度の礫２個を平置きとする（土坑Ｄ１ｂ）。礫の上面は、概ね本遺構の中央に向かって下がる。礫の円磨度は、亜円礫又は円礫で占められる。北端の立石は被熱による表面の剥離が顕著で、石囲炉の炉石の転用の可能性がある。

出土遺物　なし。

ＳＫ1342・ＳＫ1343（図45）

位置　M16グリッドに位置する。

形状と規模　礫の並ぶ向きに合わせて南北方向に断ち割ったところ、複数の土坑の立ち上がりが認められ、うち北側をＳＫ1342（短径0.44m・深さ0.25m）、南側をＳＫ1343（短径0.55m・深さ0.22m）とした。プランの全体を検出することはできなかったため、土坑の長径と平面形は不明である。

概要　Ｖａ層中で検出した。ＳＫ1342がＳＫ1343を切る。ＳＫ1342では、埋土上部で長径30㎝前後の礫を平置き又は小口立てとし、列状に配置する（土坑Ｄ１ｂ類）。ＳＫ1343では、長径28㎝と59㎝の礫が浮上する（土坑Ｄ２ｂ類）。いずれも礫の円磨度は亜円礫で占められる。

出土遺物　礫の直下で後期中葉から後葉の土器（174）が、ＳＫ1342の埋土からＵＦ１点と骨片が出土した。

５　埋設土器

ＳＺ６（図46、図版15）

位置　Ｉ13・Ｊ14グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形で、長径0.50m・短径0.40m・深さ0.27mを測る。

概要　Ｖｂ層上面で検出した。重複遺構はない。胴部上半を欠損する後期前葉の土器（200）が、正位で出土した。

出土遺物　土器（200）のみが出土した。

６　遺物集積

ＳＵ１（図版15）

位置　Ｈ６グリッドに位置する。

概要　Ｖｂ層中で検出した。重複遺構はない。２個体の土器が集中的に出土した。

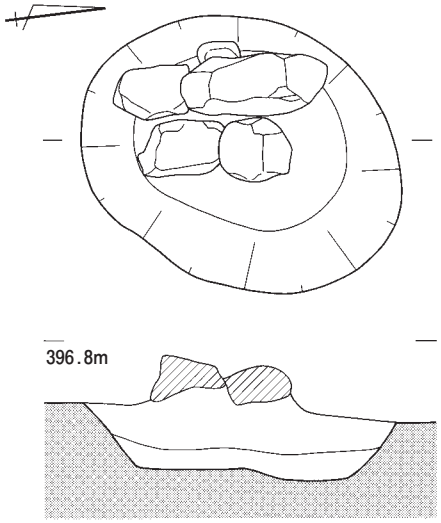
出土遺物　中期後葉の土器（203～206）が出土した。

ＳＵ２（図46、図版15）

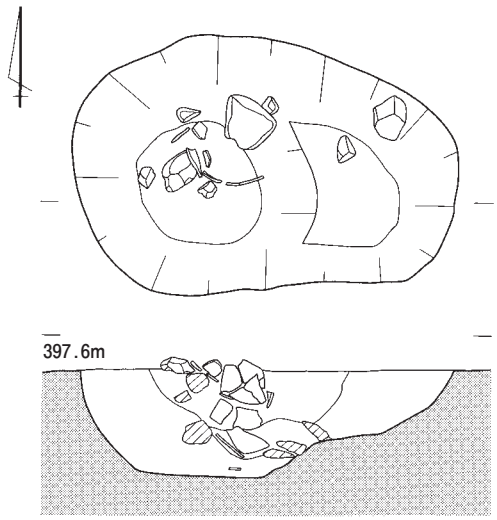
位置　Q16グリッド、ＳＢ６の北東部に隣接する。

概要　Ｖａ層中で検出した。重複遺構はない。３個体の土器が、東西0.71m・南北0.42mの範囲で集中的に出土した。

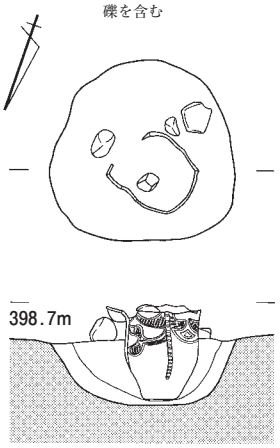
出土遺物　中期後葉の土器（198・201・202）が出土した。



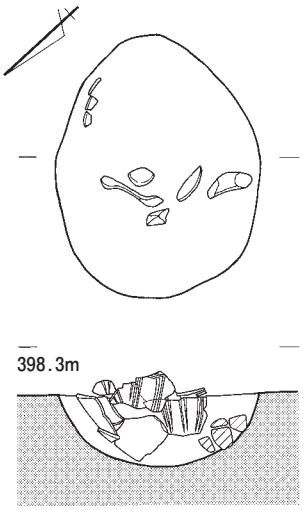
SK118
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性ややあり、しまりややあり、褐色砂礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、多量の褐色砂礫を含む



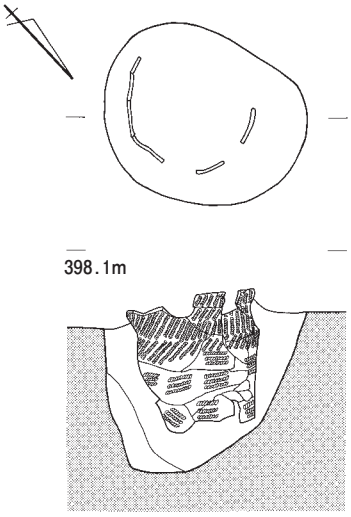
SK130
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性ややあり、しまりあり、礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/4)、粘性ややあり、しまりややあり
3. 暗褐色土(10YR3/4)、粘性なし、しまりあり、多量の礫を含む
4. 暗褐色土(10YR3/4)粘性ややあり、しまりややあり、多量の礫を含む



SK128
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性ややあり、しまりなし

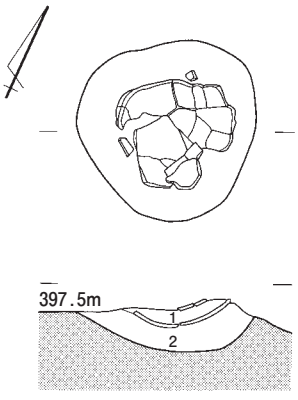


SK129
暗褐色土(10YR3/3)

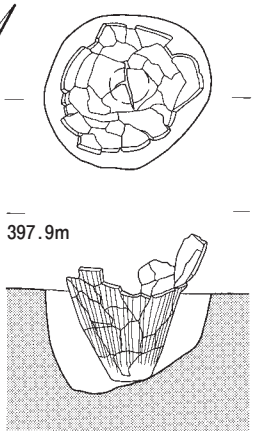


SK131
1. 黒褐色土、粘性あり、しまりあり、礫を含む
2. 黒褐色土、粘性ややあり、しまりややあり

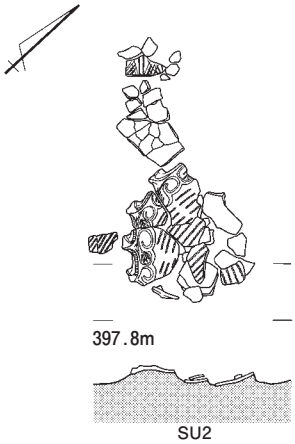
土器内部
黒褐色土、粘性なし、しまりあり、礫を含む



SK132
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし
2. 黒褐色土(10YR2/2、1よりやや暗い)、8 粘性なし、しまりなし



SZ 6
1. 黒褐色土(10YR3/1)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



SU2

図46　第3A調査面検出遺構図（13）

第５節　第３Ｂ調査面

第３Ｂ調査面では地点によって検出面の土層が異なり（図７）、特にⅥ・Ⅶ・Ⅷ層上面における遺構の検出は困難であった。標高ではＨ３グリッドが最も高く（約399.0m）、Ｎ24グリッド及びＵ28グリッドが最も低い（約396.0m）。当調査面の形状をみると、遺構密度の高い調査区中央ではほぼ平坦で、遺構密度が低い地区では南に向かって傾斜する。特にＮ22グリッドからＮ24グリッドにかけては急で、段丘斜面に向けて浸食した可能性が考えられる。

図47　第３Ｂ調査面全体図

１　竪穴住居跡

ＳＢ５（現場名ＳＸ８、図48・49、図版17）

位置　Ｇ８・Ｇ９・Ｈ８・Ｈ９グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層中で検出した。竪穴の南西隅が削平され、Ⅸａ層中で遺構を検出した。ＳＫ2441・2442との重複が認められるが、調査段階で切り合い関係を明らかにすることはできなかった。埋土は単層で、亜円礫が多く含まれた。

形状と規模　平面形は円形と考えられる。長径4.12ｍ以上・短径3.87ｍ以上・床面積13.50㎡以上を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.16ｍを測り、壁は竪穴が遺存している箇所ではわずかに立ち上がる。当初ＳＦ31の検出面が床面と想定されたが、同一面で遺構を検出することができずⅨａ層上面に達したため、検出面は凹凸が著しく、竪穴の掘形に達した可能性がある。このような調査経緯から、ＳＦ31の検出面以下に最大厚約８㎝の貼床が存在したことが想定される。ただし、明確な硬化面は認められなかった。

施設　竪穴の内部で８基の遺構を検出した。柱穴は４基（Ｐ121・122・125・127）が想定できる。Ｐ121・127とＰ122・125は、竪穴の長軸を挟んで左右対称に位置する。Ｐ124とＰ126も長軸に左右対称に配置されているが、どのような性格の柱穴であるか不明である。石囲炉ＳＦ31（図49左下）は軸線上に位置する。炉石のうち西辺は抜き取られているが、他の３辺は遺存していた。いずれも礫の円磨度は、円礫又は亜円礫である。南北辺は上下二段に積まれ、南辺の礫は平坦面を上に向けて水平に置かれていた。３辺の炉石を安定させるために、掘形との隙間には亜角礫が詰められていたが、南西隅には亜円礫１個を立石状に配置していた。炉跡の内部には、北半に土器片（216・217・219・220）が敷かれ、その直上に焼土粒混じりの黒褐色土が堆積していた。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・炭化物が散在的に出土した。土器は中期後葉で占められる。石器については、石核１点・石鏃７点・石錐３点・削器１点・ＲＦ９点・ＵＦ３点・磨・敲石類４点・打欠石錘３点・切目石錘６点が出土した。

所属時期　ＳＦ31の土器敷きの土器から、中期後葉（第４段階）と判断する。

ＳＢ６（現場名ＳＸ９、図50～53、図版17・18）

位置　Ｐ16・Ｐ17・Ｑ17グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層中で検出した。ＳＫ424～426に切られ、ＳＫ440・497を切る。埋土は５層に分けられ、亜円礫又は亜角礫が多く含まれた。土層は東側に偏った堆積である。

形状と規模　平面形は不整円形である。長径5.36ｍ・短径4.86ｍ・床面積19.40㎡以上を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.66ｍを測り、南北壁は垂直に近く立ち上がるが、東西壁は比較的緩やかに傾斜する。埋土の５層上面でやや硬化が認められ床面の可能性があったが、遺構が検出されないために掘削を進め、Ⅸａ層上面で遺構を検出したため、結果的に竪穴中央に位置する埋甕ＳＺ７の土器が、竪穴の掘形の底面から約10㎝露出した。このことから、５層は貼床であったと解釈できる。

施設　竪穴の内部で26基の遺構を検出した。柱穴は６基（Ｐ129・135・136・140・145・152）が想定できる（柱配置１）。Ｐ135・145を結ぶ線を軸として、Ｐ129・152とＰ136・140が左右対称に位

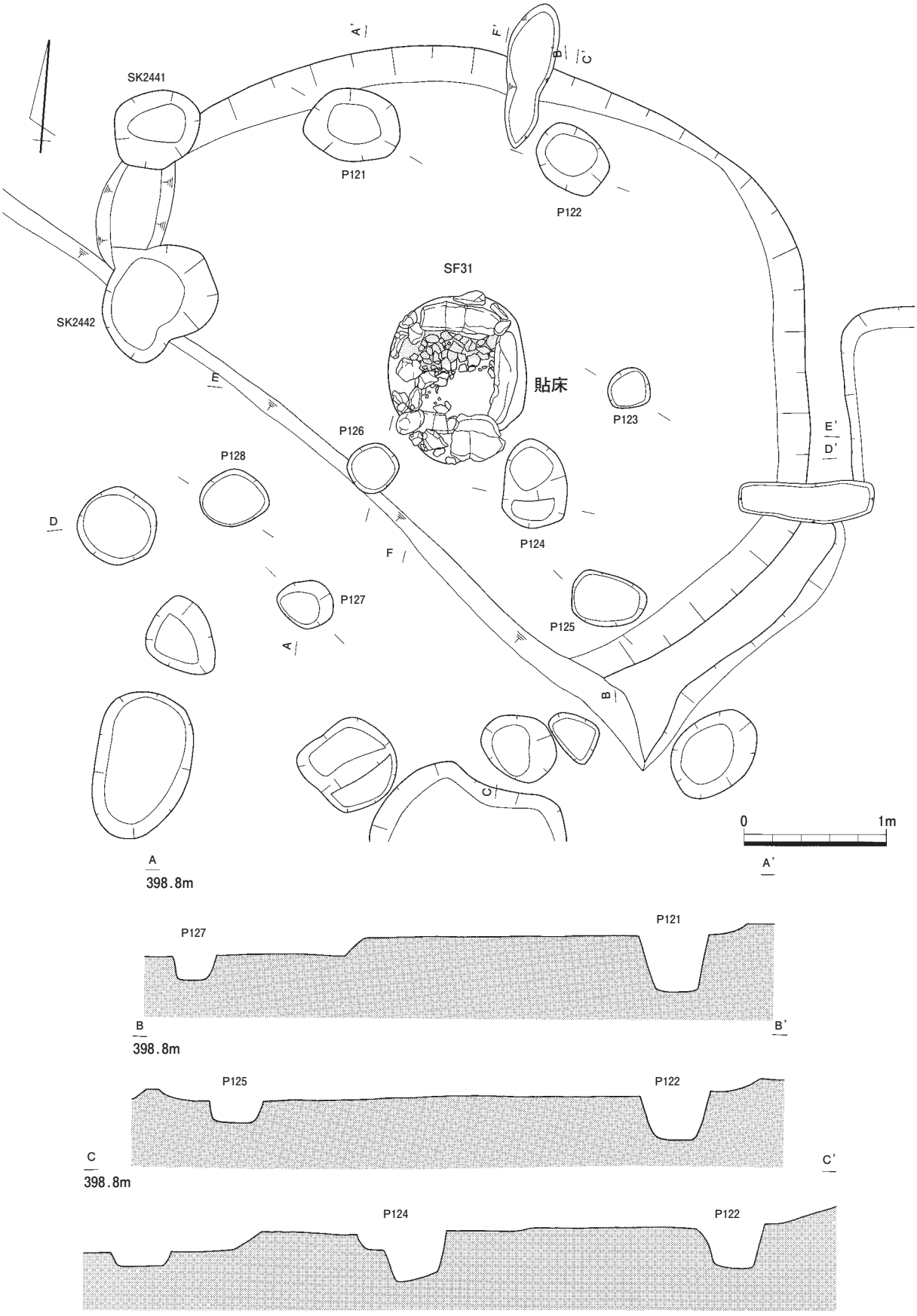
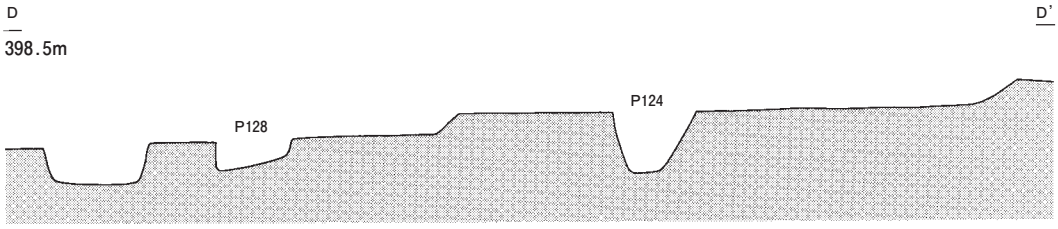
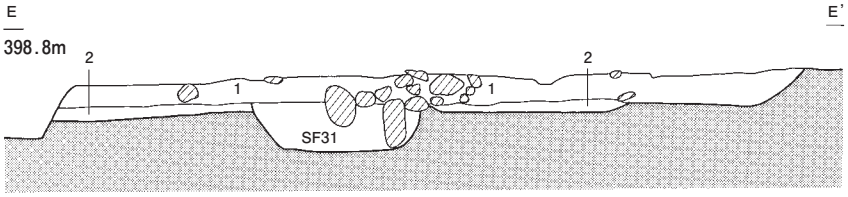
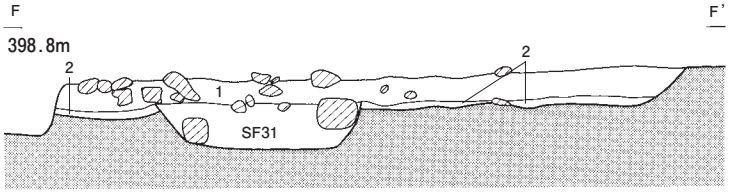

SK2441
SK2442
SF31
貼床
P121
P122
P123
P124
P125
P126
P127
P128
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
0
1m
398.8m
398.8m
398.8m

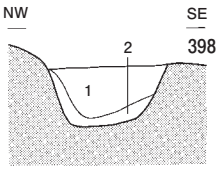
図48　SB5遺構図（1）



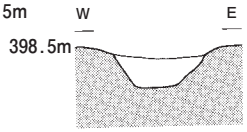


1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性ややあり、しまりややあり、多量の礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性あり、しまりあり

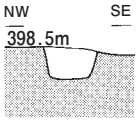




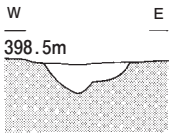
P121
1. 黒褐色土(10YR2/2)、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR3/2)、礫を含む



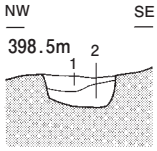
P122
黒色土(10YR2/1)、しまりややあり、礫・炭化物を含む



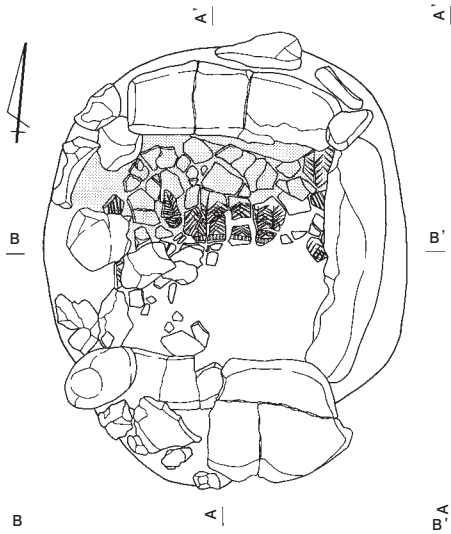
P123
黒褐色土(10YR2/3)、しまりややあり、礫を含む

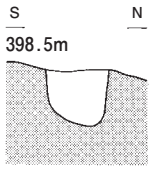


P124
黒色土(10YR2/1)、しまりややあり、礫を含む

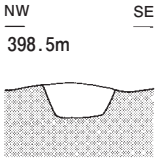


P125
1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/3)、しまりややあり、礫を含む

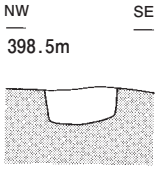




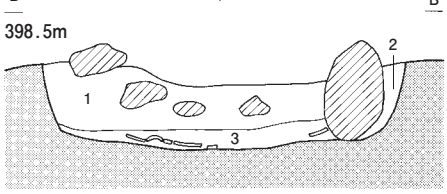
P126
黒色土 (10YR1.7/1)、しまりややあり、礫を含む



P127
黒褐色土(10YR2/3)、しまりなし、多量の礫を含む



P128
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、多量の礫を含む



SF31
1. 黒色土(10YR1.7/1)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2、やや茶色)、しまりややあり、礫・焼土粒を含む
4. 暗赤褐色土(5YR3/6、焼土)、しまりあり

図49　SB5遺構図（2）

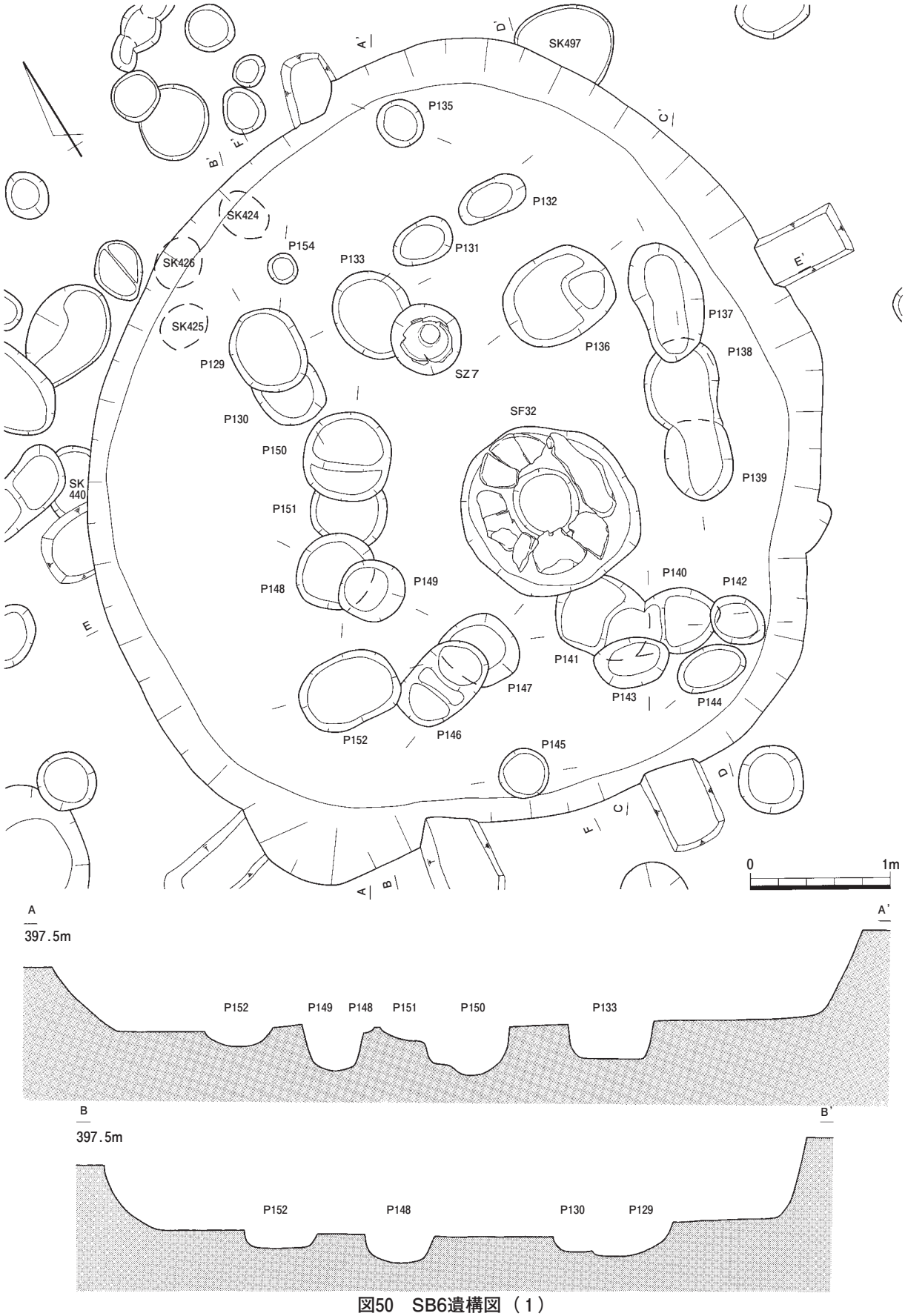
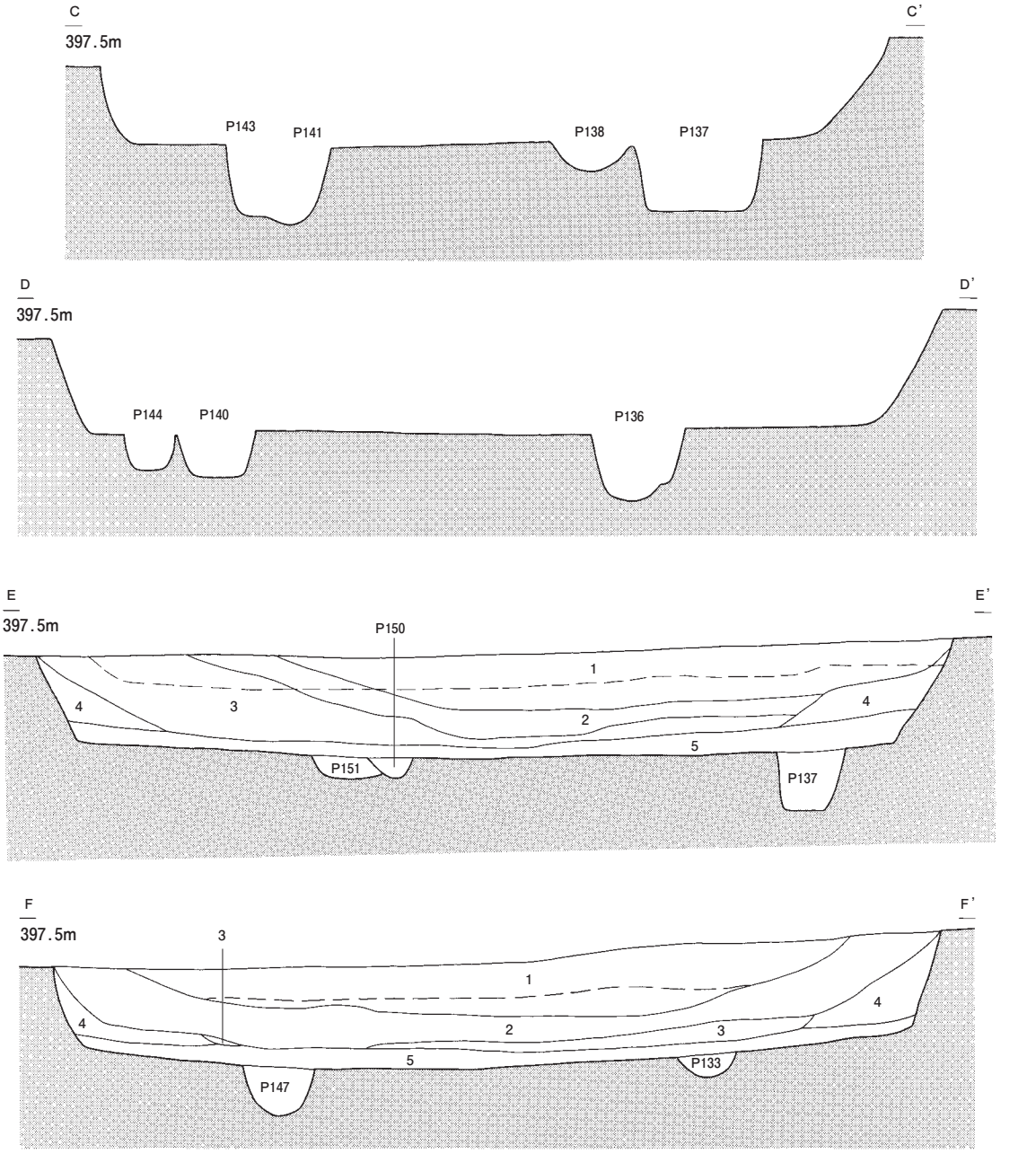
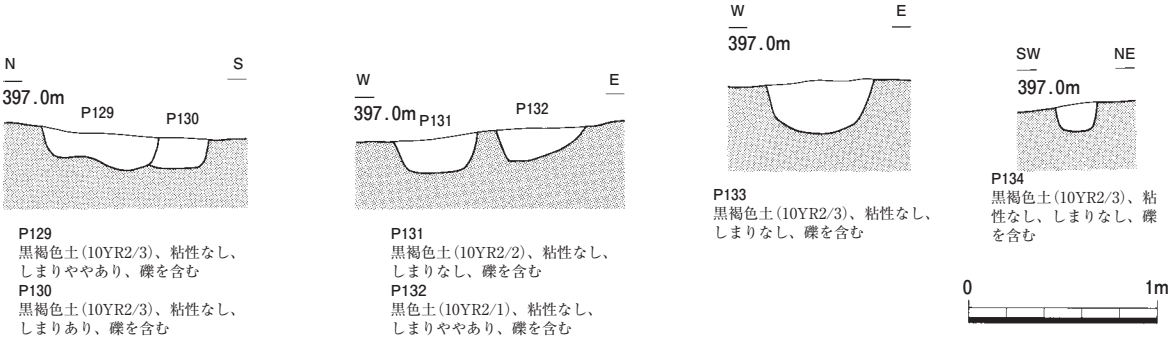

SK497
P135
P132
P131
P133
P154
SK424
SK426
SK425
P129
P130
P150
P151
P148
P149
SZ7
P136
P137
P138
P139
SF32
P140
P142
P141
P143
P144
P147
P146
P152
P145
SK
440
A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
0
1m
397.5m
397.5m

図50　SB6遺構図（1）



1. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫と骨片を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む
3. 暗褐色土(10YR3/4)、粘性なし、しまりなし、礫･骨片を含む
4. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む
5. 褐色土(10YR4/4)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む

点線は01年調査の開始地点を示す。



P129
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む

P130
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりあり、礫を含む

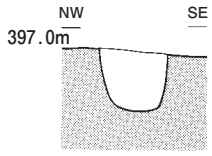
P131
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

P132
黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む

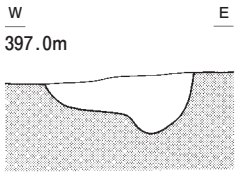
P133
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

P134
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

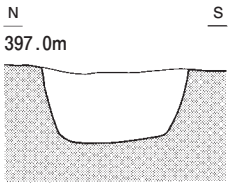
図51　SB6遺構図（2）



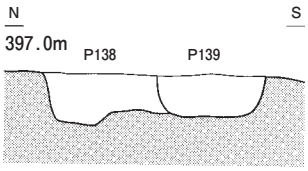
P135
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



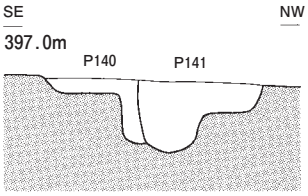
P136
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む



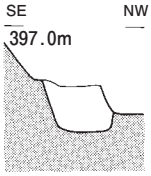
P137
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



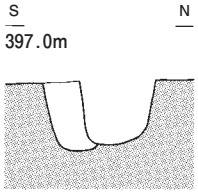
P138
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
P139
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



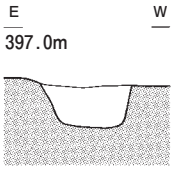
P140
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
P141
黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



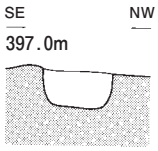
P142
黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



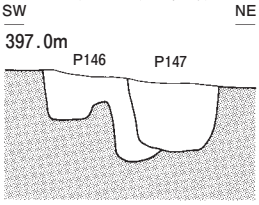
P143
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりあり、礫を含む



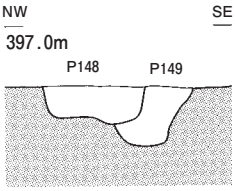
P144
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



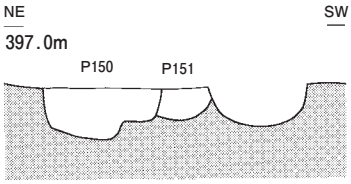
P145
黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



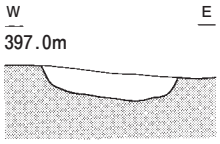
P146
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
P147
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりあり、礫を含む



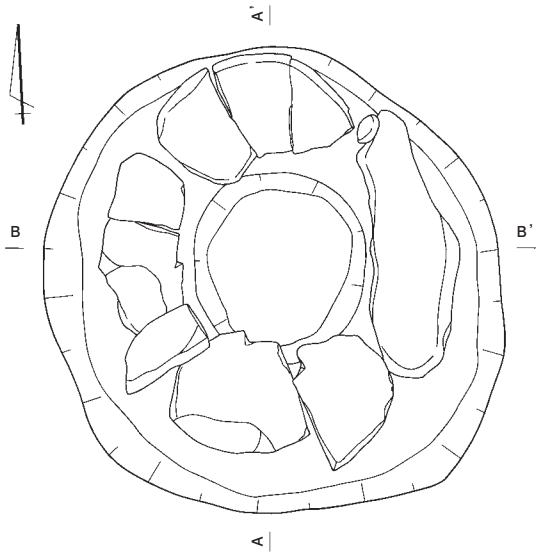
P148
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
P149
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む

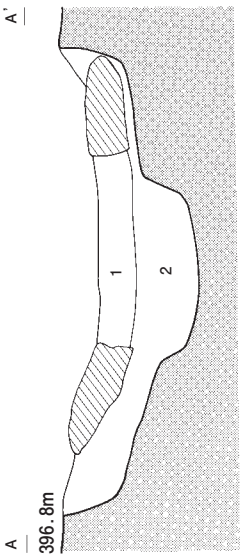


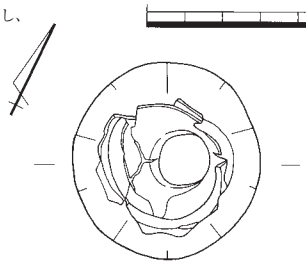
P150
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む
P151
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む

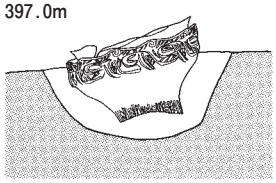


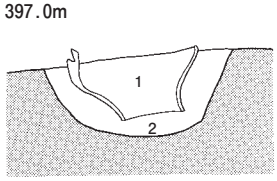
P152
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



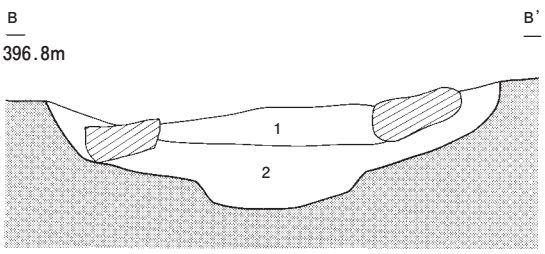








SZ7
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



SF32
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり、少量の礫を含む

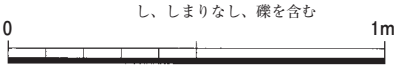


図52　SB6遺構図（3）

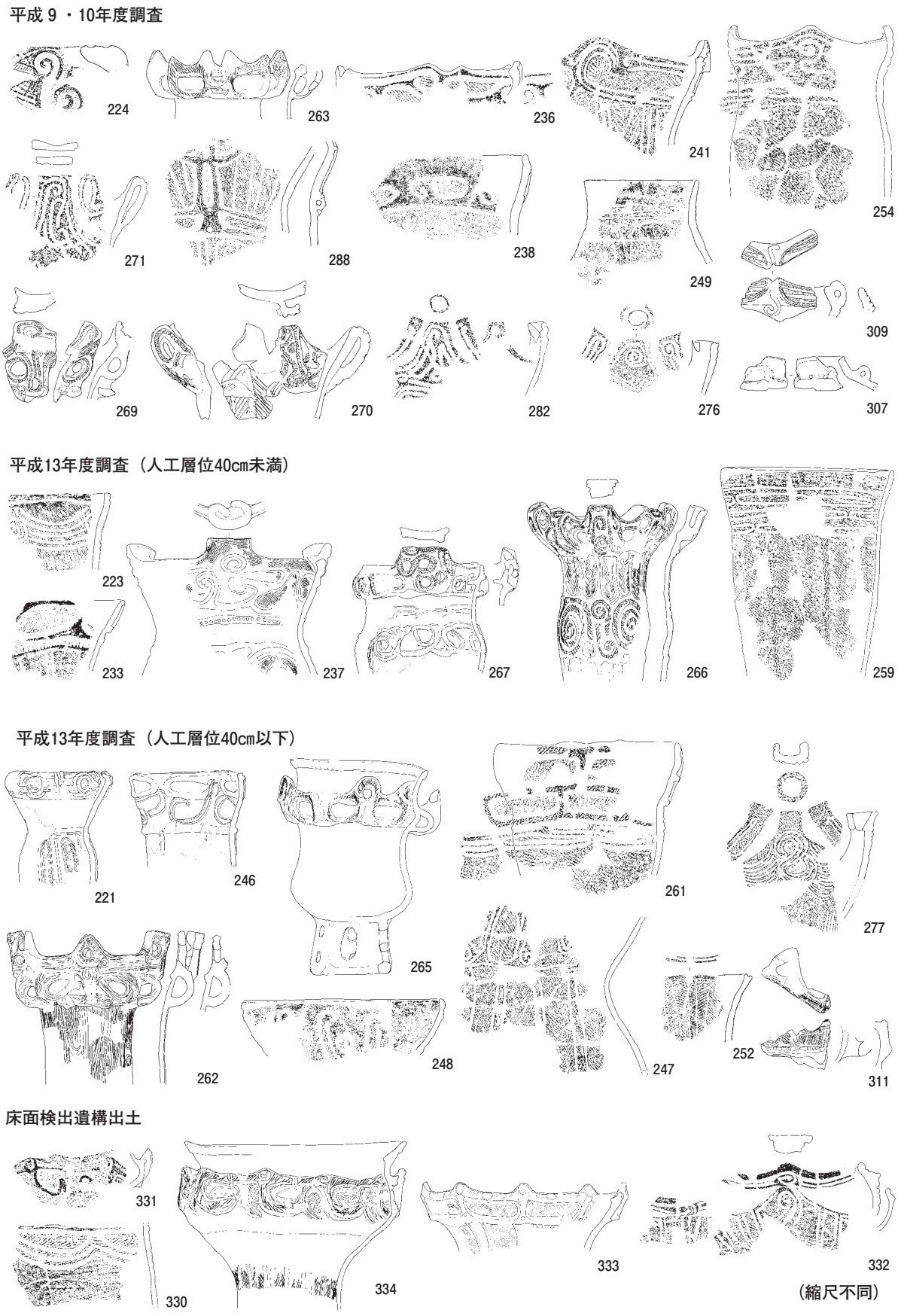


図53　SB6の主な土器の出土状況模式図

置する。これとは別に、4基（P133・137・143・149）が想定できる（柱配置2）。P133・149とP137・143の中点を結ぶ線を軸として、P133・137とP143・149が対称に位置する。遺構の重複関係では、柱配置1の長軸上に位置するＳＺ7がP133（柱配置2）を切り、P140（柱配置1）がP143（柱配置2）を切ることを確認しているため、柱配置2が柱配置1に先行することは明白である。石囲炉ＳＦ32（図52左下）は、柱配置1の長軸線から東寄りに位置する。炉石は扁平な亜円礫の平坦な面を上にして、東側に細長い礫を置いてやや小ぶりの礫で弧状に囲む。炉跡の内部には焼土が認められなかったが、炉石の内側と底面で被熱の痕跡が認められた。炉石は底面から離れた位置に据えられていることから、作り替えの可能性がある。埋甕ＳＺ7（図52右下）はP129とP136の柱間中央に位置し、胴部下半を欠いた土器が斜位に出土した。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器･石器･炭化物･骨片が多く出土した。土器は、早期中葉（1436）から中期中葉が認められるが、主体は中期後葉であり、特に4層付近では完形に近い土器が多い（図53）。石器は、分割礫1点・石核1点・石鏃24点・石鏃未製品1点・石錐5点・石匙1点・掻器5点・削器1点・ヘラ形石器4点・楔形石器7点・ＲＦ35点・ＵＦ20点・打製石斧1点・磨・敲石類9点・打欠石錘6点・切目石錘27点・磨製石斧2点・石皿1点が出土した。

所属時期　ＳＦ32・P145・ＳＺ7出土土器（順に330・331・334）から、中期後葉（第2段階）と判断する。

ＳＢ7（現場名ＳＸ12、図54・55、図版19）

位置　Ｋ8・Ｋ9・Ｌ9グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層上面で検出した。ＳＢ15に切られる。埋土は2層に分けられ、亜円礫又は亜角礫が多く含まれた。土層は水平に堆積する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径4.87m・短径4.06m・床面積13.55㎡以上を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約40㎝を測り、壁は明瞭に立ち上がる。明確な貼床や硬化面は確認できず、Ⅸａ層上面で遺構を検出した。床面はほぼ水平である。

施設　床面で4基の遺構を検出した。この他に、ＳＢ15で検出したP156がある。柱穴は4基（P153・154・155・156）が想定できる。石囲炉ＳＦ33（図55下）は竪穴の長軸上に位置する。炉跡の内部にはよく焼けてしまりのある焼土が検出され、焼土上面の中央は削られてやや窪んだ形状であった。焼土の直下に、土器片（401）が内面を上にして敷かれていた。焼土の外側に焼土を切る別の掘形があることから、炉石の抜き取りの痕跡の可能性がある。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物・骨片が散在的に出土した。土器は、早期後葉（1441）・中期中葉と、中期後葉から後期初頭までの時期幅がある。ただし主体は中期後葉である。石器は、石核4点・石鏃14点・石錐3点・ノッチドスクレイパー1点・ヘラ形石器2点・楔形石器7点・ＲＦ7点・ＵＦ6点・打製石斧1点・磨・敲石類4点・打欠石錘9点・切目石錘34点・磨製石斧1点・石皿1点が出土した。

所属時期　ＳＦ33の土器敷き及び出土土器の主体から、中期後葉（第4段階）と判断する。

ＳＢ8（現場名ＳＸ15、図56～58、図版19・20）

位置　Ｉ20・Ｉ21グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層中で検出した。ＳＺ13・ＳＫ1563・1625・1712・1713に切られる。竪穴の南壁・

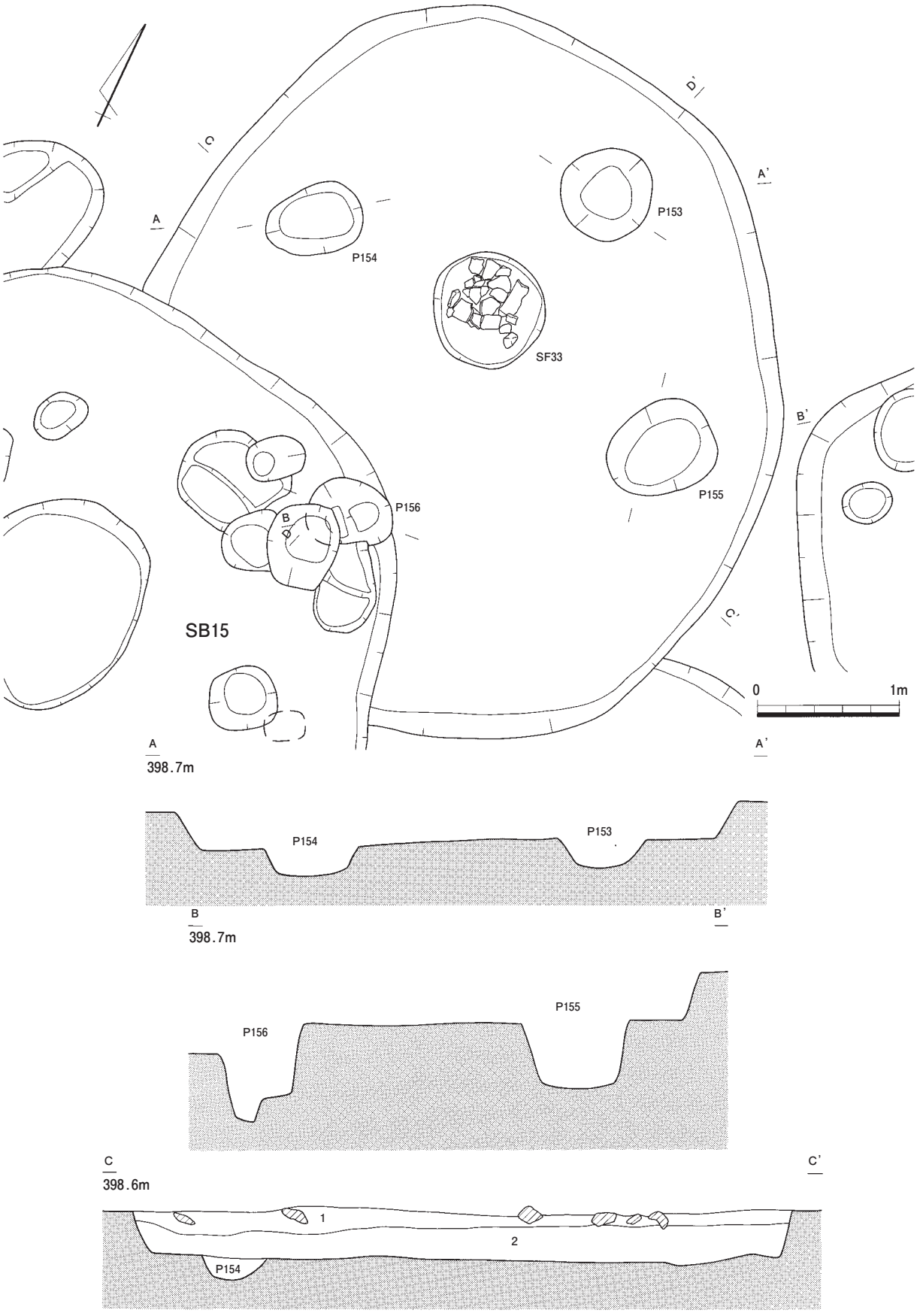

C
D'
A
A'
P154
P153
SF33
B'
P156
B
P155
C'
SB15
0
1m
A
398.7m
A'
P154
P153
B
B'
398.7m
P155
P156
C
C'
398.6m
1
2
P154

図54　SB7遺構図（1）

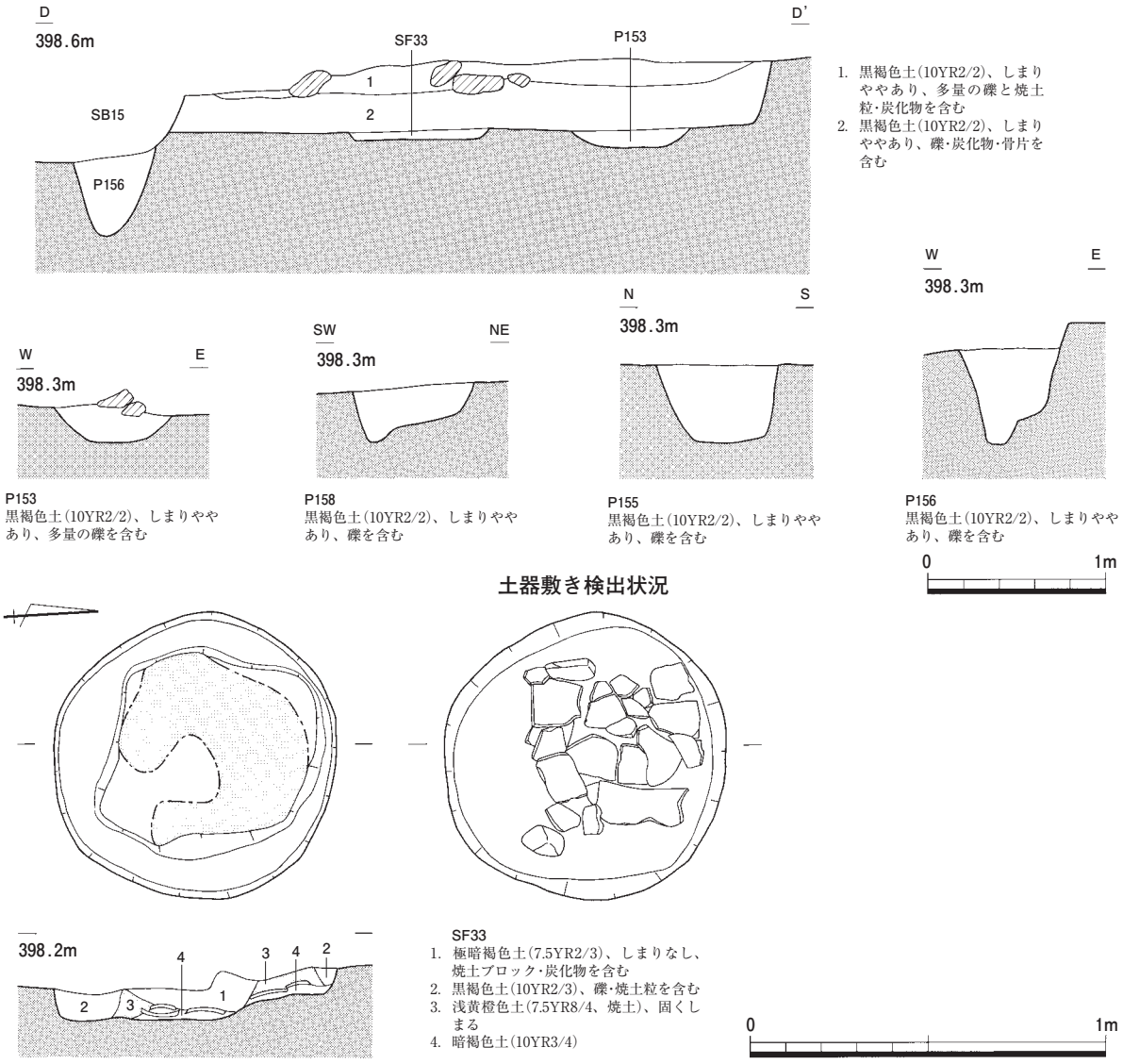


図55　ＳＢ７遺構図（２）

東壁は多数の土坑が密集するため、立ち上がりを確認することはできなかった。また本遺構は多くの遺構と重複しているが、切り合い関係のすべてを現地調査で明らかにすることはできなかった。埋土は２層に分けられ、土層は水平に堆積する。

形状と規模　隅丸方形と考えられる。長径4.67m・短径3.46m・床面積は測定不能である。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.42mを測り、西壁は垂直に近く立ち上がるが、北壁は比較的緩やかに傾斜する。明確な貼床や硬化面は確認できず、Ⅸａ層上面で遺構を検出したため、検出面は凹凸が著しく竪穴の掘形に達した可能性がある。

施設　竪穴の内部で28基の遺構を検出した。柱穴は６基（Ｐ157・160・164・169・175・181）が想定できる（柱配置１）。Ｐ175・181とＰ160・164の中点を結ぶ線を軸とし、Ｐ157・160・181とＰ164・169・175は左右対称に位置する。これとは別に、４基（Ｐ158・163・165・174）も想定できる（柱配置２）。ＳＦ35炉石の北隅を中心とした、同心円状の配置となる。現地調査では、Ｐ174（柱配置２）がＰ175（柱配置１）を切ることを確認したため、柱配置１が柱配置２に先行する。炉跡は石囲

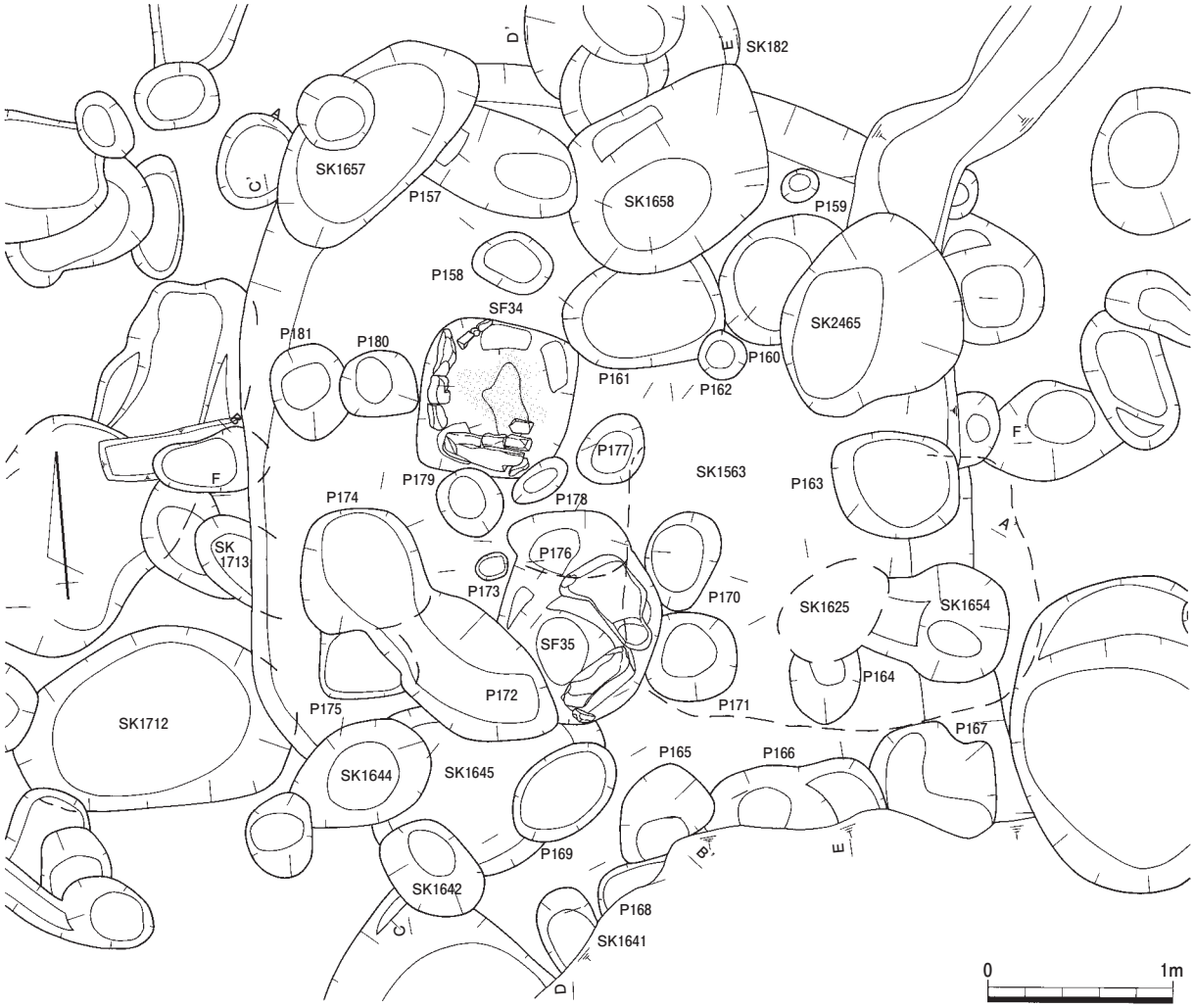

SK182
SK1657
P157
SK1658
P159
P158
SF34
SK2465
P181
P180
P160
P161
P162
P177
SK1563
P163
P179
P174
P178
SK
1713
P176
P173
P170
SK1625
SK1654
SF35
P164
P172
P175
P171
SK1712
P167
P165
P166
SK1644
SK1645
P169
SK1642
P168
SK1641
0
1m
A
A'
397.5m
SK1657
P158
P161
P162
P163
B
B'
397.5m
P174
P172
P169
P165
C
C'
397.5m
SK1642
SK1644
P175
P174
P181

図56　SB 8 遺構図（1）

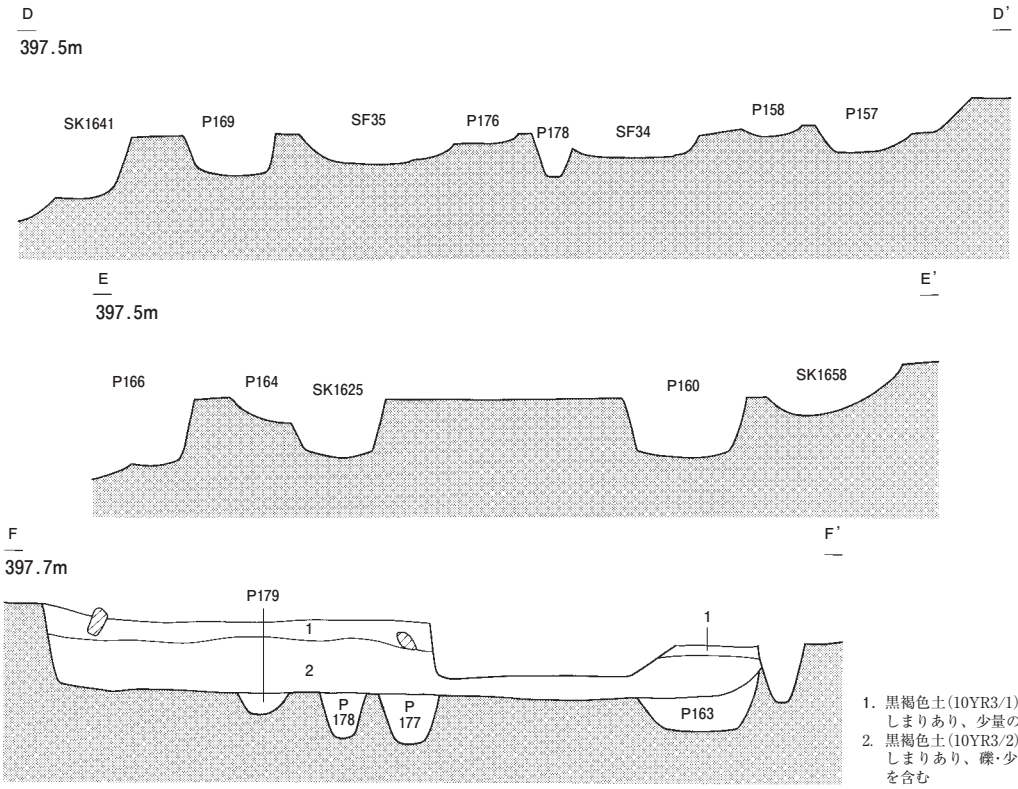

D
397.5m
D'
SK1641
P169
SF35
P176
P178
SF34
P158
P157
E
397.5m
E'
P166
P164
SK1625
P160
SK1658
F
397.7m
F'
P179
1
2
P 178
P 177
P163
1
1. 黒褐色土(10YR3/1)、粘性あり、しまりあり、少量の礫を含む
2. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性あり、しまりあり、礫・少量の炭化物を含む
SE
397.3m
NW
P157
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり
2. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり
NW
397.3m
SE
P158
黒褐色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
W
397.3m
E
P159
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし
W
397.3m
E
P160
黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
N
397.3m
S
2
1
2
P161
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2,1より淡い)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
SW
397.3m
NE
P162
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり
S
397.3m
N
P163
黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
N
397.3m
S
P164
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
SW
397.3m
NE
P165
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
W
397.3m
E
3
P166
P167
1
2
P166
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、骨片を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2、1よりやや黒色)、粘性なし、しまりややあり、骨片を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、少量の褐色土(10YR4/5)粒と骨片を含む
P167
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、少量の礫を含む
W
397.3m
E
P168
黒褐色土(10YR2/2)、均質、粘性なし、しまりややあり
0
1m

図57　SB 8 遺構図（2）

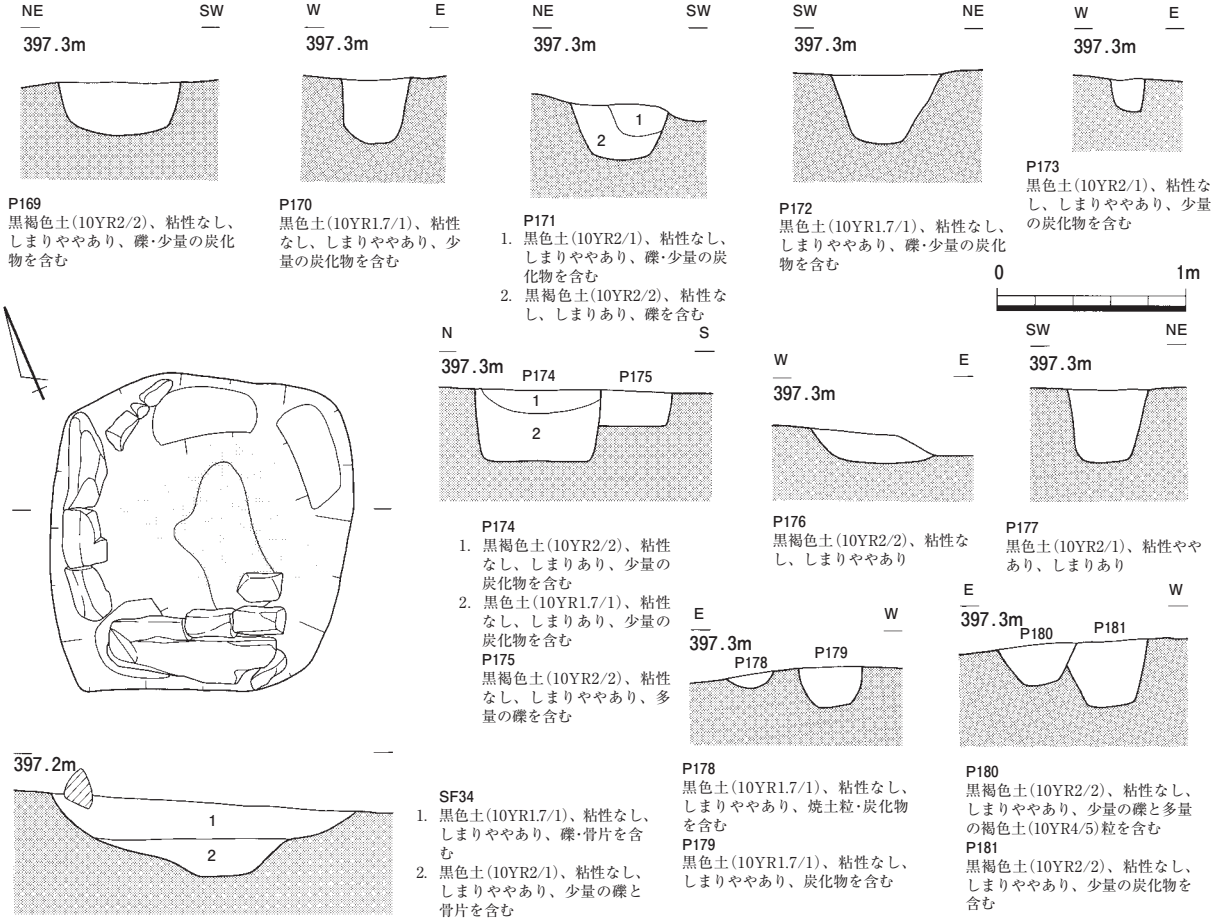

NE
SW
397.3m
P169
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
W
E
397.3m
P170
黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
NE
SW
397.3m
1
2
P171
1. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりあり、礫を含む
SW
NE
397.3m
P172
黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
W
E
397.3m
P173
黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
0
1m
N
S
397.3m
P174
P175
1
2
P174
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりあり、少量の炭化物を含む
2. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりあり、少量の炭化物を含む
P175
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む
W
E
397.3m
P176
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり
SW
NE
397.3m
P177
黒色土(10YR2/1)、粘性ややあり、しまりあり
397.2m
1
2
SF34
1. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、礫・骨片を含む
2. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、少量の礫と骨片を含む
E
W
397.3m
P178
P179
P178
黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、焼土粒・炭化物を含む
P179
黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、炭化物を含む
E
W
397.3m
P180
P181
P180
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の礫と多量の褐色土(10YR4/5)粒を含む
P181
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
397.2m
4
1
2
3
SF35
1. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、多量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし
3. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
4. 黒褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり
397.1m
1
2
SK2465
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む
2. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりなし
0
1m

図58　SB8遺構図（3）

炉が２基検出され、柱穴との位置関係から、ＳＦ34が柱配置１、ＳＦ35が柱配置２に伴うと考えられる。ＳＦ34（図58左上）では、南・西辺の炉石は細長い亜円礫を用いて囲み、北・東辺の炉石は抜き取られていた。炉の内部では焼土が検出されず、底面と炉石の内側に被熱の痕跡が認められた。一方のＳＦ35（図58左下）では、北東と南東の炉石は細長い亜円礫を用い、北東の炉石は平坦面を上に向けて水平に据えられており、北西・南西の炉石は抜き取られていた。炉の内部では焼土が検出されず、炉石の内側にのみ被熱の痕跡が認められた。なお竪穴の東端で検出した土坑ＳＫ2465（図58右下）は、埋土上部で口縁部と胴部下半を欠く土器が逆位で出土した（土坑Ｃ１類）。現地調査では竪穴との切り合い関係が不明であったが、Ｐ160（柱配置２）を切ることからＳＢ８廃絶後の遺構である可能性が高い。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物・骨片が散在的に出土した。土器は、中期後葉がほとんどで、後期後葉が少量認められる。石器は、石鏃未製品１点・ＲＦ２点・磨・敲石類２点・切目石錘１点・石皿１点が出土した。

所属時期　柱穴Ｐ157・174・石囲炉ＳＦ34・35出土土器（順に410・409・411・412）から、中期後葉（第２段階）と判断する。竪穴埋没の上限はＳＫ2465出土土器（413）の時期である。

ＳＢ９（現場名ＳＸ19、図59・60、図版20）

位置　Ｉ10・Ｉ11・Ｊ10・Ｊ11グリッドに位置する。

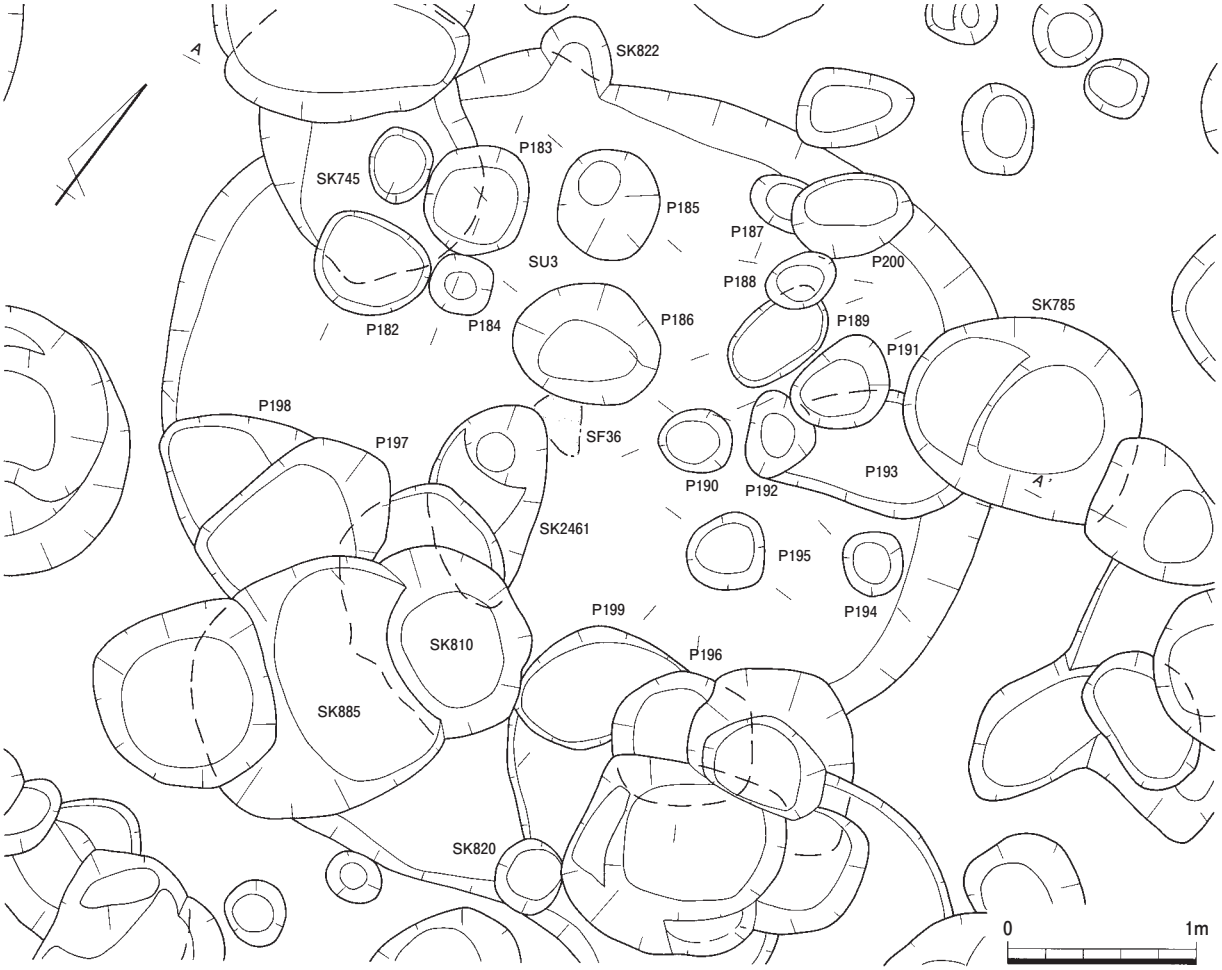
検出状況　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ785・810に切られ、ＳＫ745・820・822を切る。他にも竪穴と多くの土坑が重複しているが、すべてを調査段階で明らかにすることはできなかった。埋土は土層断面図を示すことができないものの、全部で３層に分けられ、長径30㎝以下の亜円礫が多く含まれた。壁際には三角堆積が認められ、土層は水平に堆積する。なお、埋土上部で検出された遺物集積ＳＵ３は、絵画土器１個体（469）の破片が重なって出土したものである。

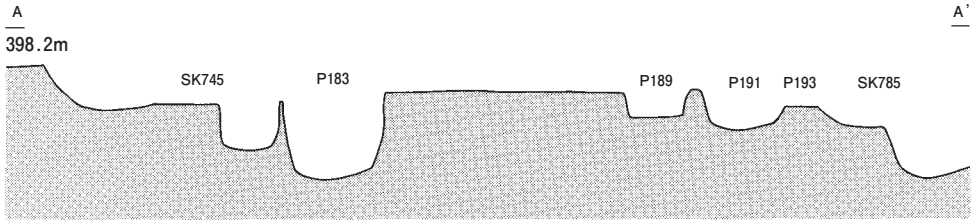
形状と規模　平面形は楕円形である。長径4.17ｍ・短径3.96ｍ・床面積推定10.33㎡を測る。

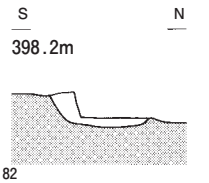
壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.14ｍを測り、壁はわずかに立ち上がる。明確な貼床や硬化面は確認できずⅨａ層上面で遺構を検出したため、検出面は凹凸が著しく竪穴の掘形に達した可能性もある。

施設　竪穴の内部で22基の遺構を検出した。これらの中には必ずしもＳＢ９に伴わない後出の遺構も含まれている。例えばＳＦ36を切るＳＫ2461は、ＳＢ９廃絶後の土坑と考えられる遺構である。土坑長軸に沿って亜円礫を並べて、底部を穿孔した深鉢１個体（466）を横位に寝かせ、その内部から拳大の円礫１個が出土した。またこの深鉢の直下からは、さらに別個体の深鉢片（467）が三重に積まれていた（土坑Ｅ類）。またＰ200では、土坑中央に亜円礫１個（径６㎝・長さ24㎝）を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。柱穴としては、土層堆積状況からＰ183と、ＳＦ36を挟んで対称の位置にあるＰ191が想定できるが、他は不明である。炉は、竪穴中央で検出された地床炉ＳＦ36が該当する。

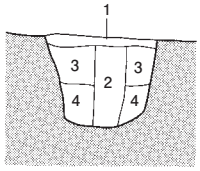
出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物・骨片が散在的に出土した。土器は少量の中期後葉と、後期初頭から前葉まで認められる。石器は、石鏃５点・石錐３点・掻器１点・削器４点・ヘラ形石器１点・楔形石器４点・ＲＦ５点・ＵＦ３点・打製石斧２点・磨・敲石類４点・切目石錘13点・磨製石斧１点が出土した。



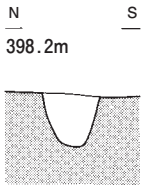




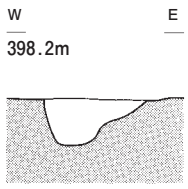
P182
黒褐色土(10YR2/2)、しまりあり、礫・炭化物を含む



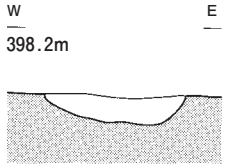
P183
1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりなし、少量の礫を含む
2. 黒色土(10YR1.7/1、やや茶色)、しまりなし、炭化物・少量の礫を含む
3. 黒褐色土 (10YR2/2、やや暗い)、粘性ややあり、しまりややあり、焼土粒・少量の礫を含む
4. 黒色土(10YR1.7/1)、しまりややあり、少量の礫を含む



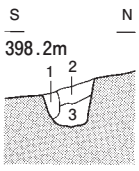
P184
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む



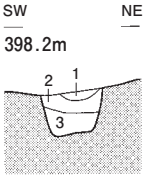
P185
黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりややあり、礫・炭化物を含む



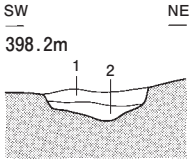
P186
黒色土(10YR1.7/1)、しまりややあり、焼土粒・多量の炭化物・礫を含む



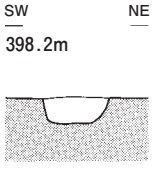
P187
1. 黒褐色土(10YR3/2)、やや砂質、しまりなし
2. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりなし、礫を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む



P188
1. 黒褐色土(10YR2/2、やや暗い)、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2、やや茶色)、しまりややあり、礫を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む

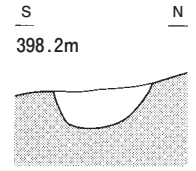


P189
1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/3)、しまりなし

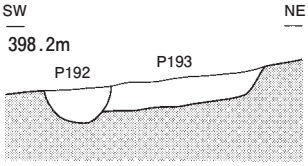


P190
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む

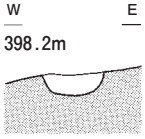
図59　SB9遺構図（1）



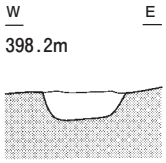
P191
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む



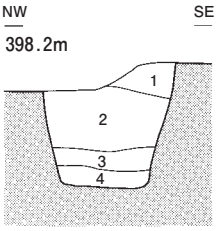
P192
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
P193
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む



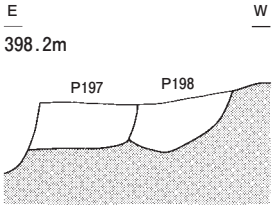
P194
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・多量の炭化物を含む



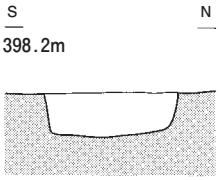
P195
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む



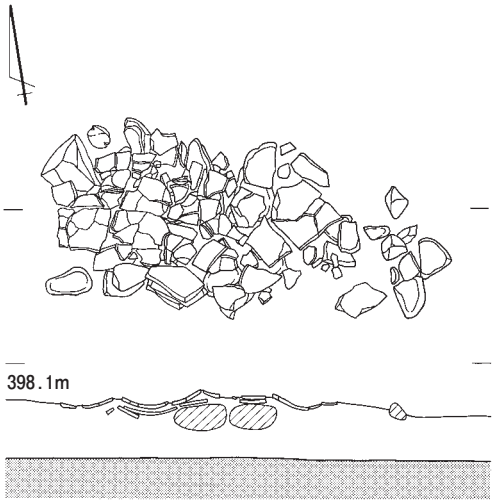
P186
1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2、やや暗い)、しまりややあり、礫・粗砂を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・少量の褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)ブロックを含む
4. 黒褐色土(10YR1.7/1)、しまりややあり、礫を含む



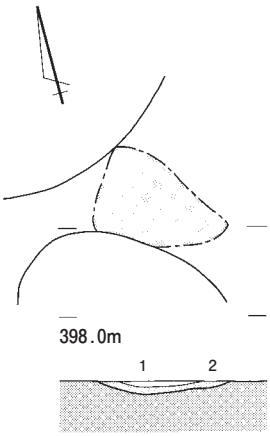
P197
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・焼土粒・炭化物を含む
P198
黒色土(10YR2/1)、しまりややあり、礫・炭化物・骨片を含む



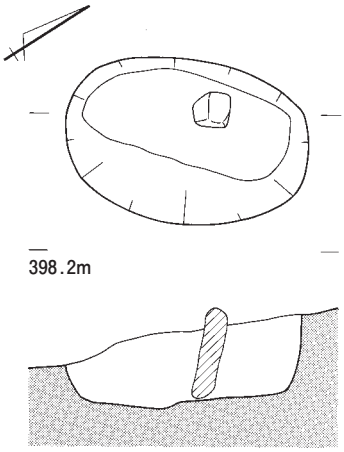
P199
黒色土(10YR2/1)、しまりややあり、礫を含む



SU3

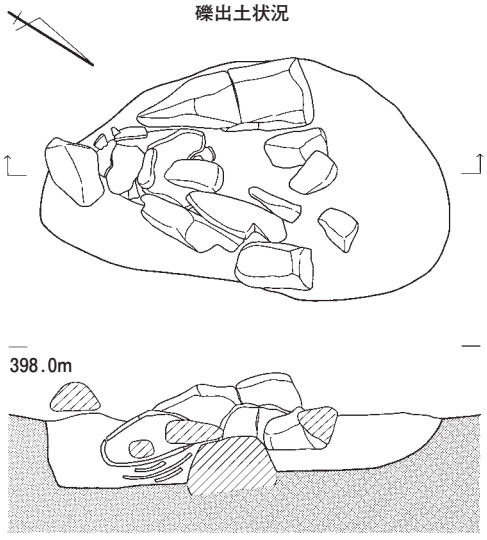


SF36
1. 黒褐色土(7.5YR2/2)、少量の焼土粒と炭化物を含む
2. 暗赤褐色土(5YR3/4、焼土)

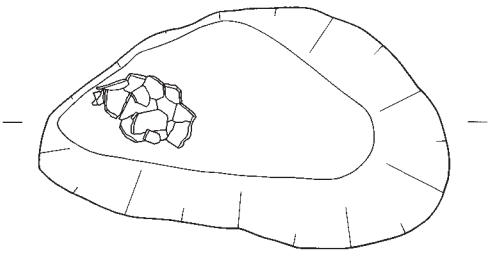


P200
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む

礫出土状況



土器出土状況



SK2461
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物・骨片を含む

図60　SB 9 遺構図（2）

所属時期　柱穴Ｐ183出土土器（464・465）は、埋土出土土器との時期が大きく異なるので混入とみなし、埋土出土土器の主体から、後期前葉四ツ池式併行と判断する。なお廃絶の上限はＳＫ2461出土土器（466・467）の時期である。

ＳＢ10（現場名ＳＸ25、図61、図版20）

位置　Ｈ10・Ｈ11・Ｉ10グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ706に切られる。当初４ｍ程度の円形の竪穴を想定したが、多数の土坑の重複と判断して掘削を進めたため、最終的に竪穴の掘形を検出することができなかった。

形状と規模　共に不明である。

壁・床面の状況　明確な貼床や硬化面は確認できず、Ⅸａ層上面で遺構を検出したため、検出面は凹凸が著しく竪穴の掘形に達した可能性がある。

施設　柱穴は４基（ＳＫ704・741・755・851）が想定でき、柱配置は不規則である。地床炉ＳＦ38はＳＫ706に切られ、炉跡の内部には焼土ブロック混じりの暗褐色土が堆積していたが、被熱の痕跡は認められなかった。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物が散在的に出土した。土器は、中期後葉から後期前葉まで認められる。石器は、石核１点・石鏃４点・石鏃未製品１点・石錐１点・掻器２点・削器１点・ＲＦ２点・打製石斧１点・磨・敲石類３点・打欠石錘１点・切目石錘７点・磨製石斧１点が出土した。なお、これらは竪穴の検出当初に取り上げた遺物を含む。

所属時期　柱穴ＳＫ704の出土土器（426）及び埋土出土土器の時期幅を勘案し、中期後葉（第４段階）と判断する。

ＳＢ11（現場名ＳＸ29・30、図62～64、図版21・22）

位置　Ｍ13・Ｍ14・Ｎ13・Ｎ14グリッドに位置する。

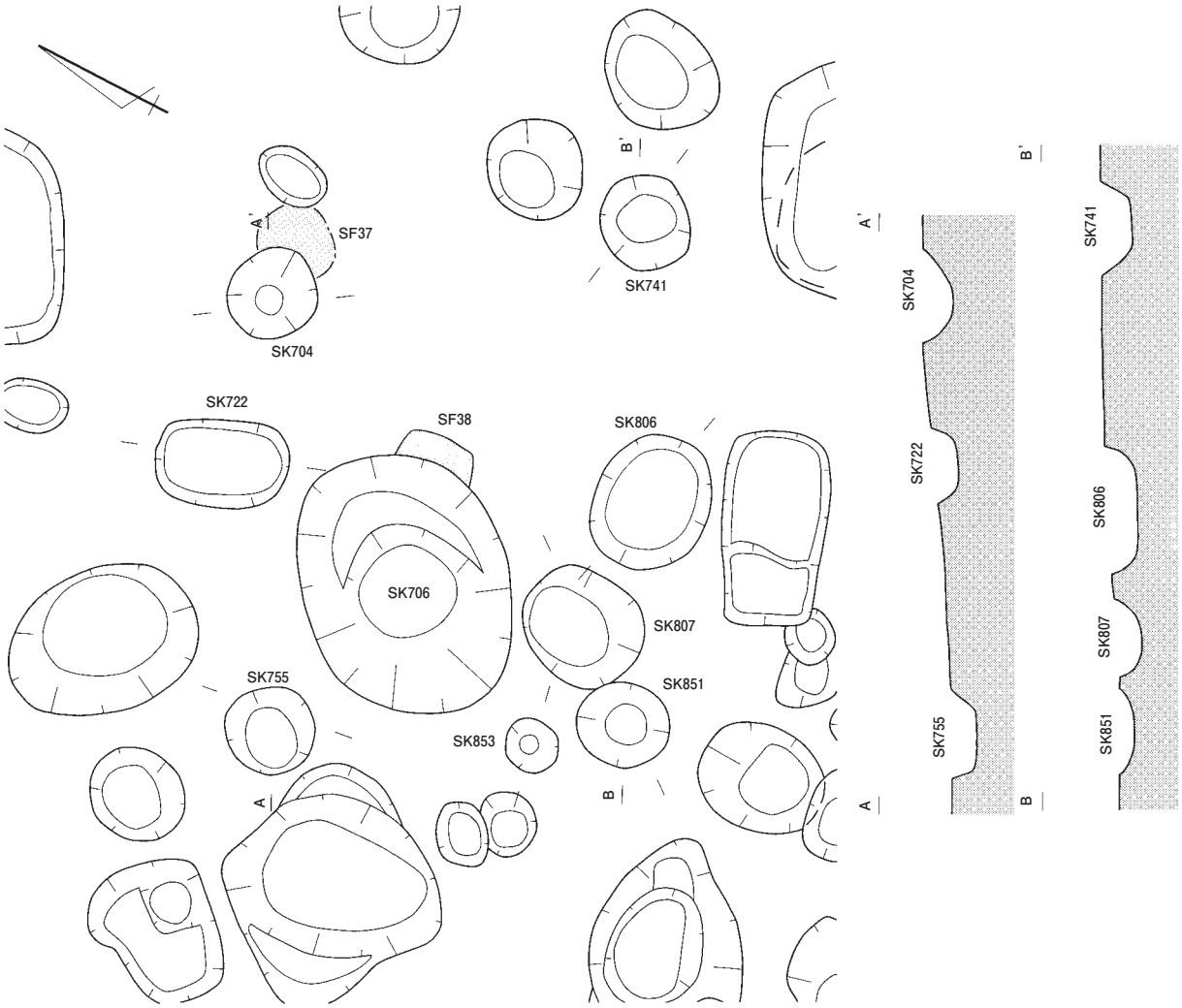
検出状況　Ｖｂ層中で検出した。ＳＫ158・577・583に切られる。土層断面図中の５層は別遺構の掘り込みのように見えるが、平面精査では検出できなかった。埋土は９層に分けられ、長径15㎝以下の亜円礫が多く含まれた。土層は北西側に偏った堆積である。

形状と規模　平面形は不整円形である。長径5.59ｍ・短径4.50ｍ・床面積18.30㎡以上を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.34ｍを測り、壁は全般に比較的緩やかに傾斜する。明確な硬化面はなく、竪穴の中央及び南東部に焼土ブロックが認められ、貼床の可能性がある。床面は西にやや傾斜する。

施設　床面で17基の遺構を検出した。このうち、柱穴は６基（ＳＫ202・203・204・209・211・214）が想定できる。Ｐ203・214の中点とＰ208を結ぶ線を軸として、Ｐ211・214とＰ203・204が左右対称に位置する。石囲炉ＳＦ39（図64）は、南辺の炉石が長軸線上に位置する。炉石は東西辺を角礫の平坦な面を上にし、北辺は亜円礫を二重に立てている。南辺の炉石は廃絶時に抜き取られたと考えられる。炉跡の内部には焼土が認められ、炉石の内側で被熱の痕跡が認められた。埋甕ＳＺ８（図63右下）は柱穴Ｐ211に隣接し、胴部下半を欠いた土器が逆位で出土した。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物・骨片が散在的に出土した。土器は、少量の早期後葉・中期前葉及び中葉と、中期後葉から後期前葉まで認められるが、主体は中期後葉である。石器は、分割礫１点・石核８点・石鏃13点・石鏃未製品２点・石錐３点・掻器８点・ヘラ形石器１点



NW　SE
398.3m

SK704
黒褐色土(10YR3/1)、しまりややあり、少量の礫と炭化物を含む

W　E
398.3m

SK741
黒褐色土(10YR2/2)、しまりあり、礫を含む

W　E
398.3m

SK806
黒褐色土(10YR2/3)、しまりあり、礫・炭化物を含む

W　E
398.3m

SK853
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、少量の礫を含む

N　S
398.3m

SK755
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む

NE　SW
398.3m

SK807　SK851

SK807
黒色土(10YR2/1)、しまりやあり、礫を含む

SK851
黒褐色土(10YR2/1)、しまりやあり、礫を含む

S　N
398.3m

SK722
黒褐色土(10YR2/2)、しまりなし、礫を含む

398.2m　1　2

SF37
1. 暗褐色土(7.5YR3/4、焼土)、しまりあり、礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/4、焼土)、しまりあり、炭化物を含む

398.2m　1　2

SF38
1. 褐色土(7.5YR4/4、焼土ブロック)
2. 暗褐色土(10YR3/3)、焼土粒・礫を含む

0　1m

0　1m

図61　SB10遺構図

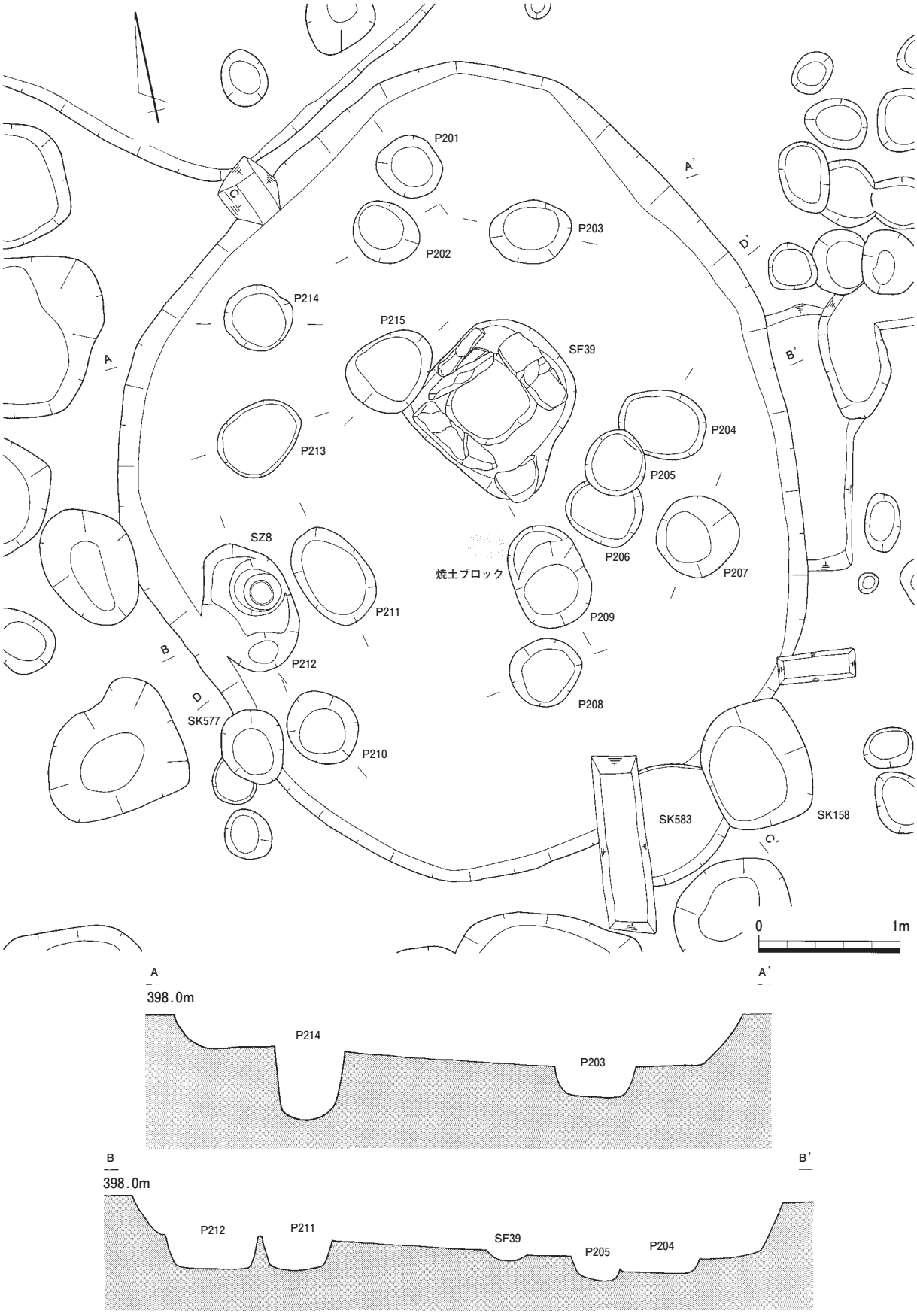
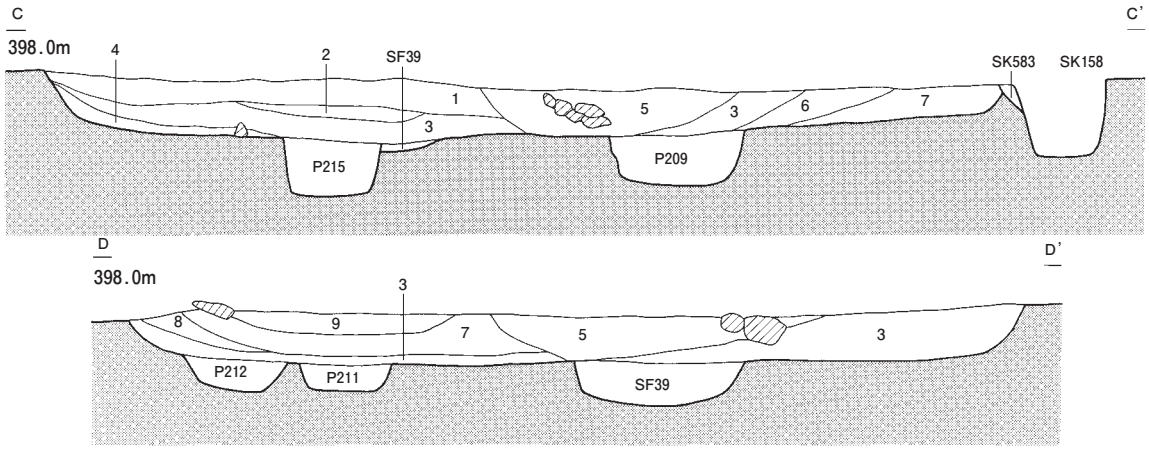
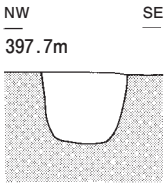


図62　SB11遺構図（１）

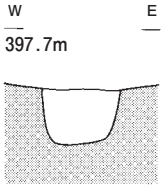


1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性あり、しまりややあり、多量の礫を含む
2. 黒褐色土(10YR3/1)、粘性ややあり、しまりややあり、多量の礫を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりややあり、多量の礫を含む
4. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性ややあり、しまりややあり、少量の礫を含む
5. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性あり、しまりややあり、多量の礫を含む
6. 3と7の混合した土
7. 暗褐色土(7.5YR3/4)、粘性ややあり、しまりあり、少量の礫を含む
8. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり、少量の礫を含む
9. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり、多量の礫を含む

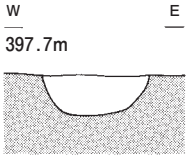
0　1m



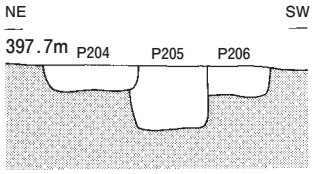
P201
黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む



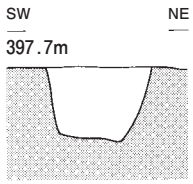
P202
黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



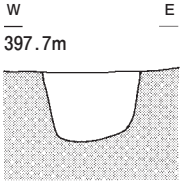
P203
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む



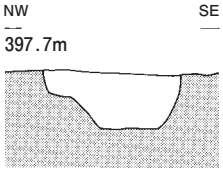
P204
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む
P205
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む
P206
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



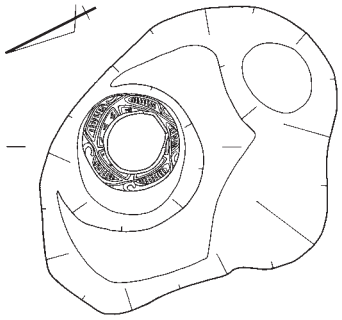
P207
黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む

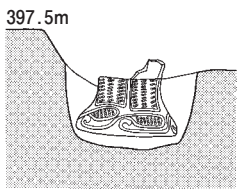


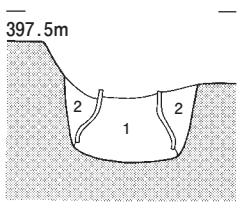
P208
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む



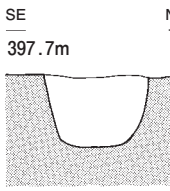
P209
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫・黄褐色土ブロックを含む



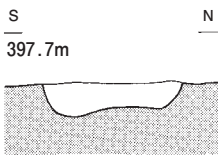




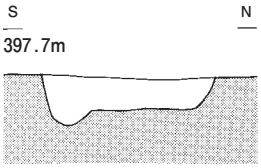
SZ8
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、礫・少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



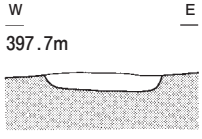
P210
黒褐色土(10YR3/1)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む



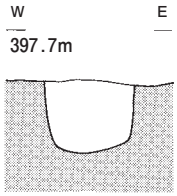
P211
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む



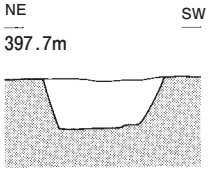
P212
黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む



P213
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む



P214
黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む



P215
黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む

0　1m

図63　SB11遺構図（2）

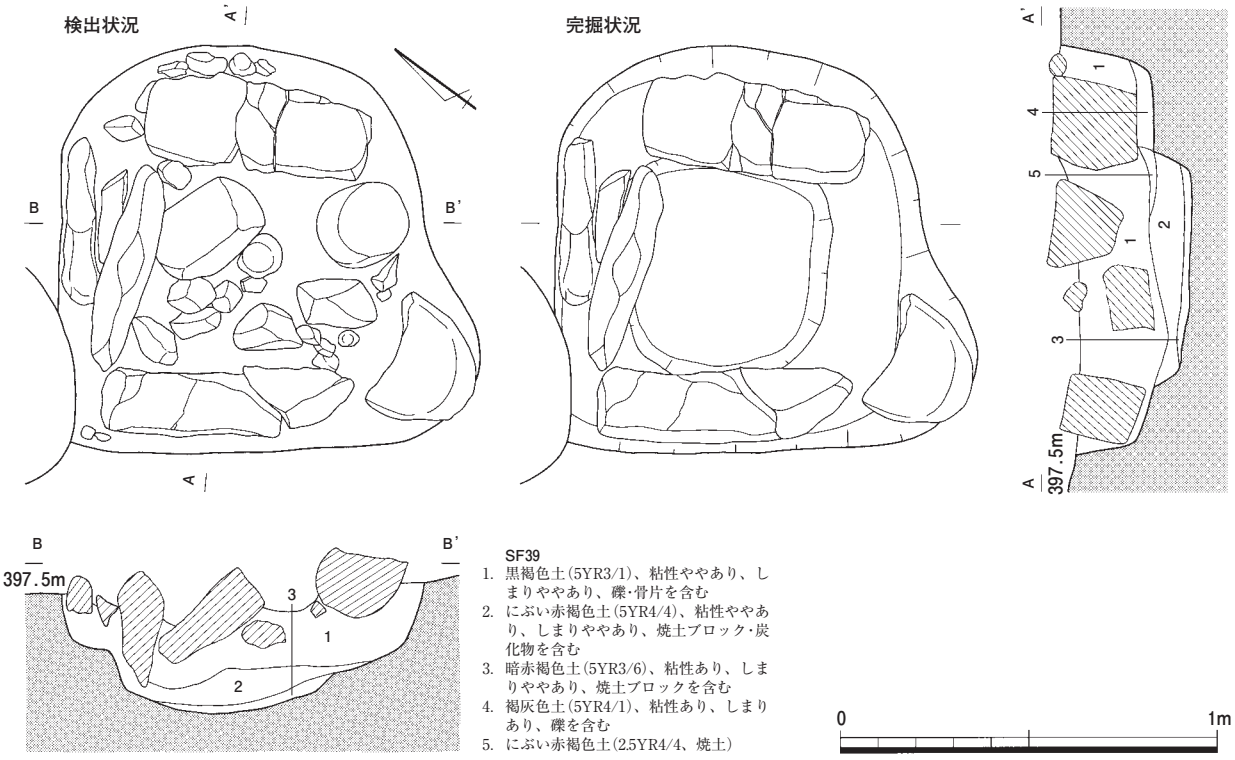


図64　ＳＢ11遺構図（３）

・楔形石器１点・ＲＦ21点・ＵＦ７点・打製石斧４点・磨・敲石類15点・打欠石錘20点・切目石錘45点・磨製石斧３点・石皿２点が出土した。

所属時期　ＳＺ８・ＳＦ39出土土器（549～551）から、中期後葉（第４段階）と判断する。

ＳＢ12（現場名ＳＸ32、図65～67、図版22）

位置　Ｊ11・Ｋ11グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層上面で検出した。試掘坑ＴＰ27北壁で竪穴の立ち上がりが認められたものの、周辺に多数の土坑が密集しており、結果的には竪穴のプランを検出することはできなかった。密集する土坑の中には、埋土上部の壁際に亜円礫を配置するＳＫ1092（図67左下・土坑Ｂ２類）がある。

形状と規模　共に不明である。

壁・床面の状況　床面の状況については、明確な貼床や硬化面は確認できずⅨａ層上面で遺構を検出したため、検出面は凹凸が著しく竪穴の掘形に達した可能性がある。

施設　柱穴はＳＫ1093・1199・2459が想定でき、南西端の柱穴がＳＫ1077・1088によって失われたとすれば、柱配置は４基で構成すると考えられる。これとは別に、柱配置はＳＫ817・820・1199・2459の４基も想定できるが、柱間がやや離れすぎる嫌いがある。炉は長軸上に位置する石囲炉ＳＦ40（図67右下）で、遺存する竪穴埋土を除去した後、検出することができた。ただしＳＫ1121・1220によって切られるため、平面形は不明である。北・東側の炉石が遺存し、被熱により表面が劣化している。炉の内部では、焼土や被熱の痕跡は認められなかった。

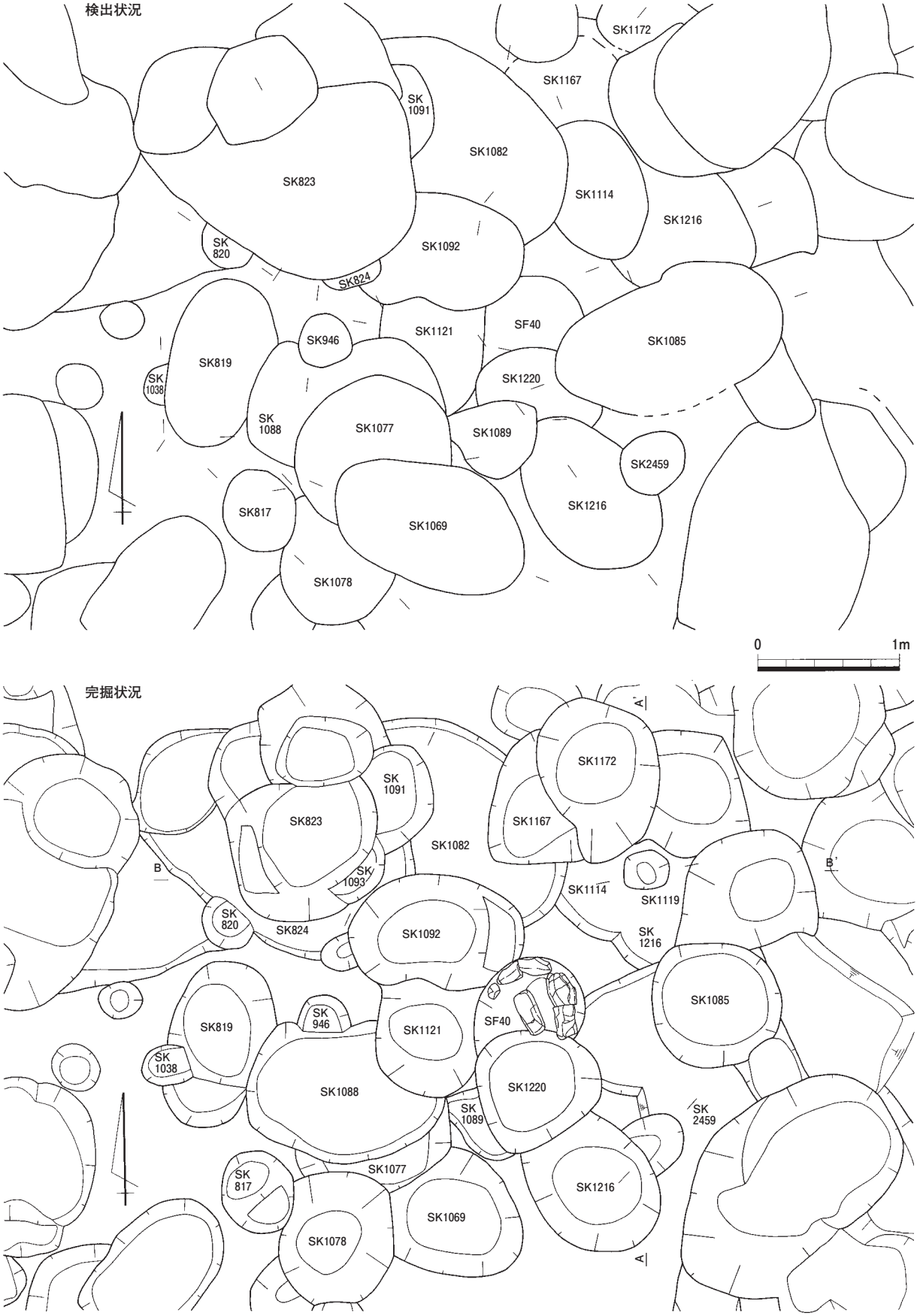


図65　SB12遺構図（1）

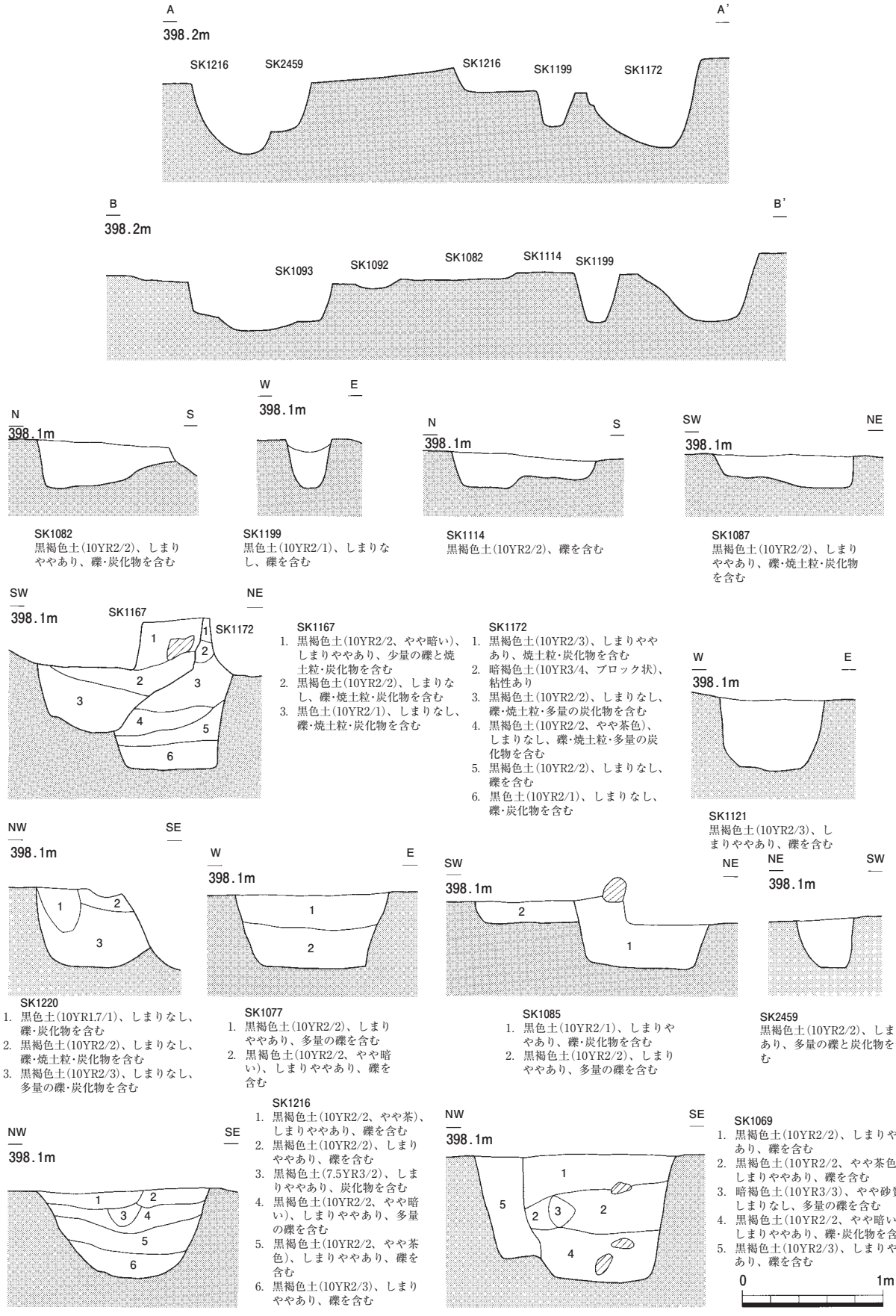
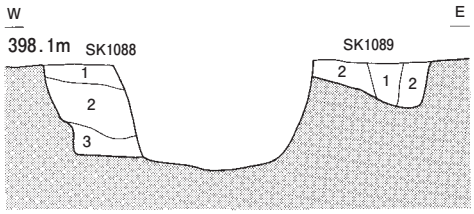
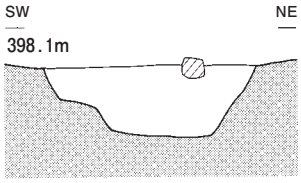


図66　SB12遺構図（2）

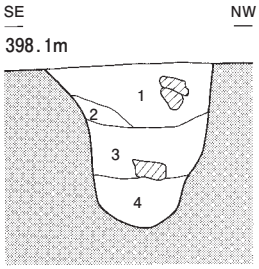


SK1088
1. 黒褐色土(10YR2/3)、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土（10YR2/2)、しまりなし、礫・焼土粒・炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR2/3)、しまりややあり、多量の礫を含む

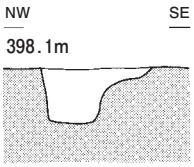
SK1089
1. 黒褐色土(10YR2/3)、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/3、やや茶色)、しまりややあり、礫を含む



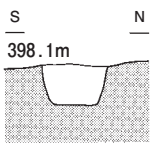
SK819
黒色土(10YR2/1)しまりややあり、多量の礫を含む



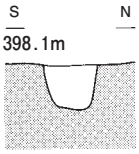
SK1078
1. 黒褐色土(10YR2/3、やや暗い)、しまりややあり、礫・焼土粒・炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/3)、しまりなし、多量の礫を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・焼土粒・炭化物を含む
4. 黒褐色土(10YR2/2、やや暗い)、しまりなし、礫を含む



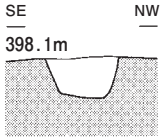
SK817
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む



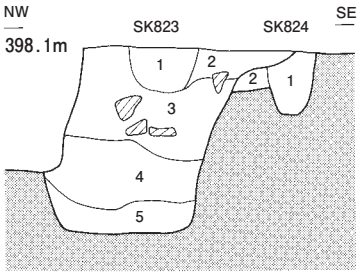
SK946
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、多量の礫と炭化物を含む



SK1038
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・焼土粒・炭化物を含む

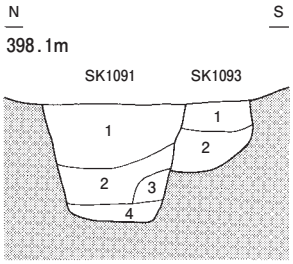


SK820
黒色土(10YR2/1)、しまりややあり、礫・炭化物を含む



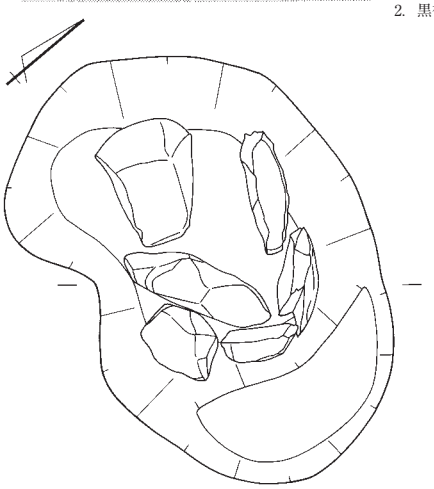
SK823
1. 黒色土(10YR2/1)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む
3. 黒色土(10YR2/1)、しまりややあり、礫・多量の炭化物を含む
4. 黒褐色土(10YR2/2)、やや砂質、しまりややあり、礫・多量の炭化物を含む
5. 黒色土(10YR1.7/1)、しまりややあり、礫・多量の炭化物を含む

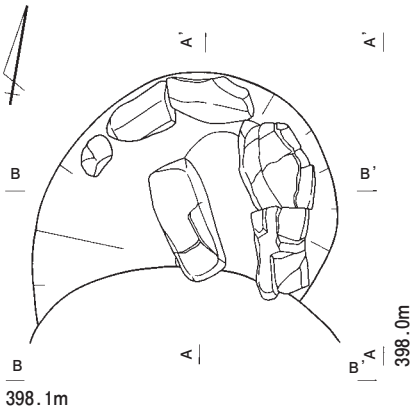
SK824
1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2、やや茶色)

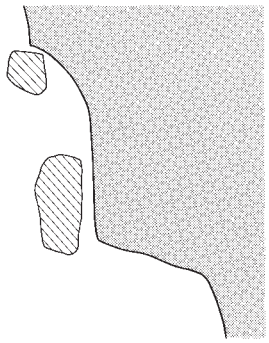


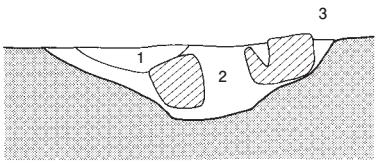
SK1091
1. 黒褐色土(10YR2/3)、しまりややあり、礫・焼土粒・炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりなし、少量の礫と炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2、やや暗い)しまりなし、礫・炭化物を含む
4. 黒色土(10YR2/1)、しまりなし、礫を含む

SK1093
1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
2. 黒色土(10YR2/1)、礫・焼土粒・炭化物を含む

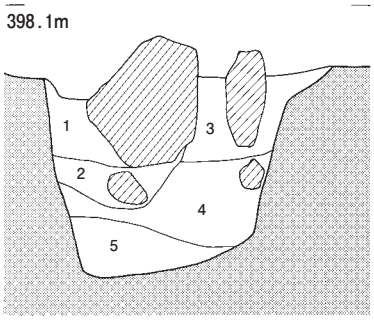








SF40
1. 黒色土(10YR1.7/1)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりなし、礫を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・焼土粒・炭化物を含む



SK1092
1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2、やや茶色)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
3. 黒褐色土（10YR2/2、やや暗い)、しまりなし、礫を含む
4. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む
5. 黒褐色土(10YR2/2、やや暗い)、しまりあり、礫を含む

図67　SB12遺構図（3）

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物・骨片が散在的に出土した。土器は、中期後葉から後期前葉（1727）まで認められるが、主体は中期後葉である。石器は、石鏃１点・石鏃未製品１点・ＲＦ１点・ＵＦ１点・磨・敲石類１点・切目石錘１点が出土した。

所属時期　ＳＦ40出土土器（556）及び埋土出土土器から、中期後葉（第２段階）と判断する。

ＳＢ13（現場名ＳＸ41、図68～70、図版23）

位置　Ｍ８・Ｍ９・Ｎ８・Ｎ９グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層中で検出した。ＳＫ295・296に切られる。埋土は４層に分けられ、長径10㎝以下の亜角礫・角礫が多く含まれた。土層は水平に堆積する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径5.19m・短径4.52m・床面積16.33㎡以上を測る。ただし柱穴配置から、竪穴の重複が推測される。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.28mを測り、わずかに立ち上がる。明確な貼床・硬化面は確認できなかったが、ＳＦ42を検出した時点で床面に到達したと判断した。床面はほぼ水平である。

施設　床面で38基の遺構を検出した。柱穴は５基（Ｐ219・223・227・232・244）が想定できる。Ｐ219とＰ244の中点とＰ227を結ぶ線を軸にして、Ｐ219・223とＰ232・244が左右対称に位置する（柱配置１）。これとは別に、４基（Ｐ216・228・239・249）も想定できる（柱配置２）。Ｐ216・228の中点とＰ239・249の中点を結ぶ線を軸にして、Ｐ216・249とＰ228・239が左右対称に位置する。両柱配置において遺構の重複は認められないが、竪穴埋土の分層が適切ならば柱配置１が柱配置２に先行すると考えられる。焼土遺構ＳＦ41（図70右下）は、柱配置２の短軸上に位置する。底面に被熱の痕跡がなく、埋土中に焼土ブロックを含むことから、人為的に埋め戻されたと考えられる。焼土遺構ＳＦ42（図70中央右）も同様であるが、柱配置１・２のいずれに伴うのか不明である。Ｐ251（図70左下）は埋土上部に少量の亜角礫が浮上し（土坑Ｄ１ｂ類）、竪穴廃絶後の所産の可能性がある。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物が散在的に、床面直上でも少量の縄文土器（618）と石器が出土した。土器は、中期中葉から後葉まで認められる。石器は、石核１点･石鏃２点･石錐１点・石匙１点（2133）・掻器１点・削器１点・ＲＦ10点・ＵＦ１点・磨・敲石類１点・打欠石錘３点・切目石錘８点・石皿１点（2321）が出土した。

所属時期　柱配置１は、Ｐ223出土土器（591・595）から中期後葉（第１段階）と判断する。また、柱配置２は中期後葉（第４段階）と判断する。

ＳＢ14（現場名ＳＸ44、図71・72、図版24）

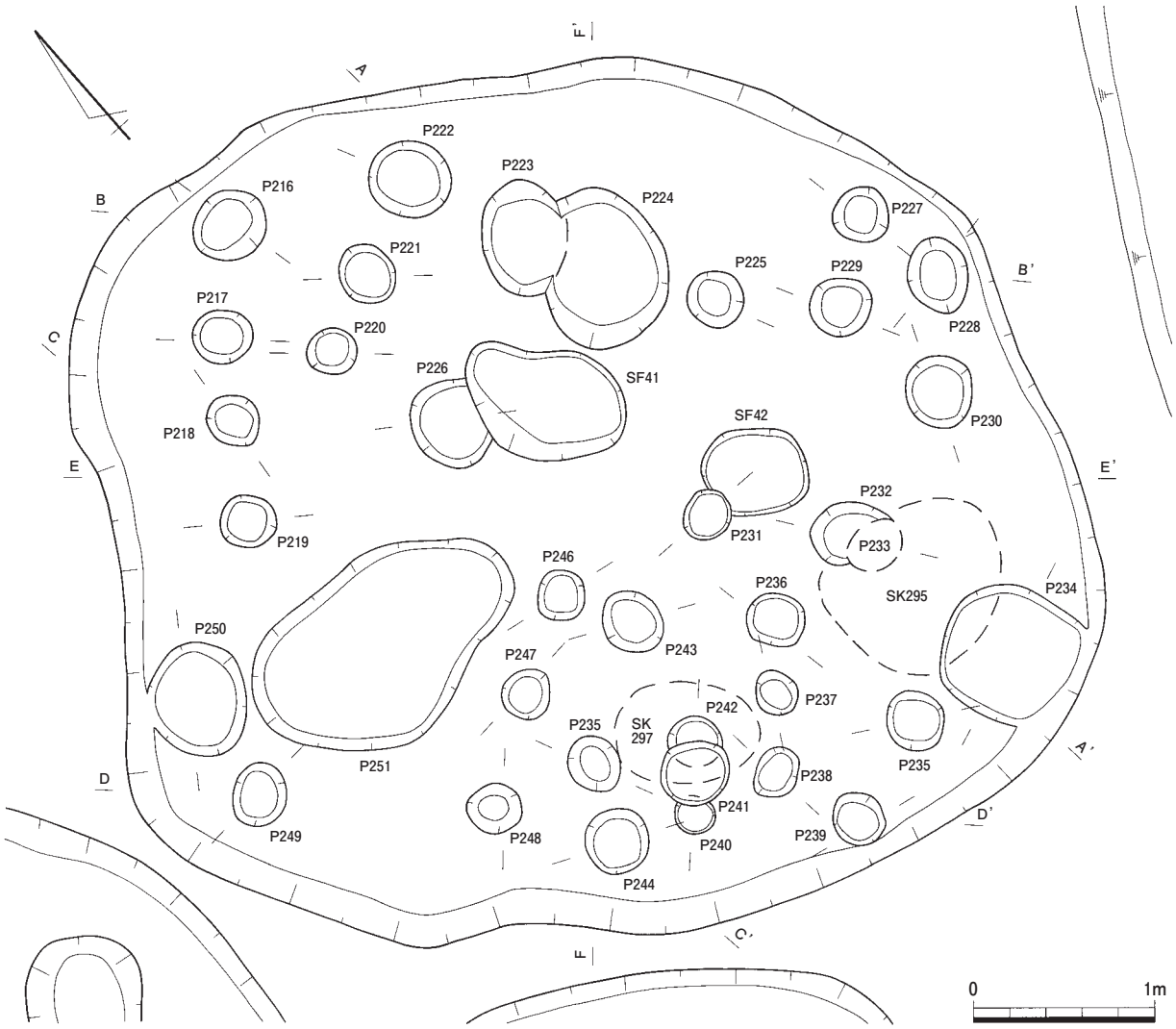
位置　M12・M13・N12・N13グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層中で検出した。ＳＫ1257を切り、ＳＫ1279・1280・1285に切られる。埋土は９層に分けられ、中央がＵ字状に凹み、壁際では三角堆積が認められた。

形状と規模　平面形は五角形である。長径3.55m・短径2.94m・床面積8.70㎡以上を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.18mを測り、北壁は明瞭に立ち上がるが、南壁は緩やかである。明確な硬化面は確認できなかったが、ＳＦ43の周辺に貼床が認められた。床面はほぼ水平である。

施設　床面で10基の遺構を検出した。柱穴は４基（Ｐ252・253・255・256）が想定でき、柱配置は


A
A'
B
B'
C
C'
D
D'
E
E'
F
F'
P216
P217
P218
P219
P220
P221
P222
P223
P224
P225
P226
SF41
P227
P228
P229
P230
SF42
P231
P232
P233
SK295
P234
P235
SK 297
P236
P237
P238
P239
P240
P241
P242
P243
P244
P246
P247
P248
P249
P250
P251
0
1m

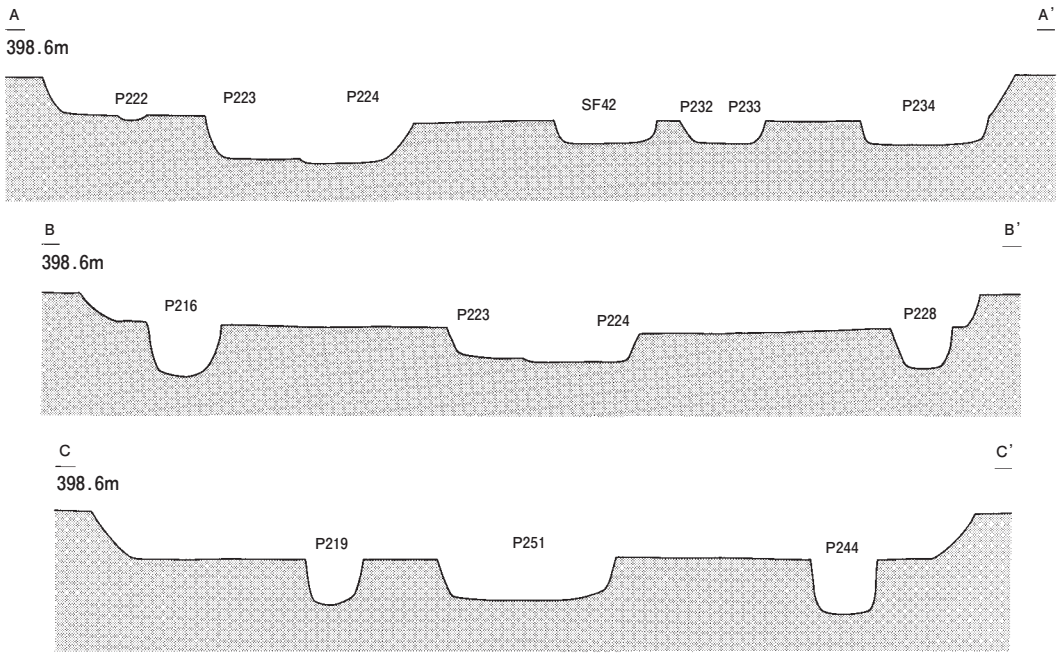
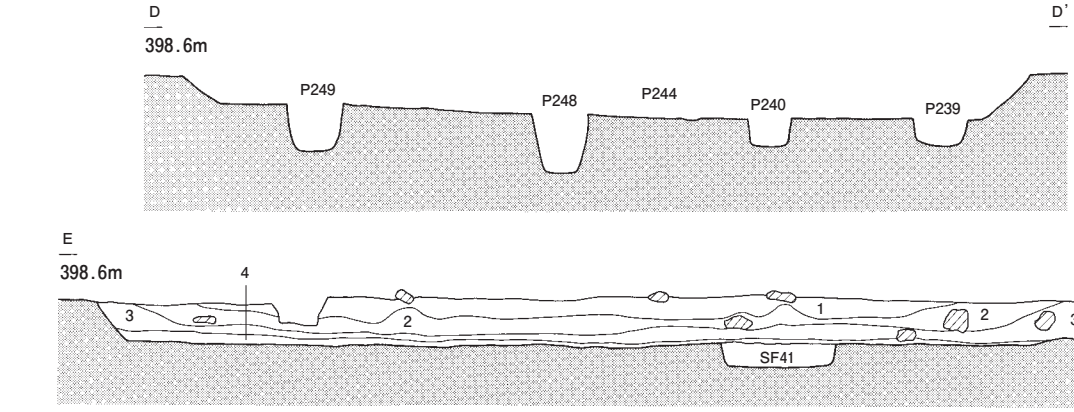
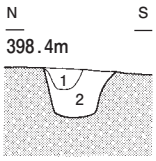

A
398.6m
A'
P222
P223
P224
SF42
P232
P233
P234
B
398.6m
B'
P216
P223
P224
P228
C
398.6m
C'
P219
P251
P244

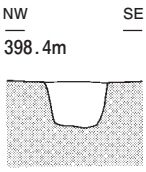
図68　SB13遺構（1）



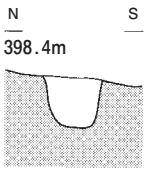
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりややあり、多量の礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む
3. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性あり、しまりあり、少量の礫を含む
4. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む



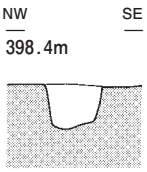
P216
1. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



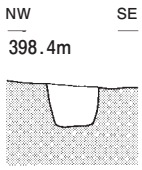
P217
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



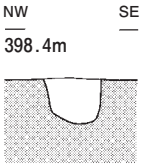
P218
黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む



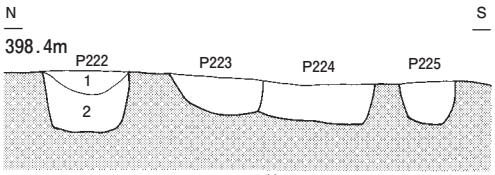
P219
黒褐色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、少量の礫を含む



P220
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



P221
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

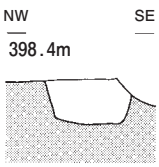


P222
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし
2. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

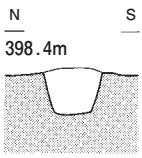
P223
黒褐色土（10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

P224
黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

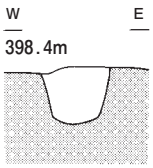
P225
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



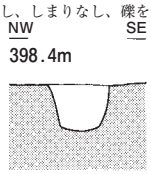
P226
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



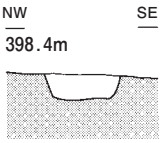
P227
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む



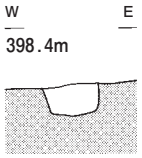
P228
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む



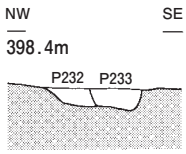
P229
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む



P230
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

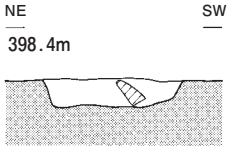


P231
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の礫を含む

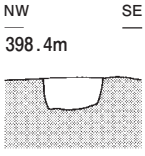


P232
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

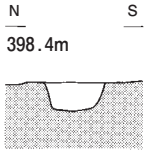
P233
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり



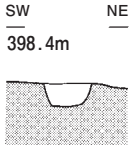
P234
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



P235
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

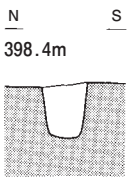


P236
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の礫を含む

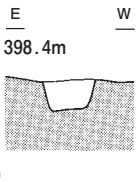


P237
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

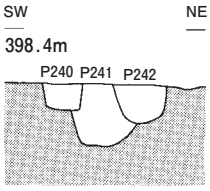
図69　SB13遺構図（２）



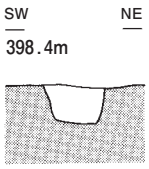
P238
黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



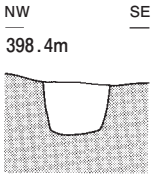
P239
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし



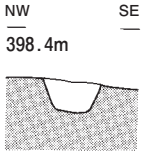
P240
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む
P241
黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む
P242
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む



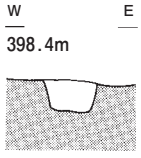
P243
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



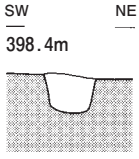
P244
黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



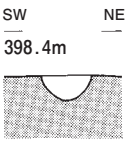
P245
黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



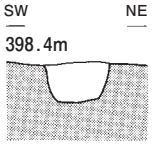
P246
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり



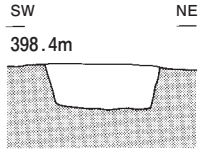
P247
黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む



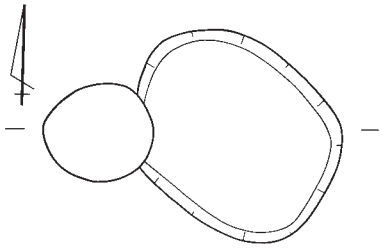
P248
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



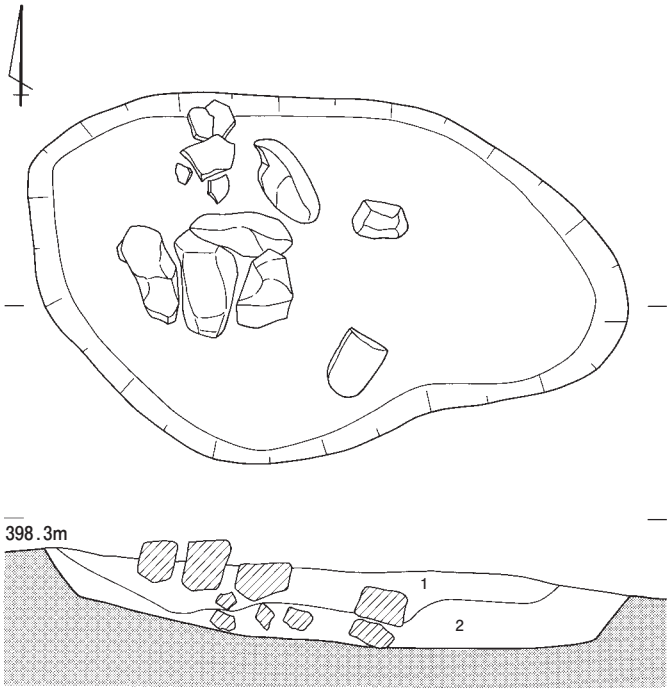
P249
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む



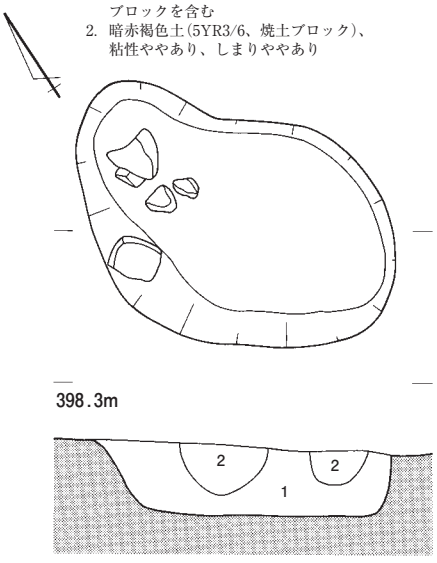
P250
黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



SF42
1. 暗褐色土(7.5YR3/4)、粘性なし、しまりなし、暗赤褐色土(5YR3/6)焼土ブロックを含む
2. 暗赤褐色土(5YR3/6、焼土ブロック)、粘性ややあり、しまりややあり



P251
1. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む



SF41
1. 暗褐色土(7.5YR3/4)、粘性なし、しまりややあり
2. 暗赤褐色土(5YR3/6、焼土ブロック)、粘性ややあり、しまりややあり

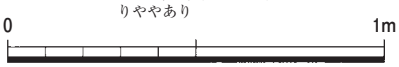


図70　SB13遺構図（3）

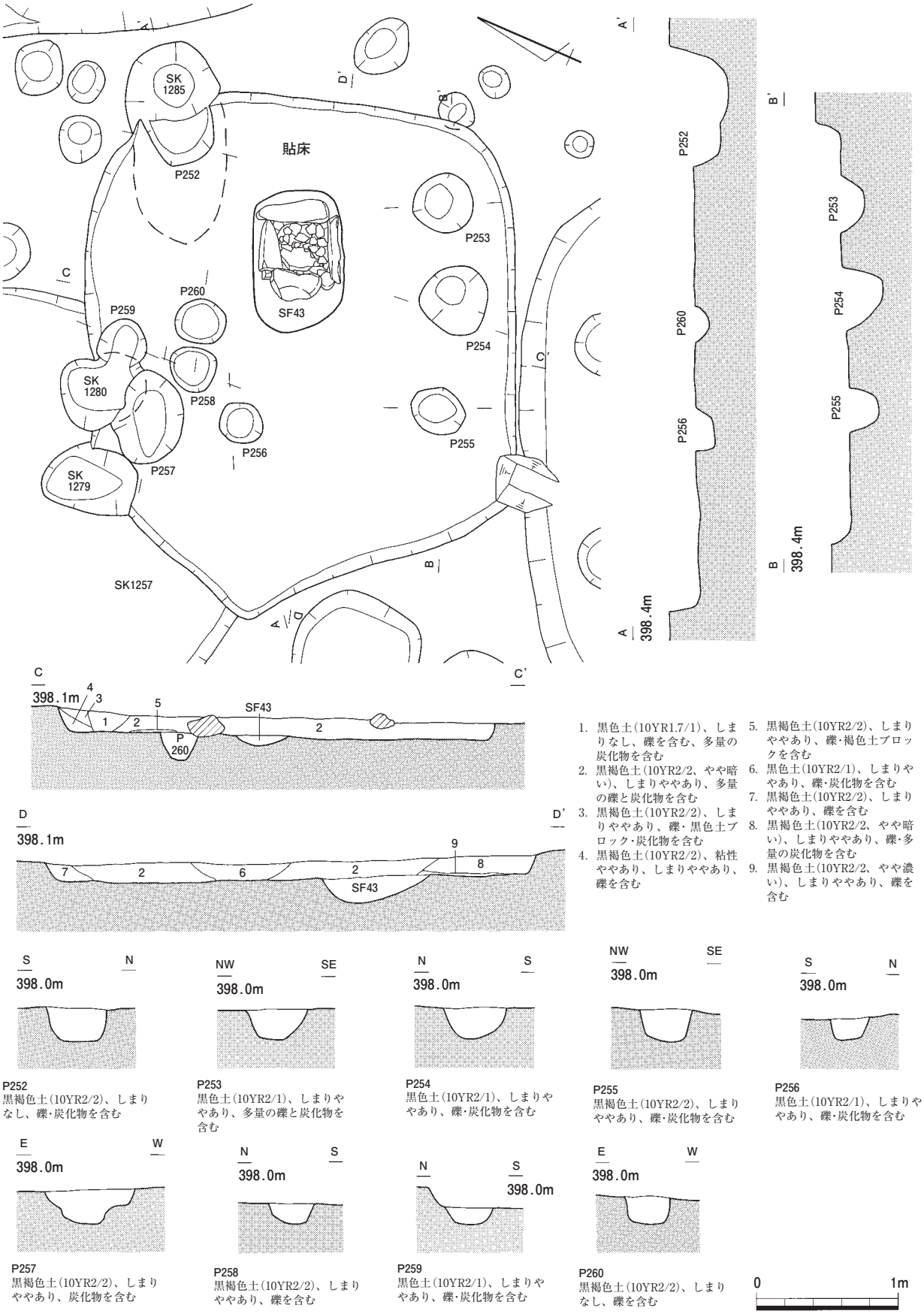


図71　SB14遺構図（1）

不規則である。石囲炉ＳＦ43（図72）は、長軸上に位置する。南辺を除く３辺では細長い円礫で囲むが、南辺では扁平な円礫の平坦面を上に向けて水平に据えられていた。炉跡の内部は扁平な円礫が敷かれ、その上下に土器片が敷かれていた。敷石と上部の土器敷き（628）、下部の土器敷き（627）の被熱の度合いは弱い。炉跡の内部では焼土は検出されなかった。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物・骨片が散在的に出土した。床面直上でも少量の縄文土器（618）と石器が出土した。土器は､中期中葉から後期前葉と少量の後期前葉が認められる。石器は、石鏃１点・石錐３点・削器１点・石篦１点・ＲＦ７点・ＵＦ10点・打欠石錘４点・切目石錘８点が出土した。

所属時期　ＳＦ43土器敷きの土器から、中期後葉（第４段階）と判断する。

ＳＢ15（現場名ＳＸ50、図73・74、図版25）

位置　Ｋ９・Ｋ10・Ｌ９・Ｌ10グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層中で検出した。ＳＫ942・944・1079・2457・2458・Ｐ156に切られ、ＳＢ７・ＳＫ1090・1157・1168・1202・1215・1221・1233を切る。埋土は全部で６層に分けられ、長径20㎝以下の亜円礫が多く含まれた。土層の中央がＵ字状に凹み、西壁の近くには三角堆積が認められた。

形状と規模　楕円形と考えられる。長径4.72m・短径4.08m・床面積19.38㎡以上を測る。

壁・床面の状況　検出面からの最大の深さは約36㎝を測り、壁は明確に立ち上がる。明確な硬化面は認められないが、ＳＦ44の周辺で貼床が検出された。北西部ではⅧ層又はⅨ層上面に達しており、一部竪穴の掘形に達した可能性もあるが、土層断面図を見る限り床面はほぼ水平である。

施設　床面で15基の遺構を検出した。柱穴は４基（Ｐ261・264・270・273）が想定できる。ＳＦ44の南辺の炉石を中心とした、同心円状の配置となる。石囲炉ＳＦ44（図74左下）は竪穴の中央に位置する。炉石は４辺とも遺存していた。いずれも円礫又は亜円礫が用いられ、南辺の扁平円礫は平坦

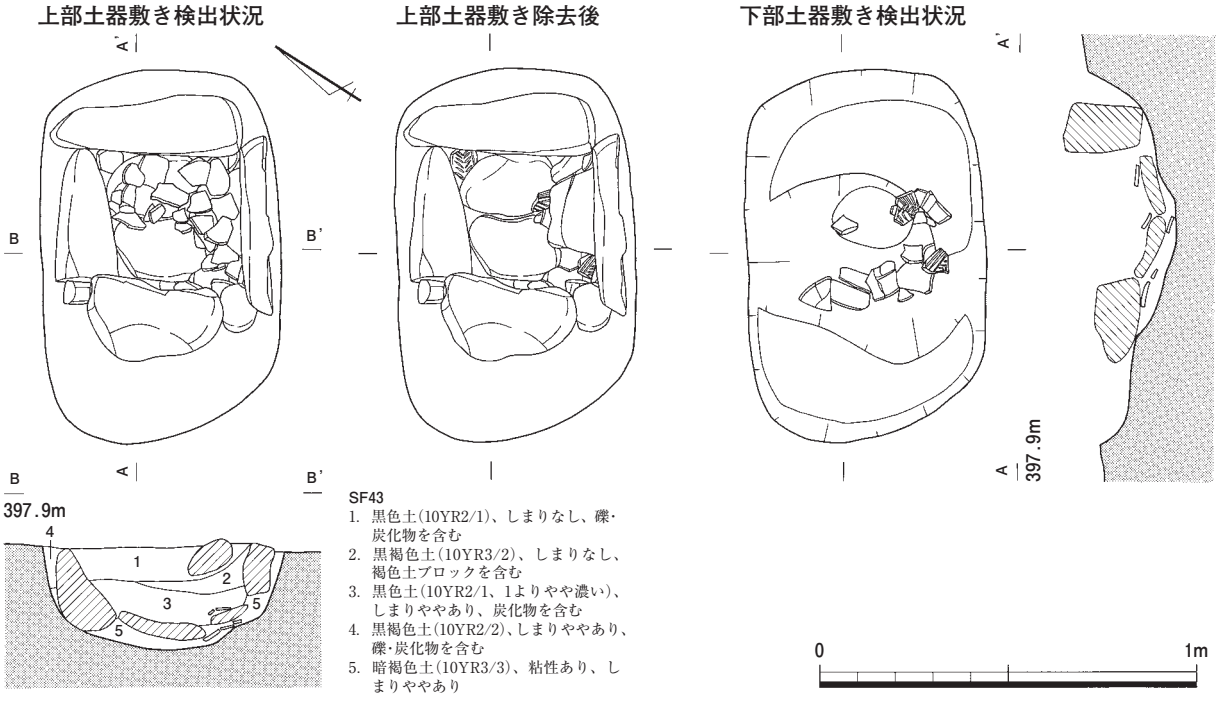


図72　ＳＢ14遺構図（２）

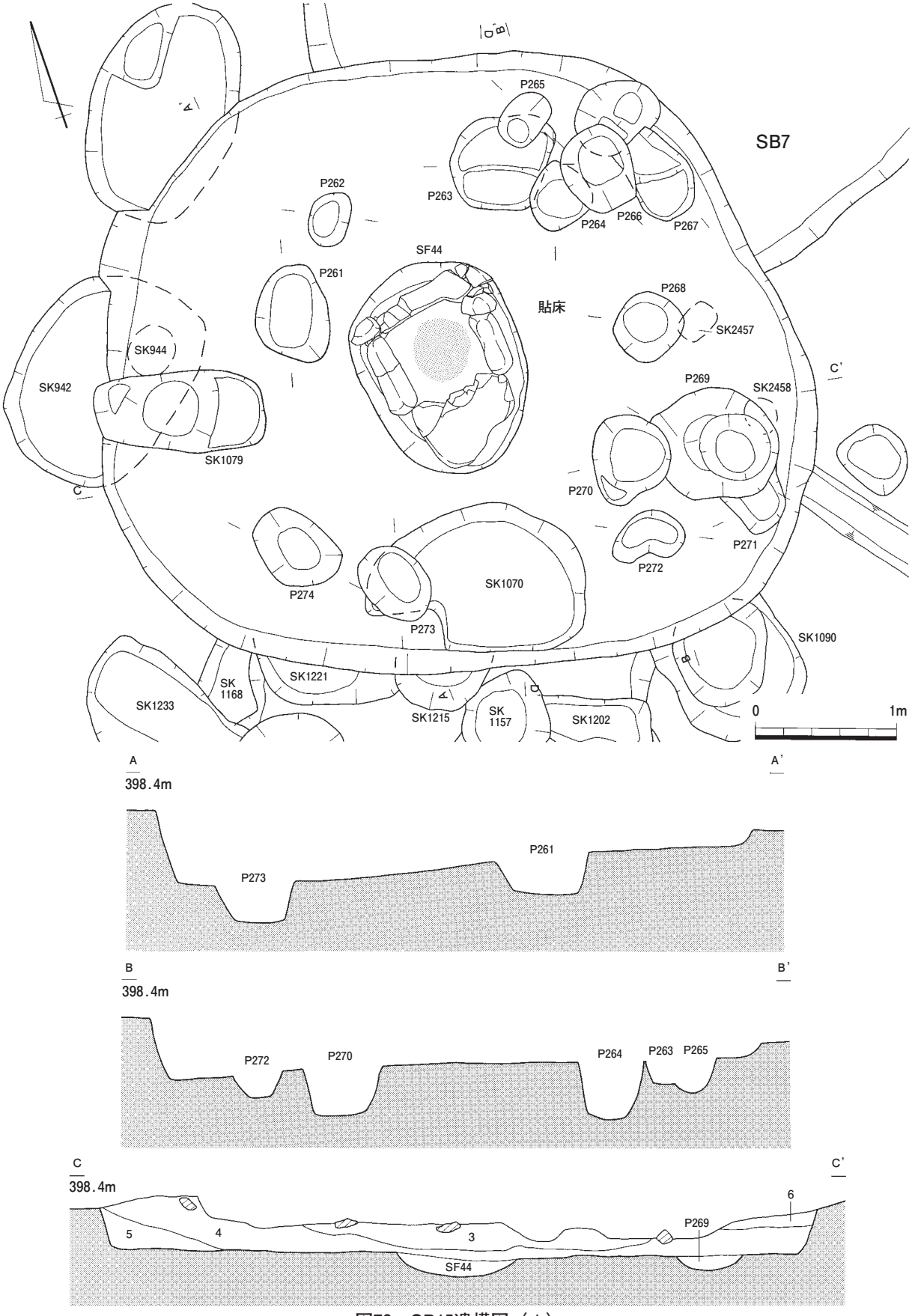
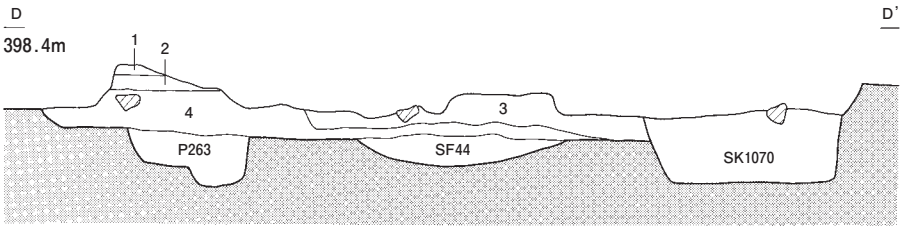
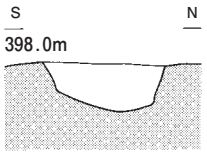


図73　SB15遺構図（1）

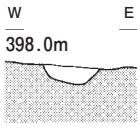


1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/3)、しまりややあり、礫を含む
3. 黒色土(10YR2/1)、しまりなし、礫・多量の炭化物を含む
4. 黒褐色土(10YR2/2,やや茶色)、礫・炭化物・骨片を含む
5. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
6. 黒褐色土(10YR2/3)、しまりややあり、礫を含む

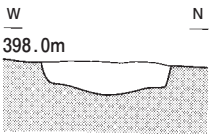
SK1070
黒褐色土(10YR2/2、やや暗い)、しまりなし、礫・骨片・多量の炭化物を含む



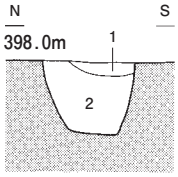
P261
黒褐色土(10YR2/3)、しまりややあり、礫・炭化物を含む



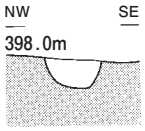
P262
黒褐色土(10YR2/2)、礫・炭化物を含む



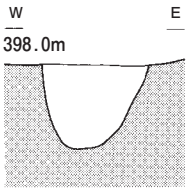
P263
黒褐色土(10YR2/3)、しまりなし、礫を含む



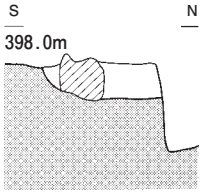
P264
1. 黒褐色土(10YR2/3)、しまりややあり、礫を含む、1と 2の境に褐色土が薄く堆積
2. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む



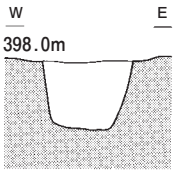
P265
黒褐色土(10YR2/3)、しまりなし、多量の礫を含む



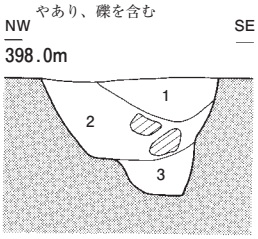
P266
黒褐色土(10YR2/2)、しまりなし、多量の礫を含む



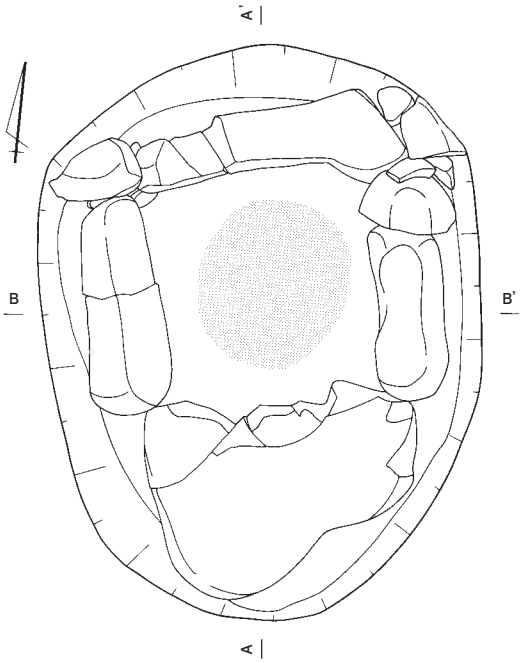
P267
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む

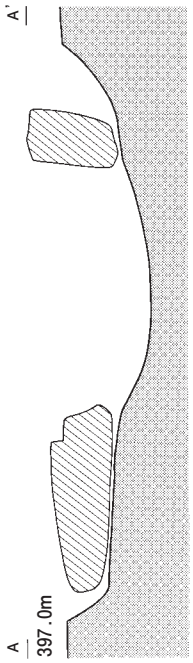


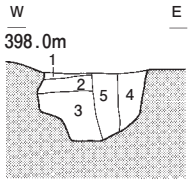
P268
黒褐色土(10YR2/3)、しまりややあり、礫を含む



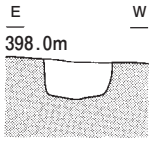
P269
1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2、やや茶色)、しまりなし、多量の礫を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりなし、多量の礫を含む



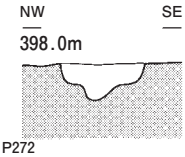




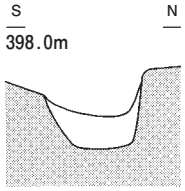
P270
1. 褐色土(10YR4/6)、固くしまる、礫を少量を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2、やや茶色)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR2/3、やや茶色)、しまりややあり、礫を含む
4. 黒褐色土(10YR2/3、やや茶色)、しまりややあり
5. 黒褐色土(10YR2/2、やや茶色)、しまりややあり、礫を含む



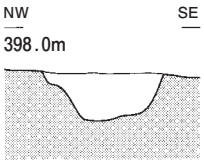
P271
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む



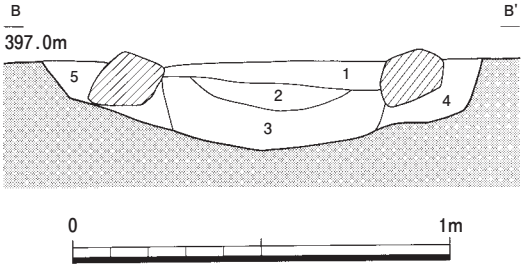
P272
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を少量含む



P273
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・焼土粒・炭化物を含む



P274
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む



SF44
1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2、暗い)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR2/3)、しまりなし、礫を含む
4. 黒褐色土(10YR2/3)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
5. 黒褐色土(10YR2/3、やや茶色)、しまりややあり、礫・炭化物を含む

図74　SB15遺構図（2）

面を上に向けて水平に据えられており、他の３辺は細長い亜円礫で囲み、北東・北西隅はやや小ぶりの亜円礫を配置していた。炉跡の内部では焼土が検出されず、底面と炉石の内側に被熱の痕跡が認められた。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物・骨片が散在的に出土した。土器は、中期中葉から後期前葉まで認められるが、主体は中期後葉である。石器は、石核３点・石鏃13点・石錐３点・石匙２点・掻器１点・削器１点・複合スクレイパー１点・ヘラ形石器１点・ＲＦ22点・ＵＦ11点・打製石斧１点・磨・敲石類８点・打欠石錘３点・切目石錘26点・磨製石斧２点・石皿１点・石棒１点（2330）が出土した。

所属時期　ＳＦ44出土土器（692・693）から、中期後葉（第３段階）と判断する。

ＳＢ16（現場名ＳＸ51、図75～77、図版26）

位置　Ｎ15・Ｎ16・Ｏ15・Ｏ16グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ132・156・407・447・448・536・537・540・2417～2419・2463に切られる。この他に、ＳＫ159・2427・ＳＩ12は竪穴廃絶後の遺構の可能性が高い。ＳＫ159（図76左下）は一見石囲炉に類似するが、礫・埋土・底面共に被熱の痕跡は認められない。土坑の埋土上部の中央に亜円礫２個を長手立てとし、周囲を亜円礫で囲む（土坑Ｂ２類）。礫はＳＢ16の床面から約15㎝露出していた。ＳＫ2427は床面で検出した遺構であるが、ＳＩ12と位置が一致することから、配石遺構の下部土坑と考えられる（図33）。竪穴の埋土は３層に分けられ、土層は中央がＵ字状に凹み、壁際に三角堆積が認められた。

形状と規模　平面形は不整円形である。長径4.91ｍ・短径4.81ｍ・床面積19.38㎡以上を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.30ｍを測り、壁はわずかに立ち上がる。明確な硬化面は確認できなかったが、焼土（後述するＳＢ16床下遺構）が面的に広がったため、床面に到達したと判断した。しかし焼土面の検出に努めた結果、焼土面が及ばない竪穴の壁周辺では、焼土面の縁辺部よりやや下がることとなった。一方、焼土面の検出高は縁辺部が高くて中央は低く、竪穴中央のＳＦ45炉石が焼土面から４㎝程度露出しているため、少なくとも本来の床面は焼土面の縁辺部と同じレベルか上位であったと言える。

施設　竪穴の内部で22基の遺構を検出した。柱穴は５基（Ｐ276・279・283・288・294）が想定できる。Ｐ294とＰ288の中点とＰ279を結ぶ線を軸にして、Ｐ276・294とＰ283・288が左右対称に位置する。石囲炉ＳＦ45（図77）は長軸上に位置する。いずれも円礫又は亜円礫が用いられ、西辺の炉石に接する扁平円礫は、平坦面を上に向けて水平に据えられていた。炉跡の内部の平坦面を上にして敷かれた扁平円礫の下から焼土層を検出した。東西辺の炉石も平坦面を上にして囲むが、北辺の炉石は抜き取られていた。なお炉石の内側と敷かれた礫の上面には、被熱の痕跡が認められた。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物・骨片が散在的に出土した。土器は、中期中葉から後期前葉まで認められるが、主体は中期後葉から後期初頭である。石器は、分割礫１点・石核１点・石鏃18点・石錐８点・削器１点・複合スクレイパー１点・ヘラ形石器２点・楔形石器３点・ＲＦ33点・ＵＦ12点・打製石斧４点・磨・敲石類11点・打欠石錘６点・切目石錘21点・磨製石斧１点・石皿１点・玦状垂飾１点（2339）が出土した。

所属時期　ＳＦ45出土土器（739～742）から、中期後葉（第４段階）と判断する。

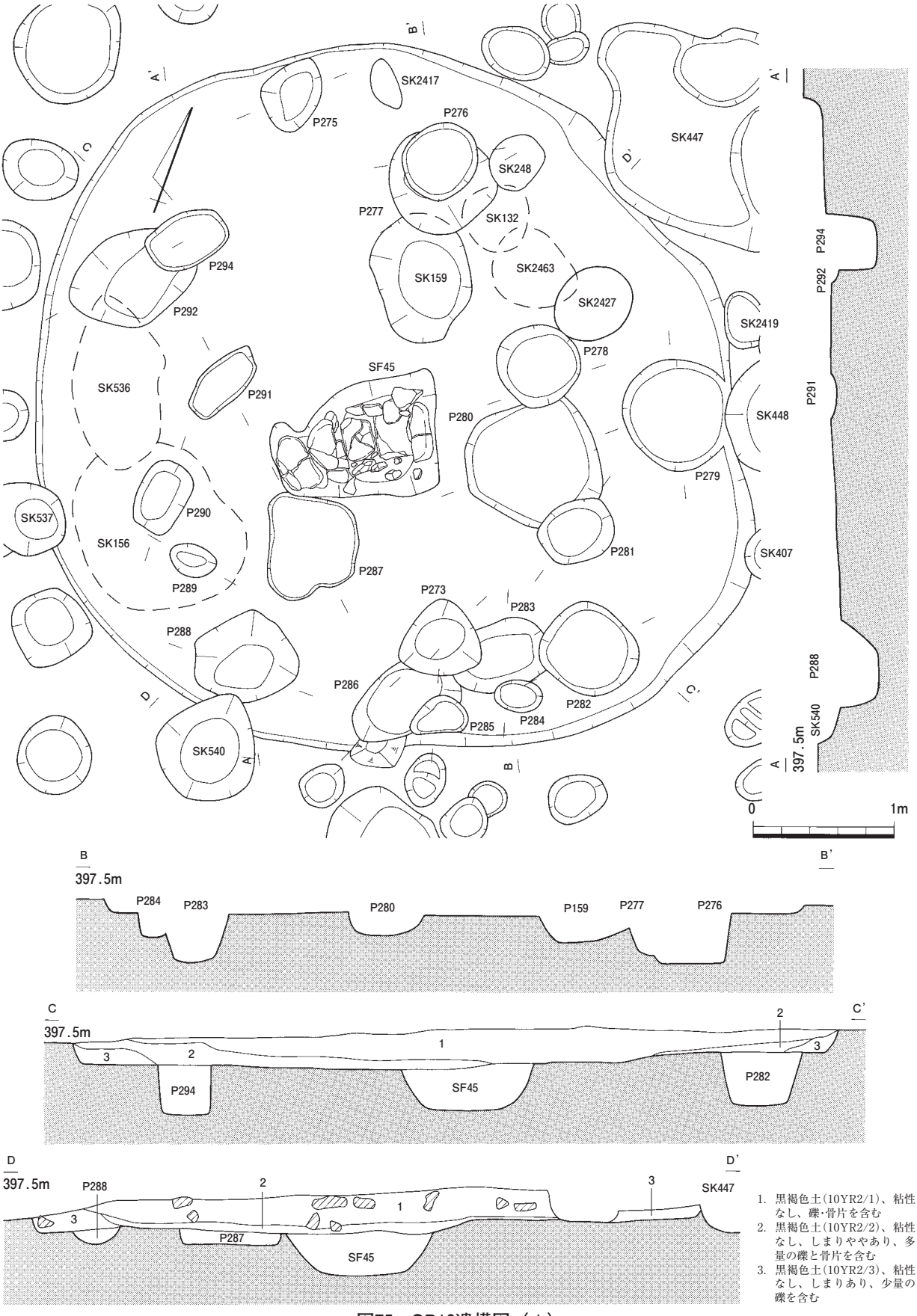


図75　SB16遺構図（1）

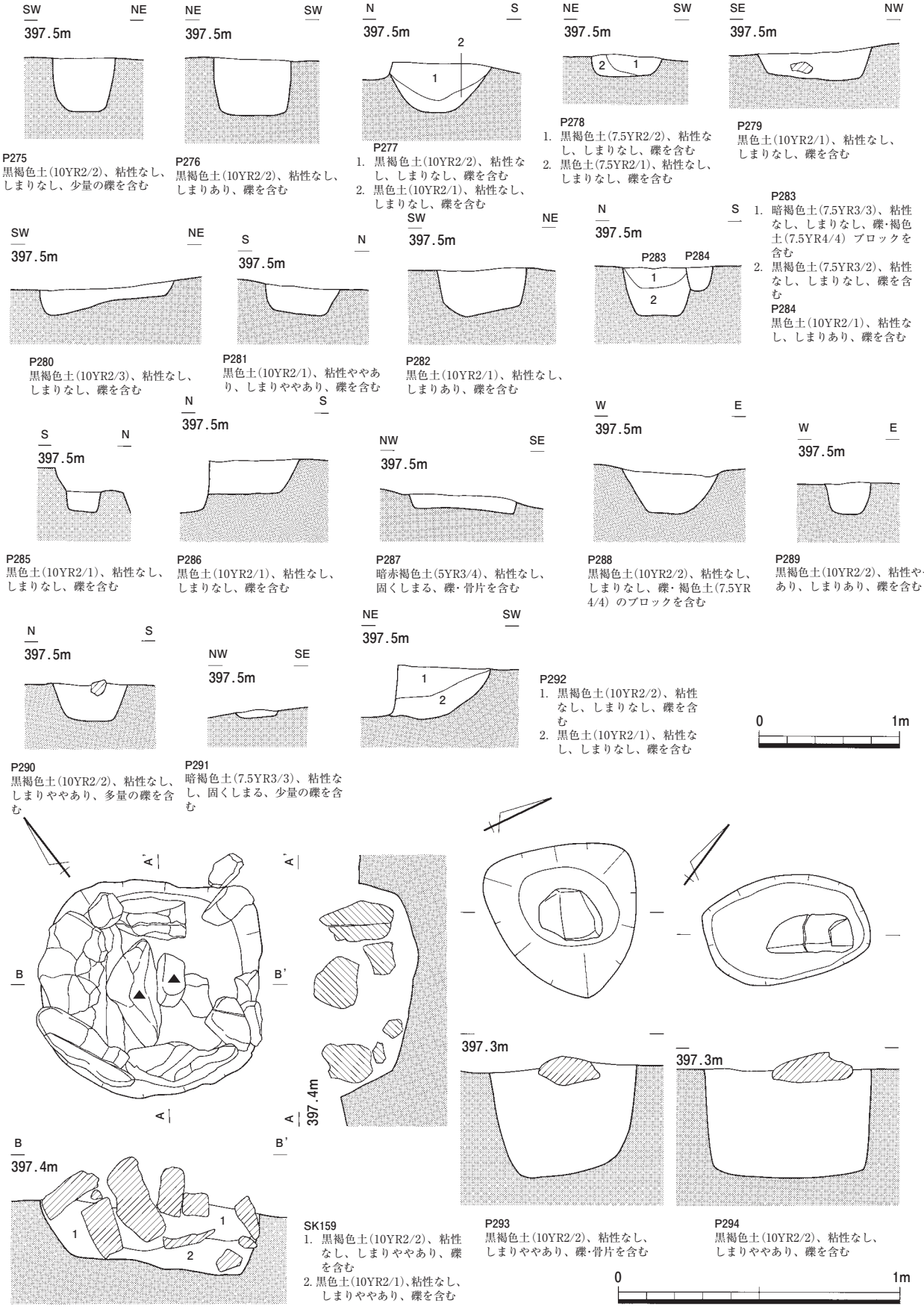


図76　SB16遺構図（2）

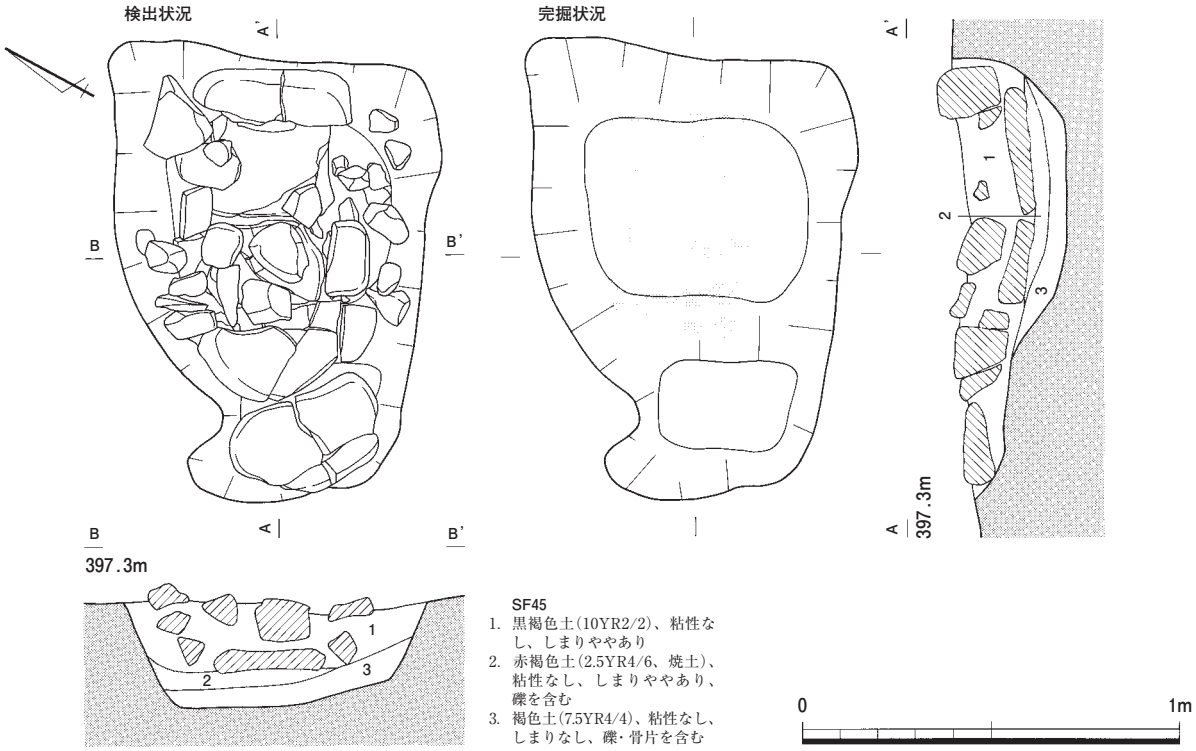


図77　SB16遺構図（3）

ＳＢ16床下遺構（図78、図版26）

位置　ＳＢ16内に位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。最大幅約3.0ｍを測る。

検出状況　ＳＢ16床面で検出した。ＳＢ16の竪穴内部で検出した遺構に切られる。焼土を断ち割ったところ、焼土の下に被熱の痕跡が認められない土層（５層）があり、土坑状の明瞭な立ち上がりが認められた（ＳＫ3624)。焼土の広がりは土坑の平面位置とほぼ重なることから、土坑埋土上部に焼土が位置することになる。焼土面の検出状況はＳＢ16で説明したとおり、中央が窪み縁辺部がやや高い。焼土面上では炭化材の出土や炭化物の集積は認められなかった。土層のうち１～４層は最大で９㎝を測り、礫や遺物を含まない均質なシルト質土である。５層は最大で13㎝を測り、礫や少量の炭化物・遺物を含む粘土である。よって両者は土質が大きく異なる。このうち１・２・４層は明らかに被熱しており、特に１層は色調の様子から最も高温で被熱したことが伺われる。３層は前後の土層と土質が類似しており、有機質の腐植や炭化物の集積とは考えられない。１～４層はほぼ水平な堆積状況であり、各層の広がりについては１層が西に偏って部分的に検出され、外側に行くに従って同心円状に下位の土層が現れることから、焼土面の中央が削られて断面がＵ字状に窪んだ形状になったと推測できる。ただし、焼土面には乾燥による亀裂が多数存在していることから、削平の規模は小さい可能性が高い。

遺構の検討　調査所見と、１～４層全体が一連の被熱によるものであり、１～４層は他からの搬入により敷設した可能性が高いとする指摘（第６章第２節参照）から、次の点を述べることができる。第一に、ＳＢ16のＳＦ45炉石の外側が被熱していないことと、被熱範囲は他から搬入したシルト質土の範囲と一致し壁際に及ばないことと、焼土ブロックがなく均質で焼土の層厚が極めて厚いことと、炭化材が出土しないことから、焼失家屋と考えることはできない。第二に、焼成粘土塊や未焼成土器な

ど土器焼成に直接関連する遺物が多数出土しておらず、ただちに土器焼成遺構と結論づけることもできない。第三に、地理的環境による防湿処置のために貼床及び火付けを行ったとみると、あまりに大規模で他の竪穴住居跡で同様の遺構は確認されておらず、疑問も残る。しかし本遺構のみの検討ではいずれも推測の域を出ないため、今後、類例と共に検討する必要がある。

出土遺物　なし。

所属時期　ＳＢ16とＳＢ16下部遺構の所属時期の引き算、ＳＫ3624とＳＦ45出土炭化物の年代測定の結果（第６章第６・７節）から、中期後葉（第２～３段階）と判断する。

ＳＢ16下部遺構（図79、図版26）

位置　ＳＢ16内に位置する。

検出状況　ＳＫ3624の完掘後、土坑の底面から壁面にかけて遺構（ＳＫ2428～2432・2434～2439）が検出された。このため、土坑周辺のＳＢ16床面をやや下げて再精査したところ、ＳＢ16に伴う遺構に切られる形でＳＫ2440・2443が検出されたが、竪穴は検出されなかった。結果的に、ＳＢ16床下遺構の外側に位置する遺構は、ＳＢ16と本遺構の両方に伴うことになる。そこで遺構の重複関係により、いずれかの帰属を判断した。重複のないＰ275・279・285・286については不明であるため、ひとまずＳＢ16に含めた。以上の経緯により、13基の遺構を認定した。これらのうち、ＳＫ2428・2430・2433・2440は柱穴の可能性もあるが、明確な貼床又は硬化面、炉跡等が検出されなかったため、竪穴住居跡と断定できる根拠が少ない。

出土遺物　土器は、中期中葉から後葉まで認められる。

所属時期　遺構埋土出土土器には時間幅があるが、ＳＫ3624出土炭化物の年代測定の結果（第６章第６節）も勘案し、中期後葉（第２段階）と判断する。

ＳＢ17（現場名ＳＢＢ４、図80、図版27）

位置　Ｈ９・Ｉ10グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層基底面で検出した。竪穴のプランは検出されなかったが、遺構検出時に黒色土が薄く楕円形に残った。この黒色土の範囲は後述する柱配置と密接なことから、埋土の一部と判断できる。

形状と規模　平面形は不明である。長径4.21ｍ以上・短径3.24ｍ以上、床面積は計測不能である。

壁・床面の状況　明確な貼床や硬化面は確認できず、Ⅸａ層上面で遺構を検出したため検出面は凹凸が著しく、竪穴の掘形に達した可能性がある。

施設　柱穴はＳＫ733・734・2449・2451・2454の５本が想定でき、ＳＦ46の南端を中心とした同心円状の配置となる。石囲炉ＳＦ46（図80左下）は４辺とも遺存しており、いずれも円礫又は亜円礫が用いられている。炉跡の内部では焼土検出されなかったが、炉石の内側と底面に被熱の痕跡が認められた。底面には小礫が散在しており、人為的に敷かれた可能性もある。

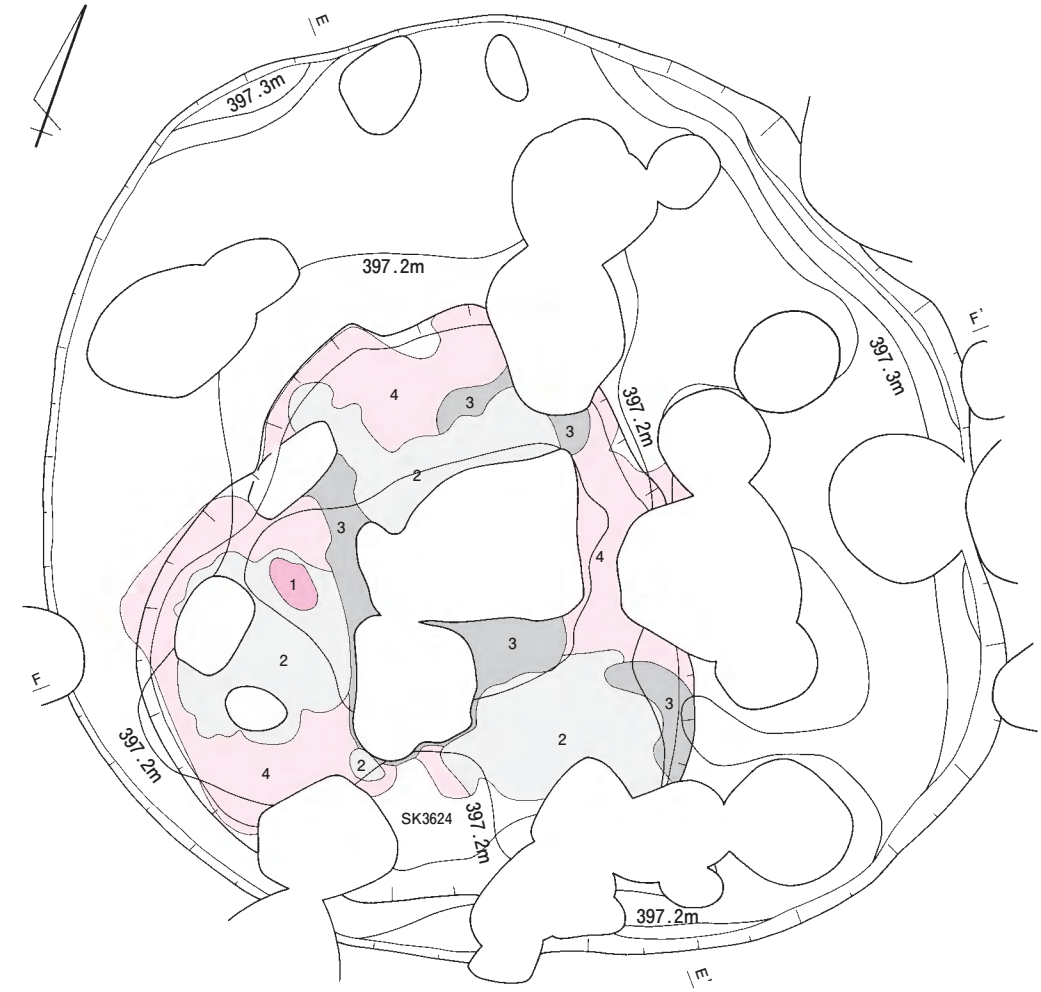
出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・炭化物が散在的に出土した。土器は、中期後葉で占められる。

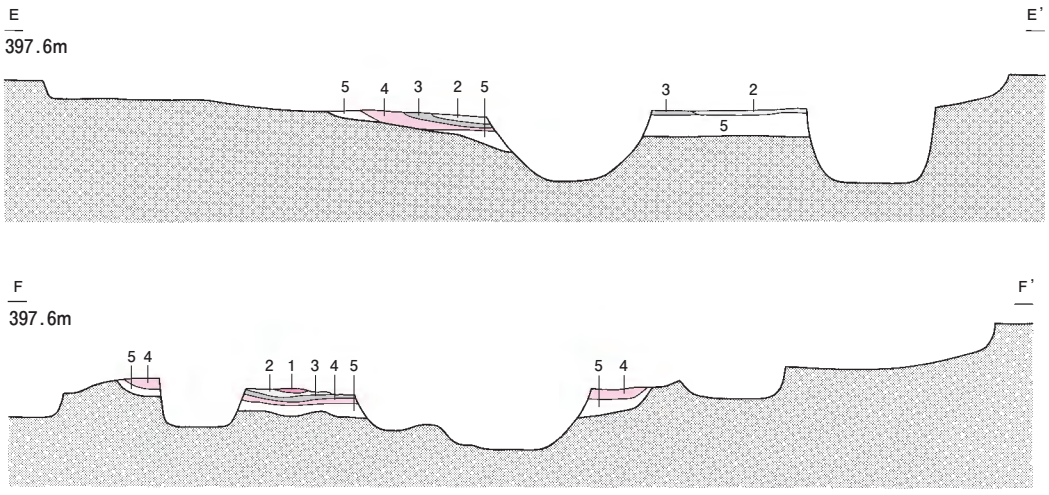
所属時期　ＳＦ46出土土器（754・755）から、中期後葉（第４段階）と判断する。

ＳＢ18（現場名ＳＸ33・ＳＢＢ５、図80・81、図版27）

位置　Ｇ11・Ｇ12・Ｈ11・Ｈ12グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ705・708・709・Ｐ308に切られる。当初、一辺3.8ｍ程度の隅丸方形の竪穴を想定したが、最終的に竪穴のプランを確定することはできなかった。

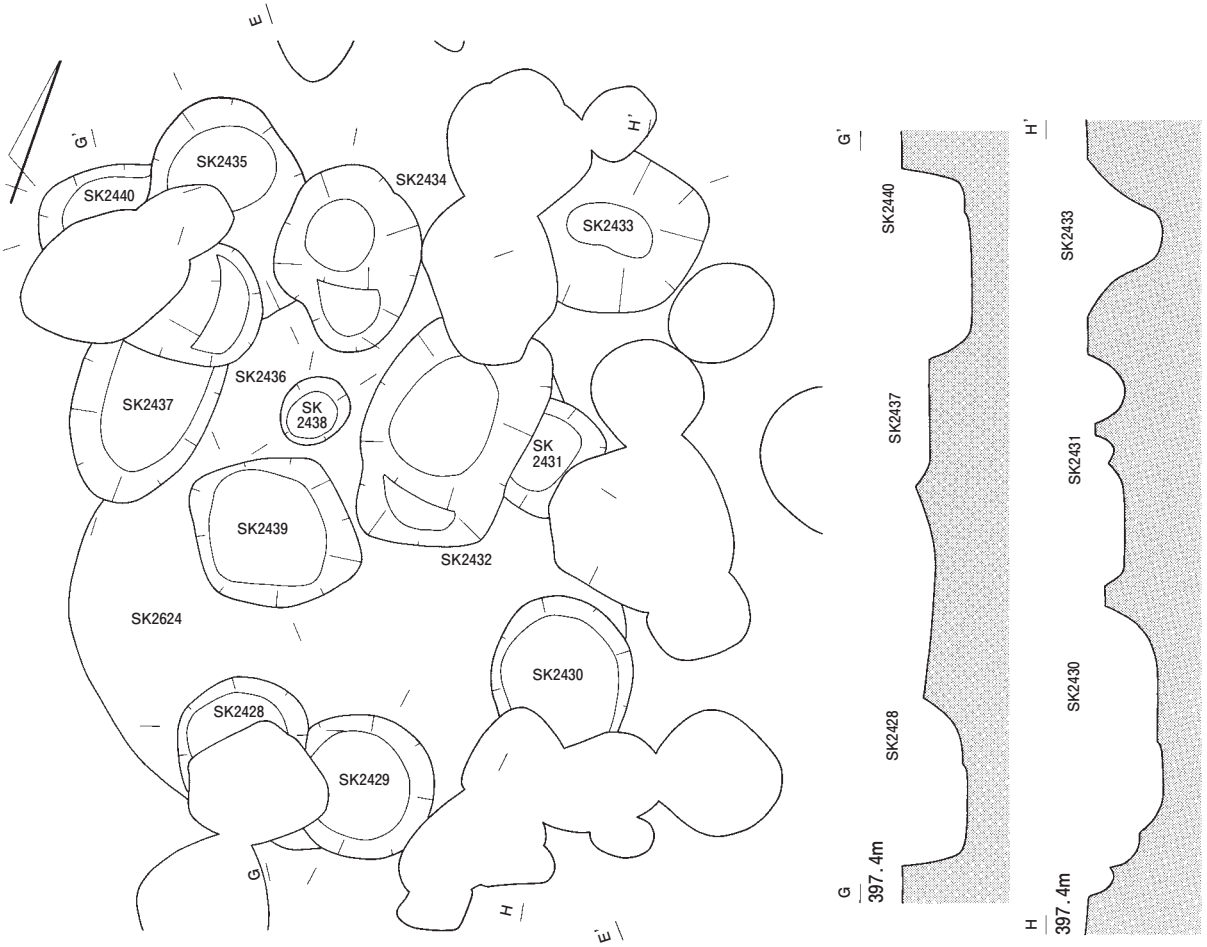


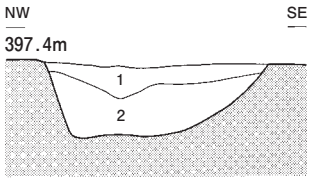


1. 赤色土(10R4/8、焼土)、粘性なし、しまりややあり
2. 橙色土(2.5YR6/8、焼土)、粘性なし、しまりなし
3. オリーブ黒色土 (10Y3/1)、粘性なし、しまりややあり
4. 暗赤褐色土(2.5YR3/4、焼土)、粘性なし、しまりややあり
5. 明赤褐色土(5YR5/6)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

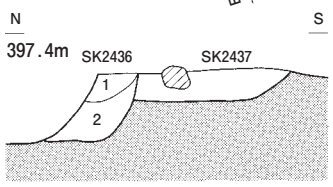
0　1m

図78　SB16床下遺構図



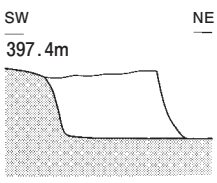


SK2435
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
2. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

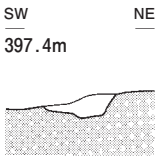


SK2436
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

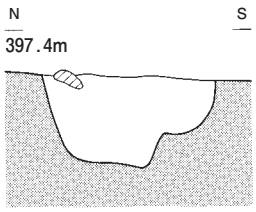
SK2437
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



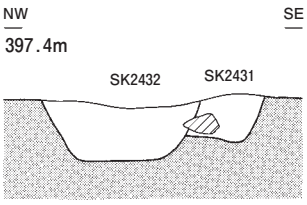
SK2440
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



SK2438
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

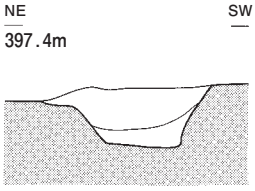


SK2434
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

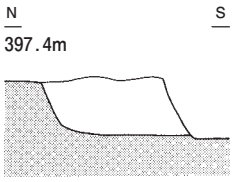


SK2432
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

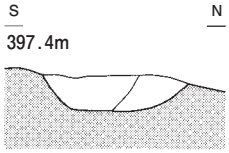
SK2431
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



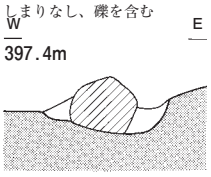
SK2433
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



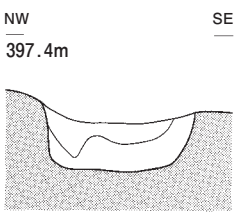
SK2430
黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



SK2429
1. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



SK2428
黒褐色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



SK2439
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

図79　SB16下部遺構図

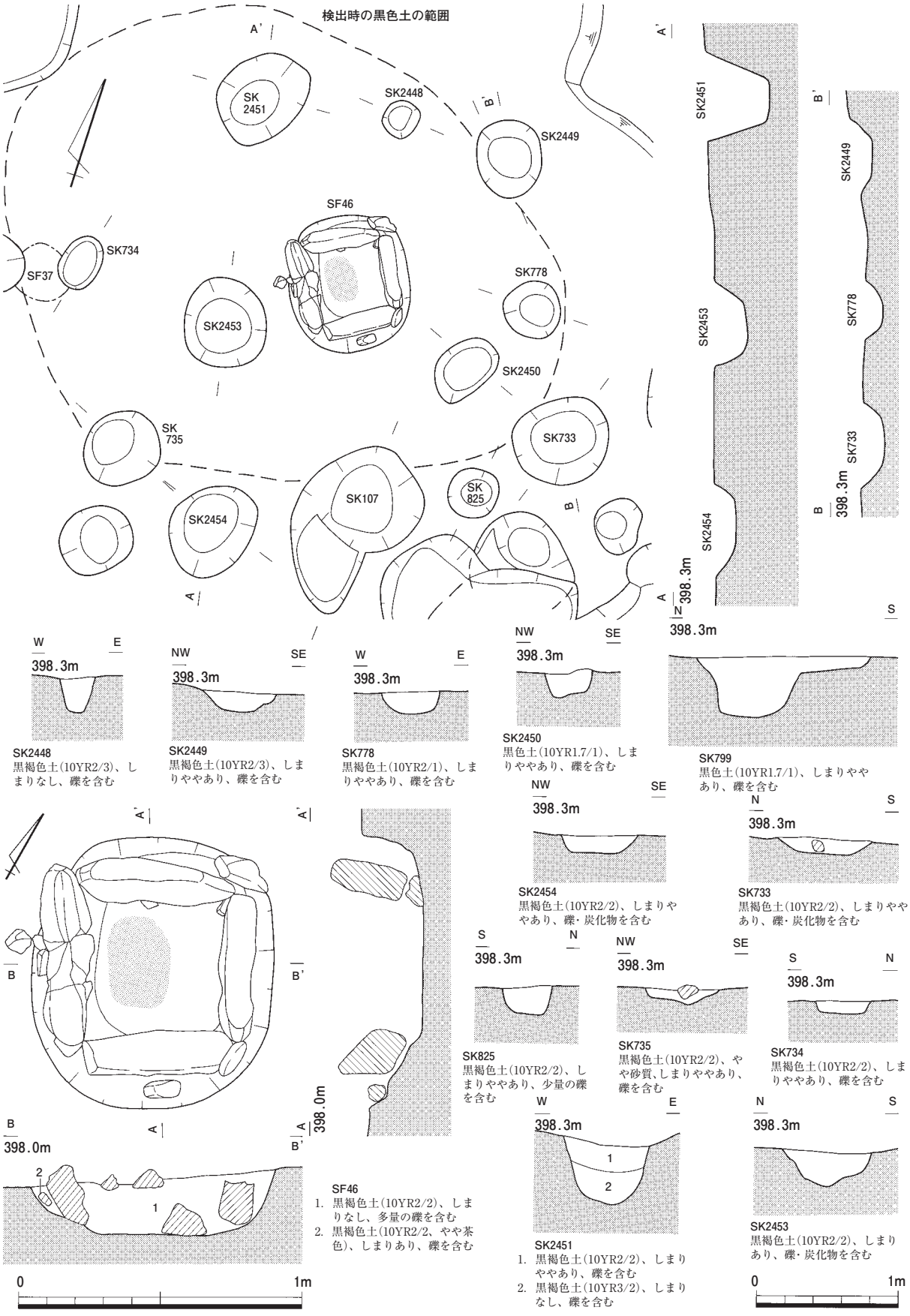

検出時の黒色土の範囲
SK 2451
SK2448
SK2449
SF46
SK734
SF37
SK778
SK2453
SK2450
SK 735
SK733
SK107
SK 825
SK2454
A'
A
B'
B
SK2451
SK2449
SK2453
SK778
SK2454
SK733
398.3m
W
E
NW
SE
N
S
SK2448
黒褐色土(10YR2/3)、しまりなし、礫を含む
SK2449
黒褐色土(10YR2/3)、しまりややあり、礫を含む
SK778
黒褐色土(10YR2/1)、しまりややあり、礫を含む
SK2450
黒色土(10YR1.7/1)、しまりややあり、礫を含む
SK799
黒色土(10YR1.7/1)、しまりややあり、礫を含む
SK2454
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
SK733
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
SK825
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、少量の礫を含む
SK735
黒褐色土(10YR2/2)、やや砂質、しまりややあり、礫を含む
SK734
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む
398.0m
SF46
1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりなし、多量の礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2、やや茶色)、しまりあり、礫を含む
SK2451
1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR3/2)、しまりなし、礫を含む
SK2453
黒褐色土(10YR2/2)、しまりあり、礫・炭化物を含む
0
1m

図80　SB17遺構図

形状と規模　共に不明である。

壁・床面の状況　ＳＦ47の周辺に部分的な貼床を検出したが、硬化面は認められなかった。

施設　明らかに後出の遺構を除くと、当初検出した竪穴の内部で23基の遺構を検出した。柱穴は４基（Ｐ297・304・310・314）が想定でき、ＳＦ47の南端を中心とした同心円状の配置となる。Ｐ299・308も柱配置の短軸に左右対称に位置するが、どのような性格の柱穴であるか不明である。石囲炉ＳＦ47（図82左下）も短軸上に位置する。炉石はいずれも円礫又は亜円礫が用いられている。西辺は抜き取られているが、他の３辺は遺存していた。ＳＦ47に北接するＳＫ985では、被熱した円礫が二つに割られ、うち一つを長手立てとする。ただし、ＳＫ985はＳＦ47完掘後に検出したものの、両者の重複関係は明らかにできなかった。しかし、北辺の炉石の食い違いと密接な関連があると考えられる。炉跡の内部では、厚さ８㎝の固く締まった焼土層が認められた。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物が散在的に出土した。土器は、中期中葉から後期初頭まで認められる。石器は、石核１点・石鏃16点・石鏃未製品１点・石錐４点・掻器１点・ヘラ形石器２点・楔形石器４点・ＲＦ６点・磨・敲石類３点・打欠石錘２点・切目石錘15点・磨製石斧１点・石皿４点が出土した。

所属時期　ＳＦ47炉石の裏込め土出土土器（785・786）から、中期後葉（第４段階）から後期初頭と判断する。

ＳＢ19（現場名ＳＢＢ６、図82・83、図版27）

位置　G11・G12・H11・H12グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ766・ＳＺ11に切られ、ＳＫ769・912を切る。他にも竪穴と多数の土坑が重複しているが、すべてを現地調査で明らかにすることはできなかった。埋土は５層に分けられ、径20㎝以下の亜円礫が多く含まれた。土層は中央がＵ字状に凹む堆積状況である。埋土中で配石遺構ＳＩ35（図84左下）が検出された。径８～25㎝程度の円礫又は亜円礫が無造作に集積されており、掘形及び下部土坑は検出されなかった。

形状と規模　竪穴の北半の形状から、隅丸方形と考えられる。長径3.47ｍ・短径3.31ｍ・床面積推定9.60㎡を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.30ｍを測り、壁は全般に比較的緩やかに傾斜する。明確な貼床や硬化面は確認できず、Ⅸａ層上面で遺構を検出したため検出面は凹凸が著しく、竪穴の掘形に達した可能性もある。

施設　竪穴の内部で５基の遺構を検出した。このうちＰ316は北壁に接し、竪穴との重複は不明である。柱穴は４基（Ｐ317・318・319・320）が想定でき、不規則な柱配置をとる。石囲炉ＳＦ48（図84右下）は竪穴中央に位置する。炉石は径10～36㎝の円礫又は亜円礫が用いられ、廃絶時の抜き取りは認められなかった。一部の礫には内傾するものがあり、原位置を保っていない可能性もある。炉跡の内部では、埋土中央の最上部に亜円礫２個が置かれていた。焼土は検出されなかったが、炉石の内側と底面で被熱の痕跡が認められた。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物・骨片が散在的に出土した。土器は、中期中葉から後期前葉まで認められるが、主体は後期前葉四ツ池式併行である。石器は、分割礫１点・石核２点・石鏃33点・石鏃未製品６点・石錐９点・掻器６点・削器６点・ノッチドスクレイパー３点・ヘ

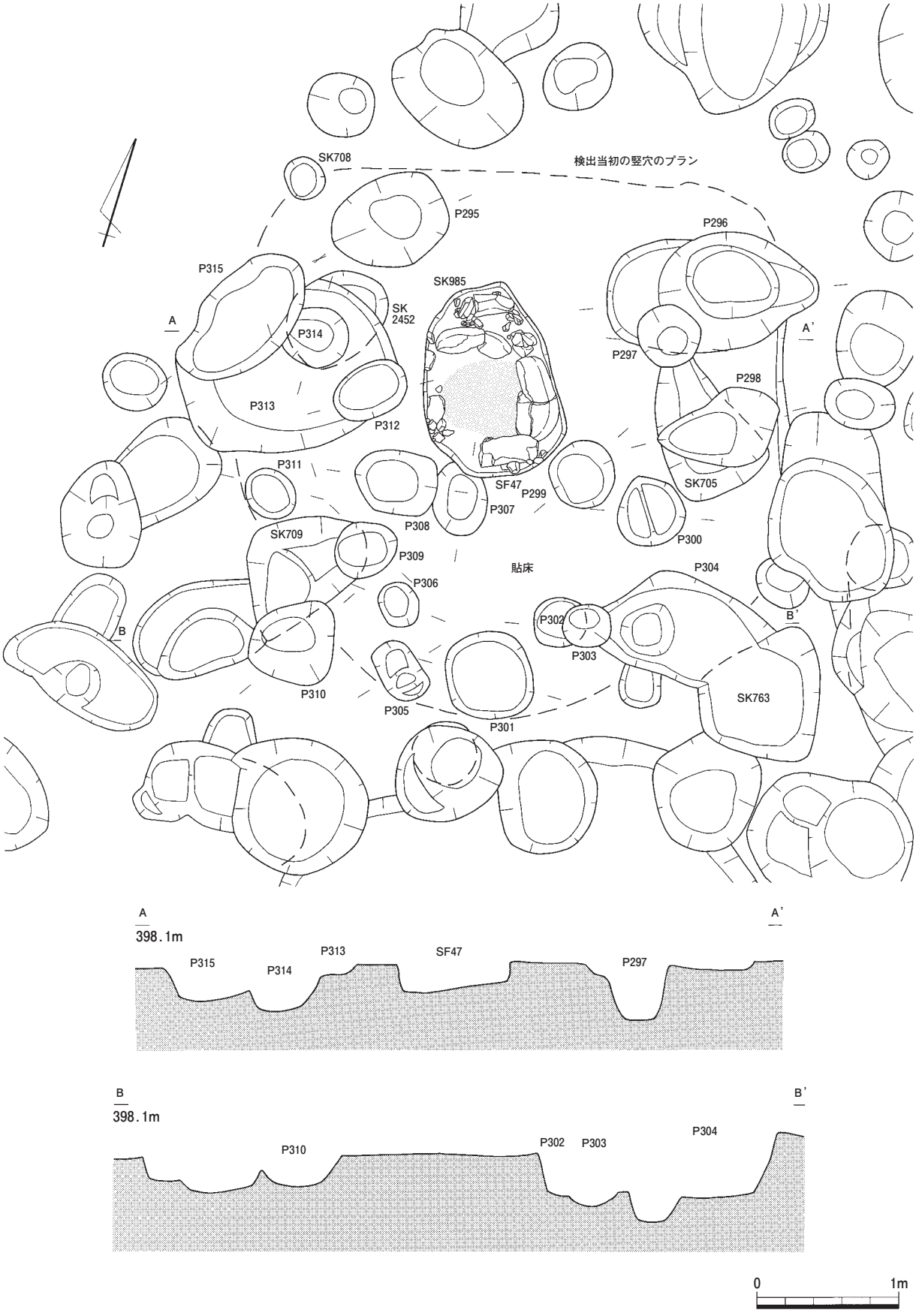
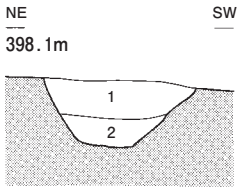
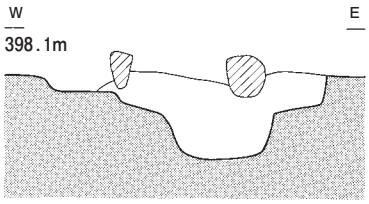


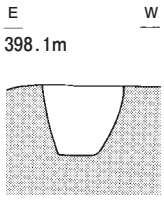
図81　SB18遺構図（1）



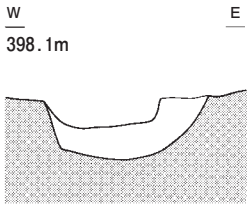
P295
1. 黒色土(10YR1.7/1)、しまりややあり、多量の礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、やや砂質、しまりややあり、多量の礫を含む



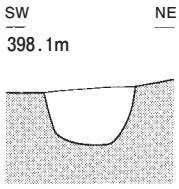
P296
黒色土(10YR1.7/1)、しまりややあり、多量の礫を含む



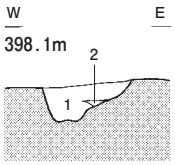
P297
黒褐色土(10YR2/2)、しまりなし、多量の礫を含む



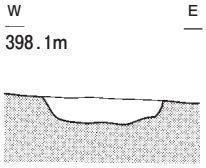
P298
黒色土(10YR2/1)、しまりややあり、少量の礫を含む



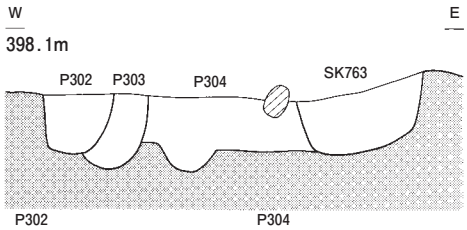
P299
黒褐色土(10YR2/2)、しまりなし、少量の礫と骨片を含む



P300
1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、少量の礫と炭化物を含む
2. 暗褐色土(10YR3/4、ブロック)、やや砂質、礫を含む



P301
黒褐色土(10YR2/2)、よくしまる、礫・炭化物を含む

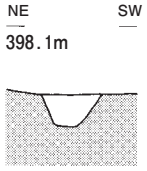


P302
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、少量の礫を含む

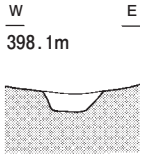
P303
黒色土(10YR2/1)、しまりややあり、礫・炭化物を含む

P304
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む

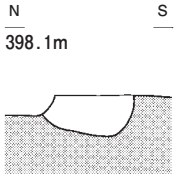
SK763
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、多量の礫を含む



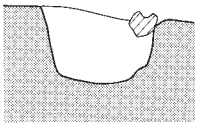
P305
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・焼土粒・炭化物を含む



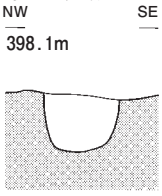
P306
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む



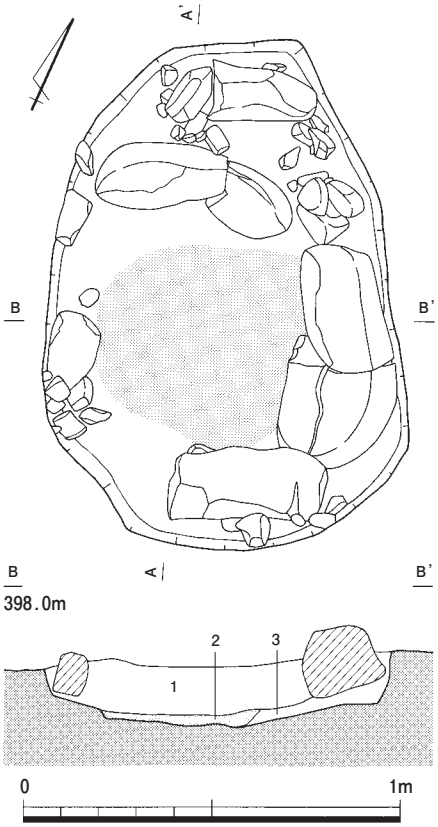
P307
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む



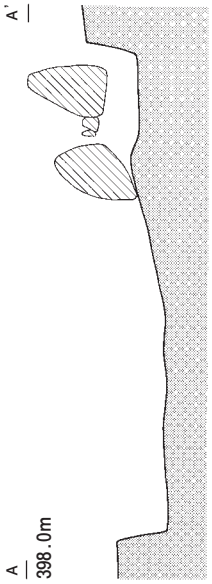
P308
黒色土(10YR1.7/1)、しまりややあり、礫・炭化物を含む

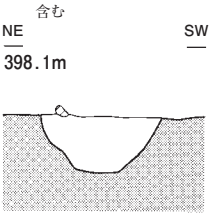


P309
黒色土(7.5YR1.7/1)、しまりややあり、礫・炭化物を含む

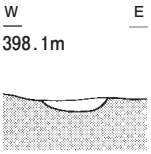


SF47
1. 黒褐色土(10YR2/2、やや暗い)、しまりややあり、礫を含む
2. 明赤褐色土(5YR5/8、焼土)、固くしまる
3. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む

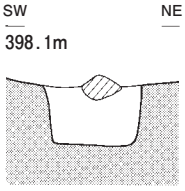




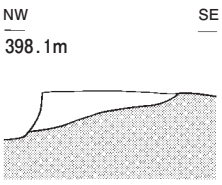
P310
黒褐色土(10YR2/2)、しまりあり、多量の礫を含む



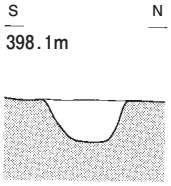
P311
黒褐色土(10YR2/2)、やや砂質、しまりなし、礫を含む



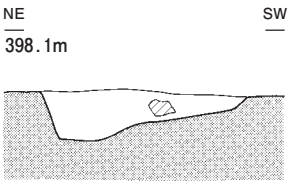
P312
黒色土(10YR1.7/1)、しまりややあり、礫・炭化物を含む



P313
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む

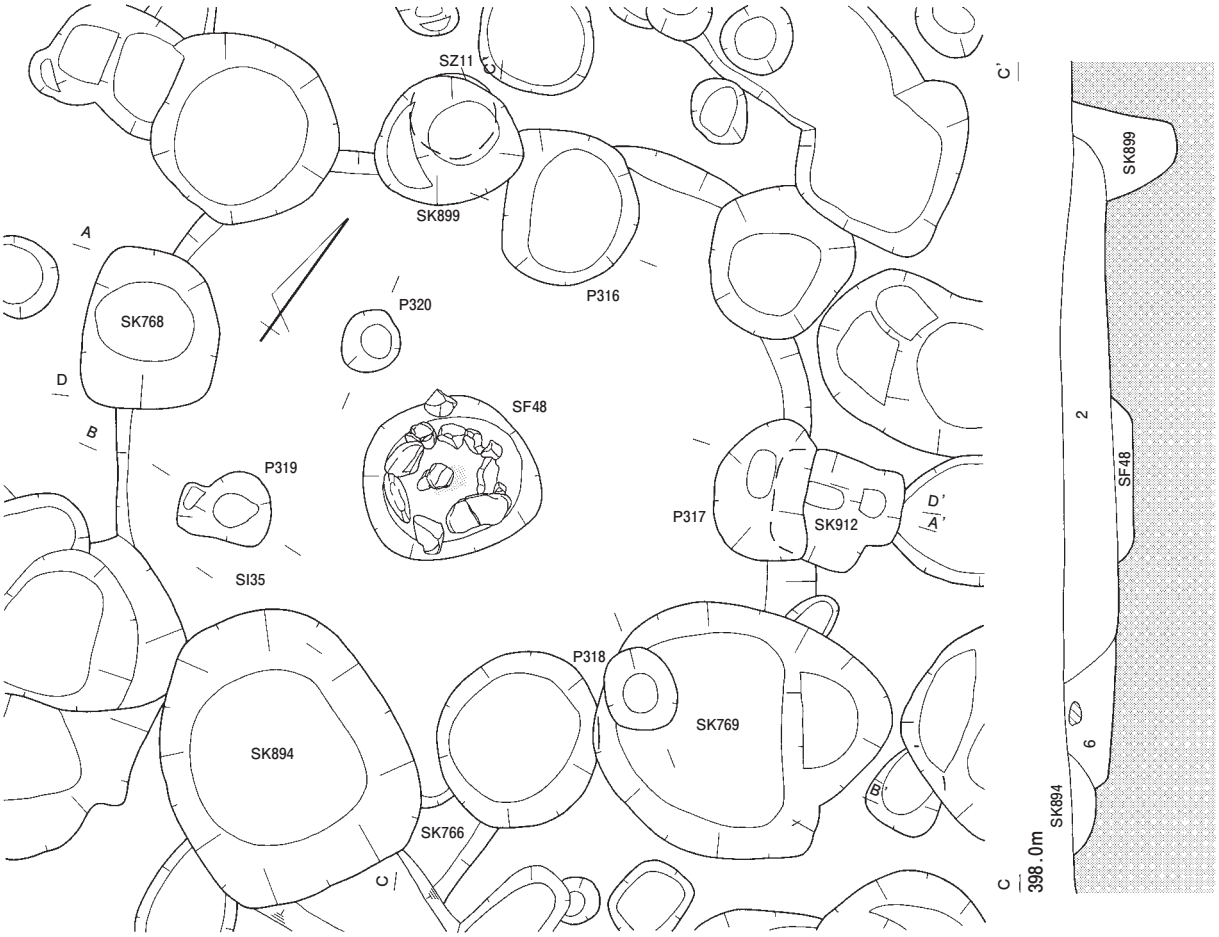


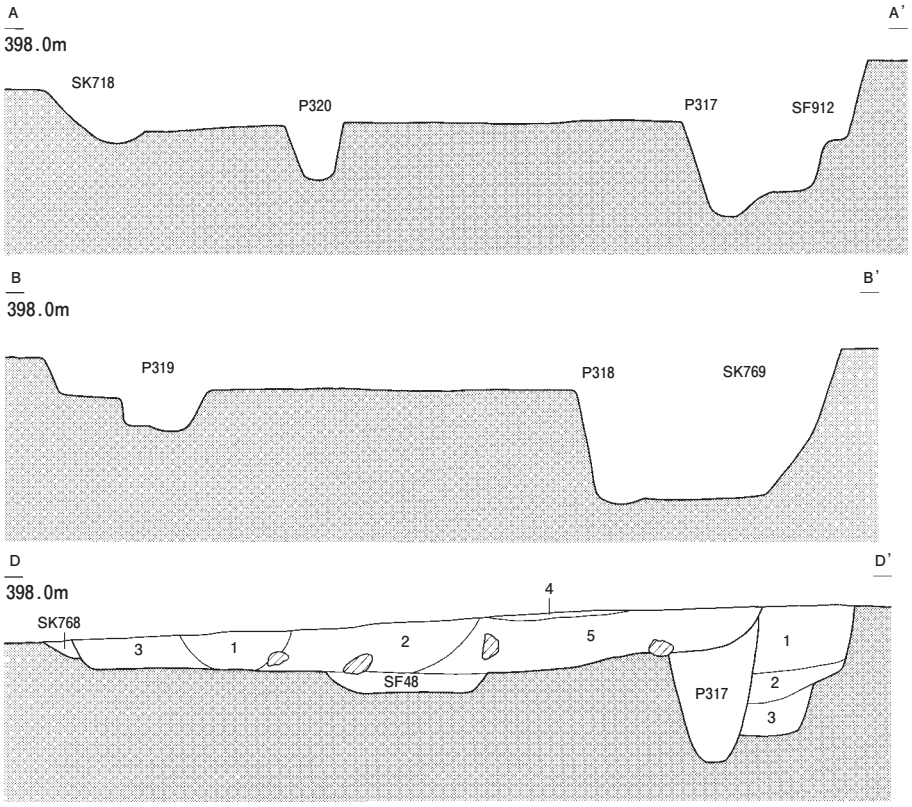
P314
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む



P315
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む

図82　SB18遺構図（2）





1. 黒褐色土(10YR2/1)、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2、やや暗い)、しまりややあり、礫を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2、やや暗い)、礫を含む
4. 黒色土(10YR2/1、やや暗い)、しまりややあり、礫を含む
5. 黒色土(10YR2/1)、しまりややあり、多量の礫を含む
6. 黒色土(10YR1.7/1)、しまりややあり

SK894
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む

SK899
黒褐色土(10YR2/2)、しまりあり、礫を少量含む

SK768
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・褐色土(10YR4/5)ブロックを含む

SK912
1. 黒色土(10YR2/1)、しまりややあり、多量の礫を含む
2. 黒色土(10YR2/1、やや茶色)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、多量の礫を含む

0　1m

図83　SB19遺構図（1）

ラ形石器２点・楔形石器14点・ＲＦ39点・ＵＦ15点・打製石斧５点・磨・敲石類２点・打欠石錘５点・切目石錘40点が出土した。

所属時期　柱穴Ｐ317・318出土土器（順に841・842）は、埋土出土土器と時期が大きく異なるので混入とみなし、出土土器の主体から、後期前葉四ツ池式併行と判断する。

ＳＢ20（現場名ＳＢＢ７、図85・86、図版27・28）

位置　Ｈ11・Ｉ11グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層基底面で検出した。当初長径4.5m・短径3.4m程度の楕円形の竪穴（現場名ＳＸ26）を想定したが、大型土坑と判断して掘削を進めたところ、中央で石囲炉が検出された。このため、最終的に竪穴のプランを確定することができなかった。周辺に多数の土坑が密集しており、それらの中には、埋土の全体から亜円礫が出土したＳＫ878（図86右下、土坑Ｄ１ａ類）がある。

形状と規模　共に不明である。

壁・床面の状況　壁については不明である。明確な貼床や硬化面は確認できず、Ⅸａ層上面で遺構検出したため、検出面は凹凸が著しく、竪穴の掘形に達した可能性もある。

施設　柱穴はＳＫ815・854・2456 が想定でき、北西の柱穴がＳＫ882によって失われたとすれば、

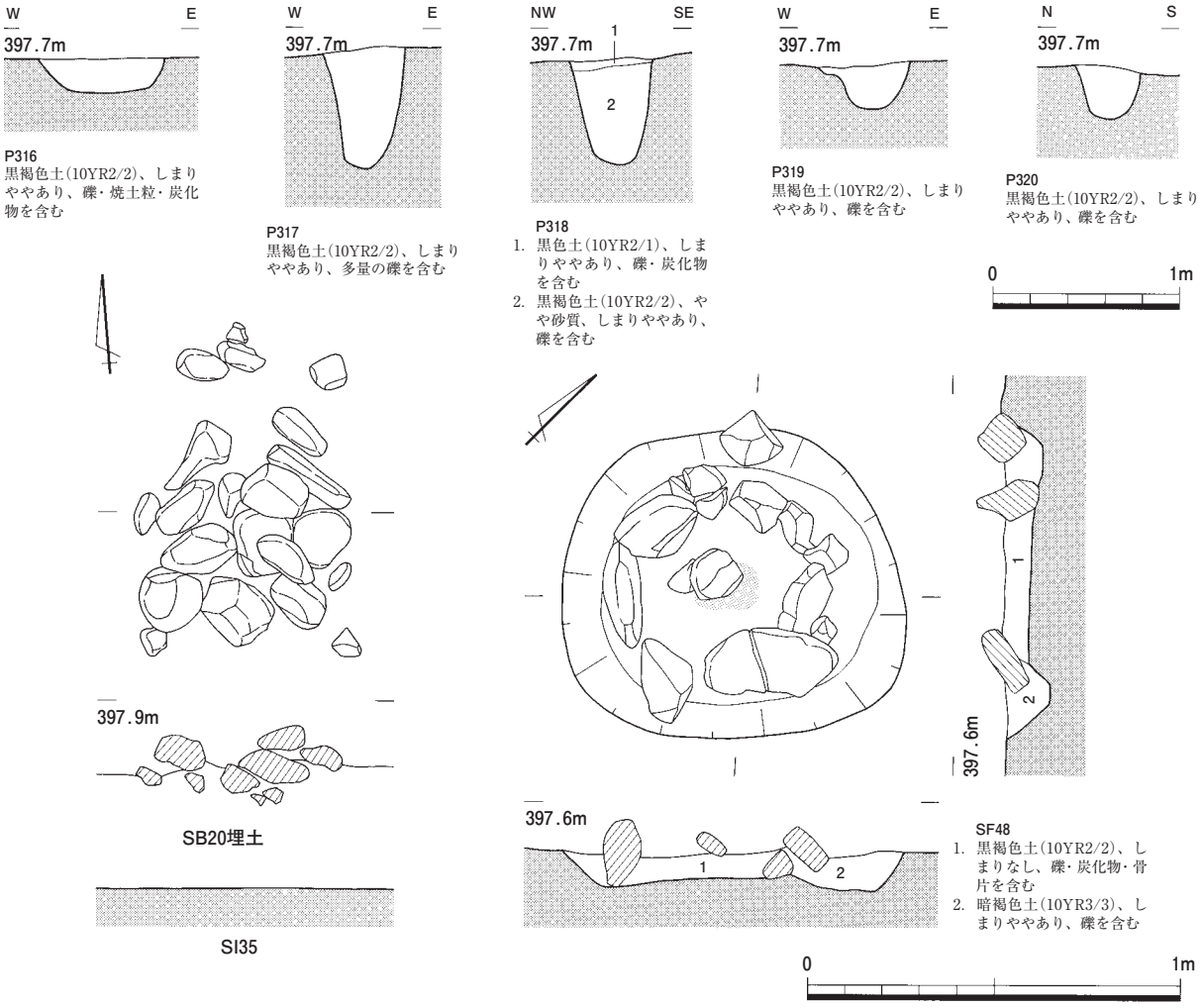
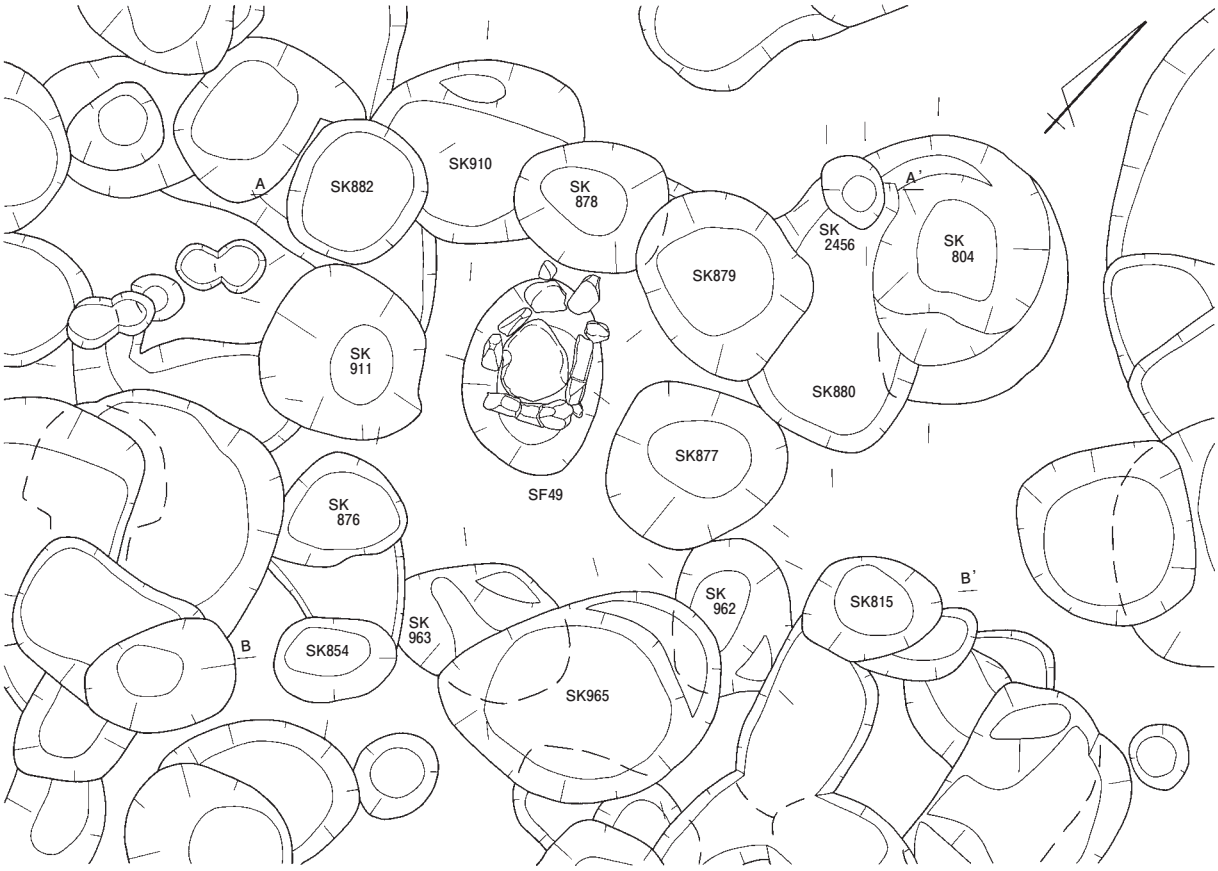
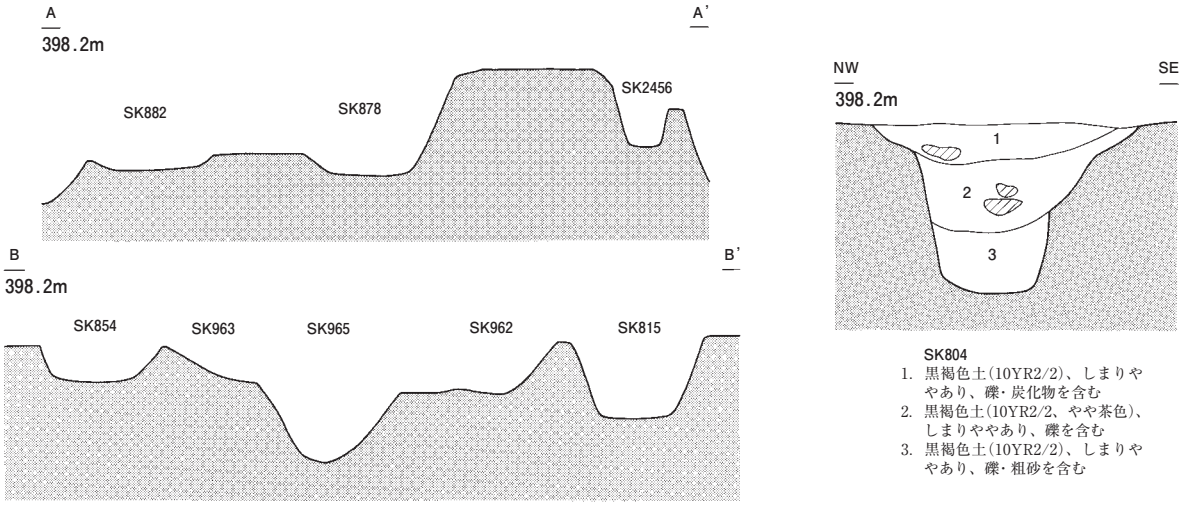
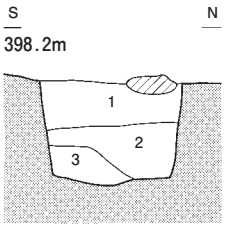


図84　ＳＢ19遺構図（２）

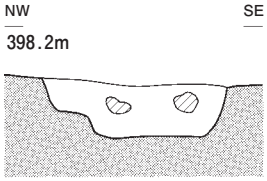




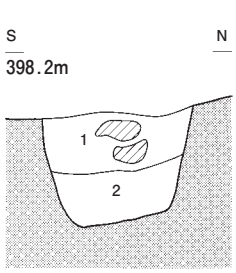
SK804
1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2、やや茶色)、しまりややあり、礫を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・粗砂を含む



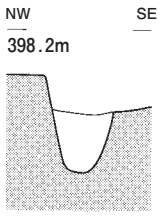
SK882
1. 黒色土(10YR2/1)、しまりややあり、礫を含む
2. 黒色土(10YR2/1、やや茶色)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む
3. 黒色土(10YR1.7/1)、しまりややあり、礫を含む



SK910
黒褐色土(10YR2/2)、多量の礫と褐色土(10YR4/5)ブロック・骨片を含む

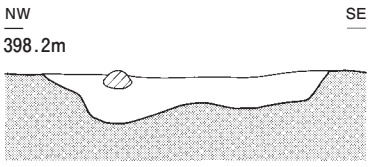


SK879
1. 黒色土(10YR1.7/1)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
2. 黒色土(10YR2/1)、しまりなし、礫を含む

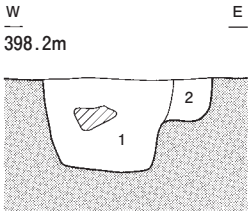


SK2456
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む

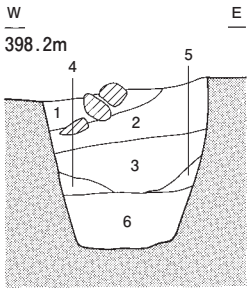
図85　SB20遺構図（1）



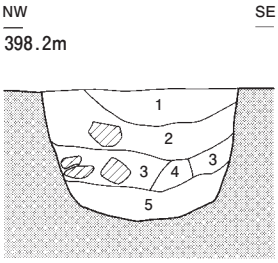
SK880
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、多量の礫を含む



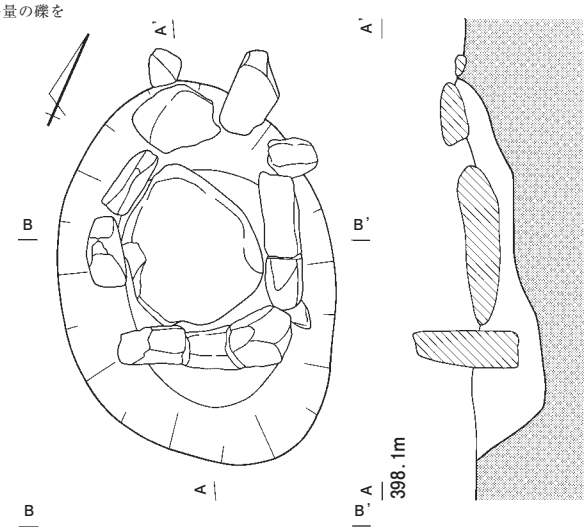
SK815
1. 黒色土（10YR2/1)、粘性ややあり、しまりややあり、多量の礫を含む
2. 黒色土（10YR2/1､やや茶色)、しまりややあり、多量の礫を含む

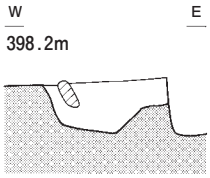


SK877
1. 黒色土(10YR2/1)、しまりややあり、礫･骨片を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりややあり、礫･炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR2/3)、やや砂質、しまりややあり、礫･炭化物を含む
4. 黒褐色土(10YR2/2)、やや砂質、しまりなし、礫を含む
5. 黒褐色土(10YR2/2)、やや砂質、しまりなし、礫を含む
6. 暗褐色土(7.5YR3/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫･炭化物を含む

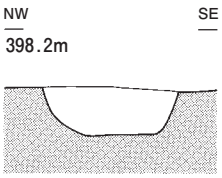


SK965
1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/3)、しまりややあり、礫･炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR2/3、やや暗い)、しまりなし、礫を含む
4. 暗褐色土(10YR3/3)、やや砂質、しまりなし、礫を含む
5. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫･炭化物を含む

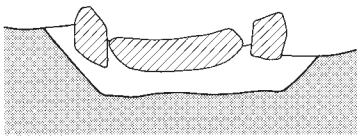




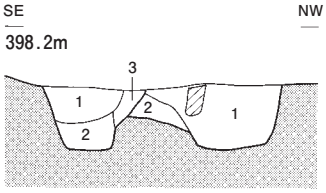
SK962
黒色土(10YR2/1)、しまりややあり、礫･炭化物を含む



SK963
黒褐色土(10YR2/3)、しまりあり、礫･褐色土(10YR4/5)、ブロック･炭化物を含む

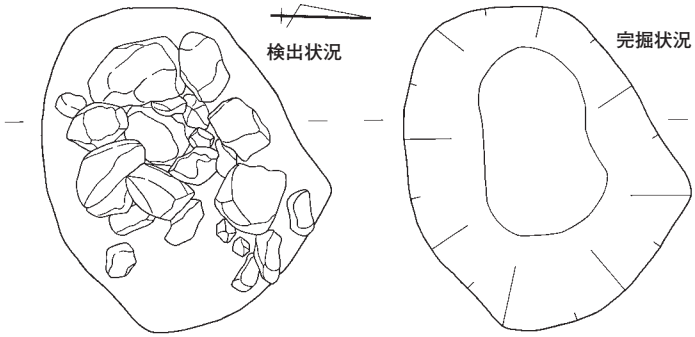


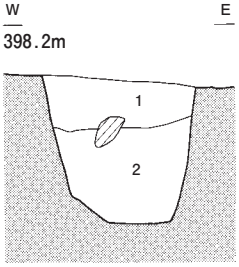
SF49
暗褐色土(10YR3/4)



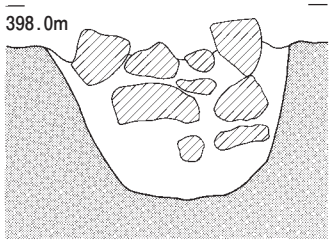
SK854
1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、多量の礫を含む
2. 黒色土(10YR2/1)、しまりややあり
3. 黒褐色土(10YR2/2、やや茶色)、しまりややあり、礫を含む

SK876
1. 黒色土(10YR2/1)、しまりあり、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む





SK911
1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりあり、礫･炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2、やや茶色)、しまりややあり、礫を含む



SK878
黒色土(10YR1.7/1)、しまりややあり､多量の礫と炭化物･骨片を含む

図86　SB20遺構図（2）

柱配置は4本で構成すると考えられる。石囲炉ＳＦ49（図86中央右）は、柱配置の短軸から西に寄る。炉石は東・南側がＬ字に立てられているが、北側はやや小ぶりの亜円礫が散在しており、廃絶時に抜き取られて原位置を保っていない可能性もある。炉跡の内部は、中央の埋土最上部において、扁平円礫1個が平らな面を上にして置かれていた。この礫に被熱の痕跡はなく、底面と炉石の内側に被熱の痕跡が認められた。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物が散在的に出土した。土器は、中期中葉から後期前葉まで認められるが、主体は後期前葉である。石器は、楔形石器2点・ＲＦ2点・ＵＦ1点、ＳＫ878からＲＦ1点・切目石錘1点（2274）が出土した。

所属時期　埋土出土土器の主体から、後期前葉四ツ池式併行と判断する。

ＳＢ21（現場名ＳＸ17・ＳＢＢ8、図87・88、図版29）

位置　M10・M11・N10・N11グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層基底面で検出した。竪穴の中央東よりにＡトレンチが縦断する。ＳＫ1025・1313・1314を切り、ＳＫ1024・1033に切られる。ＳＢ22との重複関係は、調査段階で明らかにすることはできなかった。埋土は7層に分けられ、土層は中央がＵ字状に凹み、東壁の近くには三角堆積が認められた。

形状と規模　西側がやや直線的ではあるが、全体としては楕円形である。長径3.93m・短径3.66m・床面積推定11.60㎡を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.40mを測り、壁は南・東側が垂直に近い立ち上がりである。明確な貼床や硬化面は認められなかった。床面は水平である。

施設　床面で5基の遺構を検出した。柱穴は深さの浅いＰ324を除くＰ321・322・323で、南東の柱穴がＡトレンチによって失われたとすれば、柱配置は4本で構成すると考えられる。楕円形の石囲炉ＳＦ50（図88左）は、竪穴中央より西寄りに位置する。南辺を除く3辺で細長い円礫で囲み、このうちの東辺は二重に立てる特徴がある。南辺は扁平な円礫を用い、平坦面を上に向けて水平に据えられていた。炉跡の内部には焼土はなく、炉石の内側と底面に被熱の痕跡が認められた。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物が散在的に出土した。土器は、中期中葉から後葉まで認められるが、主体は中期後葉である。石器は、石核1点・石鏃14点・石錐3点・掻器1点・削器2点・ノッチドスクレイパー1点・ヘラ形石器2点・楔形石器3点・ＲＦ21点・ＵＦ6点・打製石斧1点・磨・敲石類3点・打欠石錘6点・切目石錘19点が出土した。

所属時期　ＳＦ50出土土器（890）と埋土出土土器の主体から、中期後葉（第4段階）と判断する。

ＳＢ22（現場名ＳＢＢ9、図89、図版30）

位置　Ｌ9・L10・Ｍ9・M10グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層基底面で検出した。埋土上面からＳＫ943・1015～1018・1020・1031、竪穴の南北をＳＢ7・ＳＢ21に切られる。ただし、このうちのＳＫ1020を除く土坑と本遺構の出土土器には時期差がなく、竪穴の埋土の違いを遺構として認識した可能性もある。埋土は、西壁の近くで三角堆積が認められるものの、全体的には単層である。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径4.54m・短径3.65m・床面積推定11.90㎡を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.20mを測り、東西の壁は垂直に近い立ち

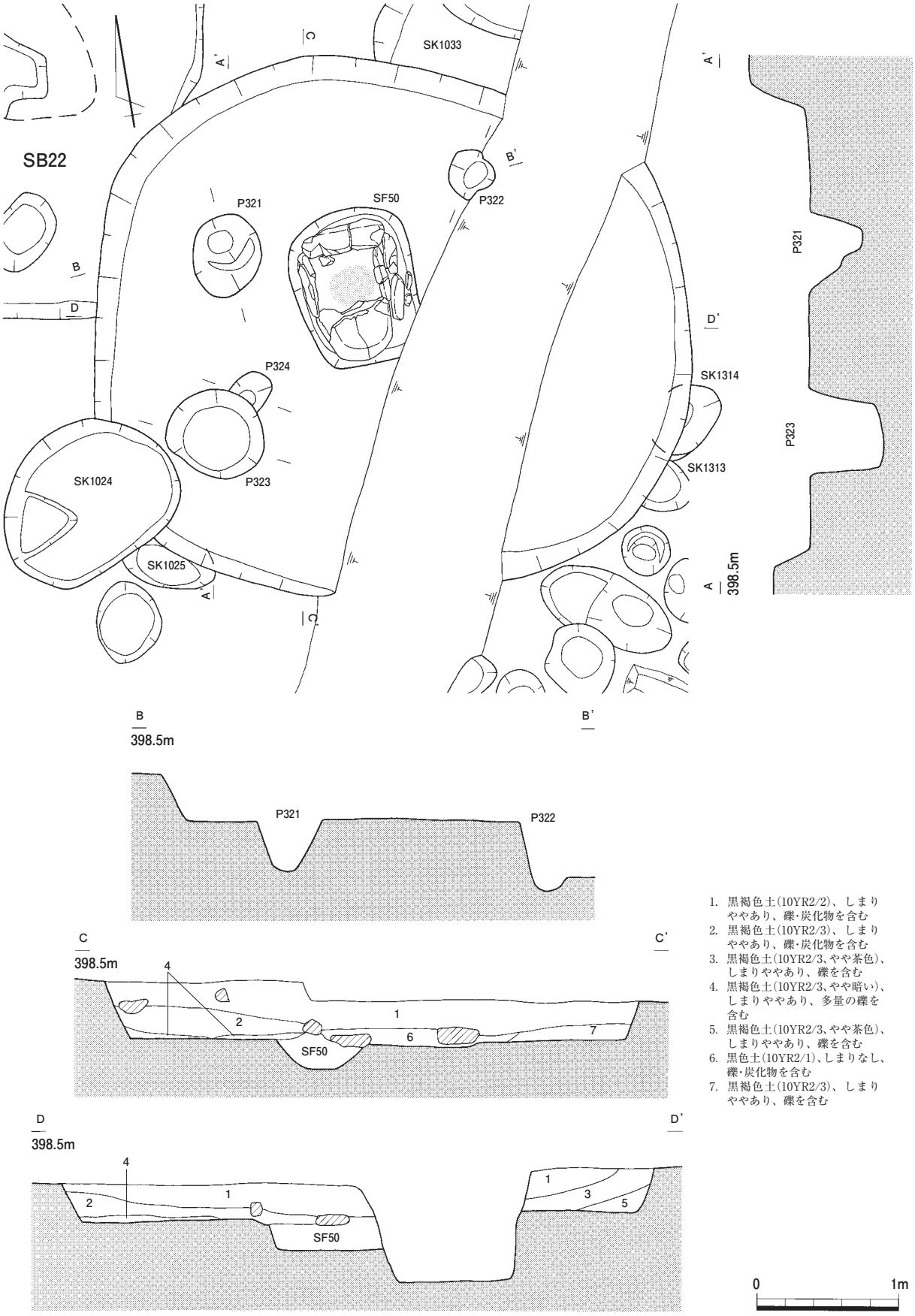


図87　SB21遺構図（1）

上がりである。明確な貼床や硬化面は認められなかった。床面は全体的には水平であるが、南西部がやや傾斜する。

施設　床面で４基の遺構（Ｐ325・326・327・328）を検出した。このうちのＰ325・328が柱穴と想定でき、柱配置は４本で構成すると考えられる。地床炉ＳＦ51は、竪穴の中央に位置する。ＳＫ1016により破壊される。焼土の厚さは３㎝と浅い。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物が散在的に出土した。土器は、中期初頭から中期後葉まで認められるが、主体は中期中葉である。石器は石核１点・石鏃１点・楔形石器１点・ＲＦ９点・ＵＦ１点・磨・敲石類２点・打欠石錘１点・切目石錘５点が出土した。

所属時期　出土土器の主体から、中期中葉船元Ⅱ式併行と判断する。

ＳＢ23（現場名ＳＢＢ10、図90、図版30）

位置　Ｎ11・Ｎ12・Ｏ11・Ｏ12グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1312・1318を切り、ＳＫ1299・1300に切られる。埋土は16層に分けられ、径30㎝以下の亜円礫が多く含まれた。土層は南に偏った堆積状況である。上面から土坑状の立ち上がり（土層断面図の１・９・17）が認められるが、平面精査では検出されなかった。

形状と規模　平面形は不整円形である。長径2.99ｍ・短径2.77ｍ・床面積推定7.15㎡を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.48ｍを測る。壁については、北西端と南東端に幅18㎝以下の平坦面がある箇所では緩やかに傾斜し、平坦面がない箇所ではほぼ垂直に立ち上がる。明確な貼床や硬化面は認められずⅨａ層上面で遺構を検出したため、検出面は凹凸が著しく竪穴の掘形に達している可能性がある。

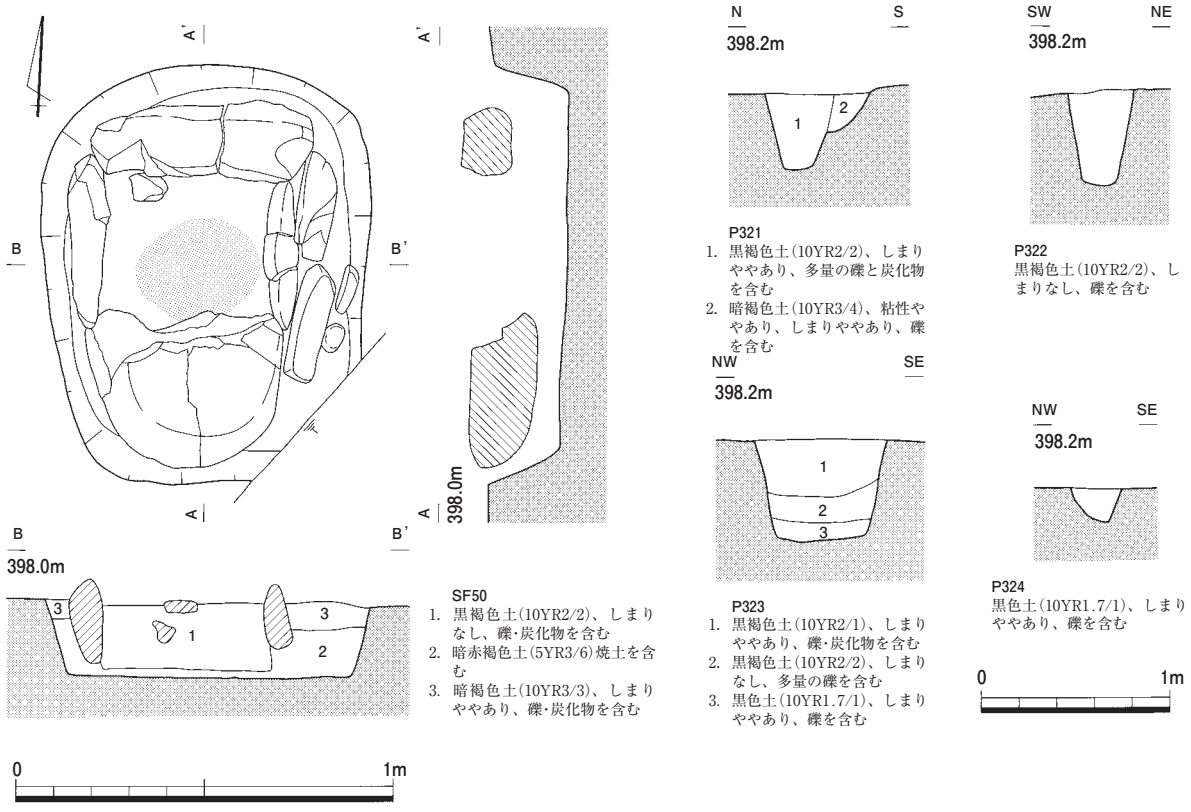


図88　SB21遺構図（２）

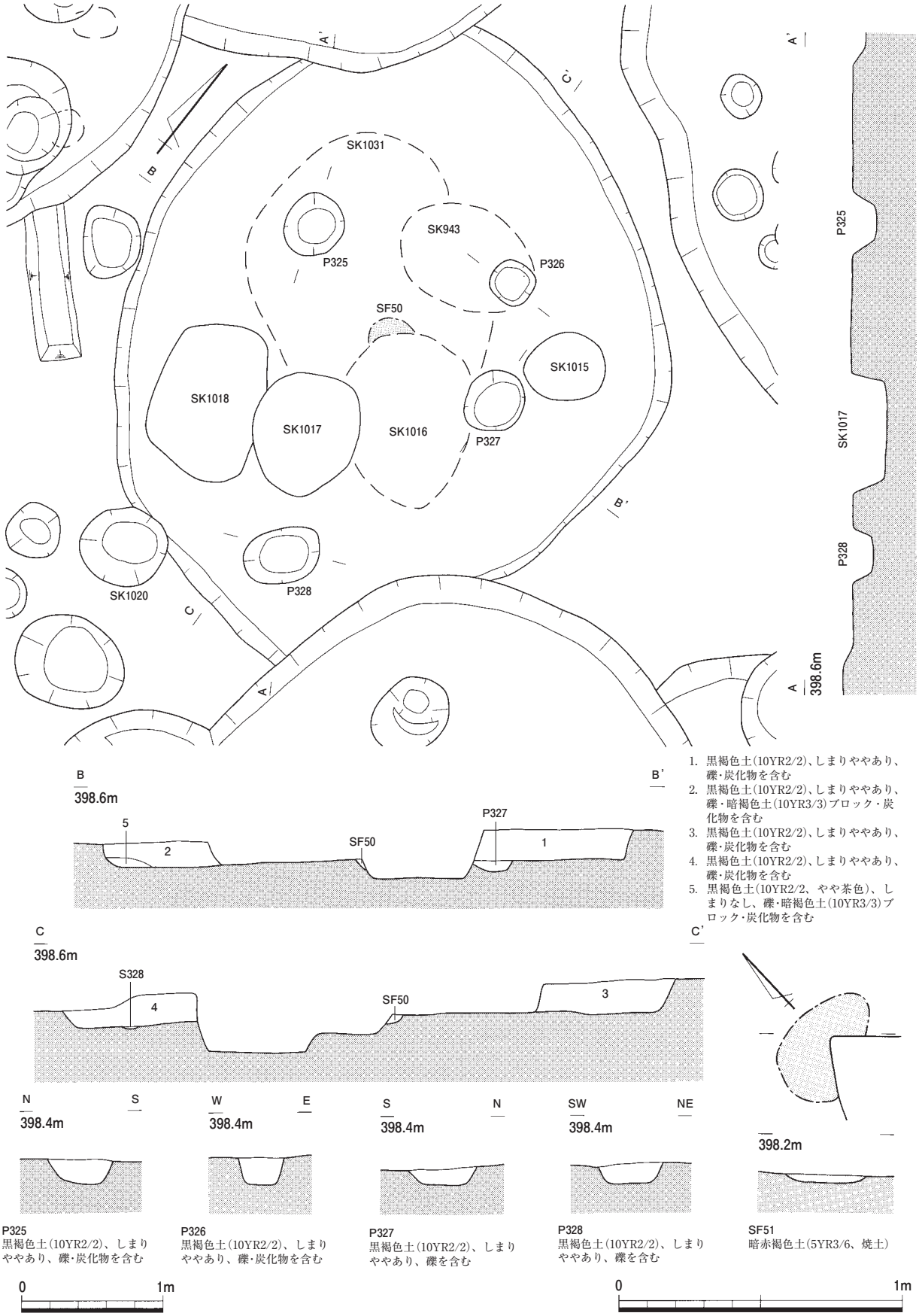

SK1031
SK943
P325
P326
SF50
SK1015
SK1018
SK1017
SK1016
P327
SK1020
P328
A
A'
B
B'
C
C'
398.6m
1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・暗褐色土(10YR3/3)ブロック・炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
4. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
5. 黒褐色土(10YR2/2、やや茶色)、しまりなし、礫・暗褐色土(10YR3/3)ブロック・炭化物を含む
S328
398.4m
398.2m
P325
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
P326
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
P327
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む
P328
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む
SF51
暗赤褐色土(5YR3/6、焼土)
0
1m

図89　SB22遺構図

施設　床面で2基（P329・330）の遺構を検出した。いずれも柱穴と考えられ、2基で構成される柱配置となる。炉跡は検出されなかった。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物・骨片が散在的に出土した。土器は、中期後葉から後期前葉まで認められる。石器は、石核2点・石鏃1点・石錐2点・掻器1点・楔形石器1点・ＲＦ3点・ＵＦ2点・磨・敲石類1点・打欠石錘2点・切目石錘5点が出土した。

所属時期　柱穴P330出土土器（919）から、中期後葉（第4段階）と判断する。

ＳＢ24（現場名ＳＢＢ11、図91・92、図版31）

位置　N10・N11・O10・O11グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1316・1317・1320・1817・2508に切られる。埋土は10層に分けられ、全体的に水平に堆積する。

形状と規模　隅丸長方形である。長径3.78m・短径3.21m・床面積10.74㎡以上を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.75mを測り、南壁は幅12㎝以下の平坦面があって緩やかに傾斜するが、北壁は垂直に近く立ち上がる。明確な硬化面は認められなかったが、ＳＦ52の周辺で貼床が認められた。

施設　床面で10基の遺構を検出した。柱穴は4基（P331・332・336・337）が想定できる。P331・337とP336・332は、竪穴の短軸を挟んでほぼ左右対称に位置する。石囲炉ＳＦ52（図92下）は竪穴の長軸上に位置する。南辺では扁平な円礫を用い、平坦面を上に向けて水平に据えられていた。東西辺では細長い円礫、北側ではやや小ぶりの礫4個で弧状に囲む。炉跡内部では厚さ7㎝の焼土と、炉石の内側に被熱の痕跡が認められた。ＳＦ52の炉石を取り除くと異なる掘形が検出された（以下、ＳＦ52下部遺構とする）。ＳＦ52下部遺構は、不整円形の石囲炉と考えられる。東辺の一部は遺存し、南辺は二段に積み、かつ二重に立てているが、他は抜き取られた可能性がある。炉跡の内部では、底面に被熱の痕跡が認められた。この他にＳＦ52に切られる地床炉ＳＦ53があり、厚さ8㎝の固く締まりのある焼土が観察された。検出された柱穴数と炉跡数が対応しないことと、炉跡の種類の違いから、ＳＦ53はＳＢ24に先行する竪穴住居跡ＳＢ28に伴うと考えられる。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物が散在的に出土した。土器は、中期前葉から後期初頭まで認められるが、主体は中期後葉である。石器は、石核2点・石鏃6点・石鏃未製品1点・石錐3点・掻器1点・削器2点・楔形石器3点・ＲＦ13点・ＵＦ9点・打製石斧1点・磨・敲石類3点・打欠石錘5点・切目石錘16点・磨製石斧2点・玦状垂飾1点（2400）が出土した。

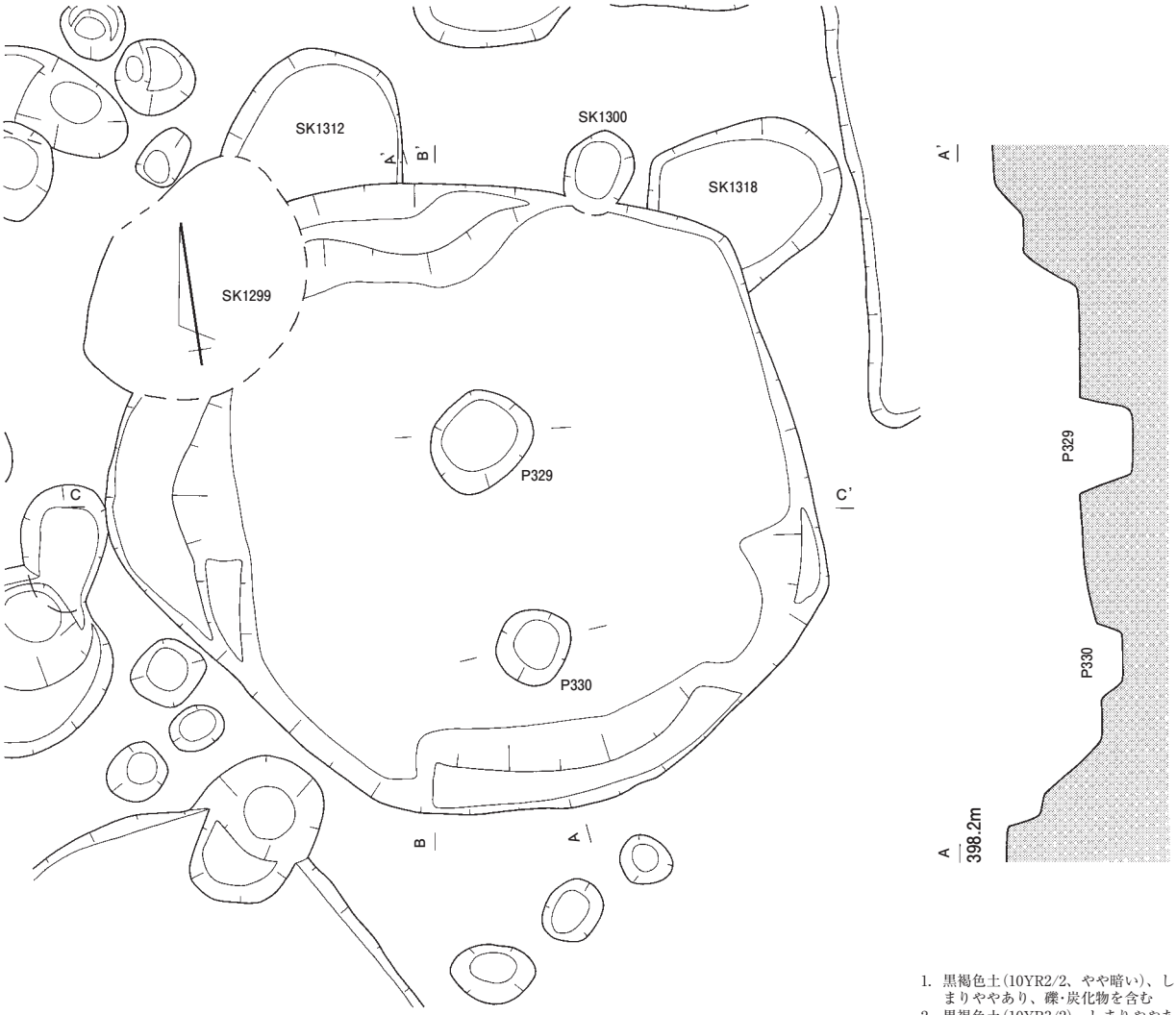
所属時期　埋土出土土器の主体から、中期後葉（第3段階）と判断する。

ＳＢ25（現場名ＳＢＣ1、図93～95、図版31・32）

位置　F19・F20・G19・G20グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層基底面で検出した。ただし調査区西壁の分層の結果、竪穴の埋土は単層で、本来の遺構検出面はＶｂ層上面の可能性がある。平面精査で検出した遺構では、ＳＫ150・223・1561に切られる。当初、4ｍ程度の円形の竪穴を想定したが、最終的に竪穴のプランを確定することができなかった。

形状と規模　平面形は不明である。調査区西壁の観察結果と埋甕ＳＺ9の位置からみて、ＳＢ25の平面規模は幅3.9m以上を測る。

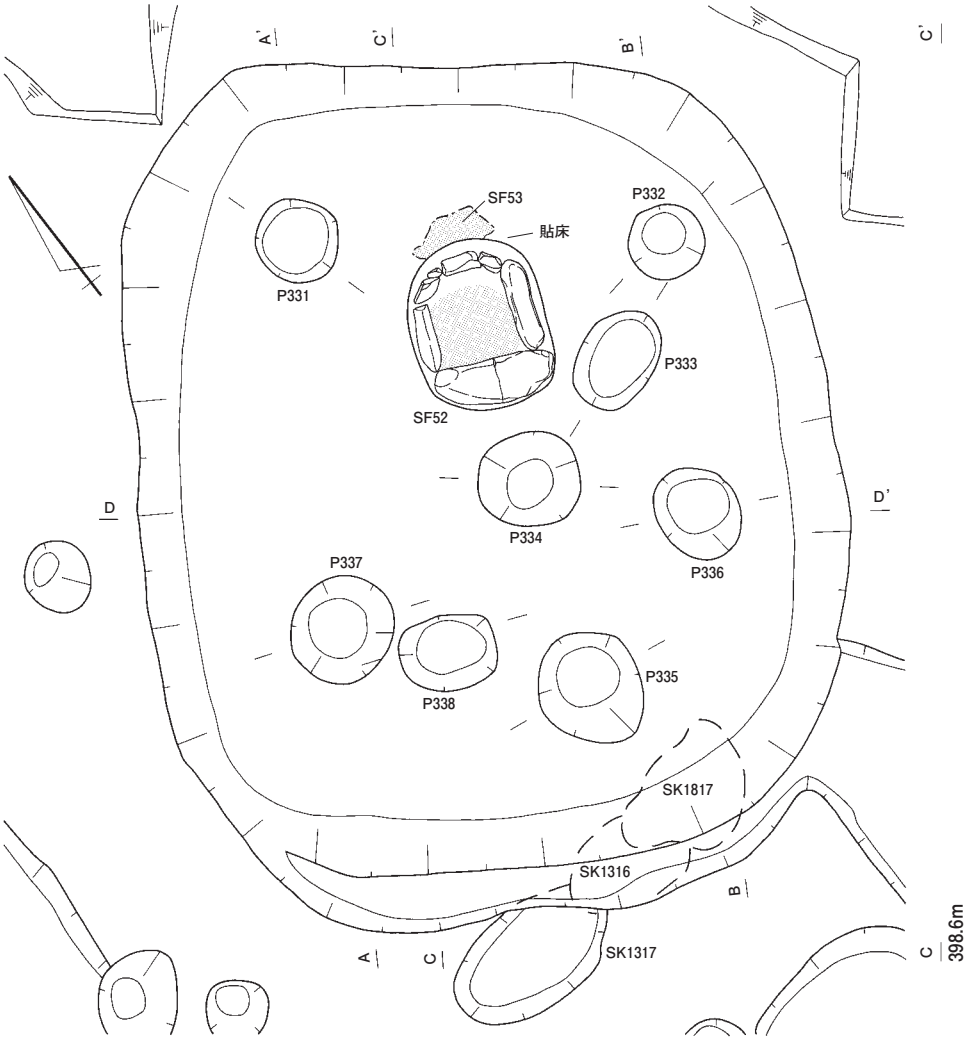


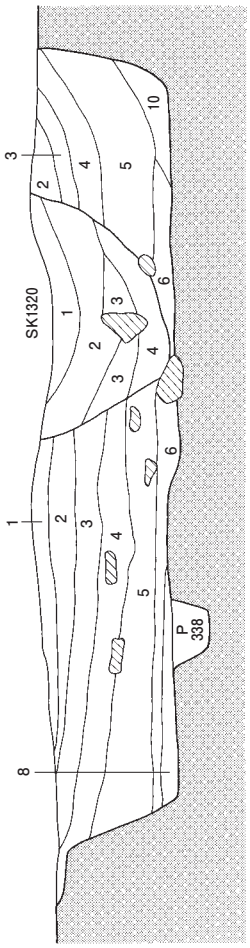
1. 黒褐色土(10YR2/2、やや暗い)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR3/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
4. 黒褐色土(10YR3/2)、しまりなし、礫・炭化物を含む
5. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりなし、礫・炭化物を含む
6. 黒色土(10YR2/1)、しまりなし、礫・炭化物を含む
7. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりなし、多量の礫と炭化物を含む
8. 黒褐色土(10YR2/2、やや暗い)、しまりややあり、礫を含む
9. 黒色土(10YR2/1)、しまりなし、多量の礫と炭化物を含む
10. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりなし、多量の礫含む
11. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、少量の礫と炭化物を含む
12. にぶい黄褐色土(10YR4/3)、しまりなし、礫・多量の粗砂を含む、褐色土(Ⅸb層・10YR4/5)に類似する
13. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
14. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
15. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
16. 黒褐色土(10YR2/3)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
17. 黒褐色土 (10YR2/3)、しまりあり、多量の礫と炭化物を含む
18. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、多量の礫と炭化物を含む

P329
黒色土(10YR2/1)、しまりなし、礫・炭化物を含む

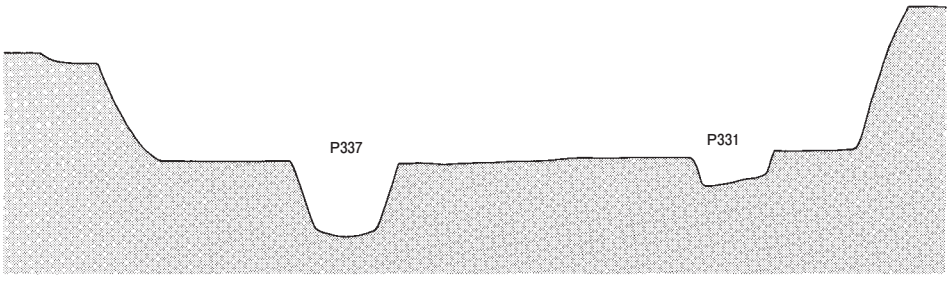
P330
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、多量の礫を含む

図90　SB23遺構図





SK1320
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりややあり、礫・炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2、やや暗い)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
3. 黒色土(10YR2/1)、しまりなし、礫と多量の炭化物を含む
4. 黒褐色土(10YR2/2、やや茶色)、しまややあり、礫・炭化物を含む



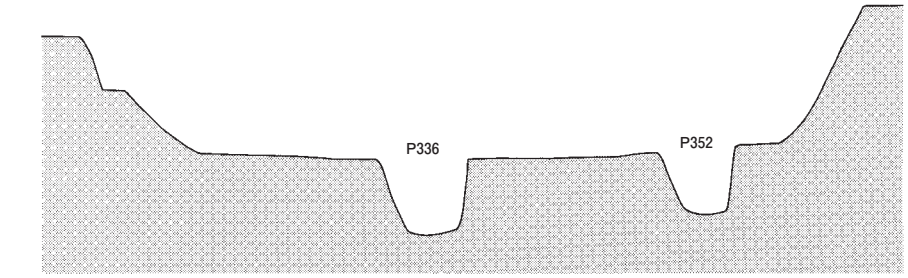
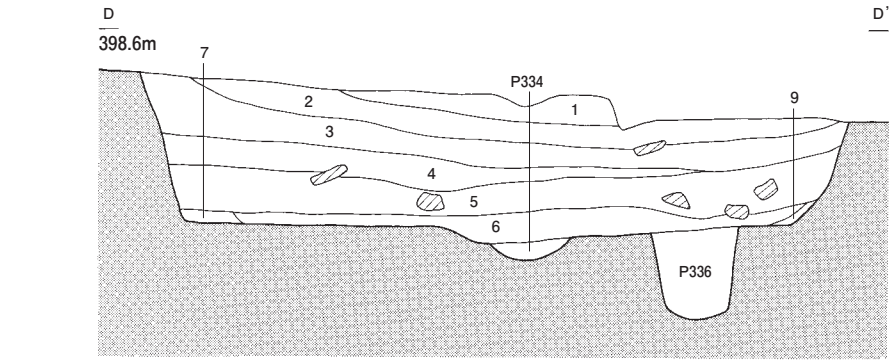


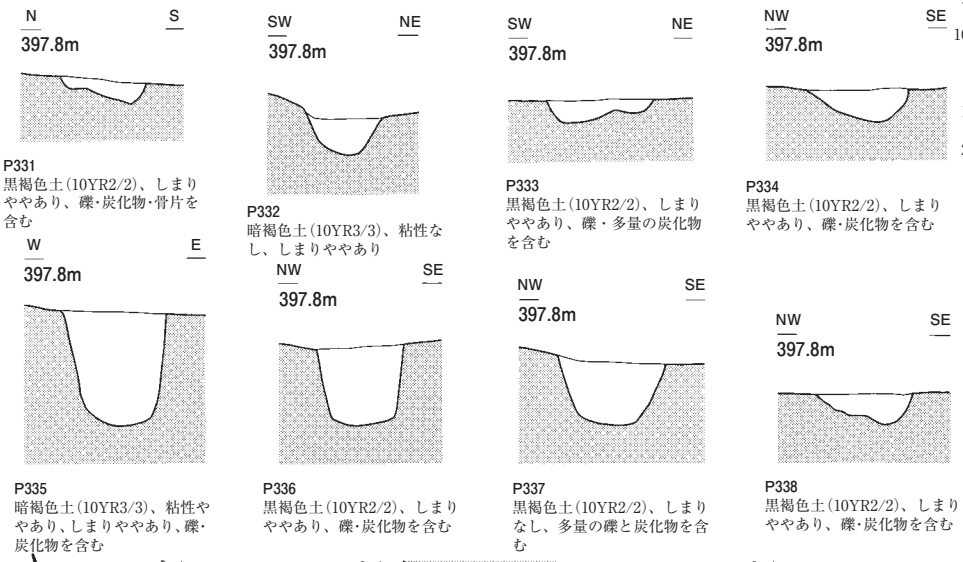
図91　SB24遺構図（1）



1. 黒褐色土(10YR2/3)、しまりなし、礫・炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR2/2、やや茶色)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
4. 黒褐色土(10YR2/2、やや暗い)、粘性ややあり、しまりややあり、多量の礫と炭化物を含む
5. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりなし、多量の礫と炭化物を含む
6. 黒褐色土（10YR2/2、やや茶色)、しまりややり、礫・炭化物を含む
7. 黒色土(10YR2/1)、粘性ややあり、しまりややあり、礫・炭化物を含む
8. 黒褐色土(10YR2/2、やや暗い)、しまりややあり、礫・炭化物を含む
9. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む
10. 黒褐色土(10YR2/2、やや暗い)、粘性ややあり、しまりややあり、礫・炭化物を含む

貼床

1. にぶい黄褐色土（10YR4/3）シルト質、固くしまる
2. 黒褐色土(7.5YR2/2)、焼土粒を含む



P331
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物・骨片を含む

P332
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり

P333
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・多量の炭化物を含む

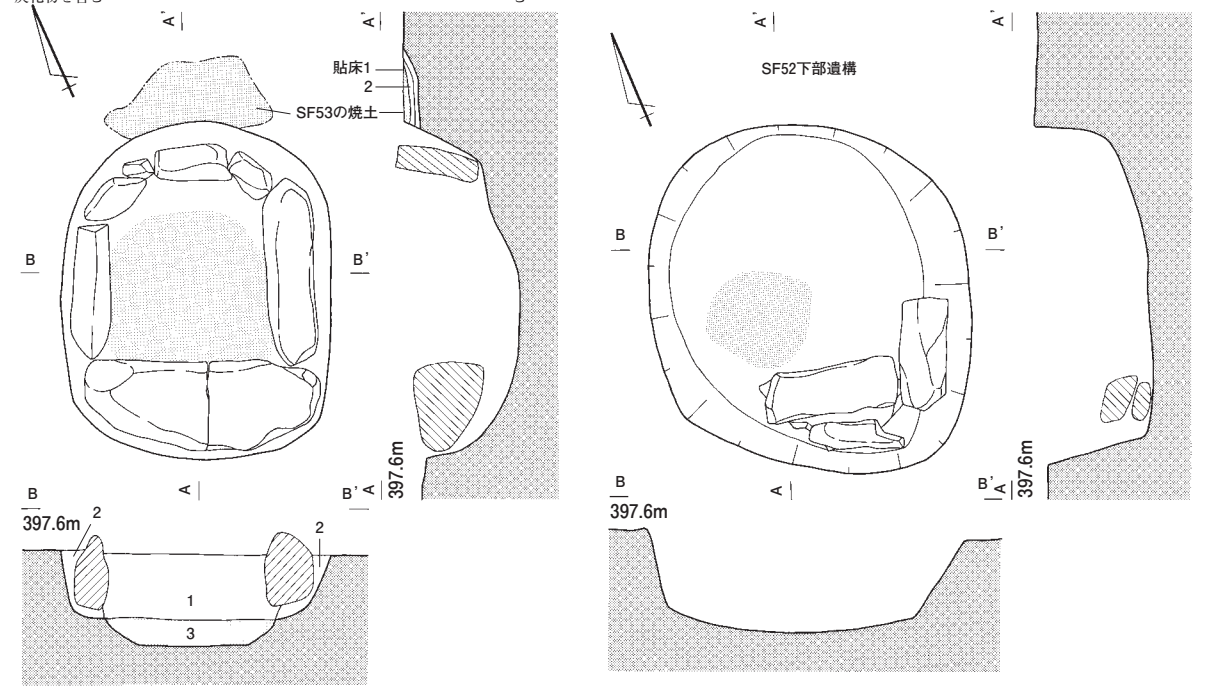
P334
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む

P335
暗褐色土(10YR3/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫・炭化物を含む

P336
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む

P337
黒褐色土(10YR2/2)、しまりなし、多量の礫と炭化物を含む

P338
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む



SF52

1. 黒褐色土(10YR2/3)、しまりなし、礫・炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、礫・褐色土(10YR4/4)ブロック・炭化物を含む
3. 赤褐色土(5YR4/6、焼土)、礫・炭化物を含む

SF53

暗赤褐色土（5YR3/4、焼土)、固くしまる

0　1m

図92　SB24遺構図（2）

壁・床面の状況　明確な貼床や硬化面は確認できず、Ⅸｂ層上面で遺構を検出したため、竪穴の掘形に達した可能性もある。床面は土層断面図を見る限り、やや南に傾斜する。

施設　周辺で炉跡2基・埋甕1基があり、これらを含めて柱配置を検討したところ、柱穴はＳＫ149・1514・1517・1530・1564の5本が想定できる。その柱配置はＳＫ1530とＳＫ1564の中点とＳＫ1517を結ぶ線を軸に、ＳＫ1514・1530とＳＫ149・1564が左右対称に位置する。この柱配置に伴う炉跡としては､柱配置の短軸上に位置するＳＦ55が該当すると考えられる。石囲炉ＳＦ55（図95左下）は､北・西辺では人頭大の円礫・亜円礫を用いて囲み、南・東辺の炉石は抜き取られていた。北西隅の円礫は、立石状に立てられたものである。炉の内部では、底面に焼土層が検出された。ＳＦ55に切られるＳＦ54（図95右上）は、西側で炉石の抜き取りの痕跡とみられる立ち上がりが認められることから､ＳＢ25に先行する楕円形の石囲炉である。ただし竪穴住居跡に伴うのか、屋外炉なのかは判断できない。先の柱配置の短軸より、やや北に位置する。埋甕ＳＺ9（図95右下）は、口縁部を欠く土器が正位で出土した。その土器の内部から石鏃1点（2064）が出土した。柱穴で囲まれた内部で検出した遺構のうち、ＳＫ1526（図94右下）は埋土中の北側に亜円礫を重ねて配置した土坑である（土坑Ｄ１ａ類）。ＳＫ1536（図95左上、土坑Ａ類）は形状から貯蔵穴の可能性が想定されたため、最下層の土壌を採取し、その一部を水洗選別した（第6章第3節参照）。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物が散在的に出土した。土器は、中期後葉で占められる。石器は、切目石錘1点が出土した。

所属時期　ＳＦ55・ＳＺ9出土土器（1001～1004）から、中期後葉（第4段階）と判断する。

ＳＢ26（現場名ＳＢＤ１、図96・97、図版32）

位置　W25・W26・X25・X26グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層基底面で検出した。ただしＶｂ層掘削時に遺物が周辺よりも多く出土しており、本来の検出面はＶｂ層以上の可能性もある。ＳＫ2169・2170に切られる。竪穴埋土の土色が周辺と類似していたため、竪穴のプランを確定するのが困難であった。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径5.12m・短径4.08m・床面積17.44㎡以上を測る。

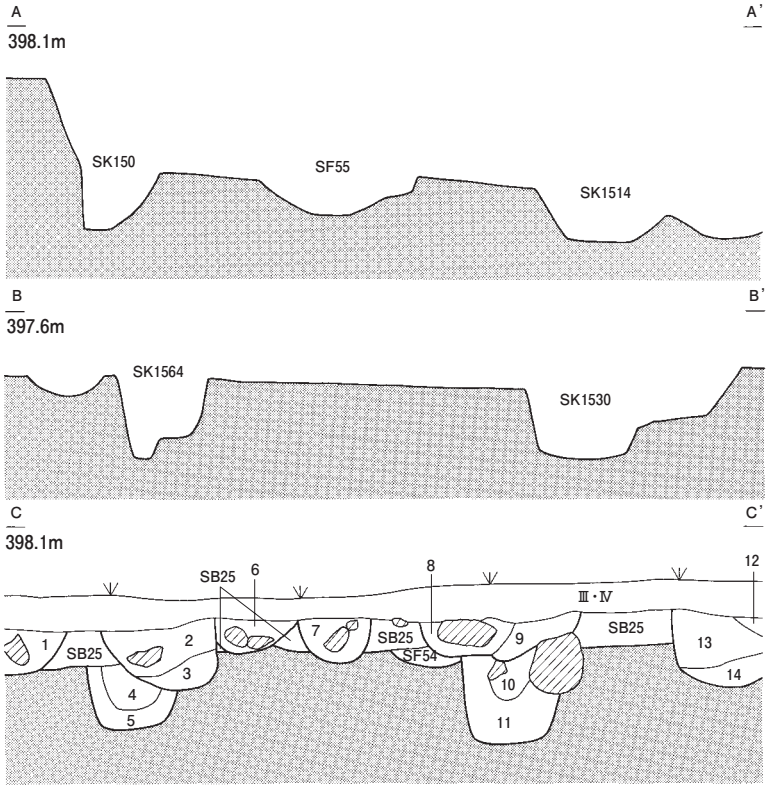
壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.10mを測り、壁はわずかに立ち上がる。明確な貼床や硬化面は認められず、床面はほぼ水平である。

施設　床面では、23基の遺構を検出した。このうち柱穴はＰ340・346・351・353の4本で、竪穴の中央やや西寄りを中心とした同心円状の配置をとる。地床炉ＳＦ56（図97右下）はＰ340・353の柱穴間に位置する。炉跡の内部では、厚さ10㎝の焼土層（２層）が認められた。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物・骨片が散在的に出土した。土器については、後期後葉から末まで認められる。石器については、石核1点・石鏃1点・石錐2点・ＲＦ1点・ＵＦ1点が出土した。

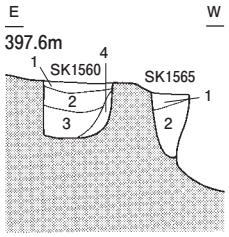
所属時期　第2調査面の竪穴住居跡（後期中葉から後葉）の検出地点と大きく離れており、同時期の所産は考えにくいため、後期末八日市新保式と判断する。

図93　SB25遺構図（１）



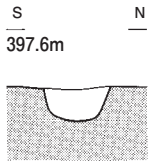
Ⅲ・Ⅳ層
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし

SB25
黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、多量の褐色土(10YR4/5)粒・少量の炭化物を含む
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の褐色土(10YR4/5)粒を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりあり、少量の礫を含む
3. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり多量の褐色土(10YR4/5)粒を含む
4. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、炭化物を含む
5. 黒褐色土(10YR2/2、1より淡い)、粘性なし、しまりややあり、径2㎝の褐色土(10YR4/5)ブロックを多量に含む
6. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫・少量の炭化物を含む
7. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、少量の礫・多量の褐色土(10YR4/5)粒を含む
8. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫・褐色土(10YR4/5)粒・少量の炭化物を含む
9. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫・少量の炭化物を含む
10. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫・少量の炭化物を含む
11. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、径2㎝の褐色土(10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む
12. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり
13. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
14. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、多量の褐色土(10YR4/5)粒・少量の炭化物を含む

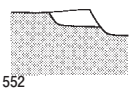


SK1560
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、径5㎝の褐色土(10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む
2. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、炭化物を含む
4. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、径2㎝の褐色土(10YR4/5)ブロックを含む

SK1565
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり
2. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む

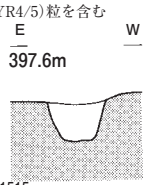


SK1523
黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、褐色土(10YR4/5)粒・少量の礫を含む

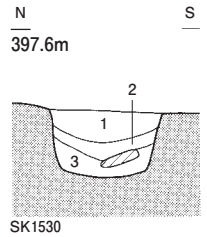


SK1552
黒褐色土(10YR3/2)、均質、粘性なし、しまりややあり

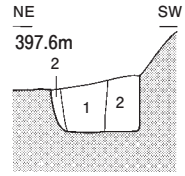
SK1516
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、褐色土(10YR4/5)粒を含む



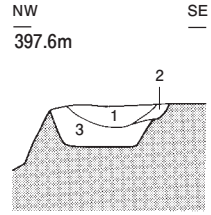
SK1515
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、多量の褐色土(10YR4/5)粒・少量の炭化物を含む

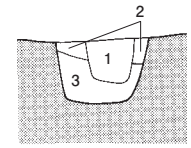


SK1530
1. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、褐色土(10YR4/5)粒・少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり
3. 黒褐色土(10YR2/2、2より黒色)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む

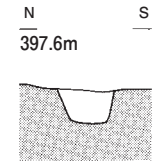


SK133
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり、少量の炭化物を含む
2. にぶい黄褐色土(10YR4/3)、粘性なし、しまりややあり、径3㎝の褐色土(10YR4/5)ブロックを多量と少量の炭化物を含む



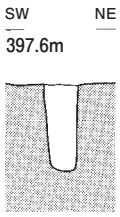


SK1564
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、径1㎝の褐色土(10YR4/5)ブロックを含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、褐色土(10YR4/5)粒・少量の炭化物を含む

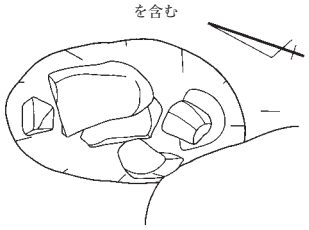


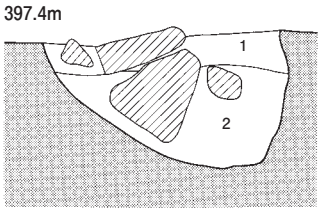
SK1525
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む

SK1514
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりあり、径1㎝の褐色土 (10YR4/5)ブロックを多量に含む
3. 黒褐色土(10YR2/2、1よりやや黒色)、粘性なし、しまりなし、褐色土(10YR4/5)粒を含む



SK1602
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、径1㎝の褐色土(10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む





SK1526
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、多量の褐色土(10YR4/5)粒を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2、1よりやや黒色)、粘性ややあり、しまりややあり、褐色土(10YR4/5)粒を含む

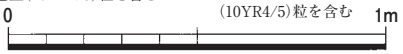
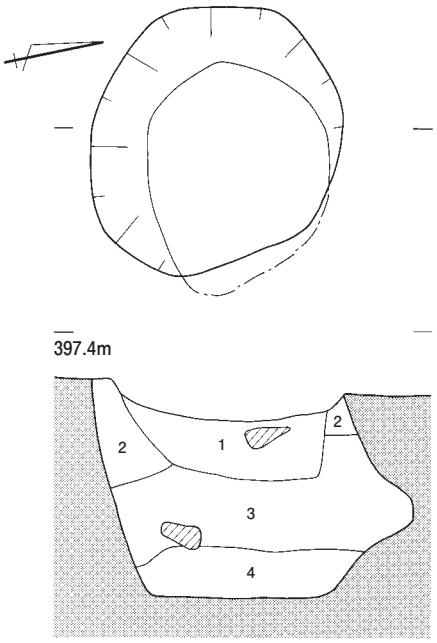
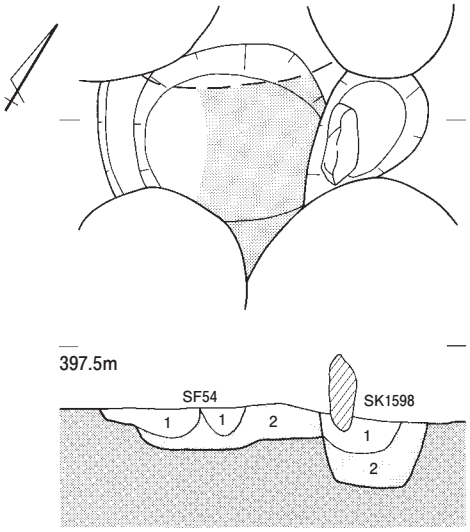


図94　SB25遺構図（2）

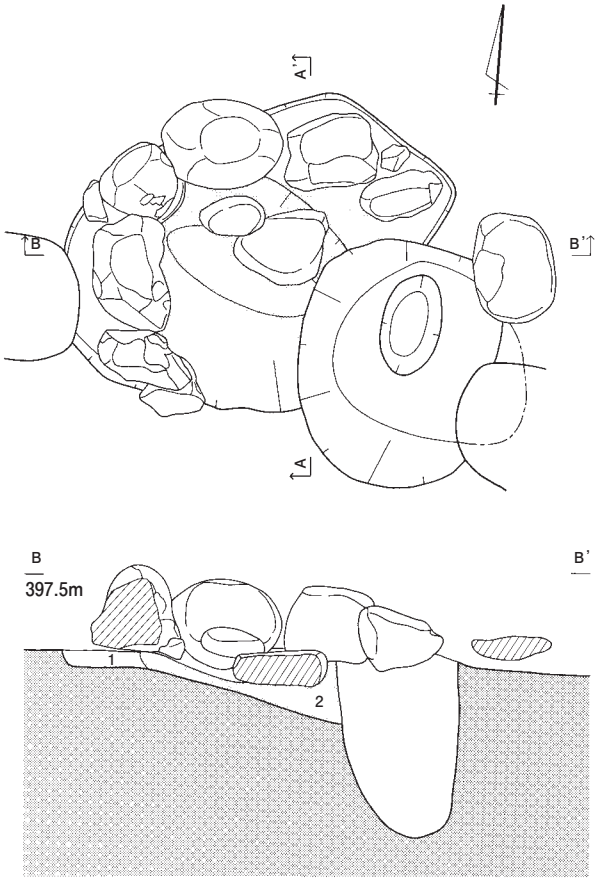


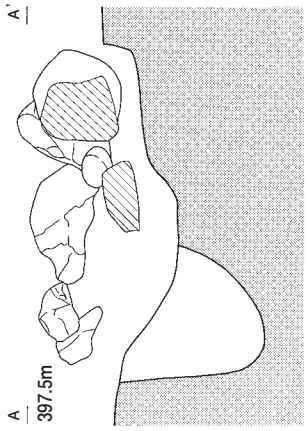
SK1536
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、径5㎝の褐色土(10YR4/5)ブロックを多量に含む
3. 黒色土(10YR2/1)、粘性ややあり、しまりややあり、径2㎝の褐色土(10YR4/5)ブロック・少量の炭化物・骨片を含む
4. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性あり、しまりあり、少量の炭化物を含む



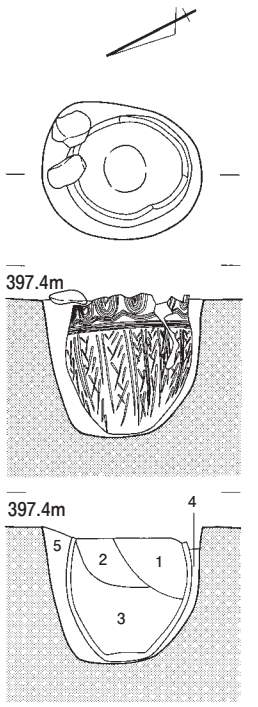
SF54
1. 暗褐色土(10YR3/4)、粘性なし、しまりあり、焼土粒・少量の炭化物を含む
2. 赤褐色土(5YR4/6、焼土)

SK1598
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、褐色土(10YR4/5)粒・少量の炭化物を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、径3㎝の褐色土(10YR4/5)ブロックを多量に含む





SF55
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
2. 明赤褐色土(2.5YR5/6、焼土)、粘性なし、しまりあり



SZ9
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりあり
2. 黒褐色土(10YR2/2、1より灰色)、粘性なし、しまりややあり
3. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性ややあり、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
4. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、褐色土(10YR4/5)粒を含む
5. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり

0　1m

図95　SB25遺構図（3）

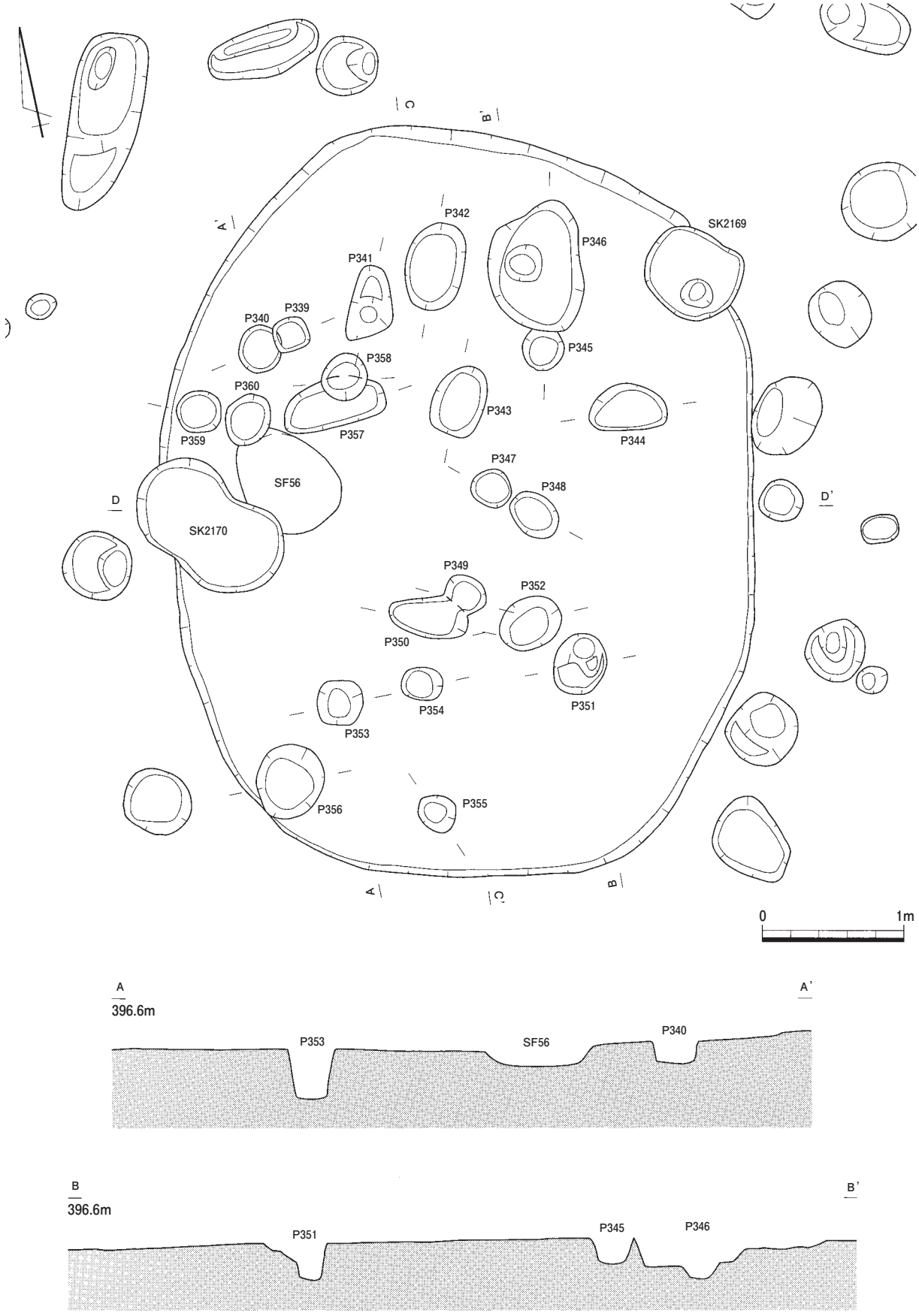
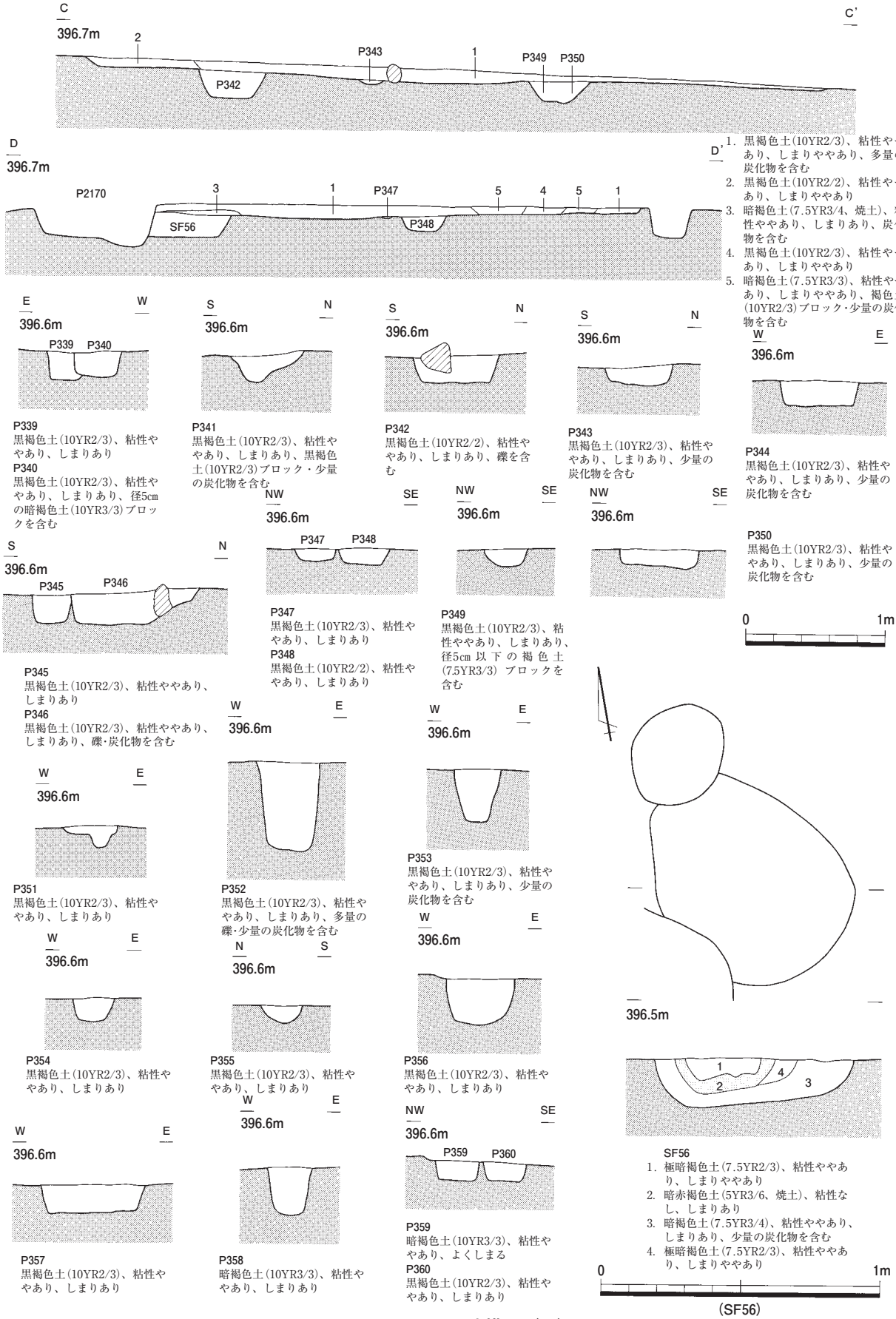


図96　SB26遺構図（1）



1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり、多量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりややあり
3. 暗褐色土(7.5YR3/4、焼土)、粘性ややあり、しまりあり、炭化物を含む
4. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり
5. 暗褐色土(7.5YR3/3)、粘性ややあり、しまりややあり、褐色土(10YR2/3)ブロック・少量の炭化物を含む

P339
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり

P340
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり、径5㎝の暗褐色土(10YR3/3)ブロックを含む

P341
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり、黒褐色土(10YR2/3)ブロック・少量の炭化物を含む

P342
黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりあり、礫を含む

P343
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり、少量の炭化物を含む

P344
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり、少量の炭化物を含む

P345
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり

P346
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり、礫・炭化物を含む

P347
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり

P348
黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりあり

P349
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり、径5㎝以下の褐色土(7.5YR3/3)ブロックを含む

P350
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり、少量の炭化物を含む

P351
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり

P352
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり、多量の礫・少量の炭化物を含む

P353
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり、少量の炭化物を含む

P354
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり

P355
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり

P356
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり

P357
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり

P358
暗褐色土(10YR3/3)、粘性ややあり、しまりあり

P359
暗褐色土(10YR3/3)、粘性ややあり、よくしまる

P360
黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり

SF56
1. 極暗褐色土(7.5YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり
2. 暗赤褐色土(5YR3/6、焼土)、粘性なし、しまりあり
3. 暗褐色土(7.5YR3/4)、粘性ややあり、しまりあり、少量の炭化物を含む
4. 極暗褐色土(7.5YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり

図97　SB26遺構図（2）

2　掘立柱建物跡

ＳＨ１（図 98・99、図版 32）

位置　L 19・M 18・M 19・N 19 グリッドに位置する。

検出状況　Ｖｂ層基底面で検出した。現地調査では土坑として認識していたが、調査終了後に空中写真の観察により、比較的規模の大きな 6 基の土坑が規則的に並ぶ様子から、掘立柱建物跡として認定するに至った。遺構の検出面では明確な貼床や硬化面は認められず、ほぼ水平である。

形状と規模　平面形は長方形である。柱真々で長辺約 4.36 m（ＳＫ 2262・2288 間）・短辺 2.95 m（ＳＫ 2251・2262 間）、面積 12.65 ㎡を測る。

柱穴の状況　柱穴は 6 基（ＳＫ 2251・2262・2275・2288・2391・2393）で構成される。ただしＳＫ 2275 は平面形態・底面の様子と土層堆積状況から、２基の遺構の重複の可能性がある。いずれの柱穴も根固めの礫、土層における柱痕状の堆積、底面の柱痕跡は認められなかった。各柱穴の特徴をみると、平面形は楕円形又は楕円に近い不整円形である。断面形は壁が垂直な面だけではなく、ＳＫ 2251 の南壁・ＳＫ 2392 の南西壁・ＳＫ 2288 の南東壁・ＳＫ 2275 の南西壁・ＳＫ 2262 の北東壁で傾斜面が認められ、柱の挿入又は抜き取り箇所とみられる。底面の標高は、北側の隅柱（ＳＫ 2288・2393）が約 396.30 ～ 396.38 m、南側の隅柱（ＳＫ 2251・2262）が約 396.26 ～ 396.30 m、柱筋中央の柱（ＳＫ 2275・2391）が約 396.26 ～ 396.43 mで、北側の隅柱の底面のレベルが南側よりもやや高い。検出面から底面までの深さは、最大で 0.59 m（ＳＫ 2251）を測る。

出土遺物　柱穴埋土から縄文土器・炭化物が散在的に出土した。土器は、大きく中期後葉と後期後葉の２時期に分けられる。

所属時期　中期後葉の竪穴住居跡が環状に分布しその空白域で検出されていること、遺構の長軸方位がＳＨ２（後期前葉）の方位とほぼ一致する点から、後期後葉の遺物は混入とみなし、中期後葉（第２段階）と判断する。

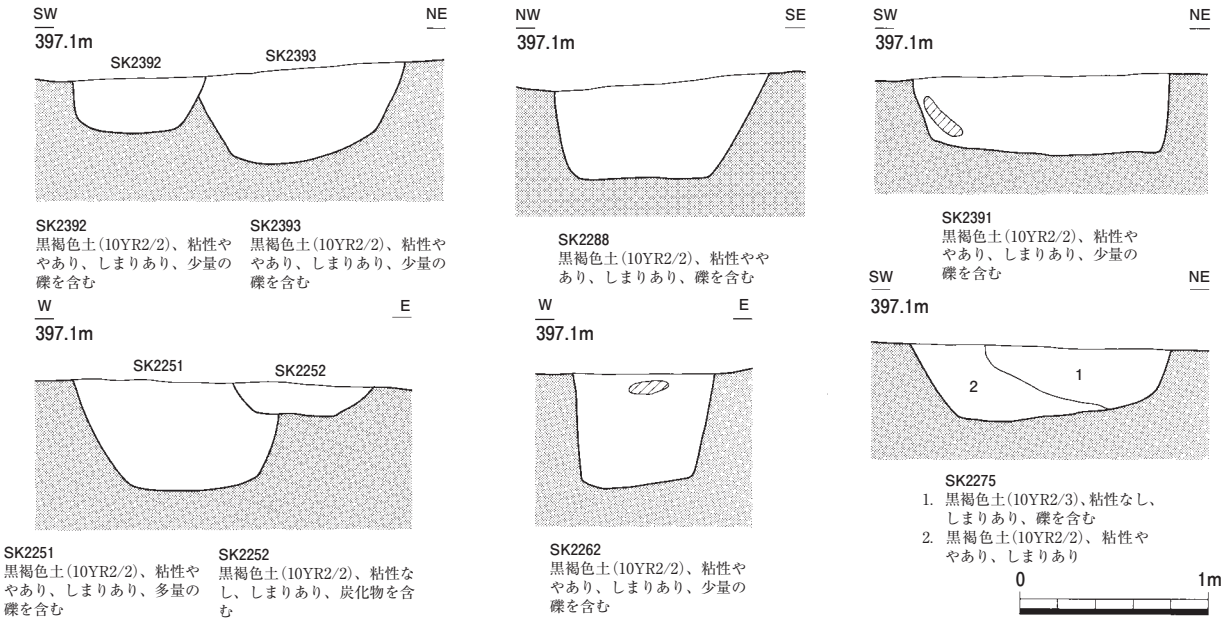


図98　SH1遺構図（１）

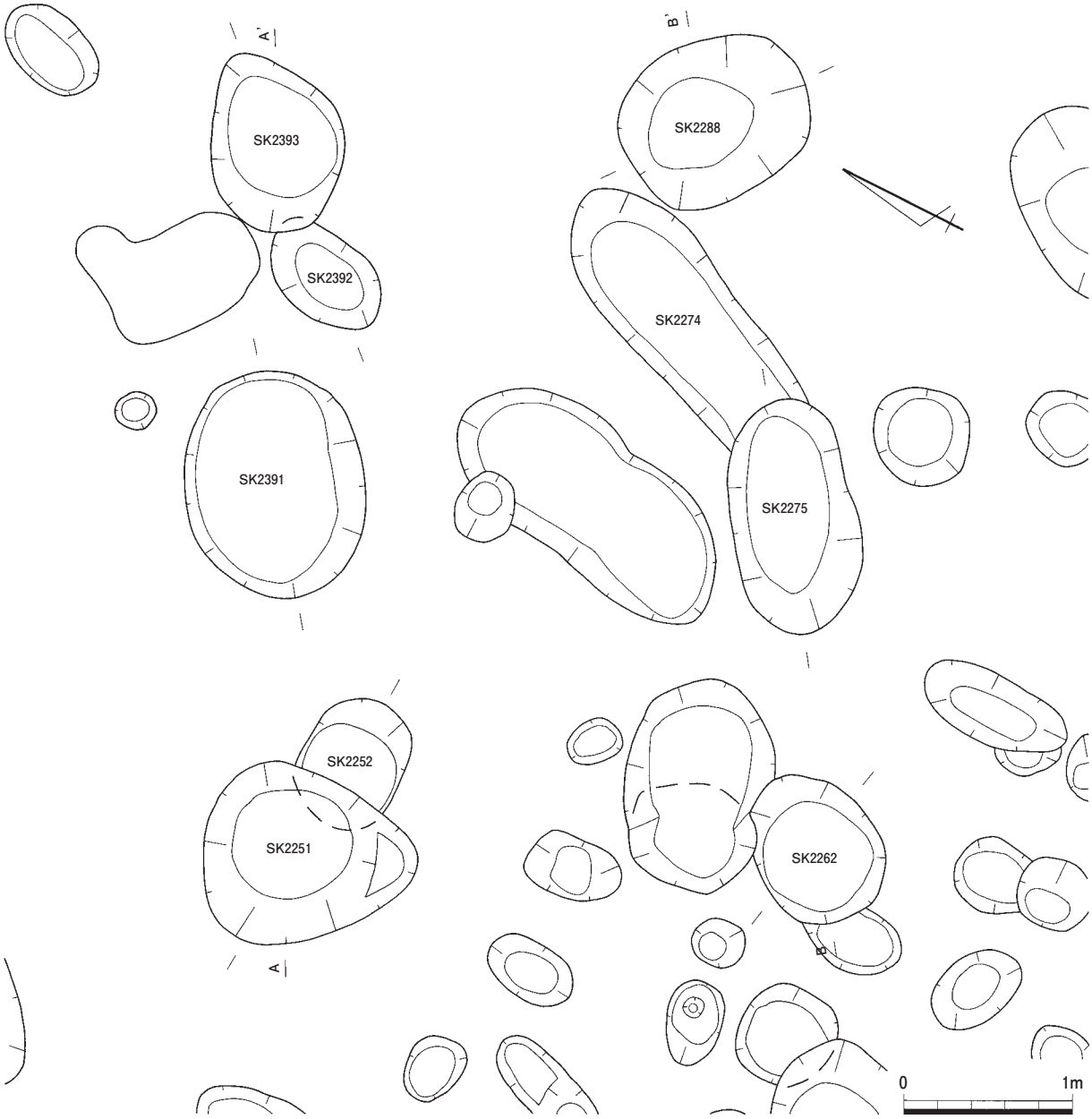

A'
SK2393
SK2392
SK2391
B'
SK2288
SK2274
SK2275
SK2252
SK2251
SK2262
A
B
0
1m
A
397.1m
SK2251
SK2391
SK2392
SK2393
A'
B
397.1m
SK2262
SK2275
SK2274
SK2288
B'

図99　SH1遺構図（２）

３．炉跡・焼土遺構

竪穴住居跡内で検出した炉跡・焼土遺構16基以外に、15基の炉跡（ＳＦ57・60・62～64・66～71・75～78）と、７基の焼土遺構（ＳＦ58・59・61・65・72～74）を検出した。焼土遺構は、いずれも掘形を持ち、埋土に不均質な焼土が粒状に点在する。礫及び礫の抜き取り痕跡はなく、周辺に柱穴は確認されなかった。

ＳＦ57（図100）

位置　W23グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。上端長径0.42m・上端短径0.35m・深さ0.09mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。強く被熱して硬化した均質な焼土が、面的に検出された。

出土遺物　なし。

ＳＦ60（図100、図版33）

位置　P16グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整長方形である。長径0.70m・短径0.44m・深さ0.30mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。炉石は４辺とも遺存し、いずれも亜円礫が用いられていた。南端の礫のみ水平に置かれており、竪穴住居跡内の炉跡と類似する。炉跡の内部では焼土層は検出されなかったが、炉石の下部土層（７層）は焼土ブロックを多数含み、北西端で石囲炉の石材と考えられる礫が少量出土した。このことから、この炉跡は作り替えが行われた可能性が高い。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器（1020）、埋土１層から骨片が出土した。

ＳＦ62（図100、図版33）

位置　Q17グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径0.77m・短径0.60m・深さ0.32mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。焼土粒を多数含む１層を取り除くと、硬化してはいないものの、強く被熱した均質な焼土層（２・３・４層）が面的に検出された。この焼土面の下部土層（５層）と共に、掘形の底面でも被熱痕跡は認められなかった。

出土遺物　埋土から、中期後葉の土器が出土した。

ＳＦ63（図100、図版33）

位置　N14グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.75m・短径0.33m・深さ0.17mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。炉石は４辺とも遺存し、いずれも扁平亜円礫が用いられていた。炉跡の内部では焼土は検出されなかったが、一部の炉石の内側で被熱の痕跡が認められた。

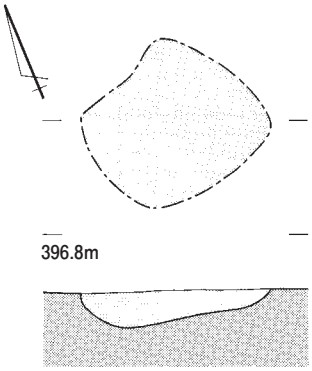
出土遺物　埋土から、切目石錘１点が出土した。

ＳＦ64（図100）

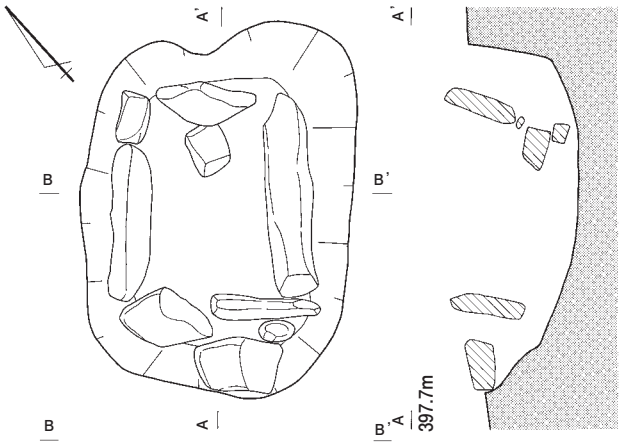
位置　E18グリッドの西壁沿いに位置する。

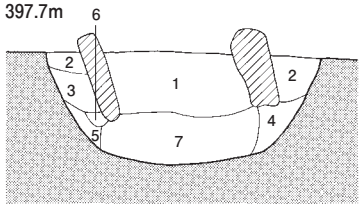
形状と規模　平面形は不明である。長径0.70m以上・短径0.34m以上・深さ0.20mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1323などに切られる。焼土粒又はブロックを含まない土層

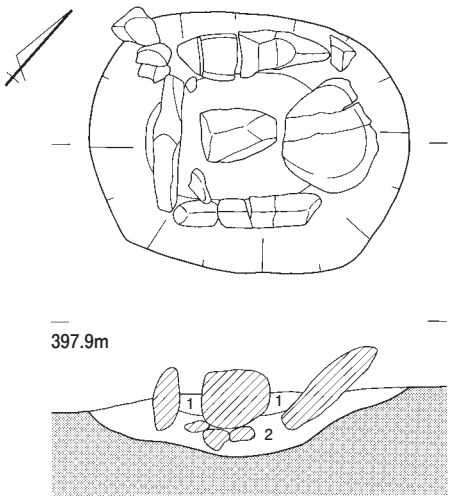


SF57
褐色土(7.5YR4/4、焼土)、粘性なし、固くしまる

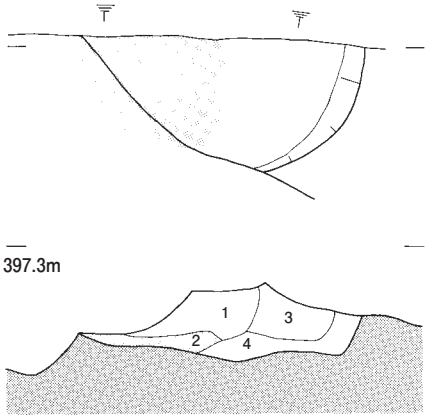


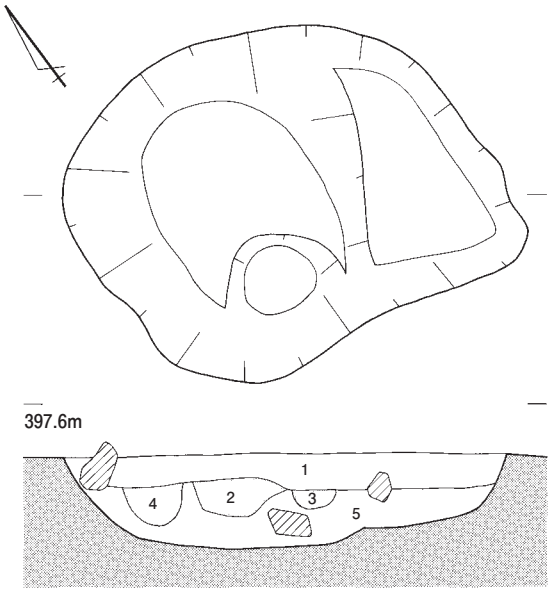


SF60
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性あり、しまりあり、焼土粒・骨片を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし
3. 暗褐色土(10YR3/4)、粘性なし、しまりややあり
4. 黒褐色土(10YR3/4)、粘性なし、しまりややあり
5. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり
6. にぶい赤褐色土(5YR4/4)、粘性なし、しまりなし
7. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり、焼土ブロックを含む



SF63
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む





SF62
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫・焼土粒を含む
2. 赤褐色土(2.5YR4/8、焼土)、粘性なし、しまりなし、礫・焼土を含む
3. 暗赤褐色土(5YR3/6、焼土)、粘性ややあり、しまりあり、礫・焼土を含む
4. 黒褐色土(10YR2/3、焼土、5よりも暗い)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
5. 黒褐色土(10YR2/3、4よりも明るい)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む

SF64
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり、礫・炭化物を含む
2. 暗赤褐色土(5YR3/6、焼土)、粘性なし、しまりややあり
3. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり
4. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりあり、褐色土(10YR4/5)ブロック・焼土粒を含む

図100　第3B調査面検出遺構図（1）

（1・3層）を取り除くと、強く被熱した均質な焼土層（2層）が面的に検出され、掘形の底面でも被熱痕跡が認められた。

出土遺物　なし。

ＳＦ66（図101、図版33）

位置　G17・G18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径0.49m・短径0.38m・深さ0.22mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。竪穴住居跡ＳＢ4（第2調査面）の南西端に位置していることから、ＳＢ4に先行するとみられ、ＳＦ67に切られる。焼土粒を含む土層（1・2層）を取り除くと、強く被熱した均質な焼土層（5層）が面的に検出された。掘形の周辺のⅨａ層に含まれる礫にも被熱痕跡が認められた。なお、焼土の外側に焼土を切る別の掘形があったことから、炉石を抜き取った痕跡の可能性がある。

出土遺物　なし。

ＳＦ67（図101、図版33）

位置　G17・G18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径0.33m・短径0.25m・深さ0.15mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＦ66を切る。埋土中に焼土ブロックと共に長径10～33㎝の多量の礫が検出された。礫の円磨度は角礫又は亜角礫で占められ、ほぼすべての礫と掘形の周辺のⅨａ層に含まれる礫の一部でも被熱の痕跡が認められた。

出土遺物　なし。

ＳＦ68（図101、図版33）

位置　G20・G21・H20・H21グリッドの南斜面に位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径0.60m以上・短径0.43m・深さ0.22mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1499に切られる。埋土のうち2層と5層は強く被熱した均質な焼土層で、面的に検出された。他の土層（1・3・4層）には、焼土粒とⅨｂ層ブロックが含まれることから、人為的に埋め戻された可能性が高い。なお掘形の底面・壁面では、被熱の痕跡は認められなかった。

出土遺物　なし。

ＳＦ69（図102、図版33）

位置　H21グリッドの南斜面に位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径1.24m・短径0.75m・深さ0.18mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1557に切られる。炉石は東西辺の一部が抜き取られており、いずれも亜円礫又は角礫が用いられていた。一部の炉石の内側で被熱の痕跡が認められた。炉跡の内部ではごく一部に焼土層が検出され、掘形底面の中央に窪みがあることから、掻き出されたと想定できる。なお底面は南斜面と同様に傾斜しており、周辺に柱穴がないことから、屋外炉の可能性が高い。

出土遺物　埋土から、ＲＦ1点が出土した。

ＳＦ70（図101）

位置　X26グリッドに位置する。

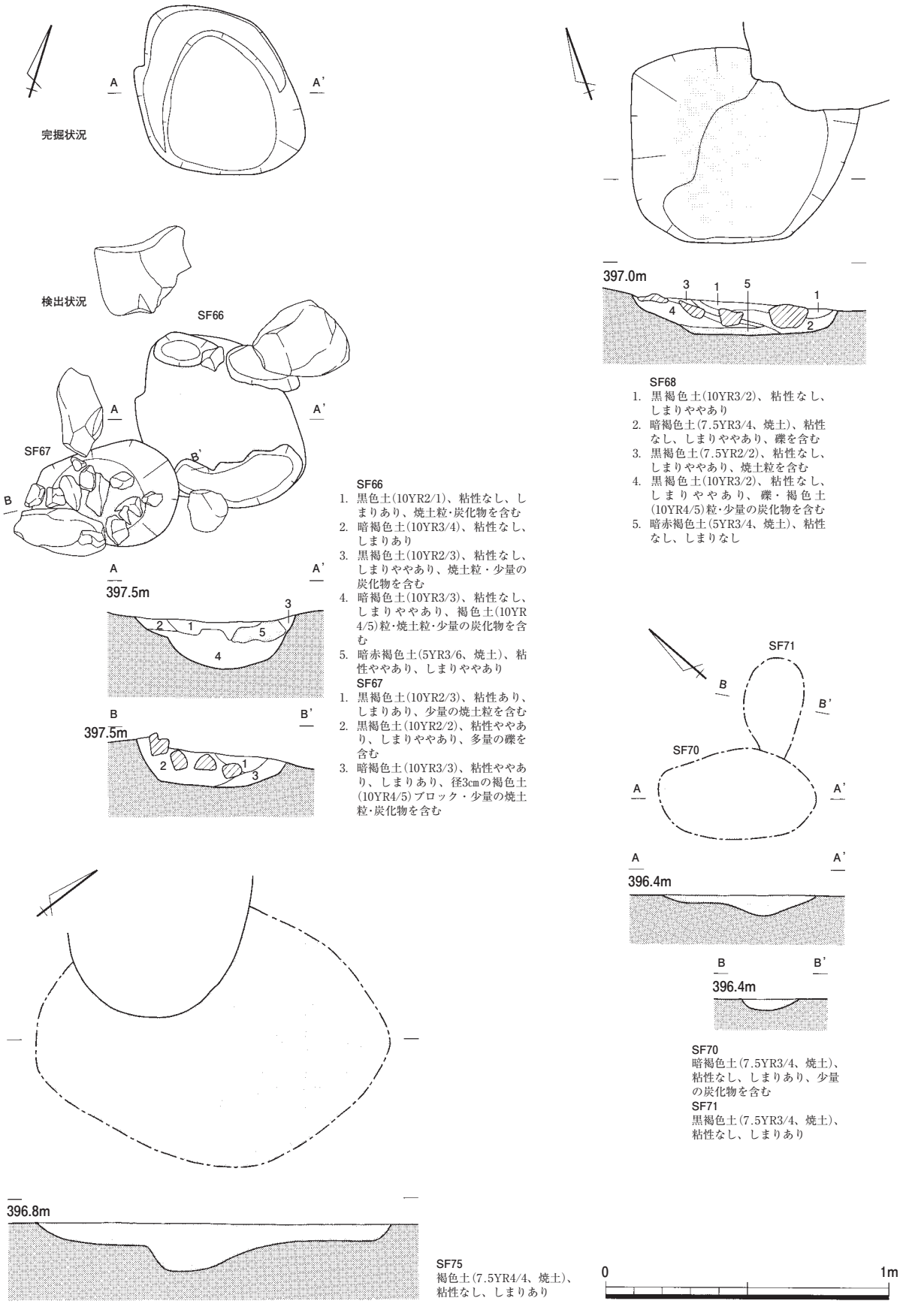


図101　第３Ｂ調査面検出遺構図（２）

形状と規模　平面形は楕円形である。上端長径0.45m・上端短径0.30m・深さ0.10mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＦ71・ＳＫ2131・2132を切る。被熱して締まりのある均質な焼土が、面的に検出された。

出土遺物　なし。

ＳＦ71（図101）

位置　Ｘ26グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。上端長径0.36m以上・上端短径0.22m・深さ0.04mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＦ70に切られる。被熱して締まりのある均質な焼土が、面的に検出された。

出土遺物　なし。

ＳＦ75（図101）

位置　Ｙ23・Ｙ24グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。上端長径1.25m・上端短径0.90m以上・深さ0.17mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＦ74に切られる。被熱して締まりのある均質な焼土が、面的に検出された。

出土遺物　なし。

ＳＦ76（図103、図版34）

位置　Ｆ18・Ｆ19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.64m・短径0.54m・深さ0.28mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。炉石は北西部を除く３辺が遺存し、いずれも亜円礫が用いられていた。東西辺の炉石は細長い亜円礫を壁に沿って置くが、南辺の礫は斜位に立ち、南西隅には亜円礫１個を立石状に配置していた。炉跡の内部では焼土は検出されなかったが、最下層で焼土粒、底面で被熱の痕跡が認められた。

出土遺物　埋土から、後期前葉の土器（1023）・石核１点（2055）・切目石錘１点（2281）が出土した。

ＳＦ77（図103、図版34）

位置　Ｇ19・Ｈ19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は長方形である。長径1.18m・短径0.94m・深さ0.14mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1579・1593・1596・1597・1647を切る。炉石は南東辺が遺存するが、他は礫の下面のレベルが高く原位置を保っていない可能性がある。いずれも扁平円礫又は亜円礫が用いられていた。炉跡の内部では焼土は検出されなかったが、一部の炉石と掘形の底面で被熱の痕跡が認められた。

出土遺物　埋土から後期前葉の土器（1025）・石鏃３点（2090・2119・2121）・掻器１点（2137）・楔形石器１点（2168）・ＵＦ１点・ＲＦ１点・切目石錘３点（2277～2279）・石皿片１点が出土した。

ＳＦ78（図102、図版34）

位置　Ｇ19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径0.56m以上・短径0.56m・深さ0.23mを測る。

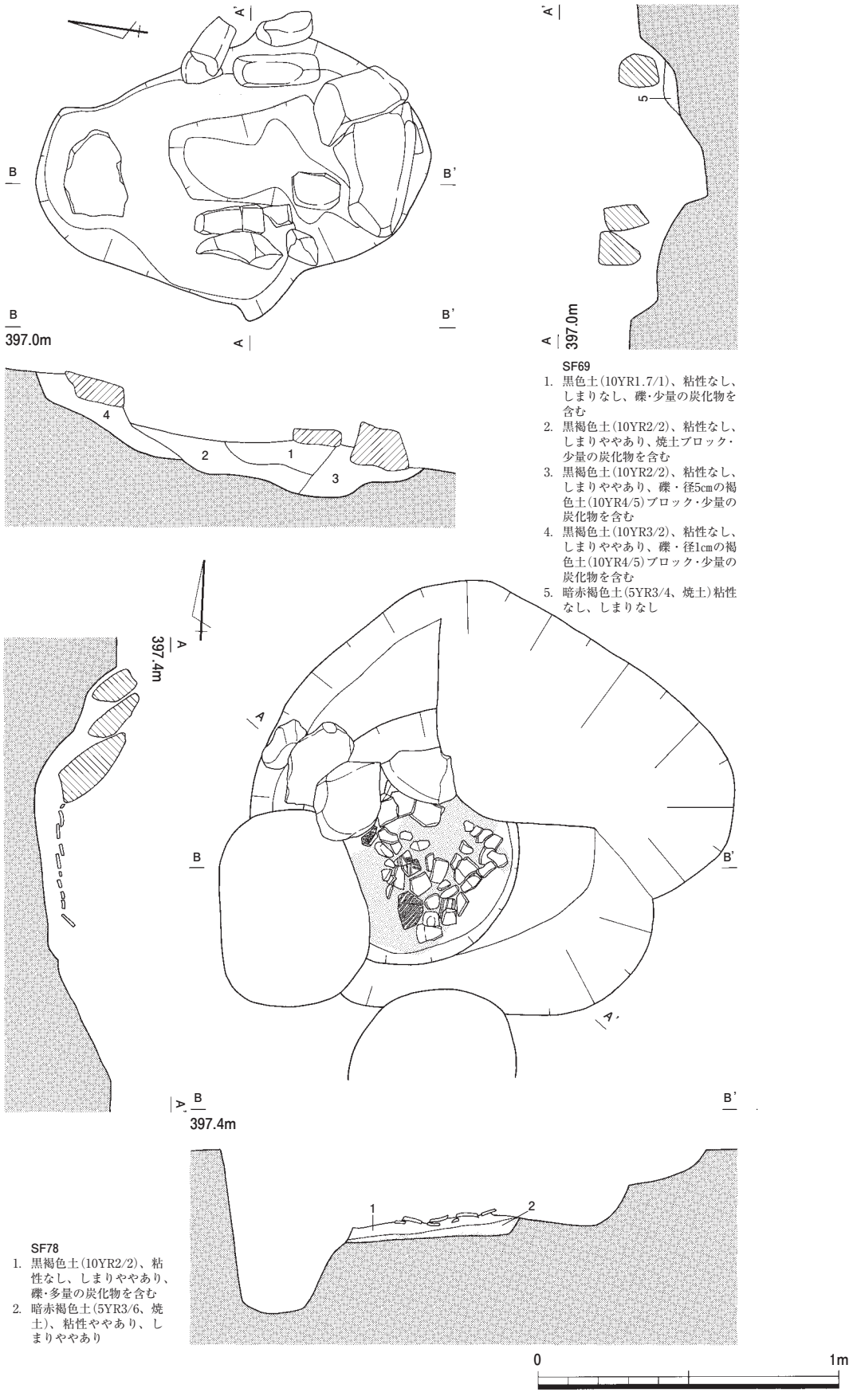


図102　第3B調査面検出遺構図（3）

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1531を切り、ＳＫ1527・1529・1530に切られる。ＳＫ1529を完掘した時点で土器片が面的に広がり、間層（１層）を挟んで、被熱して締まりのある均質な焼土層（２層）が認められたため、別遺構として認定した。掘形の周辺のⅨｂ層中の礫にも、被熱の痕跡が認められた。なお土器片と同一レベルで、円礫及び亜円礫３個が重なるように出土した。

出土遺物　埋土から、中期後葉の土器（1021・1022・1027）・石鏃１点・石鏃未製品１点が出土した。

4　配石遺構

ＳＩ36・ＳＫ2401（図103、図版34）

位置　H21グリッドの南斜面に位置する。

上面配石　Ｖｂ層基底面で検出した。平面形は遺構の南西側を欠くため不明である。長径15～46㎝の礫を平置きとし、囲まれた内部の中央東寄りで土器底部（1031）が逆位で出土した（配石１類）。礫の円磨度は円礫又は扁平円礫で占められ、一部の礫に被熱の痕跡が認められた。

土坑　重複遺構はない。上面配石除去後の平面精査により検出した。平面形は不定形である。長径0.59ｍ以上・短径0.25ｍ以上・深さ0.25ｍを測る。なお底面で、弱い被熱の痕跡が認められた。

出土遺物　上面配石から中期後葉の土器（1029～1031）が出土した。

ＳＩ37・ＳＫ1344（図114、図版38）

位置　E18グリッドに位置する。

上面配石　Ｖｂ層基底面で検出した。長径25～35㎝の亜円礫２個を長手置きとし（配石２類）、東側の礫はＳＫ1347に跨る。

土坑　平面形は不整円形を呈し、長径0.32ｍ・短径0.29ｍ・深さ0.42ｍを測る。ＳＫ1347を切る。上面配石除去後の平面精査により検出した。掘形の位置は、上面配石の範囲からやや南西にずれる（土坑Ａ類）。

出土遺物　土坑埋土からＲＦ１点・切目石錘１点・骨片が出土した。

ＳＩ37・ＳＫ1347（図114、図版38）

位置　E18・F18グリッドに位置する。

上面配石　Ｖｂ層基底面で検出した。長径27㎝の亜円礫１個を平置きとする（配石２類）。

土坑　平面形は不整円形を呈し、長径0.47ｍ・短径0.38ｍ・深さ0.28ｍを測る。ＳＫ1323・1344に切られ、ＳＫ1373を切る。上面配石除去後の平面精査により検出した。掘形の位置は、上面配石の範囲から東にずれる（土坑Ａ類）。

出土遺物　なし。

5　立石遺構

ＳＲ１（図124、図版43）

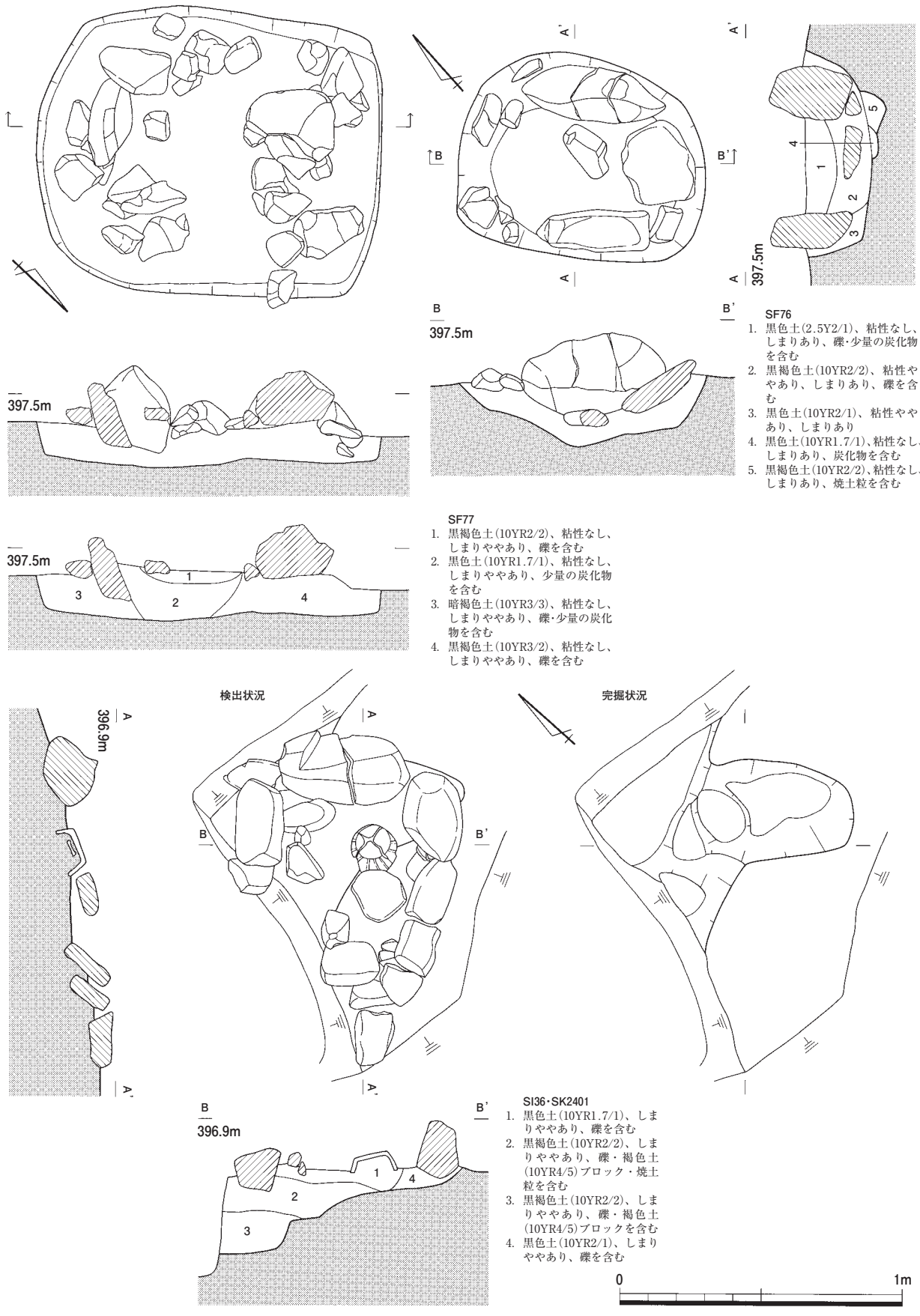
位置　H17グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.24ｍ・短径0.20ｍ・深さ0.13ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1776を切る。土坑中央の埋土上部に亜円礫（長径36㎝・短径20㎝・厚さ13㎝）１個を長手立てとし、礫の下端は土坑底面とほぼ接する。

出土遺物　なし。

ＳＲ２（図124、図版43）



SF76
1. 黒色土(2.5Y2/1)、粘性なし、しまりあり、礫・少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりあり、礫を含む
3. 黒色土(10YR2/1)、粘性ややあり、しまりあり
4. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりあり、炭化物を含む
5. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりあり、焼土粒を含む

SF77
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
2. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
3. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
4. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む

SI36・SK2401
1. 黒色土(10YR1.7/1)、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・褐色土(10YR4/5)ブロック・焼土粒を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫・褐色土(10YR4/5)ブロックを含む
4. 黒色土(10YR2/1)、しまりややあり、礫を含む

図103　第3B調査面検出遺構図（4）

位置　H18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.53m・短径0.32m以上・深さ0.08mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1818に切られＳＫ1816を切る。土坑中央に亜円礫（長径34㎝・短径30㎝・厚さ14㎝）１個を小口立てとし、礫の下端は土坑底面と接する。

出土遺物　なし。

6　土坑

ＳＫ156（図104）

位置　Ｉ16グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形である。長径0.96m・短径0.80m・深さ0.15mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ536に切られ、ＳＢ16を切る。埋土上部で、長径７～35㎝の多数の礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。このうち中央北には、礫（長径21㎝以上・短径10㎝・厚さ８㎝）を長手立てとする。礫の円磨度は大半が亜円礫で、少量角礫を伴う。なお埋土２層中の焼土ブロックは、ＳＢ16下部遺構を掘削した土を埋め戻した結果と考えられ、ＳＢ16竪穴内部検出のＰ289・290が本遺構の底面に属する可能性がある。

出土遺物　埋土から時期不明の縄文土器（1028）・掻器１点（2153）・打欠石錘１点（2257）が出土した。

ＳＫ157（図104、図版34）

位置　N17グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径1.30m・短径0.92m・深さ0.19mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ679を切る。埋土上部で、長径７～27㎝の多数の礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は大半が亜円礫で、少量の角礫を伴う。礫及び土坑の壁面や底面で、被熱の痕跡は認められなかった。

出土遺物　なし。

ＳＫ158（図104、図版34）

位置　N14グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.65m・短径0.43m・深さ0.49mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＢ11・ＳＫ583を切る。埋土上部で、亜円礫（長径40㎝・短径26㎝・厚さ14㎝）１個を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器（1032～1034）・ＲＦ１点・切目石錘１点が出土した。

ＳＫ160（図105、図版34）

位置　N17グリッドに位置する。

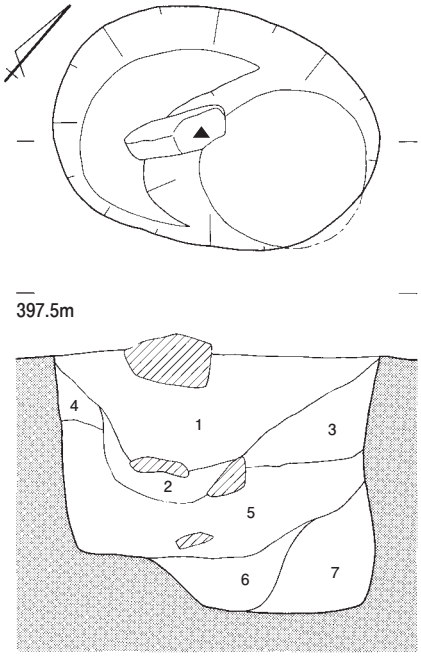
形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.70m・短径0.38m・深さ0.21mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。埋土上部で、円礫（長径25・短径21・厚さ７㎝）１個を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

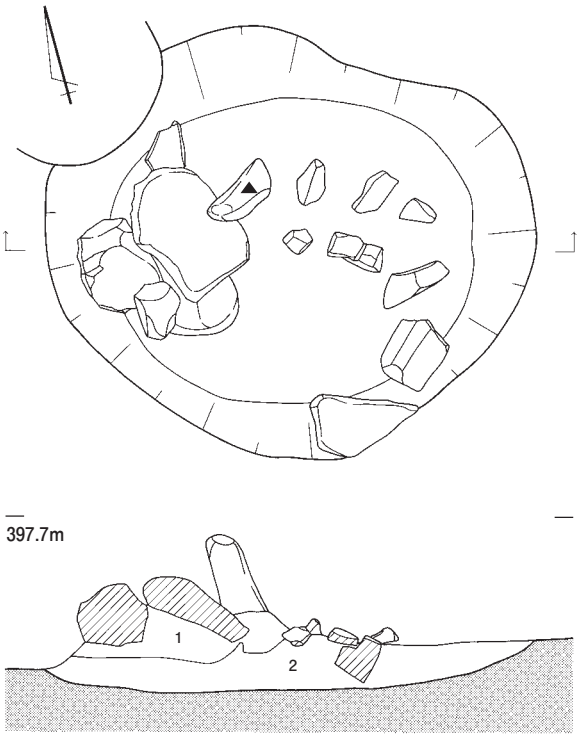
出土遺物　なし。

ＳＫ161（図105、図版34）

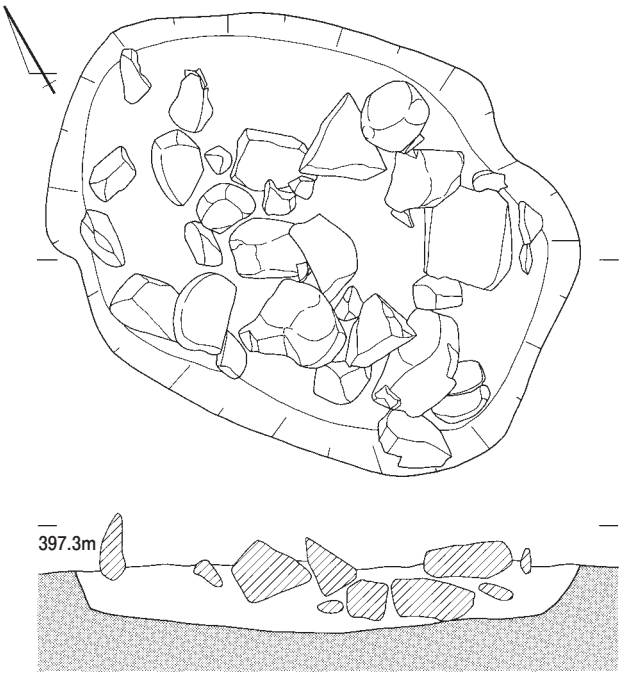
位置　N18グリッドに位置する。



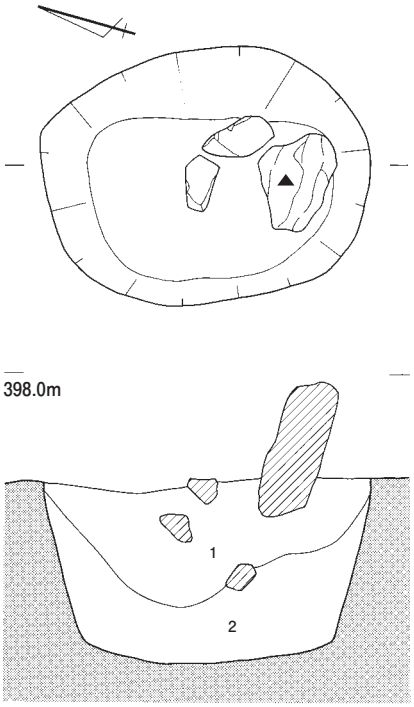
SK224
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫･多量の炭化物を含む
2. 黒色土(10YR2/1)、粘性あり、しまりあり、礫・多量の炭化物を含む
3. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性ややあり、しまりややあり、少量の炭化物を含む
4. 褐色土(10YR4/4)、粘性ややあり、しまりあり、褐色土(10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む
5. にぶい黄褐色土(10YR4/3)、粘性ややあり、しまりややあり､礫･褐色土(10YR4/5)ブロック・多量の炭化物を含む
6. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性強い、しまりややあり、多量の炭化物を含む
7. 褐色土(10YR4/4)、粘性ややあり、しあまりあり、炭化物を含む



SK156
1. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/3)､粘性なし、しまりなし、礫を含む



SK157
黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む



SK158
1. 黒褐色土(10YR2/2)､粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/3)､粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む

図104　第３Ｂ調査面検出遺構図（５）

形状と規模　平面形は不整円形である。長径0.43m・短径0.40m・深さ0.58mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。埋土上部に、長径７～30㎝の多量の礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。これらのうち小型の礫は混入とみられ、それらを除くと礫の円磨度は円礫と亜円礫で占められる。

出土遺物　埋土から後期中葉の土器（1035・1036）・ＲＦ２点・骨片が出土した。

ＳＫ162（図105、図版35）

位置　M16グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形である。長径0.44m・短径0.40m・深さ0.30mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。埋土上部で、亜円礫（長径50㎝・短径40㎝・厚さ14㎝）１個を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から骨片が出土した。

ＳＫ163（図106、図版35）

位置　ｂ25グリッドに位置する。

形状と規模　Ｃトレンチに切られるため平面形は不明である。長径0.50m・短径0.20m以上・深さ0.25mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。埋土上部に、長径10㎝以下の多量の礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は大半が亜角礫であるが、被熱していない。

出土遺物　なし。

ＳＫ172（図106、図版35）

位置　H18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.65m・短径0.53m・深さ0.35mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1490に切られ、ＳＫ1462を切る。埋土上部で、長径９～50㎝の多数の礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は大半が亜円礫で、少量の亜角礫を伴う。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器（1037）・石鏃２点・石鏃未製品１点・楔形石器２点・ＲＦ２点・石皿１点、１層から骨片が出土した。

ＳＫ173（図105）

位置　Ｉ19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径1.72m・短径1.50m・深さ0.64mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1662・1663・1702・1705を切る。埋土中に、長径６～32㎝の多数の礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は、大半が亜角礫である。

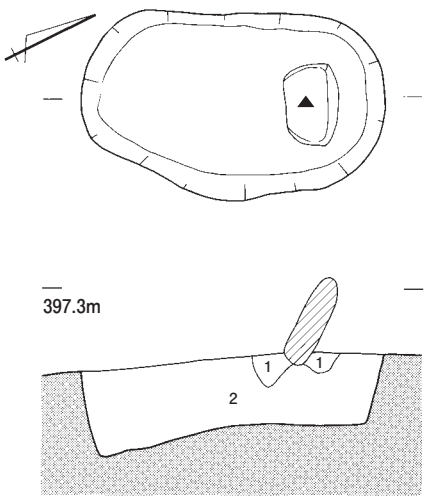
出土遺物　埋土から、後期中葉から後葉の土器（1038～1040）・ＲＦ１点・ＵＦ１点・切目石錘２点、埋土の１・２層から骨片が出土した。

ＳＫ174（図106、図版35）

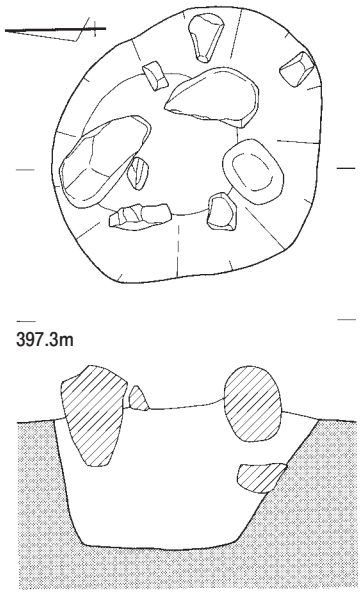
位置　G18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.32m・短径0.30m・深さ0.39mを測る。

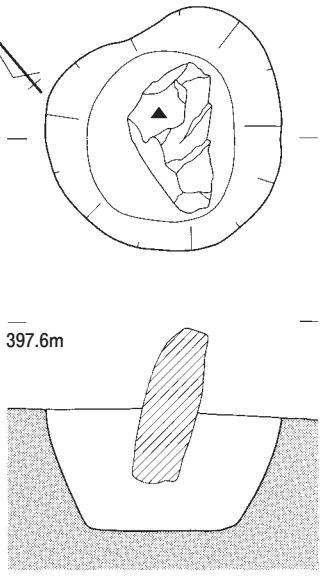
概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ2460・1464・1548を切る。埋土上部で、完形の石皿（2325）１個を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。



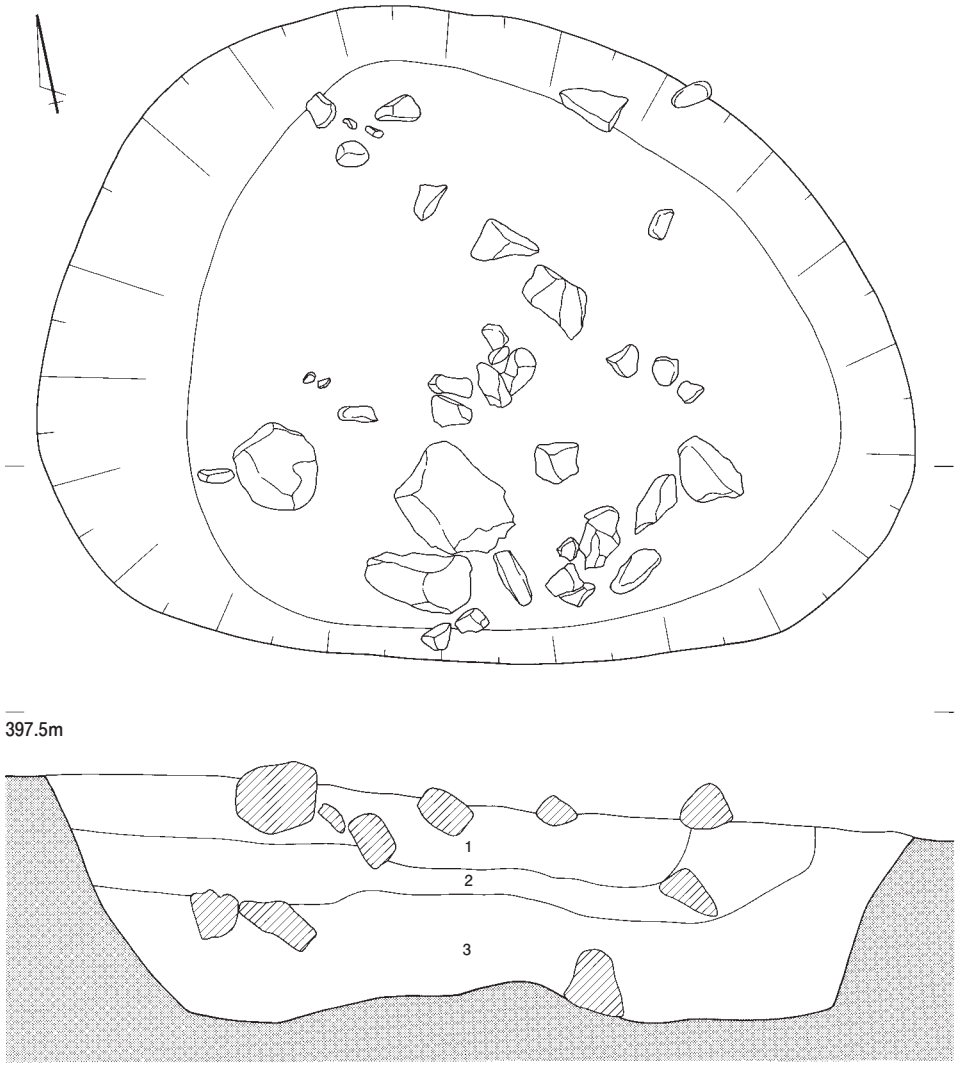
SK160
1. 赤褐色土(10YR4/8,焼土ブロック)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



SK161
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の礫と骨片を含む



SK162
黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりなし、少量の礫と骨片を含む



SK173
1. 黒色土(7.5YR3/2)、粘性あり、シルト質、しまりあり、礫･骨片を含む
2. 暗褐色土(7.5YR3/3)、粘性あり、シルト質、しまりあり、多量の礫と骨片を含む
3. 暗褐色土(7.5YR3/4)、粘性あり、シルト質、しまりあり、多量の礫を含む

図105　第３Ｂ調査面検出遺構図（６）

出土遺物　埋土から後期中葉の土器（1041）、埋土の５層から骨片が出土した。

ＳＫ182（図106）

位置　Ｉ19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.82m・短径0.70m以上・深さ0.46mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1658に切られる。平面形と底面の様子から、複数の土坑の重複が想定される。土坑底面の西壁沿いに亜円礫３個が配置されており、中央の礫（長径37cm･短径30cm･厚さ30cm）は長手立ての可能性がある（土坑Ｂ２類）。

出土遺物　埋土から、後期後葉の土器（1042）が出土した。

ＳＫ185（図106、図版35）

位置　H19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径1.00m・短径0.56m・深さ0.27mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ186に切られ、ＳＫ1528・1575・1622を切る。土坑東側の亜円礫（長径50cm・短径48cm・厚さ17cm）を長手立てとみると、周辺の亜角礫はこの礫を固定するための根石（長径10cm～23cm）の可能性がある（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から、後期中葉の土器（1043・1044）・石鏃１点・石錐１点・ＲＦ１点が出土した。

ＳＫ201（図107、図版35）

位置　Ｉ16グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.66m・短径0.49m・深さ0.40mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1731に切られる。埋土上部で長径９～17cmの多数の礫、下部で長径26cmと45cmの礫２個が浮上する（土坑Ｄ２ｂ類）。礫の円磨度は、大半が亜円礫である。

出土遺物　なし。

ＳＫ212（図107、図版35）

位置　K11グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.90m・短径0.48m・深さ0.42mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1159・1160・1166・1173・1201を切る。埋土上部で、長径７～38cmの多数の礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は、亜円礫で占められる。

出土遺物　埋土から中期後葉から後期初頭にかけての土器（1045）・フレイク４点が出土した。

ＳＫ219（図107）

位置　Ｈ３グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整長方形である。長径1.44m・短径0.62m・深さ0.12mを測る。

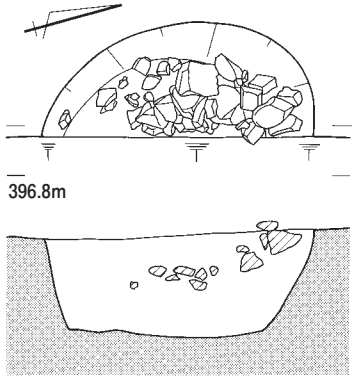
概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。埋土上部南側では、亜円礫（長径30cm･短径21cm･厚さ７cm、長径30cm・短径19cm・厚さ９cm）２個を小口立てとし、北側では長径29cmの亜角礫１個を平置きとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から石鏃２点・ＵＦ１点が出土した。

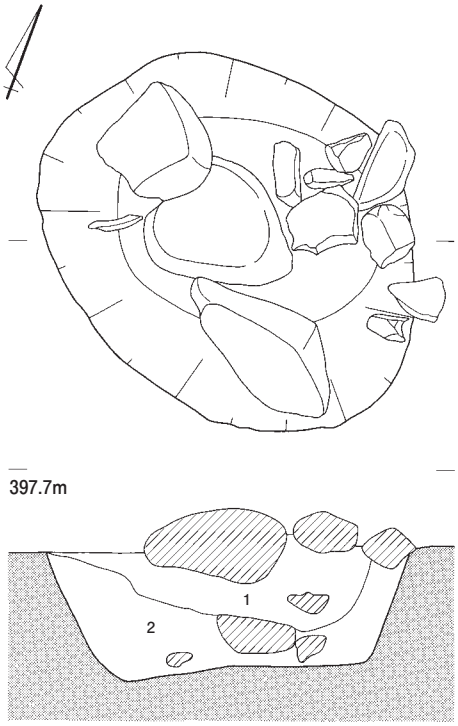
ＳＫ221（図108）

位置　Ｊ３グリッドに位置する。

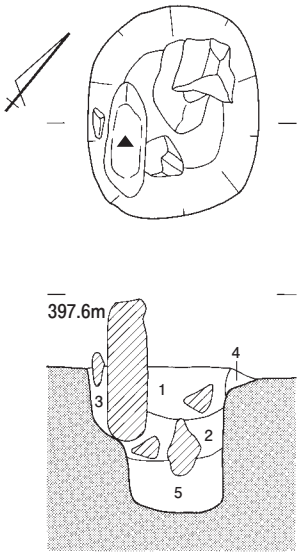
形状と規模　平面形は不定形である。長径0.90m・短径0.75m・深さ0.20mを測る。



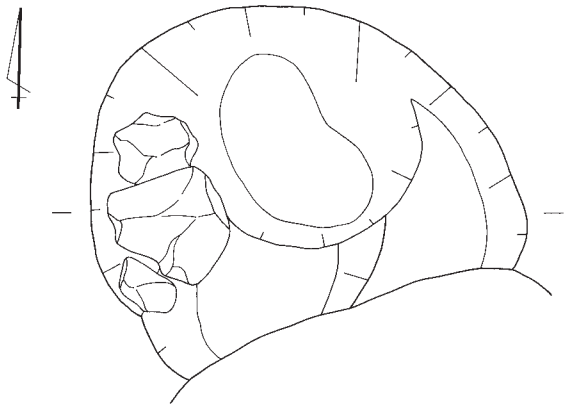
SK163
暗褐色土(10YR3/3)、粘性ややあり、しまりあり、多量の礫を含む

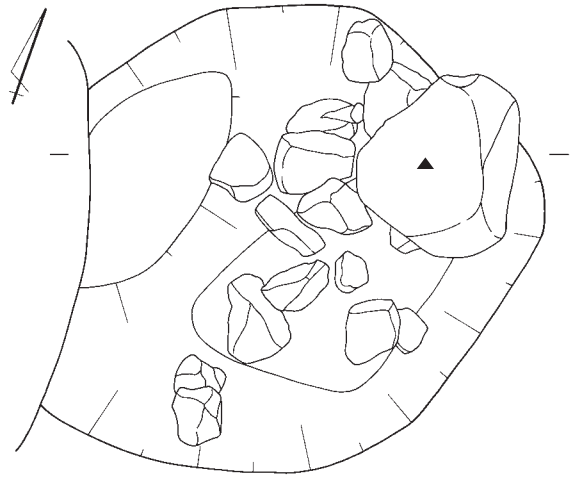


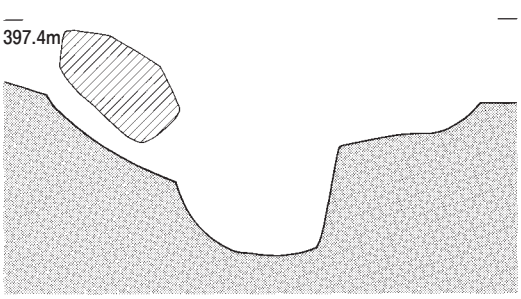
SK172
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性あり、しまりあり、礫･多量の炭化物･骨片を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり、礫･褐色土(10YR4/5)･炭化物を含む



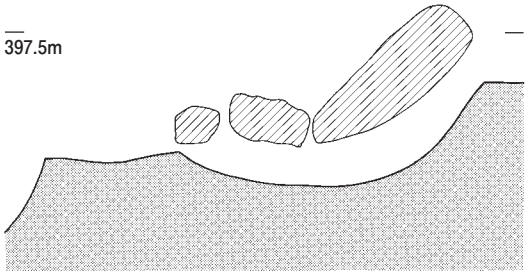
SK174
1. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりあり、礫･少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりあり、礫･少量の炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりあり、礫を含む
4. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、褐色土(10YR4/5) 粒を含む
5. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり、少量の炭化物･骨片を含む







SK182
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫・少量の炭化物を含む



SK185
黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりなし、少量の炭化物を含む

図106　第３Ｂ調査面検出遺構図（７）

概要　Ⅴb層基底面で検出した。重複遺構はない。埋土上部の土坑北側で、亜円礫（長径36㎝・短径27㎝・厚さ13㎝）1個を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ 222（図 108）

位置　Ｊ４・Ｊ５グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径 0.80m・短径 0.52m・深さ 0.30mを測る。

概要　Ⅸa層上面で検出した。重複遺構はない。埋土上部で、角礫（長径 37㎝･短径 22㎝･厚さ 21㎝）１個を小口立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ 224（図 104）

位置　Ｆ 19 グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径 0.75m・短径 0.43m・深さ 0.70mを測る。

概要　Ⅴb層基底面で検出した。ＳＫ 1515・1562・1598 を切る。埋土上部に亜角礫（長径不明・短径 28㎝・厚さ 10㎝）1個を長手立てとし、少量の円礫・亜円礫が浮上する（土坑Ｄ２ｃ類）。埋土のうち、土層 6 層に多量の炭化物が出土したため土壌を採取し、うち湿重約 170ｇを水洗選別した。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器（1046・1047）・ＲＦ１点が出土した。埋土１層等から骨片、埋土 6 層の水洗選別により少量の砕片・炭化種子を検出した（第 6 章 3 節参照）。

ＳＫ 259（図 109、図版 35）

位置　Ｌ３・Ｍ３グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径 1.78m・短径 0.68m・深さ 0.45mを測る。

概要　Ⅴb層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑の長軸方向に平行する壁際に、長径 18 ～ 33㎝の亜円礫を配置する。礫は概ね中央に向かって下がっており、小口立てであった可能性が高い（土坑Ｂ２類）。

出土遺物　埋土から掻器１点・ＵＦ１点が出土した。

ＳＫ 268（図 107）

位置　Ｇ６・Ｇ７グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形である。長径 0.65m・短径 0.54m・深さ 0.42mを測る。

概要　Ⅴb層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑中央の埋土上部で、長径 36㎝の亜円礫１個が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ 296（図 107）

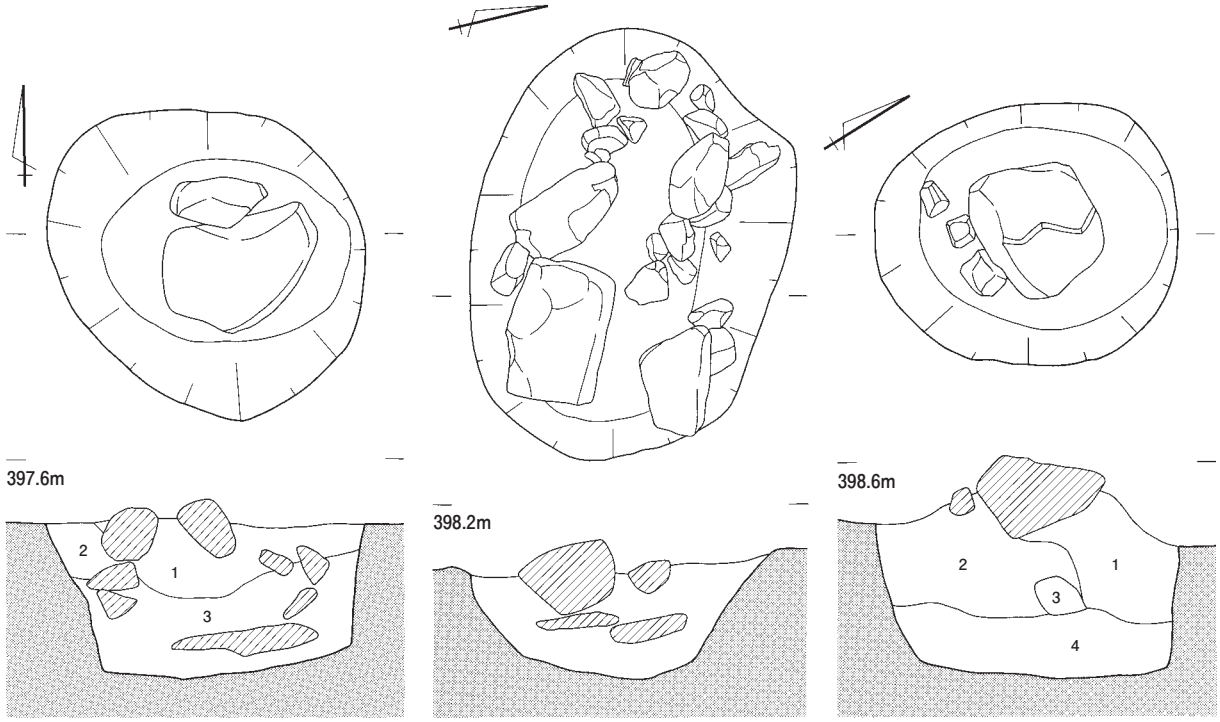
位置　Ｍ９グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径 0.70m・短径 0.52m・深さ 0.23mを測る。

概要　Ⅴb層基底面で検出した。ＳＢ 13 を切る。土坑南東端の埋土上部で、長径 31㎝の亜円礫１個が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。

出土遺物　埋土から中期中葉の土器（1056）・石鏃２点・打欠石錘１点が出土した。

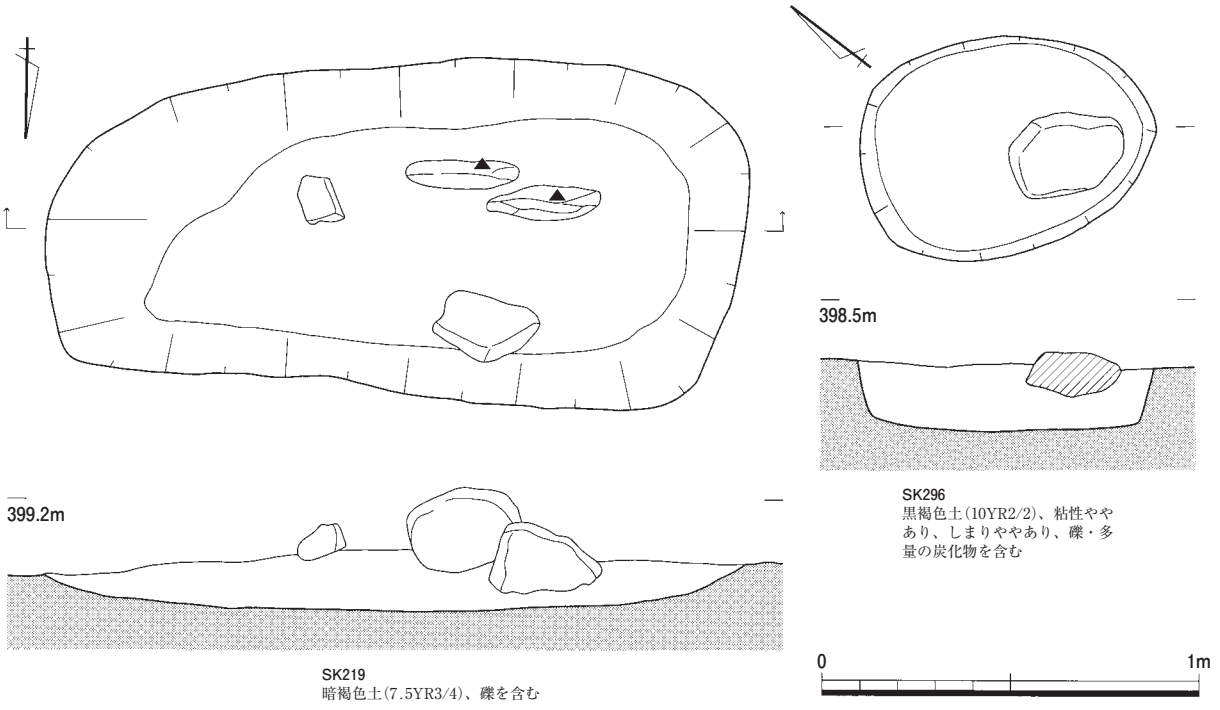
ＳＫ 344（図 108）



SK201
1. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし
3. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む

SK212
黒色土(10YR2/1)、しまりなし、多量の礫を含む

SK268
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
3. 黒褐色土(7.5YR3/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
4. 黒色土(7.5YR2/1)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



SK219
暗褐色土(7.5YR3/4)、礫を含む

SK296
黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりややあり、礫・多量の炭化物を含む

図107　第３Ｂ調査面検出遺構図（８）

位置　O 11・O 12・P 11・P 12グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.60m・短径0.41m以上・深さ0.19mを測る。

概要　Ⅴb層基底面で検出した。ＳＫ343と倒木痕に切られる。土坑南東端の埋土上部で、長径30cmの亜円礫1個が浮上する（土坑Ｄ２ｂ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ388（図版36）

位置　Q14グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径1.77m・短径1.28m・深さ0.38mを測る。

概要　Ⅴb層基底面で検出した。ＳＫ389を切る。土坑中央の埋土上部で、長径10～20cm程度の角礫又は亜角礫が多数浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。

出土遺物　埋土から後期前葉の土器（1064～1066）、磨・敲石類1点（2197）・打欠石錘1点（2224）・切目石錘1点（2272）が出土した。

ＳＫ486（図108）

位置　Q16グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.37m・短径0.27m・深さ0.15mを測る。

概要　Ⅴb層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑中央の埋土上部で、長径29cmの亜円礫1個が浮上する（土坑Ｄ２ｂ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ492（図108）

位置　Q16グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は円形である。直径0.45m・深さ0.20mを測る。

概要　Ⅴb層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑中央の埋土上部で、長径16cmの円礫と長径32cmの亜円礫が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ495（図109）

位置　Q16グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.45m・短径0.37m・深さ0.19mを測る。

概要　Ⅴb層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑中央の埋土上部で、長径25cmの亜円礫1個が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ496（図109）

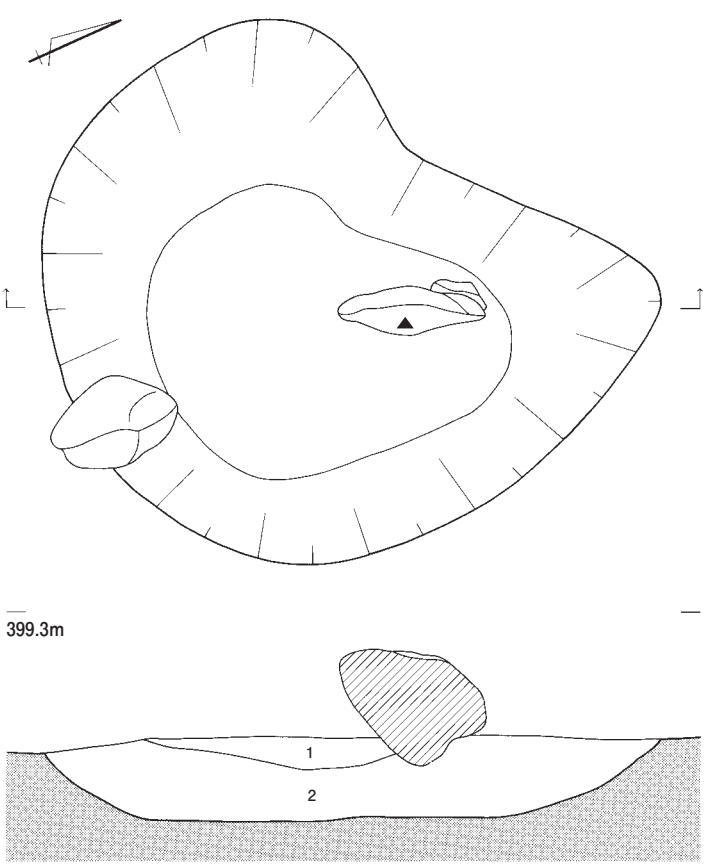
位置　Q16グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形である。長径0.37m・短径0.35m・深さ0.08mを測る。

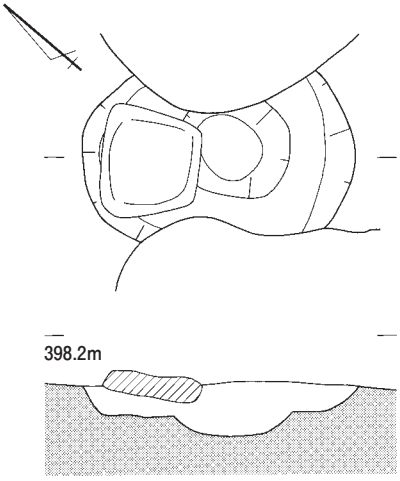
検出状況　Ⅴb層基底面で検出した。ＳＦ61を切る。埋土上部で、長径25cmの亜円礫1個が浮上する（土坑Ｄ２ｂ類）。

出土遺物　なし。

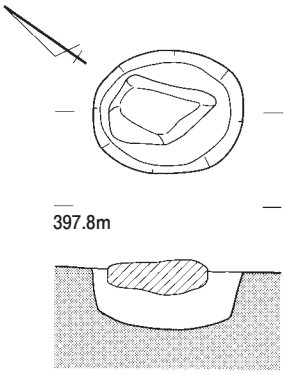
ＳＫ497（図109、図版36）



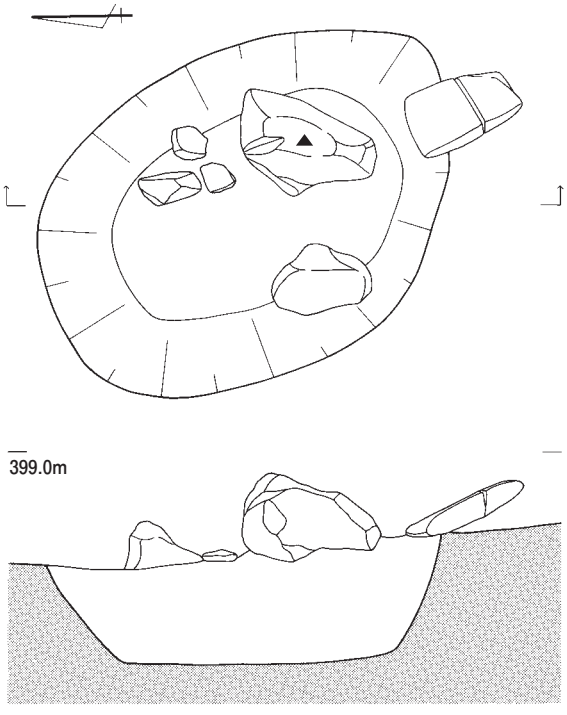
SK221
1. 黒褐色土(10YR3/2)
2. 暗褐色土(10YR3/3)、礫を含む



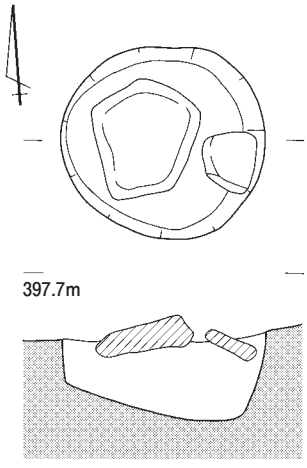
SK344
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、
しまりややあり、礫を含む



SK486
暗褐色土(10YR3/4)、粘性なし、
しまりあり、礫を含む



SK222
黒褐色土(10YR3/2)、礫を含む



SK492
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、
しまりなし、少量の礫を含む

図108　第３Ｂ調査面検出遺構図（９）

位置　Q16・Q17グリッドに位置する。

形状と規模　ＳＢ６に切られ、平面形は不明である。長径0.50ｍ以上・短径0.65ｍ・深さ0.18ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。埋土上部で、長径16～30㎝の亜角礫３個が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ503（図109）

位置　Q18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は円形である。直径0.52ｍ・深さ0.12ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑中央の埋土上部で、長径31㎝の亜円礫１個が浮上する（土坑Ｄ２ｂ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ510（図109、図版36）

位置　Q18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形である。長径0.34ｍ・短径0.24ｍ・深さ0.19ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑西側で、亜円礫（長径23㎝・短径19㎝・厚さ８㎝）１個を小口立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器が出土した。

ＳＫ592（図版36）

位置　M13グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径0.93ｍ・短径0.63ｍ・深さ0.45ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑中央の埋土上部で、長径５～20㎝程度の亜角礫が多数浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。

出土遺物　埋土から打欠石錘（2255）１点が出土した。

ＳＫ601（図110、図版36）

位置　M13グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.47ｍ・短径0.17ｍ・深さ0.84ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＢ11・Ｐ210に切られる。土坑東端の埋土上部で、亜角礫（長径35㎝・短径12㎝・厚さ計測不能）１個が浮上する。土坑中央に向かって傾斜することから、長手立ての可能性がある（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土からＲＦ１点・切目石錘１点が出土した。

ＳＫ608（図109、図版36）

位置　N17グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.49ｍ・短径0.35ｍ・深さ0.30ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑西側で、亜円礫（長径35㎝・短径19㎝・厚さ９㎝）１個を小口立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　なし。

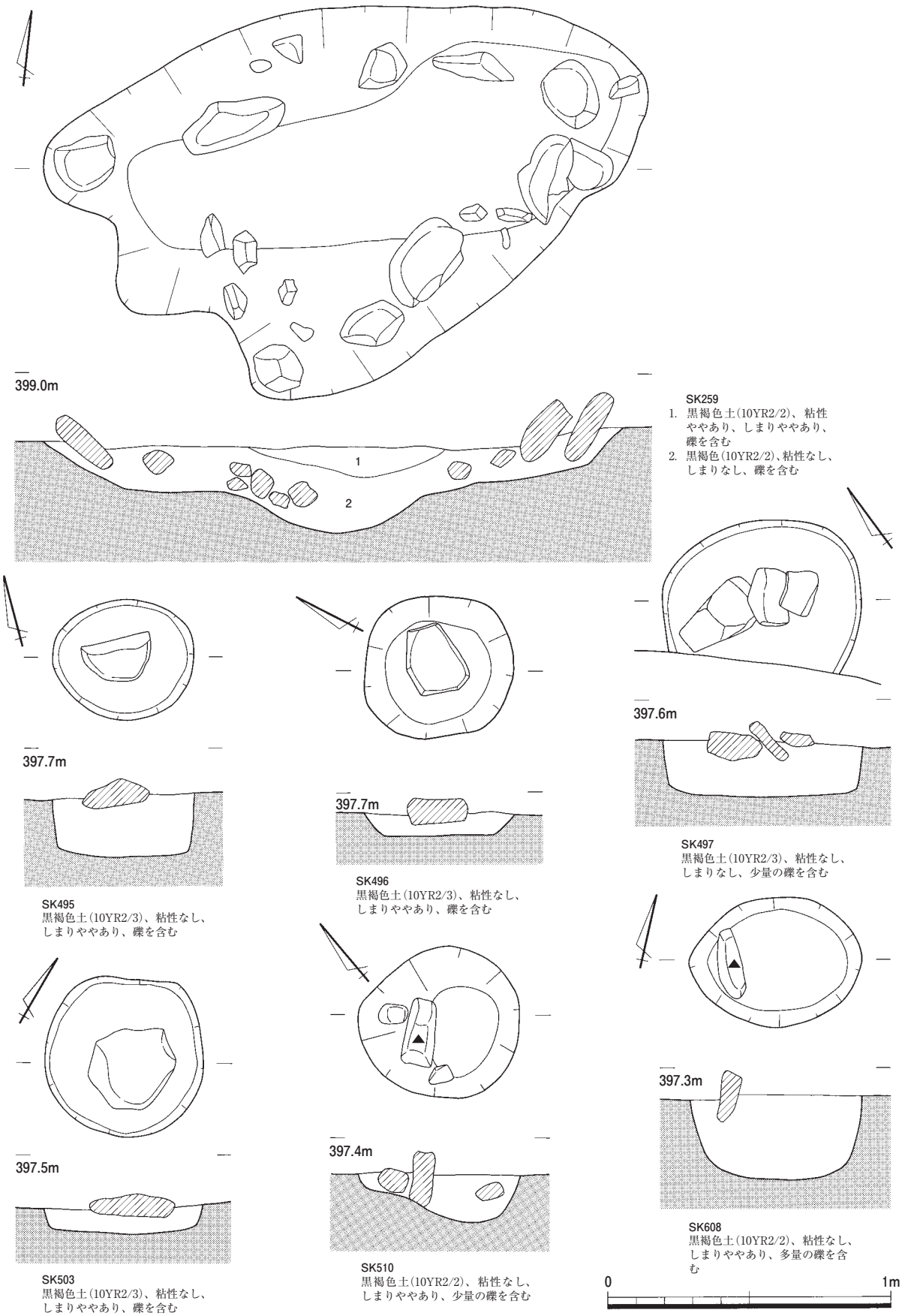


図109　第３Ｂ調査面検出遺構図（10）

ＳＫ611（図110）

位置　M14グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.40m・短径0.26m・深さ0.24mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑中央の埋土上部で、長径17cmの亜角礫１個が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ705（図110、図版36）

位置　H11グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.77m・短径0.50m・深さ0.17mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＢ18・Ｐ297・298を切る。土坑北端で、円礫（長径27cm・短径23cm・幅５cm）１個と被熱痕のある亜円礫（長径22cm・短径20cm・厚さ10cm）１個を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器（1076～1078）・石錐１点・ＲＦ１点が出土した。

ＳＫ714（図110、図版36）

位置　G10・H10グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径0.88m・短径0.57m・深さ0.25mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。埋土の全体に、長径５～25cmの多数の礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は亜円礫で占められ、少量の被熱した礫を含む。

出土遺物　埋土から、中期後葉から後期初頭にかけての土器（1081～1083）が出土した。

ＳＫ756（図111、図版37）

位置　H10・H11グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は長方形である。長径0.99m・短径0.47m・深さ0.23mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ757を切る。土坑中央の埋土上部で、大型の土器片（1085）が浮上する（土坑Ｃ２類）。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器（1085）・打欠石錘１点が出土した。

ＳＫ759（図111、図版37）

位置　H11グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径0.67m・短径0.50m・深さ0.59mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ803に切られ、ＳＫ760・761・762・848・881・901を切る。土坑南東端の埋土上部で、亜円礫（長径39cm・短径33cm・厚さ14cm）１個を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から後期前葉の土器（1087・1088）・石鏃１点・楔形石器３点・ＲＦ２点・切目石錘３点が出土した。

ＳＫ774（図110、図版37）

位置　H12・Ｉ12グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.74m・短径0.57m・深さ0.51mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ773を切る。埋土の全体に、長径４～27cmの多数の礫が浮上

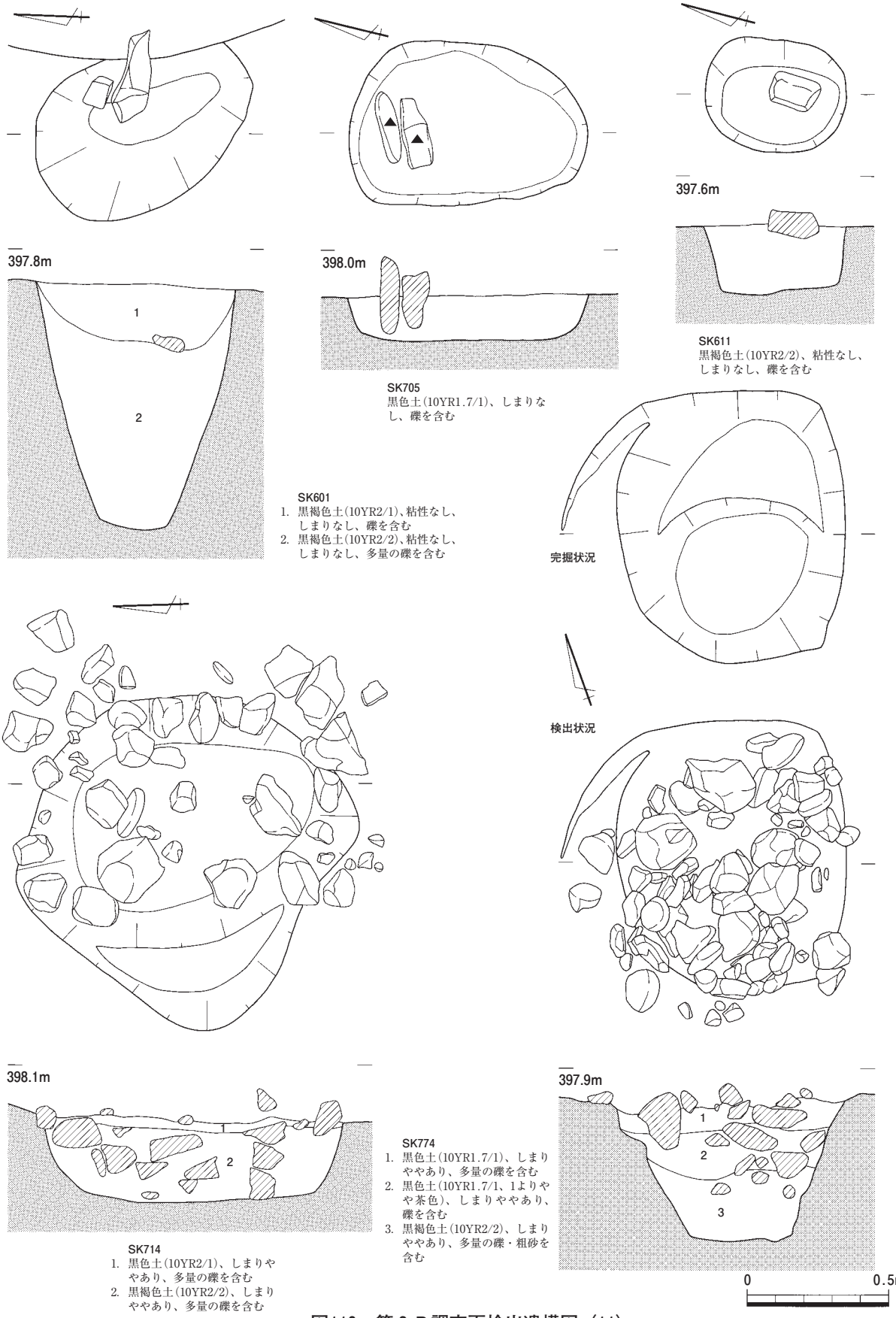


図110　第3B調査面検出遺構図（11）

する（土坑D1ｂ類）。礫の円磨度は亜円礫が主体で少量の亜角礫が伴い、被熱の痕跡は認められなかった。

出土遺物　埋土から後期前葉の土器（1089）が出土した。

ＳＫ782（図111、図版37）

位置　Ｊ９・Ｊ10グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.80m・短径0.63m・深さ0.39mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ936を切る。土坑北東端の埋土上部で、亜円礫（長径34cm・短径17cm・厚さ10cm）１個を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器・ＵＦ１点が出土した。

ＳＫ855（図111）

位置　Ｉ12グリッドに位置する。

形状と規模　ＳＫ787に切られるため、平面形は不明である。長径0.48m以上・短径0.33m以上・深さ0.13mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。底面に長径10cm程度の亜角礫を置き、その上に細長い礫の破片（長径21cm・短径16cm・厚さ19cm）の１個を小口立てとする（土坑Ｄ１ｂ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ885（図版37）

位置　Ｊ11グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形である。長径1.11m・短径0.75m以上・深さ0.76mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ810に切られ、ＳＫ886・Ｐ197を切る。土坑北西端の埋土上部で完形の石皿２個が並んで浮上した（土坑Ｄ２ｂ類）。

出土遺物　土器は、中期後葉から後期前葉の土器（1098・1099）が出土した。石器は、埋土中の石皿より上位から石鏃２点（2071･2074）･ヘラ形石器１点･ＲＦ３点･ＵＦ２点､下位から掻器１点（2145）･ＵＦ１点・打欠石錘１点（2259）・切目石錘１点（2273）が出土した。

ＳＫ937（図112、図版37）

位置　Ｋ10グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.46m・短径0.37m・深さ0.45mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ785に切られ、ＳＫ1094を切る。土坑中央の埋土上部で、長径25cmの亜角礫１個が浮上し、その南側に亜円礫１個（長径27cm・短径18cm・厚さ９cm）を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から後期前葉の土器（1110）・掻器１点・切目石錘４点が出土した。

ＳＫ1018（図112、図版37）

位置　Ｌ10・Ｍ10グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径1.06m・短径0.76m・深さ0.24mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1017に切られ、ＳＫ1031・ＳＢ22を切る。土坑南西端の埋土上部で、大型の土器片（1107）が浮上する（土坑Ｃ２類）。

出土遺物　埋土から中期中葉の土器（1106～1109）が出土した。

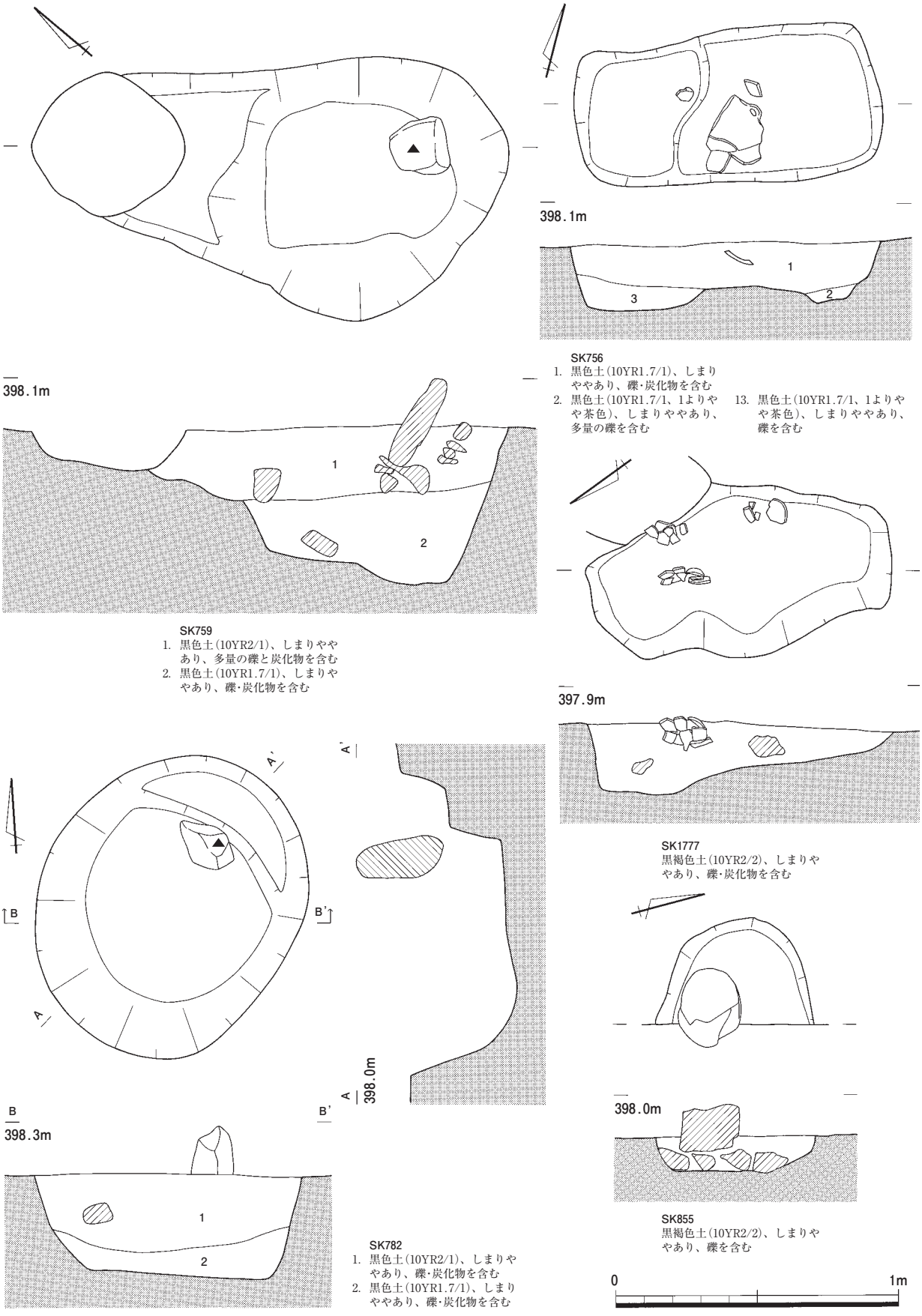


図111　第3B調査面検出遺構図（12）

ＳＫ1109（図112、図版37）

位置　K14・K15グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.95m・短径0.59m・深さ0.23mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1142を切る。土坑北東端の埋土上部で、石皿片（長径37㎝・短径31㎝・厚さ13㎝）１個を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器（1130）・石皿１点が出土した。

ＳＫ1122（図112、図版38）

位置　J12・K12グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形である。長径0.39m・短径0.32m・深さ0.29mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1123･1193を切る。埋土上部で､長径14～22㎝の亜角礫２個（うち北側の礫は石皿片）が浮上する（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から後期前葉の土器（1134）・ＲＦ１点・石皿１点が出土した。

ＳＫ1160（図113、図版38）

位置　K11グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は円形である。長径0.67m・短径0.60m・深さ0.87mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ212・1081・1159に切られ、ＳＫ1161・1162・1201を切る。埋土中から、礫は出土しなかった（土坑Ａ類）。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器（1136）・石鏃１点（2087）・打欠石錘22点（2216～2222・2240～2254）・切目石錘26点（2263・2267～2269・2282～2303）が出土した。石鏃は１層、多くの石錘は３～４層からの出土である。

ＳＫ1161（図112、図版38）

位置　K11グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形である。長径0.85m以上・短径0.55m・深さ0.30mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1084・1159・1160に切られる。底面からやや上の壁際に、長径11～37㎝の礫を立て、一周させる（土坑Ｂ２類）。

出土遺物　埋土から削器１点・切目石錘１点が出土した。

ＳＫ1238（図112、図版38）

位置　L11グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形である。長径0.70m・短径0.58m・深さ0.59mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1084に切られ、ＳＫ1237を切る。底面からやや上の壁際に礫を立てて配置する（土坑Ｂ２類）。

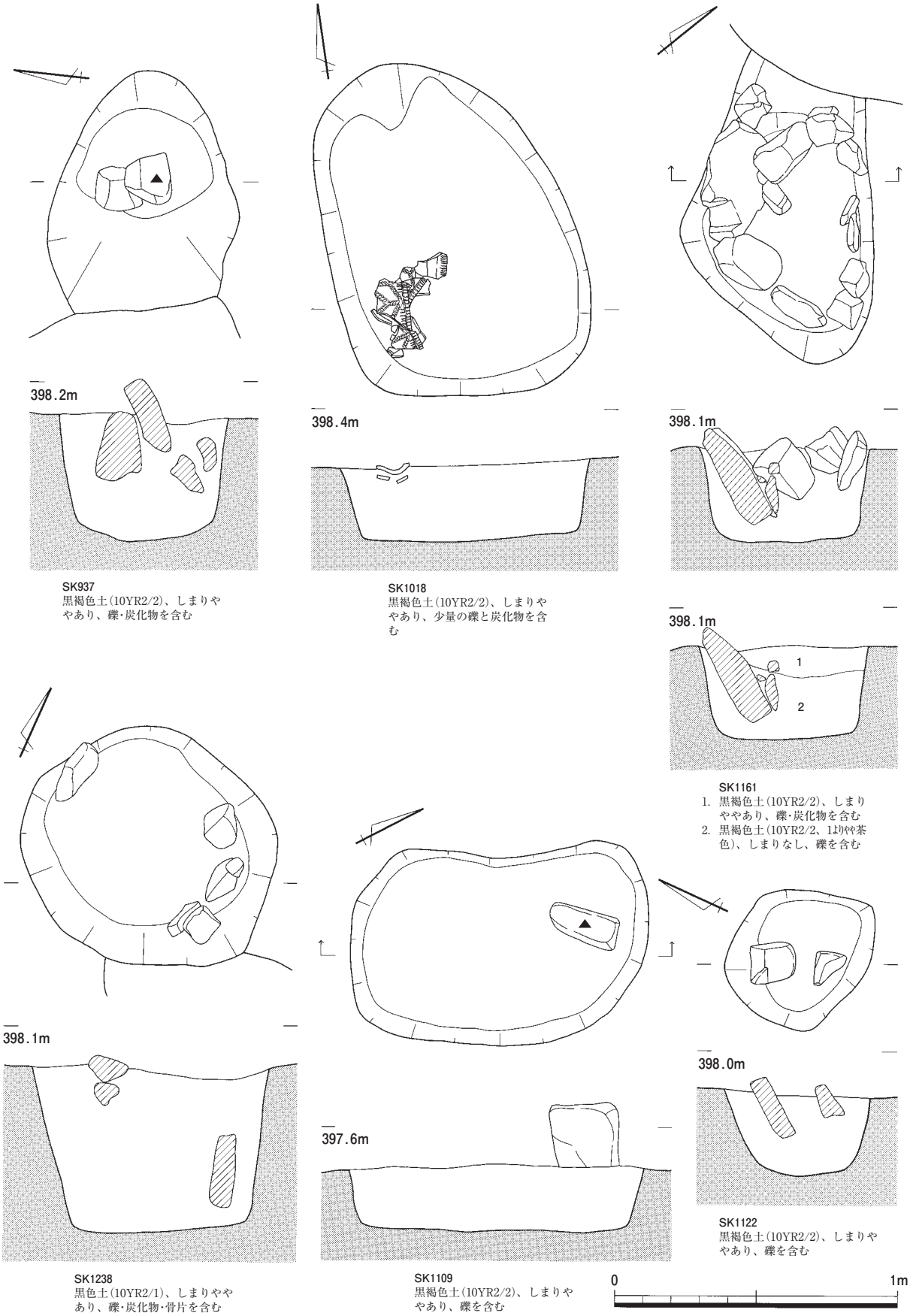
出土遺物　埋土からＲＦ１点・磨・敲石類１点・切目石錘２点・骨片が出土した。

ＳＫ1249（図113、図版38）

位置　L11・L12グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径0.80m以上・短径0.70m以上・深さ0.32mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1250に切られ、ＳＫ1253・1295を切る。土坑北西側の埋土上部で、被熱した角礫（長径31㎝・短径26㎝・厚さ７㎝）１個を長手立てとし、中央の埋土上部で長径22



SK937
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫･炭化物を含む

SK1018
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、少量の礫と炭化物を含む

SK1161
1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫･炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2、1よりやや茶色)、しまりなし、礫を含む

SK1238
黒色土(10YR2/1)、しまりややあり、礫･炭化物･骨片を含む

SK1109
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む

SK1122
黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む

図112　第3B調査面検出遺構図（13）

cmの亜円礫1個が浮上する（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から後期前葉の土器が出土した。

ＳＫ1273（図113、図版38）

位置　M12グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.80m・短径0.62m・深さ0.37mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1257･1276を切る。土坑西側の埋土上部で、亜円礫（長径48cm･短径26cm・厚さ12cm）1個を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土からＵＦ１点・切目石錘1点が出土した。

ＳＫ1323（図114、図版38）

位置　E18・F18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.64m・短径0.48m・深さ0.67mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1347・1373を切る。埋土上部で、長径6～43cmの多数の礫が浮上し、土坑北西端の埋土最上部に長径50cmの亜円礫を置く（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は亜円礫で占められる。

出土遺物　埋土から中期後葉～後期初頭の土器（1157～1159）・石鏃1点・石錐1点・ＲＦ1点・打製石斧2点・磨・敲石類1点、埋土1層などから骨片が出土した。

ＳＫ1328（図113、図版38）

位置　F18・F19グリッドに位置する。

形状と規模　ＳＫ1324・1325を切る。平面形は不整長方形である。長径0.58m・短径0.48m・深さ0.65mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。埋土下部で、長径7～25cmの多数の礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は亜角礫が主体で、少量の亜円礫を伴う。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器が出土した。

ＳＫ1335（図115、図版39）

位置　F18グリッドに位置する。

形状と規模　ＳＫ1334・1375を切る。平面形は不整円形である。長径0.50m・短径0.38m・深さ0.21mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。埋土上部で、長径25cmと39cmの亜円礫2個を芯石とし、西端・南西端に扁平円礫（長径19cm・短径16cm・厚さ5cm、長径31cm・短径19cm・厚さ10cm）2個を小口立てにより囲い石とする。なお芯石の上に載る最上部の亜円礫は、囲い石が内側に倒れたものと解釈する。礫除去後に、中期後葉の土器（1160）が正位で出土した（土坑Ｅ類）。

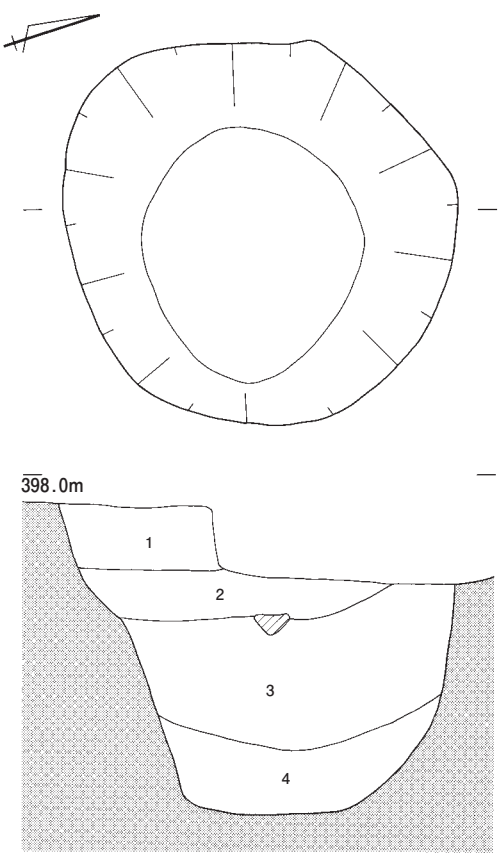
出土遺物　土器（1160）のみが出土した。

ＳＫ1353（図115、図版39）

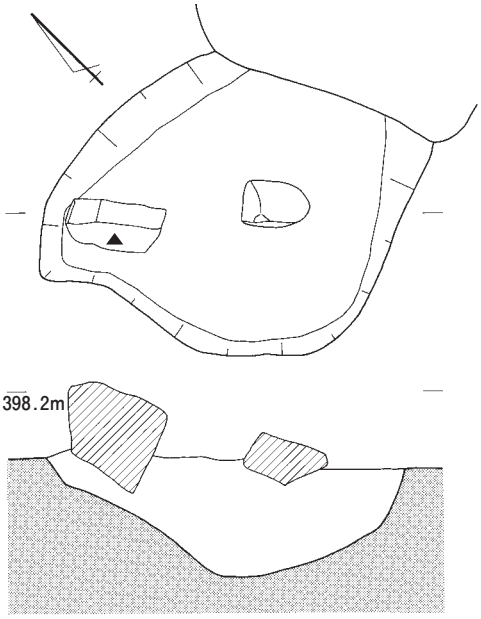
位置　G15グリッドに位置する。

形状と規模　ＳＫ140・1367を切る。平面形は不整楕円形である。長径0.91m・短径0.76m・深さ0.31mを測る。

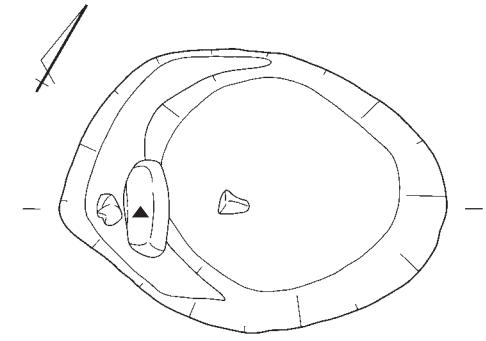
概要　Ｖｂ層基底面で検出した。埋土上部で、長径7～24cmの多数の亜角礫が浮上する（土坑Ｄ１

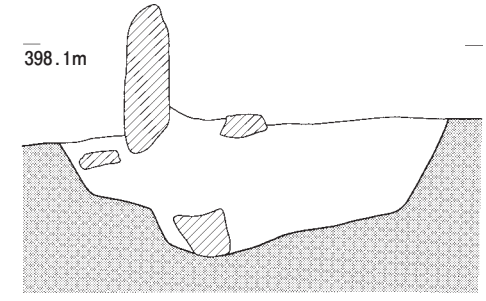


SK1160
1. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、しまりややあり、多量の礫と褐色土(10YR4/5)ブロックを含む
3. 黒褐色土(10YR2/3)、しまりなし、多量の礫と褐色土(10YR4/5)ブロックを含む
4. 黒褐色土(10YR2/2)やや砂質、しまりなし、多量の礫を含む

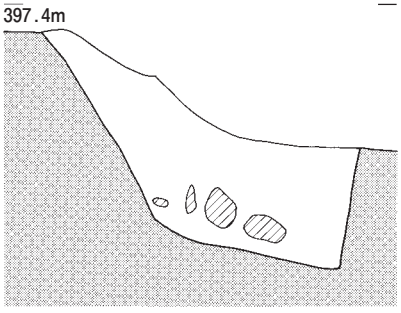


SK1249
黒色土(10YR1.7/1)、しまりやあり、礫・炭化物を含む





SK1273
黒褐色土(10YR2/2)、しまりやあり、多量の礫と炭化物を含む



SK1328
黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりあり、礫・褐色土(10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む

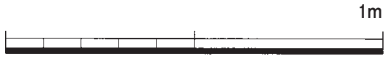
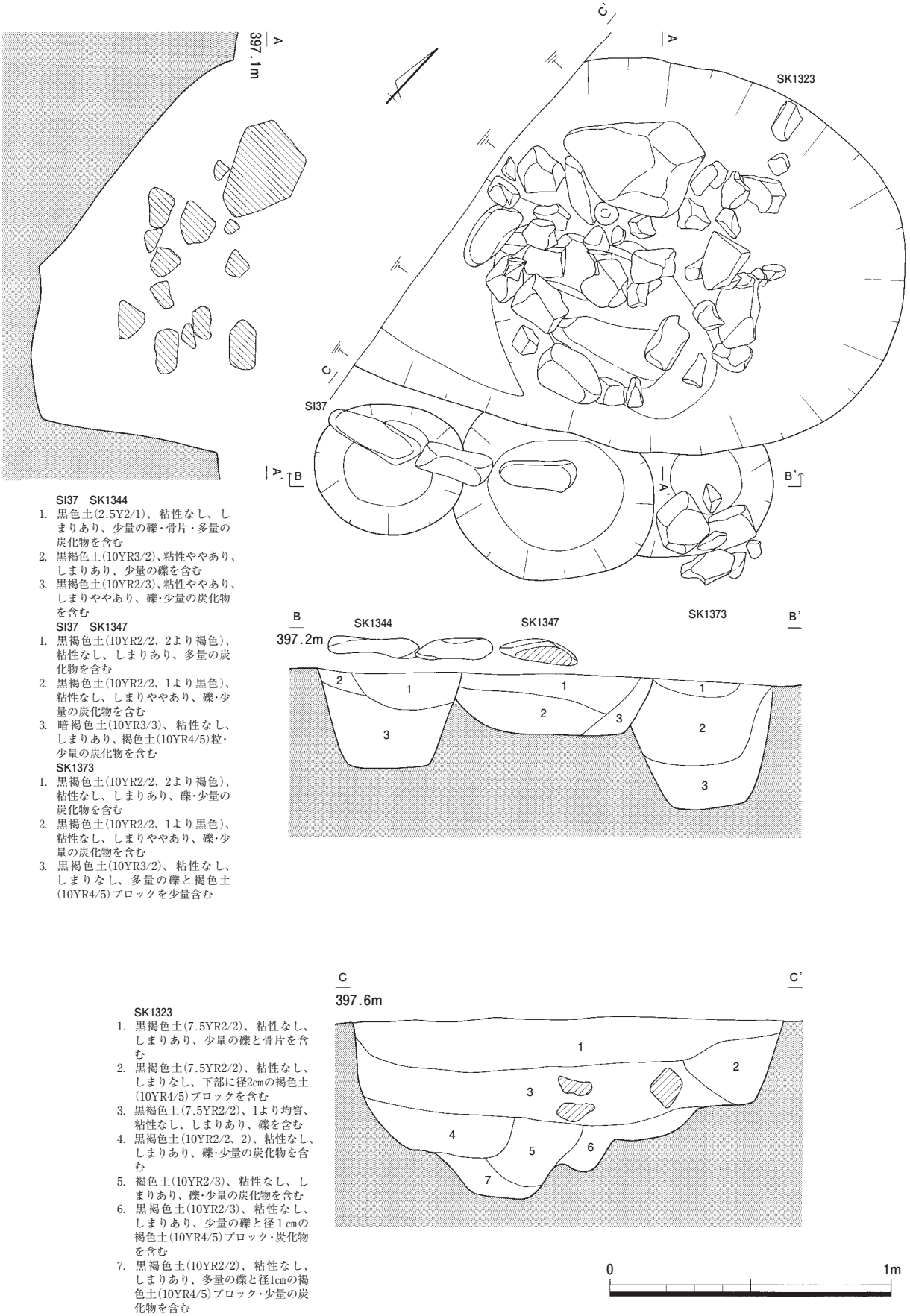


図113　第3B調査面検出遺構図（14）



SI37　SK1344
1. 黒色土(2.5Y2/1)、粘性なし、しまりあり、少量の礫・骨片・多量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性ややあり、しまりあり、少量の礫を含む
3. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む

SI37　SK1347
1. 黒褐色土(10YR2/2、2より褐色)、粘性なし、しまりあり、多量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2、1より黒色)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
3. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり、褐色土(10YR4/5)粒・少量の炭化物を含む

SK1373
1. 黒褐色土(10YR2/2、2より褐色)、粘性なし、しまりあり、礫・少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2、1より黒色)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりなし、多量の礫と褐色土(10YR4/5)ブロックを少量含む

SK1323
1. 黒褐色土(7.5YR2/2)、粘性なし、しまりあり、少量の礫と骨片を含む
2. 黒褐色土(7.5YR2/2)、粘性なし、しまりなし、下部に径2㎝の褐色土(10YR4/5)ブロックを含む
3. 黒褐色土(7.5YR2/2)、1より均質、粘性なし、しまりあり、礫を含む
4. 黒褐色土(10YR2/2、2)、粘性なし、しまりあり、礫・少量の炭化物を含む
5. 褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりあり、礫・少量の炭化物を含む
6. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりあり、少量の礫と径1㎝の褐色土(10YR4/5)ブロック・炭化物を含む
7. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりあり、多量の礫と径1㎝の褐色土(10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む

図114　第3B調査面検出遺構図（15）

ｂ類）。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器が出土した。

ＳＫ1356（図115）

位置　Ｆ15グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.95ｍ・短径0.32ｍ・深さ0.20ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑中央の埋土上部で、長径38㎝の亜角礫１個が浮上する（土坑Ｄ２ｂ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ1362（図115、図版39）

位置　Ｇ15グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は円形である。長径0.32ｍ・短径0.30ｍ・深さ0.38ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑中央やや西側の埋土上部で、長径29㎝の亜円礫１個が浮上する（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ1373（図114）

位置　Ｅ18グリッドに位置する。

形状と規模　ＳＫ1323・1347に切られるため、平面形は不明である。長径0.24ｍ・短径0.20ｍ以上・深さ0.51ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。埋土上部で、長径７～19㎝の多数の礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は亜角礫で占められ、Ⅸａ層に含まれる礫の混入の可能性もある。

出土遺物　なし。

ＳＫ1440（図115、図版39）

位置　Ｆ17グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.53ｍ・短径0.48ｍ・深さ0.35ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複関係は不明である。埋土上部で、長径17～33㎝の少量の亜円礫・亜角礫が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。

出土遺物　埋土から、後期中葉の土器（1161）が出土した。

ＳＫ1455（図116、図版39）

位置　Ｇ17・Ｈ17グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.58ｍ・短径0.36ｍ・深さ0.13ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。Ｐ94・ＳＫ1459・1460・1461を切る。埋土中で、長径14～38㎝の亜円礫３個が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ1456（図115、図版39）

位置　Ｇ18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.80ｍ・短径0.45ｍ・深さ0.35ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1467・1470を切る。埋土上部で長径10～33㎝の多量の礫が浮

上する。ただし、このうちの北端・南端の礫を立石と解釈すれば、上面配石の可能性もある。礫の円磨度は亜角礫が主体で、石皿片（南端の礫２個）を含む（土坑Ｄ１ｂ類）。

出土遺物　埋土から石皿１点・骨片が出土した。

ＳＫ1463（図116）

位置　G18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.43m・短径0.38m・深さ0.13mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ70に切られ、ＳＫ1464を切る。埋土中で、長径44cmの亜角礫１個が浮上する（土坑Ｄ２ｂ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ1471（図116、図版39）

位置　G18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.70m・短径0.55m・深さ0.80mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1470を切る。Ⅸ層中に含まれる大型の礫のために、土坑東側の上部は開くものの、壁は垂直又は一部オーバーハング気味に立ち上がる（土坑Ａ類）。断面形状から貯蔵穴の可能性が想定され、重複遺構からの遺物の混入の恐れが少ないことから、埋土のうち土層５層の土壌を採取し、その一部を水洗選別した。

出土遺物　切目石錘２点が出土し、水洗選別により多量の砕片、少量の炭化種子・炭化材を検出した（第６章第３節参照）。

ＳＫ1478（図116、図版40）

位置　H20グリッドに位置する。

形状と規模　ＳＫ1567・1570・1714を切る。平面形は楕円形を呈し、長径1.20m・短径0.90m・深さ0.28mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。埋土上部で、長径10～27cmの多数の亜円礫が浮上する。その配置は長方形を指向しているとみられ、南東辺・北西辺を欠く。また、中央北西寄りで長径49cmの扁平円礫１個が浮上し、その上面は南東に傾斜する（土坑Ｄ１ｂ類）。

出土遺物　埋土からＲＦ１点・骨片が出土した。

ＳＫ1490（図117、図版40）

位置　H17・18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.64m・短径0.60m・深さ0.46mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ172・1461を切る。埋土上部に、長径６～38cmの亜角礫が浮上し、北端よりに亜円礫（長径23cm・短径18cm・厚さ11cm）１個を長手立てとする（土坑Ｄ１ｂ類）。

出土遺物　埋土から時期不明の土器・骨片が出土した。

ＳＫ1511（図117、図版40）

位置　F19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.70m・短径0.66m・深さ0.24mを測る。重複遺構はない。

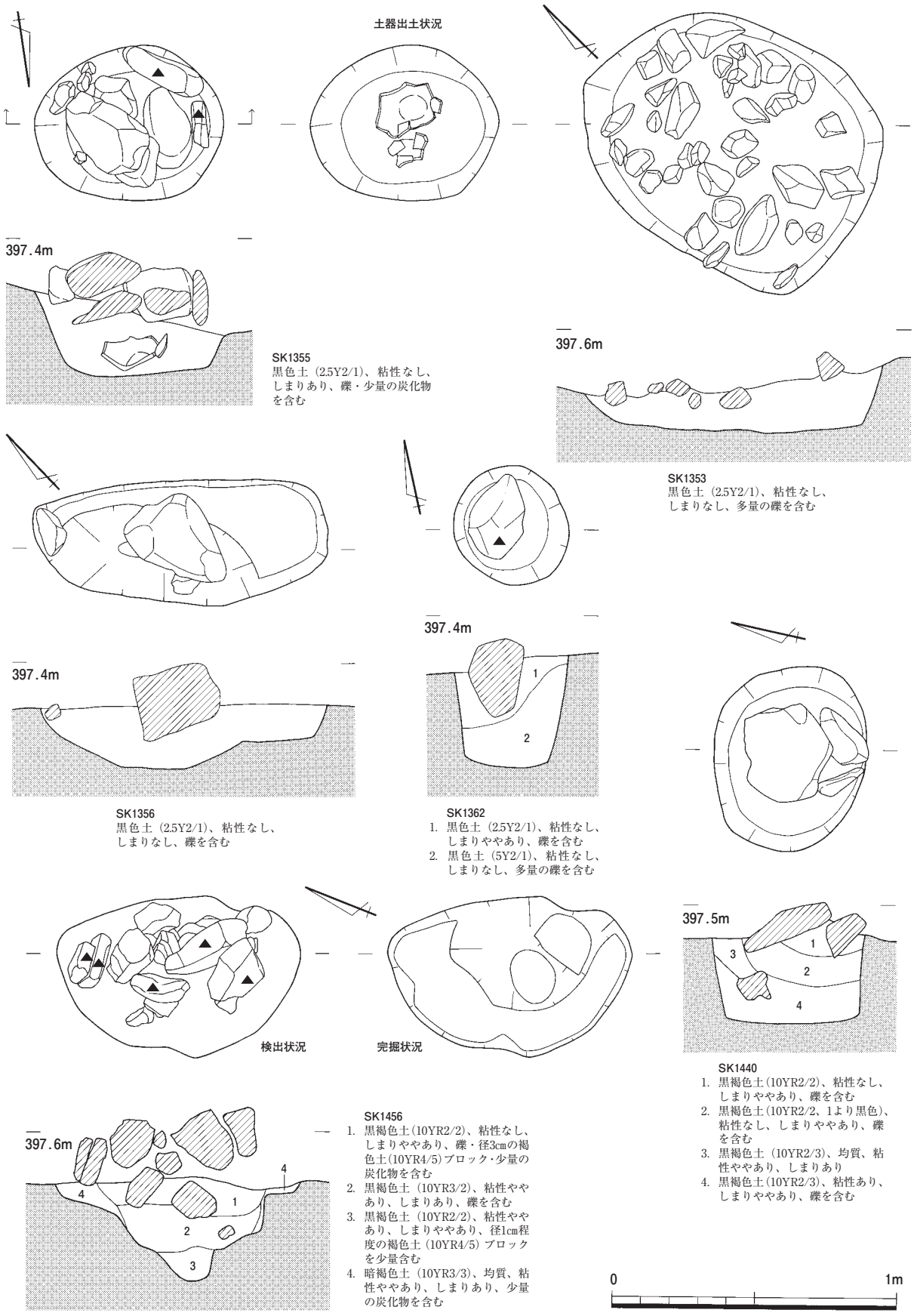
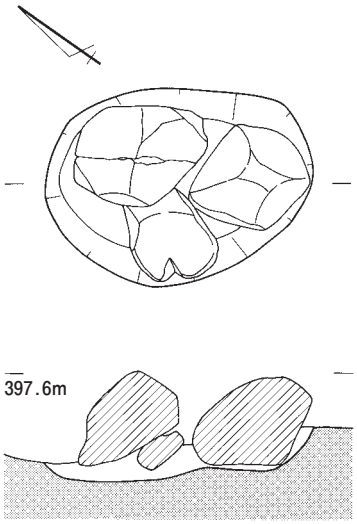
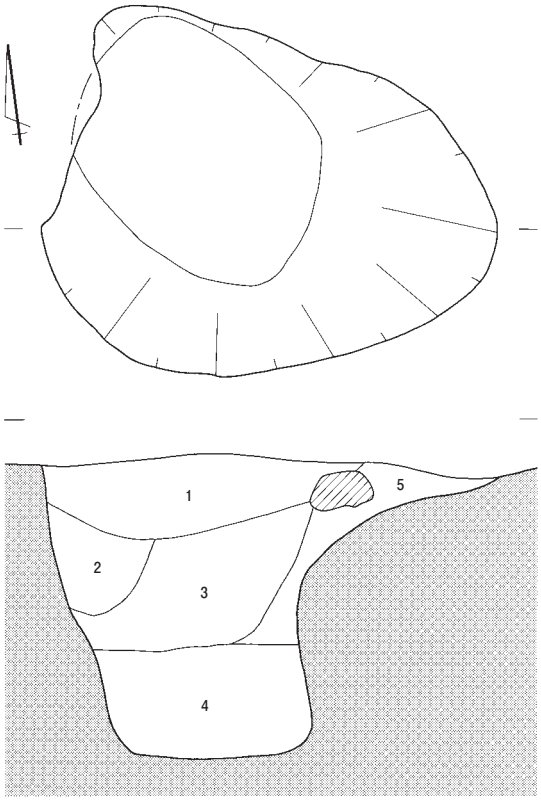


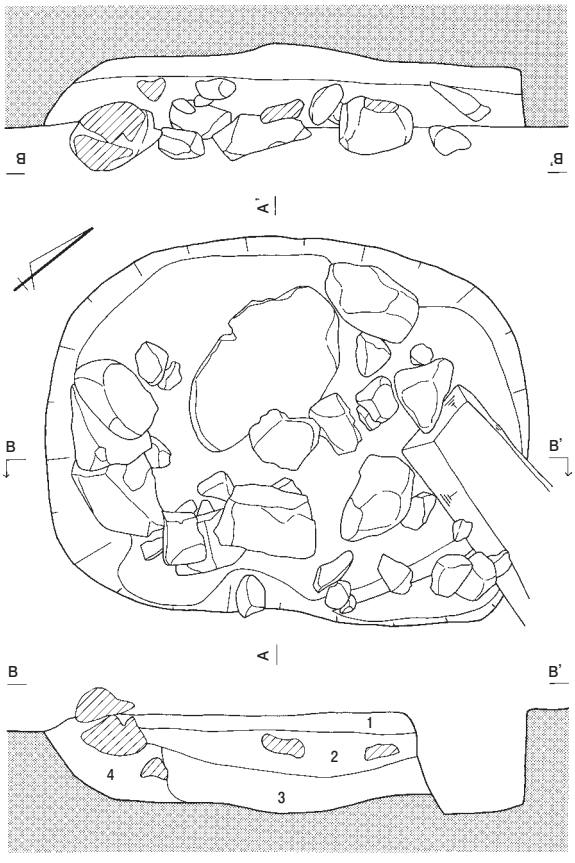
図115　第3B調査面検出遺構図（16）



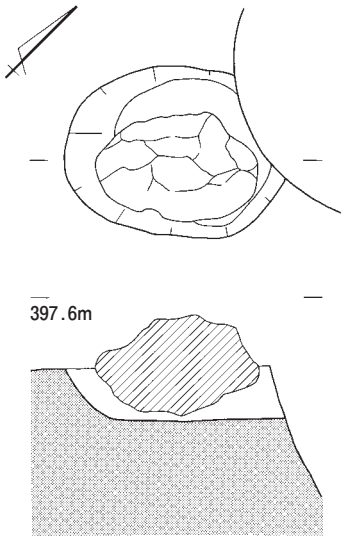
SK1455
黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、褐色土(10YR4/5)ブロックを含む



SK1471
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
2. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、径2㎝の褐色土(10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む
3. 黒褐色土（10YR2/2、1より黒色)、粘性なし、しまりなし、少量の礫を含む
4. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、多量の褐色土(10YR4/5)粒・少量の炭化物を含む
5. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫・多量の径2㎝の褐色土(10YR4/5)ブロックを含む



SK1478
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり
2. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、少量の礫と径2㎝の褐色土（10YR4/5）ブロックを含む
3. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし
4. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む



SK1463
黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりあり、礫・径1㎝の褐色土(10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む

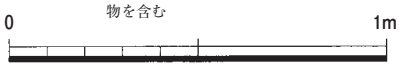


図116　第3B調査面検出遺構図（17）

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。埋土上部の壁際に、長径20～49㎝の扁平円礫を小口立てとする（土坑Ｂ２類）。その平面形は方形を指向しているとみられるが、北西辺・南西辺を欠く。土層断面の観察により、この礫を据えるための複数の掘り込みを確認することができた。

出土遺物　埋土から石鏃１点（2120）が出土した。

ＳＫ1519（図117、図版40）

位置　Ｇ19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径1.15ｍ・短径0.77ｍ・深さ0.32ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1520に切られ、ＳＫ1524を切る。底面の壁際に、東辺を除く三辺に長径８～35㎝の亜角礫を配置する（土坑Ｂ２類）。

出土遺物　埋土から後期前葉の土器（1163・1164）・石鏃１点・石錐１点・切目石錘１点が出土した。

ＳＫ1521（図118、図版40）

位置　Ｆ19・Ｇ19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整長楕円形である。長径0.98ｍ・短径0.38ｍ・深さ0.18ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1520・1527・1626に切られ、ＳＫ1347を切る。埋土上部で、長径13～33㎝の礫が浮上し、礫は北側の面を揃えて配置される（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は大半が亜円礫で、少量の亜角礫を伴う。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器（1165～1167）・切目石錘１点が出土した。

ＳＫ1527（図118、図版40）

位置　Ｇ19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径1.27ｍ・短径0.51ｍ・深さ0.30ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1529・1530・1601・1626に切られ、ＳＫ1521を切る。埋土上部に、長径10～36㎝の多数の礫が浮上する（土坑Ｄ２ｂ類）。礫の円磨度は亜円礫で占められる。土層断面を観察すると、礫の一部は埋土上面からの掘り込みに伴うことがわかる。

出土遺物　埋土から後期前葉の土器（1168）・石鏃１点・石錐２点・切目石錘１点が出土した。

ＳＫ1529（図118、図版40）

位置　Ｇ19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径0.95ｍ・短径0.80ｍ・深さ0.65ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1530・1531・1626に切られ、ＳＫ1527を切る。埋土上部に、長径11～30㎝の多数の亜円礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。

出土遺物　埋土から時期不明の土器・石核１点・石鏃２点・ＲＦ４点・切目石錘１点・骨片が出土した。

ＳＫ1533（図118、図版40）

位置　Ｇ19・Ｇ20グリッドに位置する。

形状と規模　本遺構はＳＫ1541に切られ、さらに、土層断面と底面の様子から複数の土坑の重複とみられるが、重複関係は不明である。平面形は不明である。長径1.10ｍ以上・短径1.07ｍ・深さ0.50ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。土坑西端の埋土上部に、長径16～31㎝の多数の亜円礫が浮上する

（土坑Ｄ１ｂ類）。ただし、底面で礫の集中する範囲とほぼ同じ規模の小穴を検出したことから、これら礫は小穴に伴う可能性がある。

出土遺物　埋土から石鏃１点・ＲＦ６点・切目石錘１点が出土した。

ＳＫ1541（図119、図版41）

位置　Ｇ20グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.94ｍ以上・短径0.46ｍ・深さ0.59ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1560・1564に切られ、ＳＫ1532・1533・1549を切る。土坑中央の埋土上部に、長径11～39㎝の多数の礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は多様（円礫・亜円礫・角礫）である。

出土遺物　埋土から時期不明の土器が出土した。

ＳＫ1547（図117）

位置　Ｆ19・Ｆ20グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形である。直径0.31ｍ・深さ0.66ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1552・1553を切る。埋土上部で長径21㎝と長径29㎝の亜円礫２個が重なるように並び、うち南側の礫の上面は土坑中央に向かって下がる（土坑Ｄ２ｄ類）。底面は西側が深く、埋土２層のうち目視の届かない最深部は、土層観察による分層ができなかった。

出土遺物　埋土から切目石錘１点（2280）が出土した。

ＳＫ1556（図120、図版41）

位置　Ｆ20・Ｇ20グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.34ｍ・短径0.31ｍ・深さ0.36ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1537・1538に切られ、ＳＫ1539・1540を切る。埋土上部に、長径12～24㎝の多数の亜円礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。

出土遺物　埋土から石鏃１点（2072）・磨・敲石類２点が出土した。

ＳＫ1563（図119、図版41）

位置　Ｉ20グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整長方形である。長径2.16ｍ・短径1.39ｍ以上・深さ0.19ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＺ13に切られ、SB ８を切る。土坑中央で、埋土掘削中に検出したＳＫ1625の礫の上部は本遺構の底面よりも高く、中央に位置していることから、両遺構は同一遺構の可能性もある。埋土上部に、長径18～40㎝の多数の礫が浮上（土坑Ｄ１ｂ類）し、礫の円磨度は亜円礫で占められる。

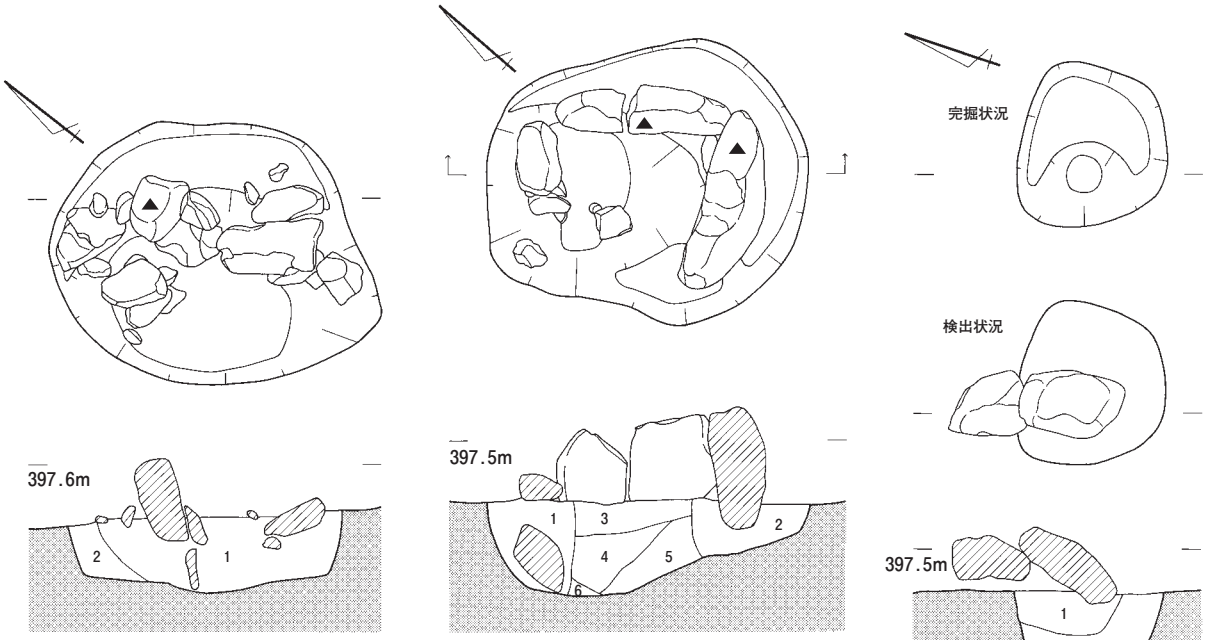
出土遺物　埋土から後期前葉の土器（1169）・石核１点（2043）・石鏃３点（2061・2088・2105）・打欠石錘１点（2258）・切目石錘２点（2275・2305）・骨片が出土した。

ＳＫ1583（図120、図版41）

位置　Ｇ18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径1.04ｍ・短径0.76ｍ・深さ0.75ｍを測る。

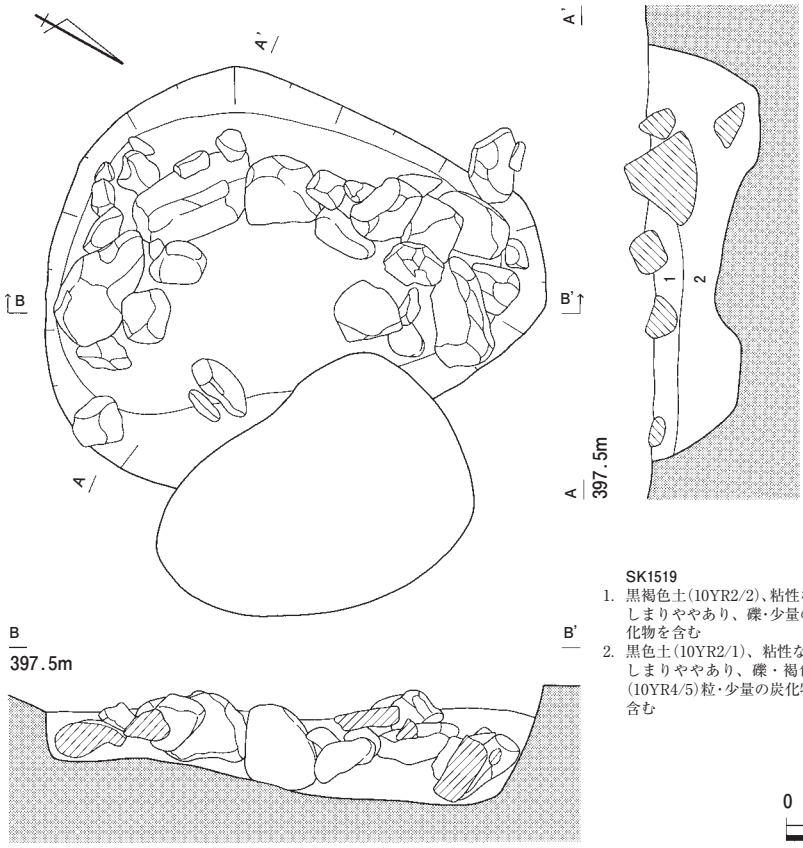
概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1582・1584を切る。壁は垂直又は一部オーバーハング気味に立ち上がる（土坑Ａ類）。断面形状から貯蔵穴の可能性が想定され、重複遺構からの遺物の混入の恐



SK1490
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫･少量の炭化物を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり

SK1511
1. 黒褐色土（10YR2/2)、均質、粘性なし、しまりややあり、礫･少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、径3㎝の褐色土(10YR4/5)ブロック･少量の炭化物を含む
4. 黒褐色土（10YR2/2、3より褐色)、粘性なし、しまりややあり
5. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、多量の褐色土(10YR4/5)ブロックを含む
6. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりあり、少量の炭化物を含む

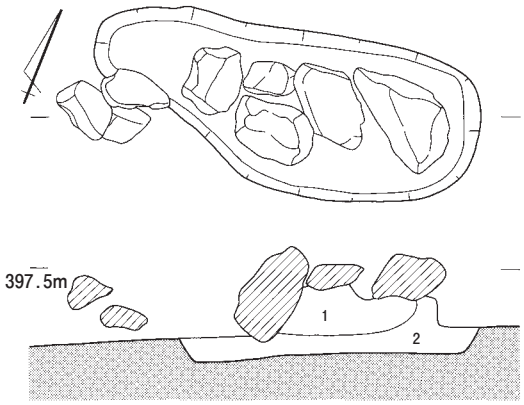
SK1547
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫・褐色土(10YR4/5)粒・焼土粒・少量の炭化物を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、多量の径1㎝の褐色土（10YR4/5）ブロックを含む



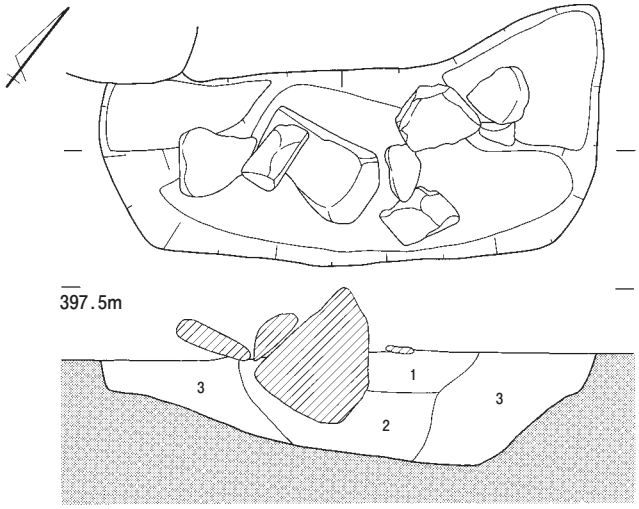
SK1519
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫･少量の炭化物を含む
2. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、礫・褐色土(10YR4/5)粒･少量の炭化物を含む

0　1m

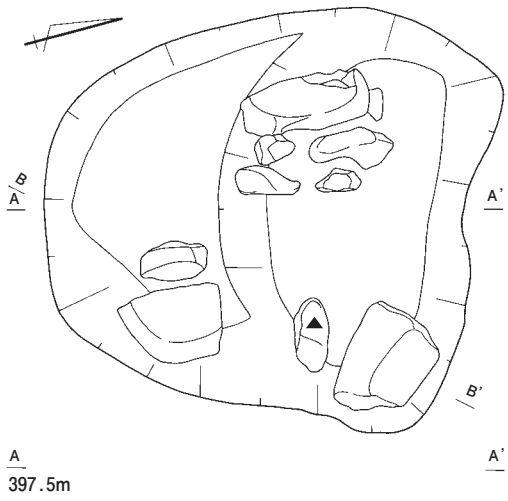
図117　第３Ｂ調査面検出遺構図（18）

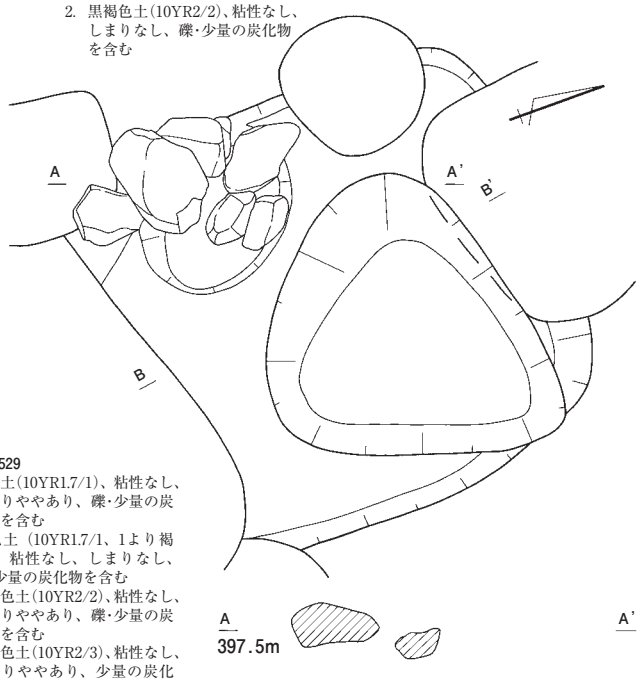


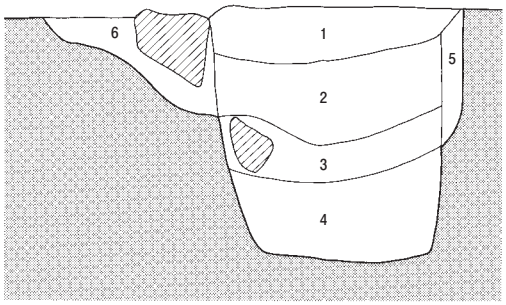
SK1521
1. 黒色土（10YR1.7/1)、粘性なし、しまりなし、礫・少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、径2㎝の褐色土(10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む



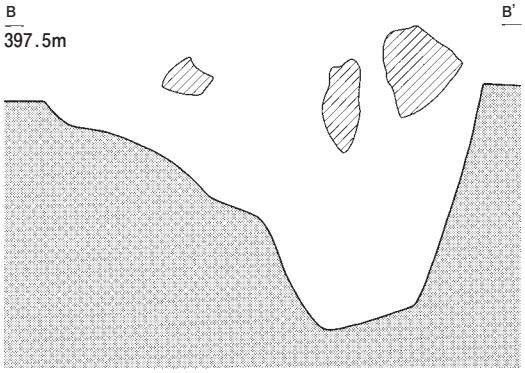
SK1527
1. 黒色土（10YR1.7/1)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫・少量の炭化物を含む
6. 黒色土（10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、径4㎝の褐色土(10YR4/5)ブロックを含む







SK1529
1. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
2. 黒色土（10YR1.7/1、1より褐色)、粘性なし、しまりなし、礫・少量の炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
4. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
5. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり
6. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む



SK1533
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、径2㎝の褐色土(10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む
4. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり、多量の径2㎝の褐色土(10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む

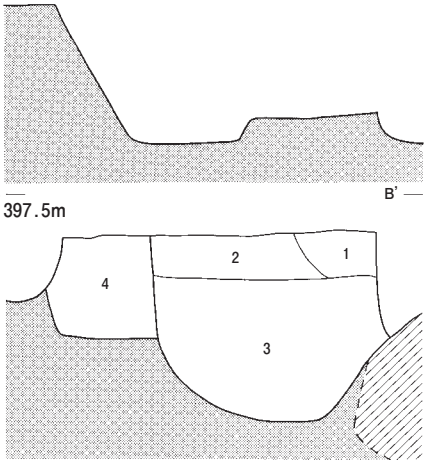


図118　第3B調査面検出遺構図（19）

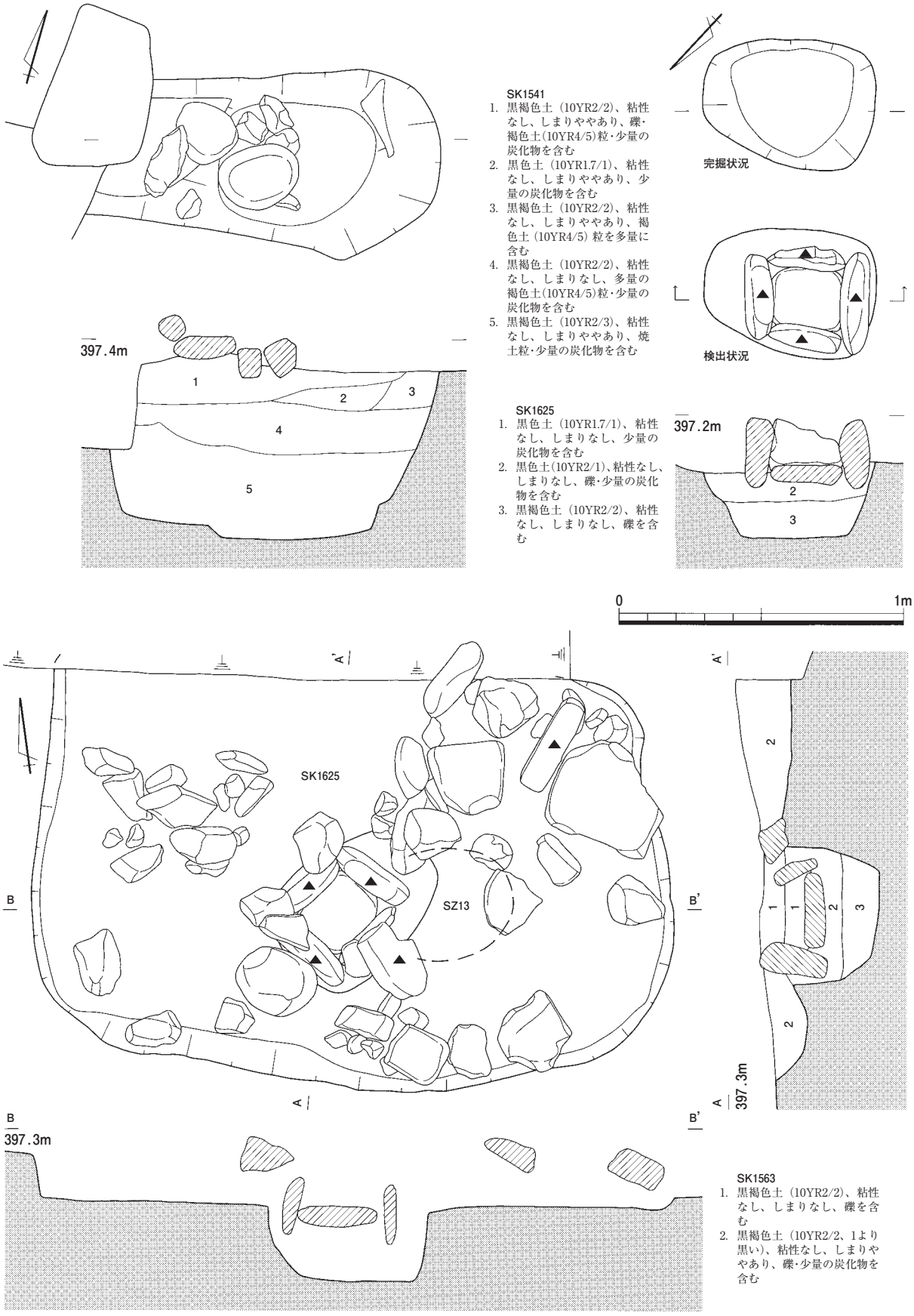


図119　第3B調査面検出遺構図（20）

れが少ないことから、埋土のうち土層３・５・６層の土壌を一括採取し、その一部を水洗選別した。

出土遺物　埋土から後期中葉の土器（1171）・石核１点・石鏃６点・ＲＦ１点・磨・敲石類２点・切目石錘２点・ヘラ形石器１点が出土し、水洗選別により少量の砕片・炭化種子・炭化材を検出した（第６章第３節参照）。

ＳＫ1589（図120、図版41）

位置　G19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.53m・短径0.48m・深さ0.25mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1533・1626を切る。土坑西端の底面で、口縁部と底部を欠損する土器（1172）が正位で出土した。土坑中央及び土器、内部の埋土上面には、長径18cmと長径21cmの亜角礫が浮上する（土坑Ｅ類）。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器（1172）が出土した。

ＳＫ1604（図121、図版42）

位置　H18・19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径1.02m・短径0.70m・深さ0.40mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1631に切られ、ＳＫ1603を切る。埋土上部に長径７～24cmの多数の亜円礫が浮上し、土坑南東端に亜円礫（長径38cm・短径20cm・厚さ12cm）を長手立てとする（土坑Ｄ１ｂ類）。

出土遺物　埋土から後期前葉の土器（1175）が出土した。

ＳＫ1619（図121）

位置　Ｉ18・Ｉ19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径1.20m以上・短径0.43m・深さ0.41mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1618・1620・1665に切られ、ＳＫ1621を切る。土坑中央の埋土上部に、長径21cmと長径26cmの亜角礫２個が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。

出土遺物　埋土から後期前葉の土器・切目石錘が１点出土した。

ＳＫ1621（図121）

位置　Ｉ19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.28m・短径0.22m・深さ0.35mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1611・1619・1620に切られる。土坑中央の埋土上部に、円礫（長径27cm・短径25cm・厚さ15cm）１個を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器が出土した。

ＳＫ1624（図121、図版42）

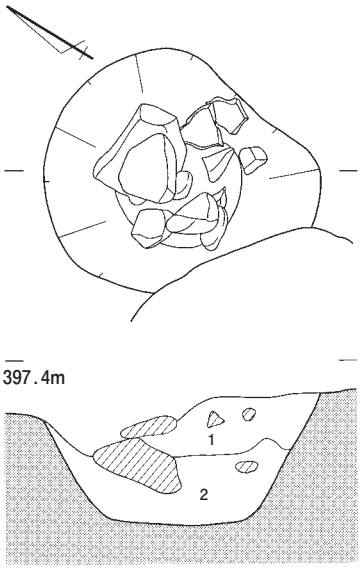
位置　Ｉ19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.43m以上・短径0.37m以上・深さ0.38mを測る。

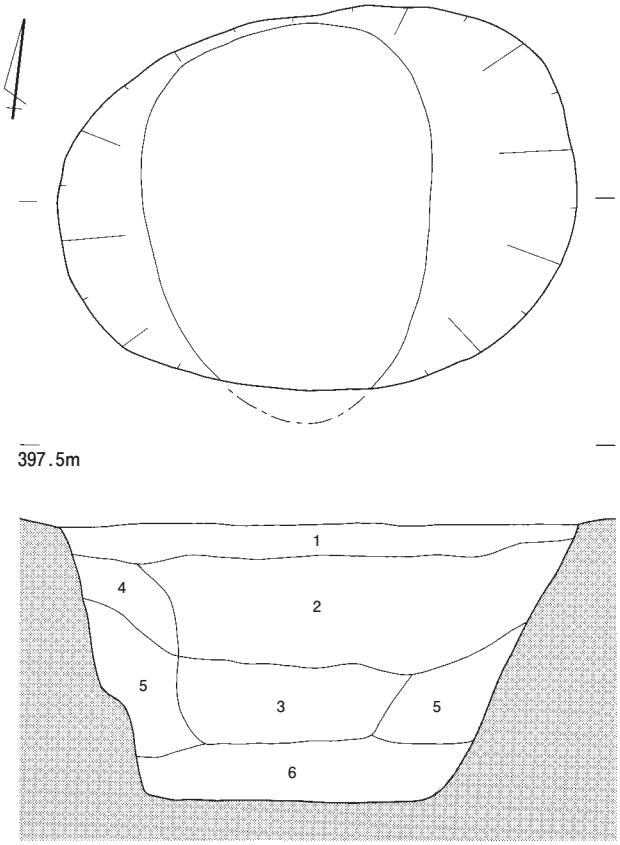
概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ180・1622に切られる。土坑中央の埋土上部に、円礫（長径33cm・短径22cm・厚さ10cm）１個を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から時期不明の土器が出土した。

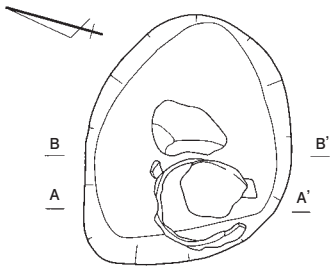
ＳＫ1625（図119、図版41）

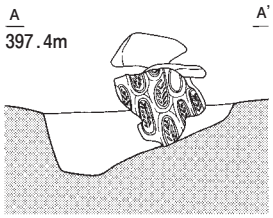


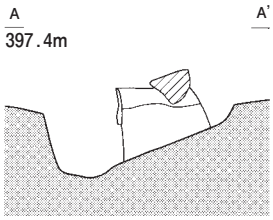
SK1556
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、径3cmの褐色土(10YR4/5)ブロックを含む
2. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、礫・褐色土(10YR4/5)粒・少量の炭化物を含む

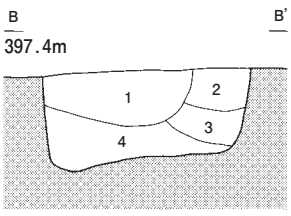


SK1583
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、多量の焼土粒と少量の炭化物を含む
2. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の焼土粒と多量の炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
4. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、径1cmの褐色土(10YR4/5)ブロック・焼土粒・少量の炭化物を含む
5. 暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、褐色土(10YR4/5)粒を少量含む
6. 暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり



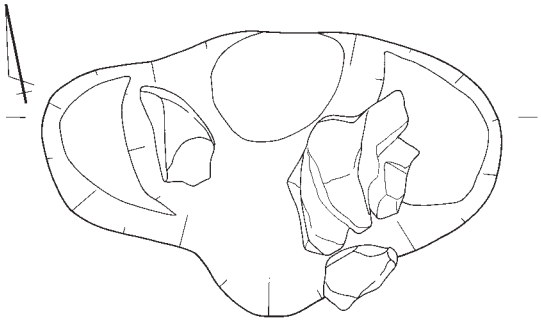


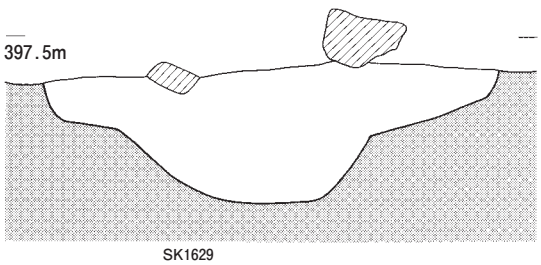




SK1589
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
4. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、多量の径2cmの褐色土（10YR4/5）ブロックを含む

土器内部
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりあり、少量の礫と炭化物を含む





SK1629
暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫・褐色土(10YR4/5)粒・少量の炭化物を含む

図120　第３Ｂ調査面検出遺構図（21）

位置　Ｉ20グリッド、ＳＫ1563の中央に位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.42m・短径0.37m・深さ0.32mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1654・Ｐ164を切る。埋土上部で長径28㎝の円礫を芯石とし、これとほぼ同じ大きさの円礫４個を用いて方形囲いとする（土坑Ｂ２類）。

出土遺物　埋土から骨片が出土した。

ＳＫ1628（図122、図版42）

位置　H18・H19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径1.40m・短径0.88m・深さ0.29mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1603に切られる。土坑中央の埋土上部に、長径13～32㎝の亜角礫５個が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。土層断面を観察すると、礫の一部は埋土上面からの掘り込みに伴うことがわかる。

出土遺物　埋土から、中期後葉の土器（1176）・ＲＦ１点・ＵＦ１点が出土した。

ＳＫ1629（図120）

位置　H18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径1.13m・短径0.42m・深さ0.34mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1815に切られる。土坑中央の埋土上部に、長径22～39㎝の亜角礫３個が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。

出土遺物　埋土から後期前葉の土器（1177）・石鏃１点が出土した。

ＳＫ1632（図122、図版42）

位置　H18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形である。長径0.61m・短径0.54m・深さ0.23mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1820・1821を切る。土坑北東端の壁際に、角礫（長径57㎝・短径18㎝・厚さ11㎝）１個を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器・ＲＦ１点が出土した。

ＳＫ1634（図123、図版42）

位置　Ｊ20・Ｊ21グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径1.52m・短径1.07m・深さ0.90mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1563に切られ、ＳＫ1564を切る。埋土上部で長径４～32㎝の多数の亜角礫が浮上し、土坑中央の埋土最上部に長径36㎝の亜角礫を置く（土坑Ｄ１ｂ類）。

出土遺物　埋土から後期中葉～後葉の土器（1178～1182）・ＵＦ２点・ＲＦ３点・切目石錘１点（2276）が出土した。

ＳＫ1655（図122、図版42）

位置　H19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は円形である。長径0.29m・短径0.25m・深さ0.30mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ178に切られる。土坑中央の埋土上部から下部にかけて、長径19～25㎝の亜円礫・亜角礫３個を上下に積む（土坑Ｄ１ａ類）。

出土遺物　なし。

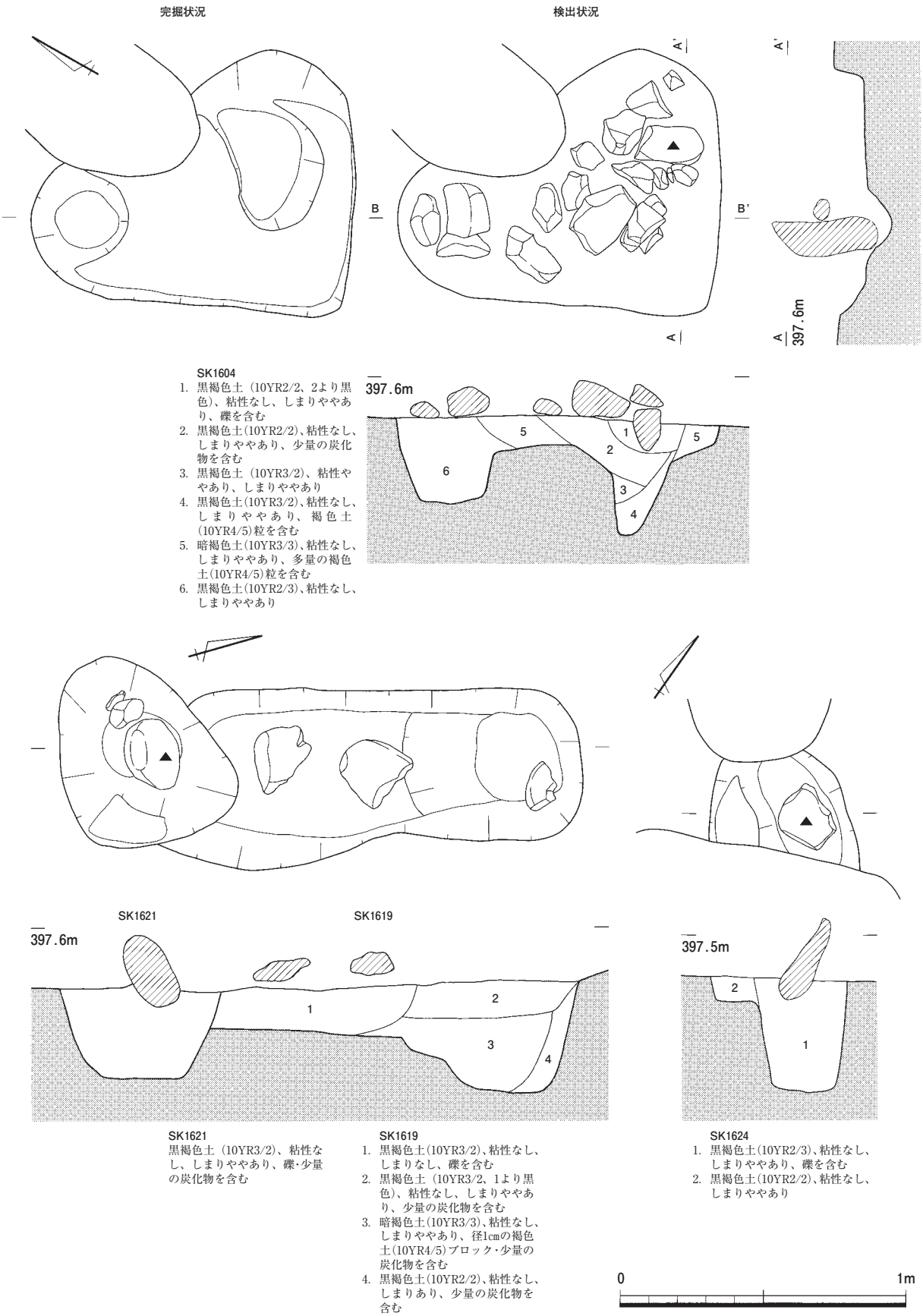


図121　第3B調査面検出遺構図（22）

ＳＫ1657（図122、図版42）

位置　Ｉ19・Ｉ20グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径1.02m・短径0.55m・深さ0.19mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1617・Ｐ157・SB ８に切られる。土坑北西端の埋土上部に長径43cmの亜円礫１個が浮上し、礫の長軸と土坑の短軸方位が一致する（土坑Ｄ２ｃ類）。なお土坑の北端では、埋土上部で亜円礫（長径28cm・短径20cm・厚さ14cm）１個を長手立てとする土坑との重複が認められるが、重複関係は不明である。

出土遺物　埋土からＵＦ１点が出土した。

ＳＫ1665（図123、図版43）

位置　Ｉ18グリッドに位置する。

形状と規模　ＳＫ1619に切られるため、平面形は不明である。長径0.18m以上・短径0.07m以上・深さ0.22mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。埋土上部に、亜角礫（長径30cm・短径22cm・厚さ７cm）１個を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ1681（図123、図版43）

位置　Ｊ19・Ｊ20グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.95m・短径0.65m以上・深さ0.17mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1698を切る。埋土上部に、長径８～35cmの多数の亜角礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。

出土遺物　埋土から後期後葉の土器（1185）・骨片が出土した。

ＳＫ1706（図124）

位置　Ｊ19グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.45m・短径0.44m・深さ0.33mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1708に切られる。埋土上部に、長径５～27cmの亜角礫３個が浮上する（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ1710（図124、図版43）

位置　Ｊ20グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.44m・短径0.18m・深さ0.27mを測る。

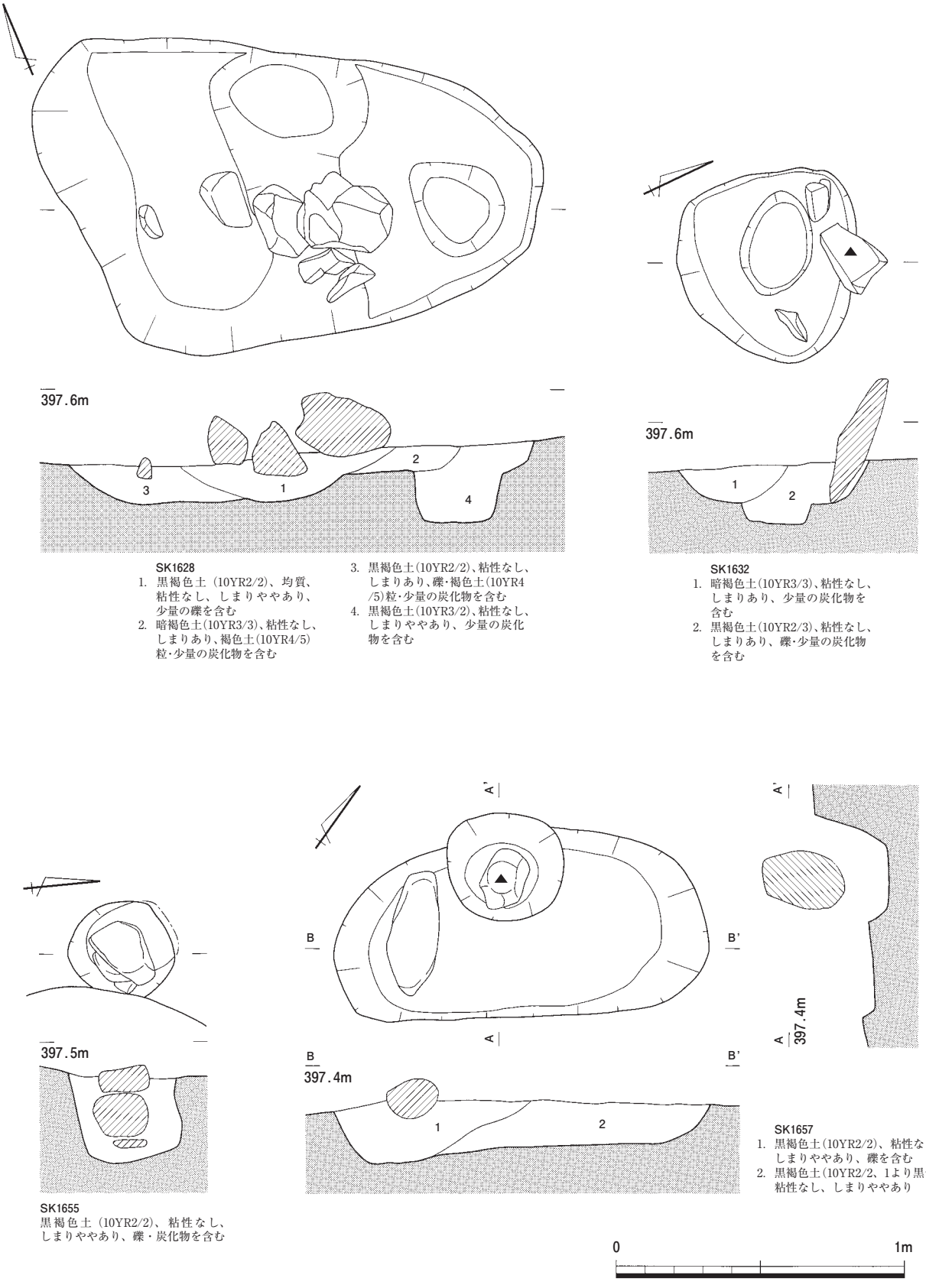
概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1680に切られ、ＳＫ1679を切る。埋土上部に、長径４～23cmの亜角礫４個が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。このうち南西端の礫は石皿片で小口立てとし、同一の向きで他の礫を配置している。

出土遺物　上記の石皿１点のみが出土した。

ＳＫ1777（図111、図版43）

位置　Ｇ11グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.95m・短径0.50m・深さ0.23mを測る。



SK1628
1. 黒褐色土（10YR2/2）、均質、粘性なし、しまりややあり、少量の礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり、褐色土(10YR4/5)粒・少量の炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりあり、礫・褐色土(10YR4/5)粒・少量の炭化物を含む
4. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む

SK1632
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりあり、礫・少量の炭化物を含む

SK1655
黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、礫・炭化物を含む

SK1657
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2、1より黒色)、粘性なし、しまりややあり

図122　第3B調査面検出遺構図（23）

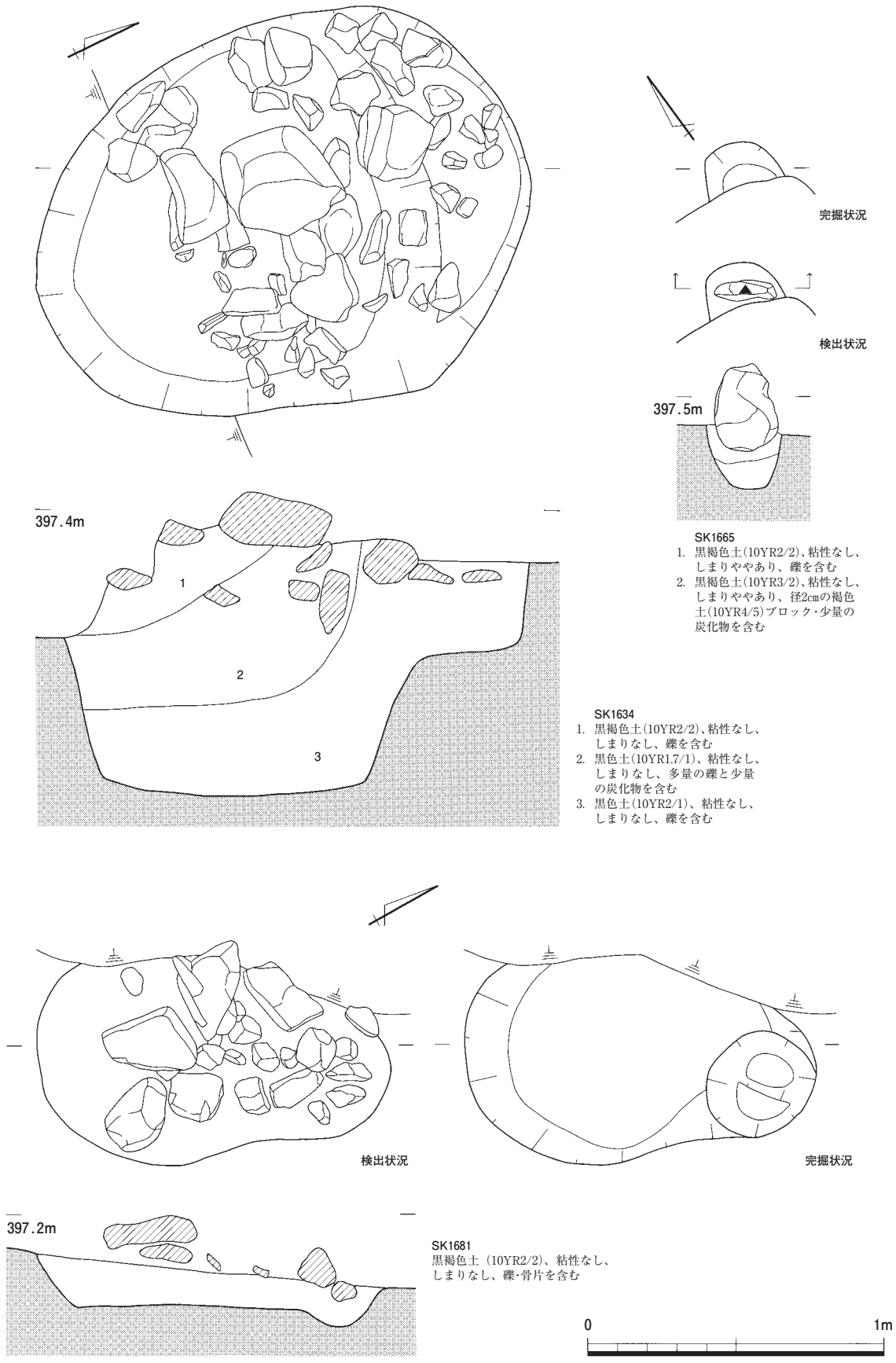
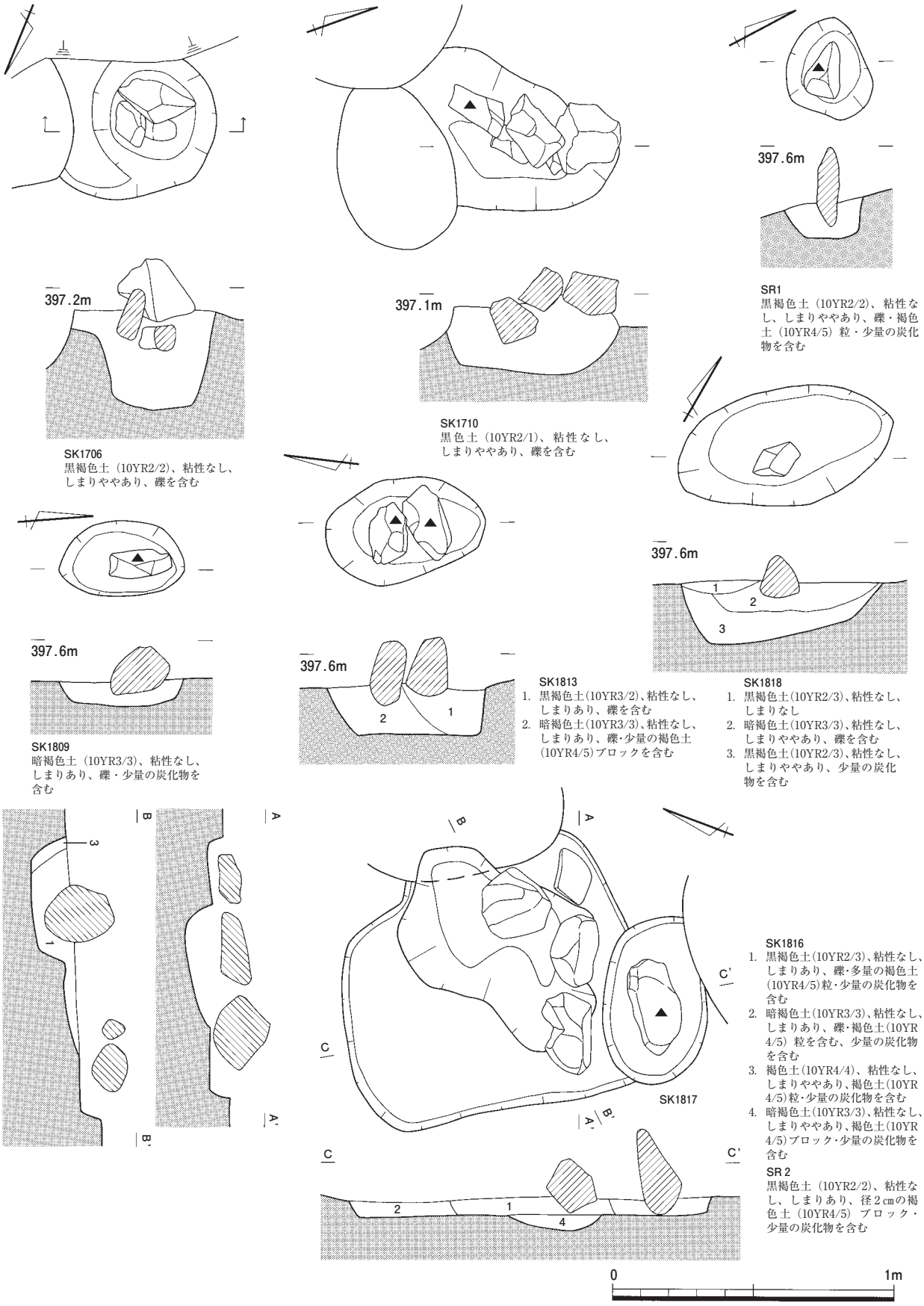


図123　第3B調査面検出遺構図 (24)



SK1706
黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む

SK1710
黒色土（10YR2/1）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む

SR1
黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、礫・褐色土（10YR4/5）粒・少量の炭化物を含む

SK1809
暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりあり、礫・少量の炭化物を含む

SK1813
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりあり、礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり、礫・少量の褐色土(10YR4/5)ブロックを含む

SK1818
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりなし
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
3. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む

SK1816
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりあり、礫・多量の褐色土(10YR4/5)粒・少量の炭化物を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり、礫・褐色土(10YR4/5) 粒を含む、少量の炭化物を含む
3. 褐色土(10YR4/4)、粘性なし、しまりややあり、褐色土(10YR4/5)粒・少量の炭化物を含む
4. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、褐色土(10YR4/5)ブロック・少量の炭化物を含む

SR 2
黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりあり、径２㎝の褐色土（10YR4/5）ブロック・少量の炭化物を含む

図124　第３Ｂ調査面検出遺構図（25）

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ2452に切られ、Ｐ313・314を切る。土坑北寄りの埋土上部で、土器片（779～781）が浮上する（土坑Ｃ２類）。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器（779～781）・ヘラ形石器１点・ＲＦ１点が出土した。

ＳＫ1809（図124、図版43）

位置　H18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.37m・短径0.21m・深さ0.09mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑北寄りの埋土上部に、角礫（長径22㎝・短径15㎝・厚さ10㎝）１個を小口立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ1813（図124）

位置　H18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.44m・短径0.24m・深さ0.21mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1812に切られる。土坑中央の埋土上部に、亜円礫（長径27㎝・短径21㎝・厚さ14㎝、長径23㎝・短径22㎝・厚さ11㎝）２個を小口立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ1816（図124、図版43）

位置　H18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径1.23m・短径0.97m以上・深さ0.25mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1817・1822に切られ、ＳＫ1811を切る。土坑底面の南東壁寄りに、長径21～30㎝の礫３個を土坑の短軸方向にほぼ平行して配置する（土坑Ｂ２類）。これとは別に、底面で検出した小穴内に長径25㎝の亜角礫が浮上する。

出土遺物　埋土から掻器１点が出土した。

ＳＫ1818（図124）

位置　H18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.62m・短径0.28m・深さ0.26mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1817・1819を切る。土坑中央の埋土上部に、長径18㎝の亜角礫１個が浮上する（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から晩期前葉の土器（1186）・骨片が出土した。

ＳＫ1822（図125、図版43）

位置　H18グリッドに位置する。

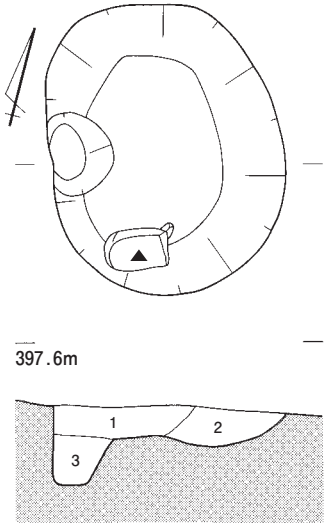
形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.50m・短径0.38m・深さ0.20mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1823に切られ、ＳＫ1816を切る。土坑南端の壁際に、亜円礫（長径16㎝・短径計測不能・厚さ11㎝）１個を小口立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

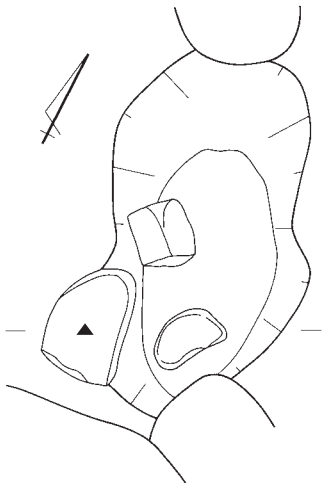
出土遺物　埋土から時期不明の土器・切目石錘１点が出土した。

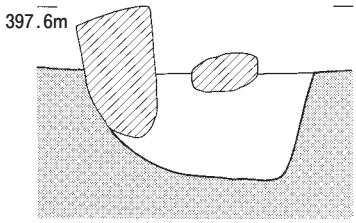
ＳＫ1825（図125、図版43）

位置　H18グリッドに位置する。

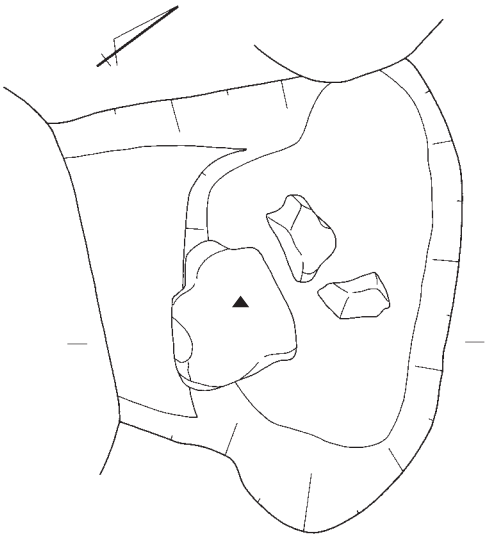


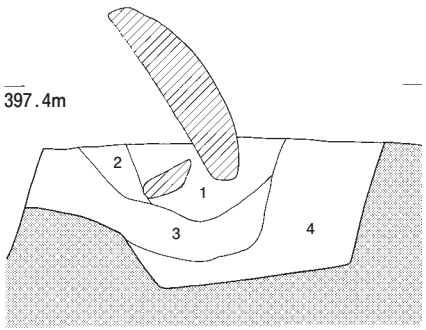
SK1822
1. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりややあり、褐色土(10YR4/5)粒･少量の炭化物を含む
2. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりややあり、多量の径1㎝の褐色土(10YR4/5)ブロックを含む
3. 暗褐色土（10YR3/3）、均質、粘性なし、しまりややあり



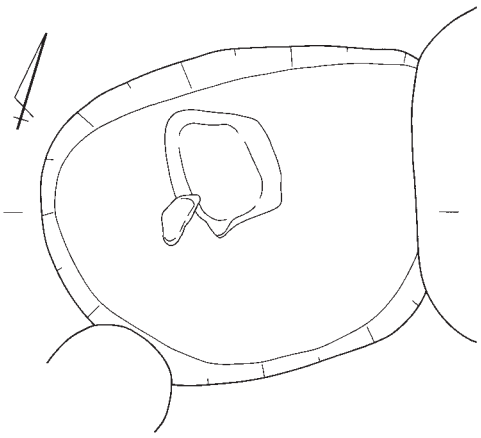


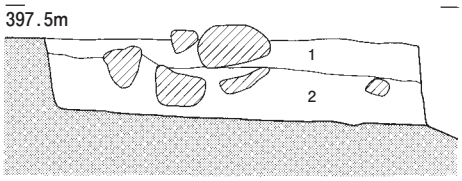
SK1825
黒褐色土（10YR2/3）、粘性なし、しまりややあり､礫･褐色土（10YR4/5）粒・少量の炭化物を含む





SK1853
1. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)､粘性なし、しまりあり、多量の褐色土(10YR4/5)粒を含む
3. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む
4. 黒褐色土(10YR2/2)､粘性なし、しまりなし、少量の礫を含む





SK1831
1. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、礫･少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)､粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む

図125　第3B調査面検出遺構図（26）

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.64m以上・短径0.36m・深さ0.31mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ 1824･1826 に切られ、ＳＫ 1827 を切る。土坑南西端の壁際に、亜円礫（長径 35 ㎝・短径 30 ㎝・厚さ 20 ㎝）１個を小口立てとする（土坑Ｂ２類）。

出土遺物　埋土から時期不明の土器が出土した。

ＳＫ 1831（図 125）

位置　Ｈ 18・Ｉ 18 グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径 0.95 m以上・短径 0.74 m・深さ 0.23 mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ 169・1795・1832 に切られ、ＳＫ 1833 を切る。土坑中央北寄りの埋土上部に、長径 34 ㎝の亜円礫１個が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。

出土遺物　埋土から後期前葉の土器（1187）・切目石錘１点・骨片が出土した。

ＳＫ 1853（図 125、図版 44）

位置　Ｉ 18・Ｊ 18 グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径 0.98 m以上・短径 0.95 m以上・深さ 0.40 mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ 167･168 に切られ、ＳＫ 1844 を切る。土坑中央の埋土上部に、完形の石皿（2327）１点を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から石皿１点が出土した。

ＳＫ 1866（図 126、図版 44）

位置　Ｎ 22・Ｎ 23 グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径 1.35 m・短径 0.57 m・深さ 0.27 mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑中央及び北西端の埋土上部に、長径 44 ～ 45 ㎝の亜円礫２個が浮上する（土坑Ｄ２ｂ類）。また、土坑の長軸に沿って埋土上部で、長径８～ 28 ㎝の多数の礫が並ぶ。

出土遺物　なし。

ＳＫ 1871（図 126）

位置　Ｏ 22 グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径 0.75 m・短径 0.60 m・深さ 0.45 mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑中央及び南端の埋土上部に、長径 23 ㎝と長径 24 ㎝の円礫２個が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。

出土遺物　埋土から後期後葉の土器・石鏃未製品１点・切目石錘１点が出土した。

ＳＫ 1884（図 126、図版 44）

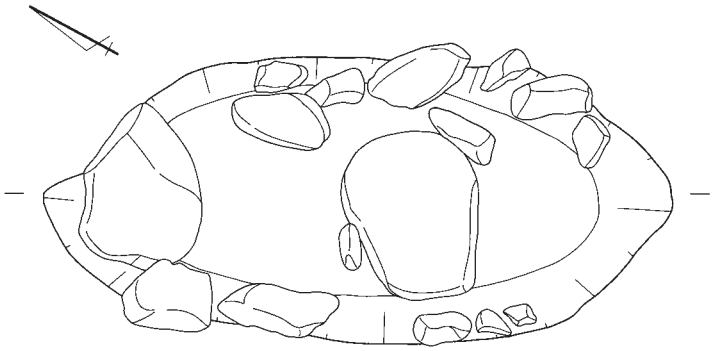
位置　Ｐ 23 グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径 0.37 m・短径 0.33 m・深さ 0.37 mを測る。

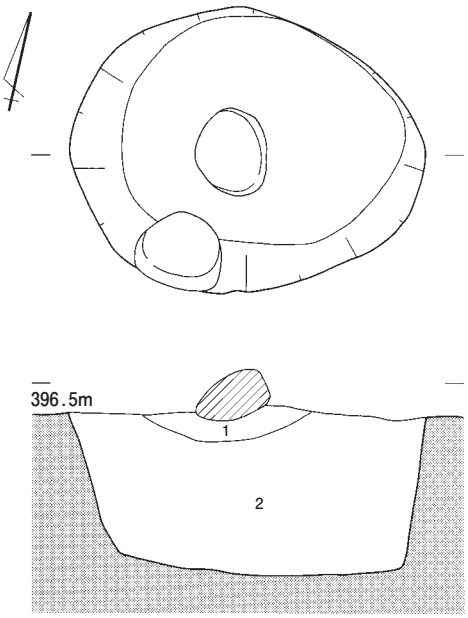
概要　Ｖｂ層基底面で検出した。埋土上部で長径 11 ～ 26 ㎝の角礫を用い、北東端のみ小口立てとし他は平置きとする。平面形は方形を指向しているとみられるが、北・西辺を欠く。埋土下部に、長径 15 ㎝程度の少量の礫が浮上する（土坑Ｂ２類）。

出土遺物　埋土から後期中葉の土器が出土した。

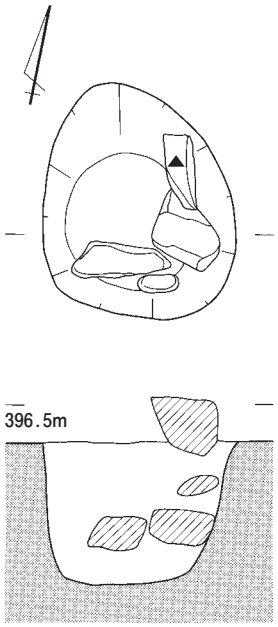
ＳＫ 1893（図 126、図版 44）



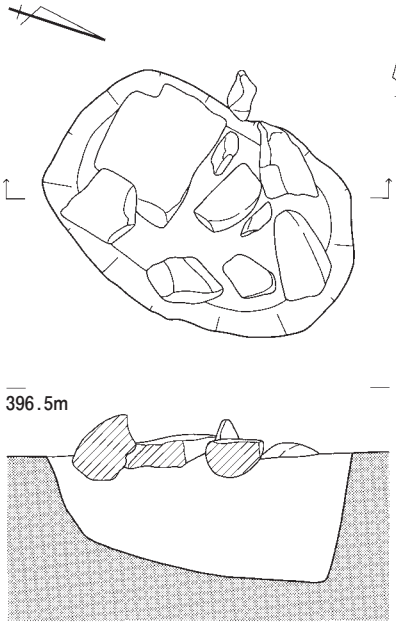
SK1866
黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、
しまりあり、多量の礫を含む



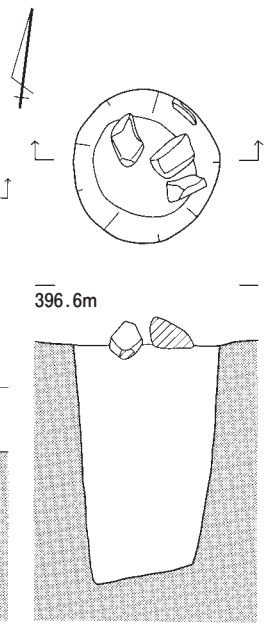
SK1871
1. 極暗褐色土（7.5YR2/3）、粘性なし、しまりあり、礫･少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（7.5YR2/2）、粘性なし、しまりあり、礫を含む



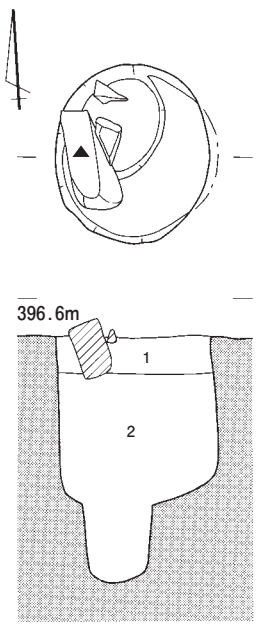
SK1884
黒褐色土(10YR2/2)､粘性ややあり、
しまりあり、礫を含む



SK1893
黒褐色土(10YR2/2)､粘性ややあり、
しまりあり、礫・骨片を含む



SK1897
黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、
しまりなし、多量の礫と少量の炭化物を含む



SK1904
1. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性ややあり、しまりややあり、礫･炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性ややあり、しまりあり、骨片を含む

図126　第3B調査面検出遺構図（27）

位置　O 23・P 23・P 24グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.65m・短径0.44m・深さ0.35mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。埋土上部に、長径12～34㎝の多量の礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は角礫・亜角礫である。

出土遺物　埋土から骨片が出土した。

ＳＫ1897（図126）

位置　Q24グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は円形である。長径0.28m・短径0.24m・深さ0.63mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。埋土上部に、長径８～14㎝の少量の亜角礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。

出土遺物　埋土から時期不明の土器が出土した。

ＳＫ1904（図126）

位置　R24グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。直径0.42m・深さ0.64mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑埋土上部の西壁際に、石皿片（長径29㎝・短径26㎝・厚さ９㎝）１点を小口立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。なお、土坑の底面で小穴（長径0.25m・短径0.21m・深さ0.20m）を検出した。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器（1190）・分割礫１点・打欠石錘１点（2225）・石皿１点、２層から骨片が出土した。

ＳＫ1906（図127、図版44）

位置　R24グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.97m・短径0.48m・深さ0.46mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑北東端の埋土上部に、亜円礫（長径計測不能・短径30㎝・厚さ９㎝）１個を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から磨・敲石類１点（2200）・石皿片２点が出土した。

ＳＫ1921（図127）

位置　R25グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.51m・短径0.33m・深さ0.38mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1922に切られ、ＳＫ1924を切る。土坑中央の埋土上部に、長径33㎝の亜円礫１個が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。

出土遺物　埋土から中期中葉の土器（982）及び後期中葉の土器が出土した。

ＳＫ1933（図127、図版44）

位置　S23・S24グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径1.72m・短径0.49m・深さ0.29mを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1934を切る。土坑西壁に沿って埋土上面で、長径20～25㎝の亜角礫が浮上する（土坑Ｂ２類）。

出土遺物　埋土から分割礫１点・石核１点・石鏃１点・ＵＦ１点・打欠石錘１点が出土した。

ＳＫ1938（図版44）

位置　Ｓ24グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径1.44ｍ・短径0.60ｍ・深さ0.34ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑の南西壁に接するように、扁平亜円礫（長さ44㎝・幅35㎝・厚さ10㎝）１個が斜位で立って出土した（土坑Ｂ２類）。

出土遺物　埋土から後期前葉の土器・磨・敲石類１点（2199）が出土した。

ＳＫ1939（図127、図版44）

位置　Ｒ25・Ｓ25グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.80ｍ・短径0.48ｍ・深さ0.25ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑東寄りの埋土下部に、完形の石皿１点が浮上する（土坑Ｄ２ｂ類）。

出土遺物　埋土から石皿１点・骨片が出土した。

ＳＫ1946（図128、図版45）

位置　Ｒ24グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径1.30ｍ以上・短径0.50ｍ・深さ0.51ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1945・1947に切られる。土坑北寄りの埋土上面で、亜円礫（長径46㎝・短径16㎝・厚さ13㎝）１個を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土からＲＦ１点・打欠石錘２点が出土した。

ＳＫ1948（図128、図版45）

位置　Ｒ25グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.70ｍ・短径0.48ｍ・深さ0.42ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1947・1949を切る。土坑南端の埋土上部で、扁平円礫（長径47㎝・短径41㎝・厚さ14㎝）１個を小口立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から時期不明の土器が出土した。

ＳＫ1950（図127）

位置　Ｒ25・Ｓ25グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.23ｍ・短径0.14ｍ・深さ0.25ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑中央の埋土上部で、長径15㎝の亜円礫１個が浮上する（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から時期不明の土器・削器１点が出土した。

ＳＫ1952（図127、図版45）

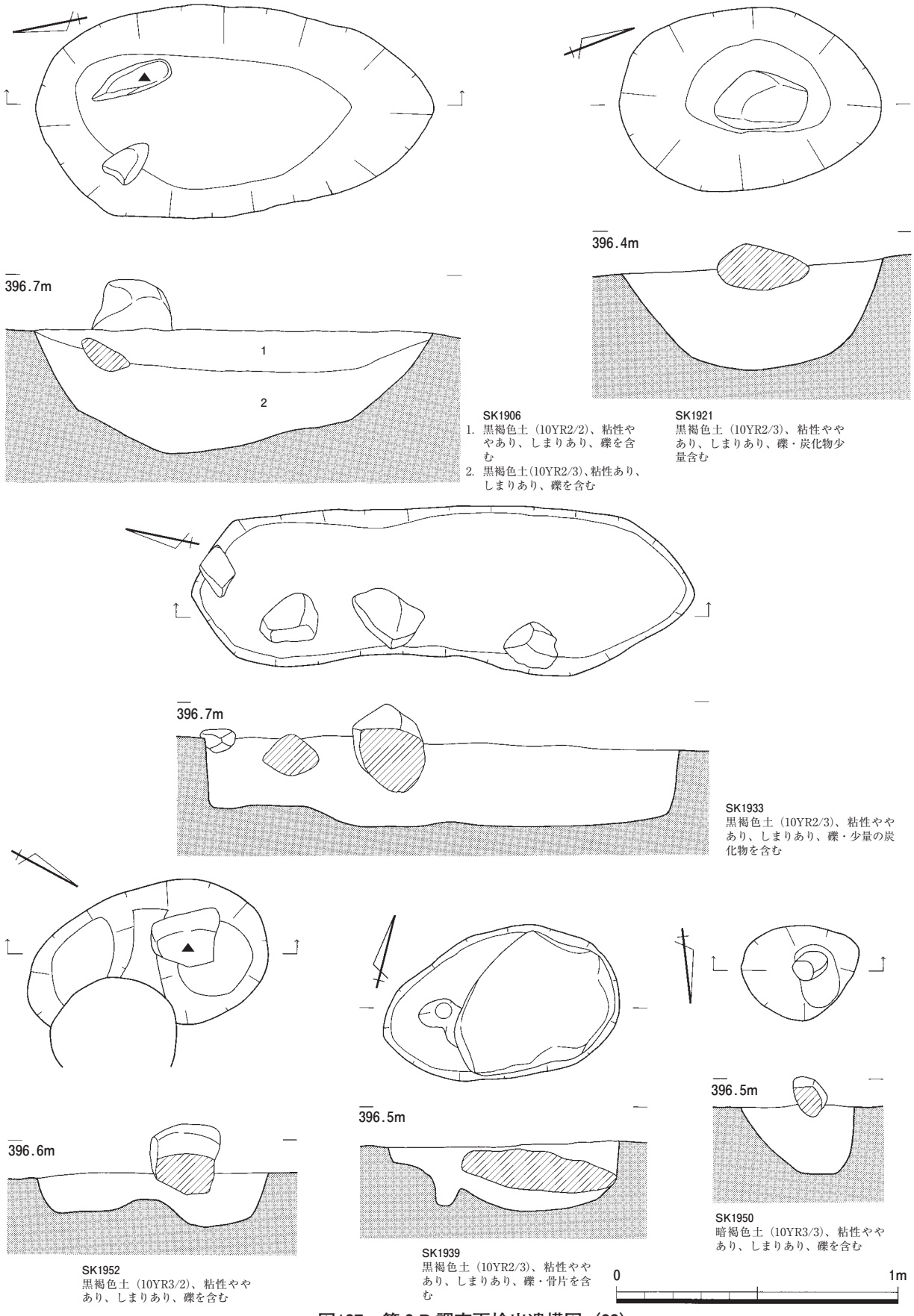
位置　Ｓ24グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.72ｍ・短径0.30ｍ以上・深さ0.26ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ1937に切られる。土坑中央北西寄りの埋土上部で、亜円礫１個（長径26㎝・短径25㎝・厚さ計測不能）を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から時期不明の土器が出土した。

ＳＫ2153（図128、図版45）



SK1906
1. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性ややあり、しまりあり、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性あり、しまりあり、礫を含む

SK1921
黒褐色土（10YR2/3）、粘性ややあり、しまりあり、礫・炭化物少量含む

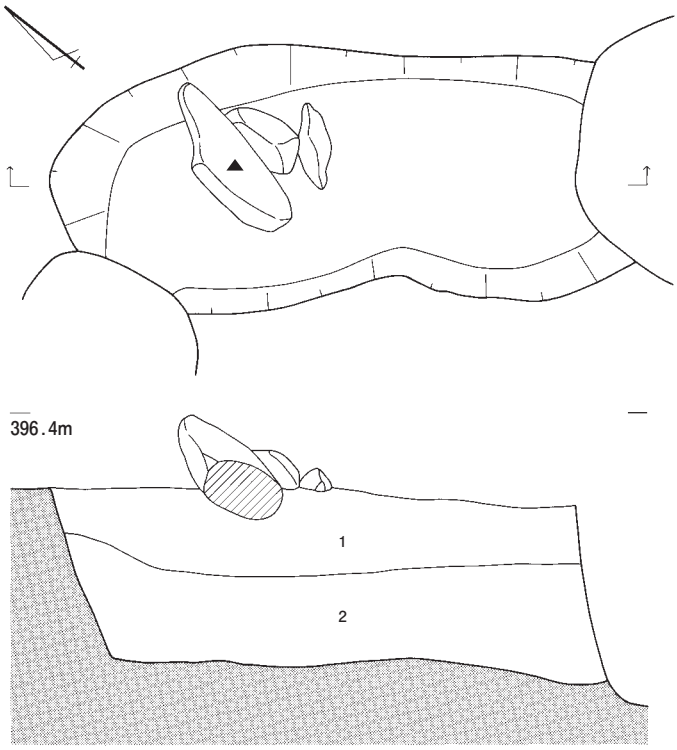
SK1933
黒褐色土（10YR2/3）、粘性ややあり、しまりあり、礫・少量の炭化物を含む

SK1950
暗褐色土（10YR3/3）、粘性ややあり、しまりあり、礫を含む

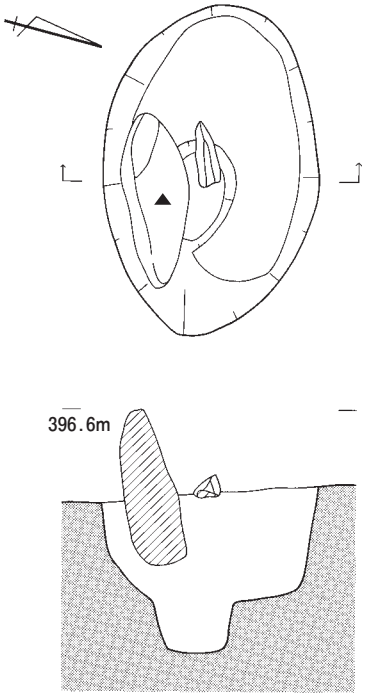
SK1939
黒褐色土（10YR2/3）、粘性ややあり、しまりあり、礫・骨片を含む

SK1952
黒褐色土（10YR3/2）、粘性ややあり、しまりあり、礫を含む

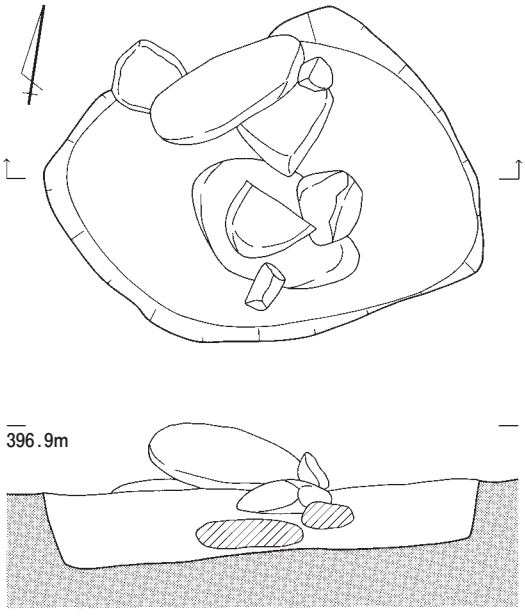
図127　第3B調査面検出遺構図（28）



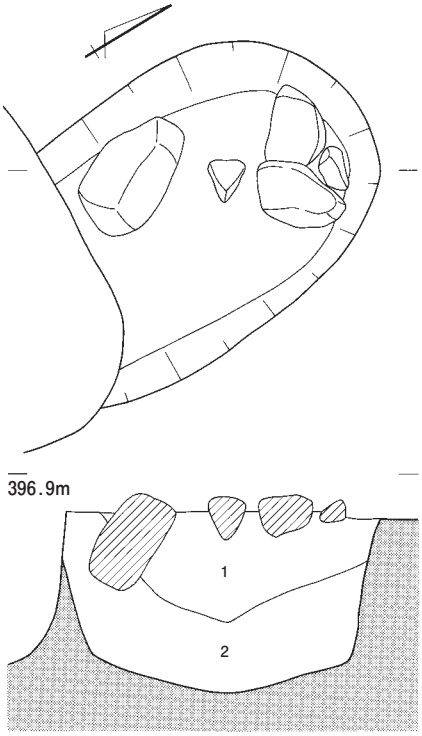
SK1946
1. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性ややあり、しまりあり、礫を含む
2. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性ややあり、しまりあり、多量の径3㎝の褐色土（10YR4/6）、ブロックを含む



SK1948
黒褐色土（10YR2/2）、粘性ややあり、しまりあり、多量の暗褐色土（10YR3/3）、ブロック・礫を含む



SK2153
暗褐色土（10YR3/3）、粘性ややあり、しまりあり、礫・少量の炭化物を含む



SK2322
1. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
2. 暗褐色土（10YR3/3）、褐色砂礫を含む、粘性ややあり、しまりややあり

図128　第3B調査面検出遺構図（29）

位置　Y23・Z23グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径1.06ｍ・短径0.77ｍ・深さ0.20ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑中央の埋土上部から下部にかけて、長径12～49㎝の多量の礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は亜円礫で占められる。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器（1194）・打欠石錘1点が出土した。

ＳＫ2322（図128）

位置　Ｊ21グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.73ｍ以上・短径0.56ｍ・深さ0.48ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ2323に切られる。埋土上部で、長径12～34㎝の少量の亜円礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ2324（図129、図版45）

位置　Ｋ21グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.35ｍ・短径0.28ｍ・深さ0.30ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑中央の埋土上部で、亜円礫1個（長径34㎝・短径33㎝・厚さ15㎝）を小口立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から時期不明の土器が出土した。

ＳＫ2351（図129、図版45）

位置　Ｌ16グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.44ｍ・短径0.34ｍ・深さ0.26ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑中央東寄りの埋土上部で、角礫1個（長径計測不能・短径16㎝・厚さ12㎝）を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　埋土から時期不明の土器が出土した。

ＳＫ2394（図129、図版45）

位置　Ｍ18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形である。長径0.60ｍ・短径0.53ｍ・深さ0.24ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑西側の埋土上部で、長径23～30㎝の少量の亜角礫が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。

出土遺物　埋土から時期不明の土器が出土した。

ＳＫ2462（図129、図版45）

位置　Ｍ14・Ｍ15グリッドに位置する。

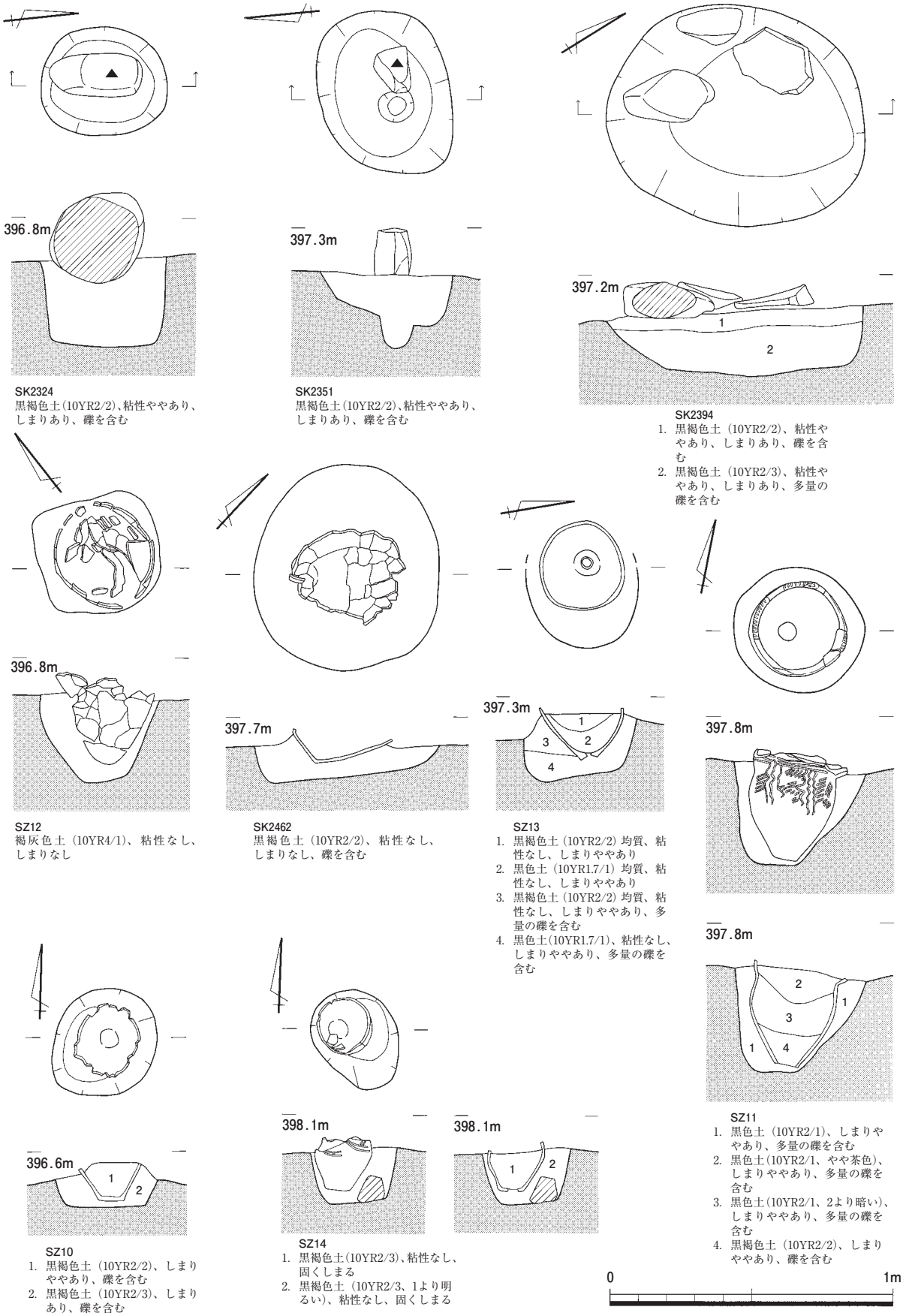
形状と規模　平面形は不整円形である。上端長径0.73ｍ・上端短径0.65ｍ・深さ0.15ｍを測る。

概要　Ｖｂ層基底面で検出した。ＳＫ620・624・642を切る。土坑中央の埋土上部で、胴部上半を欠損する後期前葉の土器（1214）が浮上する（Ｃ２類）。

出土遺物　土器（1214）と、その下部から骨片が出土した。

7　埋設土器

ＳＺ12（図129、図版46）



SK2324
黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりあり、礫を含む

SK2351
黒褐色土(10YR2/2)、粘性ややあり、しまりあり、礫を含む

SK2394
1. 黒褐色土（10YR2/2)、粘性ややあり、しまりあり、礫を含む
2. 黒褐色土（10YR2/3)、粘性ややあり、しまりあり、多量の礫を含む

SZ12
褐灰色土（10YR4/1)、粘性なし、しまりなし

SK2462
黒褐色土（10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

SZ13
1. 黒褐色土(10YR2/2) 均質、粘性なし、しまりややあり
2. 黒色土（10YR1.7/1) 均質、粘性なし、しまりややあり
3. 黒褐色土(10YR2/2) 均質、粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む
4. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む

SZ11
1. 黒色土（10YR2/1)、しまりややあり、多量の礫を含む
2. 黒色土(10YR2/1、やや茶色)、しまりややあり、多量の礫を含む
3. 黒色土(10YR2/1、2より暗い)、しまりややあり、多量の礫を含む
4. 黒褐色土（10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む

SZ10
1. 黒褐色土（10YR2/2)、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土（10YR2/3)、しまりあり、礫を含む

SZ14
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、固くしまる
2. 黒褐色土（10YR2/3、1より明るい)、粘性なし、固くしまる

図129　第3B調査面検出遺構（30）

位置　Ⅴ23グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。上端長径0.44m・上端短径0.42m・深さ0.30mを測る。

概要　Ⅴb層基底面で検出した。重複遺構はない。胴部上半を欠損する後期後葉から晩期初頭にかけての土器（1218）が正位に置かれ、土器の内部から同一個体を含む胴部片（1216・1217）が重なるように出土した。

出土遺物　土器（1216）～（1218）が出土した。

ＳＺ13（図129、図版46）

位置　Ⅰ20グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径計測不能・短径0.38m・深さ0.22mを測る。

概要　Ⅴb層基底面で検出した。ＳＫ1563を切る。胴部上半を欠損し底部を穿孔する、後期後葉の土器（1215）が正位で出土した。

出土遺物　土器（1215）のみが出土した。

ＳＺ10（図129、図版46）

位置　H11グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.25m・短径0.23m・深さ0.15mを測る。

概要　Ⅴb層基底面で検出した。ＳＫ797を切る。胴部上半を欠損し底部を穿孔する、後期前葉の土器（1222）が正位で出土した。

出土遺物　土器（1222）のみが出土した。

ＳＺ11（図129、図版46）

位置　G12グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は円形である。長径0.14m・短径0.10m・深さ0.36mを測る。

概要　Ⅴb層基底面で検出した。SB18・19・ＳＫ899を切る。底部を欠損する後期前葉の土器（1221）が正位で出土した。

出土遺物　土器（1221）と、検出及び埋土の半割中に石鏃１点（2075）・ＲＦ１点、土器内部の土層から削器１点（2155）・ＲＦ１点・骨片が出土した。

ＳＺ14（図129、図版46）

位置　M20グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形である。直径0.20m・深さ0.19mを測る。

概要　Ⅴb層基底面で検出した。重複遺構はない。胴部上半を欠損する土器（1220）が正位で出土した。

出土遺物　土器（1219）・（1220）と土器内部の埋土から骨片が出土した。

8　段丘斜面（図130、図版46）

調査区の西端（D15・E15～19・Ｆ８～19グリッド）と南西端（G20・G21・H20・H21・Ⅰ21グリッド）で段丘の斜面を検出した。以下、西端を「西斜面」、南西端を「南斜面」と呼称し、西斜面のうち15列以北を「西斜面１」、16～19列を「西斜面２」と細分する。

西斜面１は急傾斜（約34度）であり、下端の標高は約395.9mを測る。遺構は検出されなかったが出土遺物数が多く、遺存状況も良い。出土遺物には土器・石器がある。土器は、中期中葉から後期

中葉までの時期幅がある。石器は、石核７点・石鏃11点・石鏃未製品１点・石錐５点・掻器３点・ノッチドスクレイパー１点・ヘラ形石器１点・楔形石器６点・ＲＦ９点・ＵＦ６点・打製石斧５点・磨・敲石類20点・切目石錘６点・石棒１点が出土した。

西斜面２は、第３Ｂ調査面（標高約397.3m）から約0.2m下がってほぼ平坦面となる。埋土を除去し、Ⅸｂ層上面で炉跡１基・土坑28基を検出した。壁面の観察結果では、埋土上面から掘削される土坑が多数認められることから、この地区は土坑が著しく重複した様相を呈している可能性がある。出土遺物には、土器・石器・骨片・炭化物がある。土器は、中期後葉から後期中葉までの時期幅がある。石器は、石核３点・石鏃６点・楔形石器１点・掻器２点・削器２点・ＲＦ18点・ＵＦ３点・打製石斧１点・磨・敲石類３点・打欠石錘４点・切目石錘15点・磨製石斧１点・石皿１点が出土した。

一方、南斜面は北斜面よりも緩やか（約10度）で、最南端では第３Ｂ調査面から約0.9m下がってほぼ平坦面となり、揖斐川に向かって急に落ち込む。埋土を除去し、Ⅸｂ層上面で炉跡２基・土坑23基（うち１基は上面配石を伴う）・溝１条を検出した。斜面上部の溝ＳＤ１は、急斜面上に位置する炉跡ＳＦ68・69等を保護するための排水施設と考えられ、土地利用のあり方を考える上で興味深い。出土遺物は、土器・石器・骨片・炭化物がある。土器は、中期中葉から後期後葉までの時期幅がある。石器は、石鏃12点・石錐１点・ヘラ形石器１点・打欠石錘１点・磨製石斧５点・石棒２点が出土した。

各斜面における出土土器の傾向としては、上限の時期は西斜面１と南斜面では中期前葉に遡るが、西斜面２では中期後葉で、やや遅れる。下限の時期は西斜面１・２が後期中葉であるのに対し、南斜面は後期後葉でやや遅れる。この間、いずれの地点でも中期後葉の土器が多いが、南斜面では後期初頭～後期中葉の土器がほとんど出土していない。

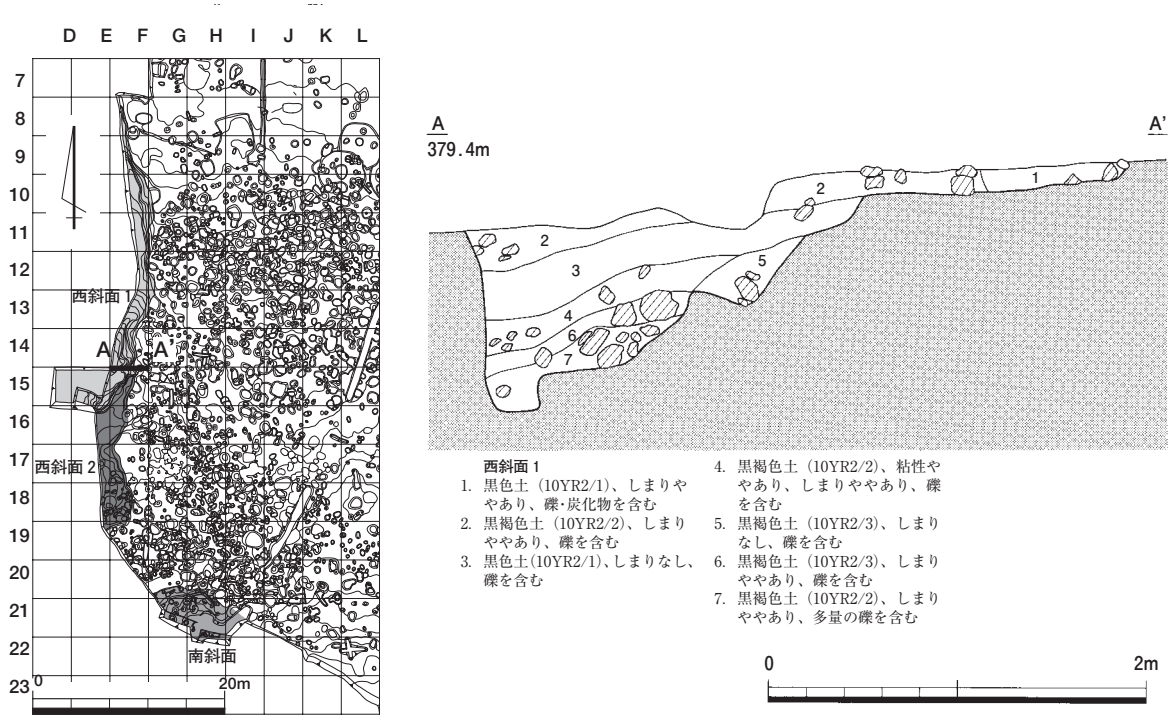


図130　段丘斜面位置・断面図

第6節　第4調査面

第4調査面1区では、概ねⅥb層基底面で遺構を検出した。土層はO10グリッドとS20グリッドを結ぶラインから東側にはⅥc層、西側にはⅦa層→Ⅷb層の順に堆積しており、特に後者の上面において遺構の検出は困難であった。標高ではM6グリッドが最も高く（約398.4m）、R20グリッドが最も低い（約396.8m）。調査区全体としては、南に向かって緩やかに傾斜する。

一方第4調査面2区では、Ⅵc層が全面に広がる。標高ではh32グリッドが最も高く（約394.8m）、e34グリッドが最も低い（約394.1m）。北東隅から南西隅に向かって傾斜する。

1　竪穴住居跡

ＳＢ27（現場名SBE 2、図132、図版48）

位置　N11・N12・O11・O12グリッドに位置する。

検出状況　Ⅵb層基底面で検出した。竪穴の北端をSB35・ＳＫ2494南半分を調査溝（Aトレンチ）に切られるが、南端はわずかに遺存する。埋土は2層に分けられた。

形状と規模　平面形は楕円形と考えられる。長径5.52m・短径2.57m以上・床面積は計測不能である。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは北東部で約0.14mを測り、壁は垂直に近く立ち上がる。明確な貼床や硬化面は認められず、Ⅶa層上面に達して遺構を検出した。床面はほぼ水平である。

施設　床面で8基の遺構を検出した。このうちＰ363は断面の形状と規模から柱穴の可能性があり、1基又は2基で構成される柱配置が想定できる。なお、炉跡は検出されなかった。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物が散在的に出土した。土器は中期後葉で占められる。石器は、打欠石錘1点・切目石錘4点が出土した。

所属時期　竪穴出土土器の主体から中期後葉（第1段階）と判断する。

ＳＢ28（図133・134、図版49）

位置　N10・N11・O10・O11グリッドに位置する。

検出状況　Ⅵb層基底面で検出した。ＳＢ24に切られ、ＳＢ29・ＳＫ2508・2552・2862・Ｐ382を切る。埋土は第3Ｂ調査面検出の竪穴住居跡の埋土と類似し、北側の土層観察用ベルトでは6層、東側では3層に分けられた。

形状と規模　平面形は隅丸方形と考えられる。長径4.08m・短径3.89m・床面積4.74㎡以上を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.46mを測り、壁は垂直に近く立ち上がる。明確な貼床や硬化面は認められずⅧb層又はⅨa層上面に達したため、検出面は凹凸が著しく竪穴の掘形に達している可能性がある。なお、ＳＢ24床下の遺構検出も行った。

施設　竪穴内部で14基の遺構を検出した。柱穴は4基（Ｐ374・376・378・379）が想定できる。Ｐ374・379の中点とＰ376・378の中点を結ぶ線を軸にして、Ｐ378・379とＰ374・376は左右対称に位置する。この軸線上にはＳＢ24の調査で検出したＳＦ53（図92左下）も位置することから、本遺構に伴うと考えられる。埋甕SZ15（図134右下）も同じ軸線上にあり、底部を欠損した深鉢が逆位で出土した。土器内部からは、石鏃未製品1点（2096）が出土している。

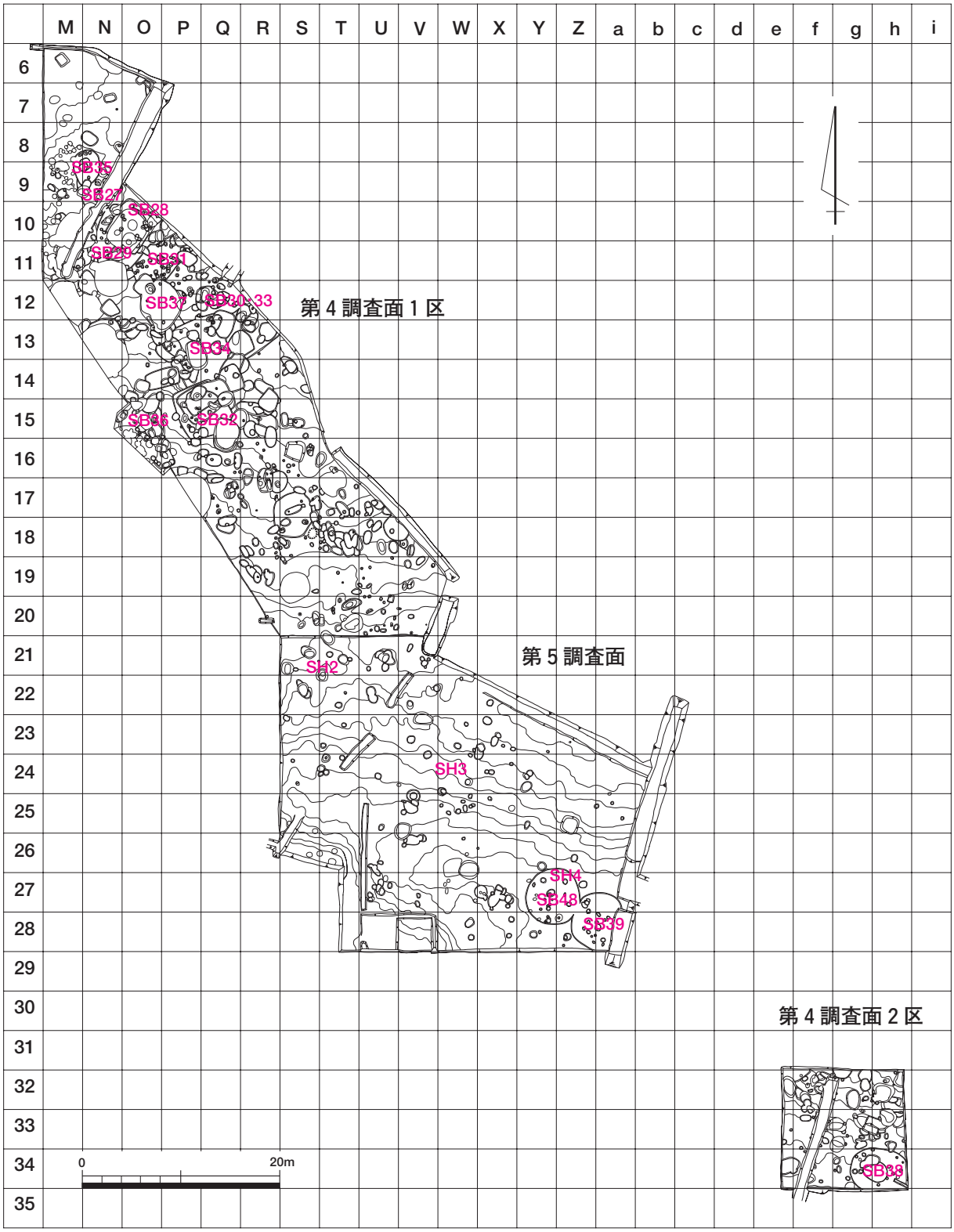
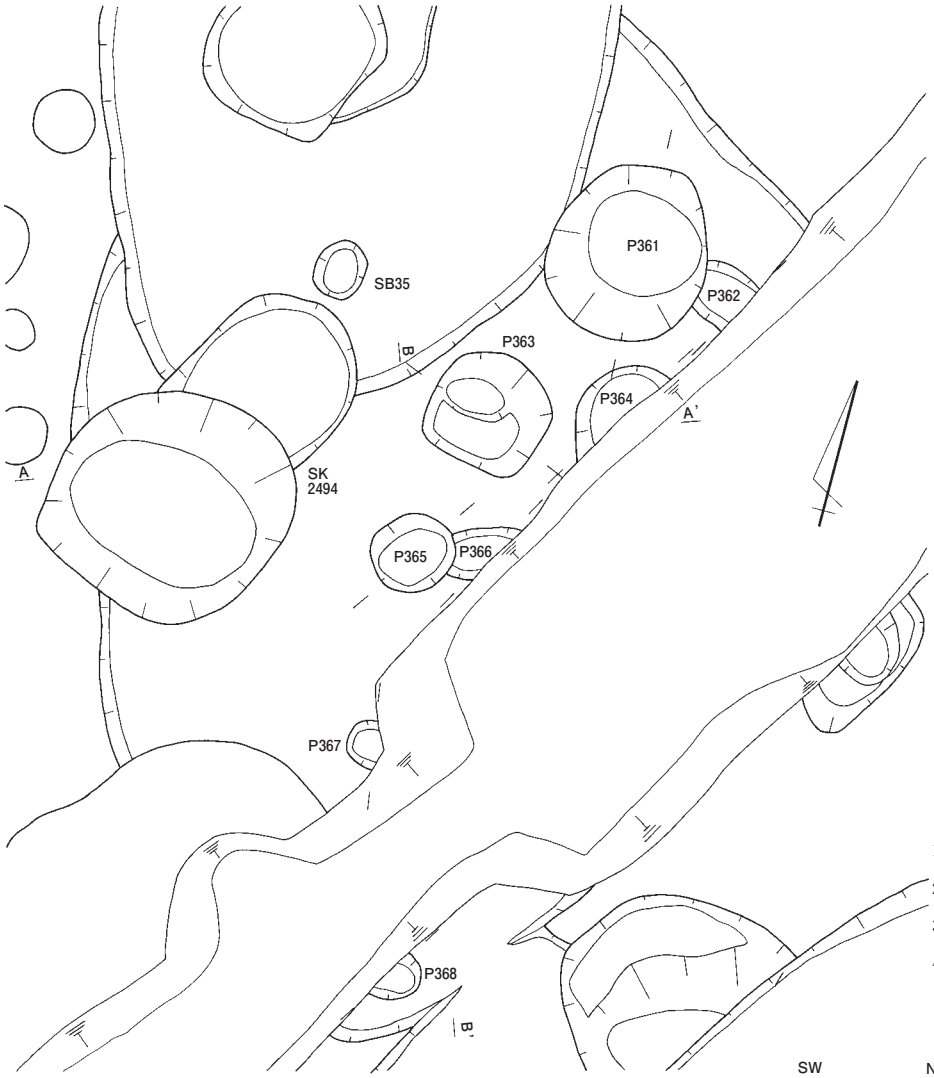
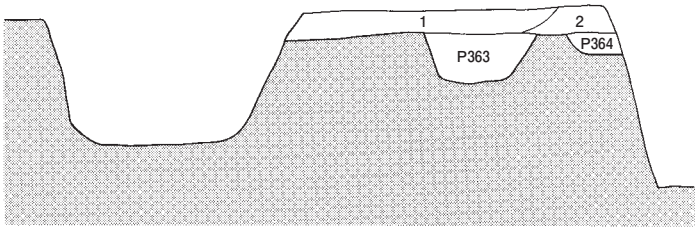
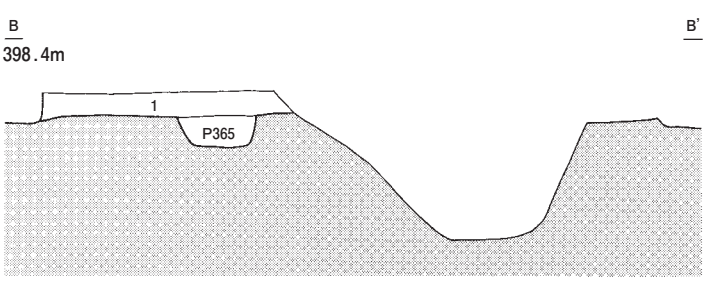


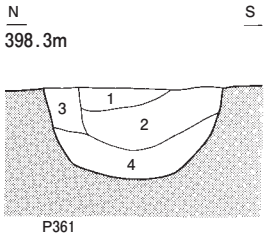
図131　第 4 ・第 5 調査面全体図



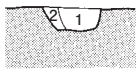




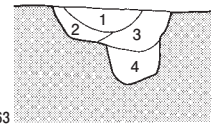
1. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりあり、多量の礫を含む　2. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性なし、しまりあり、礫を含む



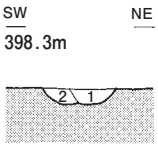
P361
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
4. 黒褐色土（10YR2/2、3よりやや黒色）、粘性なし、しまりややあり



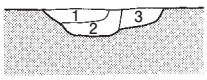
P362
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり



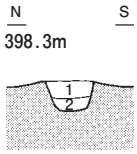
P363
1. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりなし
2. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりなし
3. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
4. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり



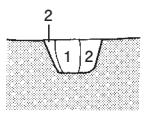
P366
1. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりややあり
2. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり

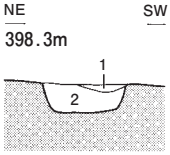


P364
1. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりあり、多量の炭化物を含む
2. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりあり、少量の炭化物を含む
3. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性なし、しまりなし、少量の炭化物を含む



P367
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり





P365
1. 暗褐色土(10YR3/4)、粘性なし、しまりややあり
2. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、炭化物を含む

P368
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫･少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む

図132　SB27遺構図

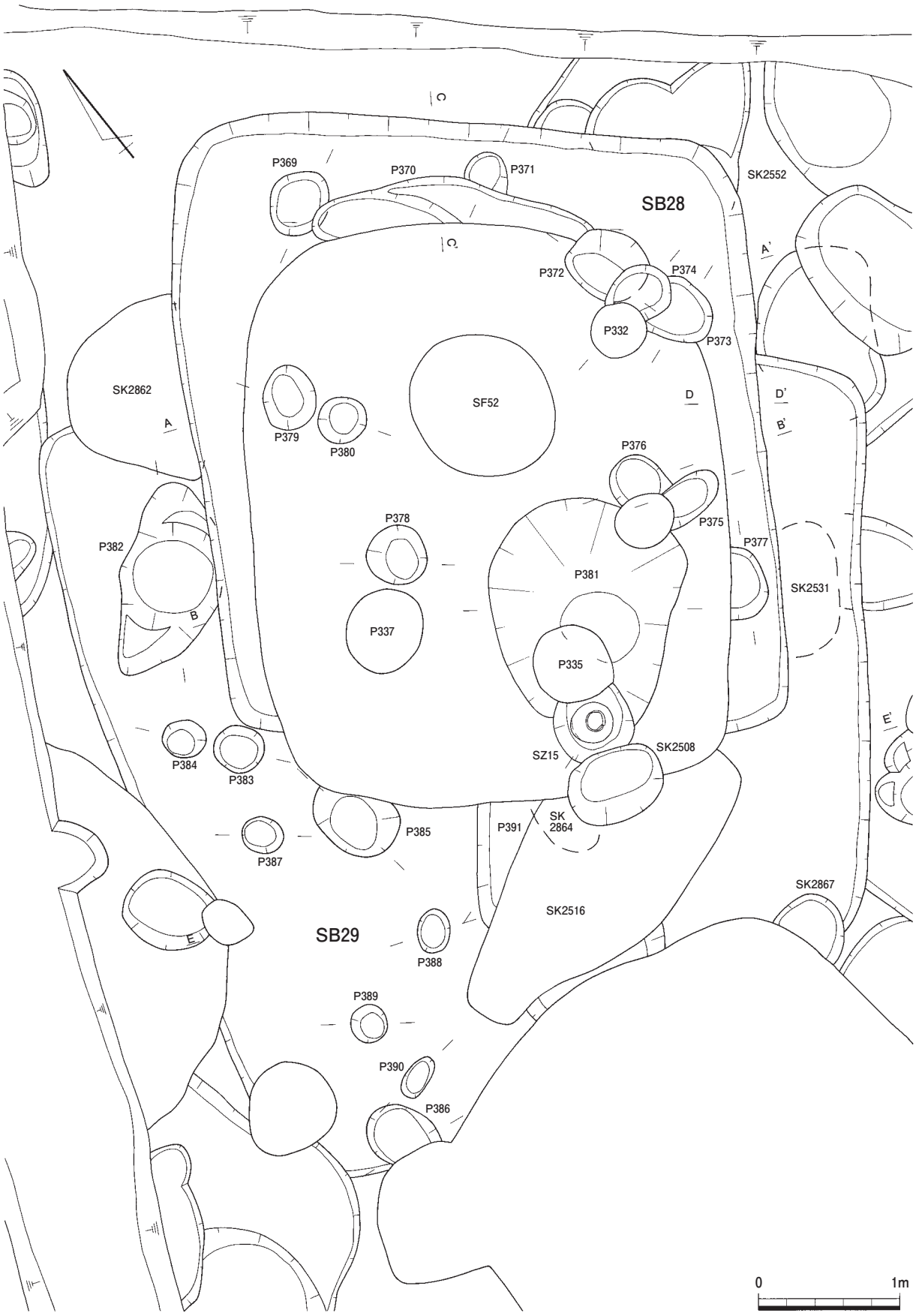
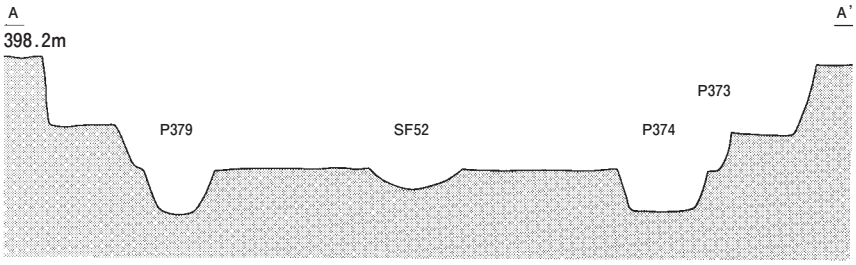
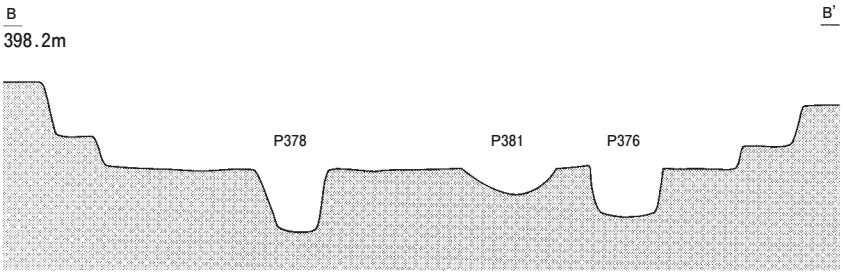
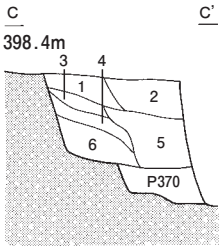


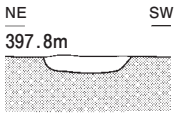
図133　SB28・29遺構図（1）



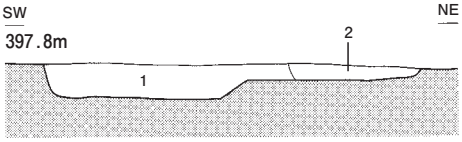




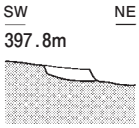
1. 暗褐色土(10YR3/4)、粘性なし、しまりあり、炭化物を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり、炭化物を含む
3. 暗褐色土(10YR3/4)、粘性なし、しまりあり、褐色土(10YR4/4)ブロックを含む
4. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり、褐色土(10YR4/4)粒を含む
5. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりあり、炭化物を含む
6. 黒褐色土（10YR2/2)、粘性ややあり、しまりあり、礫を含む



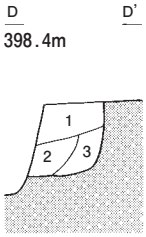
P369
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



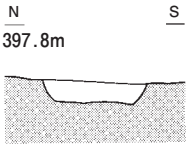
P370
1. 黒褐色土（10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、炭化物を含む
2. 暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む



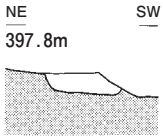
P371
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり



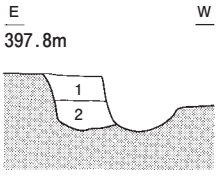
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、礫・炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、礫・炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む



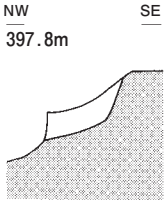
P372
黒褐色土（10YR2/2)、しまりややあり、礫・炭化物を含む



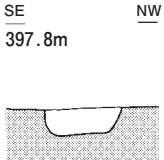
P373
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり



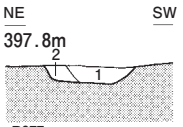
P374
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む



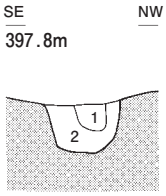
P375
黒褐色土（10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む



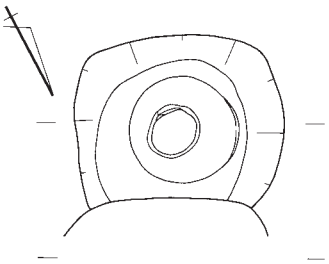
P376
黒褐色土（10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり

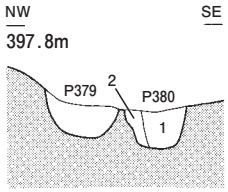


P377
1. 暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



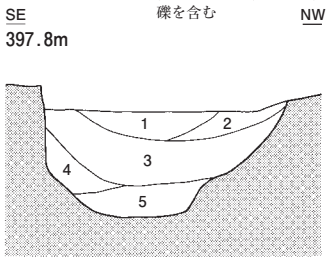
P378
1. 黒褐色土（7.5YR3/2)、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR3/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む





P379
暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

P380
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 暗褐色土（10YR3/3、1より褐色)、粘性なし、しまりなし



P381
1. 黒褐色土（7.5YR3/2)、粘性なし、しまりなし、礫・炭化物を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり、炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりあり、礫を含む
4. 黒褐色土（10YR3/2、3より黒色)、粘性なし、しまりあり、礫・炭化物を含む
5. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりあり、礫を含む

SZ15
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりなし
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、礫を少量と多量の炭化物を含む
2. 暗褐色土（7.5YR3/3)、粘性なし、しまりあり

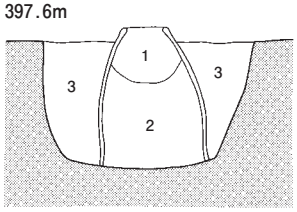


図134　SB28・29遺構図（2）

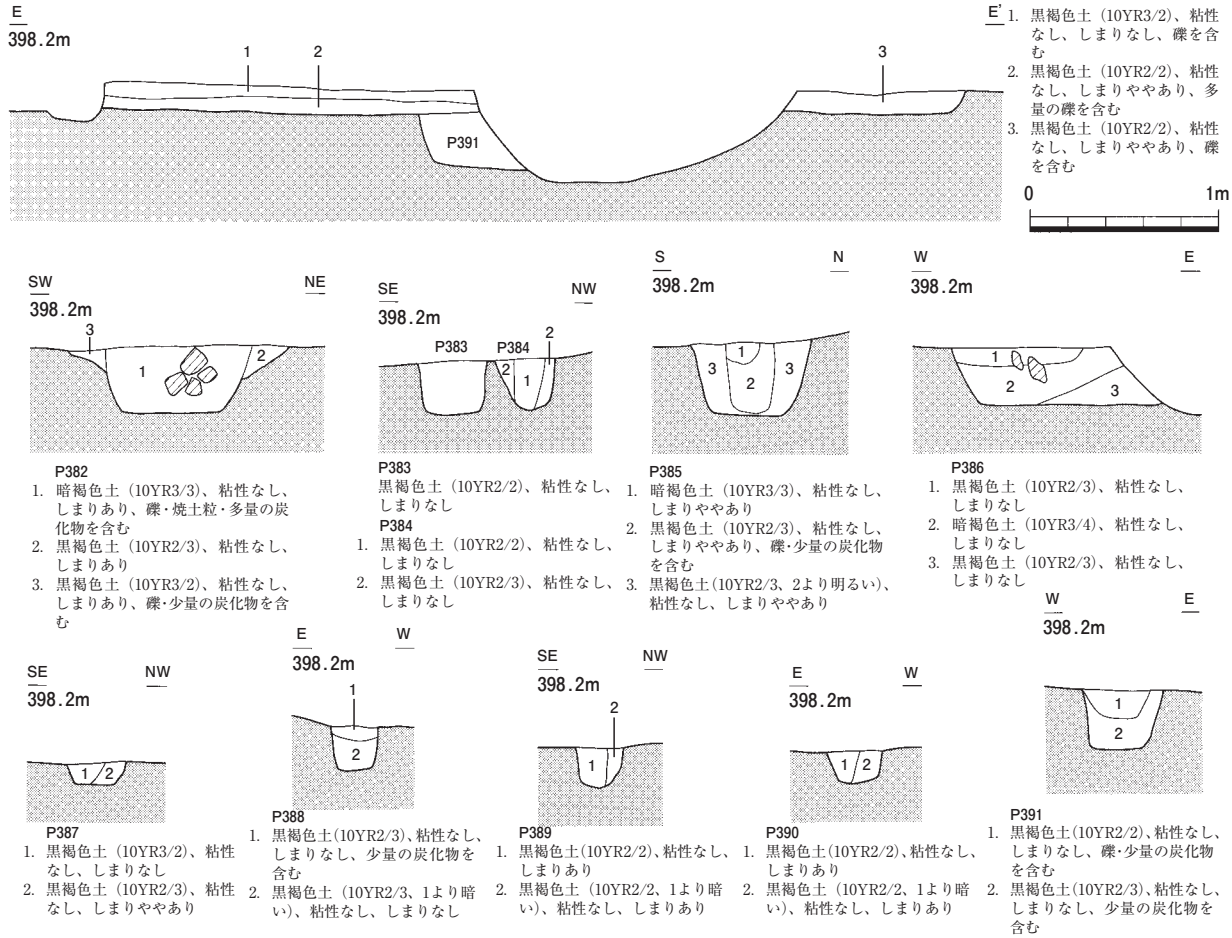


図135　SB28・29遺構図（3）

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物・骨片が散在的に出土した。土器は中期中葉から中期後葉が認められるが、主体は中期後葉である。石器は、石鏃3点･石錐1点･ヘラ形石器1点･ＲＦ2点・ＵＦ1点・打欠石錘4点・切目石錘4点が出土した。

所属時期　竪穴埋土の様子やＳＦ53の検出状況から、ＳＢ24との時期差はほとんどないと考えられ、中期後葉（第3段階）と判断する。

ＳＢ29（現場名 SBE 5、図133・135、図版49）

位置　N10・N11・O10・O11グリッドに位置する。

検出状況　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＢ21・23・24・27・28・ＳＫ2508・2531・2862・2864・2867・Ｐ384に切られ、ＳＢ31・ＳＫ2552を切る。埋土は2層に分けられ、土層は水平に堆積する。

形状と規模　平面形は隅丸方形と考えられる。長径5.69m・短径5.56m・床面積12.38㎡以上を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.14mを測り、わずかに立ち上がる。明確な貼床や硬化面は認められず、Ⅷｂ層上面に達して遺構を検出した。床面はほぼ水平である。

施設　床面で10基の遺構を検出した。Ｐ384・385・389は柱痕状の堆積が認められるものの、全体

の柱配置が不明であるため、柱穴として認定することができない。

出土遺物　竪穴の埋土から、石器・炭化物・骨片が散在的に出土した。石器は、石鏃1点・ヘラ形石器１点・楔形石器１点・ＲＦ２点・ＵＦ１点・切目石錘１点が出土した。

所属時期　ＳＢ27・28・31との重複関係から、中期中葉船元Ⅱ式併行～後葉（第３段階）と判断する。

ＳＢ30（現場名 SBE ３、図136・137、図版49）

位置　Ｐ11・Ｐ12・Ｐ13・Ｑ11・Ｑ12・Ｑ13グリッドに位置する。

検出状況　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＫ2501・2502・2503・2528・2529・2608に切られ、ＳＢ33・34・ＳＫ2600を切る。なお整理作業の段階で、当遺構がＳＢ37に切られることが判明した。土層観察用アゼでは埋土は５層に分けられたが、調査区の北東壁では３層に分けられ、土層は水平に堆積する。

形状と規模　平面形は隅丸方形と考えられる。長径6.42ｍ・短径5.91ｍ・床面積27.86㎡以上を測る。

壁・床面の状況　調査区の北東壁の観察では、検出面から床面までの最大の深さは約0.40ｍを測り、壁は明確に立ち上がる。明確な貼床や硬化面は認められなかったが、掘削する土色が明確に変化した時点で床面と判断した。床面はほぼ水平である。

施設　床面で15基の遺構を検出した。平面的位置から柱穴はＰ393・398が想定できるが、他は不明である。なお、炉跡は確認されなかった。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物が散在的に出土した。土器は早期後葉と、中期中葉から中期後葉が認められる。石器は、石鏃１点・掻器２点・削器２点・楔形石器２点・ＲＦ４点・ＵＦ５点・磨・敲石類３点・打欠石錘１点・切目石錘１点が出土した。

所属時期　ＳＢ33よりも後出することから中期後葉（第１段階）と判断する。

ＳＢ31（現場名 SBE ４、図138・139、図版49）

位置　Ｏ11・Ｏ12・Ｐ11・Ｐ12グリッドに位置する。

検出状況　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＫ2498・2499・2511・2527・2552・2571・2612・2863・2866に切られ、ＳＢ21を切る。このうちのＳＫ2571は調査当初、当遺構に切られると判断していた。しかし埋土が第３Ｂ調査面の遺構埋土と類似することと、整理作業の段階でＳＫ2571に切られるＳＢ37が中期後葉の所産であることが判明したことから、本遺構はＳＫ2571に切られる可能性が高い。埋土は３層に分けられ、土層は水平に堆積する。

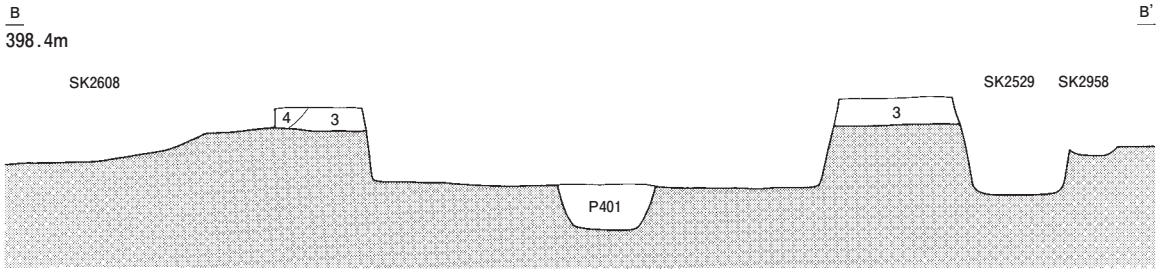
形状と規模　平面形は不明である。長径6.18ｍ以上・短径3.75ｍ以上・床面積16.28㎡以上を測る。

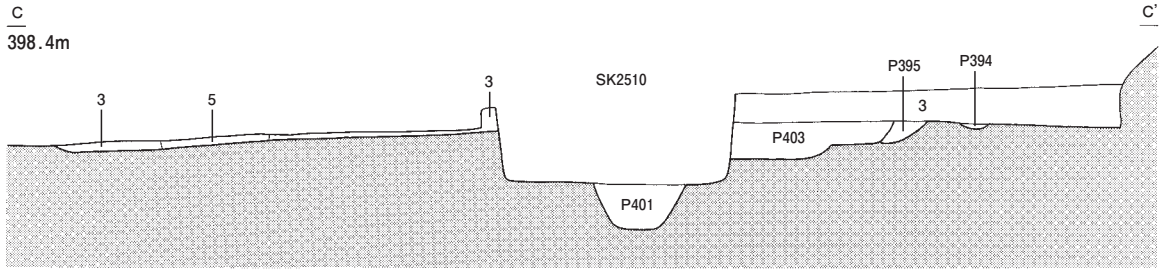
壁・床面の状況　調査区の北東壁の観察では、検出面から床面までの最大の深さは約0.30ｍを測り、壁はわずかに立ち上がる。明確な貼床や硬化面は認められず、Ⅶａ層に達して遺構を検出した。床面はほぼ水平である。

施設　床面で33基の遺構を検出した。柱穴は４基（Ｐ409・416・427・431）を想定できる。Ｐ409・431の中点とＰ416・427の中点を結ぶ線を軸にして、Ｐ409・416とＰ427・431が左右対称に位置する。なお、炉跡は検出されなかった。

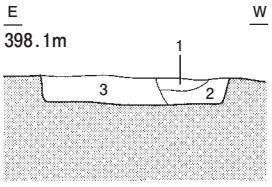
出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器と石器が散在的に出土した。土器は、早期後葉と中期中葉が認められる。石器は、石鏃１点・石錐１点・掻器１点・楔形石器１点・ＲＦ４点・ＵＦ１点・磨・敲石類4点・切目石錘１点が出土した。

図136　SB30遺構図（1）

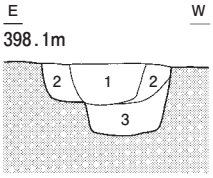




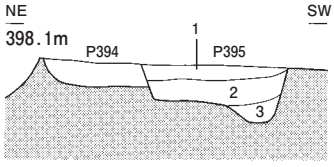
3. 暗褐色土（10YR3/4）、粘性なし、しまりややあり、礫･少量の炭化物を含む
4. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
5. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む



P392
1. 黒褐色土（7.5YR3/2）、粘性なし、しまりややあり
2. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりややあり
3. 黒褐色土（7.5YR3/2、1より褐色）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む

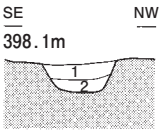


P393
1. 黒褐色土（7.5YR3/2）、粘性なし、しまりややあり、多量の炭化物を含む
2. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
3. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりあり、多量の礫を含む

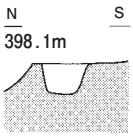


P394
黒褐色土（7.5YR3/2）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む

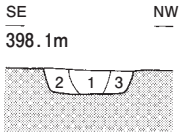
P395
1. 黒褐色土（7.5YR3/2）、粘性なし、しまりややあり、炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりややあり
3. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりあり



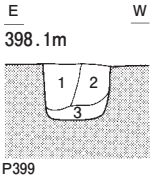
P395
1. 黒褐色土（7.5YR3/2）、粘性なし、しまりあり、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりあり、礫を含む



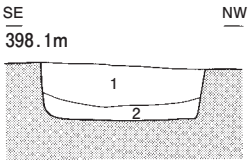
P397
黒褐色土（7.5YR3/2）、粘性なし、しまりあり



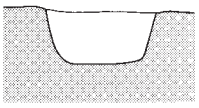
P398
1. 黒褐色土（7.5YR3/2）、粘性なし、しまりあり、多量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりあり
3. 黒褐色土（7.5YR3/2）、粘性なし、しまりあり、礫を含む



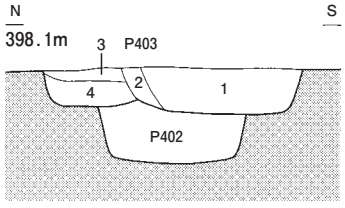
P399
1. 極暗褐色土（7.5YR2/3）、粘性なし、しまりなし
2. 黒褐色土（7.5YR3/2）、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
3. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



P400
1. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりあり、少量の炭化物を含む

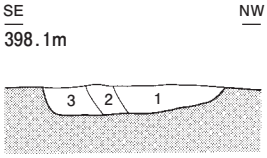


P401
暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりあり、礫を含む

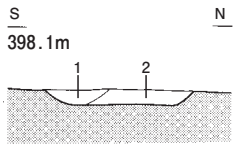


P402
黒褐色土（7.5YR3/2）、粘性なし、しまりあり、多量の礫と炭化物を含む

P403
1. 黒褐色土（7.5YR3/2）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり
3. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり、炭化物を含む
4. 暗褐色土（7.5YR3/3）、粘性なし、しまりあり



P404
1. 黒褐色土（7.5YR3/2）、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（7.5YR3/2、1よりやや黒色）、粘性なし、しまりややあり、炭化物を含む
3. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、炭化物を含む



P405
1. 黒褐色土（7.5YR3/2）、粘性なし、しまりややあり
2. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりなし

図137　SB30遺構図（2）

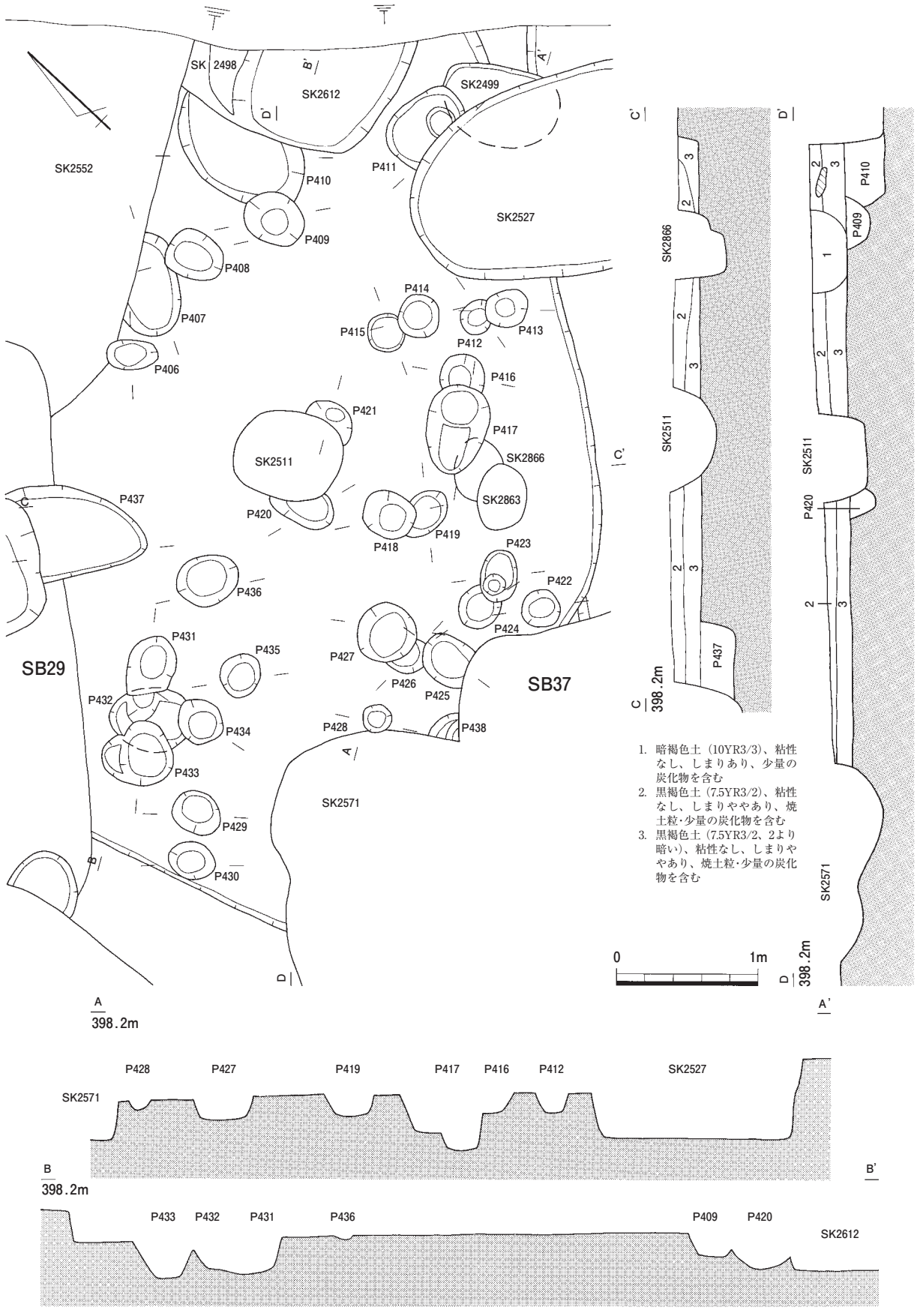
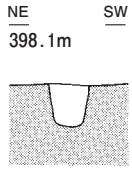
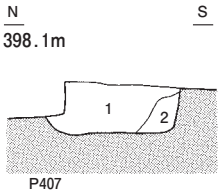


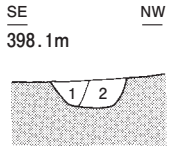
図138　SB31遺構図（1）



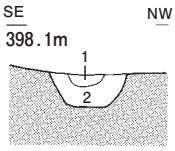
P406
暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりなし



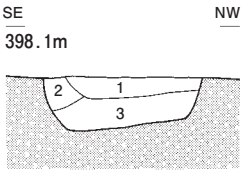
P407
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、礫・2層土粒を含む
2. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりなし



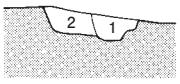
P408
1. 黒褐色土（7.5YR3/2）、粘性なし、しまりなし
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし



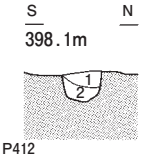
P409
1. 黒褐色土（7.5YR3/2）、粘性なし、しまりなし
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし



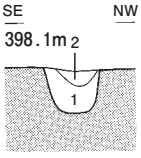
P410
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりあり、少量の礫を含む
2. 黒褐色土（10YR2/3、1より明るい）、粘性なし、しまりあり
3. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりあり、礫を含む



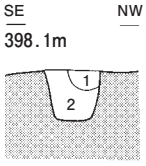
P411
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりあり、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりあり、少量の炭化物を含む



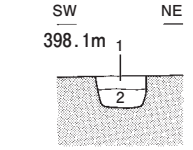
P412
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりあり
2. 黒褐色土（10YR2/2)、粘性やや あり、しまりややあり



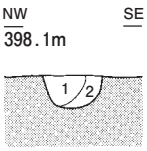
P413
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり
2. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、多量の炭化物を含む



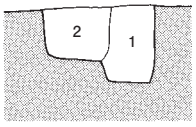
P414
1. 黒褐色土（7.5YR3/2）、粘性なし、しまりなし
2. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりなし



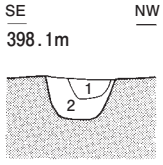
P415
1. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性ややあり、しまりなし、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりなし、少量の礫を含む



P416
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりあり
2. 黒褐色土（10YR2/2)、粘性やや あり、しまりややあり

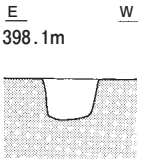


P417
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 黒褐色土（7.5YR3/2)、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む

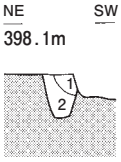


P418
1. 黒褐色土（7.5YR3/2)、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む

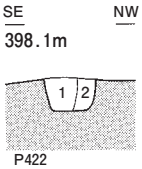
P419
黒褐色土（10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり



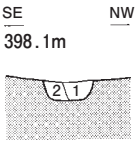
P420
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり



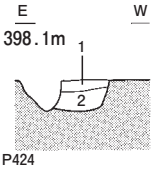
P421
1. 暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりあり
2. 黒褐色土（10YR2/2)、粘性なし、しまりあり、少量の礫を含む



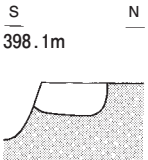
P422
1. 黒褐色土（7.5YR2/2)、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりなし



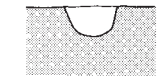
P423
1. 黒褐色土（7.5YR3/2)、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む



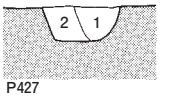
P424
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり
2. 黒褐色土（10YR2/2)、粘性やや あり、しまりややあり



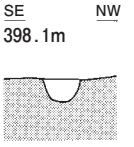
P425
黒褐色土（7.5YR2/2)、粘性なし、しまりなし



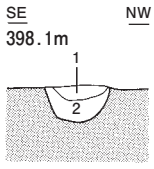
P426
黒褐色土（10YR3/2)、粘性やや あり、しまりややあり、少量の礫を含む



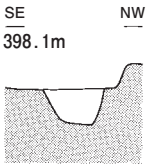
P427
1. 黒褐色土（7.5YR3/2)、粘性なし、しまりなし
2. 暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりなし



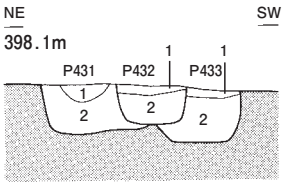
P428
黒褐色土（7.5YR3/2)、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む



P429
1. 黒褐色土（10YR3/2)、粘性やや あり、しまりややあり
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり

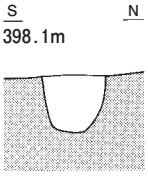


P430
黒褐色土（7.5YR3/2)、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む



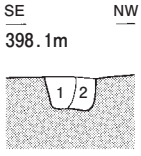
P431
1. 黒褐色土（10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり

P432
1. 黒褐色土（10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の礫を含む
2. 黒褐色土（10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む

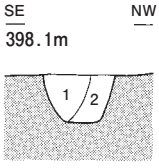


P434
黒褐色土（7.5YR3/2)、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む

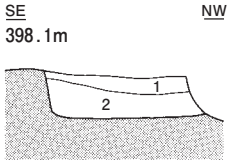
P433
1. 暗褐色土（10YR3/3)、粘性あり、しまりあり、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR3/2)、粘性ややあり、しまりややあり、少量の炭化物を含む



P435
1. 黒褐色土（7.5YR3/2)、粘性なし、しまりなし
2. 暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりなし



P436
1. 黒褐色土（7.5YR3/2)、粘性なし、しまりなし
2. 暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりなし



P437
1. 黒褐色土（10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり
2. 黒褐色土（10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む

図139　SB31遺構図（2）

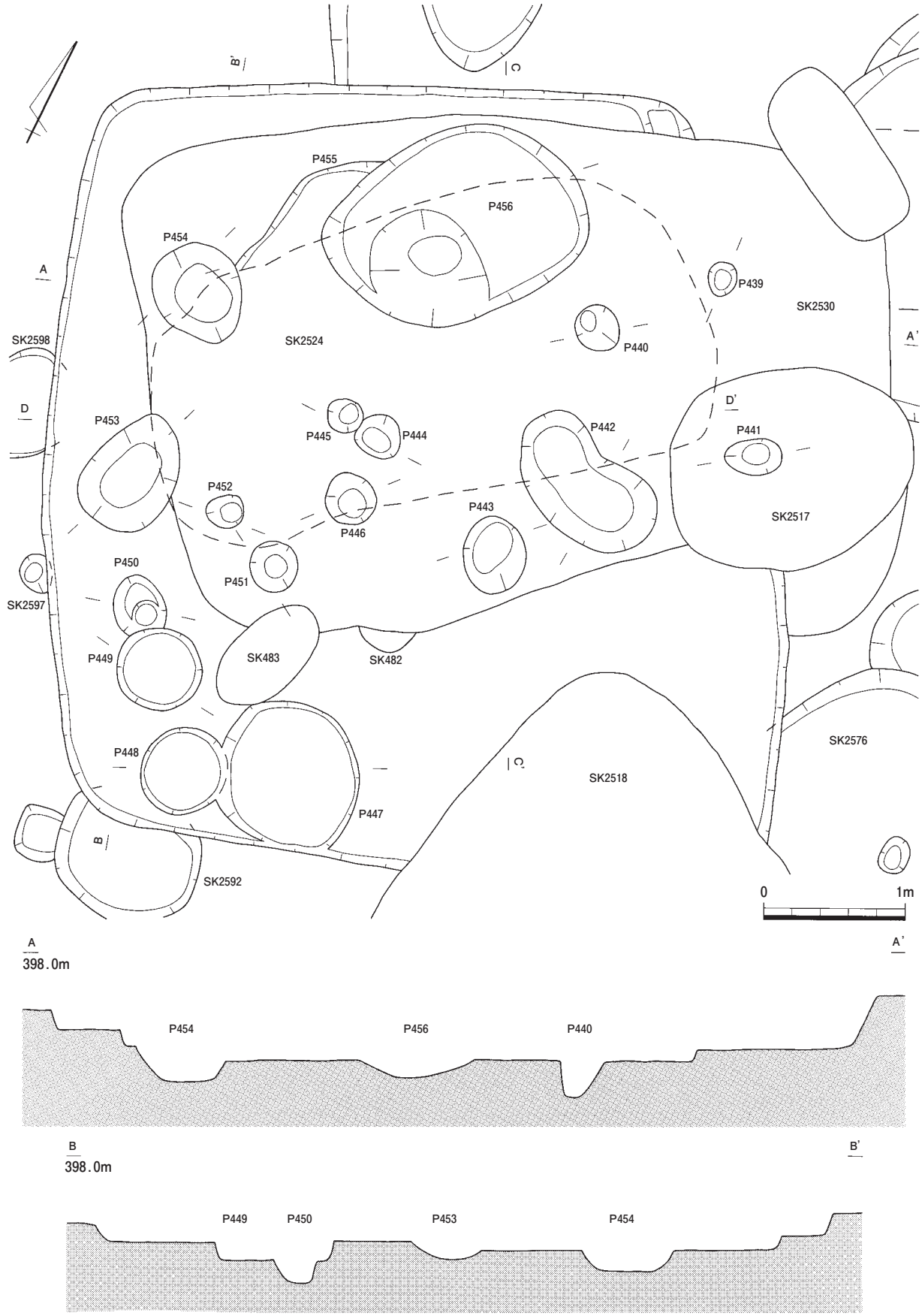
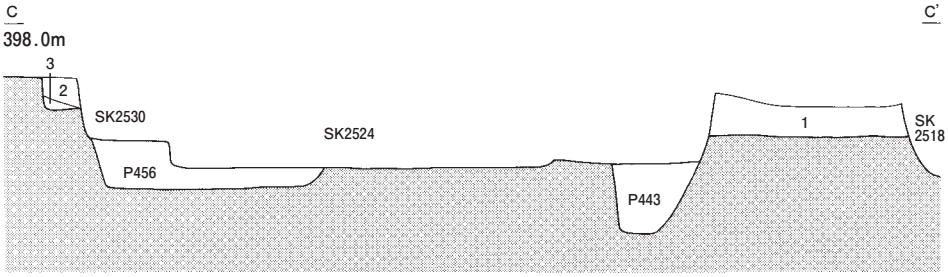
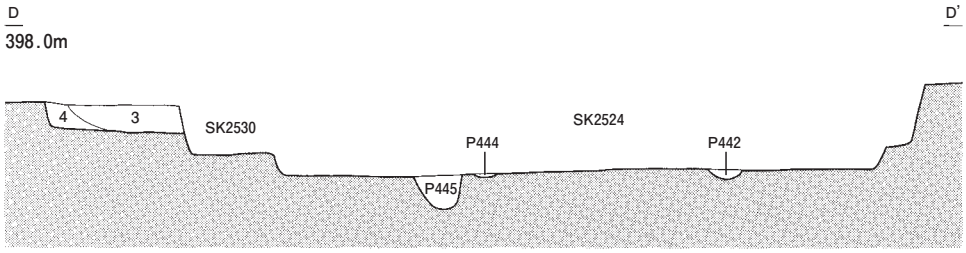
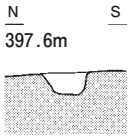


図140　SB32遺構図（1）

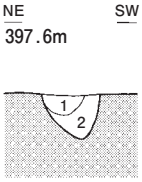


1. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりあり、焼土粒・少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性なし、しまりなし、礫・少量の炭化物を含む
3. 黒褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりなし、焼土粒・少量の炭化物を含む
4. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりなし、少量の炭化物を含む

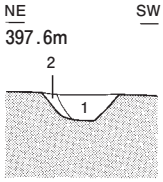




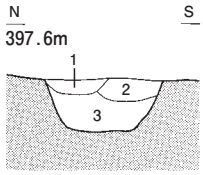
P439
黒褐色土（10YR2/2）、粘性ややあり、しまりややあり



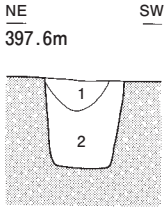
P440
1. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりややあり
2. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり



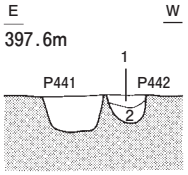
P441
1. 黒色土（10YR2/1）、粘性ややあり、しまりややあり、少量の礫を含む
2. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり



P442
1. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
2. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりあり、礫を含む
3. 黒色土（10YR2/1、2より淡い）、粘性なし、しまりあり、少量の礫を含む

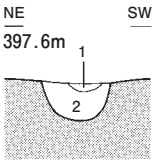


P443
1. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりややあり、炭化物を含む
2. 黒褐色土（7.5YR3/2）、粘性なし、しまりあり

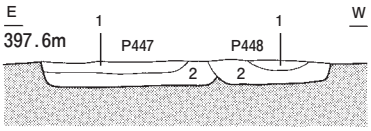


P444
黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む

P445
1. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりなし
2. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む

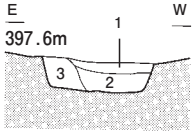


P446
1. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりあり
2. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む

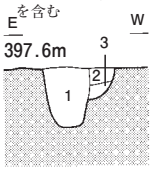


P447
1. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、少量の礫を含む

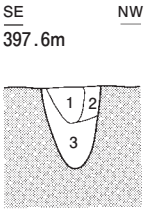
P448
1. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりなし、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR2/2、1より暗い）、粘性なし、しまりなし、少量の炭化物を含む



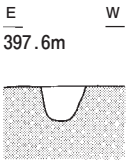
P449
1. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、暗褐色土(10YR3/4)粒・多量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR2/2、1より黒色）、粘性ややあり、しまりややあり
3. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、炭化物を含む



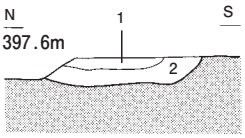
P450
1. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、多量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりややあり
3. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



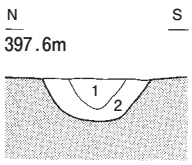
P451
1. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性なし、しまりあり
2. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり
3. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりなし



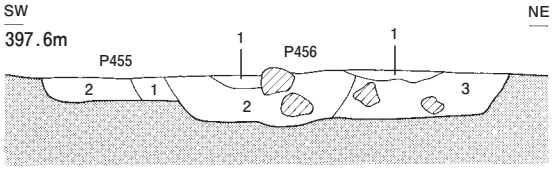
P452
黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりあり



P453
1. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性なし、しまりあり、少量の炭化物を含む



P454
1. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり
2. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



P455
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりなし
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、少量の礫を含む

P456
1. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性ややあり、しまりあり
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
3. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりあり、礫を含む

図141　SB32遺構図（2）

所属時期　竪穴出土土器から中期中葉船元Ⅱ式併行と判断する。

ＳＢ32（現場名 SBE 6、図140・141、図版50）

位置　Ｐ14・Ｐ15・Ｑ14・Ｑ15グリッドに位置する。

検出状況　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＫ2517・2518・2524・2530に切られ、ＳＫ2576・2592・2597・2598を切る。埋土は4層に分けられる。

形状と規模　隅丸方形と考えられる。長径5.39m・短径5.11m・床面積推定18.70㎡を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.23mを測り、壁は明確に立ち上がる。竪穴の埋土を掘削中に、土色が明確に変化した時点で床面と判断した。床面の南側では不明瞭ながら広い範囲で硬化面が認められたが、明確な貼床は認められなかった。床面はほぼ水平である。

施設　床面で18基の遺構を検出した。柱穴はＰ440・450・454で、南東の隅柱がＳＫ2518によって失われたとすれば、4基で構成する柱配置となる。炉跡は検出されなかった。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物・骨片が散在的に出土した。土器は少量の早期後葉と、中期中葉が認められる。石器は、石鏃1点・掻器1点・削器3点・楔形石器1点・ＲＦ5点・ＵＦ5点・磨・敲石類4点・打欠石錘1点・切目石錘4点が出土した。

所属時期　竪穴埋土出土土器の主体から中期中葉船元Ⅱ式併行と判断する。

ＳＢ33（現場名 SBE 8、図142・143、図版50）

位置　Ｏ13・Ｏ14グリッドに位置する。

検出状況　ＳＢ30の床下で検出した。ＳＢ30で調査した遺構に切られ、ＳＢ34・ＳＫ2600を切る。埋土は4層に分けられ、土層は水平に堆積する。

形状と規模　平面形と規模からみて、複数の遺構が重複している可能性もあり得るが、平面形としては隅丸方形を指向していると考えられる。長径7.52m・短径6.37m以上・床面積37.90㎡以上を測る。

壁・床面の状況　調査区の北東壁の観察では、検出面から床面までの最大の深さは約0.61mを測り、壁は垂直に近く立ち上がる。明確な貼床や硬化面は認められなかったが、Ⅶ層及び当遺構に切られるＳＢ34のプランが現れた時点で床面と判断した。床面はほぼ水平である。

施設　床面で16基の遺構を検出した。Ｐ470・471は柱痕状の堆積が認められるものの全体の柱配置が不明であるため、柱穴として認定することができない。炉跡は確認されなかった。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器・石器・炭化物が散在的に出土した。土器は、早期後葉・中期前葉又は中葉・中期後葉が認められる。石器は、石核2点・石鏃1点・ＲＦ2点・ＵＦ1点・磨・敲石類3点が出土した。

所属時期　ＳＢ34よりも後出することから中期後葉（第1段階）と判断する。

ＳＢ34（現場名 SBE11、図144～146、図版50）

位置　Ｐ13・Ｐ14・Ｑ13・Ｑ14グリッドに位置する。

検出状況　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＢ32・ＳＫ2512・2513・2515・2523・2525・2526・2530・2538・2557・2564・2565・2566・2569・2570・2573・2574・2608・Ｐ404に切られ、ＳＢ32・ＳＫ2603を切る。埋土は4層に分けられ、土層は水平に堆積する。

形状と規模　平面形は長方形と考えられる。長径6.32m以上・短径5.58m以上・床面積31.51㎡以上を測る。

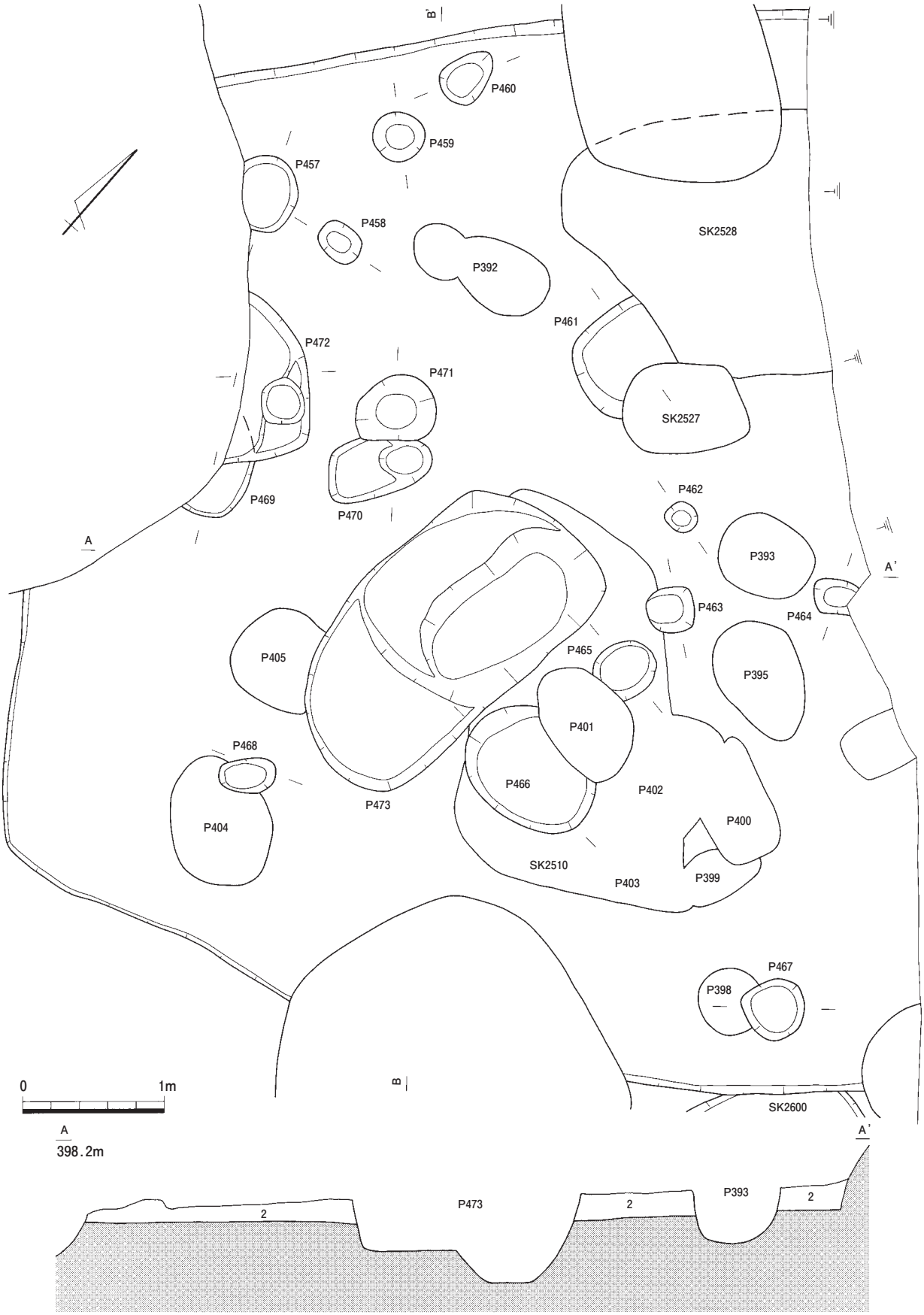


図142　SB33遺構図（1）

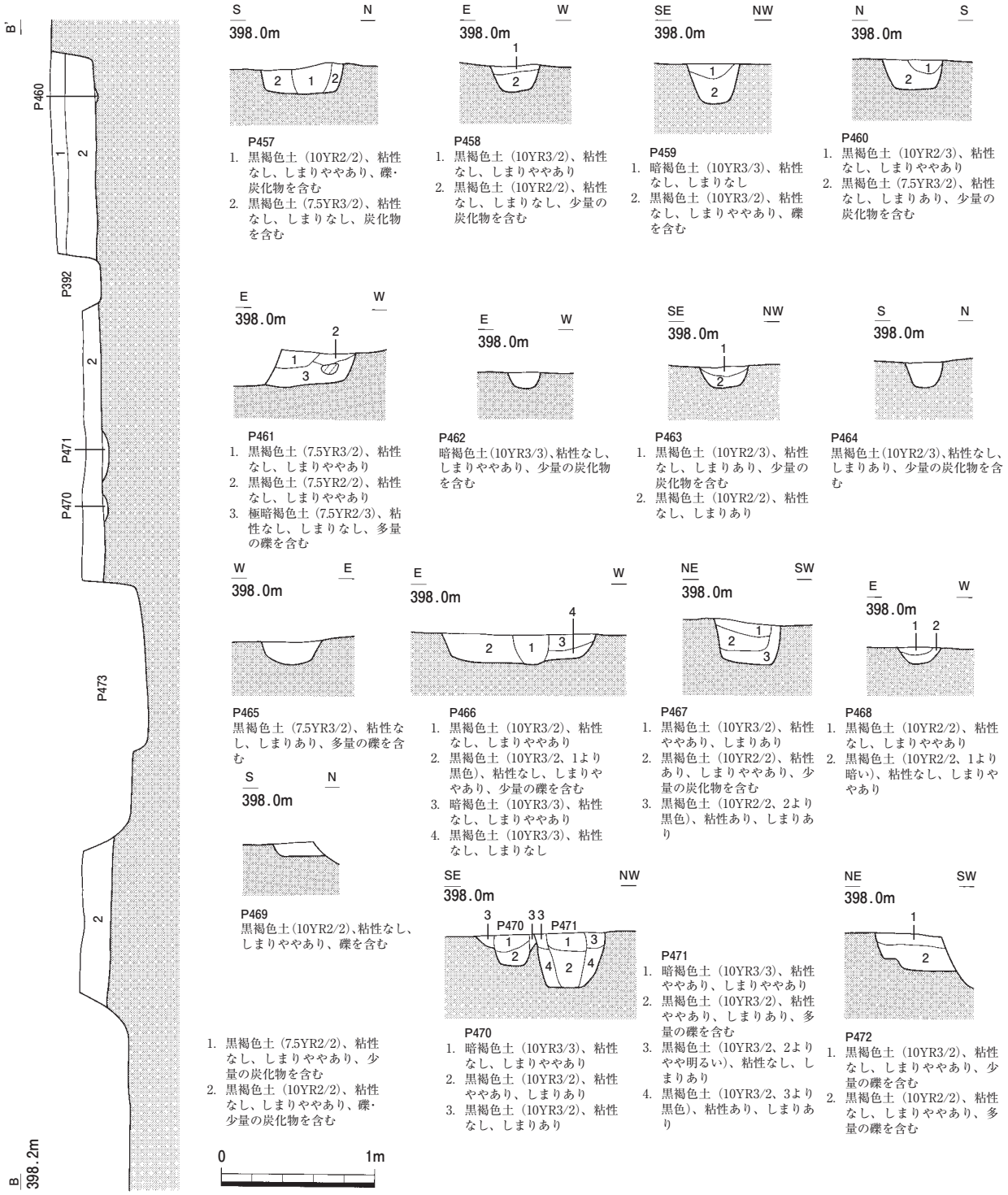


図143　SB33遺構図（2）

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.32mを測り、壁は明確に立ち上がる。ＳＦ79の西側で部分的な硬化面が認められ、ＳＦ79・80の周辺で部分的な貼床が認められた。床面はほぼ水平である。

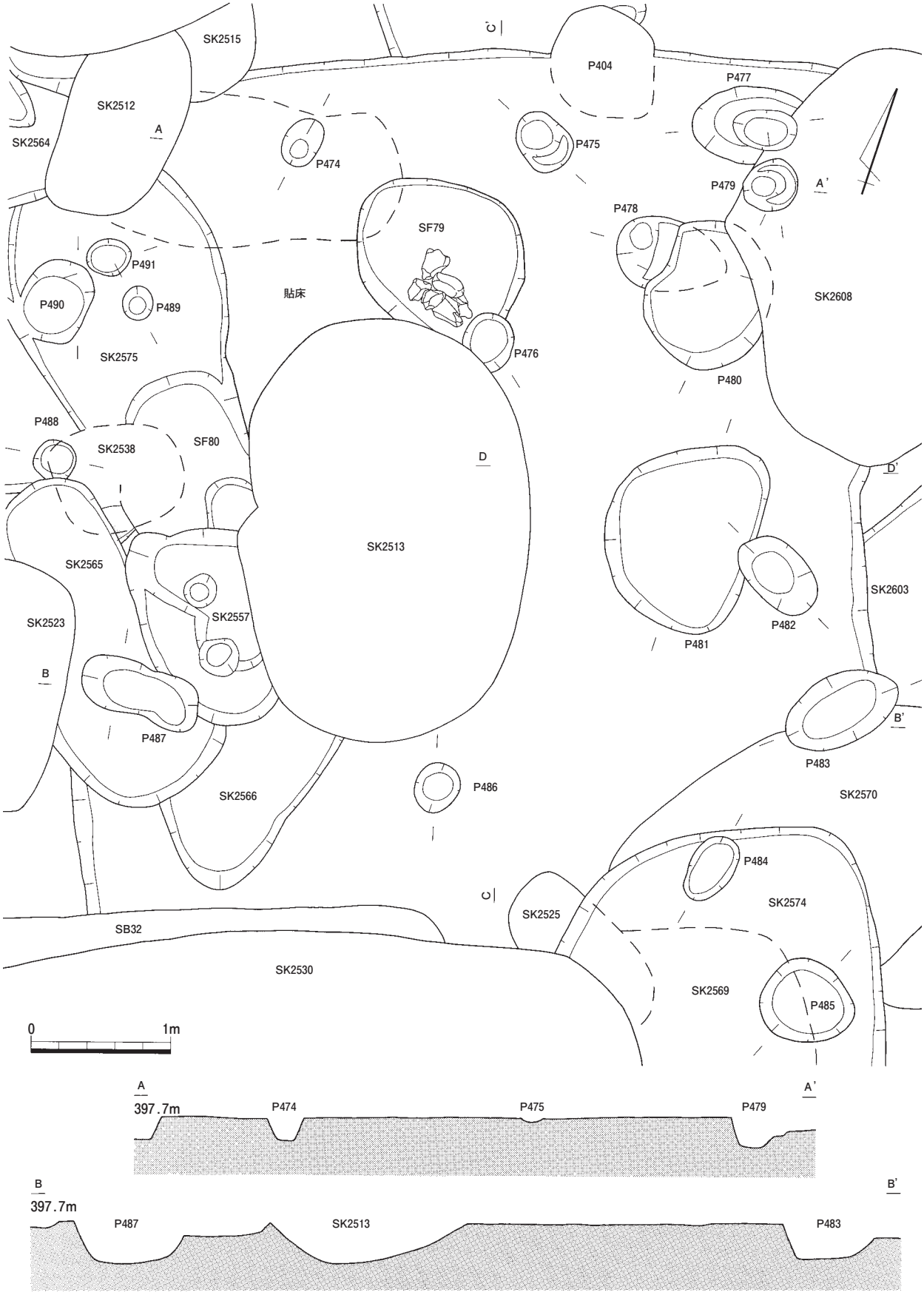
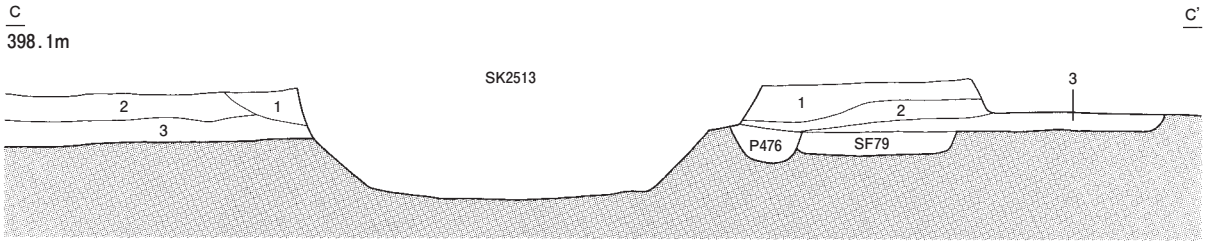
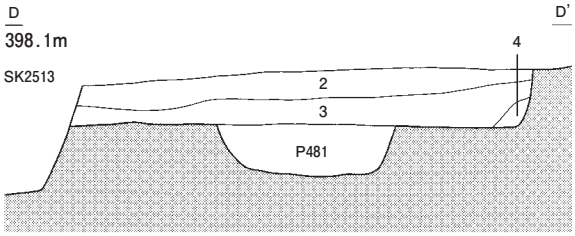


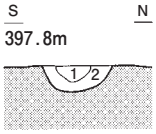
図144　SB34遺構図（1）



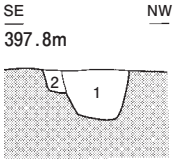


1. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりなし、少量の炭化物を含む
2. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりややあり、礫･少量の炭化物を含む
3. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
4. 黒褐色土（10YR2/2、3よりやや黒色）、粘性なし、しまりなし

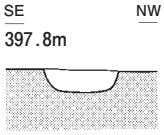
貼床
黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりあり、暗褐色土（10YR3/4）・少量の炭化物を含む



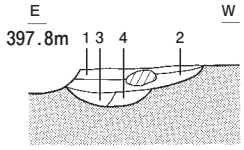
P474
1. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりややあり
2. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む



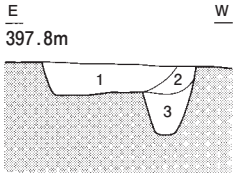
P475
1. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性なし、しまりややあり、礫･少量の炭化物を含む
2. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりややあり



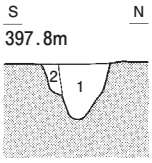
P476
暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む



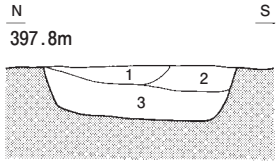
P477
1. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりあり、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、少量の礫を含む
3. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
4. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性なし、しまりなし



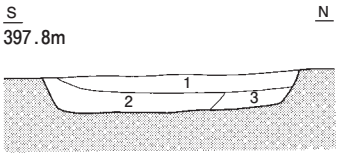
P478
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり
3. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり



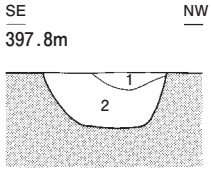
P479
1. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりなし、少量の炭化物を含む
2. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりややあり



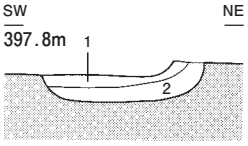
P480
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
3. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり



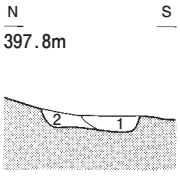
P481
1. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりなし
2. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
3. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりあり、礫を含む



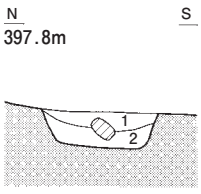
P482
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり
2. 暗褐色土（10YR3/3、1よりやや明るい）、粘性なし、しまりあり



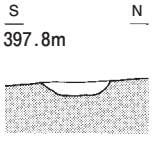
P483
1. 暗褐色土(10YR3/4)、粘性なし、しまりなし、礫･炭化物を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



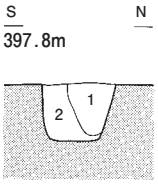
P484
1. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりややあり
2. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



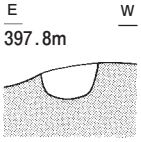
P485
1. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む
2. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



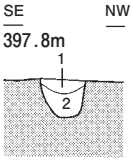
P486
暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む



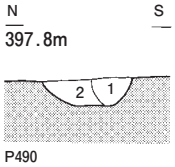
P487
1. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性なし、しまりややあり、少量の礫を含む



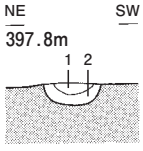
P488
黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりなし、少量の焼土粒･多量の炭化物を含む



P489
1. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりなし



P490
1. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
2. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりややあり



P491
1. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりなし、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりややあり

図145　SB34遺構図（2）

施設　床面で18基の遺構を検出した。柱穴はＰ475とＰ486を結ぶ線を軸として、Ｐ474・487と479・483がおよそ左右対称に位置する。焼土遺構ＳＦ79（図146右）は、柱配置の長軸からやや西に寄る。炉跡の内部には焼土層がなく、底面で被熱の痕跡も認められないが、底面直上で被熱した礫２個を含む計６個が南側に集中して出土した。これとは別に、焼土遺構ＳＦ80（図146左）が竪穴の短軸上に位置する。ＳＫ2538・2573・2565に切られるため、部分的に遺存する程度であったが、焼土が２箇所で確認されたことから、重複遺構の可能性がある。底面には被熱の痕跡は認められず、埋土中に焼土粒が散在していることが観察された。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器と石器が散在的に出土した。土器は、早期後葉と中期中葉が認められる。石器は、石鏃１点・石錐１点・掻器１点・削器２点・ＲＦ３点・ＵＦ２点・打欠石錘1点・切目石錘２点が出土した。

所属時期　竪穴埋土出土土器の主体から中期中葉船元Ⅱ式併行と判断する。

ＳＢ35（現場名ＳＫＥ26、図147、図版48）

位置　Ｍ８・Ｍ９・Ｎ８・Ｎ９グリッドに位置する。

検出状況　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＫ2494に切られ、ＳＢ27を切る。検出当初は平面規模から土坑を想定したが、底面で柱穴と炉跡を検出したことから竪穴住居跡の可能性が高まった。埋土は２層に分けられ、土層は中央が窪む堆積である。

形状と規模　平面形は楕円形と考えられる。長径3.61ｍ・短径2.61ｍ・床面積推定7.23㎡を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.15ｍを測り、壁はわずかに立ち上がる。竪穴の埋土を掘削後に、ＳＦ81が現れたため床面と判断した。床面は全体としては水平であるが、やや北に傾斜する。ＳＦ81の西側では不明瞭ながら部分的な硬化面が認められたが、明確な貼床は認められなかった。

施設　床面で６基の遺構を検出した。柱穴はＰ494・496が想定できる。竪穴の長軸上に位置し、２基で構成する柱配置となる。地床炉ＳＦ81は、竪穴の長軸から西に寄る。焼土層や底面の被熱の痕跡は認められなかったが、埋土中に焼土ブロックが点在していた。

出土遺物　竪穴の埋土から縄文土器・石器・炭化物が散在的に出土した。土器は中期後葉で占められる。石器は、石錐１点・磨・敲石類１点・打欠石錘２点・切目石錘２点が出土した。

所属時期　当遺構の所属時期の上限はＳＢ27、下限はＳＢ13（第３Ｂ遺構面）の所属時期と考えられ、埋土出土土器の主体から中期後葉（第１段階）と判断する。

ＳＢ36（現場名ＳＫＥ63、図148、図版50）

位置　Ｎ15・Ｏ15・Ｏ16・Ｐ15・Ｐ16に位置する。

検出状況　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＢ16・ＳＫ2540（第３Ｂ調査面）に切られる。またＳＫ2537は埋土上部に亜角礫１個を立石状に配置する土坑で、礫の上面のレベルからみて、竪穴埋土上から切る遺構の可能性が高い。埋土は３層に分けられたが、全体の堆積状況は不明である。

形状と規模　共に不明である。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは東部で約0.27ｍを測り、壁は垂直に立ち上がる。明確な貼床や硬化面は確認できず、Ⅸａ層上面で遺構検出したため、検出面は凹凸が著しく竪穴の掘形に達した可能性もある。床面はほぼ水平である。

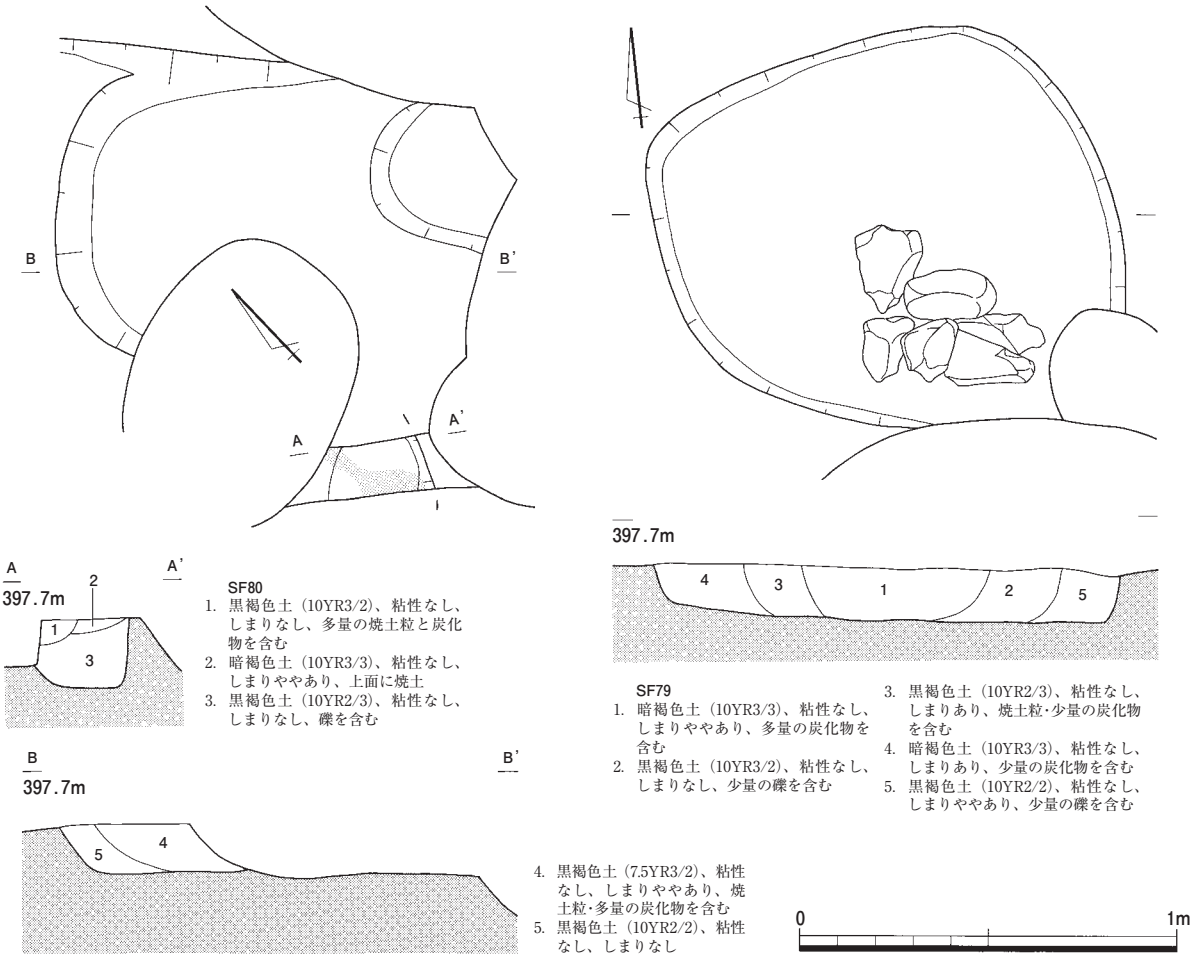


図146　SB34遺構図（３）

施設　竪穴内部で12基の遺構を検出した。柱穴は竪穴中央のＰ501・507が想定でき、２基で構成する柱配置となる可能性があるが、判然としない。炉跡は検出されなかった。

出土遺物　竪穴の埋土から縄文土器と石器が散在的に出土した。土器は、少量ながら中期後葉で占められる。石器は、石鏃１点・打欠石錘１点・切目石錘１点が出土した。

所属時期　竪穴出土土器から中期後葉（第１段階）と判断する。

ＳＢ37（現場名ＳＫＥ112、図149・150、図版51）

位置　Ｏ12・Ｏ13・Ｐ12・Ｐ13グリッドに位置する。

検出状況　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＫ2512・2514・2515・2540・2571に切られる。当初ＳＢ31・33の床面で検出し、平面規模から土坑を想定していた。しかし埋土が第３Ｂ調査面の遺構埋土と類似することと、出土土器の時期から、当遺構はＳＢ30・31・33を切る遺構であり、底面で柱穴が規則的に検出されたことにより、竪穴住居跡である可能性が高まった。埋土は11層に分けられたが、各土層はブロック状に堆積していることから、人為的な埋め戻しの可能性がある。

形状と規模　平面形は楕円形と考えられる。長径5.17ｍ・短径4.08ｍ・床面積推定14.30㎡を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.46ｍを測り、北・西壁では垂直に立ち上がる。南西端では幅31㎝以下の平坦面が認められ、竪穴の出入り口と解釈することができる。明確

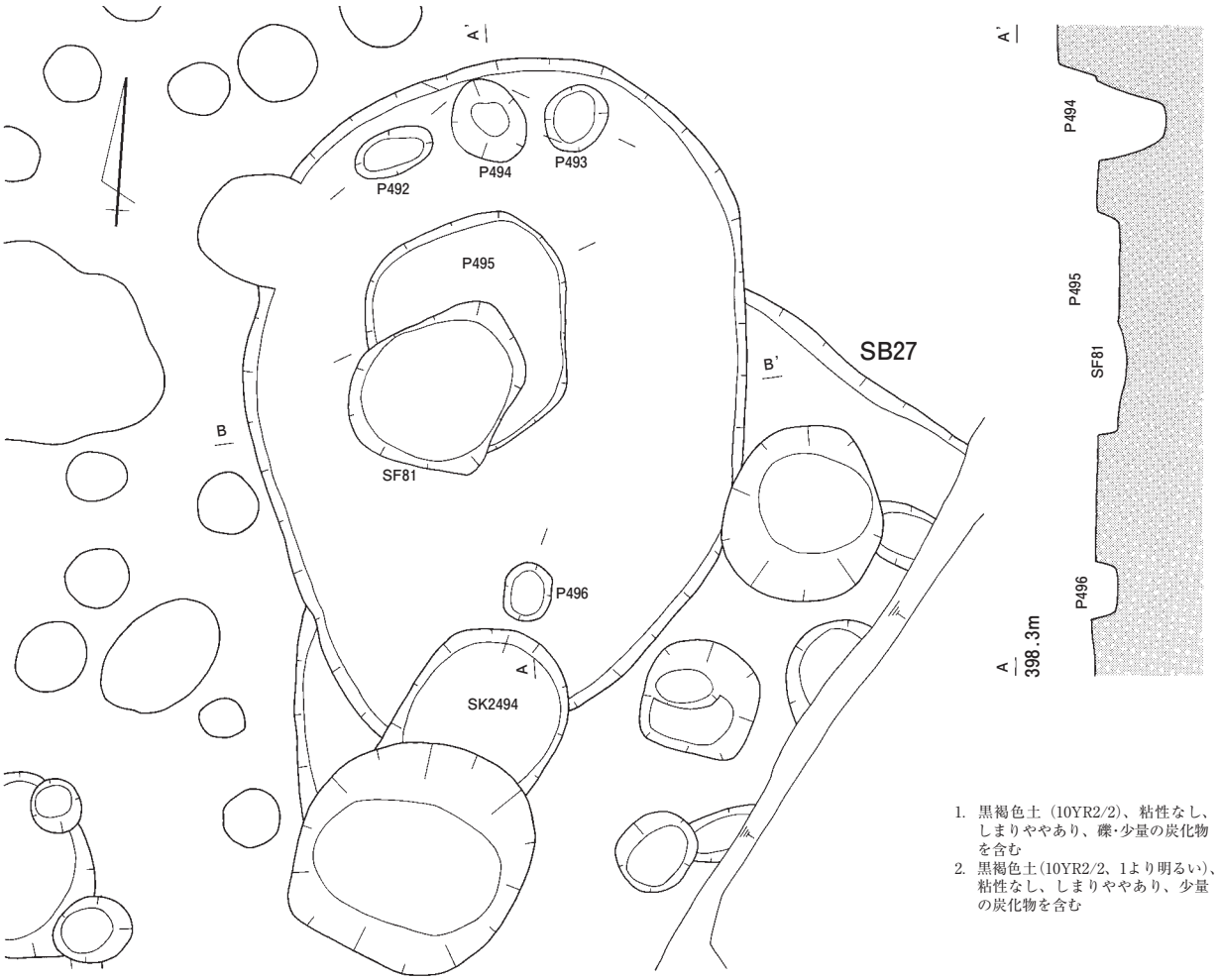
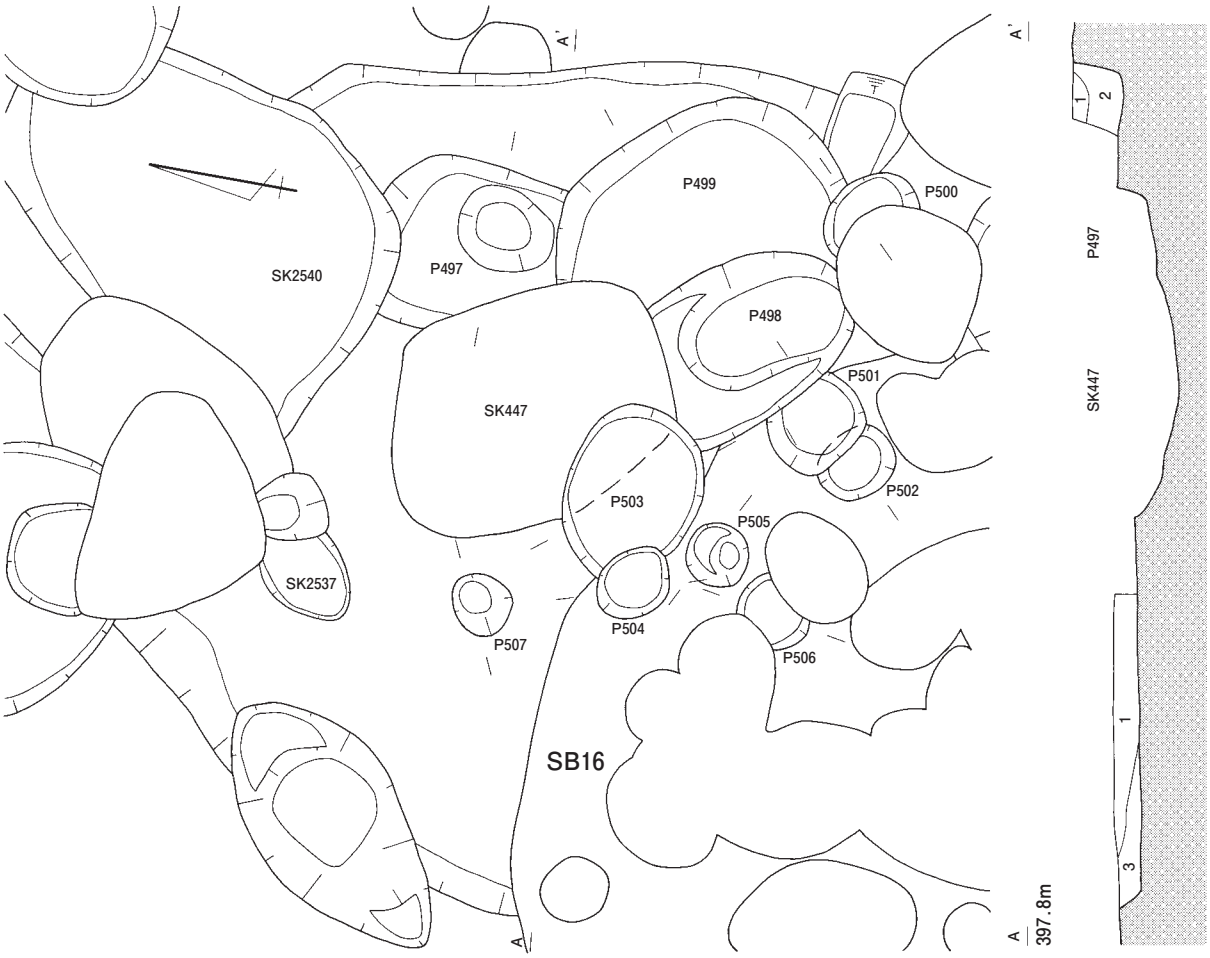
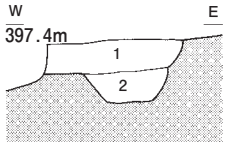
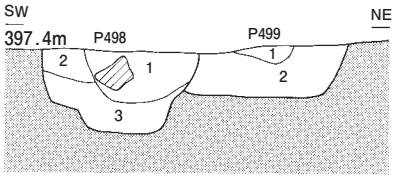


図147　SB35遺構図



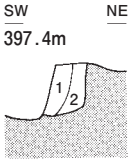


P497
1. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む
2. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む



P498
1. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、礫･炭化物を含む
2. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
3. 黒色土(10YR1.7/1)、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む

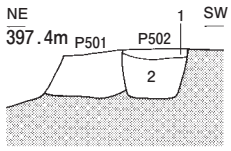
P499
1. にぶい黄橙色（10YR6/3）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
2. にぶい黄橙色（10YR5/3）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



P500
1. 黒色土（10YR2/1）、粘性なし、しまりややあり、多量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりあり

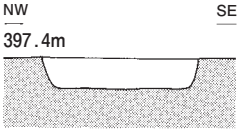
1. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりややあり
2. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性ややあり、しまりあり、少量の炭化物を含む
3. 黒色土（10YR2/1）、粘性なし、しまりなし、礫を含む

0　1m

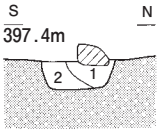


P501
黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む

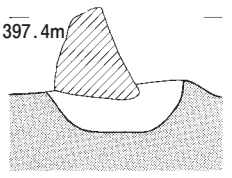
P502
1. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりあり
2. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



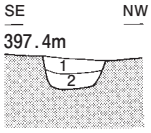
P503
黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



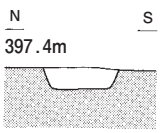
P504
1. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
2. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



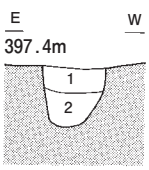
SK2537
黒色土（10YR2/1）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



P505
1. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりややあり、少量の礫を含む
2. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり



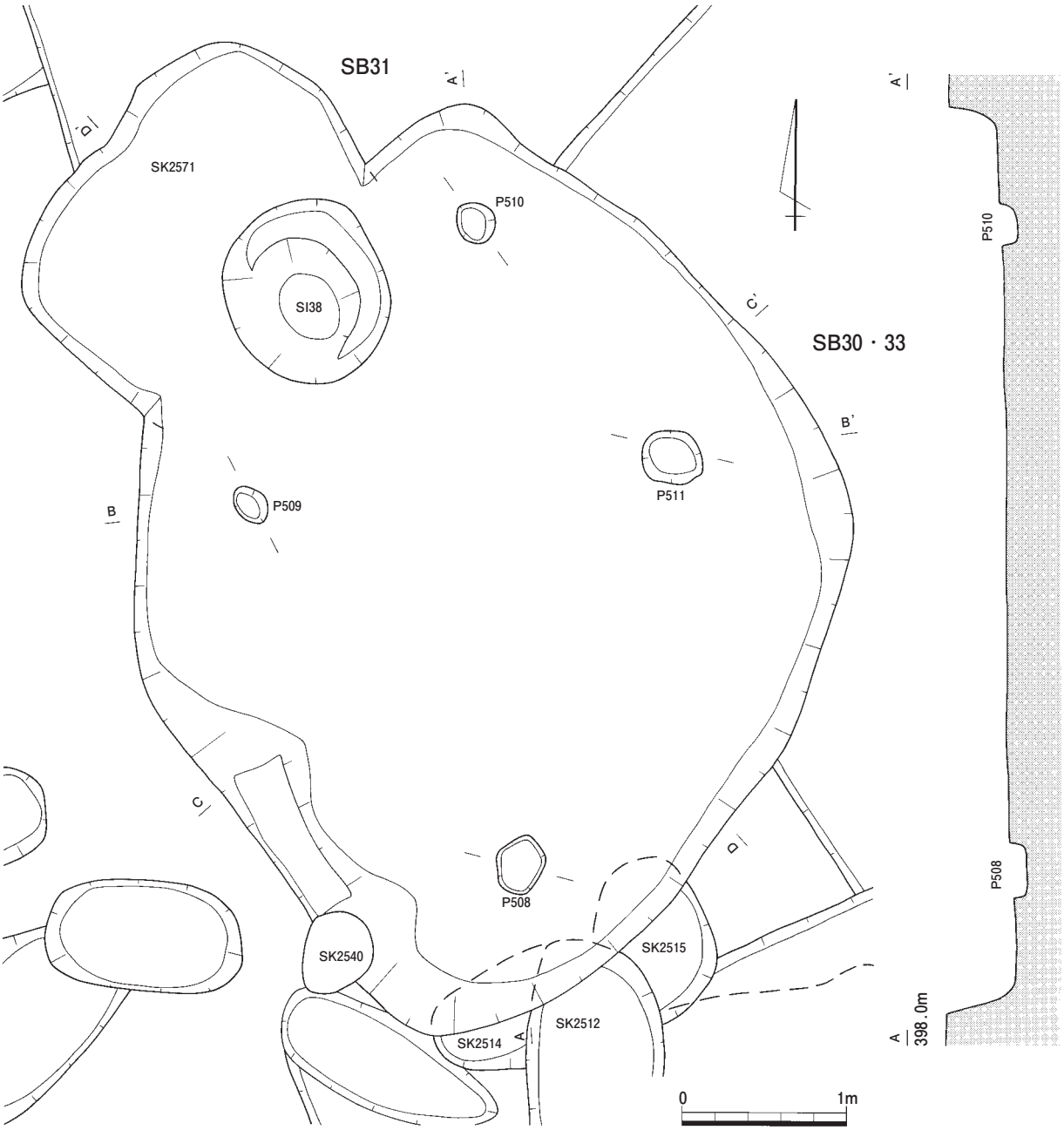
P506
黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりなし、礫を含む

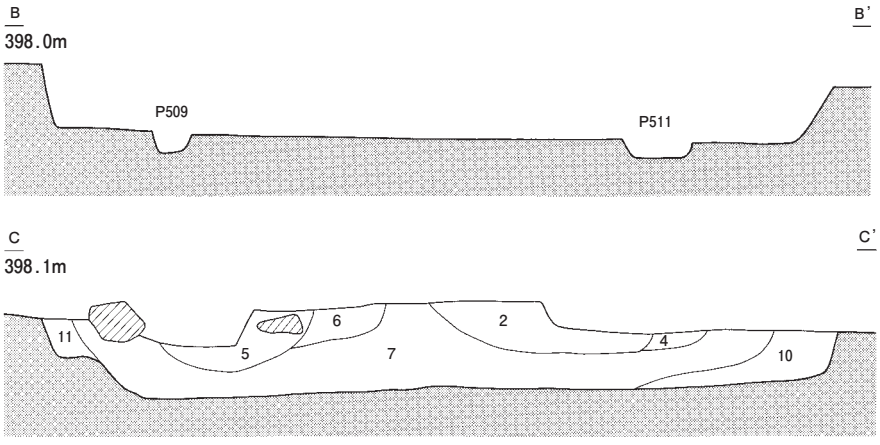


P507
1. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり
2. 黒褐色土（10YR2/2、1よりやや黒色）、粘性なし、しまりなし

0　1m

図148　SB36遺構図





1. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりややあり、径2㎝の褐色土(10YR4/4)ブロックを含む
2. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
3. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりなし、径3㎝の褐色土(10YR4/4)ブロック・少量の炭化物を含む
4. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりなし
5. 黒色土（10YR2/1）、粘性なし、しまりなし、礫を含む
6. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりなし
7. 黒色土（10YR2/1）、粘性なし、しまりややあり、礫を少量含む
8. 黒褐色土（10YR2/2、3より淡い）、粘性なし、しまりなし、礫を少量含む
9. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む
10. 黒色土（10YR1.7/1）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
11. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり

図149　SB37遺構図（1）

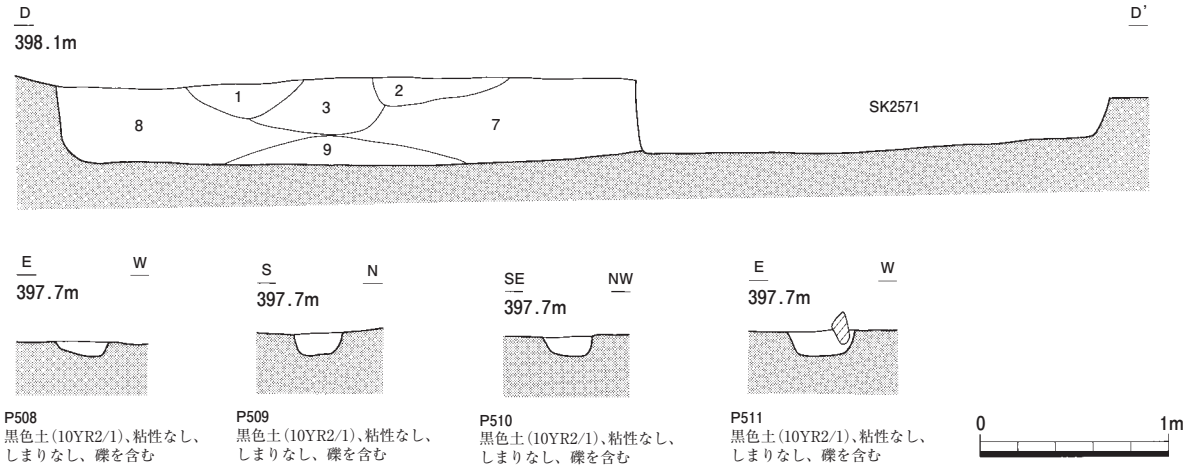


図150　ＳＢ37遺構図（２）

な貼床や硬化面は確認できず、Ⅸａ層上面で遺構を検出したため、検出面は凹凸が著しく竪穴の掘形に達した可能性もあるが、土層断面図を見る限り床面はほぼ水平である。

施設　竪穴内部で５基の遺構を検出した。柱穴は４基（Ｐ508・509・510・511）が想定でき、Ｐ508・510とＰ509・511の柱筋が直交する。ＳＩ38は底面で検出された遺構であるが、竪穴床下の早期後葉の焼礫集積遺構である。炉跡は検出されなかった。

出土遺物　竪穴の埋土から、縄文土器と石器が散在的に出土した。土器は、少量ながら中期後葉で占められる。石器は、ＲＦ１点・磨・敲石類１点・打欠石錘３点が出土した。

所属時期　竪穴出土土器から中期後葉（第３又は４段階）と判断する。

ＳＢ38（現場名ＳＢＧ１、図151・152、図版52）

位置　ｇ33・ｇ34・ｇ35・ｈ33・ｈ34・ｈ35グリッドに位置する。

検出状況　Ⅵｃ層上面で検出した。ＳＦ82・ＳＫ2832・2833に切られる。当初楕円形の竪穴を想定していたが、南東部の土層観察用ベルトを検討した結果、竪穴の立ち上がりが確認された。このことから複数の竪穴住居跡が重複している可能性がある。埋土は３層に分けられ、土層は水平に堆積する。

形状と規模　平面形は不整円形と考えられる。長径4.64ｍ以上・短径4.59ｍ・床面積21.04㎡以上を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.2mを測り、壁はわずかに立ち上がる。明確な貼床や硬化面は確認できず、Ⅵｃ層で遺構を検出した。床面はほぼ水平である。

施設　床面で15基の遺構を検出した。柱穴は５基（Ｐ512・515・518・519・521）が想定できる。Ｐ512･515とＰ519･521は、Ｐ512･521の中点とＰ518を結ぶ線を軸に、左右対称に位置する。Ｐ524（図152中央右、土坑Ｄ２ｄ類）とＰ525（図152下、土坑Ｄ１ｂ類）は共に床面で検出したが、埋土上部に亜円礫又は亜角礫を含む土坑であり、本遺構廃絶後の遺構の可能性もある。ＳＵ５（図152中央）は中期後葉の土器（1327）の破片を環状に組み合わせ、その内部から磨・敲石類１点（2204）が置かれた状態で出土し、直下からは種実（第６章第３節参照）が検出された。ただし掘形が検出されなかったため、遺物集積と判断した。

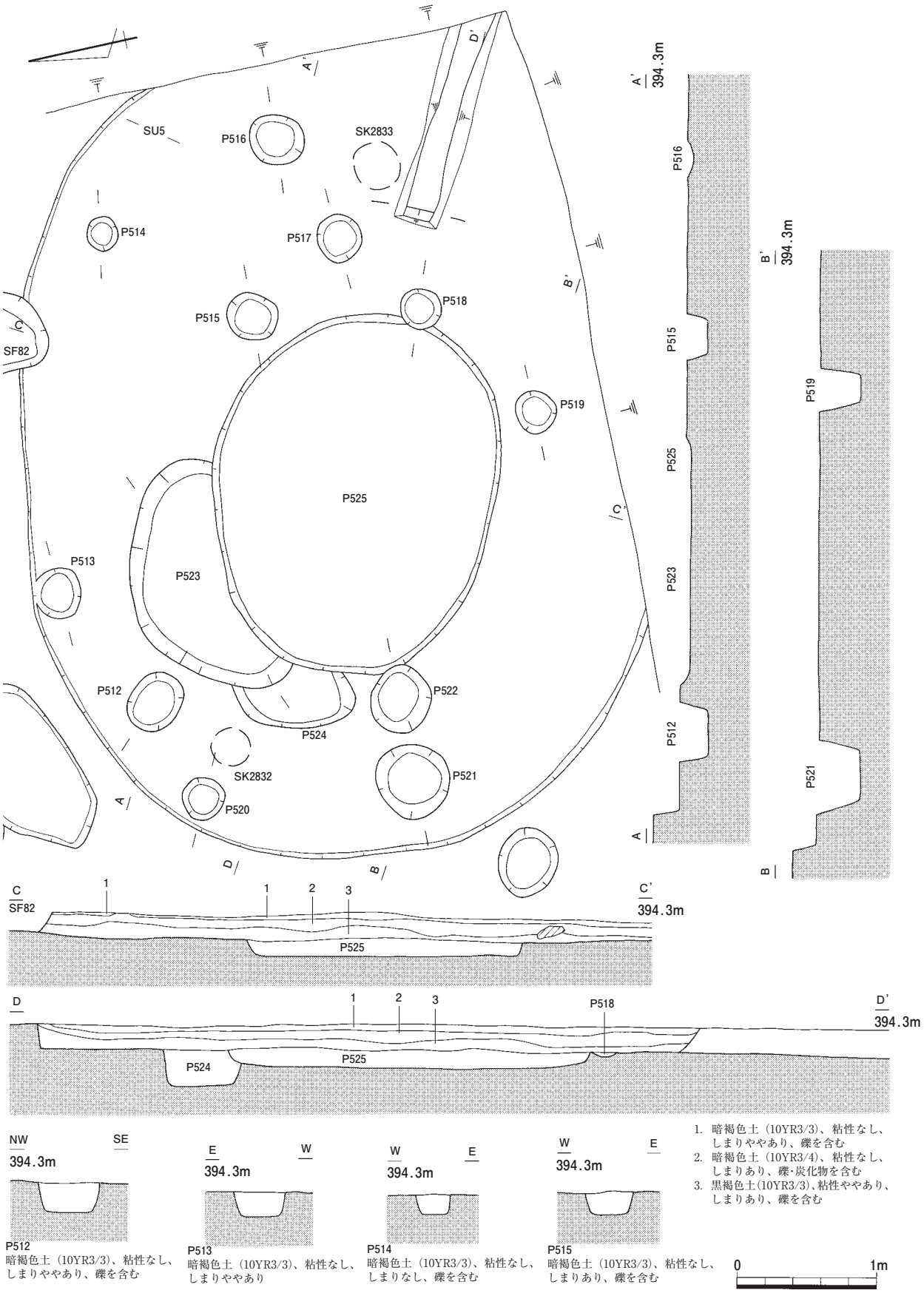


図151　SB38遺構図（1）

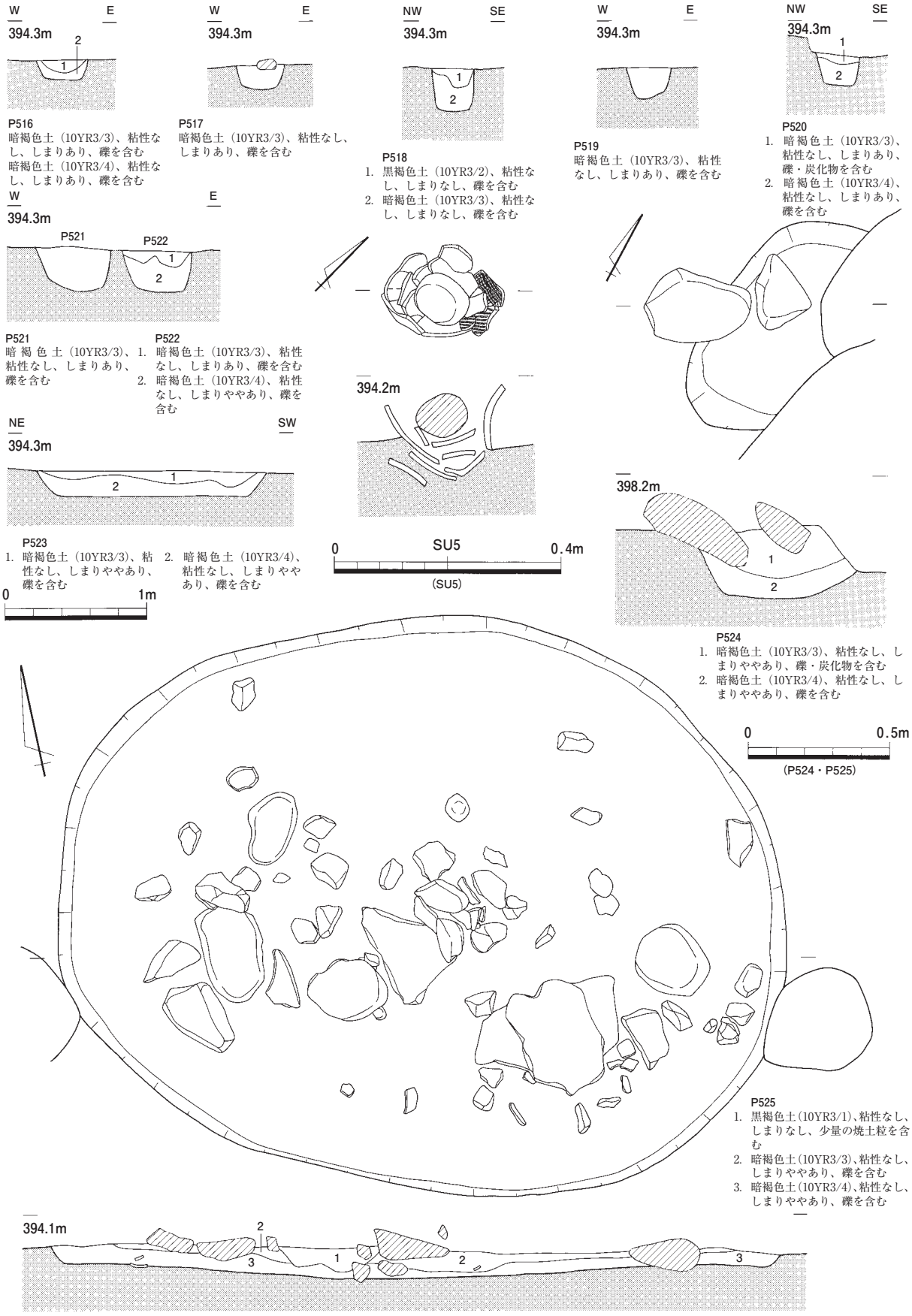


図152　SB38遺構図（2）

出土遺物　竪穴の埋土から縄文土器・石器・炭化物が散在的に出土した。土器は中期前葉から中期中葉まで認められるが、主体は中期前葉である。石器は、石核1点・石鏃1点・石錐3点・掻器1点・ＲＦ2点・ＵＦ1点・磨・敲石類2点・打欠石錘15点・切目石錘3点・石皿1点が出土した。なおＰ525から、石鏃1点（2123）・掻器1点（2141）・打欠石錘9点（2211～2214・2235～2239）・切目石錘1点（2262）・石皿1点が出土した。

所属時期　竪穴出土土器の主体から中期前葉船元Ⅰ式併行と判断する。

2　掘立柱建物跡

ＳＨ2（図153・154、図版56）

位置　S21・S22・T20・T21・T22グリッドに位置する。

検出状況　Ⅵb層基底面で検出した。現地調査では土坑として認識していたが、調査終了後に空中写真の観察により、比較的規模の大きな6基の土坑が規則的に並ぶ様子から、掘立柱建物跡として認定するに至った。遺構の検出面では、明確な貼床や硬化面は認められず、ほぼ水平である。

形状と規模　平面形は長方形である。柱真々で長辺約5.16m（ＳＫ2878・2881間）・短辺約2.69m（ＳＫ2881・2905間）、面積は13.88㎡を測る。

柱穴の状況　柱穴は6基（ＳＫ2875・2878・2881・2905・2907・3004）で構成される。いずれも根固めの礫、土層における柱痕状の堆積、底面の柱痕跡は認められなかった。ただしＳＫ3004では比較的大型の礫を含む土層が南東に偏り、ＳＫ2905では土層に垂直な立ち上がりが認められることから、人為的な埋め戻しか柱の抜き取りを示すと考えることができる。また各柱穴の特徴をみると、平面形は円形や楕円形である。断面形は壁が垂直な面だけではなくＳＫ2875の北西壁・ＳＫ2881の西壁・ＳＫ2878の東壁・ＳＫ2907の東壁で傾斜面が認められ、柱の挿入又は抜き取り箇所とみられる。底面の標高は隅柱（ＳＫ2878・2881・2905・3004）が395.695～395.911m、柱筋中央の柱（ＳＫ2875・2907）が395.836～395.878mで、隅柱間のレベル差が大きい。検出面から底面までの深さは、最大で約0.95m（ＳＫ3004）を測る。

出土遺物　柱穴の埋土から縄文土器・炭化物が散在的に出土した。土器は前期前葉～後期前葉まで認められるが、主体は後期前葉である。

所属時期　埋土出土土器の主体から後期前葉中津Ⅱ式併行と判断する。

3　炉跡・焼土遺構

2基の炉跡（ＳＦ82・85）と、3基の焼土遺構（ＳＦ83・84・86）を検出した。炉跡は後述する。焼土遺構はいずれも掘形を持ち、埋土に不均質で粒状又はブロック状の焼土が粒状に点在する。礫及び礫の抜き取り痕跡はなく、周辺に柱穴は確認されなかった。

ＳＦ82（図155）

位置　h33・h34グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径0.98m・短径0.68m・深さ0.68mを測る。

概要　Ⅵc層上面で検出した。ＳＢ38を切る。焼土粒又はブロックを含まない土層（1・2層）を取り除くと、硬化してはいないものの強く被熱した均質な焼土層（3層）が、面的に検出された。この焼土面の下部土層（4層）と共に、掘形の底面でも被熱痕跡は認められなかった。

出土遺物　埋土から、ＵＦ1点が出土した。

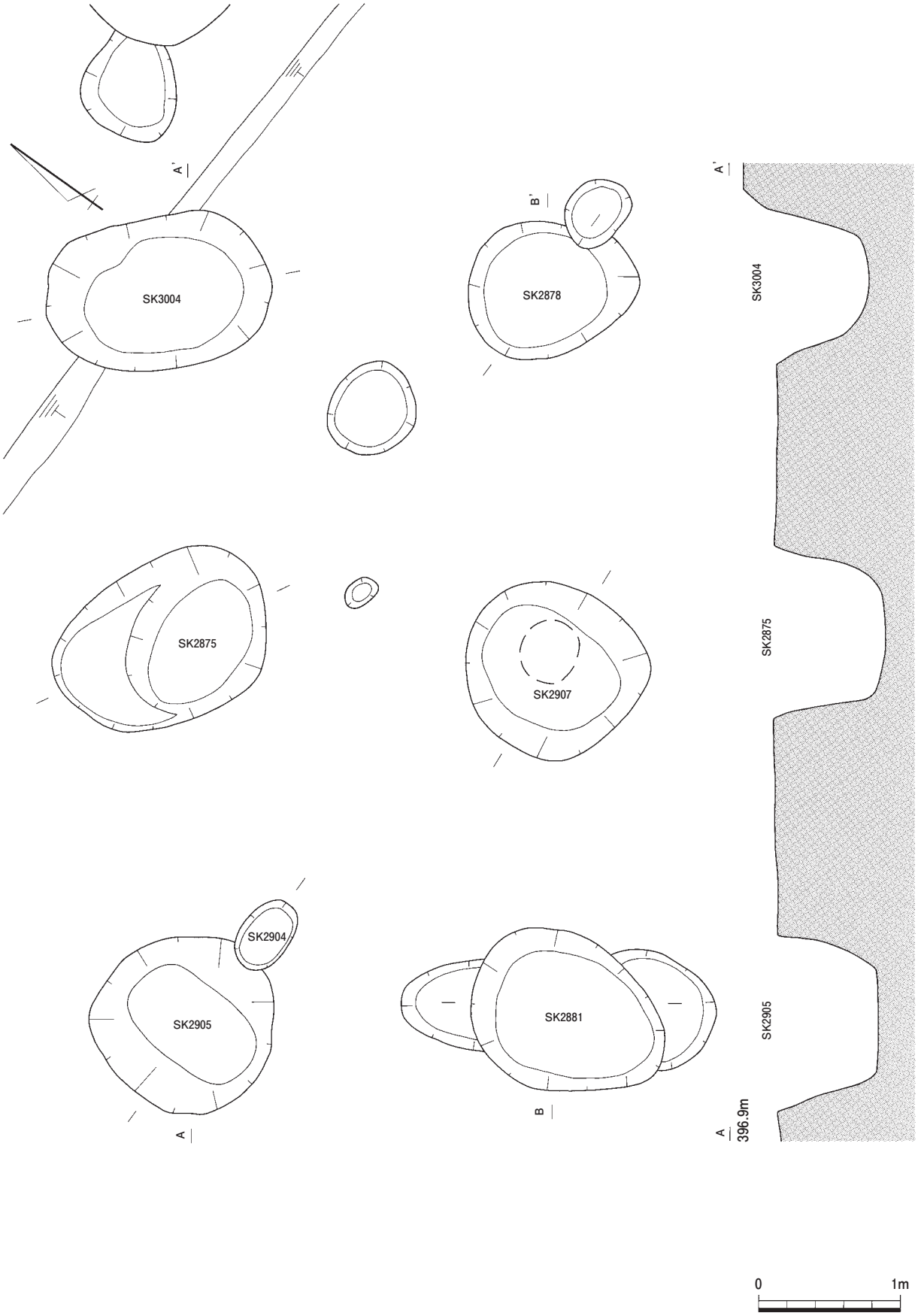


図153　SH2遺構図（1）

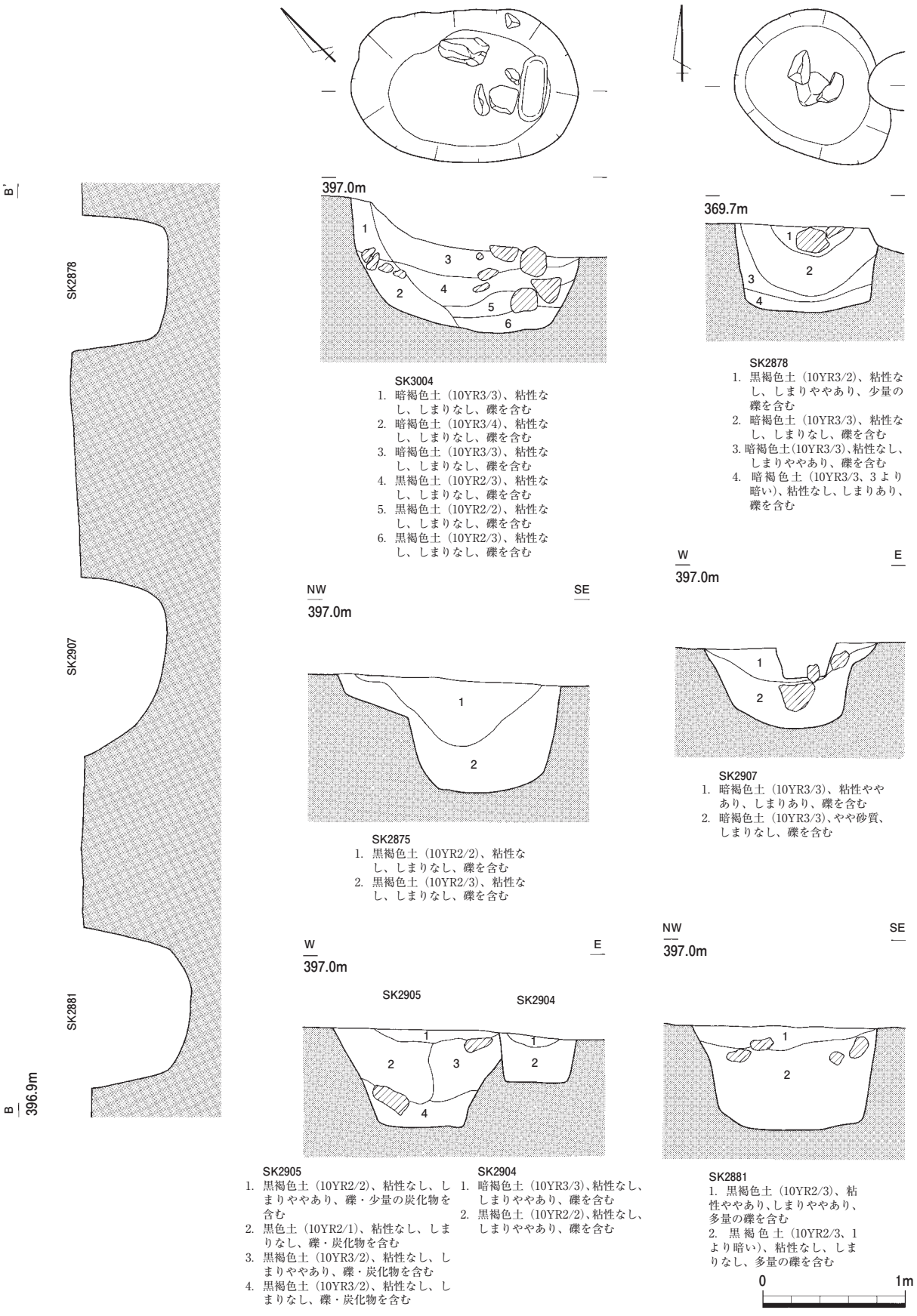
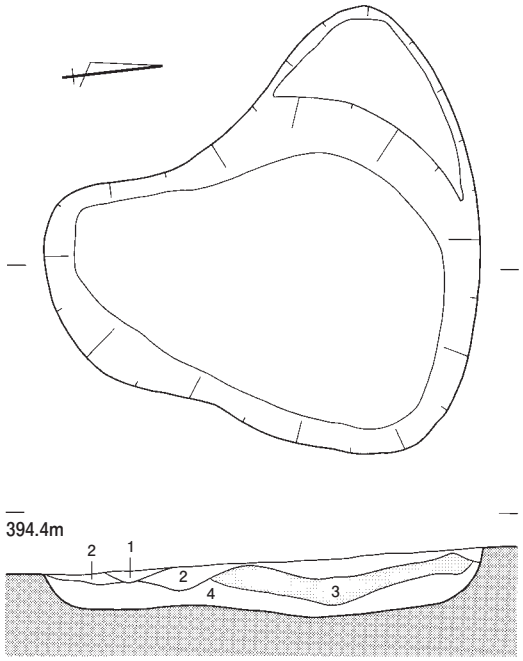
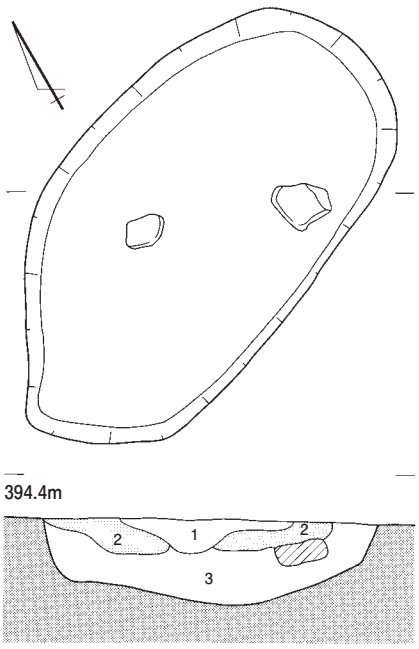


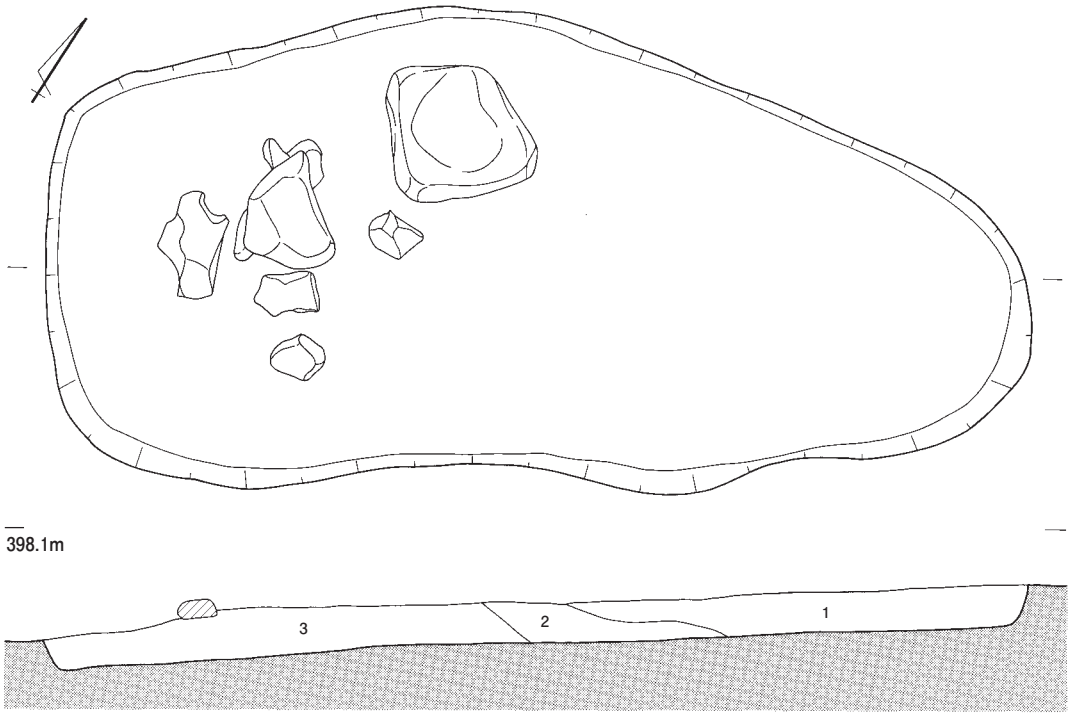
図154　SH2遺構図（2）



SF82
1. 暗赤褐色土（2.5YR3/3）、粘性ややあり、しまりややあり、少量の礫を含む
2. 暗赤褐色土（2.5YR3/4）、粘性ややあり、しまりややあり、少量の礫を含む
3. 赤褐色土（2.5YR4/6、焼土）、粘性なし、しまりなし
3. 褐色土（7.5YR4/4）、粘性ややあり、しまりあり、少量の礫を含む



SF85
1. 暗褐色土（7.5YR3/3）、粘性なし、しまりややあり
2. 褐色土（7.5YR4/6、焼土）、粘性なし、しまりややあり
3. 暗褐色土（10YR3/4）、粘性なし、しまりあり、礫を含む



SK2501
1. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりあり、多量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
3. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む

図155　第 4 調査面検出遺構図（1）

ＳＦ85（図155）

位置　g33・g34グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径1.22m・短径0.64m・深さ0.24mを測る。

概要　Ⅵc層上面で検出した。ＳＦ86を切る。焼土粒又はブロックを含まない土層（1層）を取り除くと、硬化してはいないものの強く被熱した均質な焼土層（2層）が、面的に検出された。この焼土面の下部土層（3層）と共に、掘形の底面でも被熱痕跡は認められなかった。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器・打欠石錘10点（2208～2210・2228～2234）が出土した。

4　焼礫集積遺構

ＳＩ38（図156、図版53）

位置　O12グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形を呈し、長径0.95m・短径0.60m・深さ0.30mを測る。

概要　Ⅸa層上面で検出した。ＳＢ37・ＳＫ2571に切られる。埋土上部で長径5～28㎝の多量の礫が浮上する。礫の円磨度は亜角礫が主体で少量の亜円礫を伴い、大半の礫に被熱の痕跡が認められた。礫が集中する埋土1層の下部には粘性の強い黒色土（3層）が堆積し、西壁面で被熱の痕跡が認められた。ただし焼土は検出されなかった。このことから当遺構はいわゆる「被覆型集石遺構」である。

出土遺物　埋土から早期後葉の土器（1285）・炭化物が少量出土した。

5　土坑

ＳＫ2469（図161、図版53）

位置　f33・g33グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径1.45m・短径0.72m・深さ0.48mを測る。

概要　Ⅵc層上面で検出した。ＳＫ2822・2823・2824に切られる。土坑中央の埋土上部に、長径6～41㎝の多量の礫が浮上する（土坑Ｄ1ｂ類）。礫は3段に積まれており、最上部に長径40㎝の円礫1個を置く。礫の上面は、土坑中央に向かって傾斜するものが多い。礫の円磨度は円礫が大半で、少量の扁平円礫を含む。

出土遺物　埋土から、磨・敲石類1点（2205）・打欠石錘1点（2227）が出土した。

ＳＫ2470（図160、図版53）

位置　f33・f34・g33・g34グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径1.25m・短径1.08m・深さ0.34mを測る。

概要　Ⅵc層上面で検出した。重複遺構はない。土坑中央の埋土上部に、少量の亜円礫又は亜角礫が浮上する（土坑Ｄ2ｄ類）。

出土遺物　埋土からＲＦ1点・打欠石錘2点が出土した。

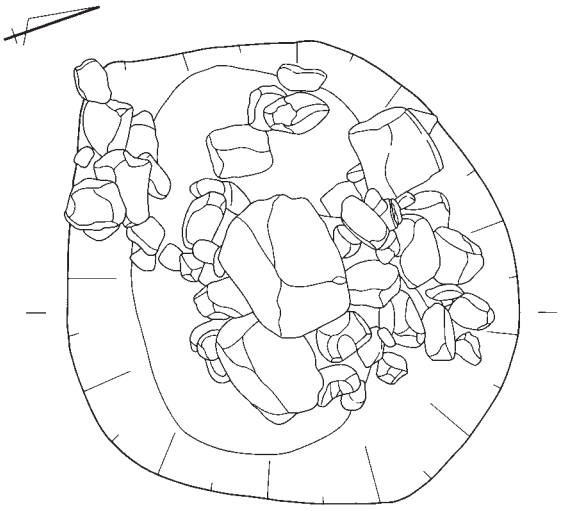
ＳＫ2473（図156）

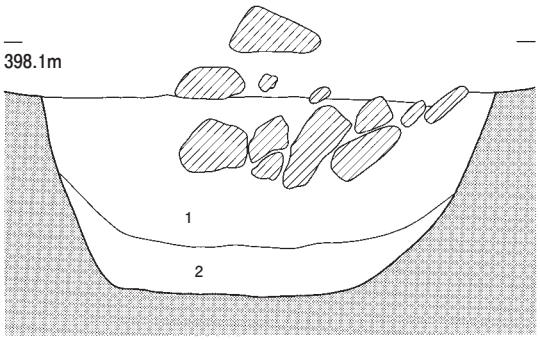
位置　O6・O7グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.65ｍ以上・短径0.65ｍ・深さ0.32ｍを測る。

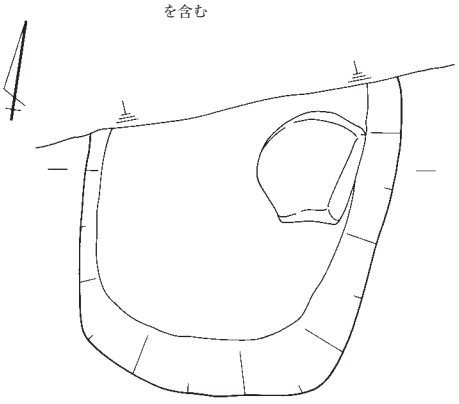
概要　Ⅵb層基底面で検出した。ＳＫ2474を切る。土坑中央東寄りの埋土上面には、長径30㎝の亜円礫1個が浮上する（土坑Ｄ2ｄ類）。

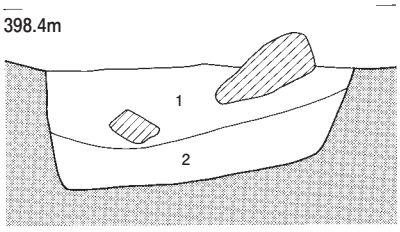
出土遺物　なし。



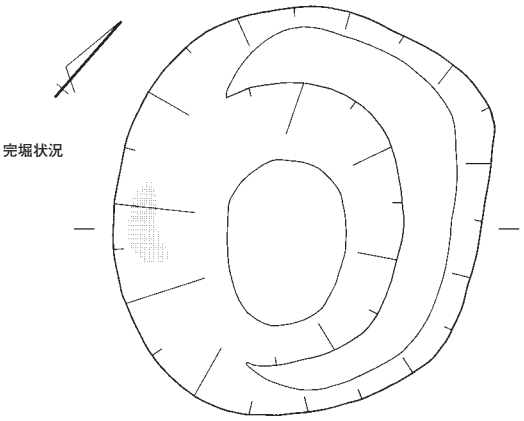


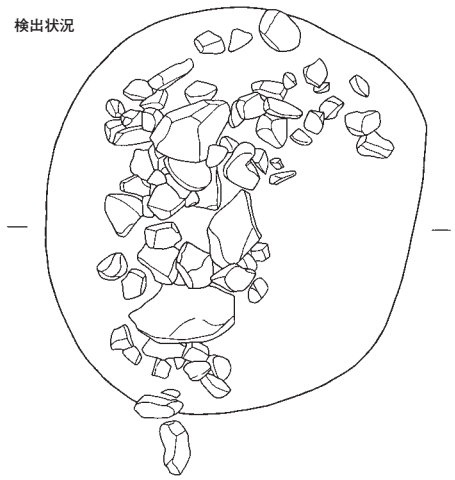
SK2494
1. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、多量の礫・炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性なし、しまりなし、礫・炭化物を含む

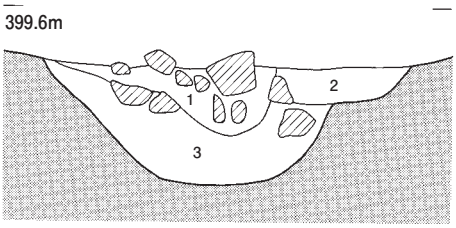




SK2473
1. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりあり、礫を含む
2. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりあり







SI38
1. 黒色土（10YR2/1）、粘性なし、しまりややあり、礫・多量の炭化物を含む
2. 黒色土（5Y2/1）、粘性なし、しまりなし、礫・黒褐色土（10YR3/2）が薄く堆積する
3. 黒色土（N2/0）、粘性あり、しまりなし、礫を含む

図156　第 4 調査面検出遺構図（2）

ＳＫ2483（図157）

位置　Ｍ９グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形である。長径0.83m・短径0.80m・深さ0.31mを測る。

概要　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＫ2484・2485に切られる。土坑中央の埋土上部には、長径23cmの角礫１個が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。

出土遺物　埋土からフレイク２点が出土した。

ＳＫ2494（図156、図版53）

位置　Ｍ９・Ｎ９グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径1.03m・短径0.70m・深さ0.73mを測る。

概要　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＢ27・35を切る。土層堆積状況から２基の土坑の重複であることが判明したため、ここでは後出の１基を掲載した。埋土上部で長径６～23cmの多数の礫が浮上し、土坑中央の埋土最上部に長径32cmと37cmの礫２個を置く（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は亜角礫で占められる。

出土遺物　埋土からＲＦ２点・ＵＦ１点・打欠石錘１点（2223）が出土した。

ＳＫ2501（図155、図版53）

位置　Ｐ12グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形である。長径2.55m・短径1.14m・深さ0.16mを測る。

概要　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＢ30・37・ＳＫ2502を切る。土坑南西部の埋土下部には、長径13～35cmの少量の礫が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。礫の円磨度は亜角礫が主体で、少量の亜円礫を伴う。

出土遺物　埋土から石鏃１点が出土した。

ＳＫ2518（図157、図版53）

位置　Ｑ15・Ｑ16グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径2.88m・短径2.36m・深さ0.38mを測る。

概要　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＢ32・ＳＫ2576を切る。埋土上部に、長径10～45cmの多量の礫が浮上する（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の円磨度は亜円礫が主体で、少量の亜角礫を伴う。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器（1287）・石錐１点・石匙１点・掻器１点・ＲＦ３点・ＵＦ１点・磨・敲石類５点が出土した。

ＳＫ2523（図157、図版53）

位置　Ｏ14・Ｐ14グリッドに位置する。

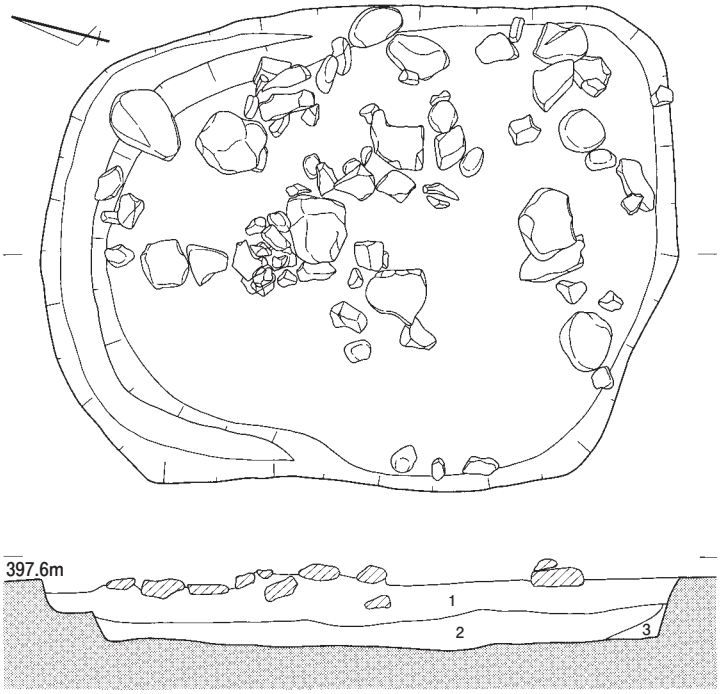
形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径3.41m・短径1.72m・深さ0.25mを測る。

概要　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＫ2532・2533・2534・2535を切る。土坑東壁沿いの埋土上部で、長径20～36cmの礫をＬ字形に配置する（Ｂ２類）。礫の円磨度は亜円礫が主体で、少量の亜角礫を伴う。

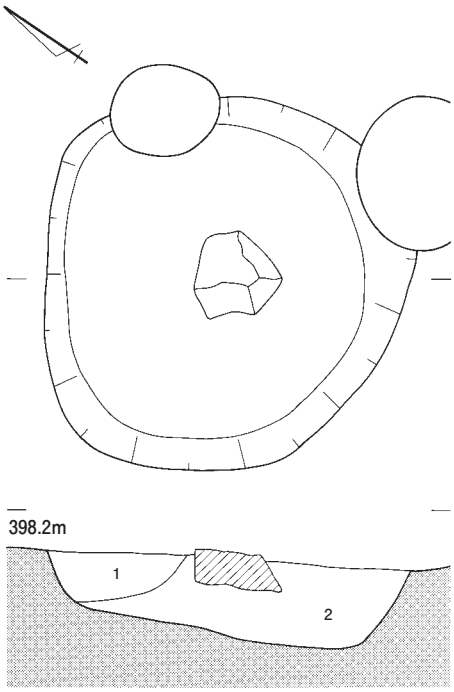
出土遺物　埋土から中期前葉～後葉の土器（1288～1291）・土器片円板１点（2015）・石鏃１点・ＵＦ１点が出土した。

ＳＫ2526（図158、図版54）

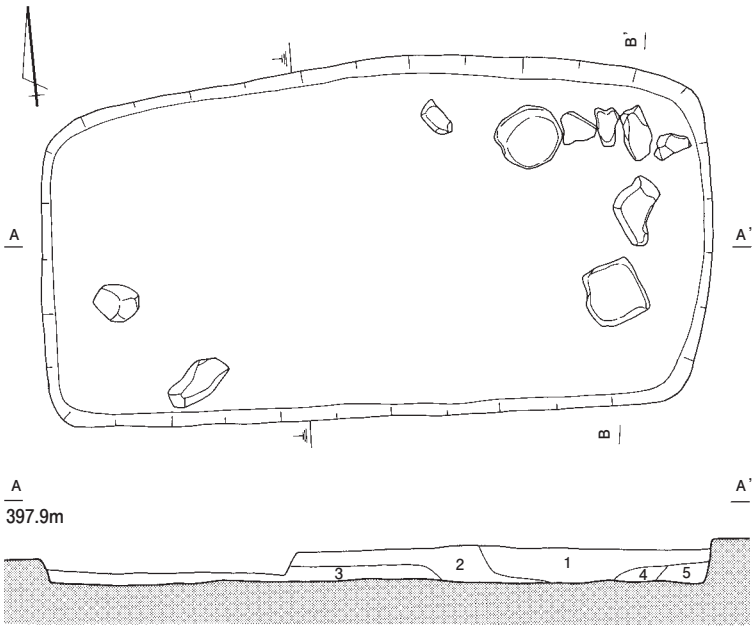
位置　Ｐ13グリッドに位置する。



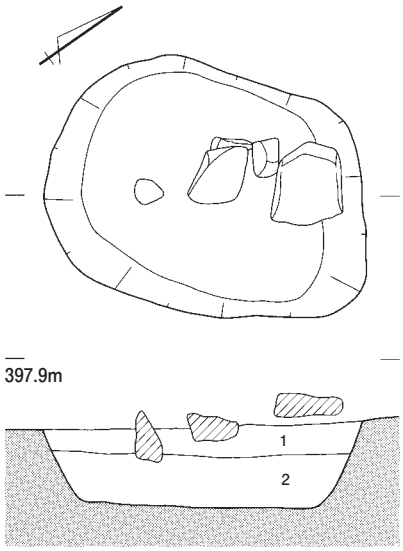
SK2518
1. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性あり、しまりあり、多量の礫を含む
2. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性ややあり、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
3. 黒色土（10YR1.7/1）、粘性ややあり、しまりあり



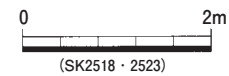
SK2483
1. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、礫を少量含む
2. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性なし、しまりなし、礫・少量の炭化物を含む



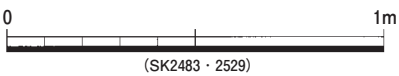
SK2523
1. 暗褐色土（7.5YR3/3）、粘性なし、しまりややあり、多量の焼土粒と礫・炭化物を含む
2. 黒褐色土（7.5YR3/2）、粘性なし、しまりややあり、礫・炭化物を含む
3. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりあり、礫を含む
4. 黒褐色土（7.5YR3/2）、粘性なし、しまりあり、少量の炭化物を含む
5. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりあり、礫を含む



SK2529
1. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性なし、しまりあり、少量の炭化物を含む

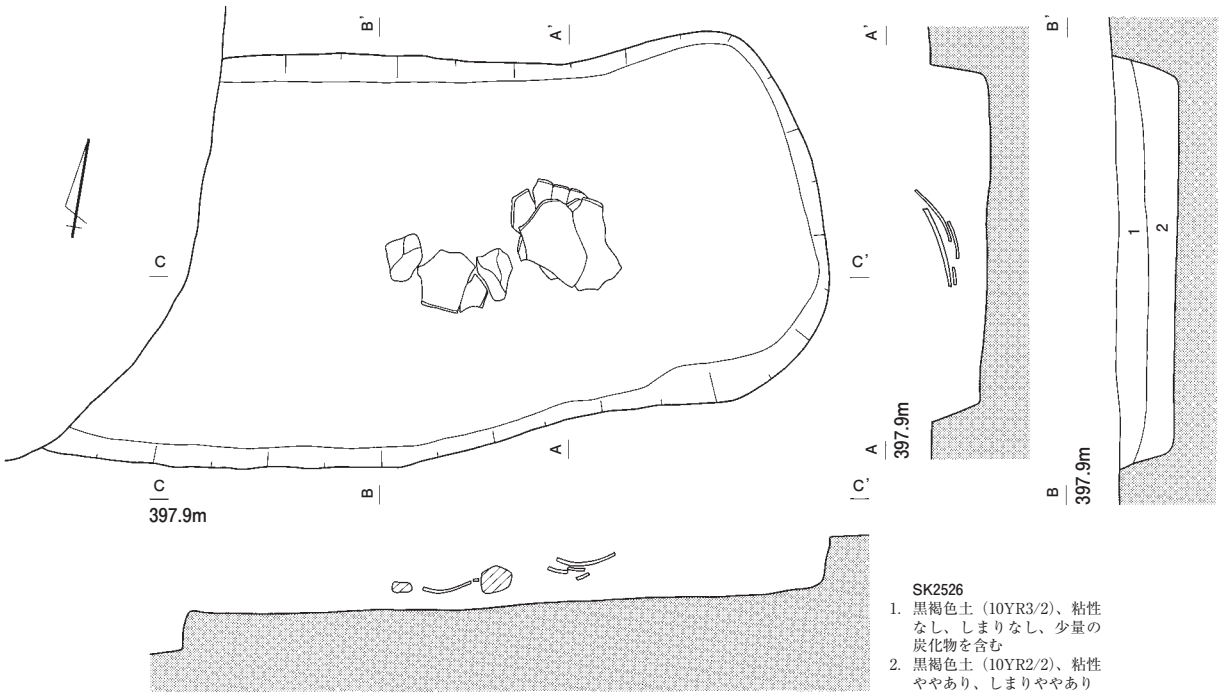


（SK2518・2523）

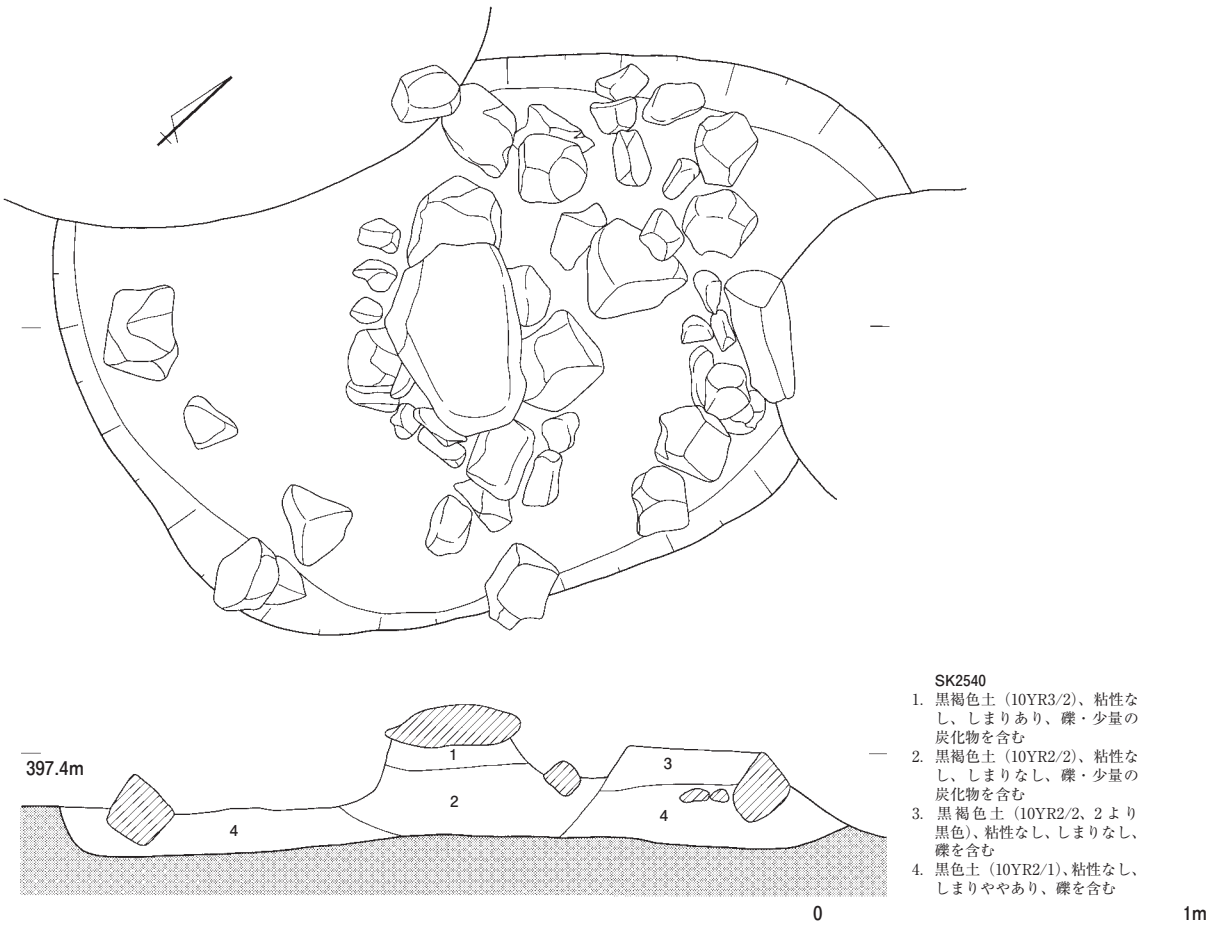


（SK2483・2529）

図157　第 4 調査面検出遺構図（3）



SK2526
1. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりなし、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性ややあり、しまりややあり



SK2540
1. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりあり、礫・少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりなし、礫・少量の炭化物を含む
3. 黒褐色土（10YR2/2、2より黒色）、粘性なし、しまりなし、礫を含む
4. 黒色土（10YR2/1）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む

図158　第4調査面検出遺構図（4）

形状と規模　平面形は不整長方形である。長径1.96m以上・短径0.95m・深さ0.18mを測る。

概要　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＫ2512に切られ、ＳＢ34・ＳＫ2573を切る。土坑中央東寄りで、土器片（826）と少量の礫が浮上する。土器片はすべて内面を上に向け、一部は複数の土器を重ねていた（土坑Ｃ２類）。

出土遺物　埋土から中期中葉の土器（1297～1299）・土器片円板１点（2016）・石鏃２点（2077・2122）・楔形石器１点（2170）・石匙１点（2135）・ＲＦ１点・ＵＦ３点・打欠石錘１点・切目石錘１点（2271）が出土した。

ＳＫ2529（図157、図版54）

位置　Ｐ11・Ｑ11グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径0.65m・短径0.53m・深さ0.29mを測る。

概要　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＫ2528を切る。土坑中央東寄りの埋土上部に、長径８～22㎝の少量の亜角礫が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ2540（図158、図版54）

位置　Ｏ14・Ｏ15グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径2.15m・短径1.30m・深さ0.25mを測る。

概要　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＫ2536に切られＳＢ36・Ｐ497を切る。埋土下部で長径８～36㎝の多数の角礫が浮上し、土坑中央の埋土最上部に長径50㎝の扁平円礫１個を置く（土坑Ｄ１ｂ類）。ただし土層を観察したところ、土坑中央で立ち上がりが認められることから、複数の土坑が重複している可能性がある。

出土遺物　埋土から中期後葉の土器（1300）が出土した。

ＳＫ2558（図159）

位置　Ｑ13グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径1.30m・短径0.65m・深さ0.20mを測る。

概要　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＫ2603に切られる。土坑北寄りの埋土上部で、長径11㎝と20㎝の亜円礫２個が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。なお土層を観察したところ、土坑内部で立ち上がりが認められることから、複数の土坑が重複している可能性がある。

出土遺物　埋土から打欠石錘１点が出土した。

ＳＫ2578（図159）

位置　Ｒ15グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径1.25m以上・短径0.87m・深さ0.42mを測る。

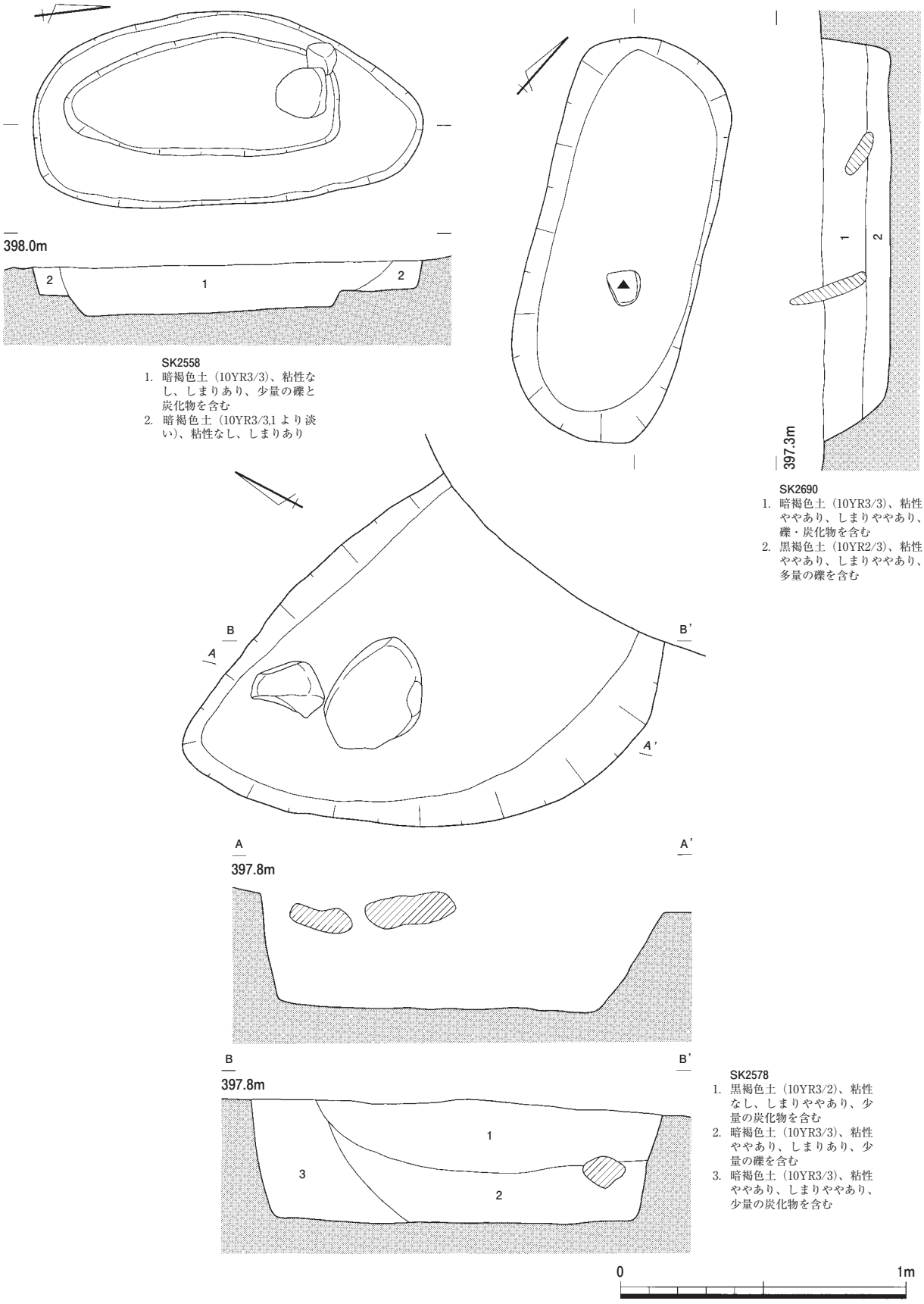
概要　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＫ2618に切られ、ＳＫ2579・2594を切る。土坑北西端の埋土上部に、長径25㎝と43㎝の円礫・亜円礫２個が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。

出土遺物　埋土から石核１点・掻器１点が出土した。

ＳＫ2632（図160）

位置　Ｒ16・Ｒ17グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径1.53m・短径0.82m・深さ0.37mを測る。



SK2558
1. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりあり、少量の礫と炭化物を含む
2. 暗褐色土（10YR3/3,1より淡い）、粘性なし、しまりあり

SK2690
1. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性ややあり、しまりややあり、礫・炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性ややあり、しまりややあり、多量の礫を含む

SK2578
1. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりややあり、少量の炭化物を含む
2. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性ややあり、しまりあり、少量の礫を含む
3. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性ややあり、しまりややあり、少量の炭化物を含む

図159　第4調査面検出遺構団（5）

概要　Ⅵｂ層基底面で検出した。重複遺構はない。土坑中央北寄りの埋土上部に、石皿１個が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。

出土遺物　埋土からＲＦ１点・磨・敲石類１点・石皿１点が出土した。

ＳＫ2690（図159、図版54）

位置　Ｒ18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径1.27ｍ・短径0.50ｍ・深さ0.23ｍを測る。

概要　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＫ2689に切られる。土坑中央南東寄りの埋土上部に、亜角礫（長径28㎝・短径14㎝・厚さ５㎝）１個を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ2756（図版54）

位置　Ｕ17・Ｖ18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径2.61ｍ・短径1.74ｍ・深さ0.32ｍを測る。

概要　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＫ2760・2775を切る。土坑中央の埋土上部に、亜円礫が数個浮上した（土坑Ｄ２ｂ類）。

出土遺物　埋土から中期中葉と後葉の土器（1305・1306）、石錐１点（2127）・ＵＦ１点・磨製石斧１点（2307）・打欠石錘１点（2215）・切目石錘１点（2266）が出土した。

ＳＫ2767（図161、図版54）

位置　Ｔ18・Ｕ18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径1.25ｍ以上・短径0.70ｍ以上・深さ0.23ｍを測る。

概要　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＫ2667・2766に切られ、ＳＫ2768・2772を切る。土坑中央南寄りで、土器片（1307）がまとまって浮上する（土坑Ｃ２類）。

出土遺物　上記の中期中葉の土器（1307）のみが出土した。

ＳＫ2778（図160、図版54）

位置　Ｓ15グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径1.12ｍ・短径0.85ｍ・深さ0.32ｍを測る。

概要　Ⅵｂ層基底面で検出した。ＳＫ2777を切る。土坑南西端の底面に、長径34㎝の亜円礫１個が置かれていた（土坑Ｄ２ａ類）。

出土遺物　なし。

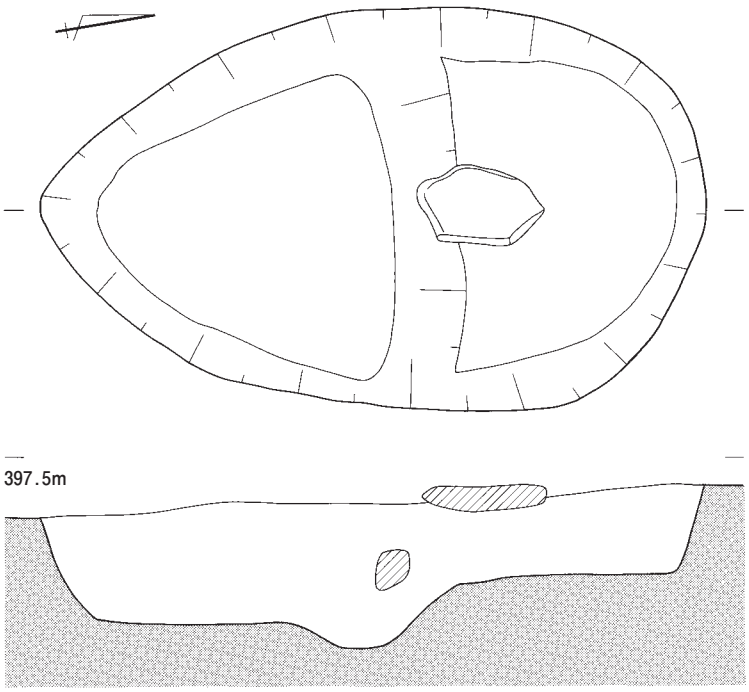
ＳＫ2801（図版54）

位置　ｇ32・ｇ33グリッドに位置する。

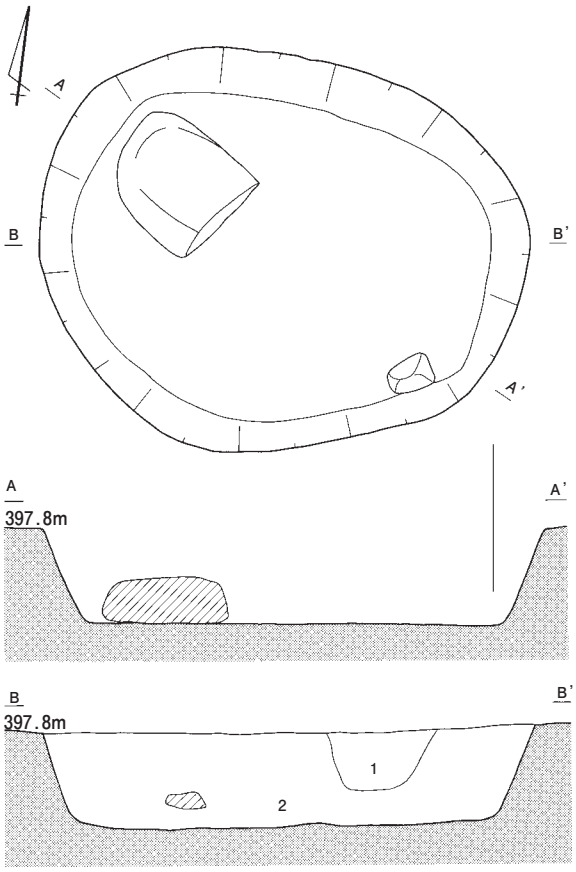
形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径1.79ｍ・短径1.09ｍ・深さ0.32ｍを測る。

概要　Ⅵｃ層上面で検出した。重複遺構はない。土坑中央の埋土下部に、少量の亜角礫が浮上する（土坑Ｄ２ｂ類）。

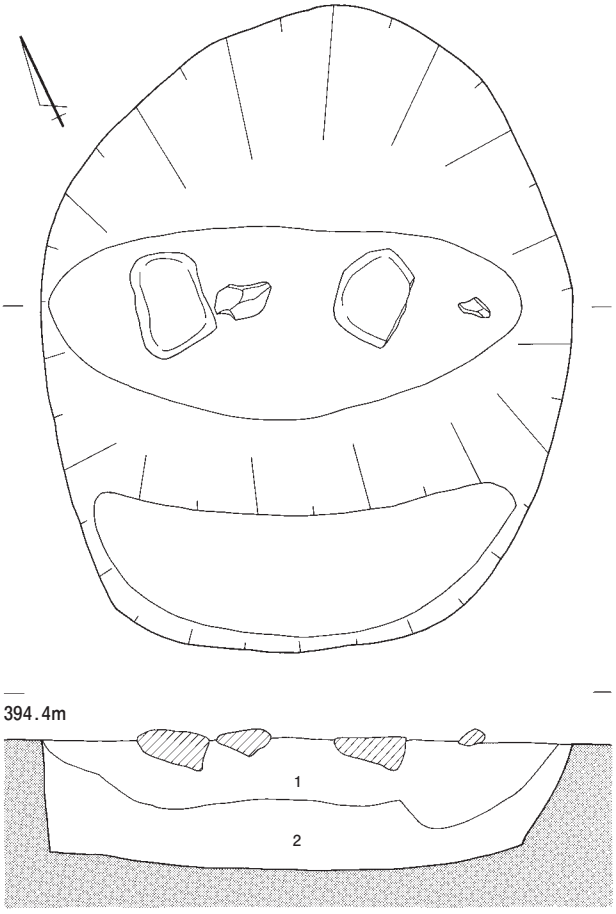
出土遺物　埋土から切目石錘１点（2270）が出土した。



SK2632
暗褐色土（10YR3/3）、粘性ややあり、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む



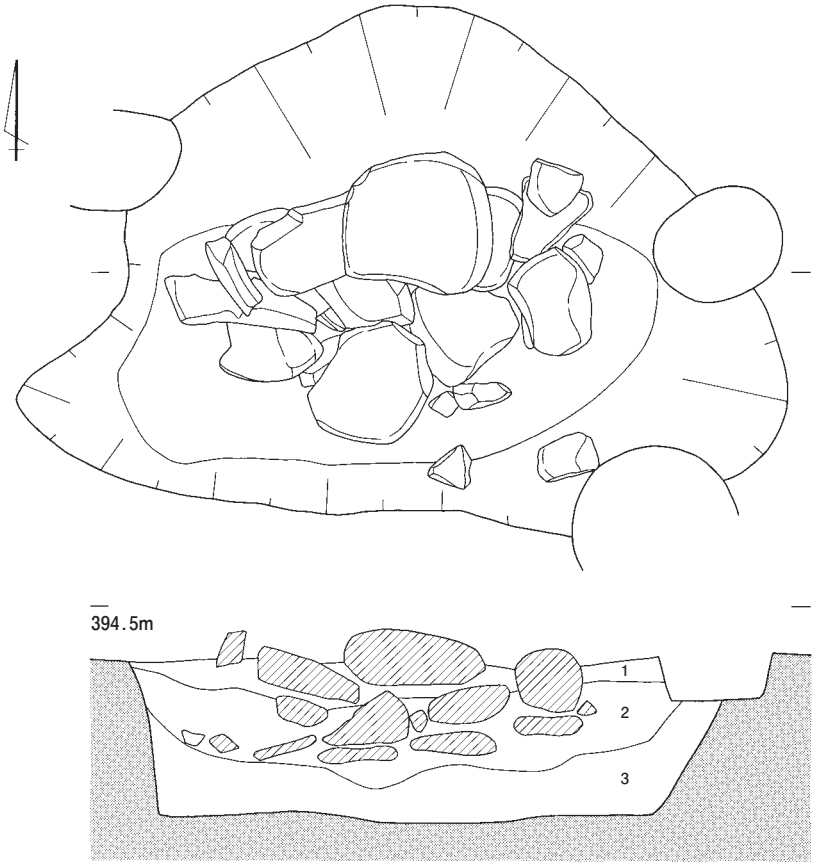
SK2778
1. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性ややあり、しまりややあり、少量の礫･多量の炭化物を含む
2. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性ややあり、しまりややあり、礫･少量の炭化物を含む



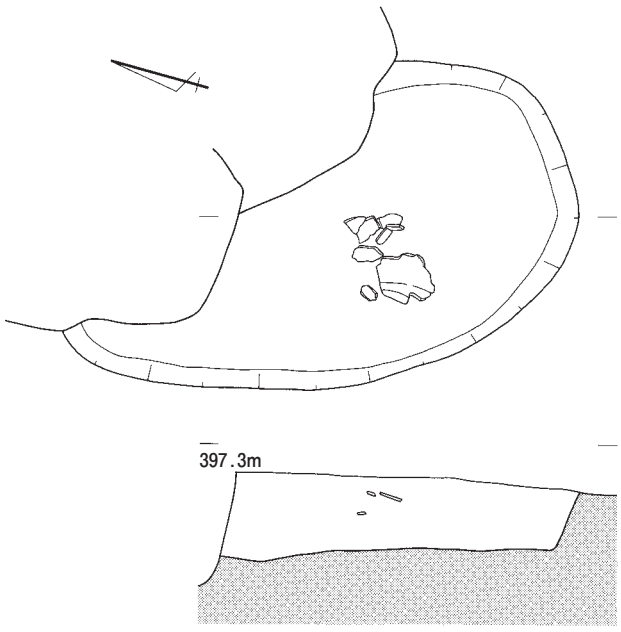
SK2470
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/4)、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む

0　1m

図160　第4調査面検出遺構図（6）



SK2469
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、多量の礫を含む
2. 暗褐色土（10YR3/3)、粘性ややあり、しまりあり、多量の礫を含む
3. 黒褐色土（10YR3/2)、粘性ややあり、しまりあり、礫を含む



SK2767
暗褐色土（10YR3/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫・炭化物を含む

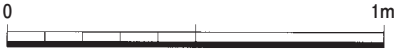


図161　第4調査面検出遺構図（7）

第7節　第5調査面

第5調査面では、Ⅵｃ層基底面で遺構を検出した。地点によって検出面の土層が異なり、W24グリッドとａ25グリッドを結ぶラインより北側にはⅦｂ層、Ｓ21グリッド及びＶ26グリッドとW28グリッドを結ぶラインから西側にはⅧｂ層、Ｓ22グリッドからＵ23グリッドにかけてＶ27グリッド周辺にはⅨａ層、それを除いた大部分はⅦａ層が分布する。標高ではＳ21グリッド（約396.7m）とａ24グリッド（約396.3m）を結ぶラインと、Ｓ26グリッド（約396.3m）とW28グリッド（約396.1m）を結ぶラインとの間に浅い凹地（底面約395.6m）が認められ、後述する第6調査面の形状と類似する。

1　竪穴住居跡

ＳＢ39（現場名ＳＢＦ１、図162・163、図版55・56）

位置　Ｚ27・Ｚ28・ａ27・ａ28グリッドに位置する。

検出状況　調査区南の南壁の観察によれば、検出面はＶｂ層基底面である。竪穴の南東部を調査溝（Ｃトレンチ）に切られる。また検出当初、本遺構がＳＢ40を切るとみられたが、重複の範囲が狭いため判然としない。埋土は5層に分けられたが、全体の堆積状況は不明である。

形状と規模　平面形は不整楕円形と考えられる。長径5.75m・短径4.14m以上・床面積20.81㎡以上を測る。

壁・床面の状況　調査区の南壁の観察では、検出面から床面までの最大の深さは約0.41mを測り、壁はわずかに立ち上がる。明確な貼床や硬化面は確認できず、Ⅷｂ層上面に達して遺構を検出した。床面はほぼ水平である。

施設　床面で17基の遺構を検出した。柱穴はＰ529・537を想定できるが、東側の柱穴2基がＡトレンチによって失われたとすれば、4基で構成する柱配置となる。埋甕ＳＺ16（図163右下）は竪穴の南側に位置し、胴部下半を欠いた土器（1331）を逆位に収める。炉跡は検出されなかった。

出土遺物　埋土から土器・石器・炭化物が散在的に出土した。図示できる遺物はないが、土器は、前期前葉から中期前葉と、中期後葉が認められる（床面検出遺構を含む）。石器は石核1点が出土した。

所属時期　ＳＺ16出土土器から、中期後葉（第1段階）と判断する。

ＳＢ40（現場名ＳＢＦ２、図164・165、図版55）

位置　Ｙ26・Ｙ27・Ｙ28・Ｚ27・Ｚ28グリッドに位置する。

検出状況　Ⅶ層上面で検出した。ただしＳＢ39の経緯から、検出面はＶｂ層基底面である可能性もある。ＳＫ2964（ＳＨ４の柱穴）・ＳＫ2320・2960・2961・2963・2967・2993・2994に切られる。また検出当初、本遺構がＳＢ40を切るとみられたが、重複の範囲が狭いため判然としない。埋土は4層に分けられ、土層は水平に堆積し、壁際には三角堆積が認められた。

形状と規模　平面形は円形である。長径5.63m・短径5.42m・床面積推定24.10㎡を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.16mを測り、壁はわずかに立ち上がる。明確な貼床や硬化面は確認できず、Ⅵｃ層基底面で遺構を検出した。床面はほぼ水平である。

施設　床面で13基の遺構を検出した。柱穴は4基（Ｐ543・544・546・550）を想定でき、柱配置は不規則である。

出土遺物　埋土から土器と石器が散在的に出土した。図示できる遺物はないが、土器は早期後葉から

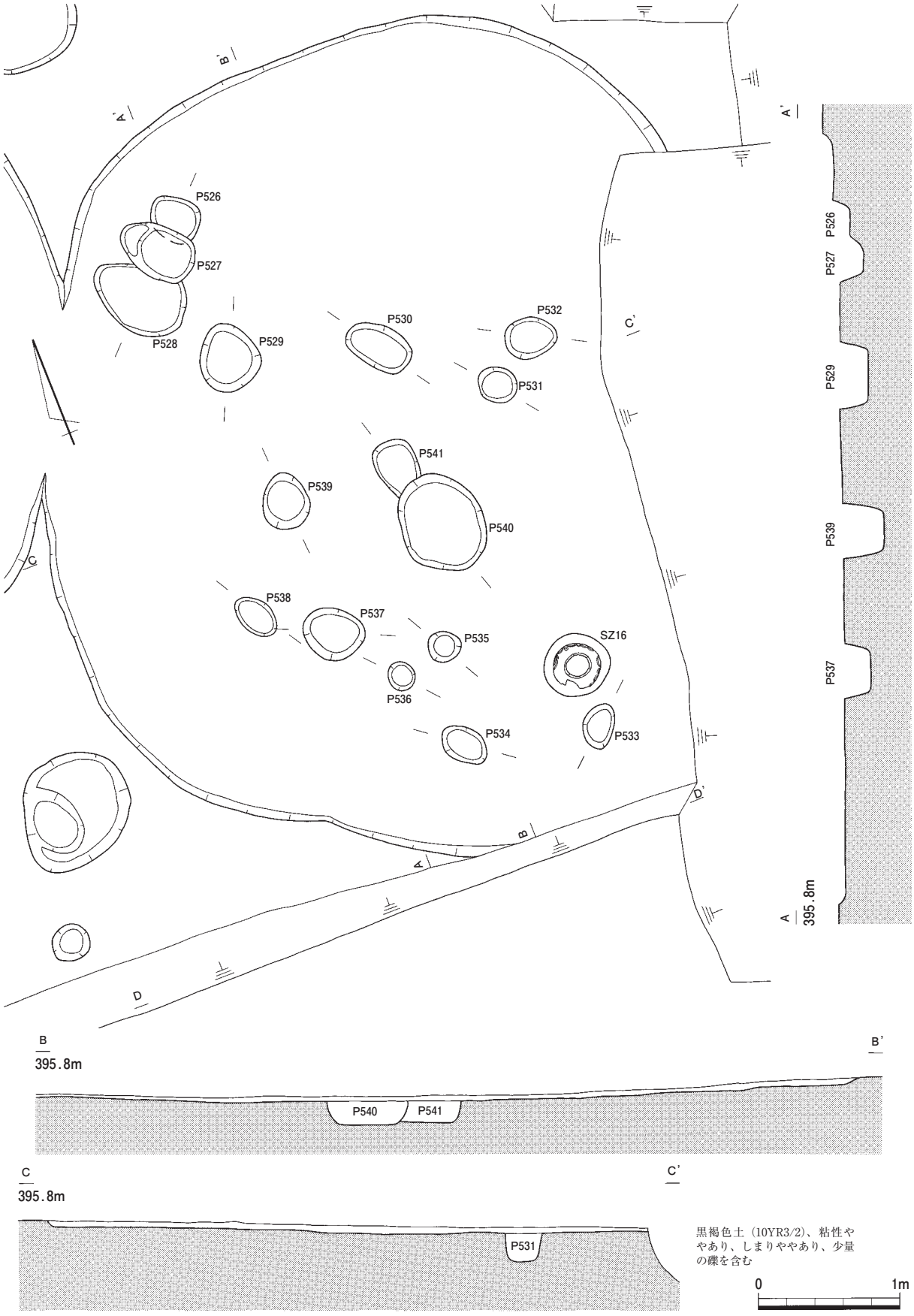
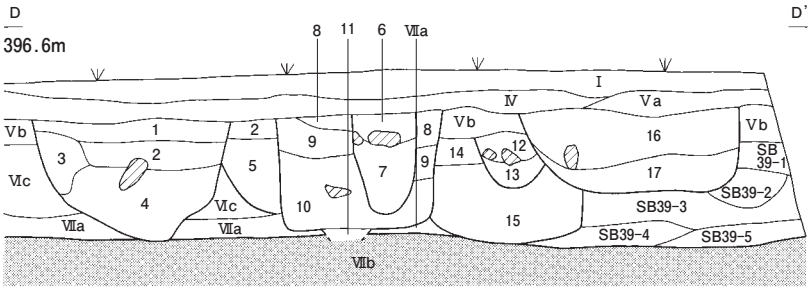


図162　SB39遺構図（１）

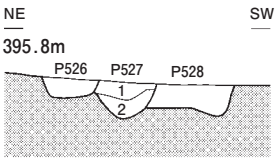


1. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性ややあり、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりあり、少量の炭化物を含む
3. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性ややあり、しまりなし、礫・少量の炭化物を含む
4. 暗褐色土(10YR3/3)、均質、粘性なし、しまりあり、礫・少量の炭化物を含む
5. 暗褐色土（10YR3/3）、粘性あり、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
6. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む
7. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性ややあり、しまりなし、多量の炭化物を含む
8. 黒褐色土（10YR2/2、1より暗い）、粘性あり、しまりややあり
9. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性ややあり、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
10. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
11. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり
12. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
13. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性ややあり、しまりややあり
14. 暗褐色土(10YR3/3、1よりも暗い)、粘性ややあり、しまりなし、礫を含む
15. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性ややあり、しまりややあり、礫・少量の炭化物・多量の暗褐色土（VIc・10YR3/4）粒を含む
16. 黒色土(10YR2/1)、粘性なし、しまりなし、礫・少量の炭化物を含む
17. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性あり、しまりなし、礫・少量の炭化物を含む

SB39
1. 暗褐色土（10YR3/3、3よりも暗い）、粘性なし、しまりなし、少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性あり、しまりなし、少量の炭化物を含む
3. 暗褐色土（10YR3/3）、砂質、しまりややあり、少量の炭化物を含む
4. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性ややあり、しまりややあり、少量の礫を含む
5. 黒褐色土（10YR3/2）、粘性ややあり、しまりややあり、少量の礫を含む

Ⅰ層
黒色土（2.5Y2/1）、粘性なし、しまりややあり、耕作土
Ⅳ層
黒色土（10YR2/1）、粘性なし、しまりなし、少量の礫と黒褐色土（10YR2/1）粒を含む
Ⅴa層
黒褐色土(10YR3/2)、粘性あり、しまりややあり
Ⅴb層
黒色土（10YR2/1）、粘性なし、しまりなし
Ⅵc層
暗褐色土(10YR3/4)、粘性あり、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
Ⅶa層
黒褐色土（10YR3/2）、粘性ややあり、しまりややあり、少量の礫を含む
Ⅶb層
黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりあり、礫を含む

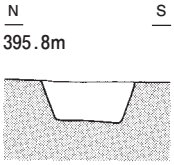
0　1m



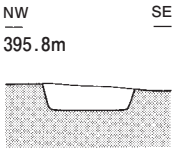
P526
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし

P527
1. 暗褐色土（10YR3/4）、砂質、しまりややあり
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり、礫を含む

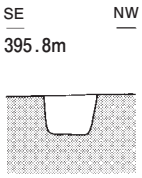
P528
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



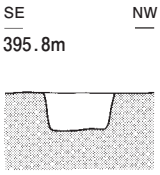
P529
暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりややあり



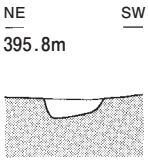
P530
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



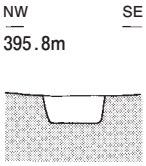
P531
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



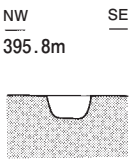
P532
暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりなし



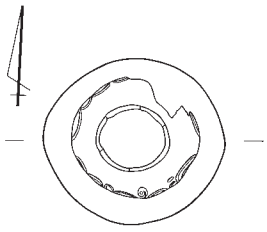
P533
暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりややあり、少量の礫を含む

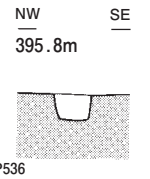


P534
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし

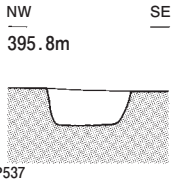


P535
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし

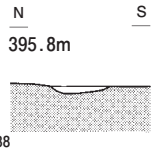




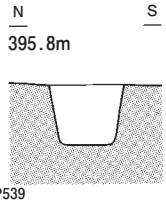
P536
暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりなし



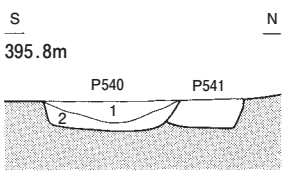
P537
暗褐色土（10YR3/3）、粘性なし、しまりなし



P538
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



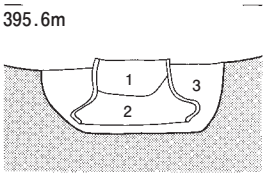
P539
暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



P540
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
2. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりあり、礫・焼土(2.5YR4/6)ブロックを含む

P541
暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む

SZ16
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりなし、炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりなし、礫・炭化物を含む
3. 黒褐色土（10YR2/2)、粘性ややあり、しまりあり、礫を含む



0　1m

図163　SB39遺構図（2）

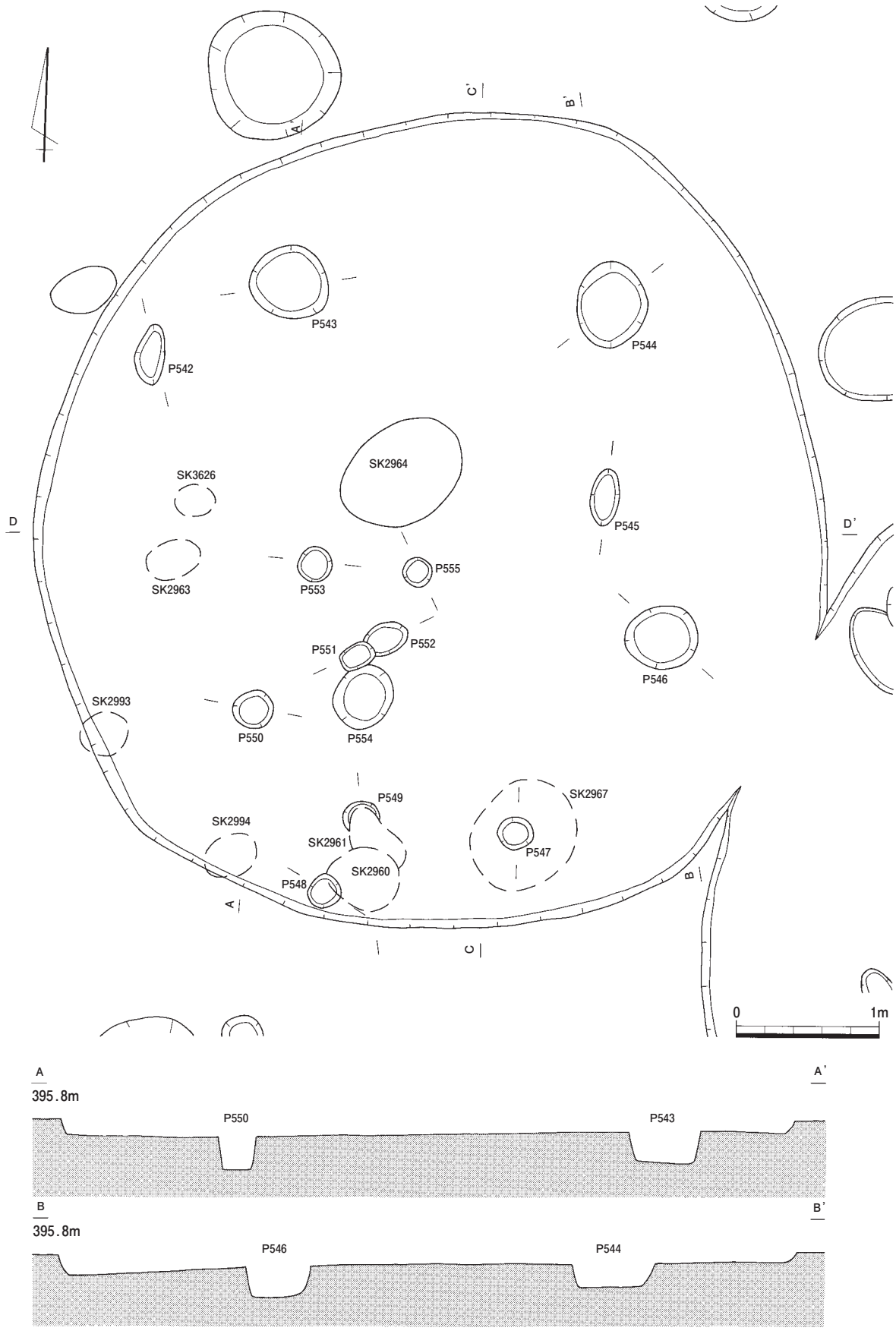
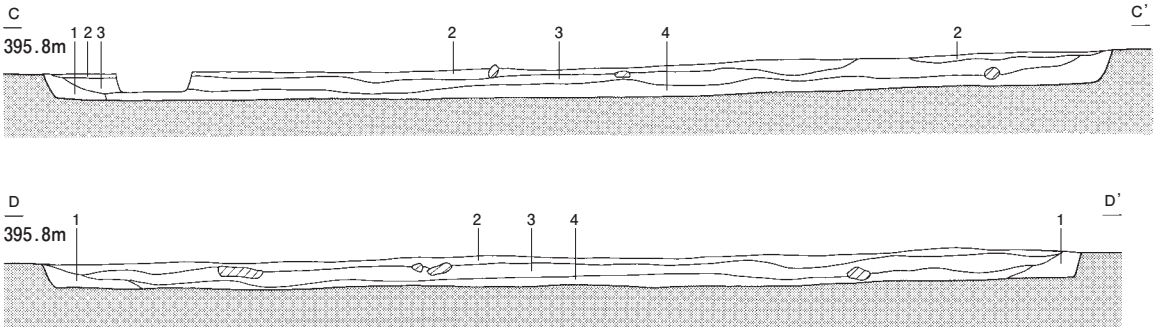
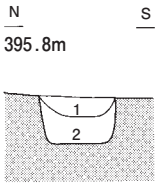


図164　SB40遺構図（1）

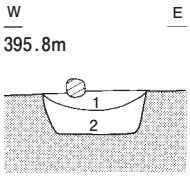


1. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性やや あり、しまりややあり、礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/4)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
3. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
4. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりあり、礫・骨片を含む

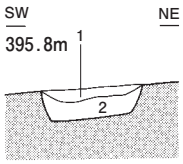
0　1m



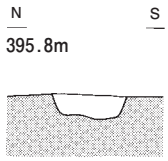
P542
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、固くしまる、礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



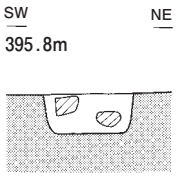
P543
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、固くしまる、礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりあり、礫を含む



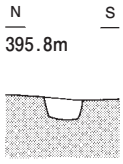
P544
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりあり、少量の礫を含む
2. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりあり、礫を含む



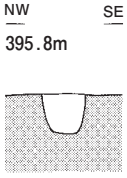
P545
暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



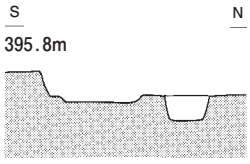
P546
黒褐色土（10YR2/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む



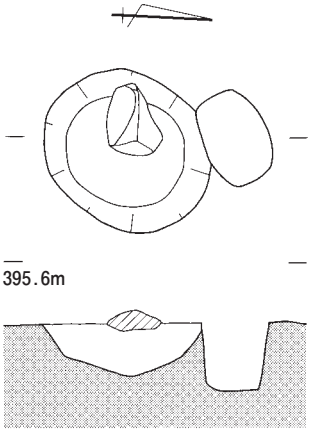
P547
暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり



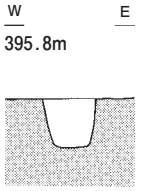
P548
暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



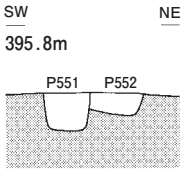
P549
暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、礫・経10㎝の焼き土（2.5YR4/6）ブロックを含む



P555
黒褐色土（10YR3/2)、粘性なし、固くしまる、礫を含む

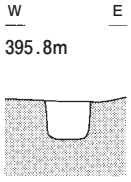


P550
暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、固くしまる、少量の礫を含む

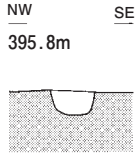


P551
暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫・骨片を含む

P552
暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、固くしまる、礫を含む



P553
暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、少量の礫を含む



P554
暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりあり

0　1m
(P555)

図165　SB40遺構図（2）

前期前葉と、前期後葉が認められる（床面検出遺構を含む）。石器は、石鏃１点・石錐１点が出土した。

所属時期　ＳＢ39に前後する時期と判断する。

２．掘立柱建物跡

ＳＨ３（図166、図版56）

位置　Ｖ23・Ｖ24・W23・W24グリッドに位置する。

検出状況　Ⅵｃ層基底面で検出した。調査段階では土坑として認識していたが、現地調査終了後に空中写真の観察により、比較的規模の大きな４基の土坑が規則的に並ぶ様子から、掘立柱建物跡として認定するに至った。ＳＫ2957がＳＫ2921に切られる。遺構の検出面では明確な貼床や硬化面は認められず、南西に傾斜する。

形状と規模　平面形は長方形である。柱穴の真々で短辺約3.2m（ＳＫ2916･2920間）･長辺約3.9m（ＳＫ2916・2918間）、面積12.48㎡を測る。

柱穴の状況　柱穴は４基（ＳＫ2916・2918・2920・2957）で構成される。いずれも根固めの礫、土層における柱痕状の堆積、底面の柱痕跡は認められなかった。各柱穴の特徴をみると、いずれも平面形は不整円形又は不整楕円形であり、断面形は垂直に近く立ち上がる。底面の標高は、北側の土坑が約395.65～395.71m、南側の土坑が約395.53～395.66mで、北側の柱穴の底面のレベルが南側よりもやや高い。検出面から底面までの深さは、最大で約0.51m（ＳＫ2916）を測る。

出土遺物　柱穴の埋土からは、土器・炭化物・骨片が散在的に出土した。土器は、所属時期が不明である。

所属時期　ＳＨ４との共通点が多いことからほぼ同時期と考えられ、後期中葉と判断する。

ＳＨ４（図167、図版56）

位置　Ｙ26・Ｙ27・Ｚ26・Ｚ27グリッドに位置する。

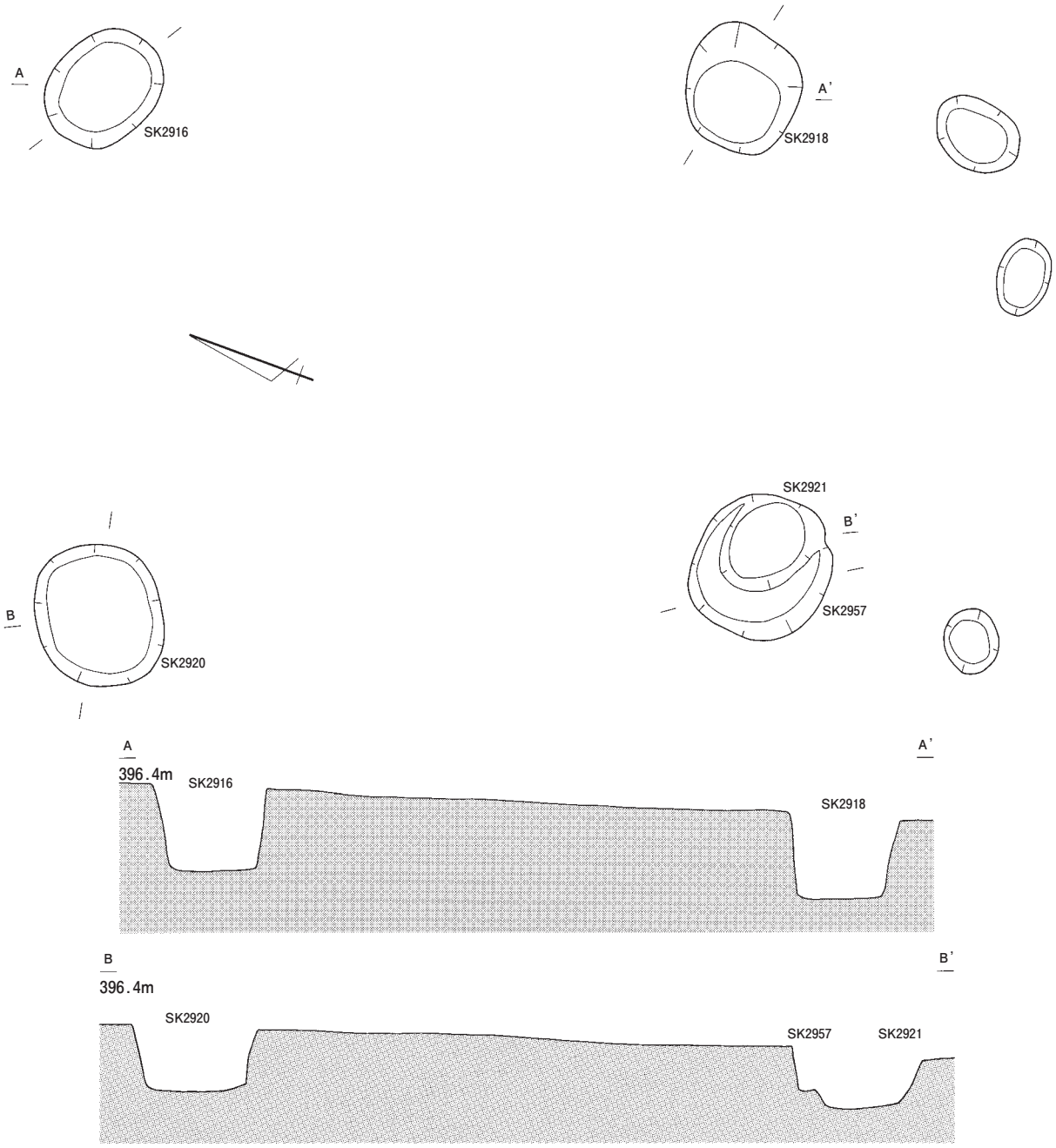
検出状況　Ⅵｃ層基底面で検出した。現地調査では土坑として認識していたが、調査終了後に空中写真の観察により、比較的規模の大きな４基の遺構が規則的に並ぶ様子から、掘立柱建物跡として認定するに至った。遺構の検出面では明確な貼床や硬化面は認められず、南西に傾斜する。

形状と規模　平面形は長方形である。真々で長辺3.5m（ＳＫ2964・2974間）、短辺2.9m（ＳＫ2962・2964間）、面積10.15㎡を測る。

柱穴の状況　柱穴は４基（ＳＫ2962・2964・2974・2984）で構成される。いずれの柱穴も根固めの礫、底面の柱痕跡は認められなかった。各柱穴の特徴をみると、平面形は円形又は楕円形であり、断面形は垂直に近く立ち上がる。底面の標高は北側の土坑が約395.37～395.39m、南側の柱穴が約395.13～395.17mで、北側の柱穴の底面のレベルが南側よりもやや高い。検出面から底面までの深さは、最大で約0.57m（ＳＫ2974）を測る。

出土遺物　埋土からは、土器と炭化物が散在的に出土した。土器は早期末～前期初頭、後期中葉（1337）が認められる。

所属時期　後期中葉元住吉山Ⅰ式併行と判断する。



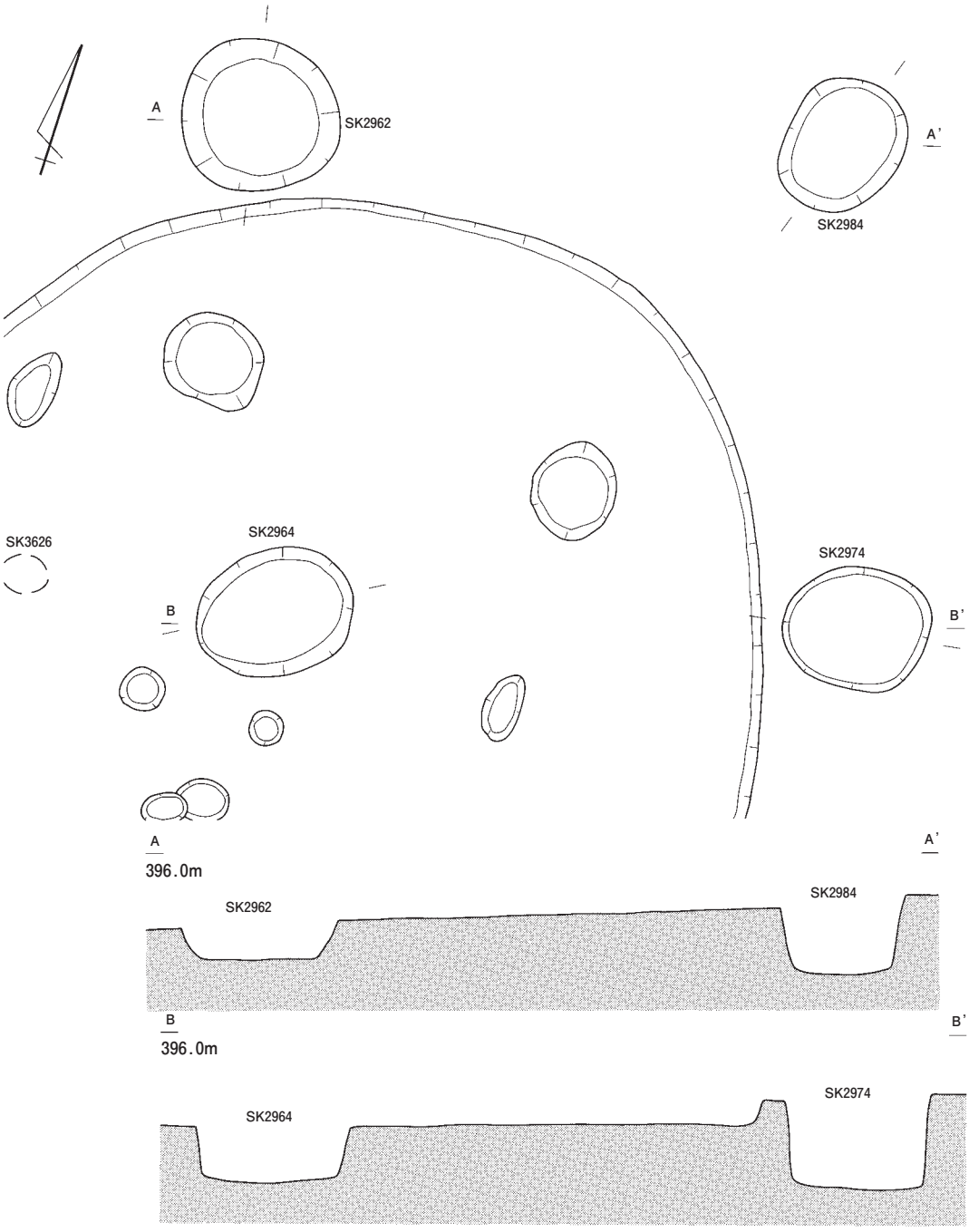
SK2916
黒褐色土（10YR3/2）、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む

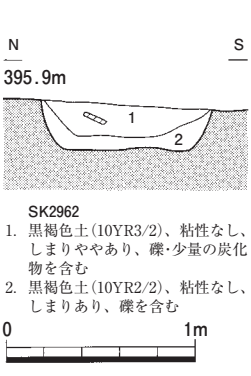
SK2918
1. 黒褐色土(10YR2/3)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む
3. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む

SK2920
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
3. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、多量の礫を含む

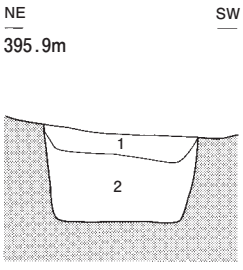
SK2957
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
2. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

図166　SH 3 遺構図

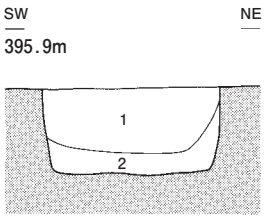




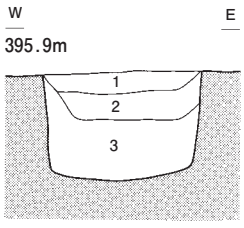
SK2962
1. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりややあり、礫・少量の炭化物を含む
2. 黒褐色土(10YR2/2)、粘性なし、しまりあり、礫を含む



SK2984
1. 暗褐色土(10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫・骨片を含む
2. 黒褐色土(10YR3/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



SK2964
1. 暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
2. 暗褐色土（10YR3/4)、粘性なし、しまりなし、礫を含む



SK2974
1. 暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
2. 暗褐色土（10YR3/3)、粘性なし、しまりなし、礫を含む
3. 黒褐色土（10YR3/2)、粘性なし、しまりなし、礫を含む

図167　SH 4 遺構図

3　焼礫集積遺構

ＳＩ39（図168、図版56）

位置　W26・W27・X26・X27グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形を呈し、長径2.00m・短径1.42m・深さ0.40mを測る。

概要　Ⅵc層基底面で検出した。重複遺構はない。埋土上部で、長径６～48cmの多量の礫が検出された。礫の円磨度は角礫又は亜角礫で占められ、大半の礫に被熱の痕跡が認められた。ただし土坑内壁面に、被熱の痕跡や焼土は認められなかった。礫を除去し、埋土５層上面で、土坑中央南寄りに原型を留めた炭化材を含む炭化物の集積が認められた。このことから、当遺構はいわゆる「被覆型集石遺構」である。炭化材が原位置を保つ可能性が高く、また出土土器がないため、放射性炭素年代測定を行い、併せて採取した炭化物の一部を水洗選別した（第６章第３・７節参照）。

出土遺物　多量の炭化材が出土した。

ＳＩ40（図169、図版40）

位置　U25・U26・V25・V26グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形を呈し、長径1.50m・短径1.30m・深さ0.30mを測る。

概要　Ⅵc層基底面で検出した。ＳＫ2985を切る。埋土上部で、長径３～41cmの多量の礫が検出された。礫の円磨度は角礫又は亜角礫で占められ、大半の礫に被熱の痕跡が認められた。ただし土坑内壁面に、被熱の痕跡や焼土は認められなかった。なお掘形北端の埋土上面に、円礫１個が平置きで出土したが、使用痕･被熱痕共に認められなかった。このことから、当遺構はいわゆる「被覆型集石遺構」である。

出土遺物　埋土からＲＦ１点・磨・敲石類１点（2203）・少量の炭化物、１層から骨片が出土した。

4　土坑

ＳＫ2973（図169）

位置　X27グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.71m・短径0.35m・深さ0.11mを測る。

概要　Ⅵc層基底面で検出した。ＳＫ2997・2999を切る。土坑中央南寄りの埋土上部に、長径10cmと26cmの亜角礫１個が浮上する。（土坑Ｄ２ｄ類）

出土遺物　なし。

ＳＫ2987（図169）

位置　V26グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は楕円形である。長径0.42m以上・短径0.32m・深さ0.23mを測る。

概要　Ⅵc層基底面で検出した。ＳＫ2985に切られる。土坑中央の埋土上部に、長径25cmの亜円礫１個が浮上する（土坑Ｄ２ｄ類）。

出土遺物　なし。

図168　第5調査面検出遺構図（1）

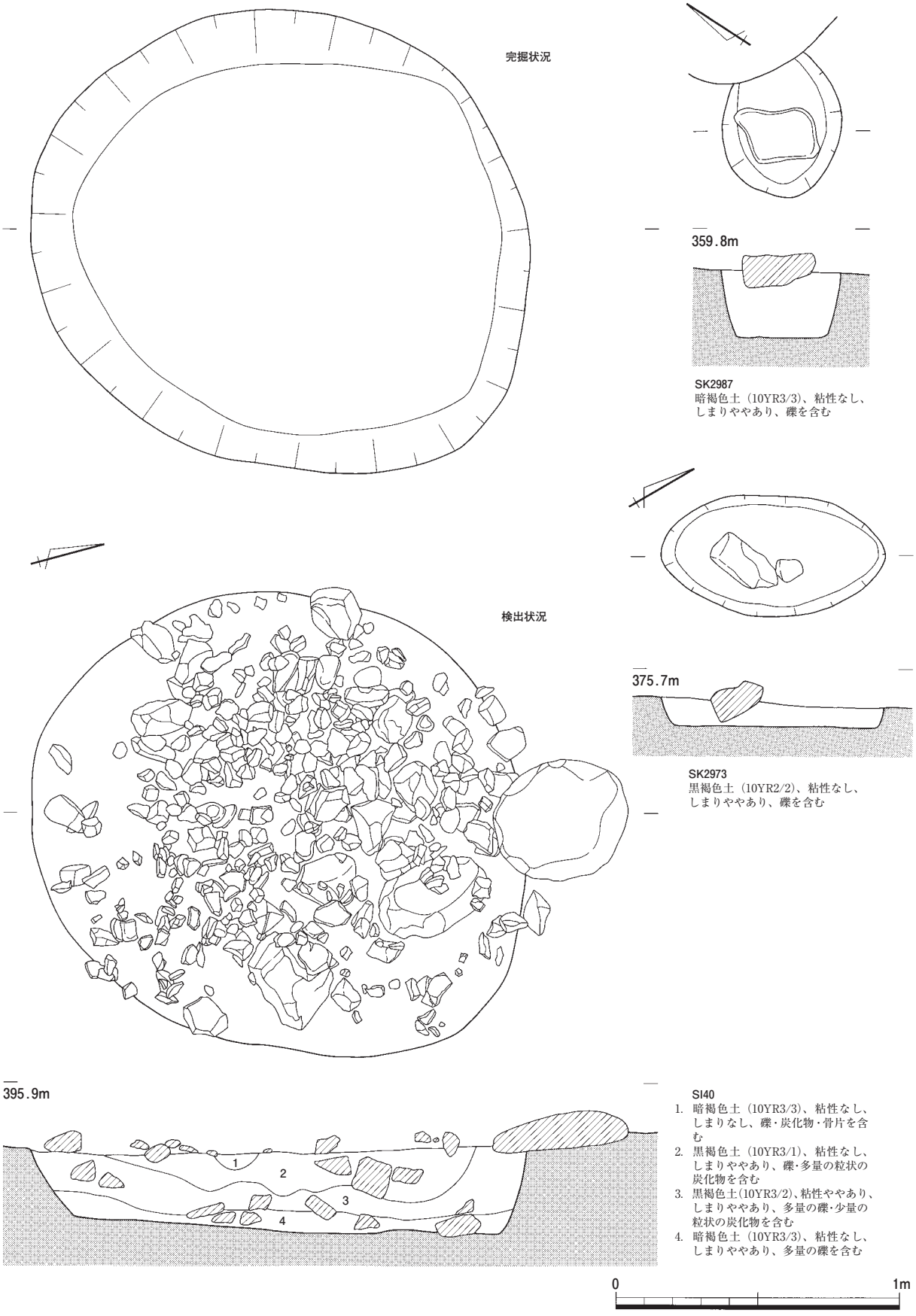


図169　第5調査面検出遺構図（2）

第 8 節　第 6 調査面

第 6 調査面では、Ⅸ a 層が全面に広がる。標高ではＬ 3 グリッドが最も高く（約398.7m）、南に向かって傾斜する。R21グリッド（約396.6m）と a 25グリッド（約395.9m）を結ぶラインと、T27グリッド（約396.0m）とW28グリッド（約395.7m）を結ぶラインとの間には、溝状の凹地（底面約

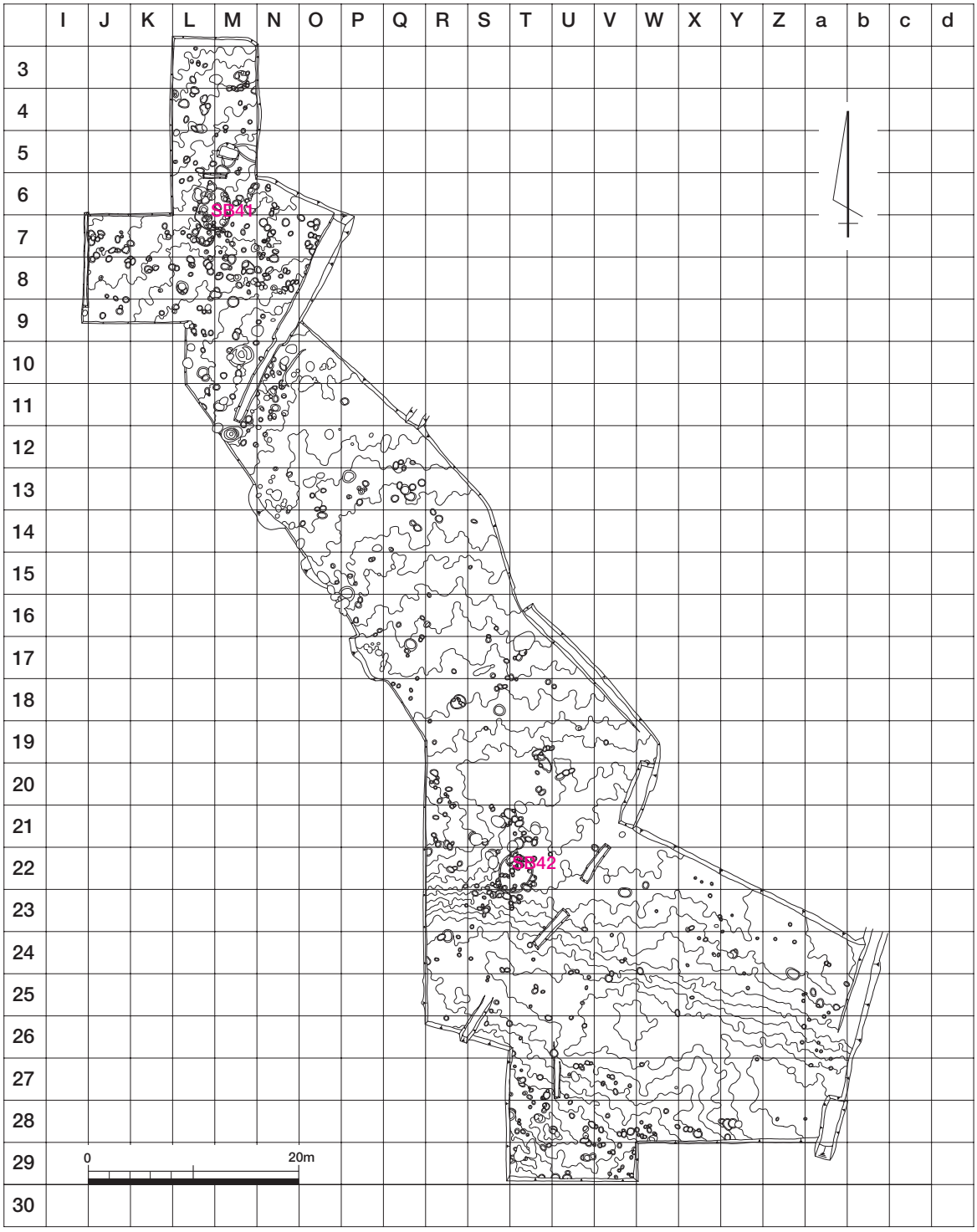


図 170　第 6 調査面全体図

395.3m）が認められた（第3章第2節参照）。

1　竪穴住居跡

ＳＢ41（現場名ＳＢＨ１、図171・172、図版57）

位置　Ｌ６・Ｌ７・Ｍ７グリッドに位置する。

検出状況　Ⅸａ層上面で検出した。ＳＫ3623を切り、ＳＫ3110・3112・3250・3299に切られる。埋土は2層に分けられ、土層は水平に堆積する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径4.02m・短径3.03m・床面積推定9.52㎡を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約0.12mを測り、壁はわずかに立ち上がる。明確な貼床や硬化面は確認できずⅨａ層上面で遺構を検出したため、検出面は凹凸が著しく竪穴の掘形に達した可能性がある。床面は中央がやや窪む。

施設　竪穴内部では、19基の遺構を検出した。柱穴は4基（Ｐ559・564・565・570）を想定でき、Ｐ568を中心にして同心円状に配置する（柱配置１）。これとは別に4基（Ｐ556・564・566・571）も想定でき、中心がやや南に下がり同心円状に配置する（柱配置２）。遺構の重複関係では、Ｐ566（柱配置２）がＰ565（柱配置１）を切り、またＰ571（柱配置２）がＰ570（柱配置１）を切ることから、柱配置１が柱配置２に先行する。炉跡は検出されなかったが、Ｐ224の埋土中に焼土ブロックが観察された。

出土遺物　埋土から中期中葉の土器が少量出土した。

所属時期　Ｐ556出土土器（1340）及び出土土器の主体から、中期中葉船元Ⅱ式期と判断する。

ＳＢ42（現場名ＳＢＨ２、図173・174、図版57）

位置　Ｓ22・Ｓ23・Ｔ22・Ｔ23グリッドに位置する。

検出状況　Ⅸａ層上面で検出した。ＳＫ3363・3367を切り、ＳＫ3365・3369に切られる。埋土は3層に分けられ、土層は水平に堆積する。

形状と規模　平面形は不整楕円形である。長径3.58m・短径2.91m・床面積推定8.16㎡を測る。

壁・床面の状況　検出面から床面までの最大の深さは約15㎝を測り、壁はわずかに立ち上がる。明確な貼床や硬化面は確認できずⅨａ層上面で遺構を検出したため、検出面は凹凸が著しく竪穴の掘形に達した可能性がある。床面は中央がやや窪む。

施設　竪穴内部では、22基の遺構を検出した。柱穴は6基（Ｐ579・580・581・585・589・593）が想定できる。Ｐ585・589とＰ579・580の中線を軸に、Ｐ579・589・593とＰ580・581・585が左右対称に位置する。なお、炉跡は検出されなかった。

出土遺物　埋土から中期中葉の土器が少量出土した。

所属時期　出土土器（1341）から、中期中葉船元Ⅲ式期と判断する。

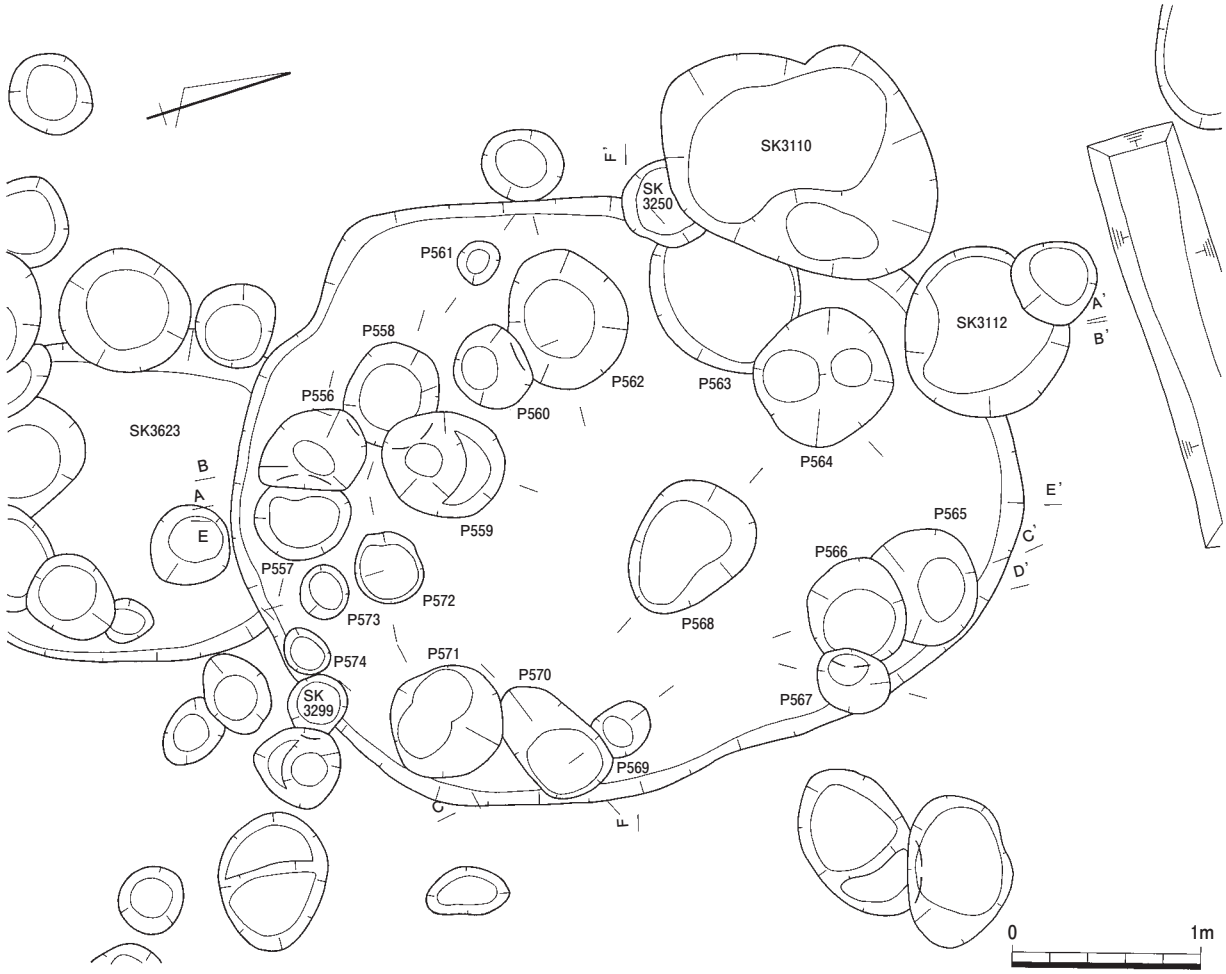
2　炉跡

ＳＦ87（図版57）

位置　Ｔ28グリッドに位置する。

形状と規模　ＳＫ3587を切る。平面形・規模共に不明である。

概要　Ⅸａ層上面で検出した。遺構の東側半分程度を検出し、残る西側半分は調査区外に続くものの、調査区周辺に影響が及ぶため、完掘することができなかった。中央に扁平亜円礫を芯石とし、北東及



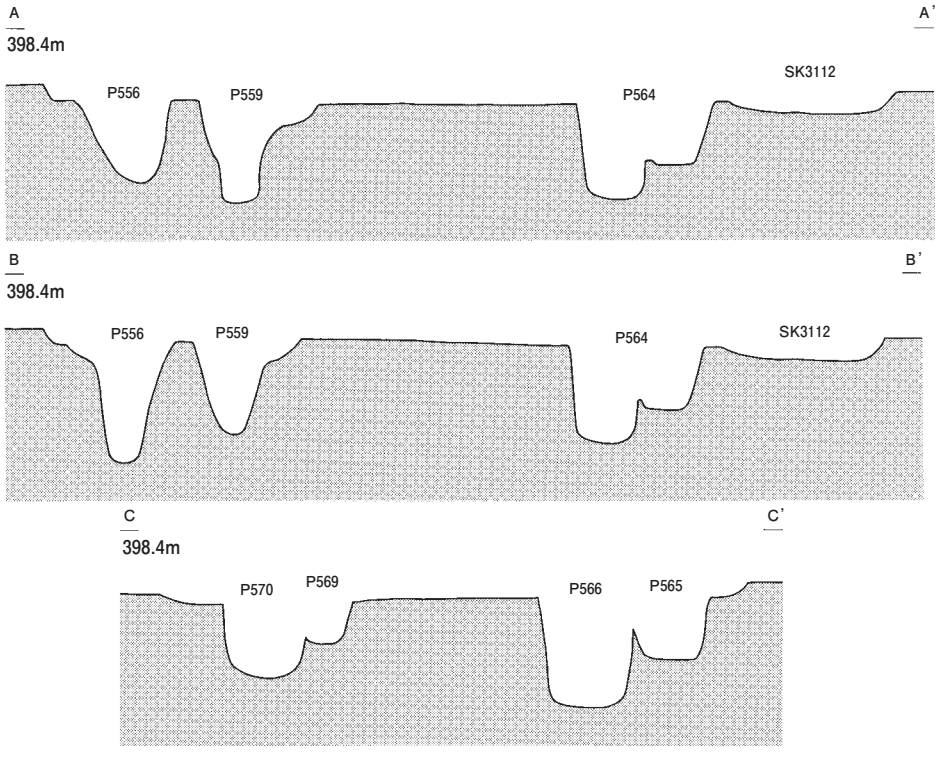


図171　SB41遺構図（1）

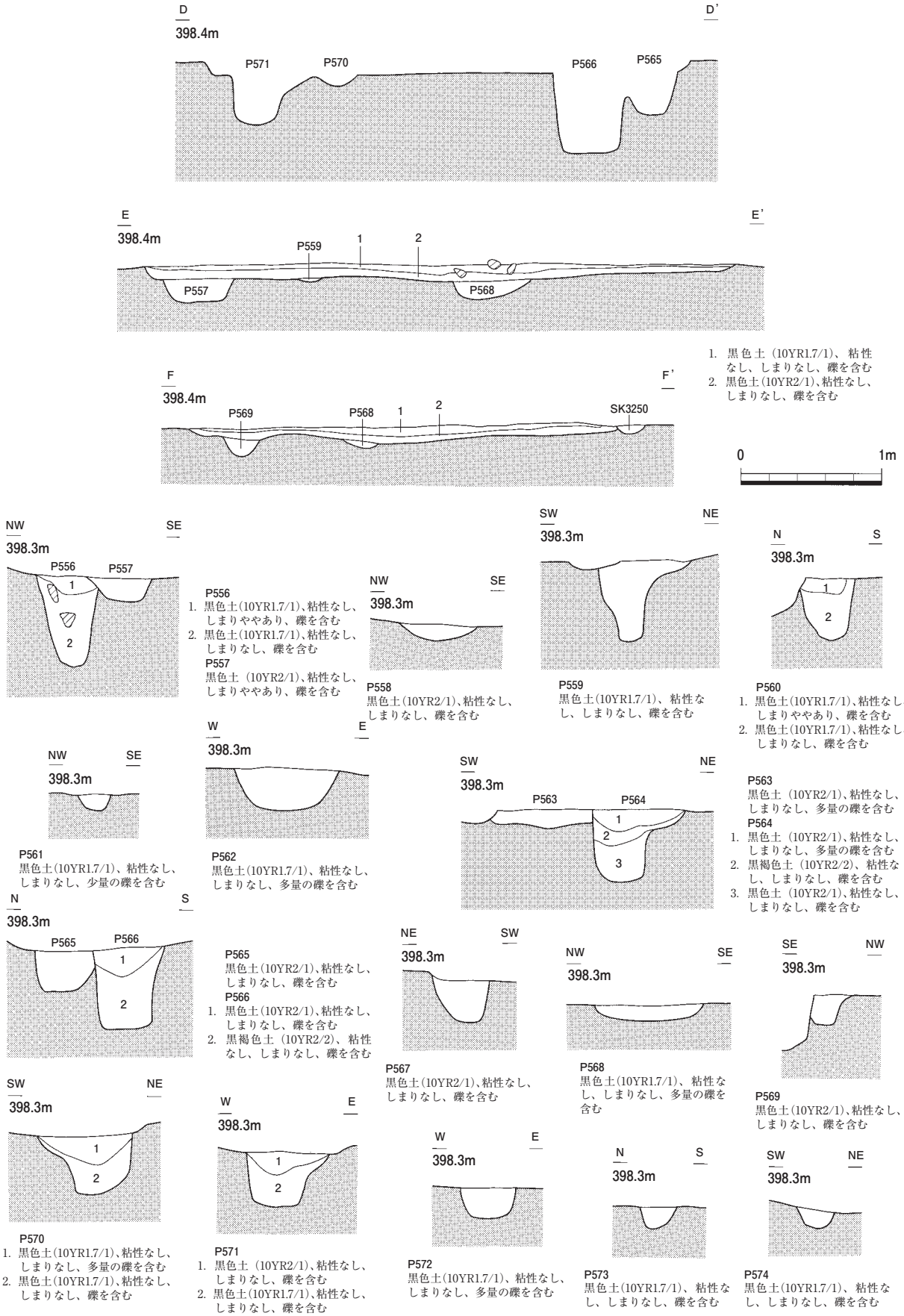


図172　SB41遺構図（2）

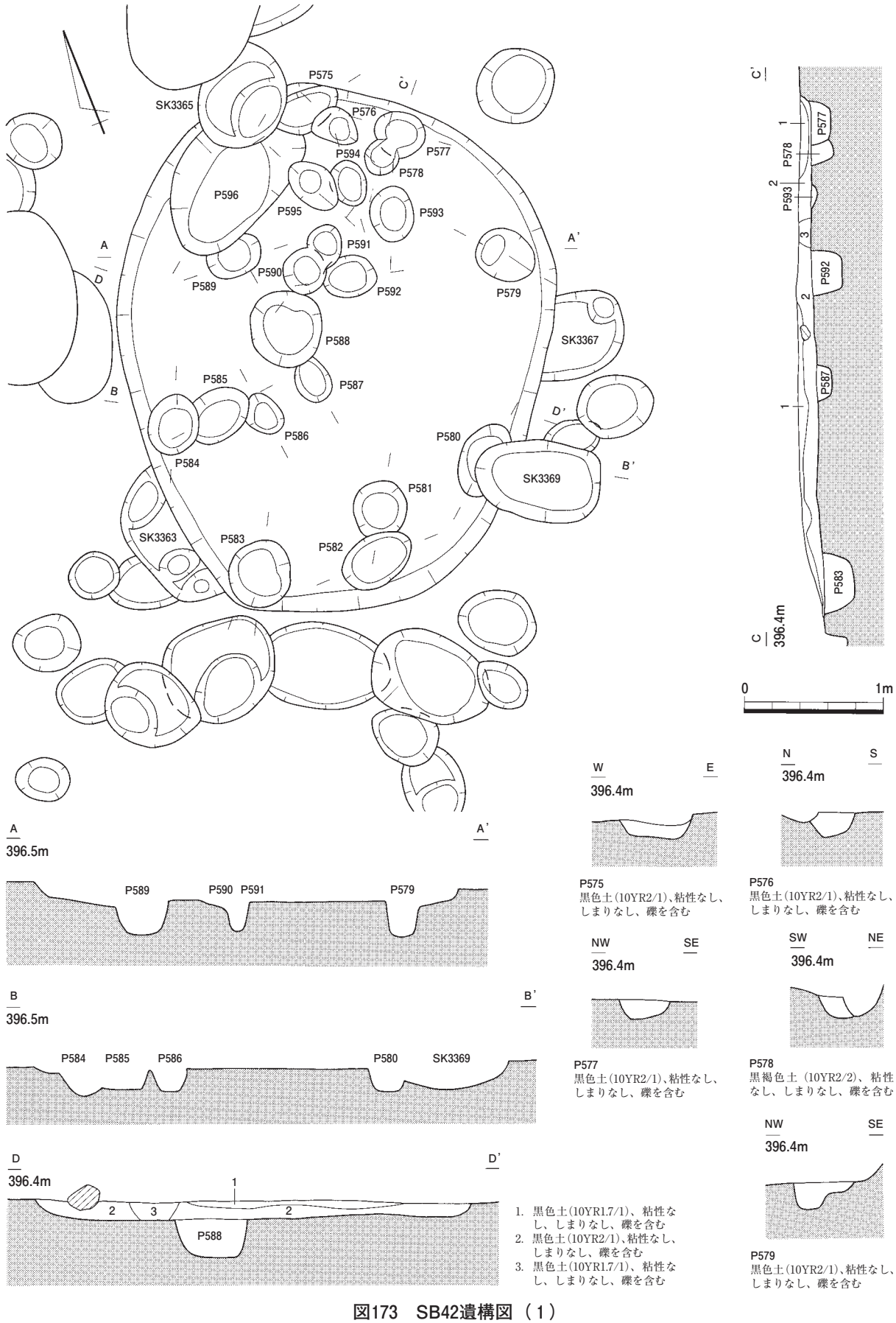


図173　SB42遺構図（1）

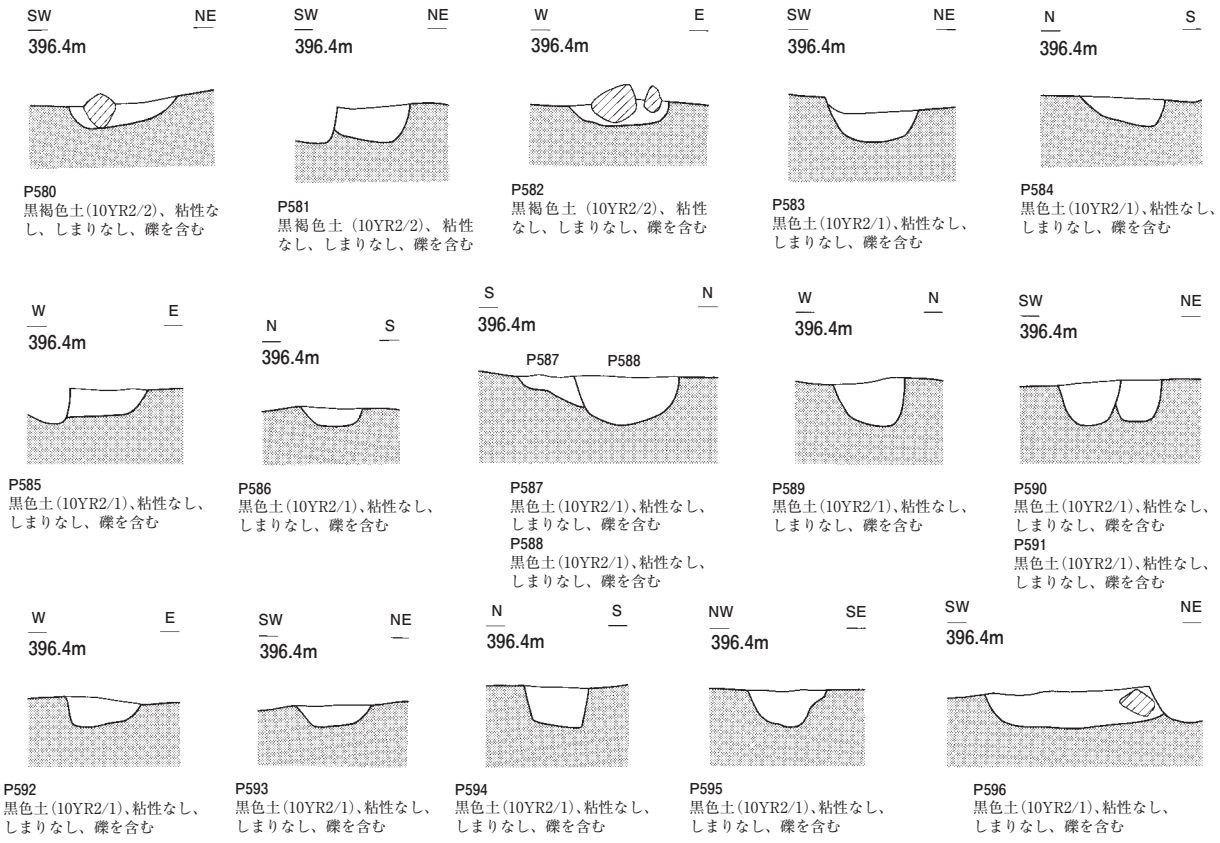


図174　SB42遺構図（2）

び南東に扁平亜円礫を小口立てとし、囲む。掘形内の埋め戻し土には、やや小振りな亜角礫を多数充填し、炉石を固定している。

出土遺物　埋土から石皿1点が出土した。

3　焼礫集積遺構

ＳＩ41（図175、図版57）

位置　M10に位置する。

形状と規模　平面形は楕円形を呈し、長径2.05m・短径1.50m・深さ0.53mを測る。

概要　Ⅸａ層上面で検出した。ＳＫ3187を切る。埋土2層で長径3～19㎝の多量の角礫又は亜角礫が浮上し、掘形の中央北寄りの埋土1層で黒色土を主体として長径8～37㎝の多数の円礫又は亜円礫が出土した。2層の礫にはその多くに被熱の痕跡が認められたが、1層の礫では認められなかった。掘形中央の底面で窪みが検出され、この窪みの内部では礫をほとんど含まない黒褐色土が堆積し、壁面で被熱の痕跡が認められた。このことから、当遺構はいわゆる「被覆型集石遺構」である。

出土遺物　埋土から炭化物が少量出土した。土器が出土しなかったため、2層から出土した炭化物の放射性炭素年代測定（第2分冊第6章第7節参照）を行った。

ＳＩ42（図177、図版58）

位置　R18に位置する。

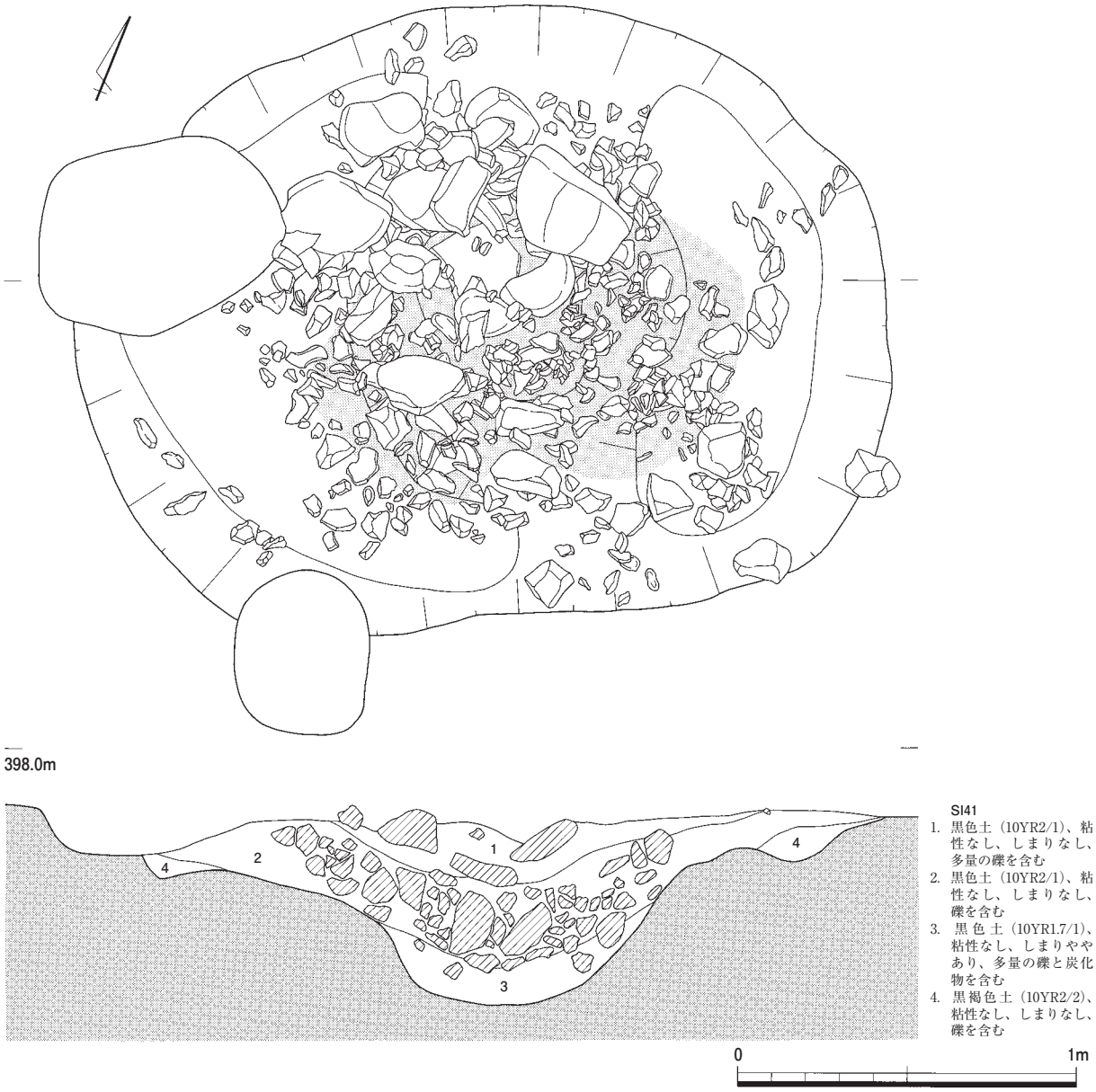


図175　SI41遺構図

形状と規模　平面形は不整楕円形を呈し、長径1.41ｍ・短径1.15ｍ・深さ0.45ｍを測る。

概要　Ⅸａ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土上部で、長径２～16㎝の多数の亜角礫が浮上する。ただし礫の密度は比較的少ない。多くの礫に被熱の痕跡が認められたが、土坑内壁面に被熱の痕跡や焼土は認められなかった。このことから、当遺構はいわゆる「被覆型集石遺構」である。

出土遺物　埋土からＲＦ１点・少量の炭化物が出土した。

４　土坑

ＳＫ3005（図176、図版58）

位置　Ｌ８グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整楕円形を呈し、長径1.08ｍ・短径0.87ｍ・深さ0.3ｍを測る。

概要　Ⅸａ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土下部で長径１～18㎝の多量の角礫又は亜角礫が

浮上し、埋土の最上部で長径８～40㎝の多数の円礫又は亜円礫を置く（土坑Ｄ１ｂ類）。礫の一部の礫に被熱の痕跡が認められたが、土坑の底面・壁面では被熱の痕跡は認められなかった。

出土遺物　埋土から早期後葉の土器（1343）が出土した。

ＳＫ3006（図176、図版58）

位置　Ｓ18グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形を呈し、長径0.87ｍ・短径0.77ｍ・深さ0.24ｍを測る。

概要　Ⅸａ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土上部で、長径１～13㎝の多数の亜角礫が浮上する（土坑Ｄ２ｂ類）。ただし礫の密度は少ない。礫の一部に被熱の痕跡が認められたが、土坑の底面・壁面では被熱の痕跡は認められなかった。

出土遺物　なし。

ＳＫ3110（図176、図版58）

位置　Ｌ６グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不定形である。長径1.14ｍ・短径0.83ｍ・深さ0.25ｍを測る。

概要　Ⅸａ層上面で検出した。ＳＢ41・ＳＫ3250を切る。土坑中央東寄りと南西端の埋土上部に、長径10～42㎝の亜角礫が浮上する（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　なし。

ＳＫ3170（図177、図版58）

位置　Ｍ８・Ｍ９グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は円形である。長径0.97ｍ・短径0.87ｍ・深さ0.34ｍを測る。

概要　Ⅸａ層上面で検出した。重複遺構はない。埋土上部に長径11～37㎝の亜角礫が浮上する。ただしこのうちの北端の礫は、長手立ての可能性がある（土坑Ｄ１ｂ類）。

出土遺物　埋土から中期中葉の土器（1344）・打欠石錘１点が出土した。

ＳＫ3464（図177）

位置　Ｔ28・Ｕ28グリッドに位置する。

形状と規模　平面形は不整円形である。長径0.65ｍ・短径0.57ｍ以上・深さ0.36ｍを測る。

概要　Ⅸａ層上面で検出した。重複遺構はない。土坑中央南寄りの埋土上部に、亜角礫１個（長径20㎝・短径17㎝・厚さ７㎝）を長手立てとする（土坑Ｄ２ｃ類）。

出土遺物　なし。

5　遺物集積

ＳＵ５（図版58）

位置　Ｔ28グリッドに位置する。

形状と規模　検出面・規模共に不明である。

概要　Ⅳ層又はⅤａ層を掘削中に出土し、掘形が検出されなかったため、遺物集積と判断した。ただし少なくとも底部から胴部上半までが、元の器形に近い状態で出土した点から、埋位が斜位の埋設土器である可能性も残る。

出土遺物　後期末～晩期前葉の土器（1346）が出土した。

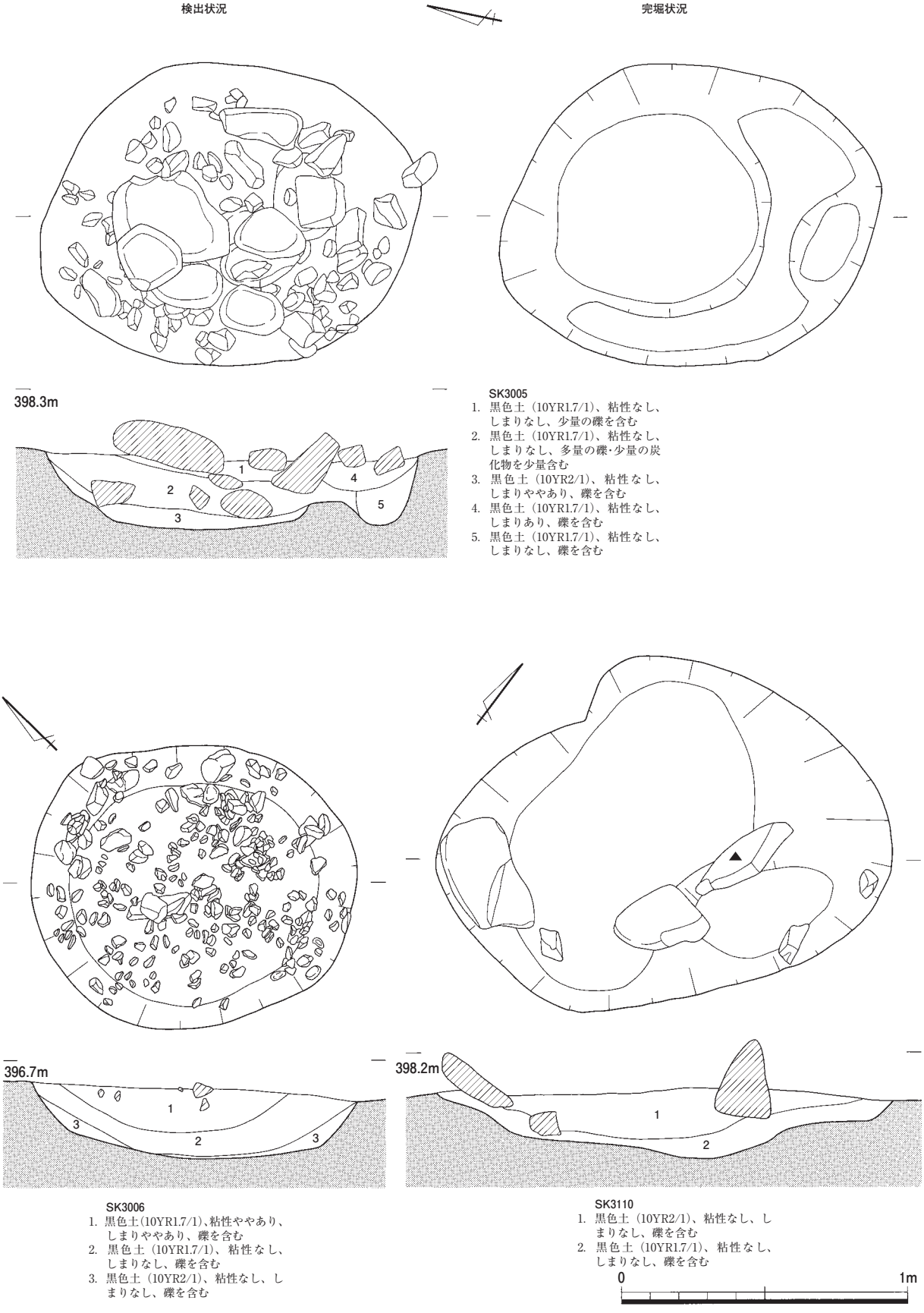
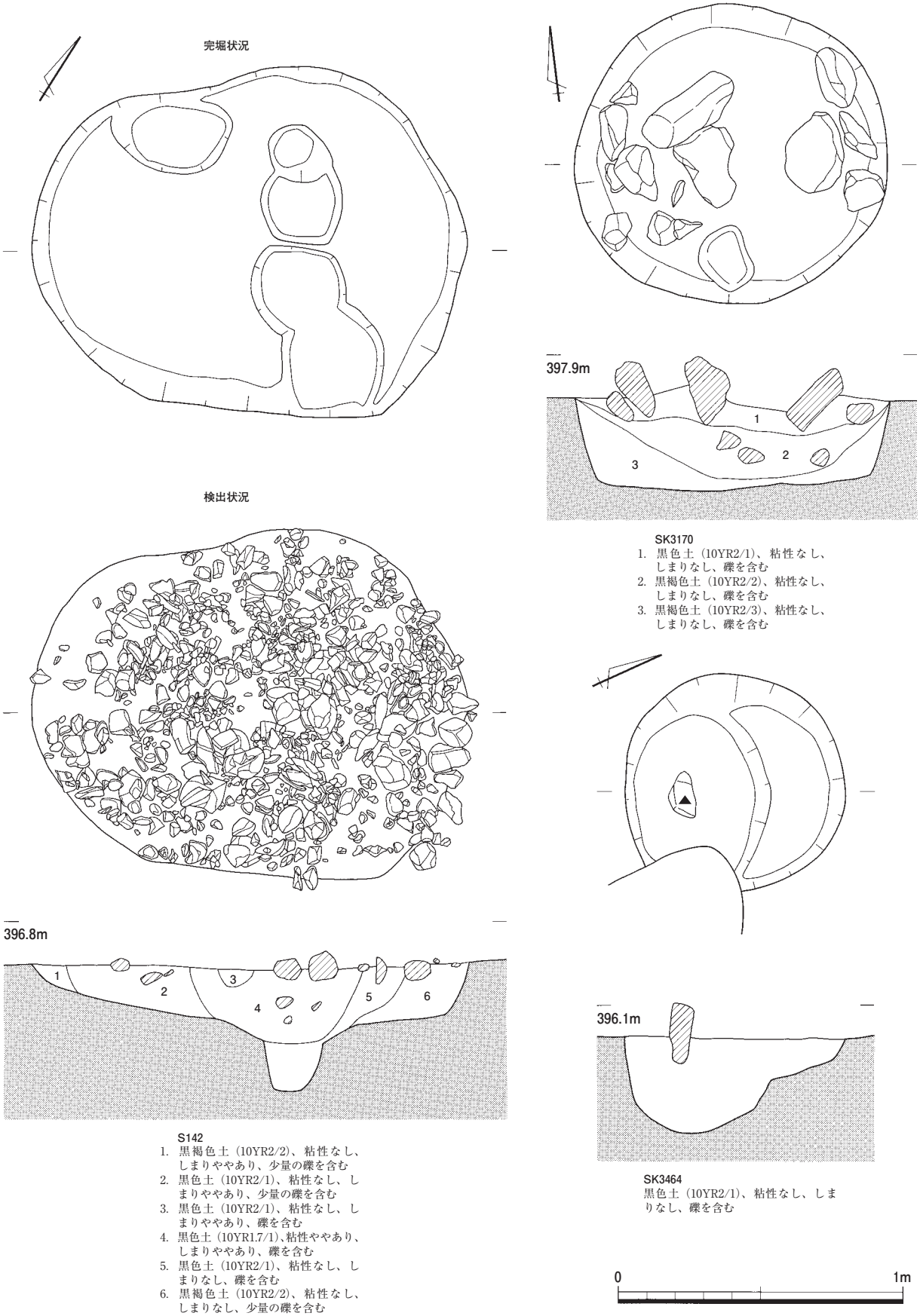


図176　第 6 調査面検出遺構図（1）



SK3170
1. 黒色土（10YR2/1）、粘性なし、しまりなし、礫を含む
2. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりなし、礫を含む
3. 黒褐色土（10YR2/3）、粘性なし、しまりなし、礫を含む

S142
1. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりややあり、少量の礫を含む
2. 黒色土（10YR2/1）、粘性なし、しまりややあり、少量の礫を含む
3. 黒色土（10YR2/1）、粘性なし、しまりややあり、礫を含む
4. 黒色土（10YR1.7/1）、粘性ややあり、しまりややあり、礫を含む
5. 黒色土（10YR2/1）、粘性なし、しまりなし、礫を含む
6. 黒褐色土（10YR2/2）、粘性なし、しまりなし、少量の礫を含む

SK3464
黒色土（10YR2/1）、粘性なし、しまりなし、礫を含む

図177　第6調査面検出遺構図（2）

調査区全体図分割図

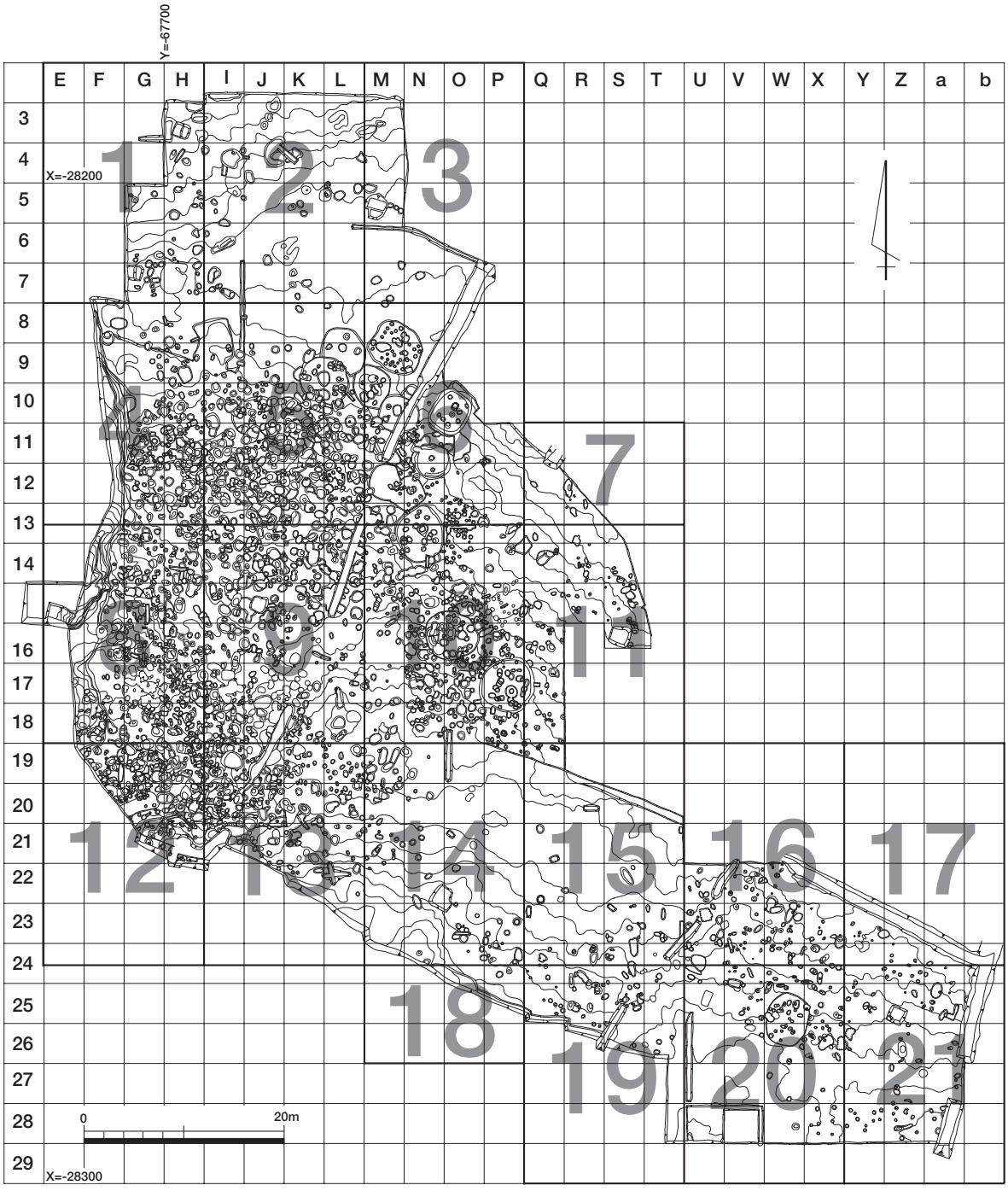


図178　第３Ｂ調査面調査区全体図（割付図）

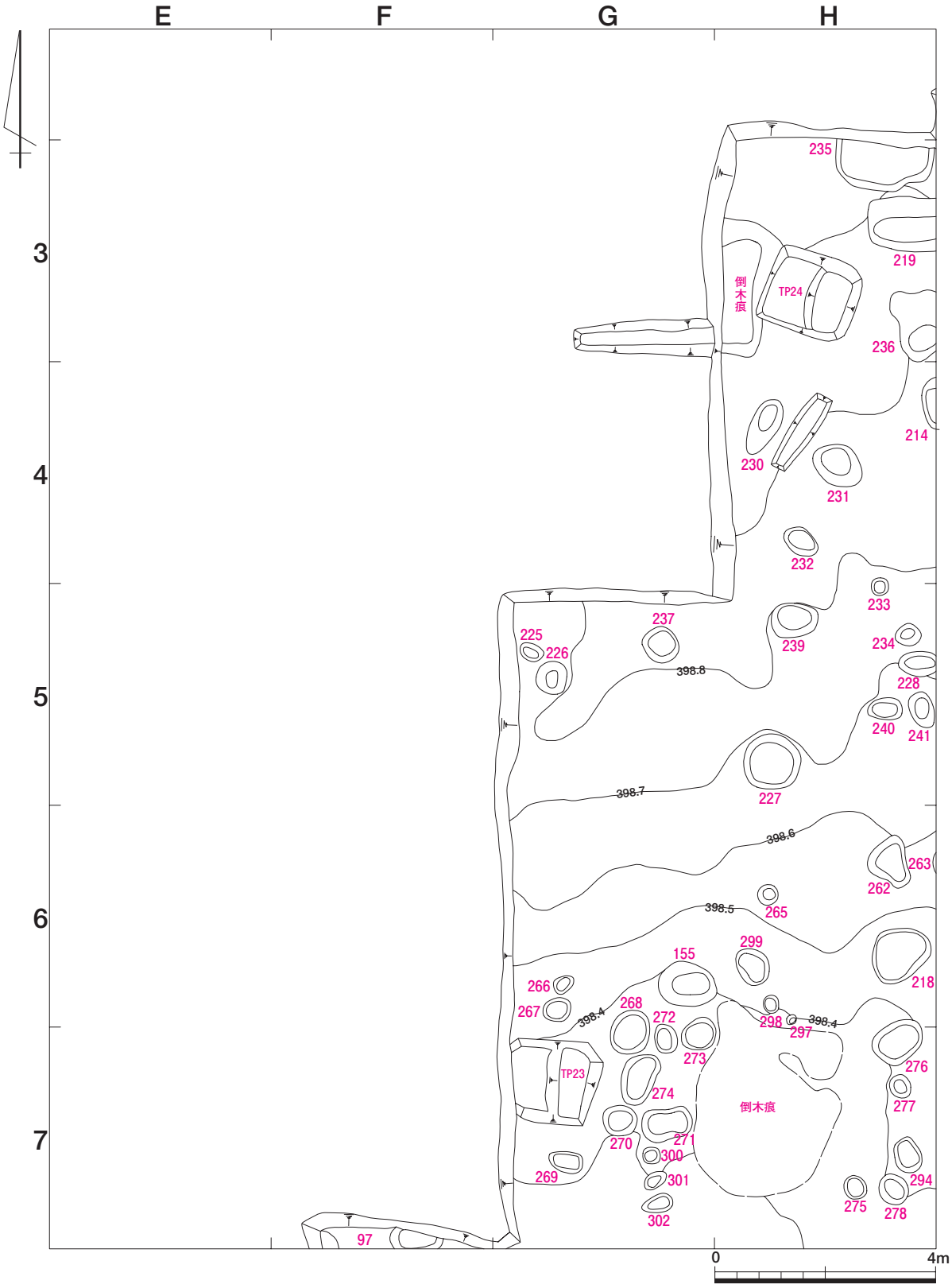


図179　第３Ｂ調査面調査区分割図（１）

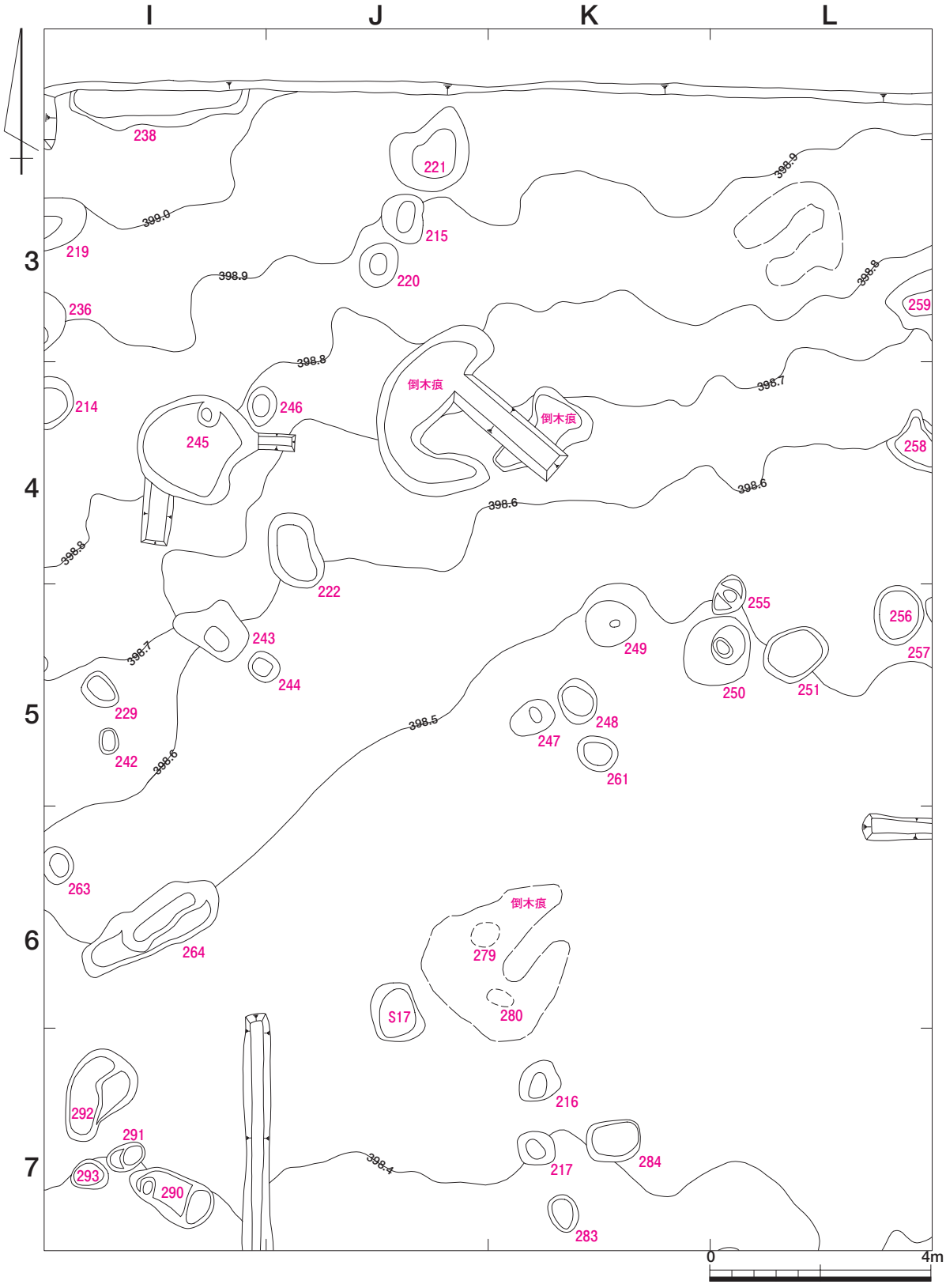


図180　第３Ｂ調査面調査区分割図（２）

図181　第３Ｂ調査面調査区分割図（３）

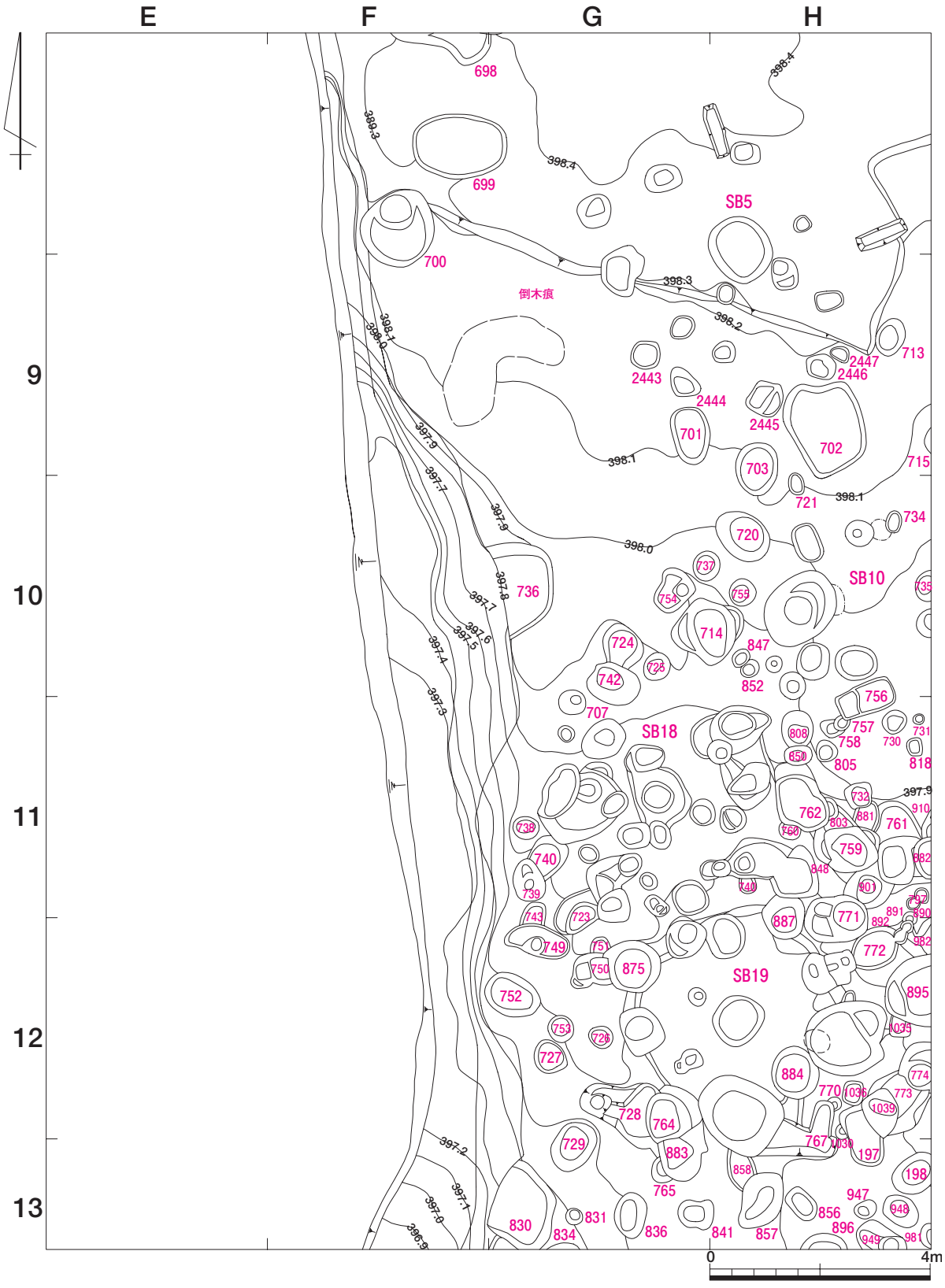


図182　第３Ｂ調査面調査区分割図（４）

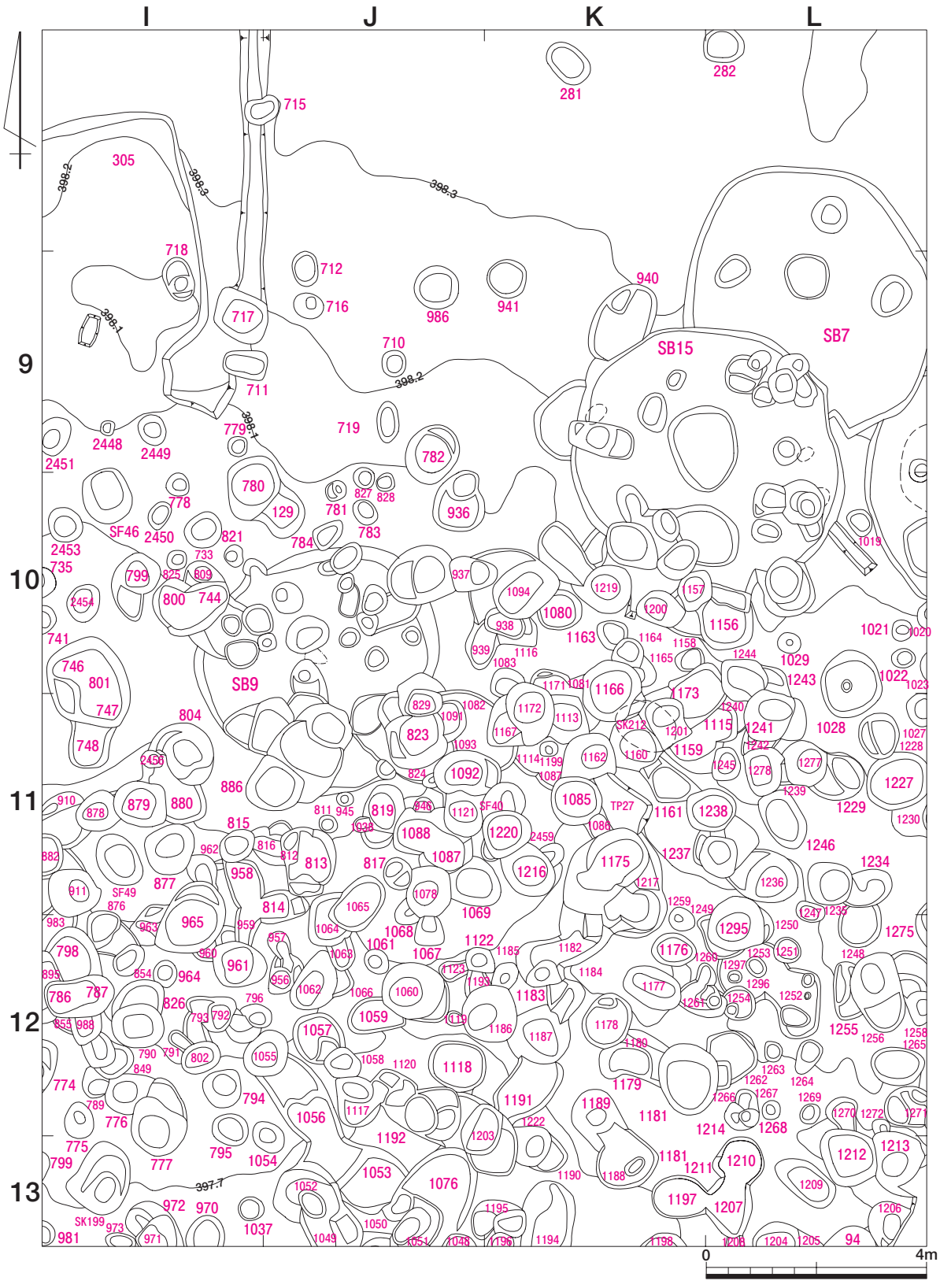


図183　第３Ｂ調査面調査区分割図（５）

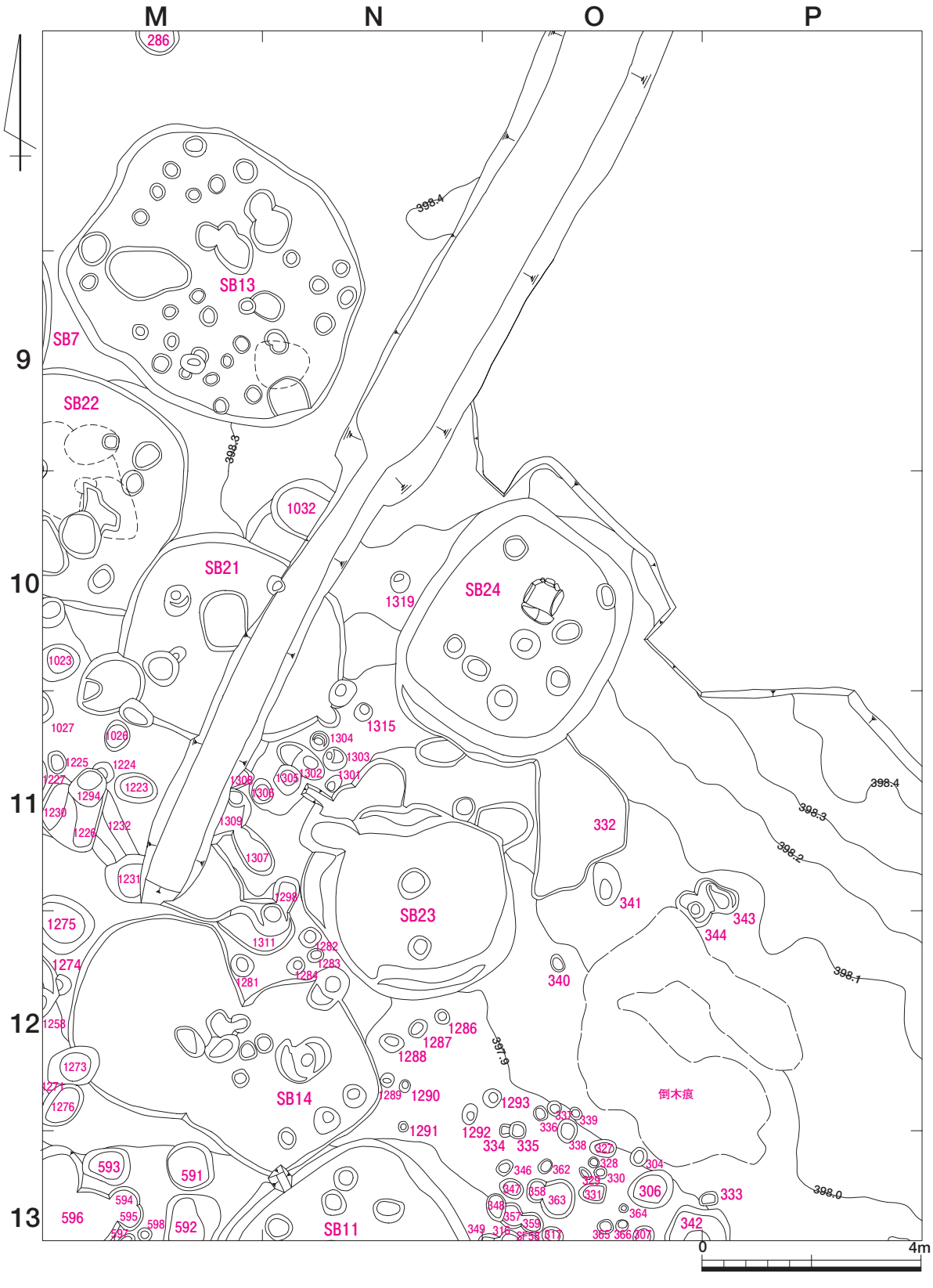


図184　第３Ｂ調査面調査区分割図（６）

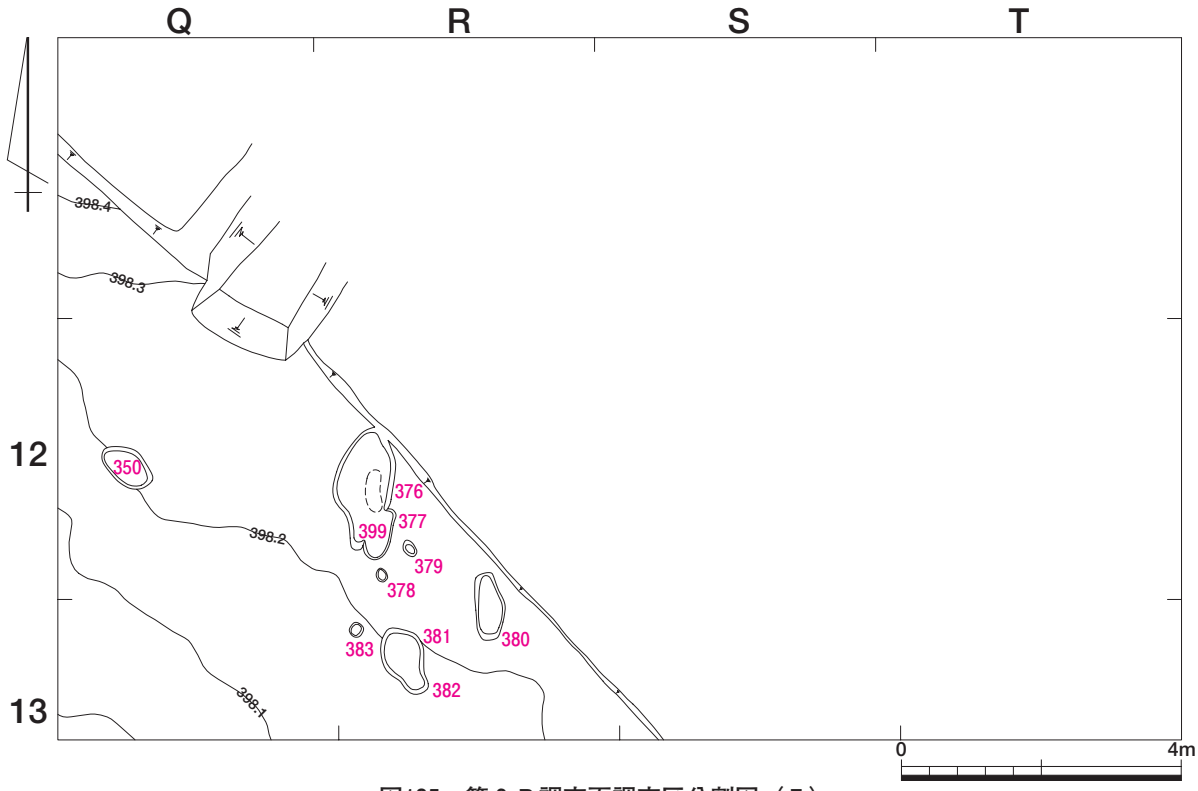


図185　第３Ｂ調査面調査区分割図（７）

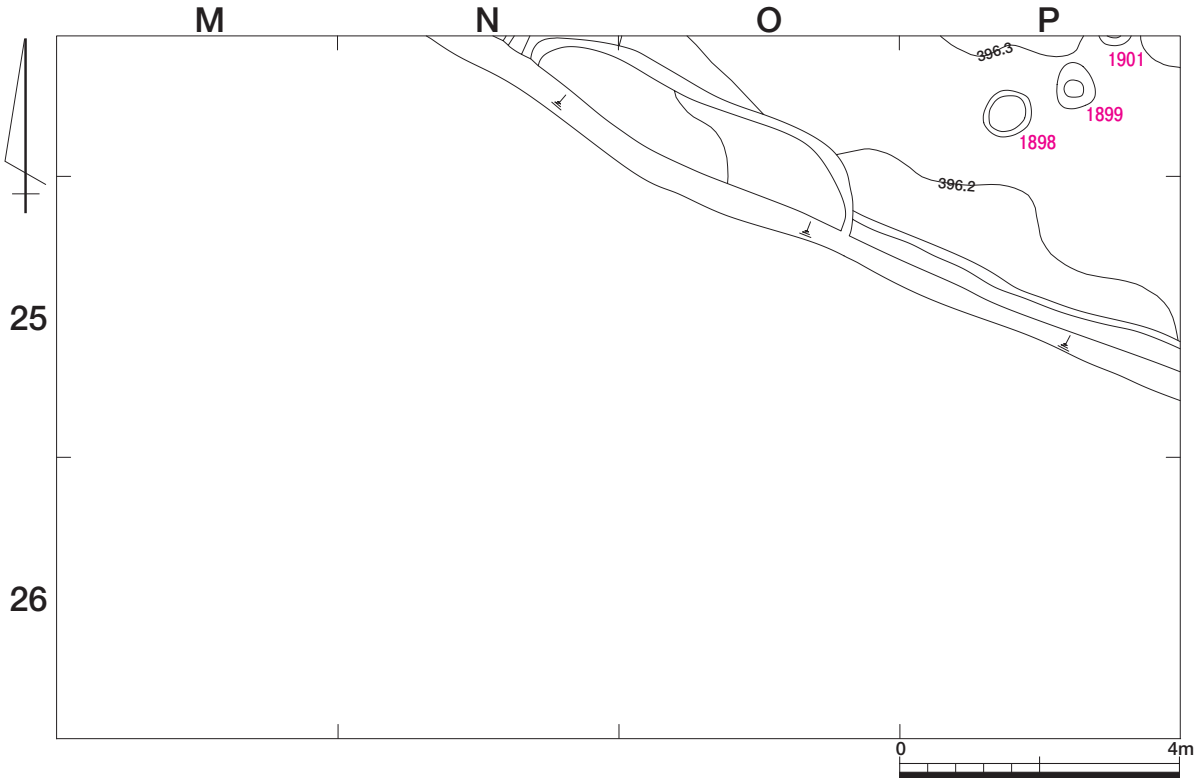


図186　第３Ｂ調査面調査区分割図（18）

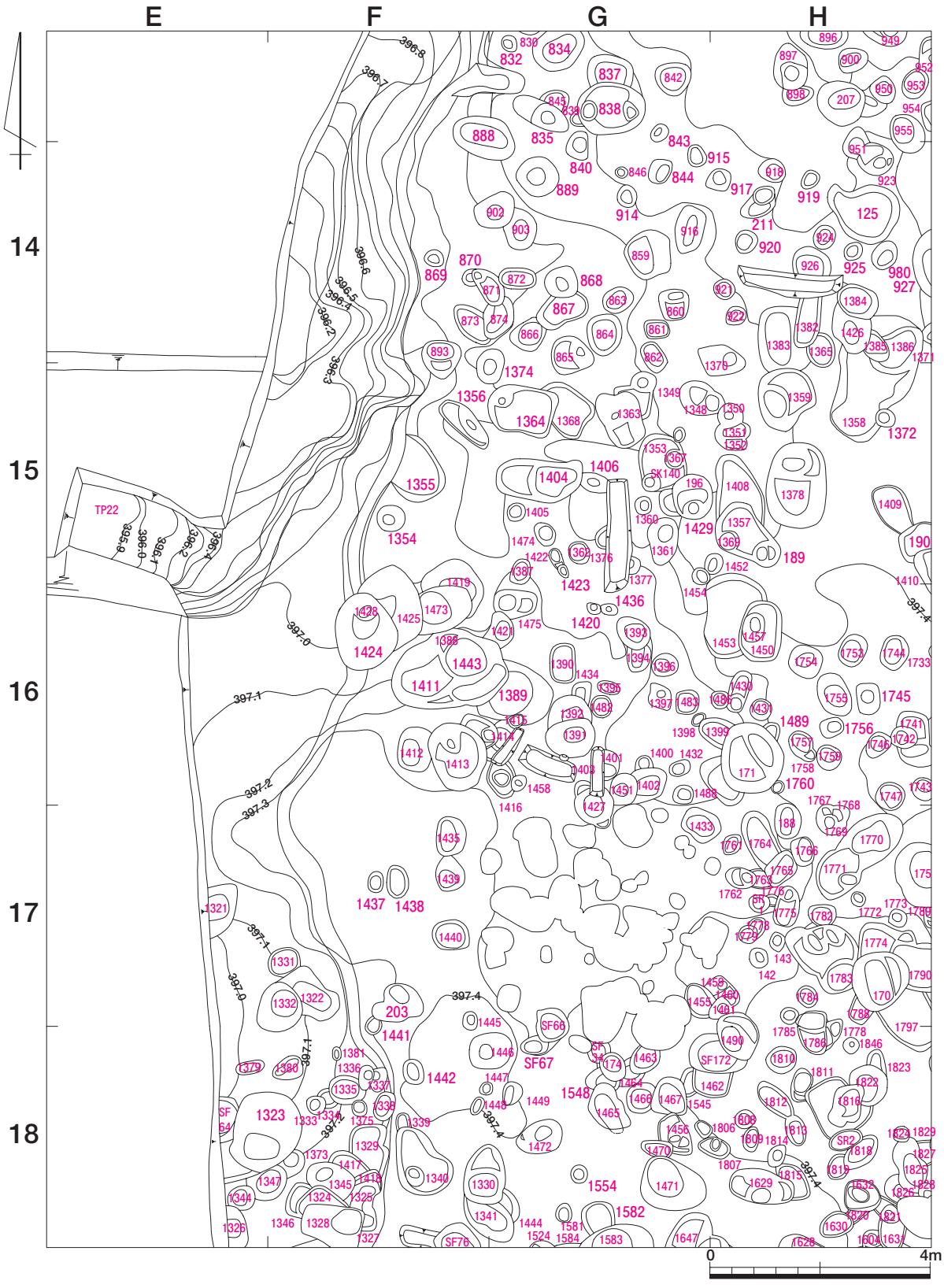


図187　第３Ｂ調査面調査区分割図（８）

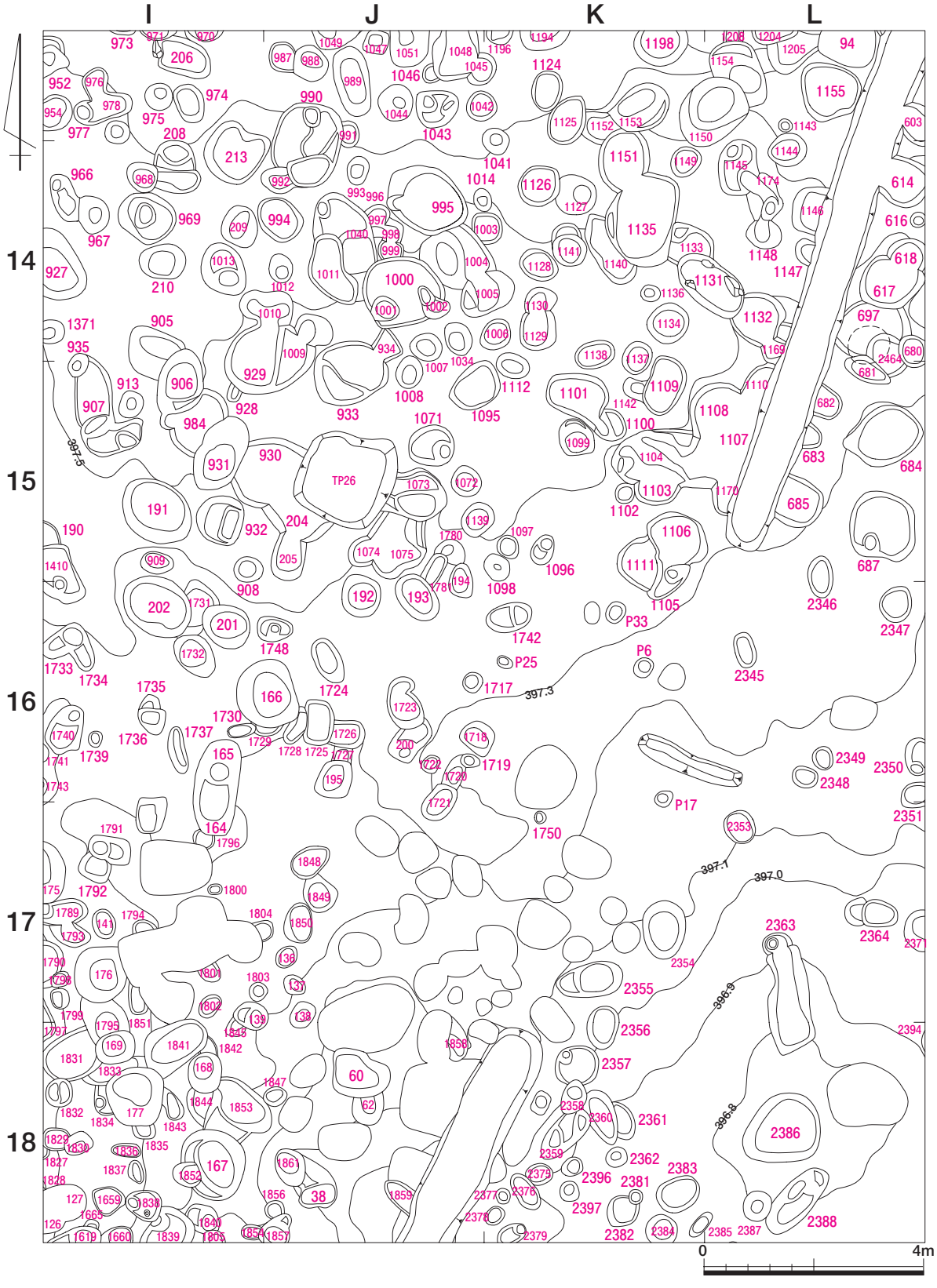


図188　第３Ｂ調査面調査区分割図（９）

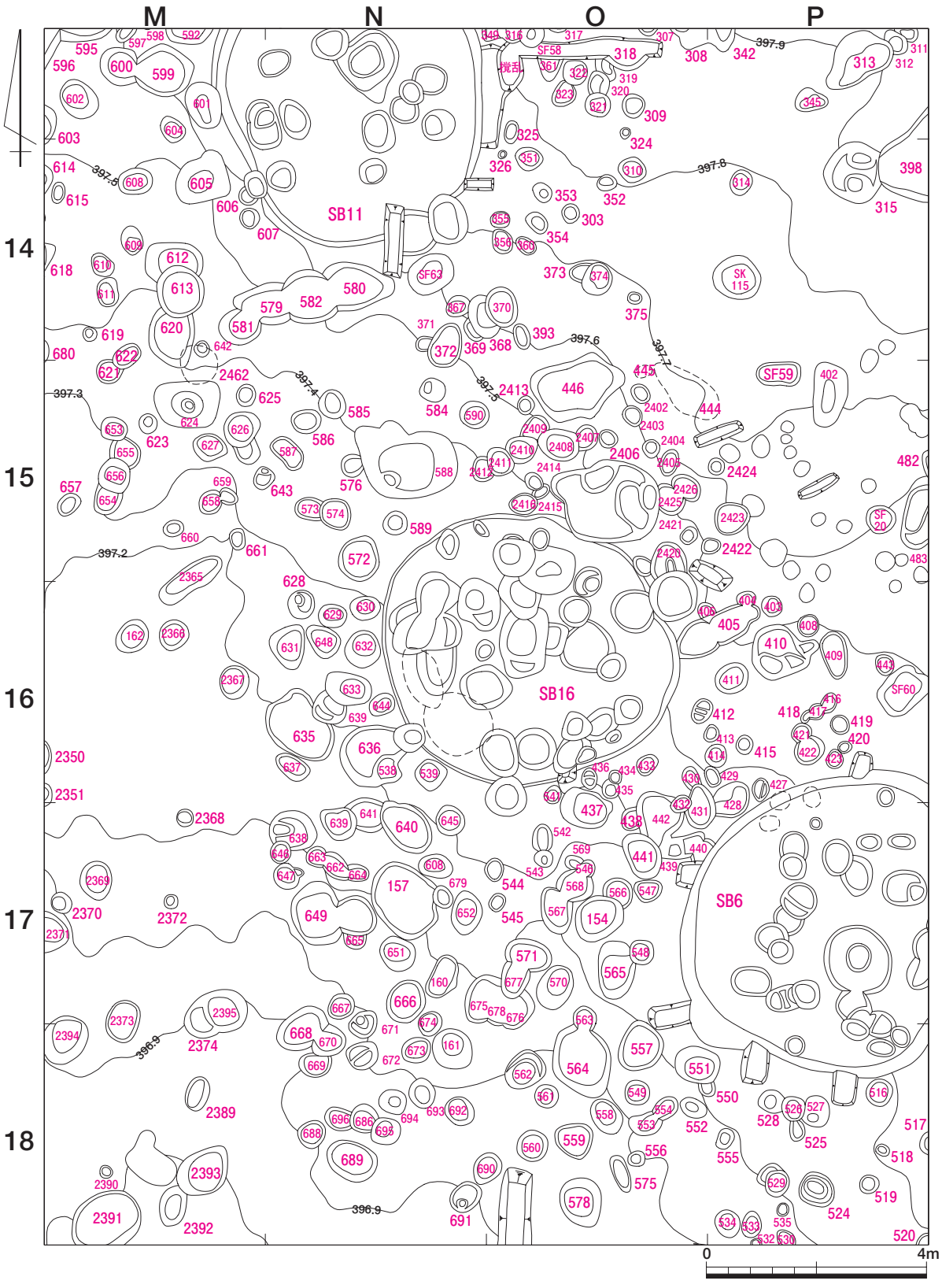


図189　第３Ｂ調査面調査区分割図（10）

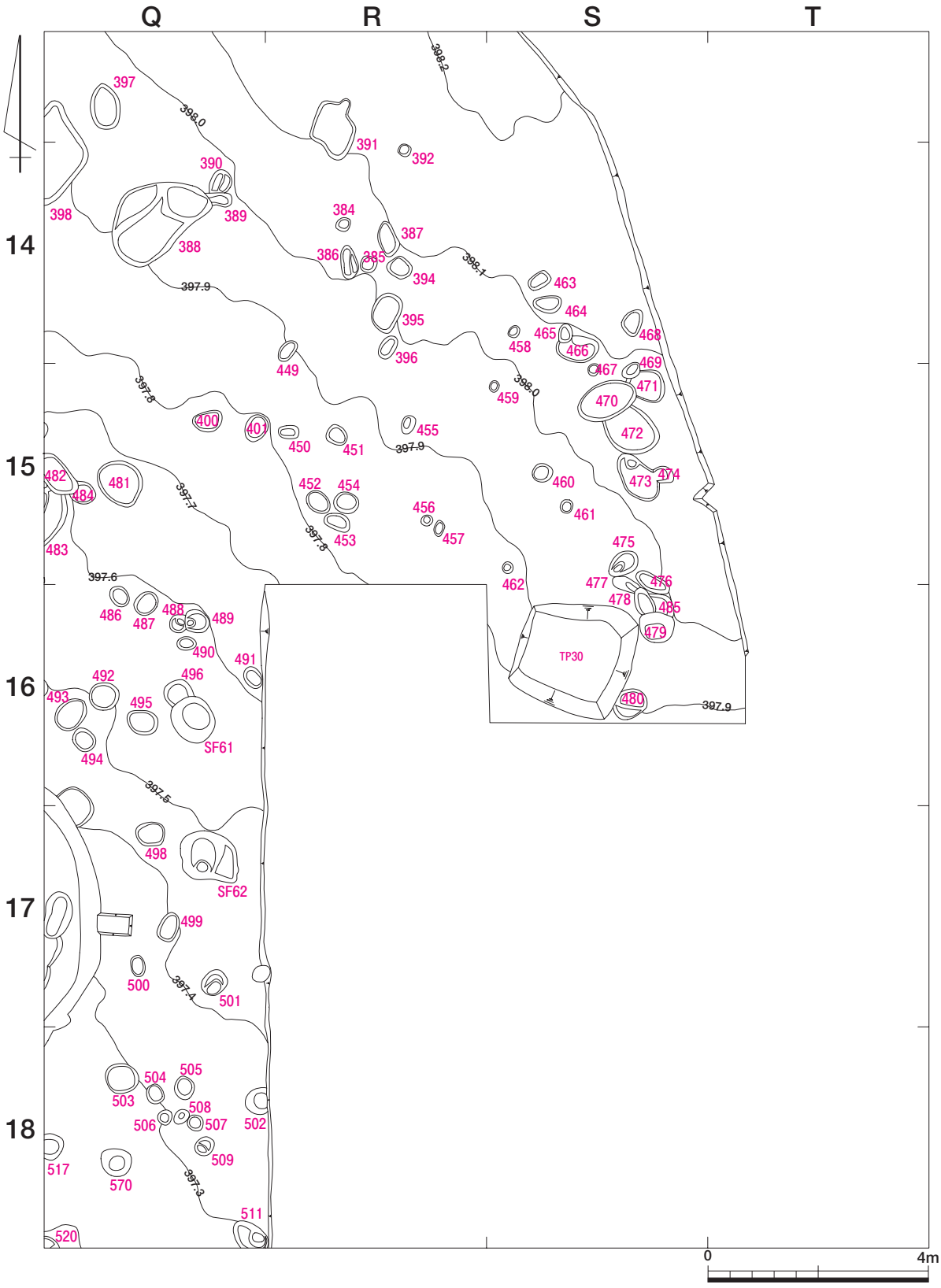


図190　第３Ｂ調査面調査区分割図（11）

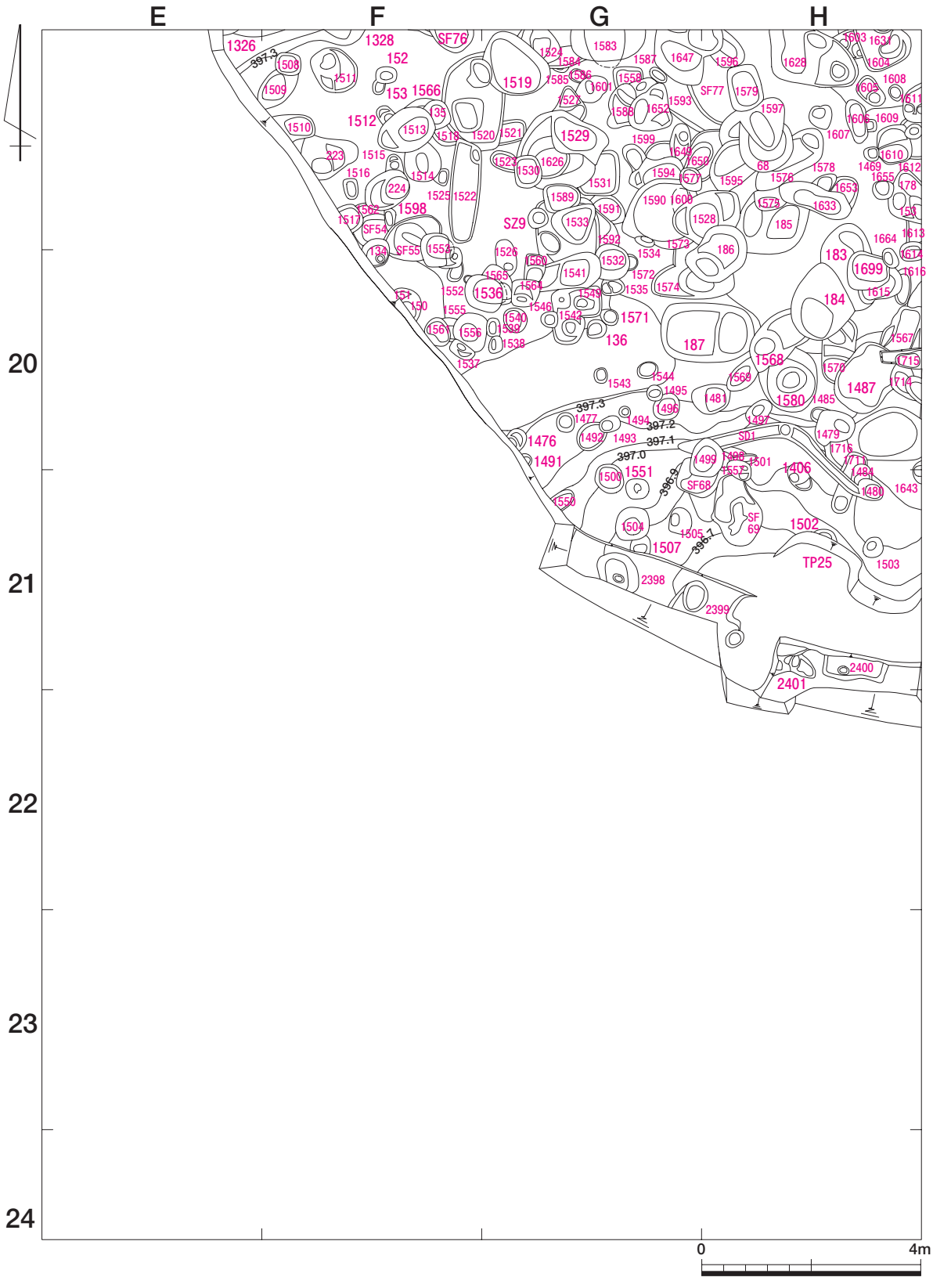


図191　第３Ｂ調査面調査区分割図（12）

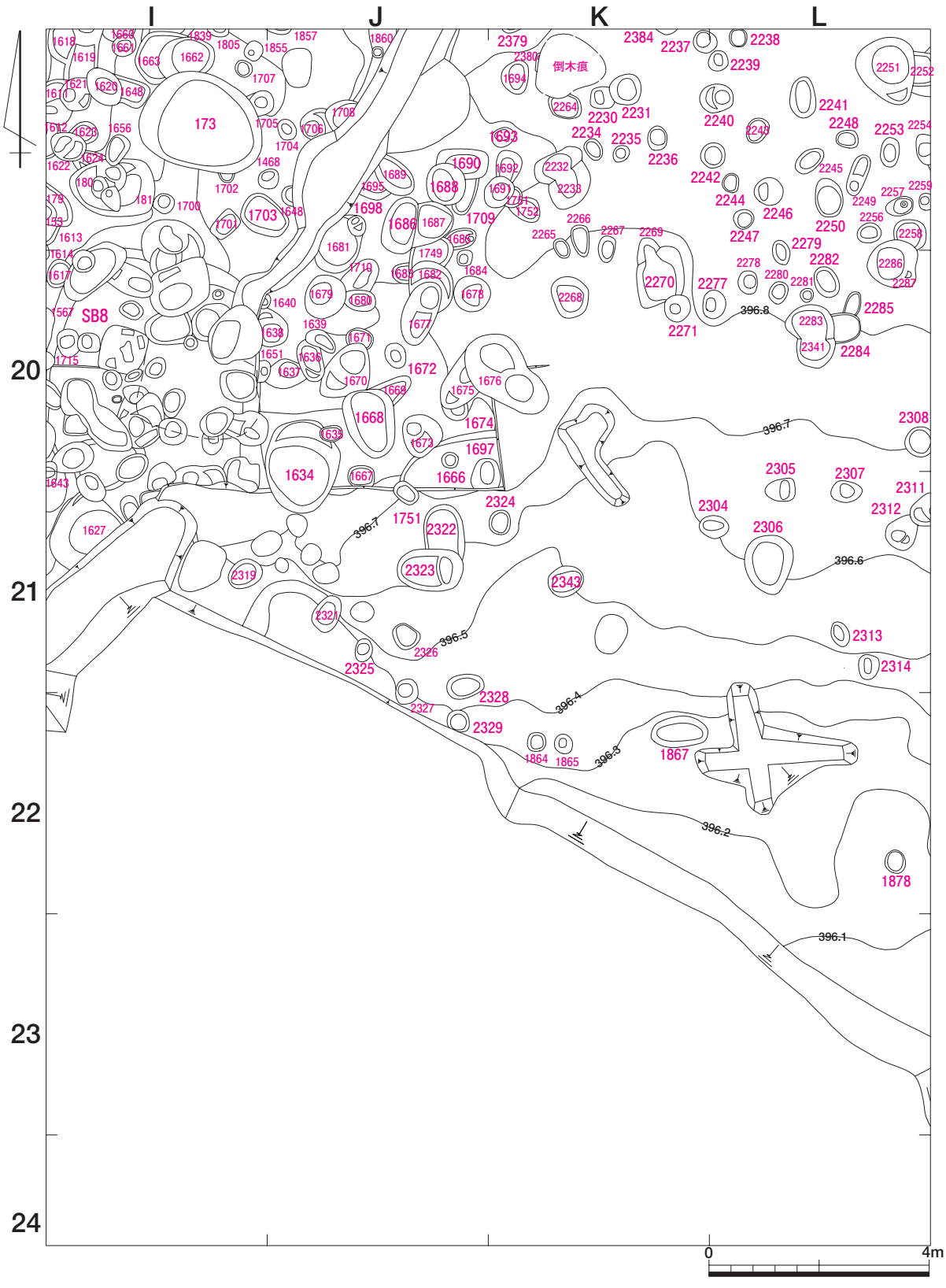


図192　第３Ｂ調査面調査区分割図（13）

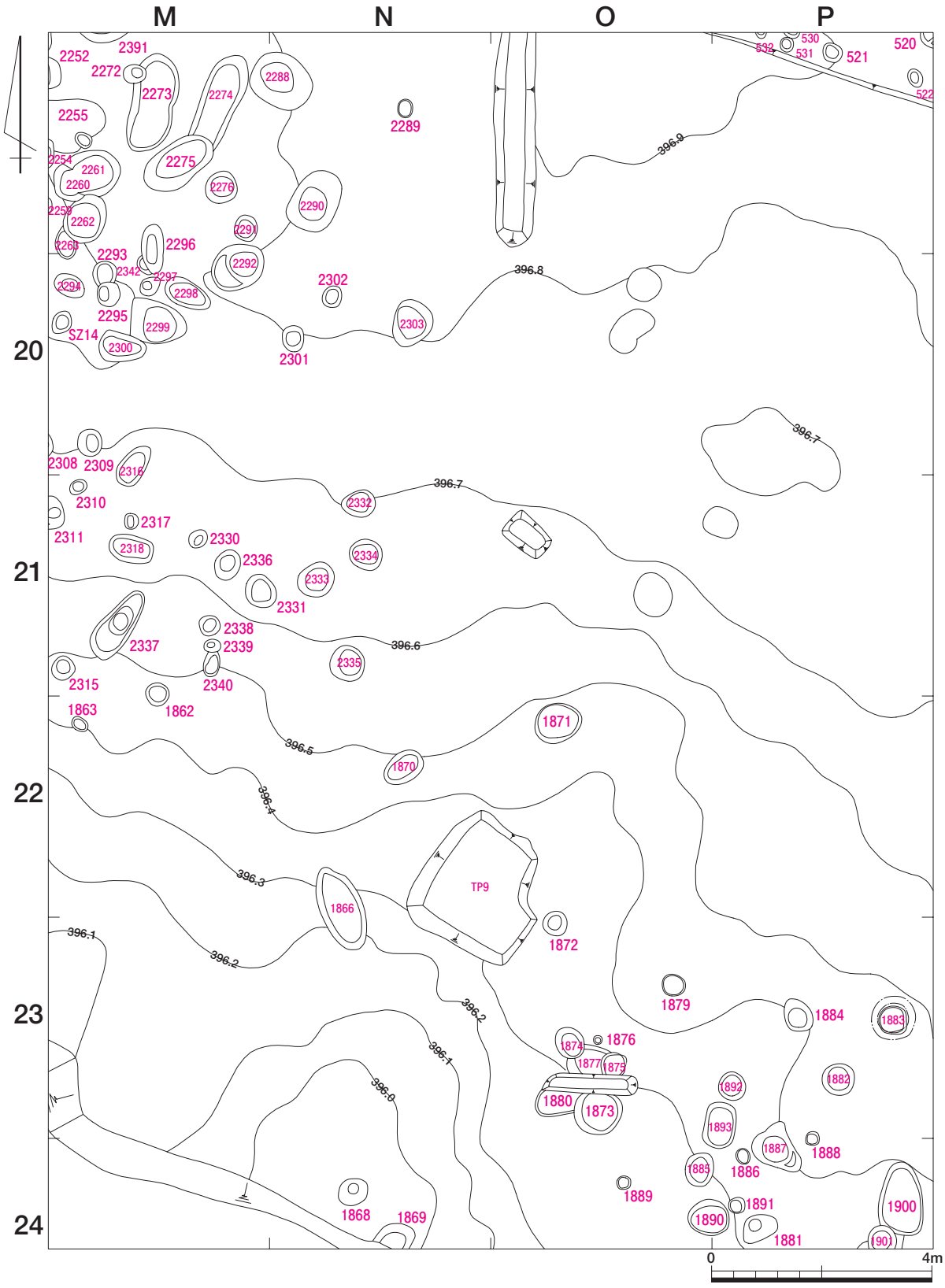


図193　第３Ｂ調査面調査区分割図（14）

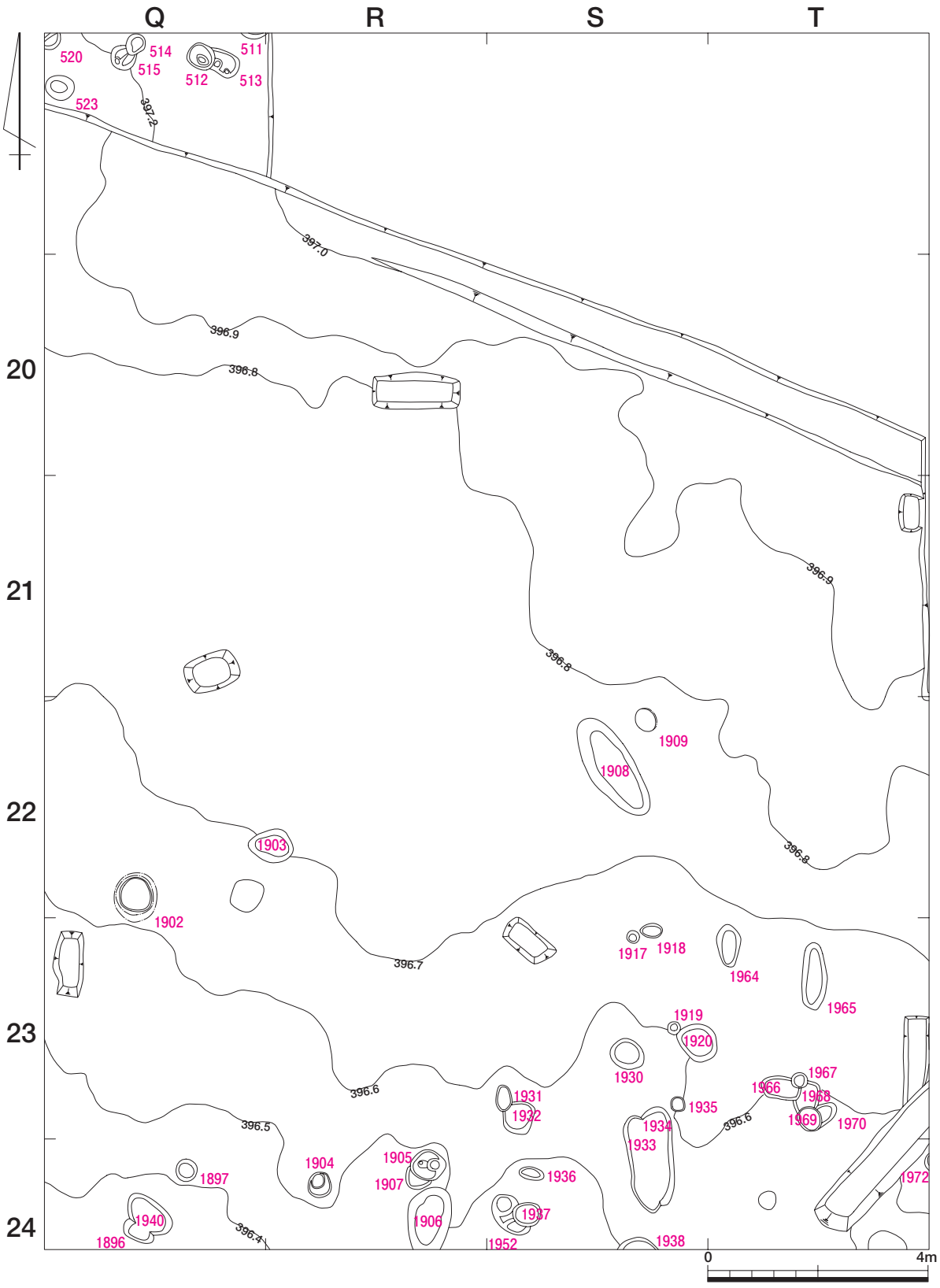


図194　第 3 B 調査面調査区分割図（15）

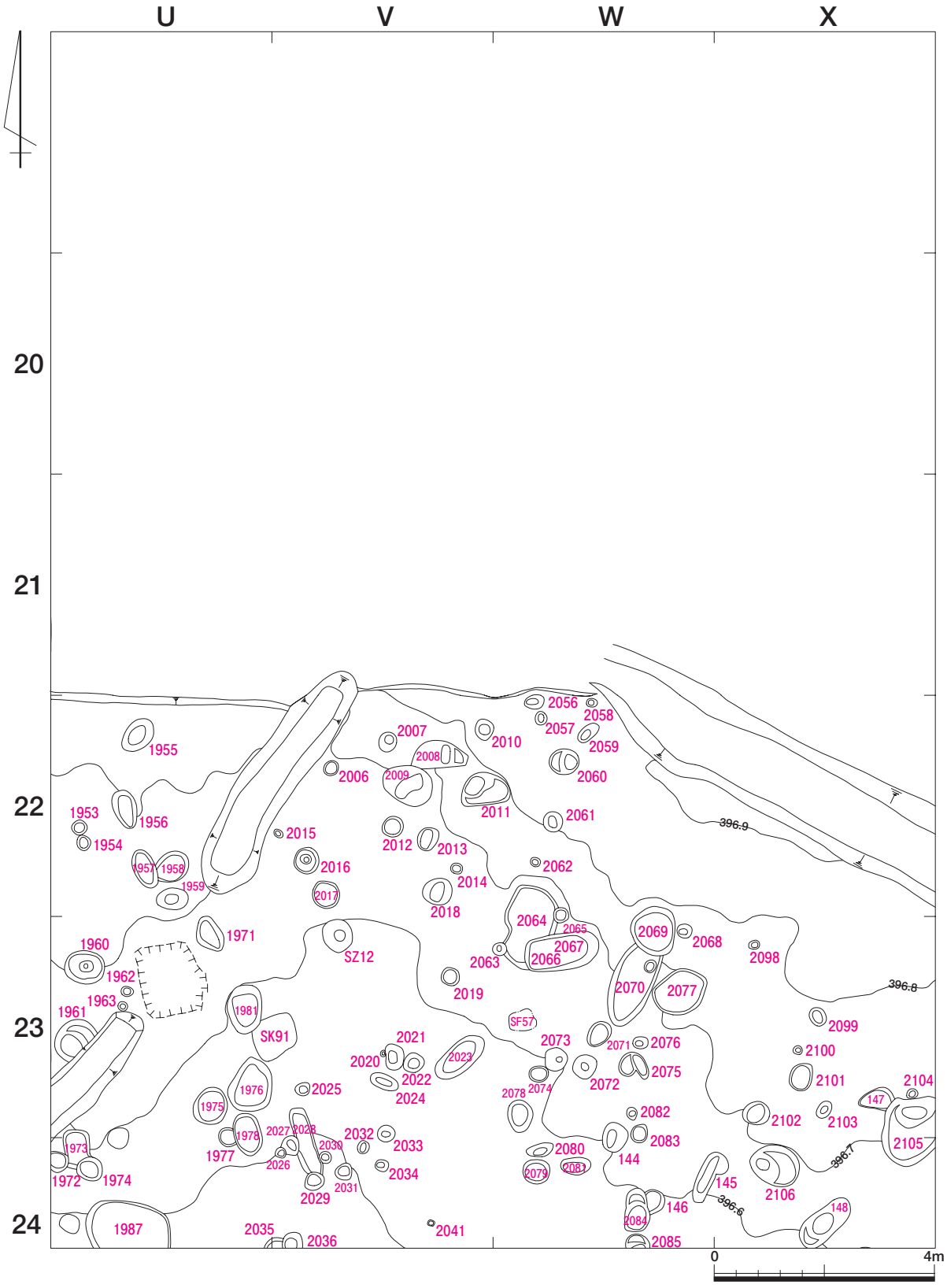


図195　第３Ｂ調査面調査区分割図（16）

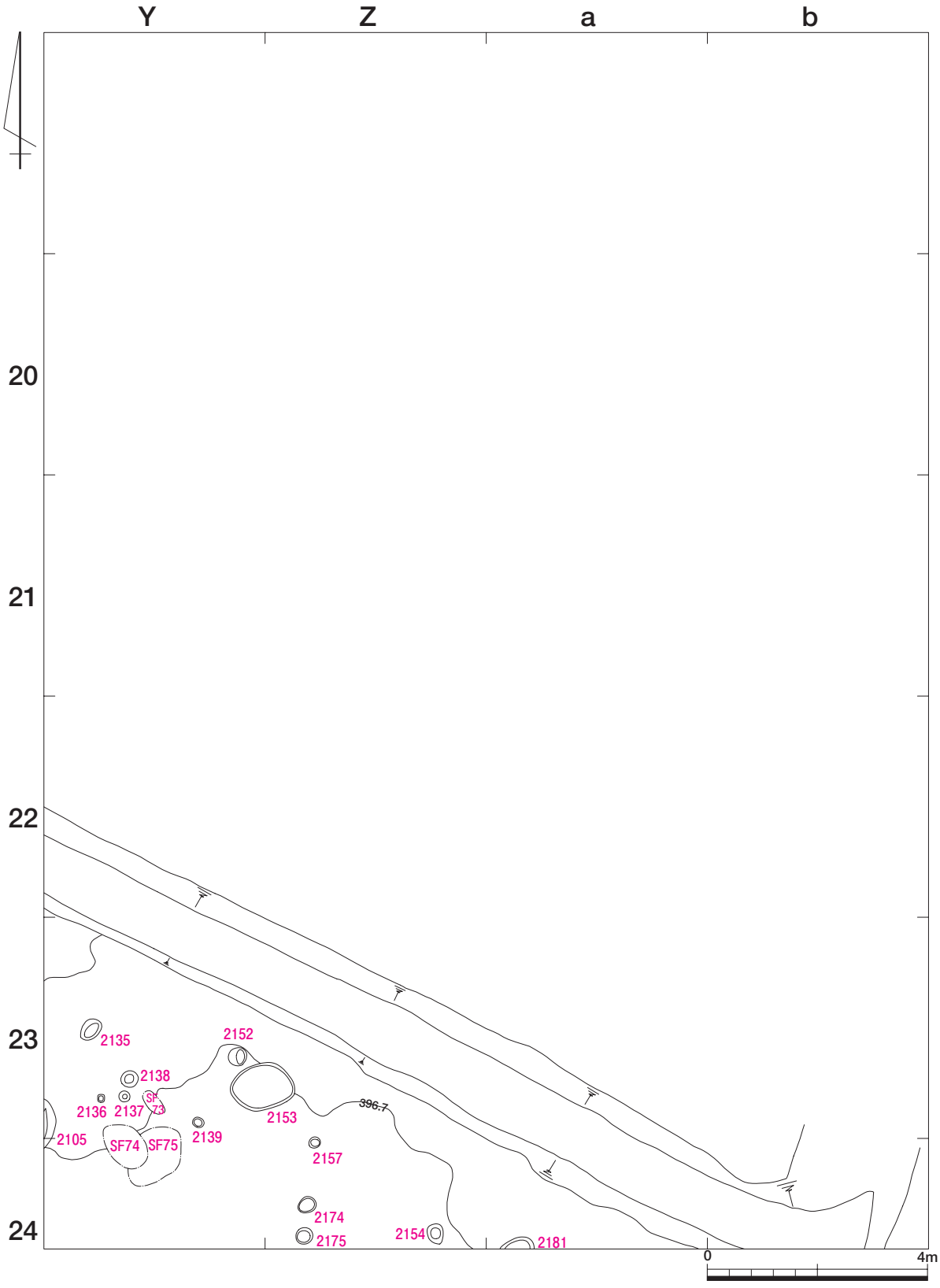


図196　第３Ｂ調査面調査区分割図（17）

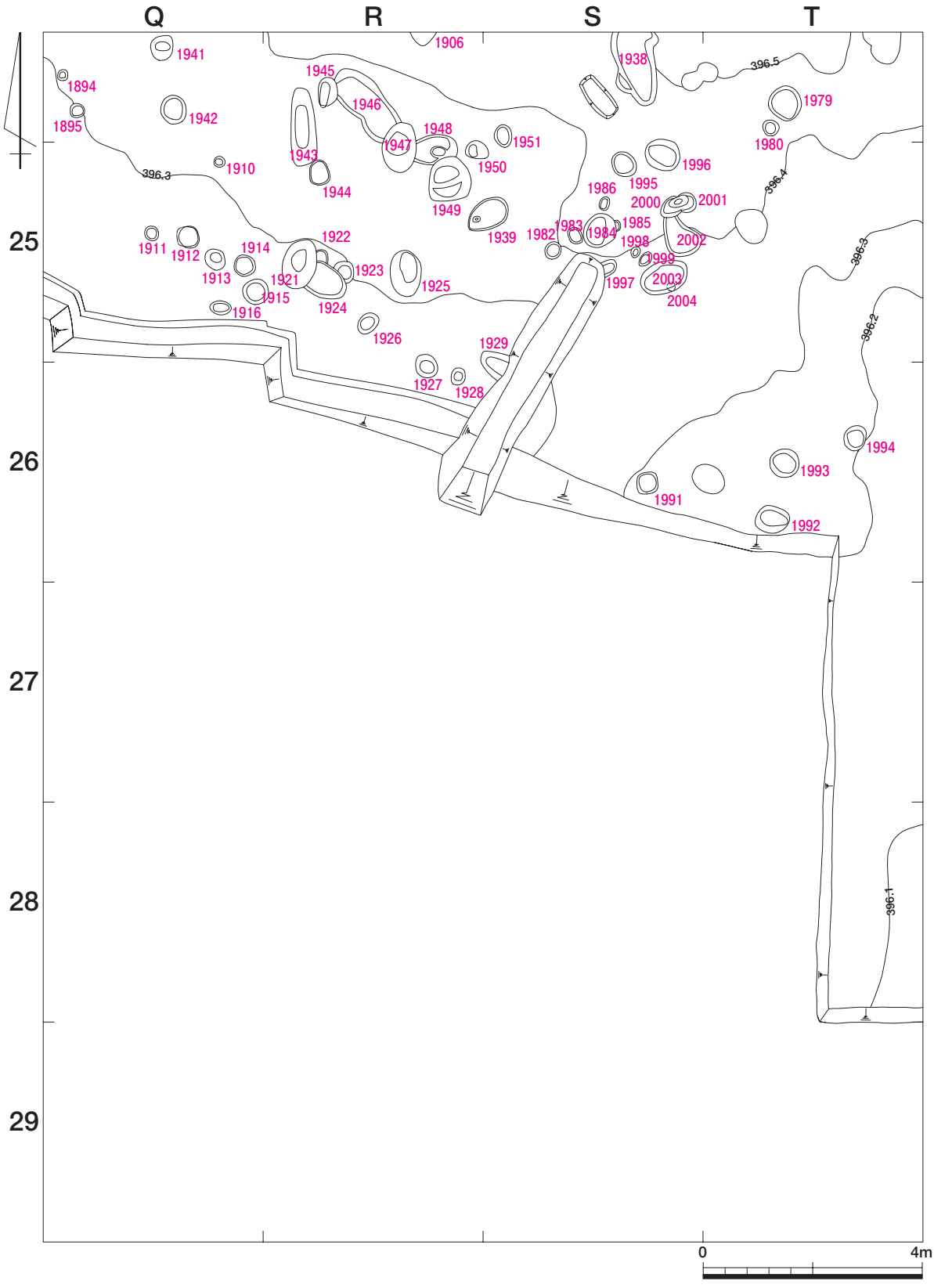


図197　第３Ｂ調査面調査区分割図（19）

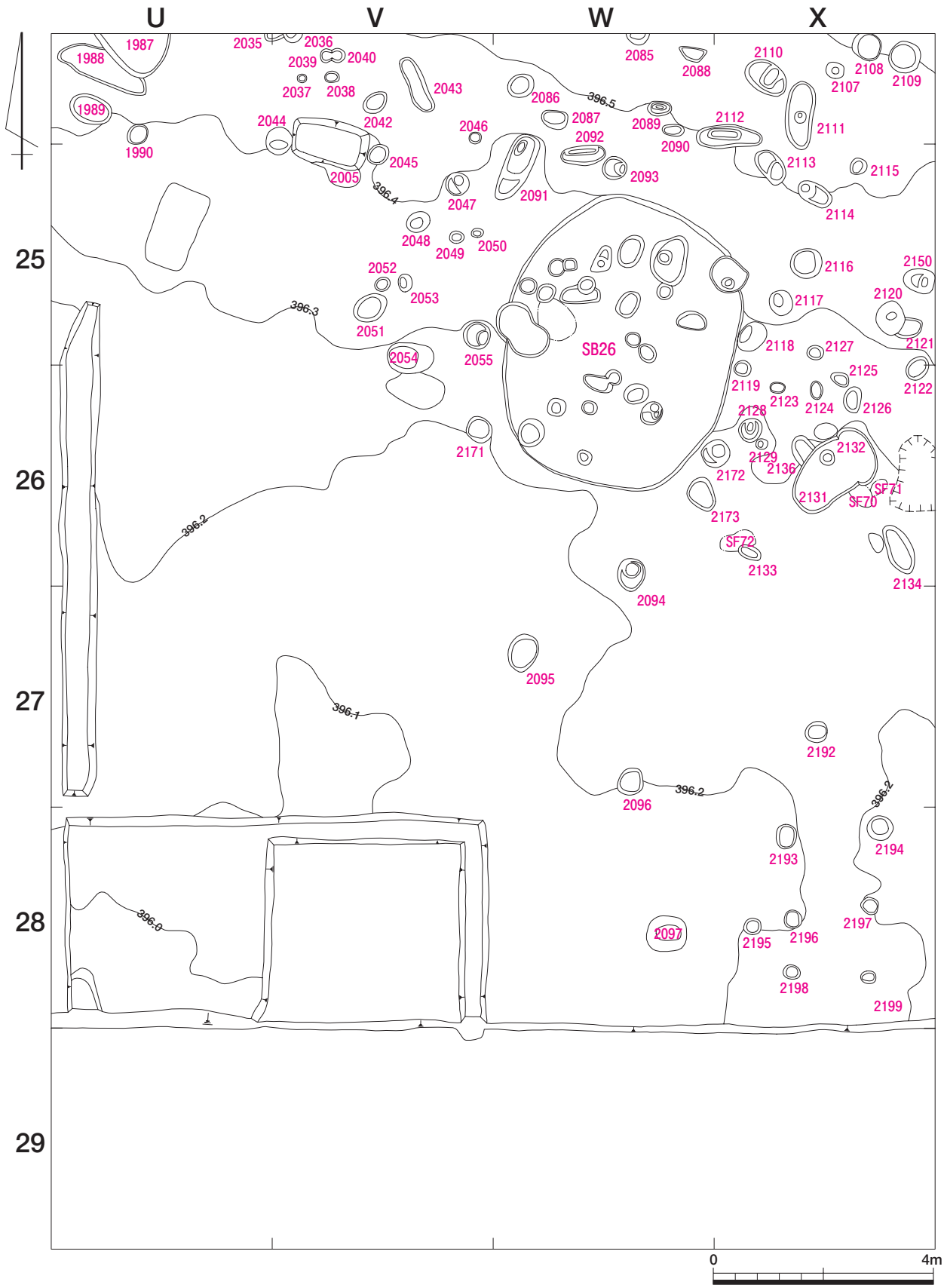


図198　第３Ｂ調査面調査区分割図（20）

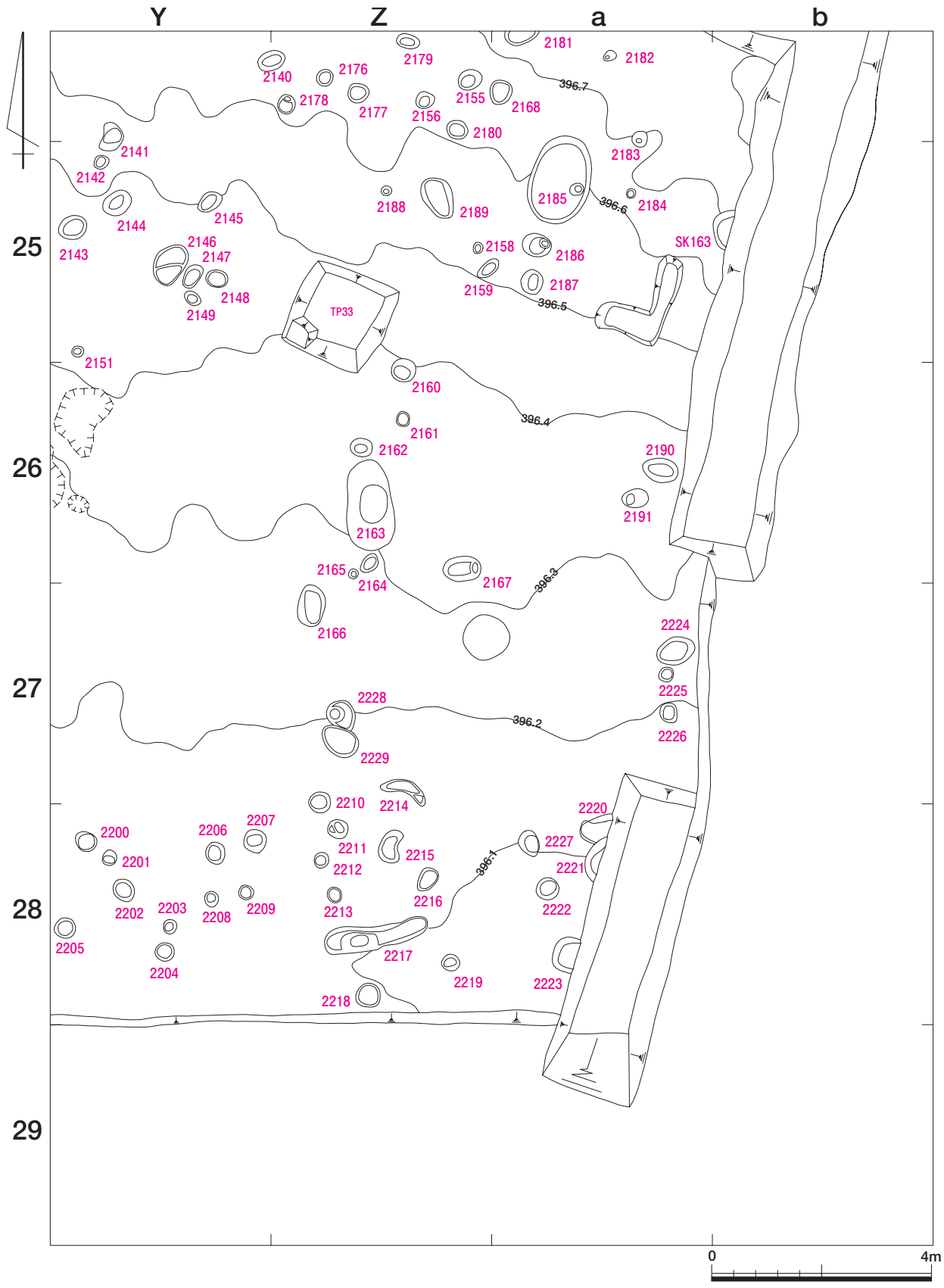


図199　第３Ｂ調査面調査区分割図（21）

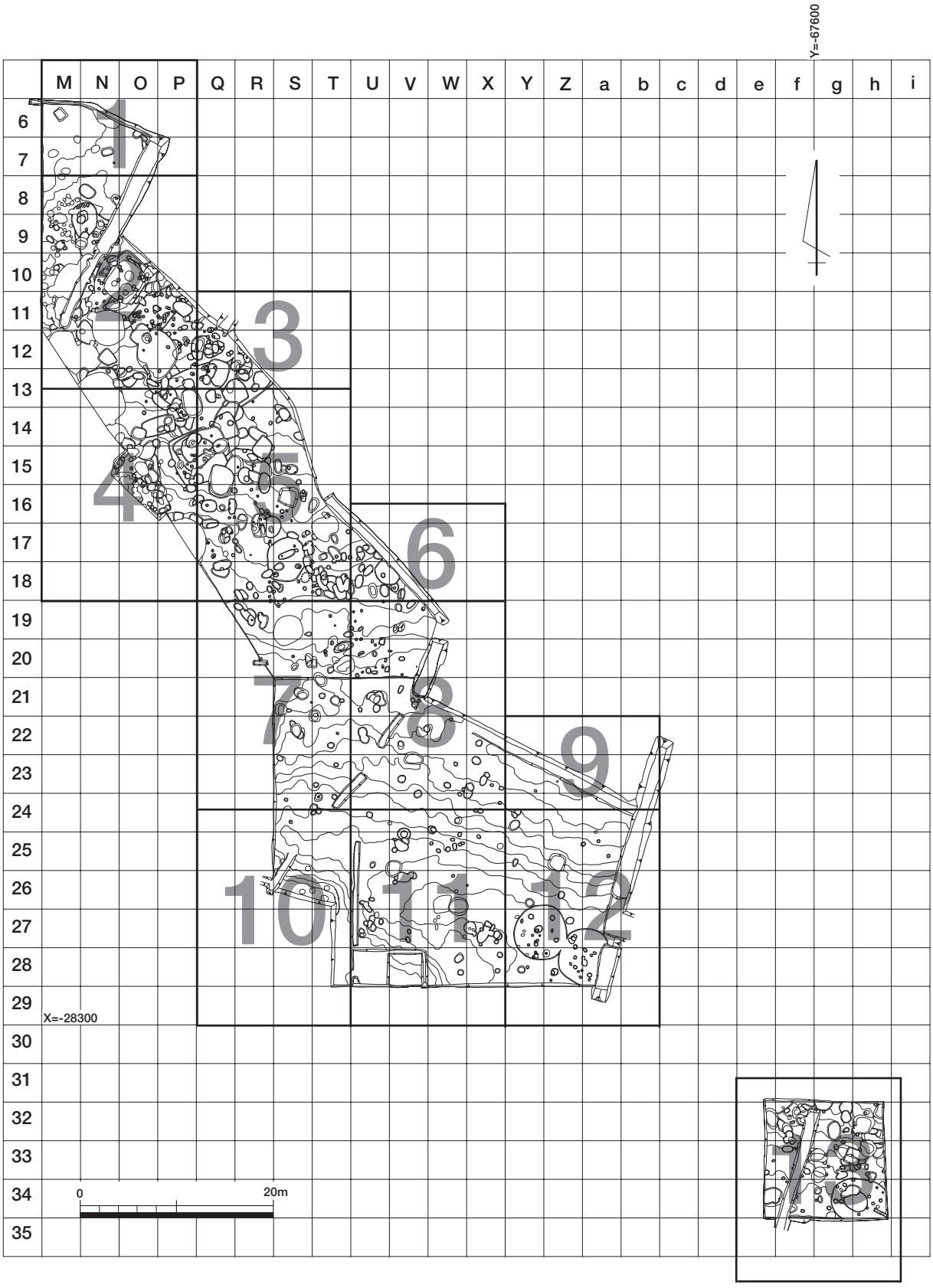


図200　第 4 ・第 5 調査面調査区全体図（割付図）

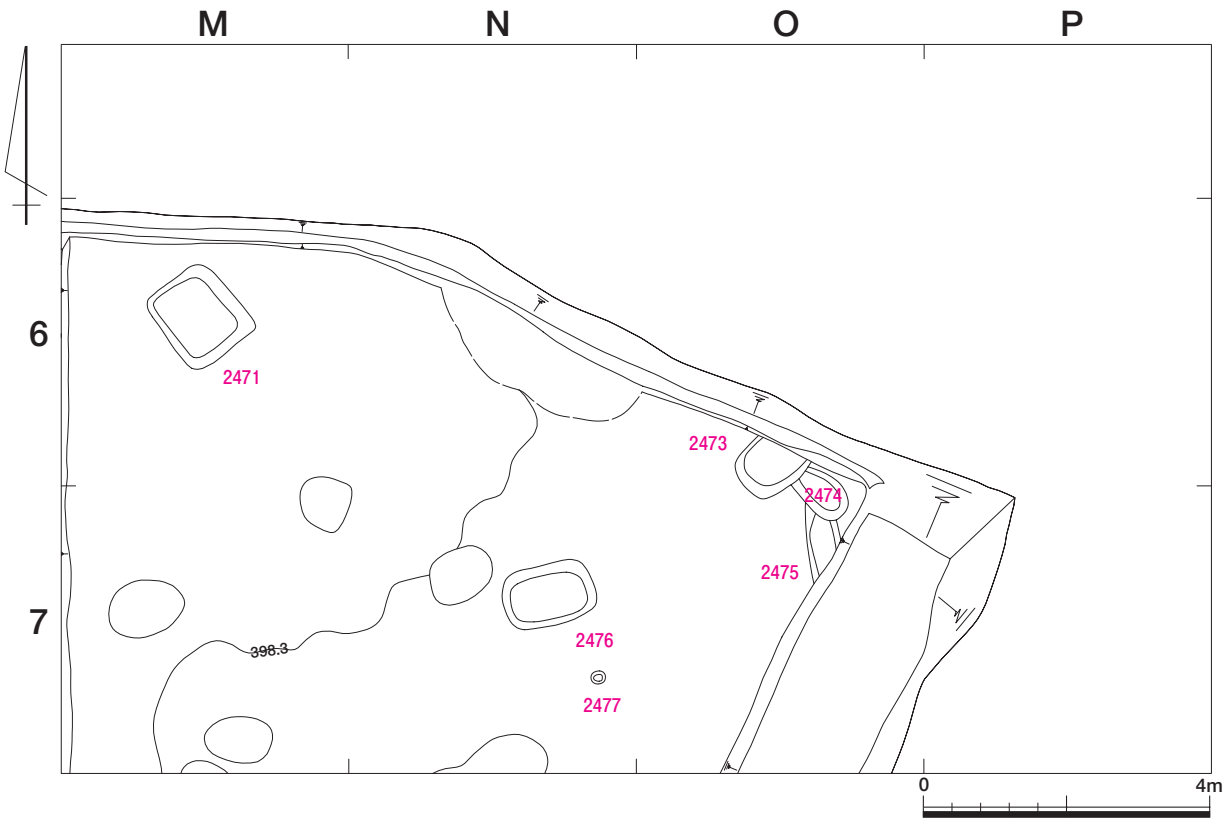


図201　第 4 ・第 5 調査面調査区割付図（1）

図202　第 4 ・第 5 調査面調査区割付図（3）

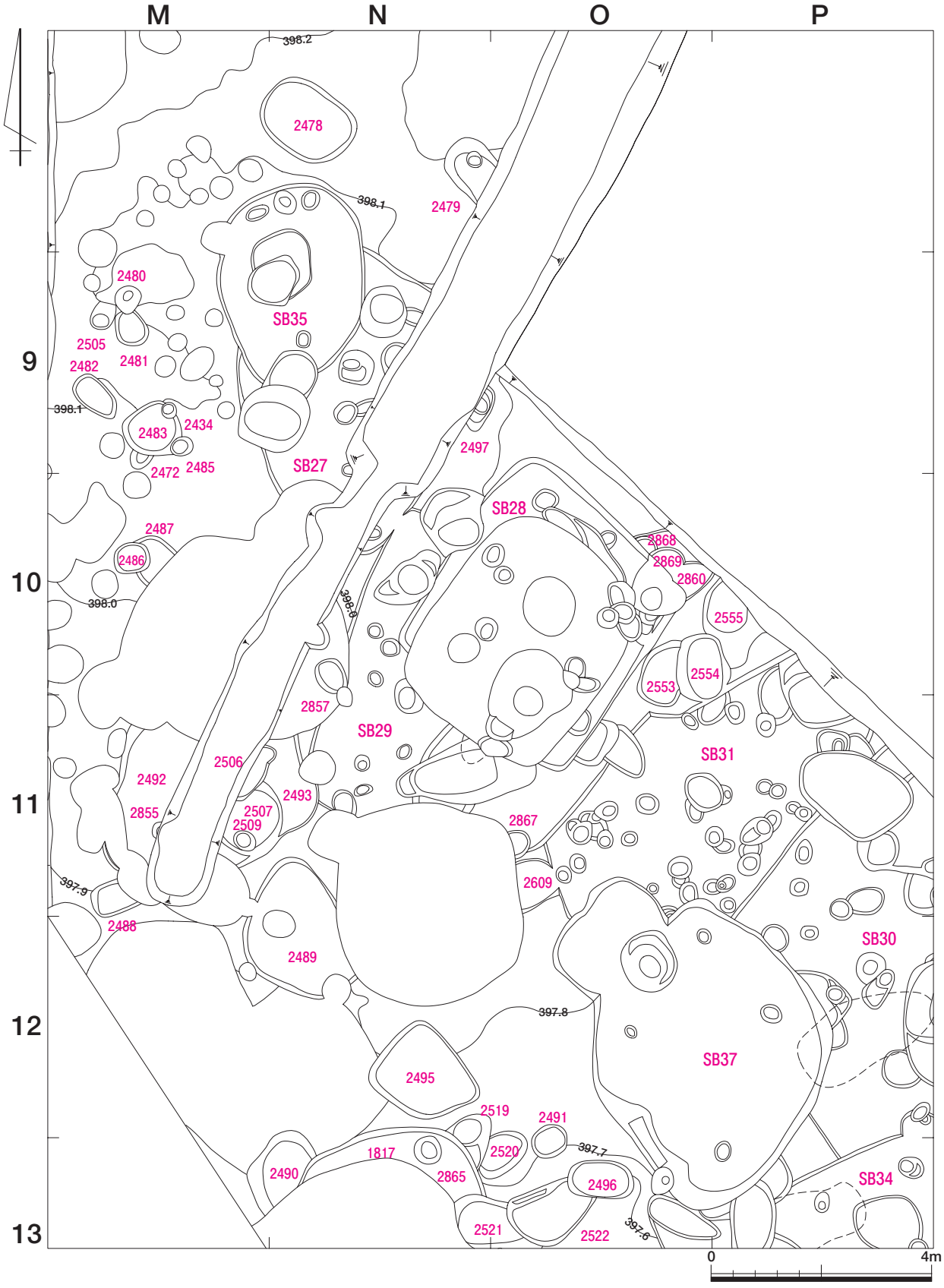


図203　第 4 ・第 5 調査面調査区分割図（2）

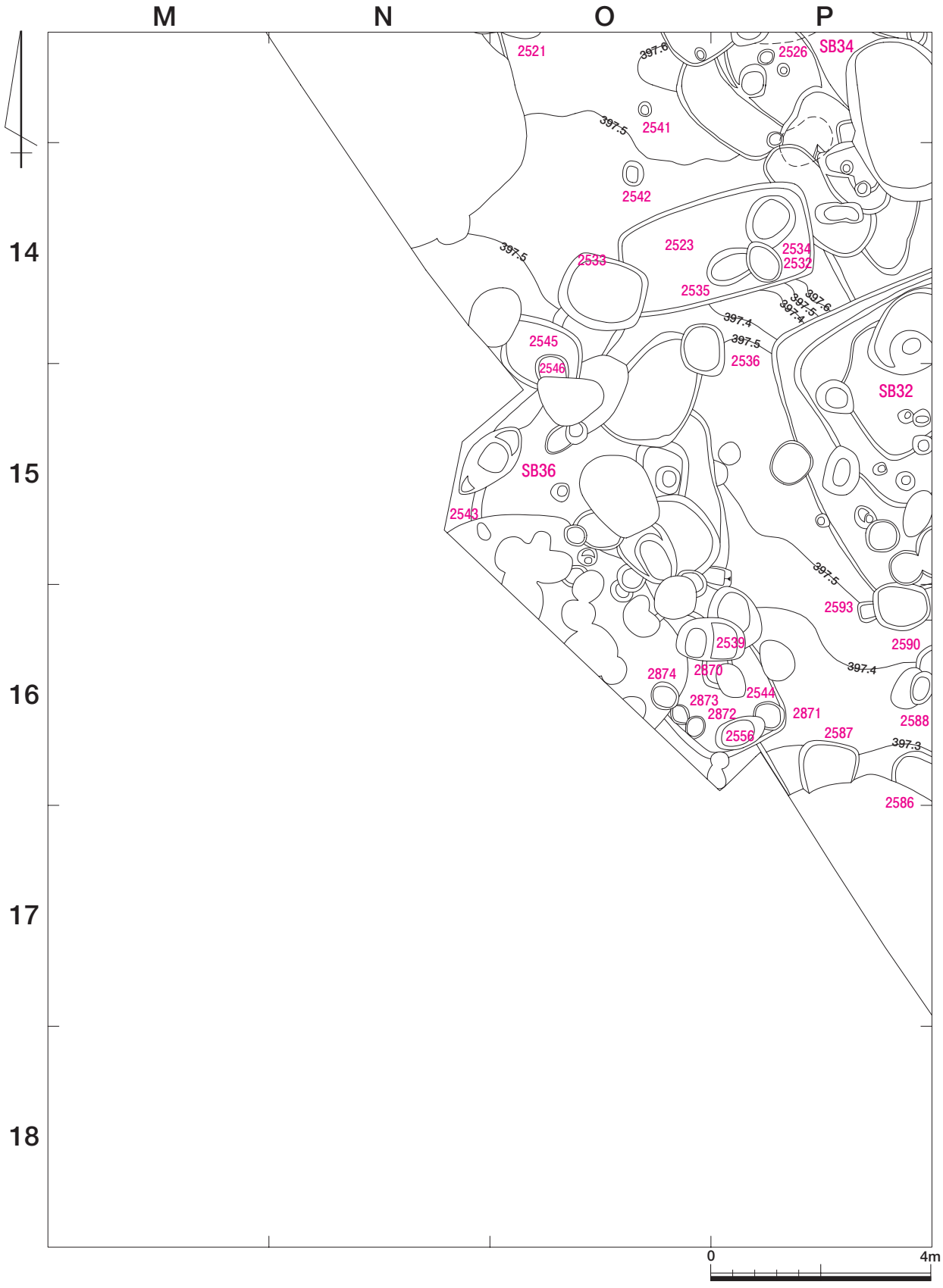


図204　第 4 ・第 5 調査面調査区分割図（4）

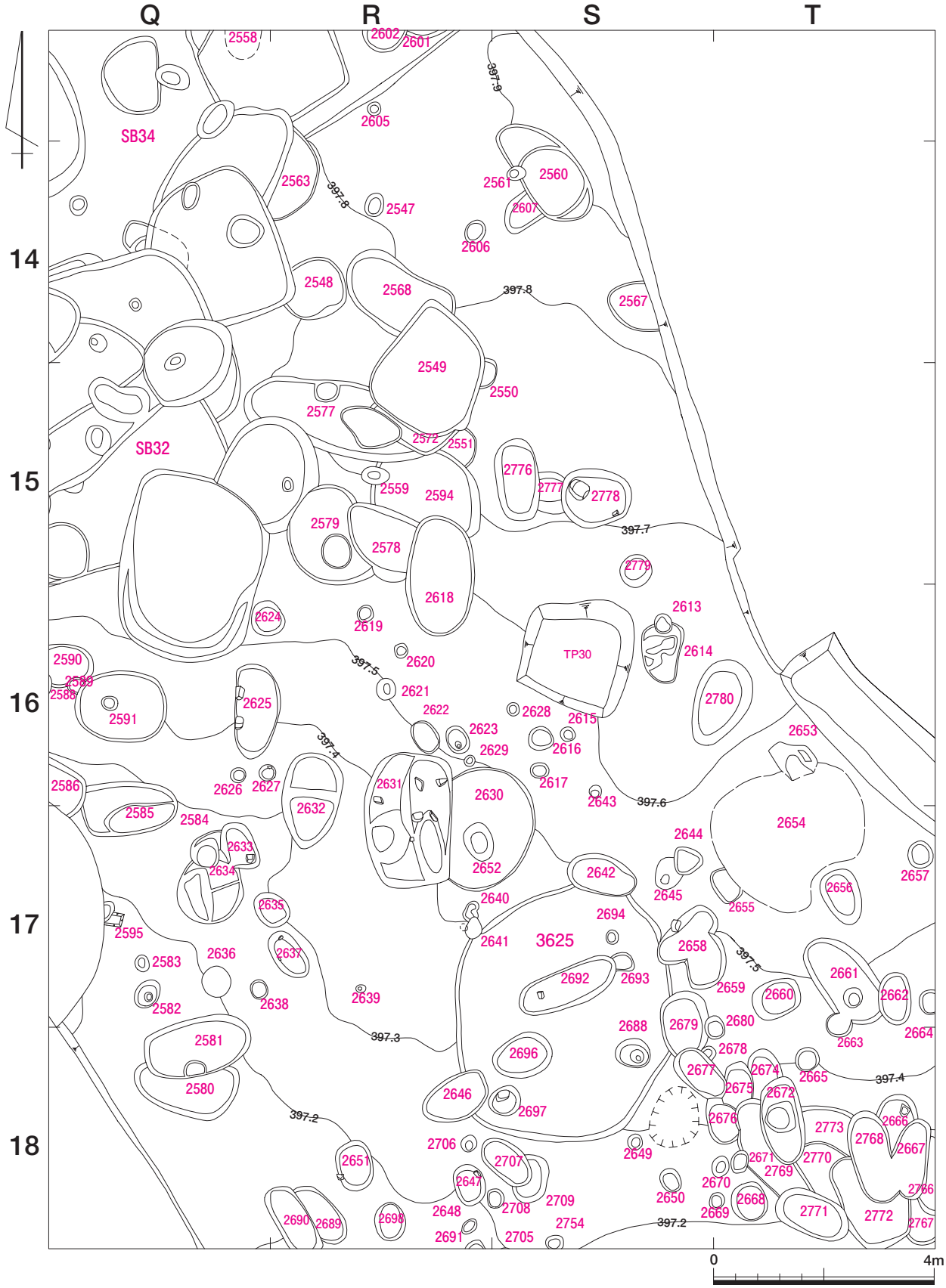


図205　第 4 ・第 5 調査面調査区分割図（5）

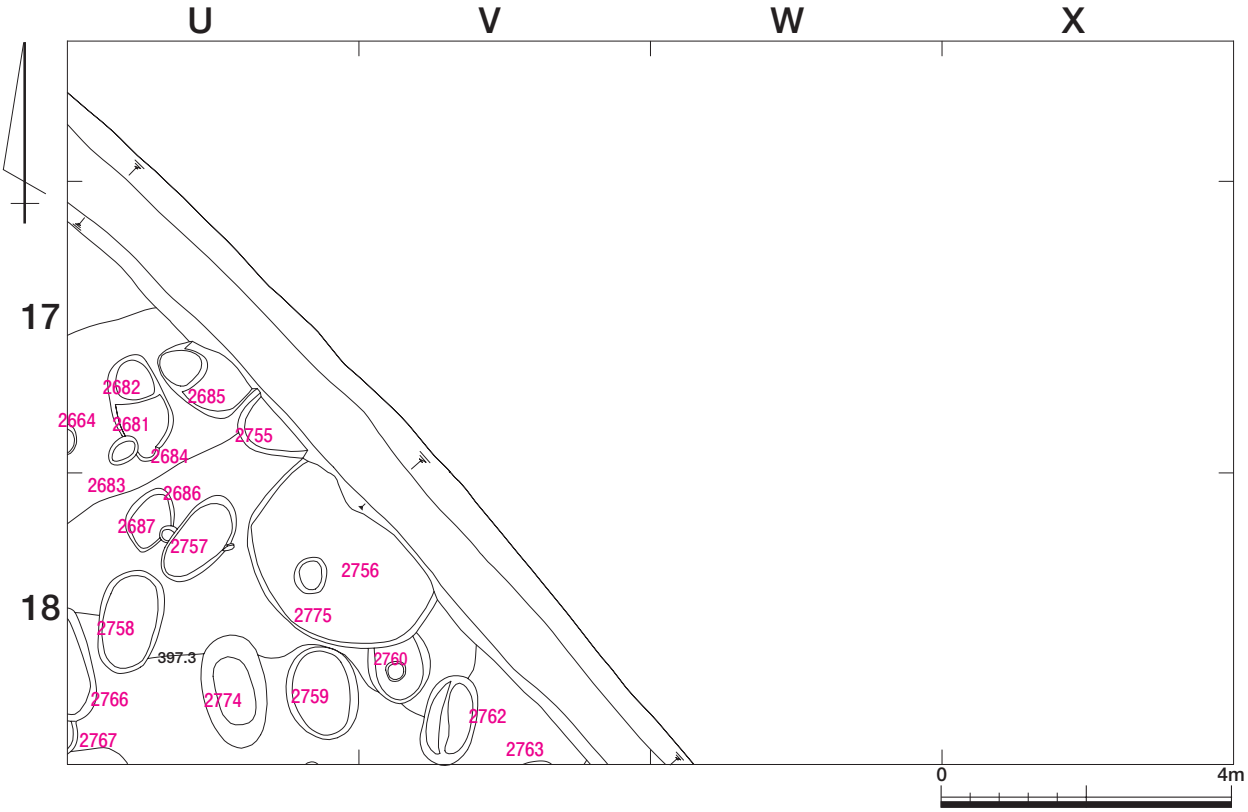


図206　第 4 ・第 5 調査面調査区分割図（6）

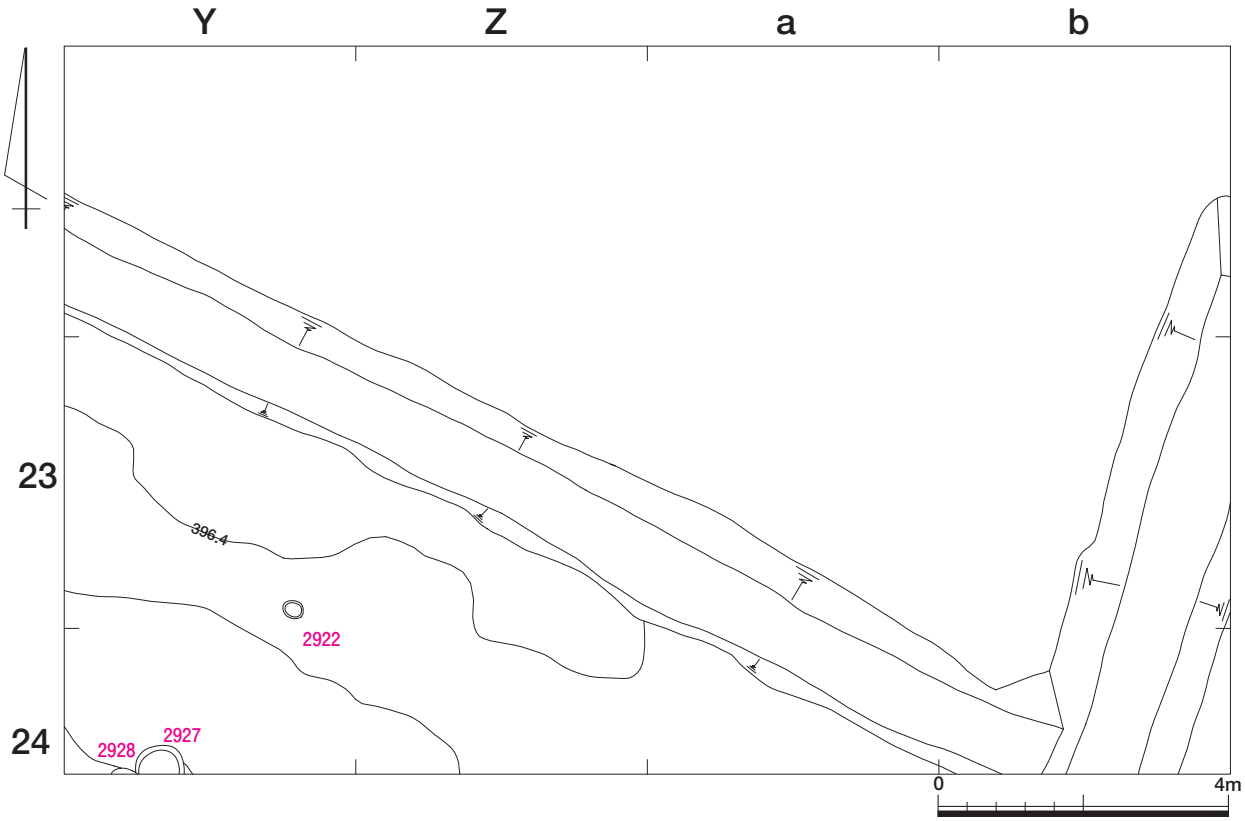


図207　第 4 ・第 5 調査面調査区分割図（9）

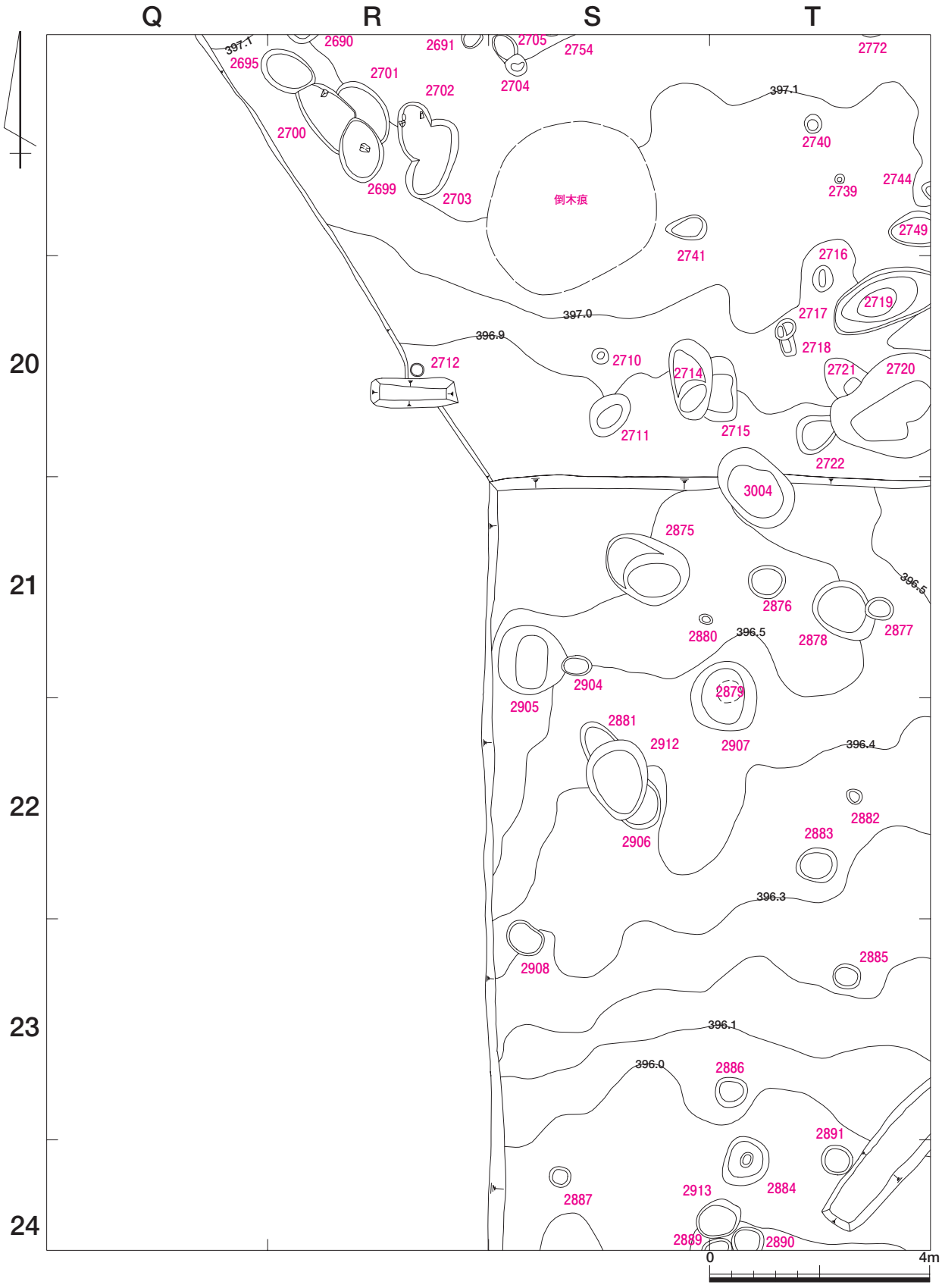


図208　第 4 ・第 5 調査面調査区分割図（7）

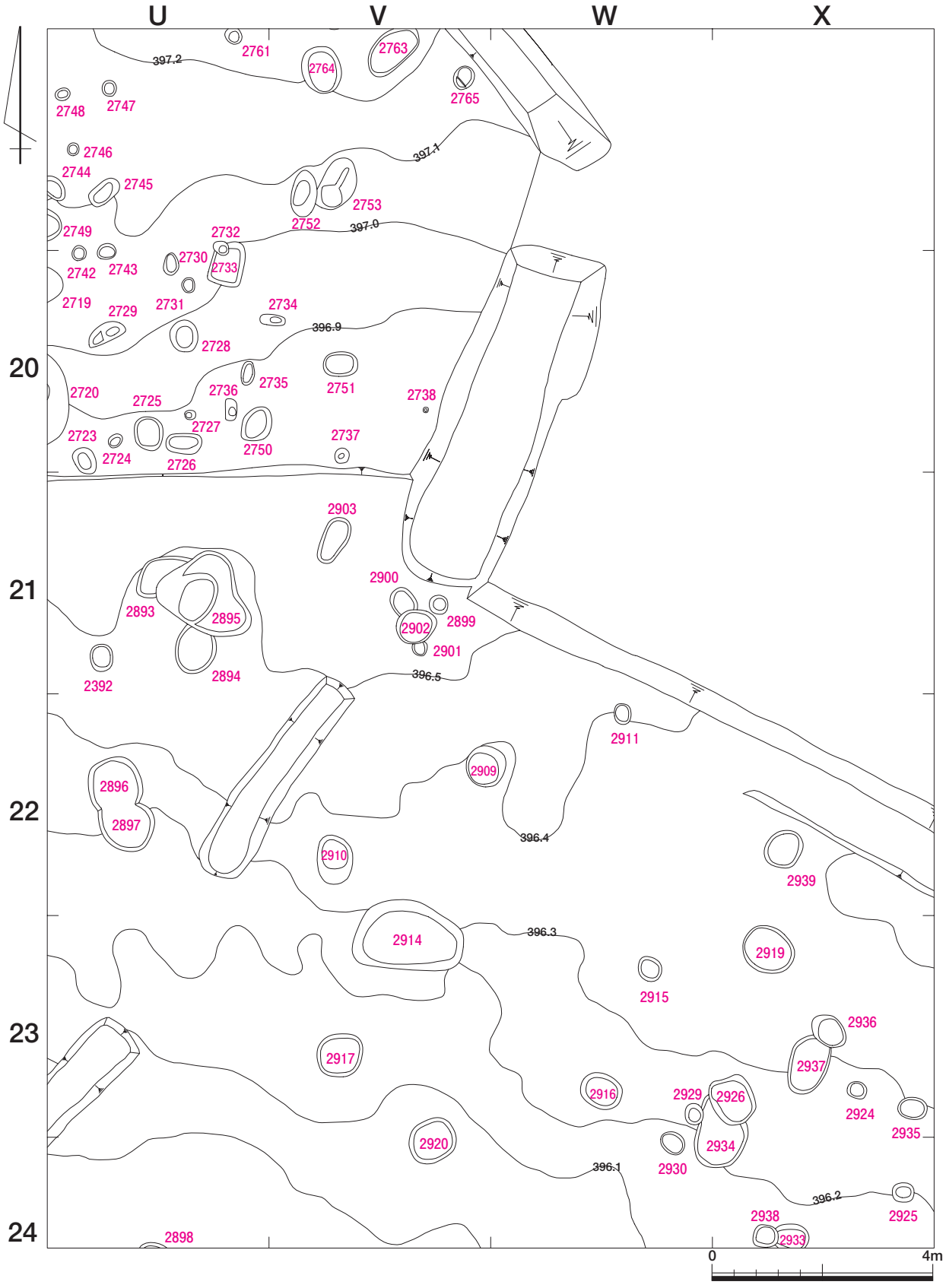


図209　第 4 ・第 5 調査面調査区分割図（8）

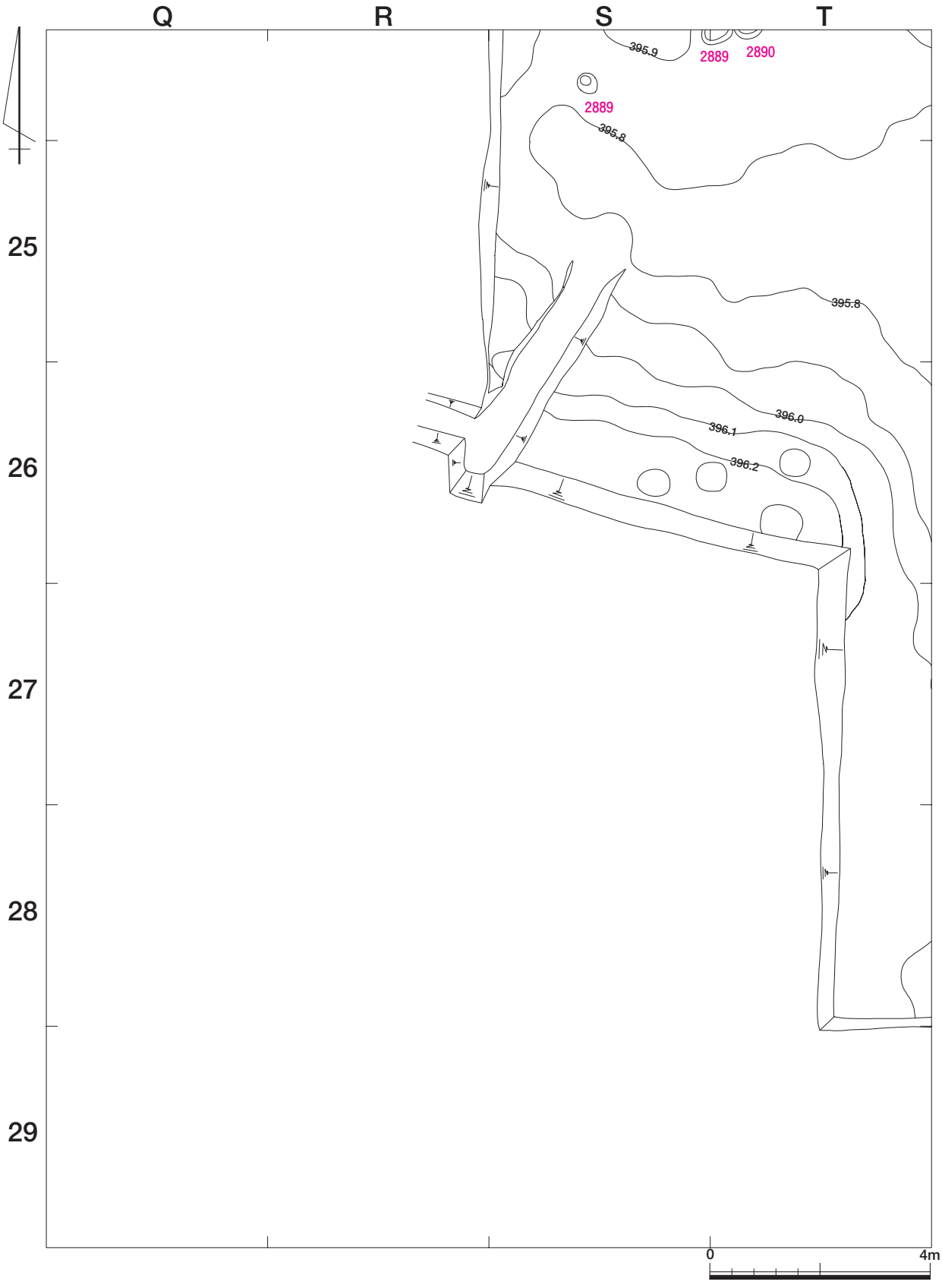


図210　第 4 ・第 5 調査面調査区分割図（10）

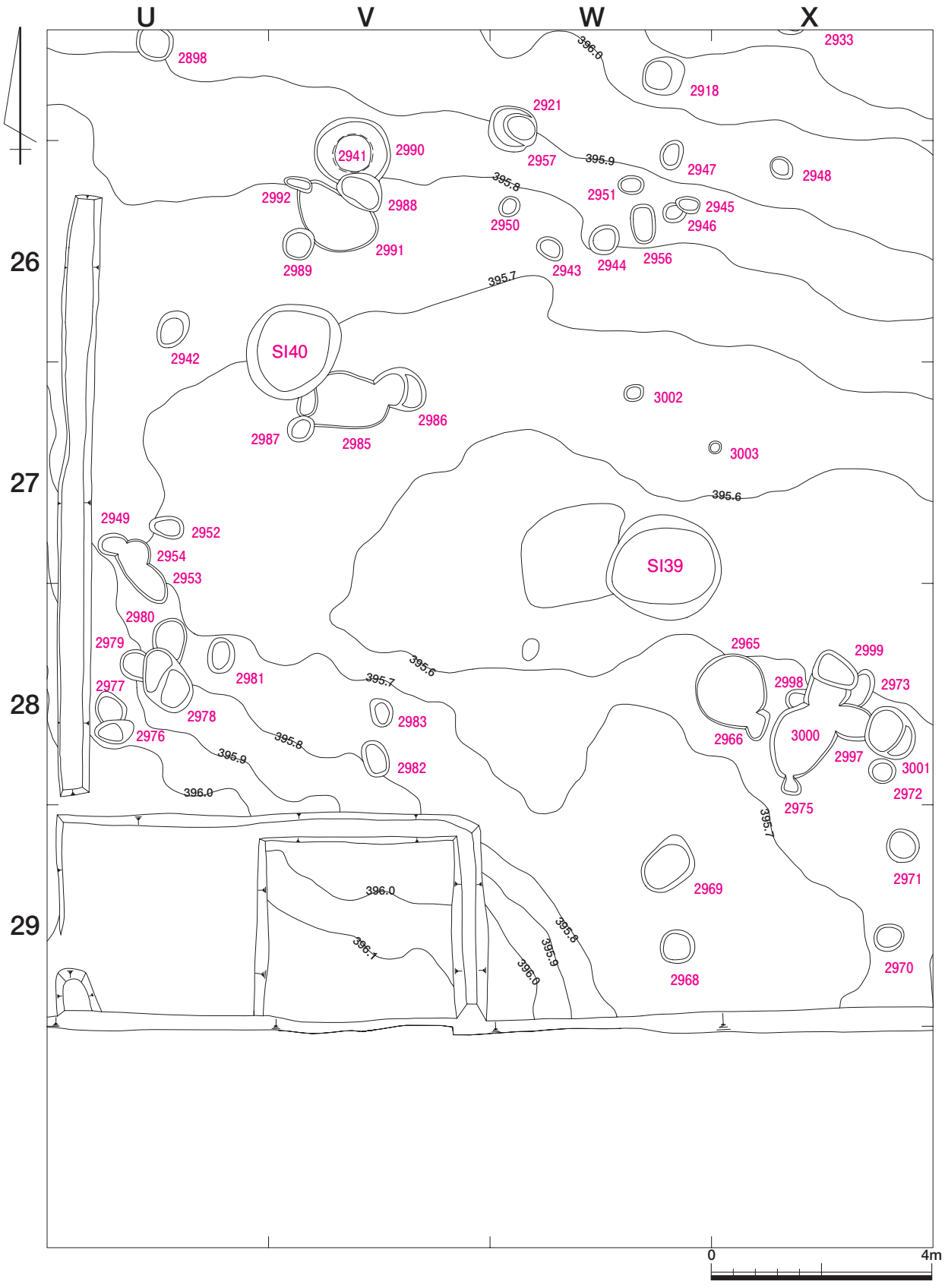


図211　第 4 ・第 5 調査面調査区分割図（11）

図212　第 4 ・第 5 調査面調査区分割図（12）

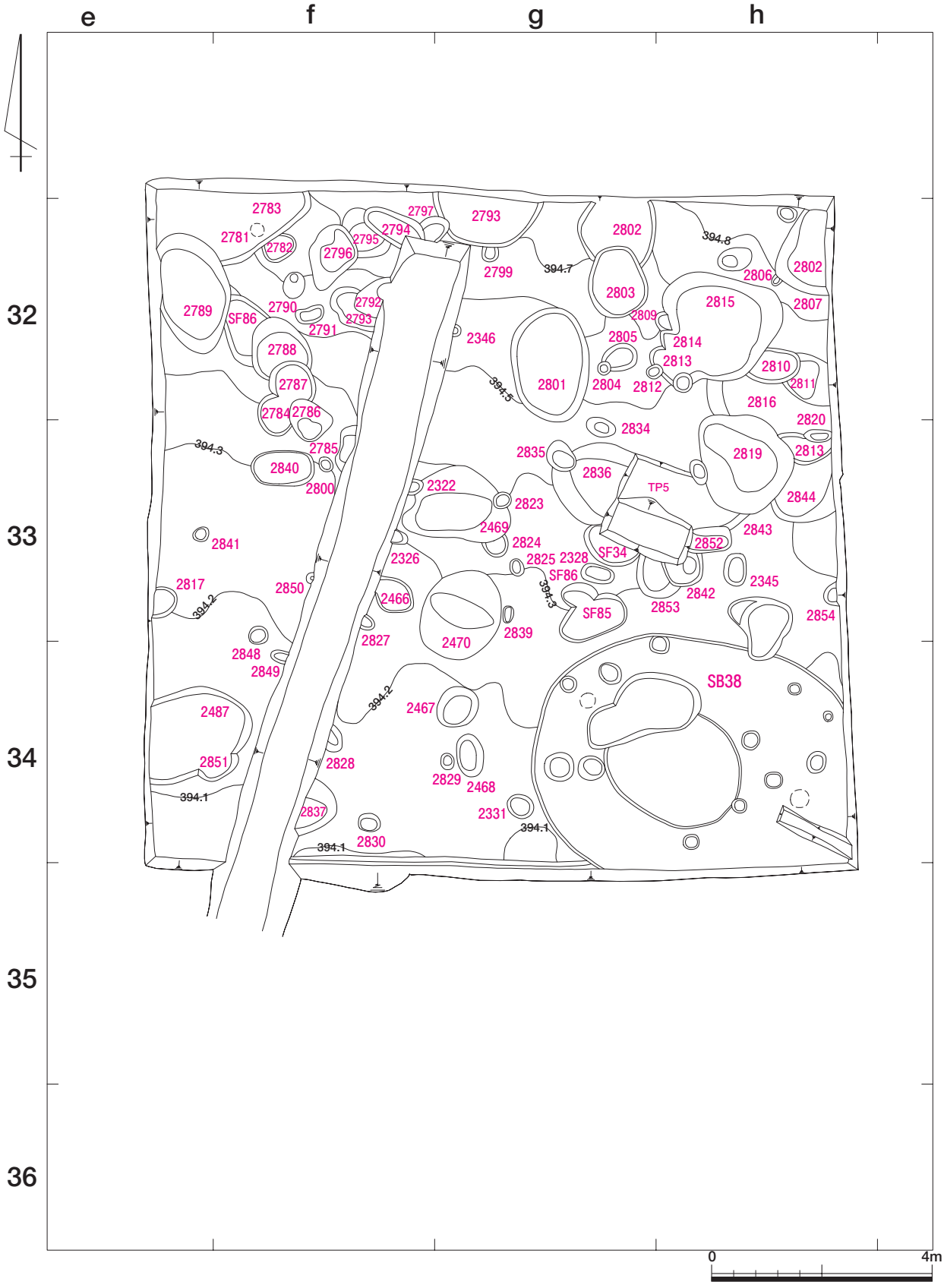


図213　第 4 ・第 5 調査面調査区分割図（13）

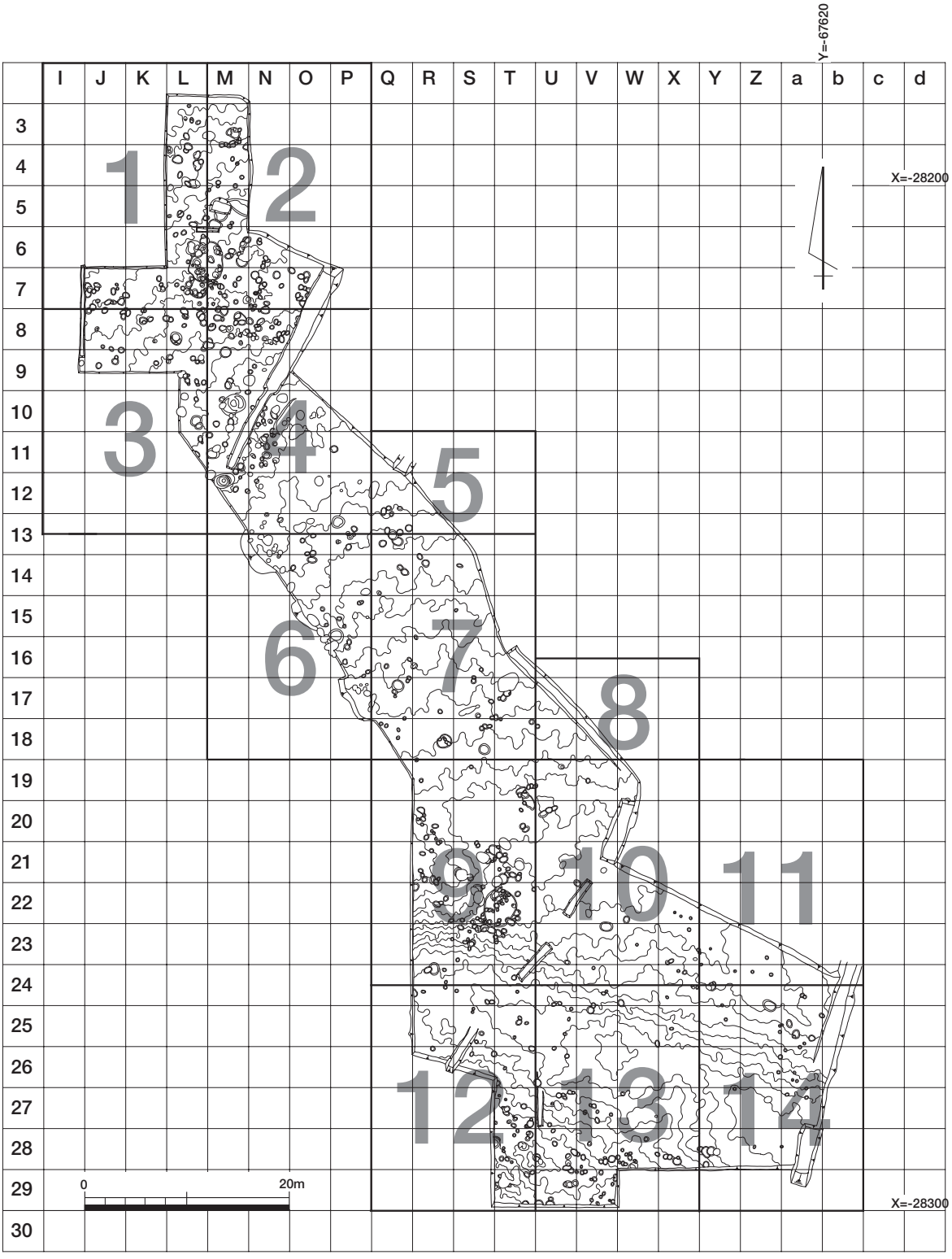


図214　第 6 調査面調査区全体図（割付図）

図215　第 6 調査面調査区割付図（1）

図216　第 6 調査面調査区分割図（2）

図217　第 6 調査面調査区分割図（3）

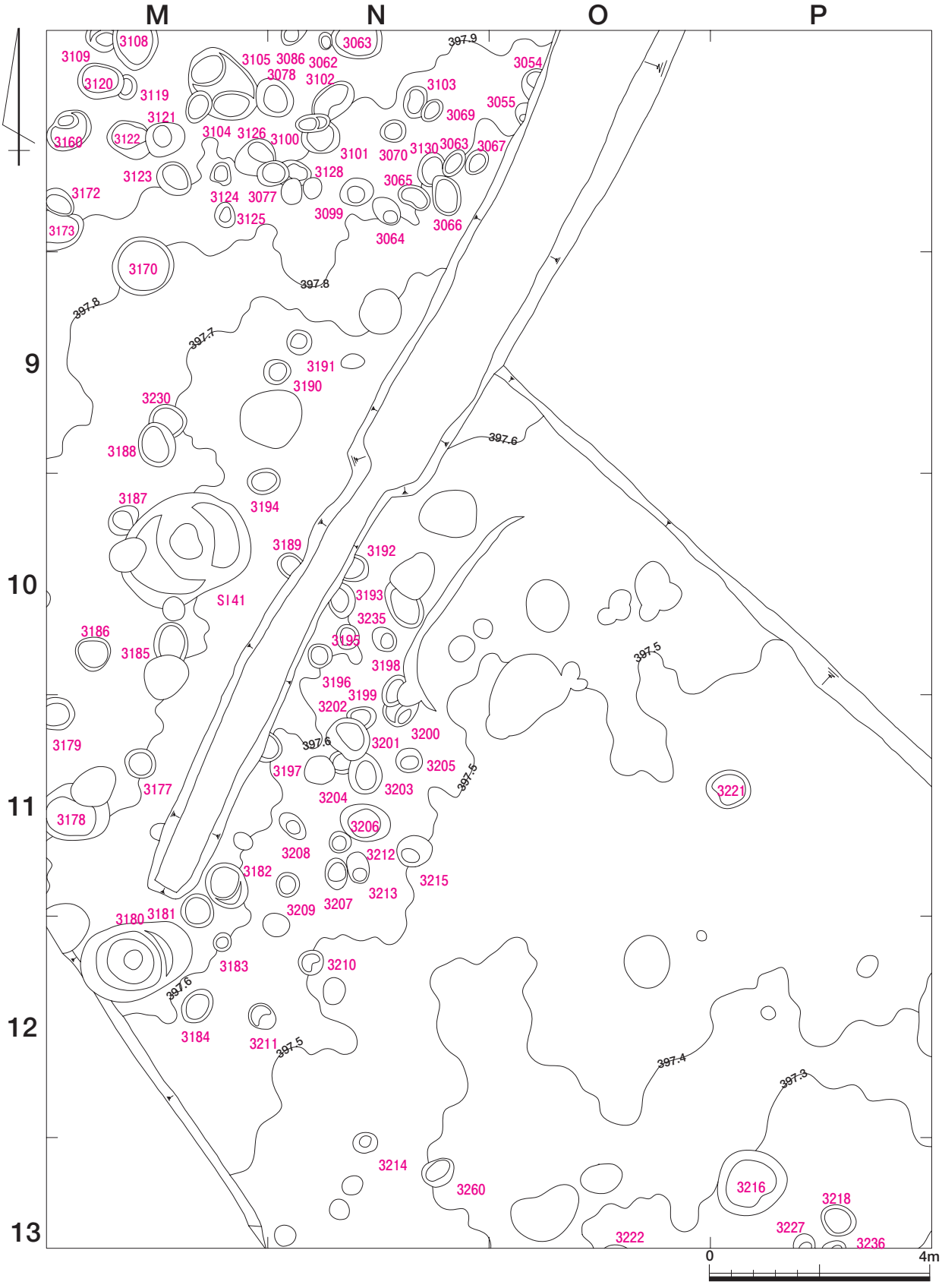


図218　第 6 調査面調査区分割図（4）

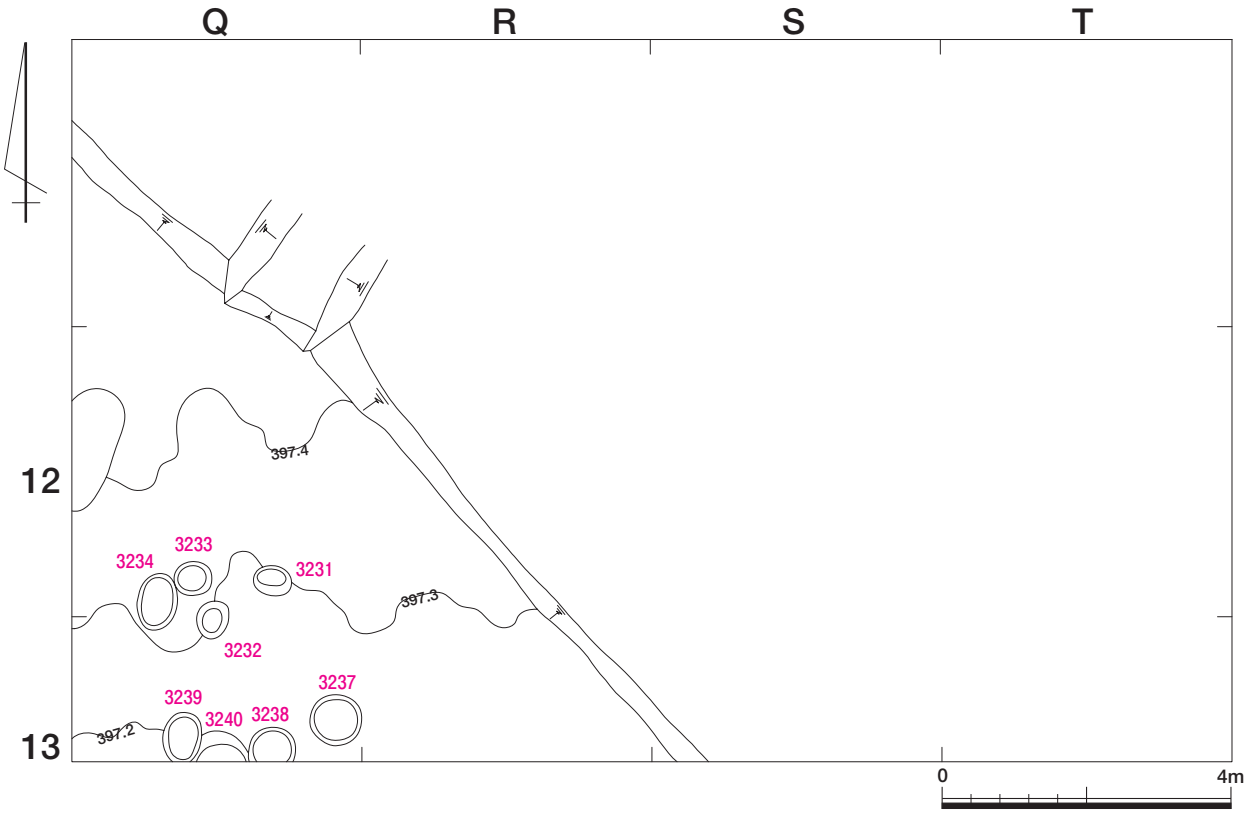


図219　第 6 調査面調査区分割図（5）

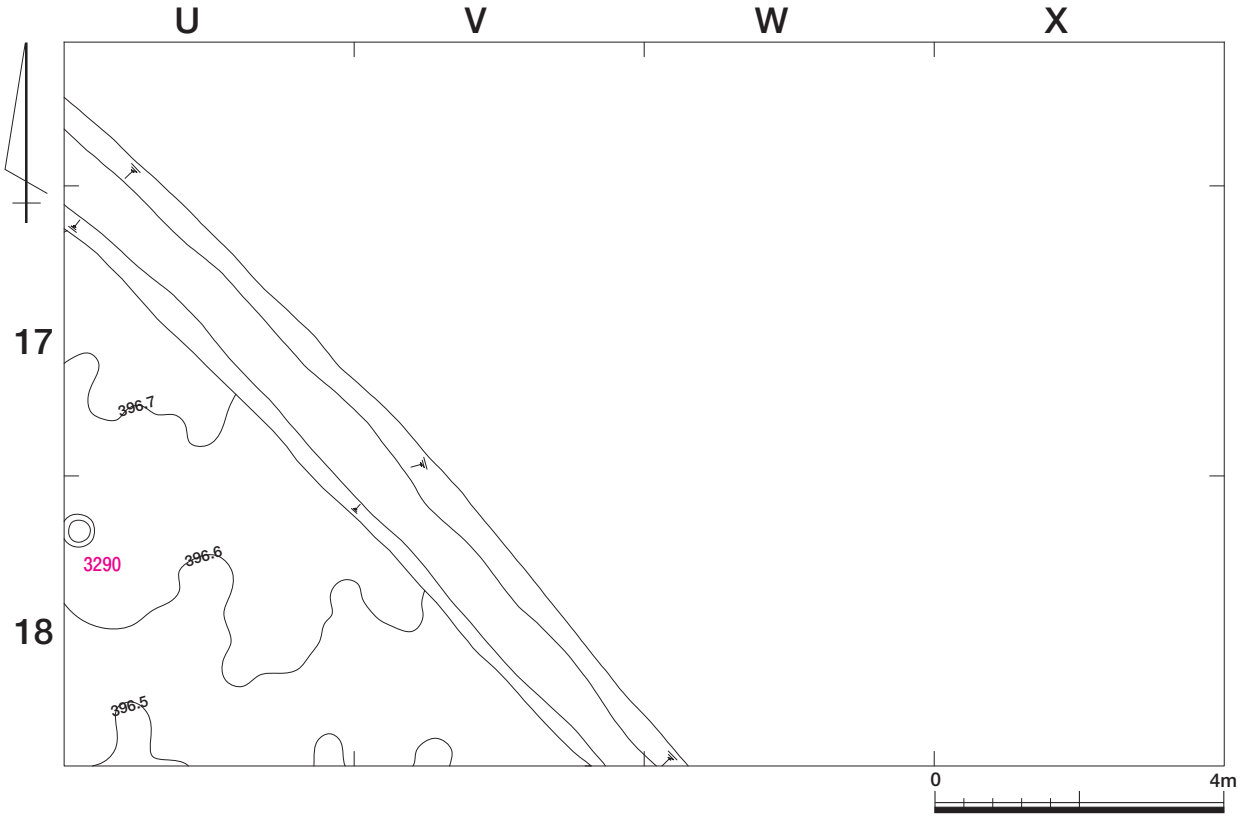


図220　第 6 調査面調査区分割図（8）

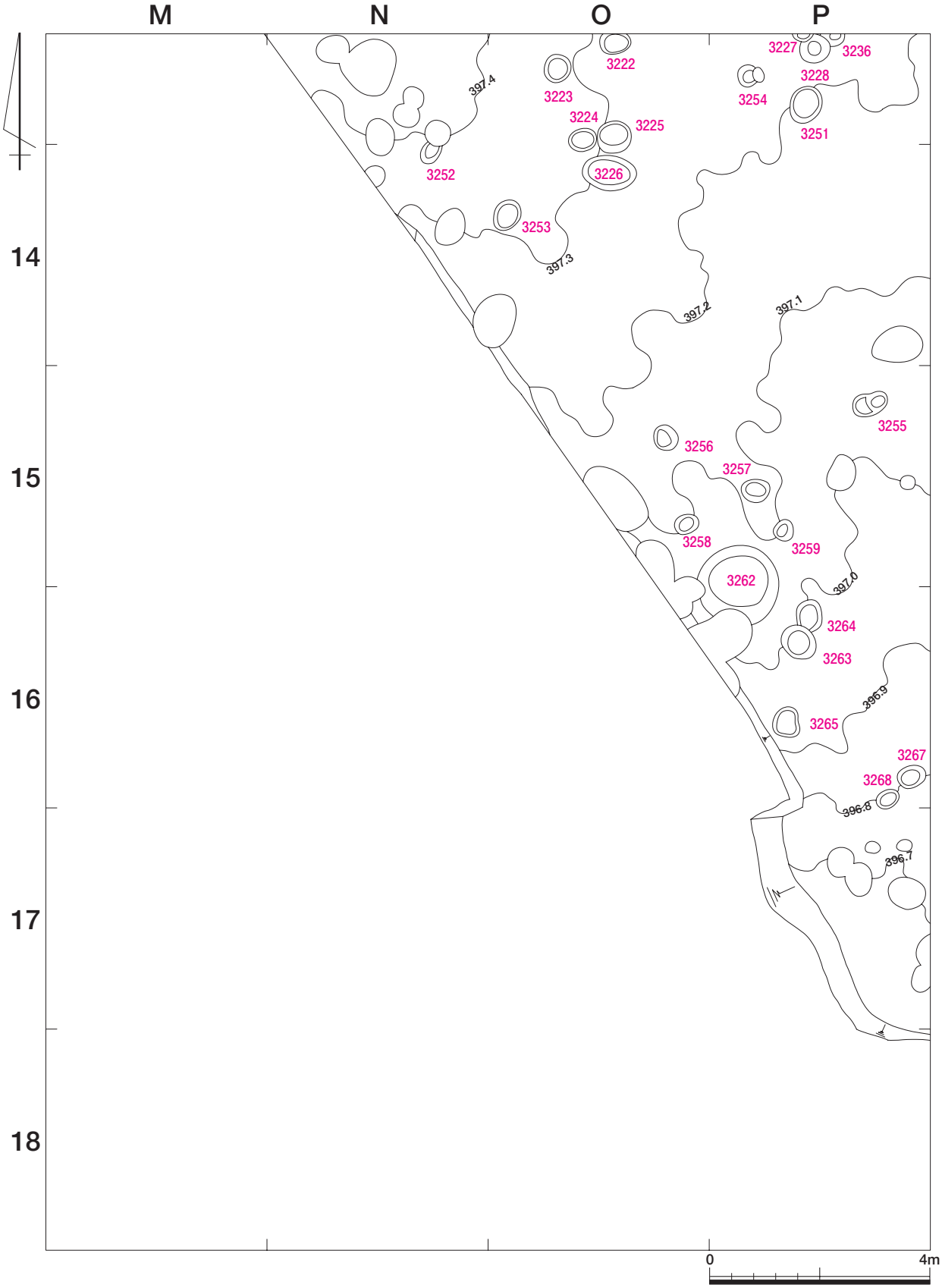


図221　第 6 調査面調査区分割図（6）

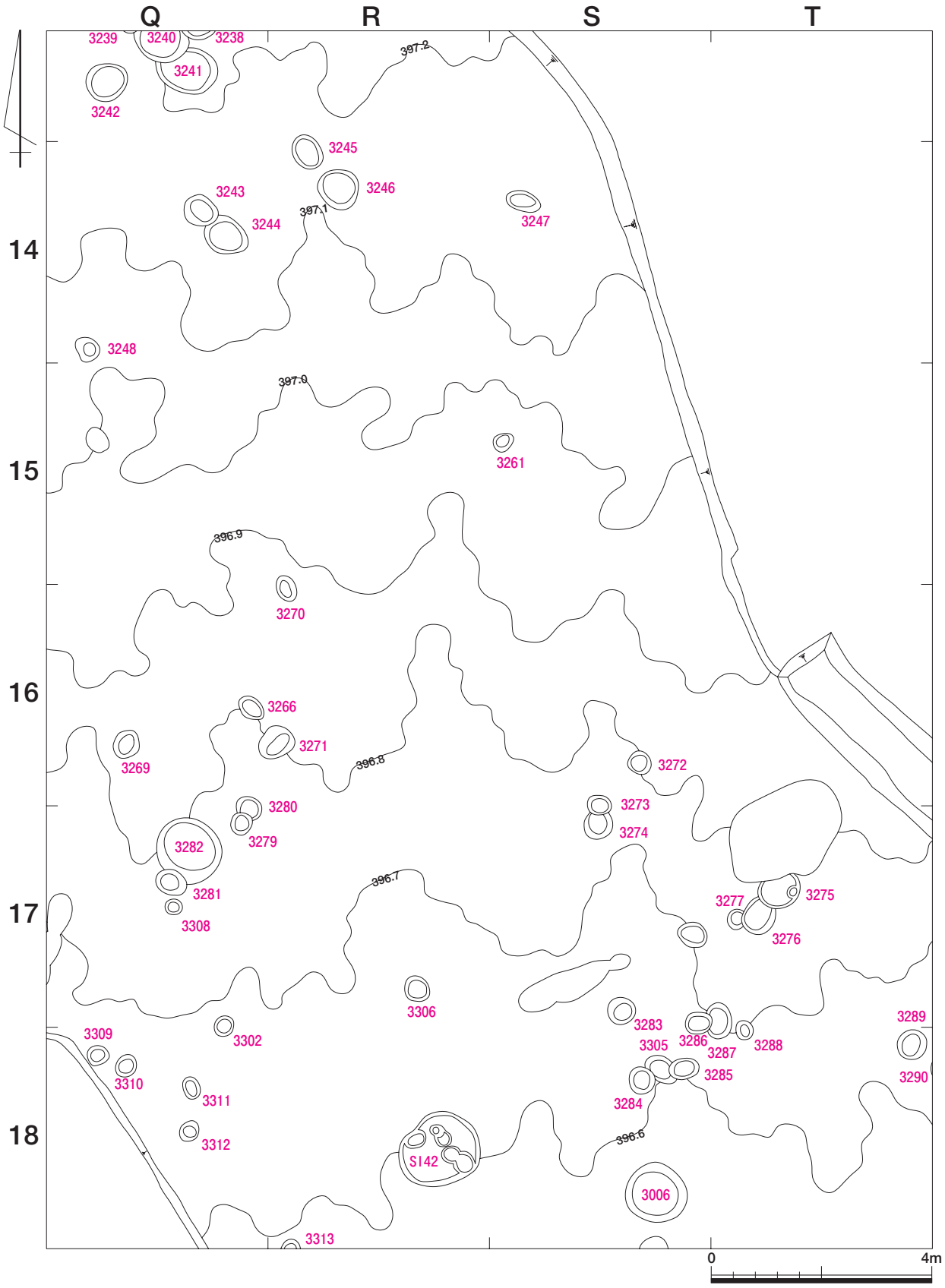


図222　第 6 調査面調査区分割図（7）

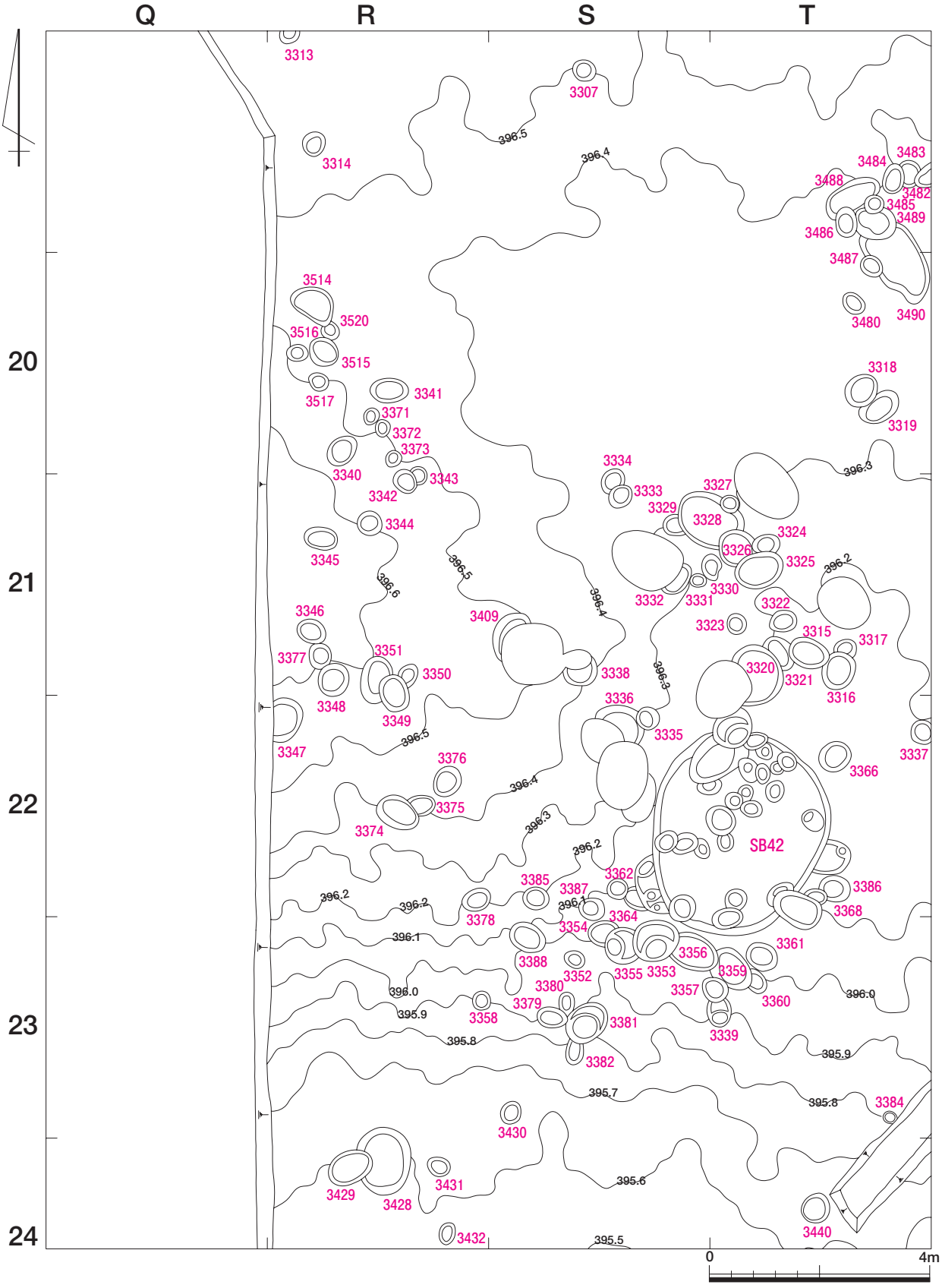


図223　第 6 調査面調査区分割図（9）

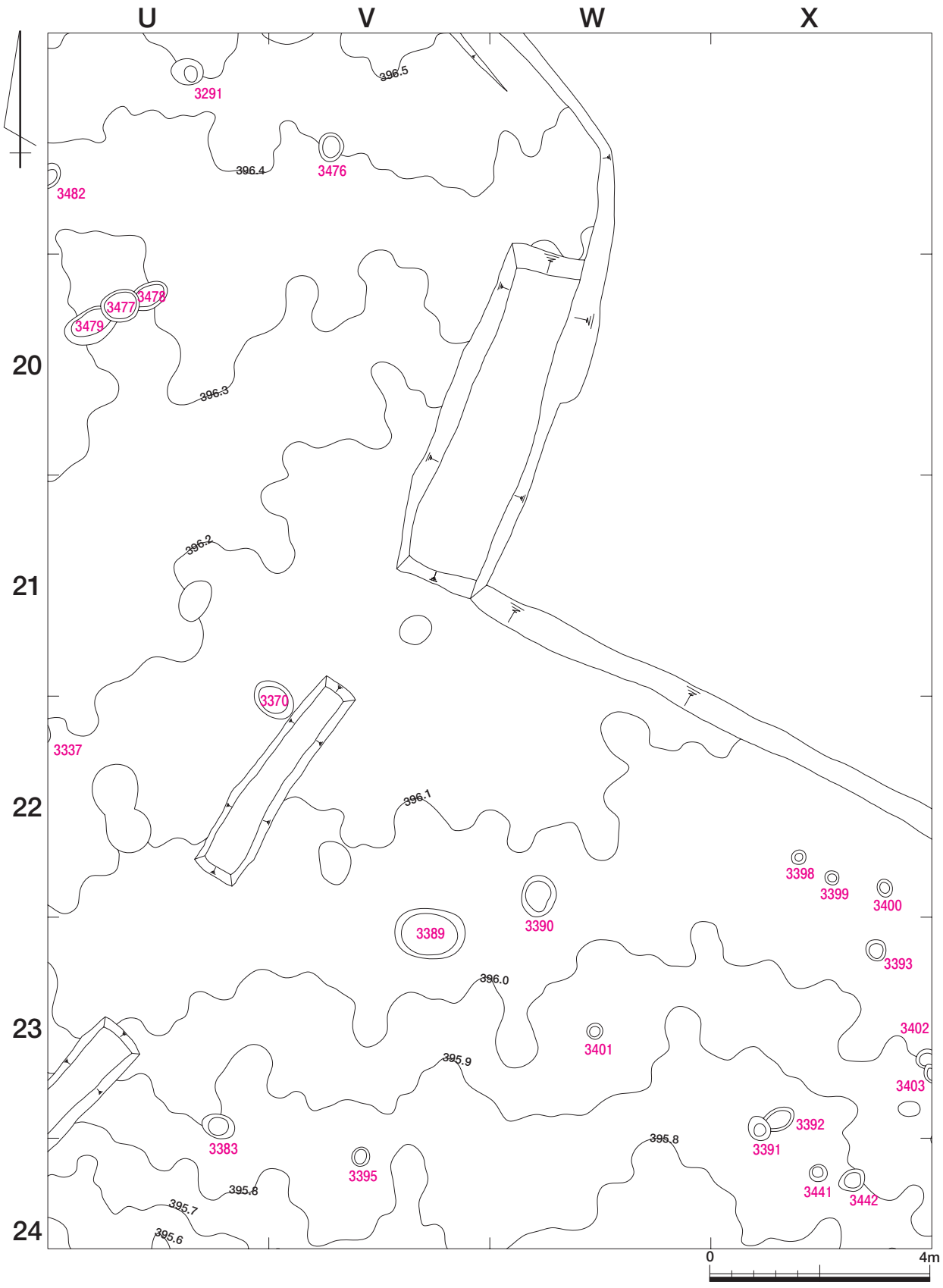


図224　第 6 調査面調査区分割図（10）

図225　第 6 調査面調査区分割図（11）

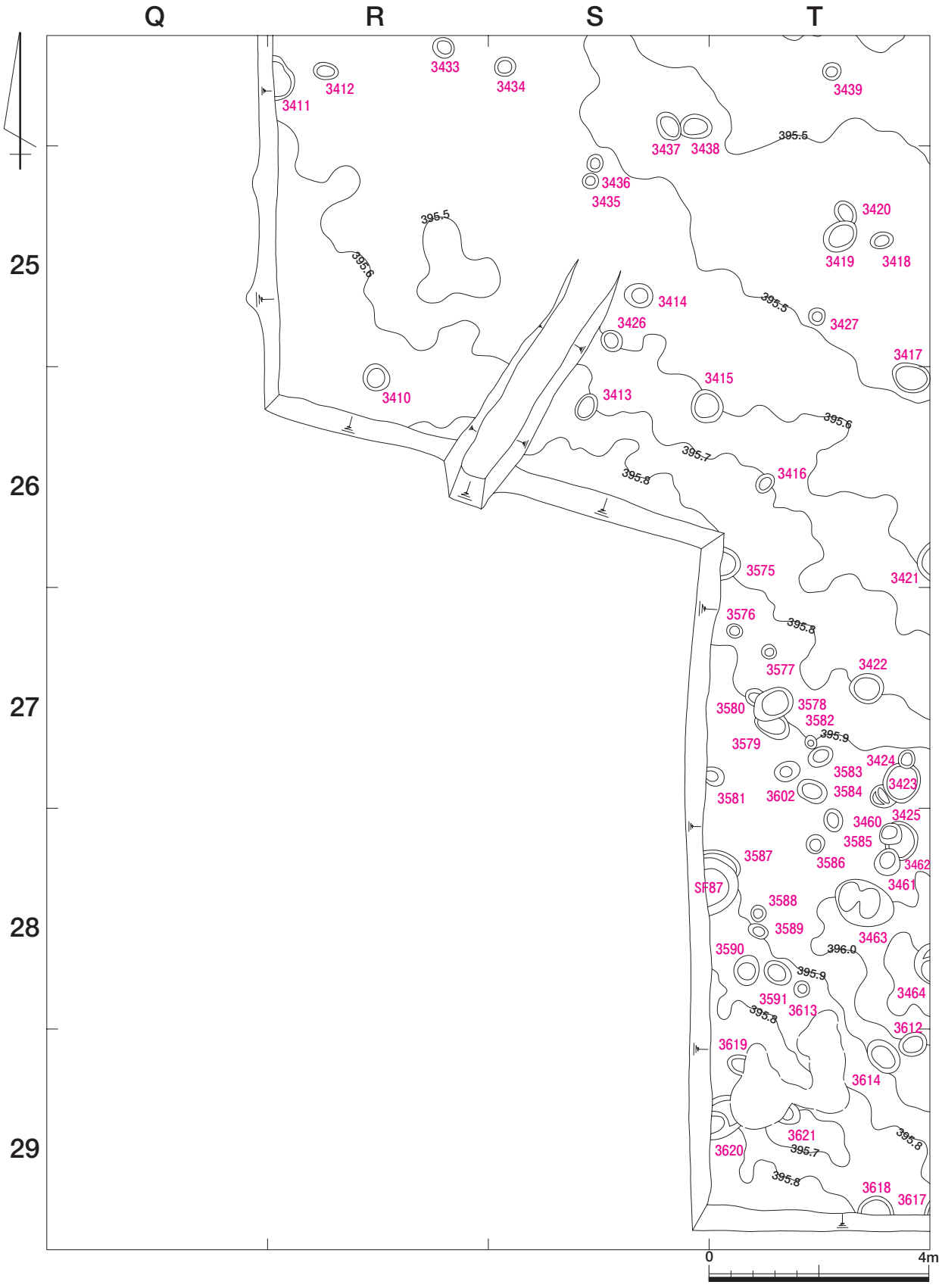


図226　第 6 調査面調査区分割図（12）

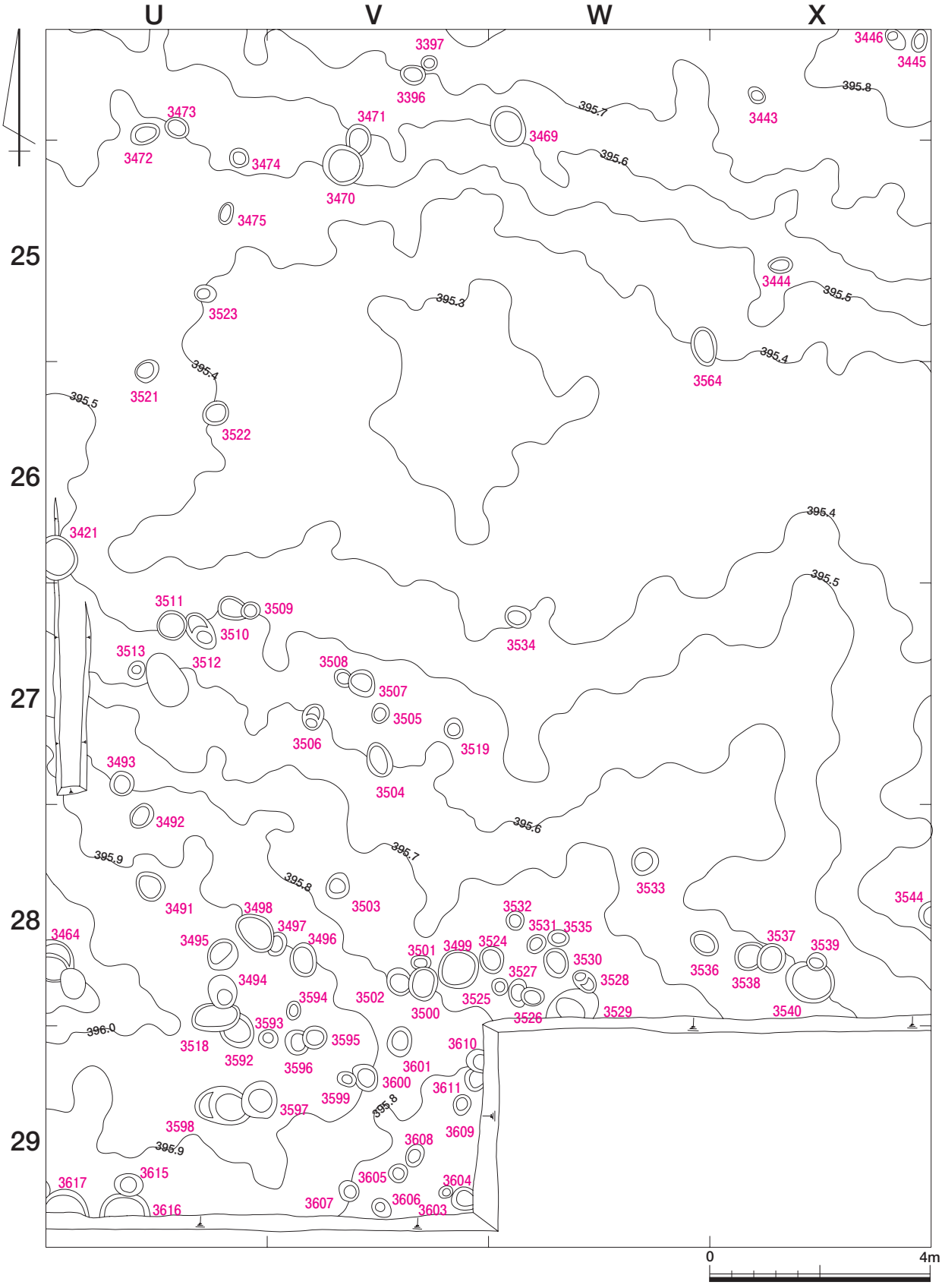


図227　第 6 調査面調査区分割図（13）

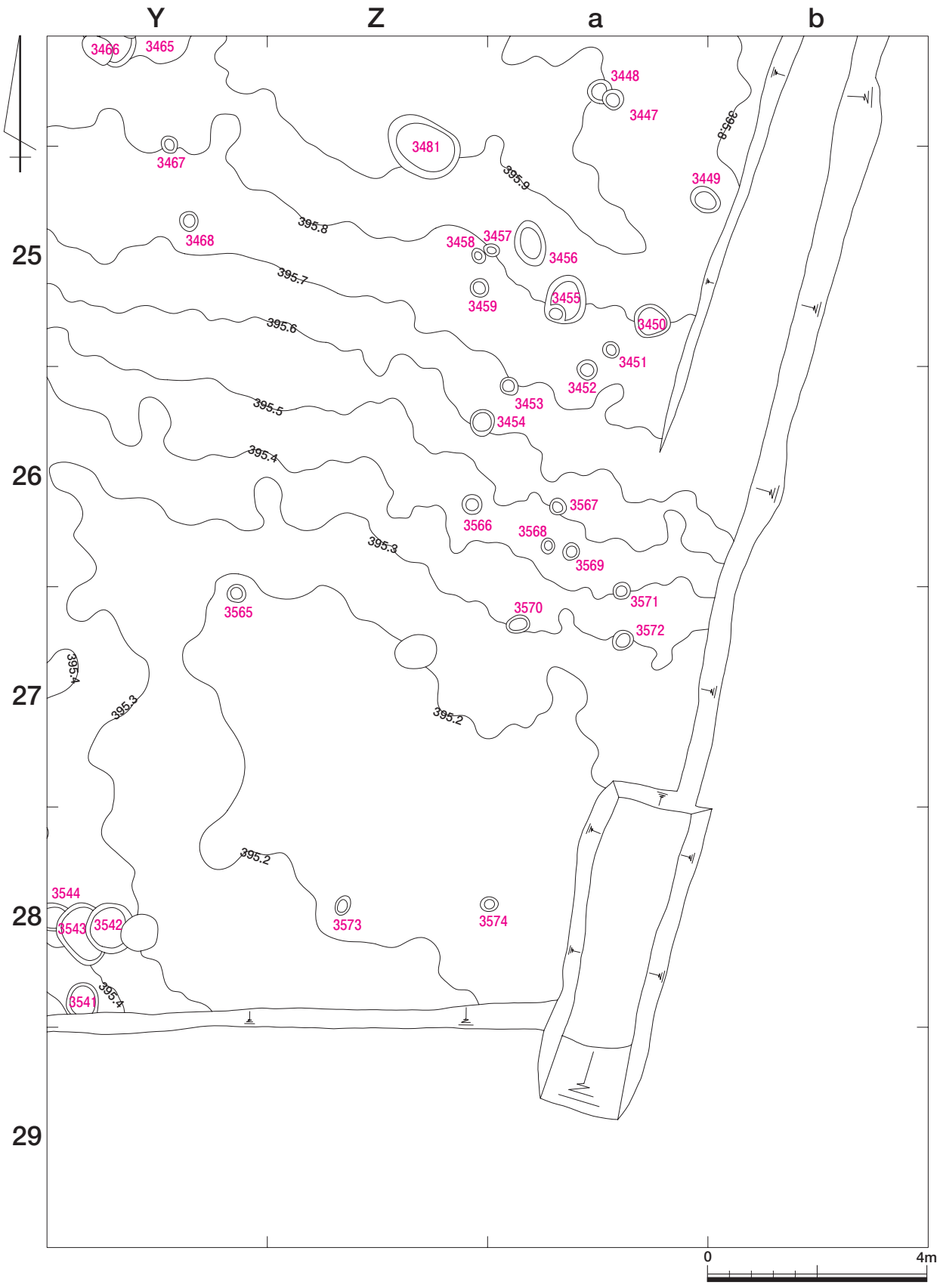


図228　第 6 調査面調査区分割図（14）

報 告 書 抄 録

ふりがな	つかおくやまいせき
書名	塚奥山遺跡
シリーズ名	岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書
シリーズ番号	第103集
編著者名	三輪晃三、藤岡比呂志
編集機関	財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター
所在地	〒502-0003　岐阜市三田洞東1-26-1　TEL058(237)8550
発行年月日	西暦2007年3月1日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間 調査面積	調査原因
つかおくやまいせき 塚奥山遺跡	ぎふけんいびぐん 岐阜県揖斐郡 いびがわちょう 揖斐川町 つかあざつかおくやま 塚字塚奥山	21401	00919	35° 44' 35"	136° 25' 06"	19960507～ 19961129 19970501～ 19971128 19980420～ 19980918 20010507～ 20011205 20020507～ 20021125 20,200㎡	徳山ダム建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
塚奥山遺跡	集落跡	縄文	竪穴住居跡42軒、掘立柱建物跡４棟、炉跡・焼土遺構87基、焼礫集積遺構６基、配石遺構36基、立石遺構２基、土坑3,625基、竪穴住居跡内土坑596基、埋甕・埋設土器16基、溝１条、遺物集積５か所	縄文土器・絵画土器・三角壕形土製品・土偶・土製耳飾・土器片円板・焼成粘土塊・石器・石棒・石冠・石刀・線刻礫・玦状垂飾・玉・小玉・骨角器 約43万点	縄文時代中期後葉～後期前葉の環状集落、後期前葉の配石遺構

要約

塚奥山遺跡は、縄文時代早期後葉から晩期前葉にかけての遺構・遺物を確認した遺跡である。遺構の中で特筆すべき点は、中期後葉～後期前葉の集落跡の形態がわかったことである。中期後葉では、中央に環状墓群、その外側に柱穴群と貯蔵穴、外周に竪穴住居跡群が重帯する、環状集落の形態をとることが判明した。後期前葉では、環状となる配石遺構群が重複して検出された。遺物の中で特筆すべき点は、旧徳山村域で絵画土器・三角壕形土製品・ヒスイ製磨製石斧・骨角器の出土は初例であること、顔料等付着遺物の出土量は最も多いことである。これらの成果から、当遺跡は旧徳山村域の縄文時代の遺跡の中の拠点集落の一つであり、遺跡間の結びつきが注目される。

岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書　第103集

塚奥山遺跡

（第１分冊　遺構編）

2007年３月1日

編集・発行　財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター
岐阜市三田洞東1-26-1
印　　刷　株式会社　太洋社